

谷地遺跡

第1分冊 調査記録編



2021年（令和3年）12月

宮城県刈田郡 蔵王町教育委員会

谷 地 遺 跡

Y A C H I S I T E

第 1 分冊 調査記録編

2 0 2 1

宮城県刈田郡 蔵王町教育委員会



谷地遺跡の出土遺物



縄文土器（大木 7 a 式期）



縄文土器（大木 7 b 式期）



縄文土器（大木 8 a 式期）



石器



土製品・石製品

平成 25 年 (2013) 蔵王町撮影 (▲の交点が調査地点)



遺跡周辺の地形 遺跡は青麻山の北東麓を緩やかに蛇行しながら東流する松川の左岸に開けた矢附段丘面上に立地する。背後の永野段丘面との崖線沿いに山林が点在するが、永野段丘面は高木川による開析が進んでいる。

昭和 36 年 (1961) 国土地理院撮影 (▲の交点が調査地点)



遺跡周辺の地形 耕地整理前の遺跡周辺の土地利用。矢附段丘面上は微高地(畑)と後背湿地(水田)が複雑に入り組んでいた。北東側は上位の永野段丘面で畑と果樹園が多い。南東部の市街地は旧笹谷街道の永野宿。

平成 30 年 (2018) 撮影 (▲の交点が調査地点)



遺跡遠景 遺跡東方の上空から正面奥に蔵王連峰、左手に青麻山を望む。遺跡の立地する矢附段丘面と松川の現河床面との比高は約6mである。背後の永野段丘面との比高は約20mで、崖線沿いに後背湿地が延びる。

平成 30 年 (2018) 撮影 (▲の交点が調査地点)



遺跡近景 東側上空から見た遺跡の全景。遺跡は段丘面上の微高地に立地する。現在の土地利用では果樹園・畑が多く、町役場から遠刈田温泉方面へ向かう県道沿いに宅地が散在する。後背湿地は主に水田となっている。



調査区全景（南から） 調査区の主体部は約40m四方で、東へ向かってわずかに傾斜する。遺構分布は東部に集中し、竪穴住居跡、掘立柱建物跡、貯蔵穴など多数の遺構が密集して確認された。



調査区全景（北から） 調査区西部では黒色・暗褐色土の遺物包含層が広がり、縄文土器など多量の遺物が出土した。竪穴住居、掘立柱建物が配置されない空地となっており、配石遺構と少数の貯蔵穴が確認された。



SI1 竪穴住居跡の遺物出土状況 廃絶後の一括廃棄層から大木7b式土器などの遺物がまとめて出土した。
SI20・22 竪穴住居跡でも廃絶後の一括廃棄層が形成されており、大木8a式土器などの遺物が出土した。



SK1007土坑の遺物出土状況 土坑底面に地床炉を確認し、周囲から大小の浅鉢を含む大木7b式土器などの遺物がまとめて出土した。竪穴住居に類する居住施設の一部である可能性がある。



SX17遺物包含層の遺物出土状況 全体の形状を留めた大木7b式土器2個体が併置されて出土した。土層中に見える白色片はニホンジカ、イノシシの焼骨片で、遺物の廃棄層などに多量に包含されていた。



SX717遺物包含層の遺物出土状況 全体の形状を留めた多数の大木7a・7b式土器がいくつかの平面的なまとまりを持って出土した。堆積層は2層に細分され、漸移的ながら概ね2層が7a式、1層が7b式を主体とする。



SX719土器埋設遺構 荘厳な立体装飾を持つ大木8a式土器2個体が併置されて出土した。1個体は底部を欠き正位に埋設する。土器の様相はSI20・22住居跡出土のものより新しく、空間利用の変化を示す可能性がある。



SK28フラスコ状土坑の遺物出土状況 底面から打製石斧と礫石器、やや上層から大型の棒状石製品が出土した。打製石斧は良質な珪質頁岩製の優品である。貯蔵穴を墓として利用した転用墓の可能性も考えられる。



SK242・244・276フラスコ状土坑 調査区東部では貯蔵穴が帯状に密集し、複数基が重複して掘られていることも多い。集落内の空間利用に一定の規制が働いており、貯蔵域として継続的に利用されたことを示す。



SK606フラスコ状土坑の遺物出土状況 底面に近い一括廃棄層から複数個体の大木7b式土器などの遺物がまわって出土した。容積約2.7m³の大型貯蔵穴で、底面中央付近には斜位に掘り込まれたピットが認められる。



SK721フラスコ状土坑の土層断面 容積約4.5m³と最大規模の大型貯蔵穴である。複数の一括廃棄層と人為的埋土層を介しながら埋没している。黒色を帯びた一括廃棄層から縄文土器などの遺物が多く出土した。



SK612フラスコ状土坑の土層断面 容積約2.8m³の大型貯蔵穴で、底面中央にピットを伴う。括れ部が低い位置にあり、壁面の土層を見極めた上でローム層以下の土層を底状に残しながら下部を掘り広げていることが分かる。



SK592フラスコ状土坑の土層断面 礫層上面まで掘り込まれた貯蔵穴で、廃絶直後から上層までほぼ自然堆積により埋没している。括れ部下の左右に見える褐色土ブロック混じりの土層は壁面の自然崩落土である。



SK592フラスコ状土坑の完掘状況 壁面の崩壊が比較的少なく、残存の良好な貯蔵穴である。括れ部下のオリーブ灰色を呈する土層は蔵王川崎スコリア層。底面は礫層上面まで掘り込まれ、大小の河床礫が露出する。

序 文

奥羽山脈に連なる雄大な蔵王連峰の東麓を流れる松川流域に広がる蔵王町は、西部の蔵王山頂から南東部の白石川付近まで比高約 1,800m の地形変化に富んだ地域です。蔵王火山の活動は約 100 万年前の湖底での水中噴火に遡り、約 30 ～ 10 万年前には多数の噴火口から大量の溶岩が流れ出て溶岩台地を作りました。「駒草平」や「賽の碓」と呼ばれている一帯がそれで、固い溶岩に阻まれて現在に至るまで土壌が発達せず、コマクサなどの僅かな高山植物が生育しています。風雨による浸食を受けにくい溶岩台地の末端から流れ落ちるのが「不動滝」、「三階滝」などの瀑布です。約 3 万年前には山頂で爆発的な噴火が起こり、直径 1.7km のカルデラを形成しました。「馬の背」と呼ばれる痩せ尾根はこのカルデラの縁にあたり、カルデラの底にある五色岳は約 2,000 年前からの噴火で出来た火砕丘です。約 800 年前には五色岳に御釜火口が出現し、遅くとも 300 年前には現在のような火口湖が形成されたようです。私たちが山頂で目にする蔵王火山の美しい景観—その自然の造形美にこうして時間の流れを重ねてみると、悠久の大地の営みを肌で感じるができるでしょう。

さて、この蔵王東麓に人々が暮らし始めてからも、現在に至るまで蔵王火山の活動は断続的に続いています。時に火山災害の脅威に晒されながらも、それを凌駕する豊かな大地の恵みを享受してこの地で生き抜いた先人たちがいました。現在、町の特産として知られる七日原大根や里芋は、水はけの良い火山灰土壌の恵みと、長年の施肥による土づくりの賜物です。また、県下一の生産量を誇る蔵王梨や桃、りんごの果樹生産は、台地や丘陵地の赤土土壌を利用したものです。田植え時期に「逆さ蔵王」を映す円田盆地の田園地帯が湛えるのは、火山活動の影響を避けて澄川から取水された農業用水です。山間で耕地面積の少ない蔵王東麓で、水田耕作や畑作には不適な地形や土壌、水環境を大地の恵みに変えたのは、この地に生きた人々の知恵と工夫だったのです。彼らの歴史が息づくこの地で、今日を生きる私たちの暮らしもまたその歴史を重ねているのです。

今回、本書で報告するのは白石消防署蔵王出張所の建設用地造成計画に伴って実施した谷地遺跡の緊急発掘調査の成果です。野外調査は平成 23 年 7 月から翌年 9 月までの 14 か月間にわたって行ないました。調査では予想をはるかに上回る多数の遺構と遺物を発見し、県内では調査事例の少ない縄文時代中期前半の大規模な集落跡であることが判明しました。野外調査の終了後、直ちに出土品の洗浄などの室内整理作業に着手しましたが、調査成果の膨大さに圧倒されると同時に、多彩な文様の縄文土器や祭祀遺物とされる土偶が県内では類を見ないほど多量に出土したことで、縄文土器や石器石材に遠隔地の集落との交流を示す物証が数多く含まれていることなどが次々と明らかとなりました。蔵王町ではこれまでに例のない規模の整理作業となることから、町当局と協議を重ね議会の承認をいただきながら、町教育委員会が立案した年次計画に沿って室内整理作業と各種の調査・分析を進めてきました。

ここに上梓する『谷地遺跡発掘調査報告書』は、小規模な文化財保護体制の中で、新たな発掘調査や各種文化財の保護保存対策、普及啓発活動と並行して進めてきたことにより、整理作業などに 9 年余りの歳月をかけてようやく刊行に至ったものです。蔵王火山の活動とも関わりを持ちながら谷地遺跡で展開した縄文時代の人々の活動を歴史事象として再構築し、蔵王東麓の地域史の中に新たに付け加えることができたものと考えております。この成果が多くの人に活用され、今後の地域郷土学習の一助となれば幸いです。

最後に、野外調査に従事した延べ 3,561 人の地元作業員の皆様をはじめ、調査と整理作業および本書の作成にあたってご協力を賜った関係諸機関ならびに関係各位に衷心より感謝申し上げます。

令和 3 年 12 月

蔵王町教育委員会
教育長 文 谷 政 義

文化財発掘調査作業員

我妻 英子	我妻 功康	我妻 武夫	我妻 美香	岩佐 若菜	太田 忠義	大庭 慶志郎
加川 貴紹	鹿島 ちか子	鎌田 義博	亀井 勇二	菅野 慶一	小杉 佐和子	小林 四郎
小林 美智子	齋 富江	佐藤イク子	佐藤 かおる	佐藤 勝美	佐藤 貴美子	佐藤 恵子
佐藤 義晴	佐藤 里栄	志村 千春	東海林 圭造	鈴木 光一	鈴木 春夫	高橋 弘
高橋 貢	竹内 求	武田 憲繁	武田 義光	平形 春海	堀内 博	松崎 祐二

文化財室内整理作業員 松田 律子 山家 次郎 渡部 善行
我妻 英子 我妻 功康 岩佐 若菜 大庭 慶志郎 菅野 慶一 小杉 佐和子 小林 四郎
小林 美智子 佐藤 かおる 佐藤 貴美子 佐藤 恵子 佐藤 里栄 松崎 祐二 松田 律子

(平成 25 年度)

教 育 長 佐藤 茂廣
教 育 総 務 課 長 佐藤 則之 課 長 補 佐 佐藤 浩明
主幹兼文化財保護係長 佐藤 洋一 主 事 *鈴木 雅
文化財専門臨時職員 我妻 なおみ 海藤 元 庄子 善昭 鈴木 和美 渡邊 香織
文化財室内整理作業員 我妻 英子 我妻 智子 岩佐 若菜 大庭 慶志郎 菅野 慶一 小杉 佐和子 小林 四郎
小林 美智子 佐藤 かおる 佐藤 貴美子 佐藤 恵子 佐藤 里栄 松崎 祐二 松田 律子

(平成 26 年度)

教 育 長 佐藤 茂廣
教 育 総 務 課 長 佐藤 則之 課 長 補 佐 佐藤 浩明
主幹兼文化財保護係長 佐藤 洋一 主 査 *鈴木 雅
文化財専門臨時職員 我妻 なおみ 江尻 祥子 庄子 善昭 鈴木 和美 渡邊 香織
文化財室内整理作業員 我妻 英子 岩佐 若菜 大島 一彦 大庭 慶志郎 菅野 慶一 小杉 佐和子 佐藤 かおる
佐藤 貴美子 佐藤 恵子 佐藤 里栄 平形 春海 松崎 祐二 松田 律子 山家 照雄
渡部 真理

(平成 27 年度)

教 育 長 佐藤 茂廣
教 育 総 務 課 長 菅野 和茂 参 事 佐藤 則之 課 長 補 佐 佐藤 浩明
主幹兼文化財保護係長 佐藤 洋一 主 査 *鈴木 雅
文化財専門臨時職員 我妻 なおみ 江尻 祥子 庄子 善昭 鈴木 和美 渡邊 香織
文化財室内整理作業員 我妻 英子 岩佐 若菜 大島 一彦 大庭 慶志郎 菅野 慶一 小杉 佐和子 佐藤 かおる
佐藤 貴美子 佐藤 恵子 佐藤 里栄 平形 春海 松崎 祐二 松田 律子 山家 照雄
渡部 真理

(平成 28 年度)

教 育 長 佐藤 茂廣
生 涯 学 習 課 長 我妻 清志 課 長 補 佐 日下 朝男
主幹兼文化財保護係長 佐藤 洋一 主 査 *鈴木 雅
文化財専門臨時職員 我妻 なおみ 江尻 祥子 庄子 善昭 鈴木 和美
文化財室内整理作業員 我妻 英子 岩佐 若奈 大沼 恭子 加藤 幸子 菅野 慶一 佐藤 かおる 佐藤 貴美子
松崎 祐二 松田 律子 渡部 真理

(平成 29 年度)

教 育 長 文谷 政義
生 涯 学 習 課 長 我妻 清志 課 長 補 佐 北沢 夕子 佐藤 洋一
文 化 財 保 護 係 長 *鈴木 雅
文化財専門臨時職員 我妻 英子 我妻 なおみ 江尻 祥子 庄子 善昭 鈴木 和美
文化財室内整理作業員 大沼 恭子 菅野 慶一 佐藤 かおる 佐藤 貴美子 辰口 創野 松崎 祐二 松田 律子
渡部 真理

(平成 30 年度)

教 育 長 文谷 政義
生 涯 学 習 課 長 我妻 清志 課 長 補 佐 我妻 敏 佐藤 洋一
文 化 財 保 護 係 長 *鈴木 雅

文化財専門臨時職員 我妻 英子 我妻 なおみ 江尻 祥子 庄子 善昭 鈴木 和美
文化財室内整理作業員 大沼 恭子 菅野 慶一 佐藤 かおる 佐藤 貴美子 辰口 創野 松崎 祐二 松田 律子
渡部 真理

(平成 31 年度／令和元年度)

教 育 長 文谷 政義
生涯学習課長 我妻 敏 課長補佐 佐藤 洋一 平間 和彦
文化財保護係長 *鈴木 雅
文化財専門臨時職員 我妻 英子 江尻 祥子 鈴木 和美
文化財室内整理作業員 大沼 恭子 菅野 慶一 佐藤 かおる 佐藤 貴美子 松田 律子 渡部 真理

(令和 2 年度)

教 育 長 文谷 政義
生涯学習課長 我妻 敏 課長補佐 佐藤 洋一 平間 和彦
文化財保護係長 *鈴木 雅
文化財専門員 我妻 英子 鈴木 和美
文化財管理事務補助員 大沼 恭子 菅野 慶一 佐藤 貴美子 成澤 富士子 松田 律子 渡部 真理

(令和 3 年度)

教 育 長 文谷 政義
生涯学習課長 我妻 敏 課長補佐 佐藤 洋一 小原 一人 山崎 政浩
主幹兼文化財保護係長 *鈴木 雅 主 事 成澤 大空
文化財専門員 我妻 英子 鈴木 和美
文化財管理事務補助員 大沼 恭子 菅野 慶一 佐藤 貴美子 成澤 富士子 松田 律子 渡部 真理

6. 本発掘調査の整理・報告書作成の業務にかかる調査員の主な作業分担は下記の通りで、文化財室内整理作業員がこれを助けた。業務全般を調査担当者が統括し、作業の方法・工程等については調査員全員で協議しながら進めた。なお、石鏃と二次加工ある剥片を除く石器実測図の作成は主に創和システム株式会社に委託して実施した。

遺構図面整理（トレース・観察表・土層注記表）	我妻 なおみ 海藤 元
遺構写真整理（デジタル現像・分類整理・抽出）	庄子 善昭 鈴木 和美
遺物整理（水洗洗浄・注記・接合・補強・修復）	庄子 善昭 我妻 英子 鈴木 和美 海藤 元 江尻 祥子
遺物分類	鈴木 雅 我妻 英子 鈴木 和美 江尻 祥子 渡部 真理
遺物抽出	鈴木 雅 庄子 善昭 我妻 英子
縄文土器実測・拓本	庄子 善昭 海藤 元 江尻 祥子
縄文土器敷物圧痕分類	鈴木 和美
土製品実測・拓本	庄子 善昭 渡邊 香織
石器実測	廣田 吉三郎（創和システム株式会社） 鈴木 雅 我妻 なおみ
礫石器実測	我妻 英子 佐藤 洋一 鈴木 雅
石製品実測	庄子 善昭 我妻 英子 我妻 なおみ
遺物写真（撮影・デジタル現像・分類整理）	庄子 善昭 鈴木 雅 我妻 英子
図版レイアウト	鈴木 和美 江尻 祥子 鈴木 雅
表・グラフ作成	江尻 祥子 鈴木 雅
執筆・編集・組版	鈴木 雅
校正・照合・突合	佐藤 洋一 鈴木 和美 我妻 英子

7. 本発掘調査と整理作業において、風化が著しく原形を保てない可能性のある遺物の表面保護のため、下記の薬剤等を使用した。薬剤を塗布した土器については、裏面の注記部分にポスターカラーで小さな緑色丸印を付した。なお、表面に赤彩および炭化物等の付着が認められた土器については分析等への影響を考慮して薬剤処理を控え、分析用試料の採取後に必要最小限の薬剤処理を行なった。

発掘調査時（礫石器の崩壊防止） 水性形接着剤 アルテコ パワーエース 速乾アクリア 5 倍希釈液

室内整理時（土器の表面保護・礫石器の崩壊防止） 新成田総合社 ナチュラルコート／専用リムーバー液

8. 本発掘調査の整理作業において使用した遺物の注記および接合・補強・修復材料、土器の圧痕レプリカ採取に使用した薬剤等は下記の通りである。

遺物の注記 非接触型インクジェット式印字機 Marker Pro 9020／アルコールベースインク／専用リムーバー液
／ぺんてる ポスターカラー 白・黒／合成樹脂塗料 水溶性アクリル透明ニス／水溶性ニス専用薄め液／リムーバー液 アセトン

遺物の接合・補強・修復 溶剤形接着剤 セメダイン C／リムーバー液 アセトン／石膏 吉野石膏 桜印 ニューハイロック ブラウン／石膏溶剤 ハイクリーン GP／着色混和剤 ピグメント バンダイクブラウン

圧痕レプリカ採取 印象材 ニッシン JM シリコンレギュラータイプ・アグサジャパン ブルーミックスソフト／離型剤 パラロイド B-72／リムーバー液 アセトン

9. 本発掘調査と整理・報告書作成作業で使用した撮影等機材・ソフトウェア等は下記の通りである。

発掘調査写真撮影 デジタル一眼レフカメラ：Nikon D70s・D90・D100／レンズ：Nikon AF-S NIKKOR 18-70mm F3.5-4.5G ED・AF-S NIKKOR 18-105mm F3.5-5.6G ED VR・AF-S NIKKOR 18-70mm F3.5-4.5G ED／コンパクトデジタルカメラ：Nikon COOLPIX P5100

遺物写真撮影 デジタル一眼レフカメラ：Nikon D600／レンズ：Nikon AF MICRO NIKKOR 60mm F2.8 D・AF-S MICRO NIKKOR 105mm F2.8G・AF-S NIKKOR 70-300mm F4.5-5.6G ED／ストロボ：Nissin Di866 MARK II・GODOX V860 II N・GODOX SK300／カラーチェッカー：Datacolor Spyder Checkr／撮影ソフトウェア：Nikon Camera Control Pro2

縄文土器三次元計測 コンパクトデジタルカメラ：OLYMPUS TG-2／リングライト：NEEWR LED Ring Flash RF550 Series／画像解析：Agisoft PhotoScan Standard・Cloud Compare V2・MeshLab v1.3.2

画像処理 モニターキャリブレーション：Datacolor Spyder4 Express／現像ソフトウェア：Adobe Photoshop Lightroom5.0・ACD Systems ACDSee Pro9／画像編集ソフトウェア：Adobe Photoshop CS2/CS4/5.1・ACD Systems ACDSee Pro9

写真実測・トレース・作図・レイアウト Adobe Illustrator CS2/CS4/CS5/CS6

組版 Adobe InDesign CS5.5

10. 本発掘調査の整理作業において、各種分析調査を下記の通り外部研究者および分析機関との共同研究として実施し、その成果は本書第 4 章（第 2 分冊）に収録した。

放射性炭素年代測定（焼骨・炭化材）	株式会社加速器分析研究所
黒曜石原産地推定分析	佐々木 繁喜（宮城県登米高等学校）
石製品石材同定	飯塚 義之（台湾 中央研究院）
縄文土器三次元解析	佐川 正敏（東北学院大学文学部）、株式会社ラング（画像解析委託）

11. 本発掘調査の整理作業において、各種分析調査を下記の通り外部分析機関に委託して実施し、その成果は本書第 4 章（第 2 分冊）に収録した。

テフラ分析、出土骨同定、磨製石斧石材同定	パリノ・サーヴェイ株式会社
花粉分析、細粒微粒炭分析、樹種同定	古代の森研究舎
植物圧痕同定、土器胎土分析	株式会社パレオ・ラボ
放射性炭素年代測定（炭化材、土器付着炭化物）、炭素・窒素安定同位体比分析（土器付着炭化物）	株式会社加速器分析研究所

12. 本発掘調査の整理作業において、考古学的調査研究を下記の通り外部研究者に依頼して実施し、その成果は本書第 4 章（第 2 分冊）に収録した。

大木 8a 式土器の施文原則に関する研究	佐川 正敏（東北学院大学文学部）
土偶の製作・使用に関する技術学的分析	會田 容弘（郡山女子大学短期大学部）
石器の使用痕分析に基づく機能推定	鹿又 喜隆（東北大学大学院文学研究科）

13. 本発掘調査の整理作業において実施した各種分析調査の一部は、本書に先立ち、下記においてその成果を公表しているが、報告内容に異同がある場合は本書が優先する。

放射性炭素年代測定（焼骨・炭化材）

蔵王町文化財調査報告書第20集（平成27年3月、（株）加速器分析研究所・蔵王町教育委員会2015）

日本文化財科学会 第32回大会（平成27年7月、山田 しょう・早瀬 亮介・小原 圭一・鈴木 雅・百瀬 忠幸2015）

黒曜石原産地推定分析

宮城考古学第18号（平成28年5月、宮城県考古学会発行、鈴木 雅・佐々木 繁喜2016）

14. 本書の執筆は鈴木 雅が担当した。依頼原稿については執筆者名を目次および各節の文頭に記載した。

15. 本発掘調査と整理・報告書作成にあたり、下記の諸機関・諸氏よりご指導・ご協力を賜りました。記して感謝申し上げます（順不同、敬称略）。

機関 株式会社加速器分析研究所 宮城県産業技術総合センター 東北学院大学文学部佐川正敏ゼミナール 東
北大学文学研究科考古学研究室 日本文化財科学会 宮城県考古学会 宮城県考古学会阿武隈水系研究会 物
流・交流を考える会 みちのく考古学研究会 蔵王町ジオパーク推進連絡会 株式会社ラング 山形県埋蔵文
化財センター 奈良文化財研究所 九州文化財計測支援集団 創和システム株式会社 株式会社パレオ・ラ
ボ 古代の森研究舎 パリノ・サーヴェイ株式会社 株式会社イビソク 春工業株式会社 鈴木建業株式会
社 コマツレンタル白石支店 株式会社太陽事務機 仙台市教育委員会 宮城県教育庁文化財課（平成29年度
まで文化財保護課） 蔵王町総務課 蔵王町建設課 仙南広域行政事務組合 白石消防署蔵王出張所

個人（所属は当時） 佐川 正敏（東北学院大学） 會田 容弘（郡山女子大学短期大学部） 鹿又 善隆（東北大学） 佐々木
繁喜（宮城県登米高校） 飯塚 義之（台湾 中央研究院） 山田 しょう（株式会社加速器分析研究所） 相原 淳一 千葉 直
樹（東北歴史博物館） 菊地 逸夫（縄文工房） 松本 茂 中野 幸大（福島県文化振興財団） 堀江 格（宮城遺跡史跡公園）
岡村 道雄（奥松島縄文村歴史資料館） 秦 昭繁（元山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館） 沢田 敦（新潟県埋蔵文化財調
査事業団） 鈴木 三男（東北大学） 西村 力 小野 章太郎（宮城県教育庁文化財課、平成29年度まで文化財保護課） 藤
沼 邦彦 白鳥 良一 高橋 健寿（宮城県考古学会） 阿部 明彦 小林圭一 菅原 哲文（山形県埋蔵文化財センター）
伴 雅雄（山形大学） 早田 勉（株式会社火山灰考古学研究所） 橋本 智雄（中央開発株式会社） 加藤 勝彦（蔵王町ジオパー
ク推進室） 永見 秀徳（九州文化財計測支援集団） 金田 明夫 山口 欧志（奈良文化財研究所） 工藤 信一郎（仙台市教
育委員会） 千代窪 毅 阿部 一彦（宮城県産業技術総合センター） 大平 聡（宮城学院女子大学） 菅野 智則（東北大学埋
蔵文化財調査室） 田村 正樹（七ヶ浜町歴史資料館） 大場 亜弥（栗原市教育委員会） 山元 出 今野 徹 佐藤 啓（福
島県文化振興財団） 宮地 聡一郎（福島県教育委員会、福岡県教育委員会から派遣） 石本 弘（伊達市教育委員会） 川田 強
（南相馬市教育委員会） 新井 達哉（福島市教育委員会） 佐藤 公保（米沢市教育委員会） 菅野 紀子（御所野縄文博物館）
佐藤 祐輔（仙台市縄文の森広場） 渋谷 孝雄（山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館） 水戸部 秀樹 大場 正善（山形
県埋蔵文化財センター） 寺内 隆夫（長野県立歴史館） 鎌田 俊昭 佐々木 和博 船木 義勝 小野 美代子 吉野 一
郎 半崎 義宗（みちのく考古学研究会） 原川 雄二（株式会社パスコ） 芹澤 清八（株式会社シン技術コンサル） 渡邊 泰
伸 佐々木 竜郎（株式会社三協技術） 廣田 吉三郎（創和システム株式会社） 早瀬 亮介（株式会社加速器分析研究所）
横山 真 千葉 史（株式会社ラング） 吉川 昌伸 吉川 純子（古代の森研究舎） 赤堀 岳人 金井 慎司 坂本 秀平（パ
リノ・サーヴェイ株式会社） 加藤 尚史（株式会社イビソク） 我妻 光祐（春工業株式会社） 小室 照雄（コマツレンタル白
石支店） 小野寺 信二（株式会社太陽事務機） 高橋 栄一 生田 和宏（宮城県教育庁文化財課、平成29年度まで文化財保
護課） 佐藤 正則 小島 一利（蔵王町総務課） 曾根田 政子 山家 一彦（隣接地権者）

16. 本発掘調査の出土遺物、図面・台帳・写真等の調査記録は、整理作業・各種分析調査等の成果物と合わせて蔵王町教育委員会が一括して保管する。

凡 例

- 本発掘調査における測量原点の座標値は世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。蔵王町総務課より提供を受けた測量成果は下記の通りである。なお、発掘調査および本書で使用了座標値および標高値は平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震前の計測値(JGD2000)である。国土地理院が提供する座標補正ソフトウェア「PatchJGD Ver.1.0.1(パラメーターファイル「toughokutaiheiyuoki2011.par Ver.3.0.0」)」および標高補正ソフトウェア「PatchJGD(標高版) Ver.1.0.1(パラメーターファイル「toughokutaiheiyuoki2011_h.par Ver.3.0.0009」)」を使用して算出した地震後の補正值(JGD2011)を()内に示す。
 - C5 X=-210855.028(-210855.6025) Y=-15935.646(-15933.0246) Z=127.300(127.156)
 - C4 X=-210864.946(-210865.5205) Y=-15918.517(-15915.8952)
 - K1 X=-210846.508(-210847.0825) Y=-15950.968(-15948.3470)
 - K2 X=-210852.518(-210853.0925) Y=-15940.268(-15937.6467)
 - K10 X=-210915.511(-210916.0850) Y=-15935.883(-15933.2614)
 - K11 X=-210900.584(-210901.1578) Y=-15968.115(-15965.4941)
 - K12 X=-210886.253(-210886.8270) Y=-15959.680(-15957.0590)
 - K15 X=-210878.357(-210878.9310) Y=-15968.685(-15966.0642)
- 本発掘調査では、調査区内に既設コンクリート境界杭を基準とする任意局地座標系により3mグリッドを設定した。グリッドの南北軸は世界測地系に基づく座標北を基準として東に30°の方位である。
- 本書に掲載した遺跡分布図・位置図、調査区配置図・遺構平面図の方位は世界測地系に基づく座標北を示している。
- 本書に掲載した遺跡分布図・位置図は下記の図幅・航空写真を背景図として使用して作成した。
 - 第4図：5万分の1都道府県土地分類基本調査地形分類図「白石」(宮城県、昭和58年調査)
 - 第6図：蔵王町管内図(2,500分の1、蔵王町、昭和50年測量)
 - 空中写真(国土地理院、昭和36年撮影、整理番号MT0613-C6A-2)
 - 第10図：5万分の1地形図「白石」(大日本帝国陸地測量部、明治43年測量)
 - 第11図：電子地形図25000(国土地理院、自由図郭版・平成24年図式・平成28年6月13日調製)
- 本書で使用了遺構番号は、遺構種別に関わらず連続する番号を使用了。
- 本書で使用了遺構記号は、下記の通りである。
 - S I：竪穴住居跡、S B：掘立柱建物跡(平地住居を含む)、S K：フラスコ状土坑・落とし穴状土坑・土坑、S D：溝跡、S X：竪穴状遺構・配石遺構・土器埋設遺構・炉跡・焼土集積・遺物集中・石器集積・遺物包含層、F：住居・建物内炉跡、K：住居内土坑、P：柱穴
- 位置記録遺物の取り上げ番号は、下記の種別ごとに記号を付して連続する番号を使用了。
 - Pot：土製遺物(縄文土器・土製品)、St：石製遺物(石器・石製品・礫石器・自然石)
- 遺物の登録番号は、下記の通り種別ごとに記号を付して連続する番号を使用了。

なお、縄文土器は抽出登録であり、土製品・焼成粘土塊・石器・礫石器・石製品は全点を登録した。また、土製遺物(縄文土器・土製品・焼成粘土塊)は接合作業後の状態、石製遺物(石器・礫石器・石製品)は接合作業前の状態を1個体として登録した。

 - P：縄文土器、D：土製品、N：焼成粘土塊、S：石器、R：礫石器、Q：石製品
- 分析試料の登録番号は、下記の通り種別ごとに記号を付して連続する番号を使用了。
 - A：土壌、B：動物遺存体、C：炭化物、T：土器圧痕レプリカ
- 遺構・遺物実測図の縮尺は下記を基本とし、各図中にスケールを付して示した。
 - 遺構配置図：1/100・1/300、竪穴住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・フラスコ状土坑・土坑・配石遺構・焼土集積：1/60、土器埋設遺構：1/30、遺物集中：1/40、石器集積：1/5・1/10、遺物包含層：平面図1/60・1/100、断面図1/60、溝跡：平面図1/300、断面図1/60

縄文土器：1/3、土製品：1/2、石器：1/1・2/3、礫石器：2/3・1/3・1/4、石製品：1/1・2/3・1/2・1/3

11. 遺構・遺物実測図では、下記の表現方法（パターン）を使用して記載した。なお、塗彩・表面付着物・被熱痕および例外的な表現については各図に凡例を付した。

遺構図	土器・土製品	石器	礫石器・石製品
床面硬化範囲	粘土貼付痕	節理面	節理面
赤色硬化範囲	研磨痕	自然面	自然面
柱痕跡	赤色漆状塗膜	風化剥離面	敲打痕
土器	黒色漆状塗膜	敲打痕	溝状敲打痕
土製品	赤色塗彩	線状痕	磨面（強・弱）
石器類・自然石	黒色塗彩	被熱剥落痕	線状痕
骨片集中範囲	付着炭化物	黒色付着物	磨滅した凹痕
焼土集積範囲	黒色付着物	顕著な被熱痕	磨面
(断面図)	(断面図)	(断面図)	(断面図)
攪乱	研磨痕	磨滅した稜線	磨滅した稜線
(遺構図の破線表現について)		微細剥離痕	

本調査区は遺構密度が高く重複も著しいため、各遺構の平面図において重複関係にある新しい遺構を全て記入した場合、各図の主題となる遺構の形状や特徴の理解が著しく困難となる。こうした煩雑さを避けるため、便宜的に比較的掘り込みが浅い遺構や小規模な遺構の記入を省略し、重複範囲が外形線にかかる場合は原則的にその範囲の上端線を破線で示した。なお、遺構掘削時の掘り過ぎ部分については、断面などから復元した上端・下端線を破線で示した。断面図では土層確認用のサブレンチを細破線で示した。

12. 遺構の土層注記表における土色および遺物観察表における土製遺物の色調は、下記を参照して記載した。

『新版 標準土色帖』小山正忠・竹原秀雄 1967（農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修、日本色研事業株式会社発行、2005 年、第 27 版）

13. 遺構の土層注記表における土層の性格は、下記の記号を使用して記載した。

なお、土層の堆積面より上位の基本層に対応する概ね粒径 10cm 以上の新鮮な地山ブロックを主体とする土層を崩落土、これより粒径が小さく攪拌された地山ブロック・粒を均一に含む土層を人為的埋土と判断して記載した。

（住堆）：住居内堆積土、（柱痕）：柱痕跡、（柱掘）：柱穴掘方埋土、（柱拔）：柱材抜き取り痕跡、（堆）：堆積土、（崩）：崩落土、（人為）：人為的埋土

14. 遺構の説明および遺構観察表では、下記のように記載した。

位置 遺構の中心付近の局地座標（1 m メッシュ、小型の遺構については 1m グリッド北西隅）を記載。

方位 建物の主軸線と北方向との角度を北を基準として記載（北を基準として東に 10° 傾く場合「N-10° -E」）。

面積 0.5m メッシュ（1 マス 0.25㎡）を用いた簡易計測による参考値を記載した。

容積 坂口隆（2003）・松元茂（2018）を参考とし、フラスコ状土坑の断面図上で土坑の開口部および底部の突出部と括れ部の面積がほぼ同等となる 2 本の垂直線を設定し、これが作る円筒形の容積を求めた参考値を記載した。土坑壁面の崩落および土坑上部の削平などについては考慮していない。

機能時期・形成時期 第 3 章第 3 節（第 1 分冊）および第 5 章第 1 節（第 2 分冊）の検討に基づき設定した下記の時期区分により記載した。

1 期：大木 6 式期（新段階）、2 期：大木 7a 式期（2-1 期：古段階、2-2 期：新段階）、3 期：大木 7b 式期（3-1 期：古段階、3-2 期：新段階）、4 期：大木 8a 式期（4-1 期：古段階、4-2 期：中段階古相・新相）

15. 遺物観察表では、下記のように記載した。

計測値 残存値（口径・底径については推定値）である場合は（ ）を付した。

16. 報告書抄録に記載した遺跡の緯度・経度は、地理院地図（<http://maps.gsi.go.jp/>）で取得した調査地点付近の座標値（世界測地系、JGD2011）である。

17. 本書の引用文献および執筆にあたり参考にした文献・報告書については巻末に一括して掲載した。但し依頼原稿については各節の文末に記載した。

調査要項

本書の構成

本書は第1分冊 調査記録編、第2分冊 分析・考察編、第3分冊 遺物図版編、第4分冊 遺物写真図版編、第5分冊 遺構・遺物観察表編、第6分冊 デジタルデータ編の全6分冊で構成する。各分冊の内容の詳細は目次に示す通りであるが、ここでは本書を利用する上で前提となる各分冊の概要と相互の参照関係、および第6分冊（DVD-ROM）に収録したデジタルデータの内容と仕様について述べる。なお、本書全般に関わる例言・凡例・調査要項・本書の構成・総目次は第1分冊の巻頭に掲載し、各分冊では個別に該当する項目に限りて記載した。

第1分冊 調査記録編

巻頭写真図版、第1章 遺跡の周辺環境、第2章 調査の経緯と方法、第3章 調査の成果、遺構写真図版からなる。巻頭写真図版では、代表的な遺物の集合写真と調査写真を掲載した。第3章では、発掘調査で確認した遺構・遺物の分類と全体的な確認状況について遺構配置図等を示して記述した後、主要な遺構・遺物について個別の遺構図を示して個別に内容と特徴を記述した。なお、性格不明の土坑などについては個別の遺構図や記述を省略し、遺構配置図および遺構観察表（第5分冊）の記載に代えた。各遺構の機能時期および形成時期は第3章の遺物の分類と第5章の検討に基づく。各遺構の主要な遺物については実測図（第3分冊）、写真（第4分冊）、遺物観察表（第5分冊）を掲載した。なお、個別の遺構図や記述を省略した遺構でも、特徴的な遺物が認められる場合には遺物の実測図・写真・観察表を掲載している。各図版と写真の掲載箇所については、本文および遺構・遺物観察表（第5分冊）に記載している。

第2分冊 分析・考察編

巻頭図版、第4章 自然科学的分析、第5章 考古学的考察、第6章 総括、解説、報告書抄録からなる。巻頭図版では、代表的な縄文土器の三次元形状解析図（正面・上面・円筒展開図）を掲載した。第5章は第4章までの成果に基づく。第4章および第5章で外部研究者および分析機関の執筆によるものは凡例および各節の文頭に執筆者名を記載した。

第3分冊 遺物図版編

遺物実測図を収録した。縄文土器・土製品・石器・礫石器・石製品の順に、遺構・層位単位を基本に掲載した。

第4分冊 遺物写真図版編

遺物写真図版を収録した。掲載順とレイアウトは遺物図版編（第3分冊）に準ずる。

第5分冊 遺構・遺物観察表編

遺構観察表および遺物観察表を収録した。遺物観察表については、縄文土器・石器・礫石器は第3・4分冊に実測図・写真を収録したものを掲載し、土製品・石製品は全点を掲載した。実測図・写真を掲載していない遺物のうち、石器・礫石器については第6分冊のDVD-1に「付表（その他の石器・礫石器観察表）」としてPDF形式で収録した。なお、第6分冊のDVD-1にはすべての観察表の表形式データも収録した。

第6分冊 デジタルデータ編

4枚のDVD-ROM（DVD-1～4）からなる。収録したデータの形式はPDF（印刷文書フォーマット）、XLSX・XLS（Microsoft Excel 標準フォーマット）、CSV（カンマ区切りテキストフォーマット）、TIFF（非圧縮画像フォーマット）、JPEG（圧縮画像フォーマット）、OBJ（3D画像フォーマット）があり、各種汎用ソフトウェアで閲覧可能である。対応する代表的なソフトウェアにはAdobe Reader（PDF）、Microsoft Excel（XLSX・XLS）、各種テキストエディタおよび表計算ソフト（CSV）、各種画像ビューア（TIFF、JPG）、MeshLab（OBJ）などがある。収録したデータの概要と仕様などは下記の通りである。

DVD-1 冊子データ（第1～5分冊）、表形式データ（観察表など）、画像データ（発掘調査記録写真）を収録した。

冊子データは、第1～5分冊の全編をPDF形式で収録した。また、実測図・写真を掲載していない遺物の観察表を「付表（その他の石器・礫石器観察表）」としてPDF形式で収録した。PDFファイルはAdobe InDesign CS5.5で組版したものをプリセット：PDF/X-1a:2001（日本）を使用して書き出したもので、カラー・グレースケール

画像は 300dpi、モノクロ画像は 1,200dpi に圧縮している。ファイルサイズが過大とならないよう必要に応じて各 100MB 未満で複数のファイルに分割した。

表形式データは、遺構・遺物集計表、遺構観察表、遺物取上番号一覧表、遺物観察表、遺物組成表、自然科学的分析諸表、考古学的考察諸表を Microsoft Excel 形式および CSV 形式で収録した。遺物組成表のうち縄文土器文様要素分類表は縄文土器観察表の「特徴」に記載した文様の種類と施文技法について、その内容と組成を統計的に把握することを目的として記述形式から表形式に置き換えたものである。分類項目は第 5 分冊凡例に示した通りで、縄文土器観察表の「特徴」における文様の種類と施文技法に関する記述内容を網羅している。自然科学的分析諸表は第 4 章、考古学的考察諸表は第 5 章（いずれも第 1 分冊）に掲載した表を収録した。なお、万一各表で重複する項目のデータに齟齬を生じた場合は原則として遺構・遺物観察表の記載が優先する。

画像データは、第 1 分冊の写真図版に掲載した発掘調査記録写真を JPEG 形式で収録した。2707 × 1800 ピクセルを標準としたが、デジタルカメラで撮影した写真を現像後、適宜トリミングを行なった場合などこれに満たないものもある。ファイル名は遺構番号に続けて撮影対象を簡潔に記載し（例：SI1_遺物出土状況_西から.jpg）、遺構種別ごとにフォルダに収容した。

DVD-2 画像データ（出土遺物写真）、ベクターデータ（遺物実測図）を収録した。

画像データは、第 4 分冊の写真図版に掲載した縄文土器の写真を JPEG 形式で収録した。撮影方法は自立するものを立面撮影、破片などを俯瞰撮影した。実測図の正面と対応した据え方を原則としたが、全体の器形や文様構成を示すよう適宜調整した。撮影・現像に際してはカラーチェッカーを使用し RGB 値の最適化を行なっている。JPG ファイルは写真図版の掲載サイズで解像度 800dpi を標準とし、Adobe Photoshop CS5.5 で圧縮（圧縮率 10/12）をかけている。なお、大型の土器では撮影画素数の都合から 800dpi に満たないものがある。ファイル名は遺物登録番号に続けて外面：A、内面：B、上面：C、底部ほか：D の記号と複数カットある場合は枝番号を付した（例：YT-P-0001-A1.jpg）。なお、紙幅の都合から写真図版に掲載しなかった画像も収録した。

ベクターデータは、縄文土器の実測図を収録した。Adobe Illustrator CS4 で描画した図を PDF 形式で書き出したもので、レイヤー構造も保持している。ファイル名は遺物登録番号となっている（例：YT-P-0001.pdf）。

DVD-3 画像データ（出土遺物写真・出土遺物集合写真）、ベクターデータ（遺物実測図）を収録した。

画像データは、第 4 分冊の写真図版に掲載した土製品・焼成粘土塊・石器・石器接合資料・石器母岩別資料・礫石器・石製品の写真と、第 1 分冊の巻頭図版に掲載した遺物集合写真、第 4 分冊の写真図版に掲載した縄文土器集合写真を JPEG 形式で収録した。撮影や画像処理およびファイル名の仕様は DVD-2 と同様である。個別の遺物写真は実測図と対応した据え方を原則としてデジタルカメラで俯瞰撮影（自立する土偶・ミニチュア土器などは立面撮影）した写真を現像後、適宜トリミング（石鏃・接合資料・異形石器などは背景カット）を行なって Adobe Illustrator CS4 で配置したものを JPEG 形式に書き出した。遺物種別ごとにフォルダに収容した。

ベクターデータは、土製品・石器・礫石器・石製品の实測図および石器接合資料の塗り分け図を収録した。データ作成とファイル名の仕様は DVD-2 と同様である。

DVD-4 第 2 分冊巻頭図版に掲載した縄文土器の三次元データ、画像データ（PEAKIT 画像、文様復元図）を収録した。

三次元データは、SfM/MVS 技術により作成した 3D モデル（テクスチャモデル）を OBJ 形式で書き出したもので、遺物登録番号で作成したフォルダ内に三次元形状データファイル（.obj）・構成ファイル（.mtl）・テクスチャファイル（.jpg）の 3 つのファイルを収容している。株式会社ラングにおいて作成された 27M ポリゴンのデータを、ファイルサイズが過大とならないよう同社の協力を得て 0.8M ポリゴンに削減したものを収録した。

画像データは、三次元形状解析による PEAKIT 画像およびこれを利用して作成した文様復元図を収録した。PEAKIT 画像は株式会社ラングが作成した正面図、上面図、円筒展開図を TIFF 形式に書き出したものである。上面図は口縁部上面側に文様帯や突起を持つものについて必要に応じて作成した。円筒展開図は正面を中央にした 1 周分の画像と、任意の正面位置によらずに文様の連続性を検討するために 2 周分の画像を作成した。ファイル名は遺物番号に続けて正面：F、上面：T、展開図（一周分：R1、二周分：R2）の記号を付した（例：YT-P-0003-R2.tif）。文様復元図は、これらの PEAKIT 画像を Adobe Illustrator CS4 で配置して外形や文様の復元線を書き込んだもの（第 2 分冊巻頭図版）で、PDF 形式で書き出したものを収録した。

総目次

第1分冊 調査記録編

巻頭写真図版

序 文

例 言

凡 例

調査要項

本書の構成

総目次

第1章 遺跡の周辺環境	1
第1節 地理的環境	1
第2節 石器石材環境	7
第3節 歴史的環境	15
第4節 指定文化財等	23
第2章 調査の経緯と方法	25
第1節 調査に至る経緯	25
第2節 調査の方法と経過	26
第3節 整理の方法と経過	31
第3章 調査の成果	41
第1節 微地形と基本層序	41
第2節 遺構と遺物の概要	45
第3節 遺構と遺物の分類	47
1. 遺構の分類	47
2. 遺構の機能時期推定	48
3. 遺物の分類	49
第4節 遺構と遺物の詳説	125
1. 遺構と遺物の分布	125
2. 竪穴住居跡	163
3. 掘立柱建物跡	176
4. 竪穴状遺構	195
5. 炉跡	208
6. フラスコ状土坑	208
7. 落とし穴状土坑	246
8. 土坑	247
9. 配石遺構	271
10. 土器埋設遺構	275

11. 遺物集中	282
12. 石器集積	282
13. 焼土集積	286
14. 遺物包含層	290
15. 溝跡	312
16. 柱穴	314
17. 遺構外出土遺物	315

遺構写真図版

第2分冊 分析・考察編

巻頭図版

目次

第4章 自然科学的分析	1
第1節 テフラ分析	1
第2節 フラスコ状土坑内堆積物の花粉分析	5
第3節 炭化材と炭化種実の樹種同定	9
第4節 レプリカ法による土器・土製品の種実圧痕および葉脈圧痕の同定	19
第5節 出土骨の同定	41
第6節 焼骨・炭化材の放射性炭素年代	69
第7節 炭化材・炭化種実の放射性炭素年代	75
第8節 土器付着炭化物の放射性炭素年代および炭素・窒素安定同位体分析	85
第9節 縄文土器深鉢と焼成粘土塊の胎土分析	97
第10節 黒曜石の原産地推定	119
第11節 磨製石斧の石材同定	137
第12節 石製品の石材同定	153
第5章 考古学的考察	155
第1節 縄文土器の変遷と地域性	155
第2節 大木8a式土器文様の施文原則の特色	195
第3節 縄文土器の製作・使用・廃棄行動	207
第4節 縄文土器底部の敷物圧痕に見る編組技術の特徴と地域性	221
第5節 石器の製作・使用・廃棄行動	229
第6節 石器の機能	251
第7節 土製品・石製品の特徴と地域性	271
第8節 動作連鎖からみた土偶の技術学的分析	289
第9節 環境と動物・植物資源利用	319
第10節 集落構成と諸活動	323
第11節 地域区分と地域間の物流・交流	345

第12節 土器群および集落の年代	353
第6章 総括	357
引用・参考文献	
解説	
報告書抄録	

第3分冊 遺物図版編

目次	
凡例	
遺物図版	

第4分冊 遺物写真図版編

目次	
遺物写真図版	

第5分冊 遺構・遺物観察表編

目次	
凡例	

遺構観察表	1
竪穴住居跡	3
掘立柱建物跡 A	3
掘立柱建物跡 B	3
掘立柱建物跡 C	3
炉跡	4
竪穴状遺構	4
フラスコ状土坑	5
落とし穴状土坑	7
土坑	7
溝跡	15
配石遺構	16
土器埋設遺構	16
遺物集中	17
石器集積	17

焼土集積	17
遺物包含層	18
遺物取上番号一覧表	19
土製遺物等取上番号一覧表	21
石製遺物等取上番号一覧表	25
遺物観察表	29
縄文土器	31
土製品	130
焼成粘土塊	141
石器	144
石器接合資料	187
礫石器	190
石製品	203

第5分冊 遺構・遺物観察表編〔付表〕 ※第6分冊 デジタルデータ編 DVD-1 所収

目次	
凡例	
遺物観察表	1
石器	3
礫石器	226

第6分冊 デジタルデータ編

DVD-1	冊子データ	第1分冊 調査記録編
		第2分冊 分析・考察編
		第3分冊 遺物図版編
		第4分冊 遺物写真図版編
		第5分冊 遺構・遺物観察表編
		付表 遺物観察表（その他の石器・礫石器）
	表形式データ	遺構・遺物集計表，遺構観察表，遺物取上番号一覧表，遺物観察表，遺物組成表，自然科学的分析諸表，考古学的考察諸表
	画像データ	発掘調査記録写真
DVD-2	画像データ	出土遺物写真（縄文土器）
	ベクターデータ	遺物実測図（縄文土器）
DVD-3	画像データ	出土遺物写真（土製品・焼成粘土塊・石器・石器接合資料・石器母岩別資料・礫石器・石製品）

出土遺物集合写真

	ベクターデータ	遺物実測図（土製品・石器・石器接合資料・礫石器・石製品）
DVD-4	三次元データ	縄文土器三次元形状データ（3D モデル）
	画像データ	縄文土器三次元形状解析画像（PEAKIT 画像）・文様復元図

巻頭図版目次

第1分冊 調査記録編

巻頭図版 1	谷地遺跡の出土遺物
巻頭図版 2	縄文土器（大木 7a 式期） 縄文土器（大木 7b 式期） 縄文土器（大木 8a 式期）
巻頭図版 3	石器 土製品、石製品
巻頭図版 4	遺跡周辺の地形（2013 年空撮） 遺跡周辺の地形（1961 年空撮）
巻頭図版 5	遺跡遠景（2018 年空撮） 遺跡近景（2018 年空撮）
巻頭図版 6	調査区全景（南から） 調査区全景（北から）
巻頭図版 7	SI1 竪穴住居跡の遺物出土状況 SK1007 土坑の遺物出土状況
巻頭図版 8	SX17 遺物包含層の遺物出土状況 SX717 遺物包含層の遺物出土状況
巻頭図版 9	SX719 土器埋設遺構 SK28 フラスコ状土坑の遺物出土状況
巻頭図版 10	SK242・244・276 フラスコ状土坑 SK606 フラスコ状土坑の遺物出土状況
巻頭図版 11	SK721 フラスコ状土坑の土層断面 SK612 フラスコ状土坑の土層断面
巻頭図版 12	SK592 フラスコ状土坑の土層断面 SK592 フラスコ状土坑の完掘状況

第2分冊 分析・考察編

巻頭図版 1	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（1）
巻頭図版 2	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（2）
巻頭図版 3	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（3）
巻頭図版 4	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（4）
巻頭図版 5	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（5）
巻頭図版 6	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（6）
巻頭図版 7	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（7）
巻頭図版 8	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（8）
巻頭図版 9	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（9）
巻頭図版 10	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（10）
巻頭図版 11	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（11）
巻頭図版 12	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（12）
巻頭図版 13	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（13）
巻頭図版 14	縄文土器の三次元形状解析図・円筒展開図（14）

挿図目次

第1分冊 調査記録編

第1図	遺跡の位置	1
第2図	遺跡の立地	2
第3図	蔵王麓地域の模式断面と植生・遺跡の分布	2
第4図	蔵王町東部の地形区分と遺跡の分布	3
第5図	遺跡周辺の地形	4

第6図	調査区周辺の地形	5
第7図	蔵王麓地域の石器石材分布	8
第8図	刈田郡周辺の街道	15
第9図	蔵王町域の遺跡における活動痕跡の動態	16
第10図	周辺の遺跡（1）	18
第11図	周辺の遺跡（2）	19
第12図	調査地点位置図	25
第13図	遺構確認調査トレンチ配置図	26
第14図	調査区グリッド設定図	28
第15図	1区遺物取り上げグリッド設定図	29
第16図	調査区土層断面位置図	42
第17図	調査区基本層序模式柱状図	42
第18図	調査区土層断面図	43
第19図	調査区土層断面図	44
第20図	器形分類図（1） 深鉢（1）	50
第21図	器形分類図（2） 深鉢（2）	51
第22図	器形分類図（3） 浅鉢、台付浅鉢、壺、脚付壺、台付壺、皿	52
第23図	縄文土器の文様帯と区画文	54
第24図	縄文土器の口縁部形態と区画文様	55
第25図	縄文土器の突起部形態、施文技法（1）	56
第26図	縄文土器の施文技法（2）、文様モチーフ（1）	57
第27図	縄文土器の文様モチーフ（2）	58
第28図	縄文土器の分類（1）Ⅰ群土器	60
第29図	縄文土器の分類（2）Ⅱ群土器（1）	64
第30図	縄文土器の分類（3）Ⅱ群土器（2）	65
第31図	縄文土器の分類（4）Ⅱ群土器（3）	66
第32図	縄文土器の分類（5）Ⅱ群土器（4）	67
第33図	縄文土器の分類（6）Ⅱ群土器（5）	69
第34図	縄文土器の分類（7）Ⅱ群土器（6）	70
第35図	縄文土器の分類（8）Ⅱ群土器（7）	71
第36図	縄文土器の分類（9）Ⅲ群土器（1）	78
第37図	縄文土器の分類（10）Ⅲ群土器（2）	79
第38図	縄文土器の分類（11）Ⅲ群土器（3）	80
第39図	縄文土器の分類（12）Ⅲ群土器（4）	81
第40図	縄文土器の分類（13）Ⅲ群土器（5）	82
第41図	縄文土器の分類（14）Ⅲ群土器（6）	83
第42図	縄文土器の分類（15）Ⅲ群土器（7）	84
第43図	縄文土器の分類（16）Ⅲ群土器（8）	86
第44図	縄文土器の分類（17）Ⅳ群土器（1）	92
第45図	縄文土器の分類（18）Ⅳ群土器（2）	93
第46図	縄文土器の分類（19）Ⅳ群土器（3）	94
第47図	縄文土器の分類（20）Ⅳ群土器（4）	95
第48図	縄文土器の分類（21）Ⅳ群土器（5）	96
第49図	縄文土器の分類（22）Ⅳ群土器（6）	97
第50図	縄文土器の分類（23）Ⅳ群土器（7）	98
第51図	縄文土器の分類（24）Ⅴ群土器	99
第52図	土製品の器種と類型（1） 土偶（1）	102
第53図	土製品の器種と類型（2） 土偶（2）	103
第54図	土製品の器種と類型（3） 土偶（3）	104
第55図	土製品の器種と類型（4） ミニチュア土器、栓状耳飾、三脚形・円環状・ 円盤状・管状土製品、土器片加工品	105
第56図	石器の器種と類型（1） 石鏃、尖頭器	110
第57図	石器の器種と類型（2） 石鏃、石匙	111
第58図	石器の器種と類型（3） 石鏃、楔形石器	112
第59図	石器の器種と類型（4） 打製石斧、磨製石斧	113
第60図	石器の器種と類型（5） 不定形石器	114

第 61 図	石器の器種と類型 (6) 両面加工石器, 微細剥離ある剥片, 石核……………115		
第 62 図	礫石器の器種と類型 (1) 石皿……………117	第 103 図	SX200・294・295・296・304 炉跡 (1)……………183
第 63 図	礫石器の器種と類型 (2) 有溝砥石, 台石, 敲石……………118		SB358・362 掘立柱建物跡, SX200・294・295・296・304 炉跡 (2)……………184
第 64 図	礫石器の器種と類型 (3) 磨石類 (1)……………119	第 104 図	SB741 掘立柱建物跡, SX733・SX743 炉跡……………185
第 65 図	礫石器の器種と類型 (4) 磨石類 (2)……………120	第 105 図	SB611 掘立柱建物跡 (1)……………187
第 66 図	石製品の器種と類型 (1) 垂飾品, 小型石棒, 異形石器……………122	第 106 図	SB611 掘立柱建物跡 (2)……………188
第 67 図	石製品の器種と類型 (2) 石棒, 棒状石製品……………123	第 107 図	SB360 掘立柱建物跡……………190
第 68 図	石製品の器種と類型 (3) 乳鉢状・浮子状・円盤状・鋸齒縁・ 板状有溝石製品, 三脚石器, 線刻礫……………124	第 108 図	SB364 掘立柱建物跡 (1)……………191
第 69 図	調査区の微地形……………127	第 109 図	SB364 掘立柱建物跡 (2)……………192
第 70 図	遺構配置図……………128	第 110 図	SB366 掘立柱建物跡……………193
第 71 図	竪穴住居跡配置図……………129	第 111 図	SB740 掘立柱建物跡……………194
第 72 図	掘立柱建物跡 (A・B) 配置図……………130	第 112 図	SX2 竪穴状遺構 (1)……………196
第 73 図	掘立柱建物跡 (C) 配置図……………131	第 113 図	SX2 竪穴状遺構 (2)……………197
第 74 図	竪穴状遺構配置図……………132	第 114 図	SX3 竪穴状遺構……………199
第 75 図	炉跡, 焼土集積配置図……………133	第 115 図	SX4 竪穴状遺構……………200
第 76 図	フラスコ状土坑配置図……………134	第 116 図	SX7 竪穴状遺構……………201
第 77 図	落とし穴状土坑, 土坑配置図……………135	第 117 図	SX155 竪穴状遺構……………203
第 78 図	配石遺構, 土器埋設遺構配置図……………136	第 118 図	SX510・622 竪穴状遺構……………204
第 79 図	遺物包含層, 遺物集中, 石器集積配置図……………137	第 119 図	SX647 竪穴状遺構……………205
第 80 図	溝跡配置図……………138	第 120 図	SX1008・1018 竪穴状遺構, SX734 炉跡……………206
第 81 図	柱穴配置図……………139	第 121 図	SK28 フラスコ状土坑……………209
第 82 図	位置記録遺物分布図……………140	第 122 図	SK40・41 フラスコ状土坑……………210
第 83 図	遺構配置等詳細図割付図……………141	第 123 図	SK43・72・87 フラスコ状土坑……………212
第 84-1 図	遺構配置詳細図 (A)……………142	第 124 図	SK90・91 フラスコ状土坑……………214
第 84-2 図	遺構配置詳細図 (B)……………143	第 125 図	SK95・108 フラスコ状土坑……………215
第 84-3 図	遺構配置詳細図 (C)……………144	第 126 図	SK116 フラスコ状土坑……………216
第 84-4 図	遺構配置詳細図 (D)……………145	第 127 図	SK122・123・134 フラスコ状土坑……………218
第 84-5 図	遺構配置詳細図 (E)……………146	第 128 図	SK126・133・191 フラスコ状土坑……………220
第 84-6 図	遺構配置詳細図 (F)……………147	第 129 図	SK196・197 フラスコ状土坑……………221
第 84-7 図	遺構配置詳細図 (G)……………148	第 130 図	SK206・214 フラスコ状土坑……………222
第 85-1 図	柱穴配置詳細図 (A)……………149	第 131 図	SK222・241・253 フラスコ状土坑……………224
第 85-2 図	柱穴配置詳細図 (B)……………150	第 132 図	SK242・244・276・292 フラスコ状土坑……………226
第 85-3 図	柱穴配置詳細図 (C)……………151	第 133 図	SK262・265 フラスコ状土坑……………227
第 85-4 図	柱穴配置詳細図 (D)……………152	第 134 図	SK266・267・268 フラスコ状土坑……………229
第 85-5 図	柱穴配置詳細図 (E)……………153	第 135 図	SK274・280 フラスコ状土坑……………231
第 85-6 図	柱穴配置詳細図 (F)……………154	第 136 図	SK282・284・315 フラスコ状土坑……………234
第 85-7 図	柱穴配置詳細図 (G)……………155	第 137 図	SK317・321・347・508 フラスコ状土坑……………236
第 86-1 図	位置記録遺物分布詳細図 (A)……………156	第 138 図	SK508・534・592 フラスコ状土坑……………238
第 86-2 図	位置記録遺物分布詳細図 (B)……………157	第 139 図	SK606 フラスコ状土坑……………239
第 86-3 図	位置記録遺物分布詳細図 (C)……………158	第 140 図	SK612 フラスコ状土坑……………240
第 86-4 図	位置記録遺物分布詳細図 (D)……………159	第 141 図	SK721 フラスコ状土坑……………242
第 86-5 図	位置記録遺物分布詳細図 (E)……………160	第 142 図	SK723・1006 フラスコ状土坑, 1 区南東隅土坑群 (フラスコ状土坑) (1)……………244
第 86-6 図	位置記録遺物分布詳細図 (F)……………161	第 143 図	SK723・1006 フラスコ状土坑, 1 区南東隅土坑群 (フラスコ状土坑) (2)……………245
第 86-7 図	位置記録遺物分布詳細図 (G)……………162	第 144 図	SK583・594 落とし穴状土坑, SK31・38・75・135 土坑……………248
第 87 図	SI1 竪穴住居跡 (1)……………164	第 145 図	SK119・120・147・171・190 土坑……………250
第 88 図	SI1 竪穴住居跡 (2)……………165	第 146 図	SK216・255・277・286 土坑……………252
第 89 図	SI20 竪穴住居跡 (1)……………167	第 147 図	SK303・328 土坑……………254
第 90 図	SI20 竪穴住居跡 (2)……………168	第 148 図	SK307・359・501・511・512 土坑……………256
第 91 図	SI20 竪穴住居跡 (3)……………169	第 149 図	SK514・519・523・524 土坑……………258
第 92 図	SI20 竪穴住居跡 (4)……………170	第 150 図	SK525・539・544・546・550 土坑……………260
第 93 図	SI20 竪穴住居跡 (5)……………171	第 151 図	SK556・576・590・591・615 土坑……………262
第 94 図	SI20 竪穴住居跡 (6)……………172	第 152 図	SK609・614・625・633・659 土坑……………264
第 95 図	SI22 竪穴住居跡 (1)……………173	第 153 図	SK640・651・654・656 土坑……………266
第 96 図	SI22 竪穴住居跡 (2)……………174	第 154 図	SK662・664・699 土坑……………268
第 97 図	SI22 竪穴住居跡 (3)……………175	第 155 図	SK1007 土坑……………270
第 98 図	SB167 掘立柱建物跡, SX208・213・392・393・394 炉跡 (1)……………177	第 156 図	SX739 配石遺構 (1)……………272
第 99 図	SB167 掘立柱建物跡, SX208・213・392・393・394 炉跡 (2)……………178	第 157 図	SX739 配石遺構 (2)……………273
第 100 図	SB256・363 掘立柱建物跡, SX372・373・374・375・377 炉跡 (1)……………179	第 158 図	SX180・199・215・ 271・288・342 土器埋設遺構……………276
第 101 図	SB256・363 掘立柱建物跡, SX372・373・374・377 炉跡 (2)……………180	第 159 図	SX319・322・584・630 土器埋設遺構……………278
第 102 図	SB358・362 掘立柱建物跡, SX200・294・295・296・304 炉跡 (1)……………183	第 160 図	SX719・1001 土器埋設遺構……………280
		第 161 図	SX732 遺物集中……………282
		第 162 図	SX137 石器集積……………284
		第 163 図	SX144 石器集積……………285
		第 164 図	SX177・745 石器集積……………286

第 165 図	SX192・193・194・195・ 202・209・225・245・285 焼土集積	287
第 166 図	SX402・582・736 焼土集積	289
第 167 図	SX14 遺物包含層 (1)	291
第 168 図	SX14 遺物包含層 (2)	292
第 169-1 図	SX17・361 遺物包含層, SX395・396・ 397・398・399・400・401 焼土集積 (1)	293
第 169-2 図	SX17・361 遺物包含層, SX395・396・ 397・398・399・400・401 焼土集積 (2)	294
第 169-3 図	SX17・361 遺物包含層, SX395・396・ 397・398・399・400・401 焼土集積 (3)	295
第 170 図	SX17 遺物包含層	296
第 171 図	SX290 遺物包含層	297
第 172 図	SX353 遺物包含層	298
第 173 図	SX361 遺物包含層	299
第 174 図	SX608・666 遺物包含層	300
第 175 図	SX610・666 遺物包含層	302
第 176 図	SX610 遺物包含層	303
第 177-1 図	SX717 遺物包含層 (1)	304
第 177-2 図	SX717 遺物包含層 (2)	305
第 178-1 図	SX717 遺物包含層 (3)	306
第 178-2 図	SX717 遺物包含層 (4)	307
第 179-1 図	SX717 遺物包含層 (5)	308
第 179-2 図	SX717 遺物包含層 (6)	309
第 180 図	SX717 遺物包含層 (7)	310
第 181 図	SD5・16・21 溝跡	312

第 2 分冊 分析・考察編

(第 4 章 第 1 節)

第 1 図	斜方輝石の屈折率	2
第 2 図	蔵王火山の最新期テフラ総合柱状図	3

(第 4 章 第 5 節)

第 1 図	二ホンジカの骨格	41
-------	----------	----

(第 4 章 第 6 節)

第 1 図	〔参考〕暦年較正年代グラフ	73
第 2 図	暦年較正年代マルチプロット図	74

(第 4 章 第 7 節)

第 1-1 図	〔参考〕暦年較正年代グラフ (1)	80
第 1-2 図	〔参考〕暦年較正年代グラフ (2)	81
第 1-3 図	〔参考〕暦年較正年代グラフ (3)	82
第 2 図	暦年較正年代マルチプロット図	83

(第 4 章 第 8 節)

第 1 図	〔参考〕炭素・窒素安定同位体比グラフ	90
第 2-1 図	測定試料と暦年較正年代グラフ (1)	91
第 2-2 図	測定試料と暦年較正年代グラフ (2)	92
第 2-3 図	測定試料と暦年較正年代グラフ (3)	93
第 2-4 図	測定試料と暦年較正年代グラフ (4)	94
第 2-5 図	測定試料と暦年較正年代グラフ (5)	95
第 3 図	暦年較正年代マルチプロット図	96

(第 4 章 第 9 節)

第 1 図	遺跡とその周辺の地質	103
第 2-1 図	胎土分析試料と材料の特徴 (1)	106
第 2-2 図	胎土分析試料と材料の特徴 (2)	107
第 2-3 図	胎土分析試料と材料の特徴 (3)	108
第 2-4 図	胎土分析試料と材料の特徴 (4)	109
第 2-5 図	胎土分析試料と材料の特徴 (5)	110

(第 4 章 第 10 節)

第 1 図	分析対象遺跡の位置	119
第 2 図	東北地方とその周辺における黒曜石原産地の分布	120
第 3 図	黒曜石原産地の判別図 (1)	122
第 4 図	黒曜石原産地の判別図 (2)	122
第 5 図	黒曜石原産地の判別図 (3) 被熱検定	123

第 6 図	黒曜石原産地の判別図 (4) 風化検定	123
第 7 図	谷地遺跡の主な原産地判定試料	125
第 8 図	各遺跡の黒曜石の搬入経路	126
第 9-1 図	各試料の蛍光 X 線スペクトル図 (1)	128
第 9-2 図	各試料の蛍光 X 線スペクトル図 (2)	129
第 9-3 図	各試料の蛍光 X 線スペクトル図 (3)	130
第 9-4 図	各試料の蛍光 X 線スペクトル図 (4)	131
第 9-5 図	各試料の蛍光 X 線スペクトル図 (5)	132
第 9-6 図	各試料の蛍光 X 線スペクトル図 (6)	133
第 9-7 図	各試料の蛍光 X 線スペクトル図 (7)	134
第 9-8 図	各試料の蛍光 X 線スペクトル図 (8)	135

(第 4 章 第 11 節)

第 1 図	分析対象遺跡の位置	137
第 2 図	YT-S-1024 の非破壊 X 線回折チャート	141
第 3 図	YT-S-1025 の非破壊 X 線回折チャート	142
第 4 図	TM-028 の非破壊 X 線回折チャート	143
第 5 図	OX-073 の非破壊 X 線回折チャート	145

(第 4 章 第 12 節)

第 1 図	分析対象 (資料番号 YT-Q-030): ヒスイ製垂飾品	154
-------	-------------------------------	-----

(第 5 章 第 1 節)

第 1 図	縄文土器の器種構成	155
第 2 図	縄文土器の出土状況	155
第 3 図	Ⅱ群土器の出土状況 (1)	158
第 4 図	Ⅱ群土器の出土状況 (2)	159
第 5 図	Ⅲ群土器の出土状況 (1)	161
第 6 図	Ⅲ群土器の出土状況 (2)	162
第 7 図	Ⅲ群土器の出土状況 (3)	163
第 8 図	Ⅳ群土器の出土状況 (1)	165
第 9 図	Ⅳ群土器の出土状況 (2)	166
第 10 図	Ⅳ群土器の出土状況 (3)	167
第 11 図	Ⅳ群土器の出土状況 (4)	168
第 12 図	SX14 遺物包含層出土土器	171
第 13 図	SX17 遺物包含層出土土器	171
第 14 図	SX361 遺物包含層出土土器	173
第 15 図	SX608 遺物包含層出土土器	173
第 16 図	SX610 遺物包含層出土土器 (1)	174
第 17 図	SX610 遺物包含層出土土器 (2)	175
第 18 図	SX666 遺物包含層出土土器	175
第 19 図	SX717 遺物包含層 2 層出土土器 (1)	176
第 20 図	SX717 遺物包含層 2 層出土土器 (2)	177
第 21 図	SX717 遺物包含層 1 層出土土器 (1)	178
第 22 図	SX717 遺物包含層 2 層出土土器 (2)	179
第 23 図	SX717 遺物包含層確認面出土土器	179
第 24 図	Ⅲ群 2 類土器 (C1 種) の類例と 関連する阿玉台式系統の土器	182
第 25 図	Ⅲ群 3 類土器の類例	183
第 26 図	V 群 1 類土器 (A1 種) の類例と 関連する有孔鐔付土器	186
第 27 図	谷地遺跡出土土器変遷図 (1)	188
第 28 図	谷地遺跡出土土器変遷図 (2)	189
第 29 図	谷地遺跡出土土器変遷図 (3)	190
第 30 図	谷地遺跡出土土器変遷図 (4)	191
第 31 図	谷地遺跡出土土器変遷図 (5)	192
第 32 図	谷地遺跡出土土器変遷図 (6)	193

(第 5 章 第 2 節)

第 1 図	大木 8a 式土器の文様帯と文様単位、 胴部文様帯の分類 (1)	204
第 2 図	大木 8a 式土器の文様帯と文様単位、 胴部文様帯の分類 (2)	205
第 3 図	大木 8a 式土器の文様帯と文様単位、 胴部文様帯の分類 (3)	206

(第 5 章 第 3 節)

第 1 図	土器の胎土と型式	208
-------	----------	-----

(第5章 第4節)	
第1図	土器底部敷物圧痕の分類 (1) …………… 222
第2図	土器底部敷物圧痕の分類 (2) …………… 223
第3図	土器底部敷物圧痕の分類 (3) …………… 224

(第5章 第5節)	
第1図	石器・礫石器の出土状況 …………… 229
第2図	石器の器種組成 …………… 231
第3図	石器の石材組成 …………… 231
第4図	礫石器の器種組成 …………… 233
第5図	礫石器の石材組成 …………… 233
第6図	石器・礫石器の類型別出現頻度 …………… 234
第7図	磨石類の素材形態と表面痕跡 …………… 235
第8図	母岩2の素材剥片利用 …………… 237
第9図	母岩別資料の大きさ …………… 238
第10図	石核・剥片の大きさ …………… 239
第11図	製品類の大きさ (1) 細別器種分類別 …………… 242
第12図	製品類の大きさ (2) 石材別 …………… 243
第13図	製品類の大きさ (3) 細別器種分類別 …………… 244
第14図	製品類の大きさ (4) 石材別 …………… 245
第15図	製品類の大きさ (5) 1：石材別、2～4：細別器種分類別 …………… 246
第16図	石器の破損状況 …………… 247
第17図	石鏃・尖頭器の破損状況 …………… 248

(第5章 第6節)	
第1図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (1) …………… 257
第2図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (2) …………… 258
第3図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (3) …………… 259
第4図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (4) …………… 260
第5図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (5) …………… 261
第6図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (6) …………… 262
第7図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (7) …………… 263
第8図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (8) …………… 264
第9図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (9) …………… 265
第10図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (10) …………… 266
第11図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (11) …………… 267
第12図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (12) …………… 268
第13図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (13) …………… 269
第14図	谷地遺跡出土石器の使用痕 (14) …………… 270

(第5章 第7節)	
第1図	土製品の器種組成 …………… 271
第2図	土製品の出土状況 …………… 271
第3図	土偶の帰属時期 …………… 272
第4図	ミニチュア土器の帰属時期 …………… 274
第5図	三脚形土製品の帰属時期 …………… 274
第6図	石製品の器種組成 …………… 275
第7図	石製品の出土状況 …………… 275
第8図	石製品の器種組成 …………… 277
第9図	石製品の器種別石材組成 …………… 277
第10図	谷地遺跡出土土偶変遷図 (1) 2期 (大木 7a 式期) …………… 280
第11図	谷地遺跡出土土偶変遷図 (2) 3期 (大木 7b 式期) …………… 281
第12図	谷地遺跡出土土偶変遷図 (3) 4期 (大木 8a 式期) (1) …………… 282
第13図	谷地遺跡出土土偶変遷図 (4) 4期 (大木 8a 式期) (2) …………… 283
第14図	三脚形土製品と類例 …………… 285
第15図	鼓形石棒と類例 …………… 287

(第5章 第8節)	
第1図	谷地遺跡出土土偶の大きさ分類 …………… 302
第2図	谷地遺跡出土土偶 破損面の摩耗 …………… 303
第3図	谷地遺跡出土土偶 足の裏と頭部穿孔 …………… 304
第4図	製作実験による破損例 …………… 305
第5図	谷地遺跡出土土偶 色違い接合例 …………… 306
第6図	谷地遺跡出土土偶 焼成中の破裂例 …………… 307

第7図	谷地遺跡土偶の大きさ設定 (128 個体) …………… 308
第8図	親指大土偶 製作単位模式図 …………… 308
第9図	拳大土偶 製作単位模式図 …………… 309
第10図	掌大土偶 A 製作単位模式図 …………… 309
第11図	掌大土偶 B 製作単位模式図 …………… 310
第12図	足大土偶 製作単位模式図 …………… 310
第13図	製作単位を繋ぐ軸棒の位置 …………… 311
第14図	谷地遺跡出土土偶 脚部施文 (沈線・半截竹管・刺突) …………… 311
第15図	谷地遺跡出土土偶 頭部 …………… 312
第16図	谷地遺跡出土土偶 腹部 (1) …………… 313
第17図	谷地遺跡出土土偶 腹部 (2) …………… 314
第18図	谷地遺跡出土土偶 臀部 (1) …………… 315
第19図	谷地遺跡出土土偶 臀部 (2) …………… 316
第20図	谷地遺跡出土土偶 胸部表現 (1) …………… 317
第21図	谷地遺跡出土土偶 胸部表現 (2) …………… 318

(第5章 第10節)	
第1図	遺構の時期別構成 …………… 323
第2図	遺構集成図 (1) 竪穴住居跡・竪穴状遺構・掘立柱建物跡 B …………… 325
第3図	遺構集成図 (2) 掘立柱建物跡 A・C …………… 326
第4図	建物遺構の規模 …………… 327
第5図	遺構集成図 (3) フラスコ状土坑の形態と付属施設 …………… 328
第6図	フラスコ状土坑・土坑の規模 …………… 330
第7図	フラスコ状土坑の時期別容量分布 …………… 330
第8図	遺構集成図 (4) フラスコ状土坑の埋没パターン (1) …………… 332
第9図	遺構集成図 (5) フラスコ状土坑の埋没パターン (2) …………… 333
第10図	遺構種別遺物出土状況 …………… 334
第11図	主要遺構種別遺物分布密度 …………… 335
第12図	谷地遺跡の立地と周辺の縄文時代遺跡 …………… 337
第13図	遺構配置の変遷 (1) …………… 338
第14図	遺構配置の変遷 (2) …………… 339
第15図	遺構配置の変遷 (3) …………… 340
第16図	抛点的集落跡の遺構配置 …………… 341
第17図	谷地・寺門前遺跡全体図 …………… 342
第18図	フラスコ状土坑の時期別組成 …………… 343
第19図	縄文土器の時期別組成 …………… 343

(第5章 第11節)	
第1図	東北地方南部における縄文時代中期前半の 主要遺跡・石材原産地の分布と地域区分 …………… 346
第2図	蔵王山麓における縄文時代中期前半 (大木 7a ～ 8a 式期) の遺跡分布 …………… 347
第3図	谷地遺跡出土土器の時期別組成 …………… 348
第4図	材料資源と異系統土器の搬入経路 …………… 351
第5図	蔵王山麓周辺における地域的遺物の分布 (試案) …………… 352

(第5章 第12節)	
第1図	谷地遺跡の暦年較正年代 …………… 354

表目次

第1分冊	調査記録編	
第1-1表	周辺の遺跡 (1) ……………	20
第1-2表	周辺の遺跡 (2) ……………	21
第2表	発掘調査の工程と経過 ……………	27
第3表	室内整理の工程と経過 ……………	37
第4表	基本層序一覧 ……………	41
第5表	確認遺構一覧 ……………	45

第6表	出土遺物一覧	46
第7表	時期区分と縄文土器の分類	48
第8表	石器石材分類表	109
第9表	礫石器石材分類表	121
第10表	石製品石材分類表	125

第2分冊 分析・考察編

(第4章 第2節)

第1表	フラスコ状土坑の堆積物の特性(重量%)	5
第2表	フラスコ状土坑から出現した花粉化石	6

(第4章 第3節)

第1表	炭化材同定結果	10
第2表	樹種別個数	11
第3表	遺構種類毎樹種出土数	11
第4表	選別済み炭化種実試料	13
第5表	土壌水洗試料出土炭化種実	13
第6表	遺構種類毎炭化種実出土状況	14

(第4章 第4節)

第1-1表	土器・土製品の種実圧痕レプリカ(1)	20
第1-2表	土器・土製品の種実圧痕レプリカ(2)	21
第1-3表	土器・土製品の種実圧痕レプリカ(3)	22
第1-4表	土器・土製品の種実圧痕レプリカ(4)	23

(第4章 第5節)

第1表	検出動物群類一覧	41
第2-1表	骨同定結果(1)	42
第2-2表	骨同定結果(2)	43
第2-3表	骨同定結果(3)	44
第2-4表	骨同定結果(4)	45
第2-5表	骨同定結果(5)	46
第3-1表	地点別・種類別の出現傾向(1)	54
第3-2表	地点別・種類別の出現傾向(2)	55
第4-1表	試料別骨同定結果(1)	59
第4-2表	試料別骨同定結果(2)	60
第4-3表	試料別骨同定結果(3)	61
第4-4表	試料別骨同定結果(4)	62
第4-5表	試料別骨同定結果(5)	63
第4-6表	試料別骨同定結果(6)	64
第4-7表	試料別骨同定結果(7)	65
第4-8表	試料別骨同定結果(8)	66
第4-9表	試料別骨同定結果(9)	67
第4-10表	試料別骨同定結果(10)	68

(第4章 第6節)

第1表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)	71
第2表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年校正用 ^{14}C 年代, 較正年代)	71

(第4章 第7節)

第1表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)	77
第2-1表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年校正用 ^{14}C 年代, 較正年代)(1)	78
第2-2表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年校正用 ^{14}C 年代, 較正年代)(2)	79

(第4章 第8節)

第1表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 補正值)	87
第2-1表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年校正用 ^{14}C 年代, 較正年代)(1)	88
第2-2表	放射性炭素年代測定結果($\delta^{13}\text{C}$ 未補正值, 暦年校正用 ^{14}C 年代, 較正年代)(2)	89
第3表	炭素・窒素安定同位体比及び含有量	89

(第4章 第9節)

第1表	胎土分析試料とその詳細	97
第2表	胎土中の微化石類と砂粒物の特徴	100

第3表	土器胎土中の粘土および砂粒組成の特徴	101
第4表	岩石片の起源と組み合わせ	104
第5表	遺物と砂粒組成・粘土の種類	105

(第4章 第10節)

第1表	分析対象遺跡と分析試料の概要	119
第2表	黒曜石原産地の系列	121
第3表	各試料の指標値と原産地判定	124
第4表	谷地遺跡ほかの原産地推定結果	126

(第4章 第11節)

第1表	各試料の岩石肉眼鑑定結果と分析項目	137
第2表	X線回折分析による検出鉱物	139

(第4章 第12節)

第1表	ポータブル XRF 法による非破壊化学分析結果	154
-----	-------------------------	-----

(第5章 第1節)

第1表	遺構別出土土器集計表	156
第2表	主要な土器の出土状況	157

(第5章 第4節)

第1表	土器底部敷物圧痕の類型別出現頻度	221
第2表	土器底部敷物圧痕の観察表	228

(第5章 第5節)

第1表	石器の器種・石材組成	230
第2表	礫石器の器種・石材組成	233
第3表	磨石類の素材形態別表面痕跡出現頻度	235

(第5章 第6節)

第1表	谷地遺跡出土石器の使用痕	256
-----	--------------	-----

(第5章 第7節)

第1表	石製品の器種・石材組成	276
-----	-------------	-----

(第5章 第8節)

第1表	谷地遺跡出土土偶のサイズ別出土状況	292
第2表	谷地遺跡出土土偶のサイズ別部位残存状況	292

(第5章 第10節)

第1表	遺構の時期別構成	323
第2表	遺構の機能時期	324
第3表	フラスコ状土坑の類型別出現頻度	329
第4表	フラスコ状土坑の容量	330
第5表	遺構種別遺物出土状況	334
第6表	主要遺構種別遺物分布密度	335

第5分冊 遺構・遺物観察表編

遺構観察表

第1表	竪穴住居跡観察表	3
第2表	掘立柱建物跡 A 観察表	3
第3表	掘立柱建物跡 B 観察表	3
第4表	掘立柱建物跡 C 観察表	3
第5表	炉跡観察表	4
第6表	竪穴状遺構観察表	4
第7-1表	フラスコ状土坑観察表	5
第7-2表	フラスコ状土坑観察表	6
第8表	落とし穴状土坑観察表	7
第9-1表	土坑観察表	7
第9-2表	土坑観察表	8
第9-3表	土坑観察表	9
第9-4表	土坑観察表	10
第9-5表	土坑観察表	11
第9-6表	土坑観察表	12
第9-7表	土坑観察表	13
第9-8表	土坑観察表	14

第 9-9 表	土坑觀察表	15
第 10 表	溝跡觀察表	16
第 11 表	配石遺構觀察表	16
第 12 表	土器埋設遺構觀察表	17
第 13 表	遺物集中觀察表	17
第 14 表	石器集積觀察表	17
第 15 表	焼土集積觀察表	18
第 16 表	遺物包含層觀察表	18

遺物取上番号一覧表

第 17-1 表	土製遺物等取上番号一覧表	21
第 17-2 表	土製遺物等取上番号一覧表	22
第 17-3 表	土製遺物等取上番号一覧表	23
第 17-4 表	土製遺物等取上番号一覧表	24
第 18-1 表	石製遺物等取上番号一覧表	25
第 18-2 表	石製遺物等取上番号一覧表	26
第 18-3 表	石製遺物等取上番号一覧表	27
第 18-4 表	石製遺物等取上番号一覧表	28

遺物觀察表

第 19-1 表	縄文土器觀察表	31
第 19-2 表	縄文土器觀察表	32
第 19-3 表	縄文土器觀察表	33
第 19-4 表	縄文土器觀察表	34
第 19-5 表	縄文土器觀察表	35
第 19-6 表	縄文土器觀察表	36
第 19-7 表	縄文土器觀察表	37
第 19-8 表	縄文土器觀察表	38
第 19-9 表	縄文土器觀察表	39
第 19-10 表	縄文土器觀察表	40
第 19-11 表	縄文土器觀察表	41
第 19-12 表	縄文土器觀察表	42
第 19-13 表	縄文土器觀察表	43
第 19-14 表	縄文土器觀察表	44
第 19-15 表	縄文土器觀察表	45
第 19-16 表	縄文土器觀察表	46
第 19-17 表	縄文土器觀察表	47
第 19-18 表	縄文土器觀察表	48
第 19-19 表	縄文土器觀察表	49
第 19-20 表	縄文土器觀察表	50
第 19-21 表	縄文土器觀察表	51
第 19-22 表	縄文土器觀察表	52
第 19-23 表	縄文土器觀察表	53
第 19-24 表	縄文土器觀察表	54
第 19-25 表	縄文土器觀察表	55
第 19-26 表	縄文土器觀察表	56
第 19-27 表	縄文土器觀察表	57
第 19-28 表	縄文土器觀察表	58
第 19-29 表	縄文土器觀察表	59
第 19-30 表	縄文土器觀察表	60
第 19-31 表	縄文土器觀察表	61
第 19-32 表	縄文土器觀察表	62
第 19-33 表	縄文土器觀察表	63
第 19-34 表	縄文土器觀察表	64
第 19-35 表	縄文土器觀察表	65
第 19-36 表	縄文土器觀察表	66
第 19-37 表	縄文土器觀察表	67
第 19-38 表	縄文土器觀察表	68
第 19-39 表	縄文土器觀察表	69
第 19-40 表	縄文土器觀察表	70
第 19-41 表	縄文土器觀察表	71
第 19-42 表	縄文土器觀察表	72
第 19-43 表	縄文土器觀察表	73
第 19-44 表	縄文土器觀察表	74
第 19-45 表	縄文土器觀察表	75
第 19-46 表	縄文土器觀察表	76
第 19-47 表	縄文土器觀察表	77
第 19-48 表	縄文土器觀察表	78
第 19-49 表	縄文土器觀察表	79

第 19-50 表	縄文土器觀察表	80
第 19-51 表	縄文土器觀察表	81
第 19-52 表	縄文土器觀察表	82
第 19-53 表	縄文土器觀察表	83
第 19-54 表	縄文土器觀察表	84
第 19-55 表	縄文土器觀察表	85
第 19-56 表	縄文土器觀察表	86
第 19-57 表	縄文土器觀察表	87
第 19-58 表	縄文土器觀察表	88
第 19-59 表	縄文土器觀察表	89
第 19-60 表	縄文土器觀察表	90
第 19-61 表	縄文土器觀察表	91
第 19-62 表	縄文土器觀察表	92
第 19-63 表	縄文土器觀察表	93
第 19-64 表	縄文土器觀察表	94
第 19-65 表	縄文土器觀察表	95
第 19-66 表	縄文土器觀察表	96
第 19-67 表	縄文土器觀察表	97
第 19-68 表	縄文土器觀察表	98
第 19-69 表	縄文土器觀察表	99
第 19-70 表	縄文土器觀察表	100
第 19-71 表	縄文土器觀察表	101
第 19-72 表	縄文土器觀察表	102
第 19-73 表	縄文土器觀察表	103
第 19-74 表	縄文土器觀察表	104
第 19-75 表	縄文土器觀察表	105
第 19-76 表	縄文土器觀察表	106
第 19-77 表	縄文土器觀察表	107
第 19-78 表	縄文土器觀察表	108
第 19-79 表	縄文土器觀察表	109
第 19-80 表	縄文土器觀察表	110
第 19-81 表	縄文土器觀察表	111
第 19-82 表	縄文土器觀察表	112
第 19-83 表	縄文土器觀察表	113
第 19-84 表	縄文土器觀察表	114
第 19-85 表	縄文土器觀察表	115
第 19-86 表	縄文土器觀察表	116
第 19-87 表	縄文土器觀察表	117
第 19-88 表	縄文土器觀察表	118
第 19-89 表	縄文土器觀察表	119
第 19-90 表	縄文土器觀察表	120
第 19-91 表	縄文土器觀察表	121
第 19-92 表	縄文土器觀察表	122
第 19-93 表	縄文土器觀察表	123
第 19-94 表	縄文土器觀察表	124
第 19-95 表	縄文土器觀察表	125
第 19-96 表	縄文土器觀察表	126
第 19-97 表	縄文土器觀察表	127
第 19-98 表	縄文土器觀察表	128
第 19-99 表	縄文土器觀察表	129
第 20-1 表	土製品觀察表	130
第 20-2 表	土製品觀察表	131
第 20-3 表	土製品觀察表	132
第 20-4 表	土製品觀察表	133
第 20-5 表	土製品觀察表	134
第 20-6 表	土製品觀察表	135
第 20-7 表	土製品觀察表	136
第 20-8 表	土製品觀察表	137
第 20-9 表	土製品觀察表	138
第 20-10 表	土製品觀察表	139
第 20-11 表	土製品觀察表	140
第 21-1 表	焼成粘土塊觀察表	141
第 21-2 表	焼成粘土塊觀察表	142
第 21-3 表	焼成粘土塊觀察表	143
第 22-1 表	石器觀察表	144
第 22-2 表	石器觀察表	145
第 22-3 表	石器觀察表	146
第 22-4 表	石器觀察表	147
第 22-5 表	石器觀察表	148

第 22-6 表	石器観察表	149
第 22-7 表	石器観察表	150
第 22-8 表	石器観察表	151
第 22-9 表	石器観察表	152
第 22-10 表	石器観察表	153
第 22-11 表	石器観察表	154
第 22-12 表	石器観察表	155
第 22-13 表	石器観察表	156
第 22-14 表	石器観察表	157
第 22-15 表	石器観察表	158
第 22-16 表	石器観察表	159
第 22-17 表	石器観察表	160
第 22-18 表	石器観察表	161
第 22-19 表	石器観察表	162
第 22-20 表	石器観察表	163
第 22-21 表	石器観察表	164
第 22-22 表	石器観察表	165
第 22-23 表	石器観察表	166
第 22-24 表	石器観察表	167
第 22-25 表	石器観察表	168
第 22-26 表	石器観察表	169
第 22-27 表	石器観察表	170
第 22-28 表	石器観察表	171
第 22-29 表	石器観察表	172
第 22-30 表	石器観察表	173
第 22-31 表	石器観察表	174
第 22-32 表	石器観察表	175
第 22-33 表	石器観察表	176
第 22-34 表	石器観察表	177
第 22-35 表	石器観察表	178
第 22-36 表	石器観察表	179
第 22-37 表	石器観察表	180
第 22-38 表	石器観察表	181
第 22-39 表	石器観察表	182
第 22-40 表	石器観察表	183
第 22-41 表	石器観察表	184
第 23-1 表	石器接合資料観察表	185
第 23-2 表	石器接合資料観察表	186
第 23-3 表	石器接合資料観察表	187
第 24-1 表	礫石器観察表	188
第 24-2 表	礫石器観察表	189
第 24-3 表	礫石器観察表	190
第 24-4 表	礫石器観察表	191
第 24-5 表	礫石器観察表	192
第 24-6 表	礫石器観察表	193
第 24-7 表	礫石器観察表	194
第 24-8 表	礫石器観察表	195
第 24-9 表	礫石器観察表	196
第 24-10 表	礫石器観察表	197
第 24-11 表	礫石器観察表	198
第 24-12 表	礫石器観察表	199
第 24-13 表	礫石器観察表	200
第 24-14 表	礫石器観察表	201
第 25-1 表	石製品観察表	202
第 25-2 表	石製品観察表	203
第 25-3 表	石製品観察表	204

第 5 分冊 遺構・遺物観察表編（付表） ※デジタルデータ編

第 1-1 表	石器観察表	3
第 1-2 表	石器観察表	4
第 1-3 表	石器観察表	5
第 1-4 表	石器観察表	6
第 1-5 表	石器観察表	7
第 1-6 表	石器観察表	8
第 1-7 表	石器観察表	9
第 1-8 表	石器観察表	10
第 1-9 表	石器観察表	11
第 1-10 表	石器観察表	12

第 1-11 表	石器観察表	13
第 1-12 表	石器観察表	14
第 1-13 表	石器観察表	15
第 1-14 表	石器観察表	16
第 1-15 表	石器観察表	17
第 1-16 表	石器観察表	18
第 1-17 表	石器観察表	19
第 1-18 表	石器観察表	20
第 1-19 表	石器観察表	21
第 1-20 表	石器観察表	22
第 1-21 表	石器観察表	23
第 1-22 表	石器観察表	24
第 1-23 表	石器観察表	25
第 1-24 表	石器観察表	26
第 1-25 表	石器観察表	27
第 1-26 表	石器観察表	28
第 1-27 表	石器観察表	29
第 1-28 表	石器観察表	30
第 1-29 表	石器観察表	31
第 1-30 表	石器観察表	32
第 1-31 表	石器観察表	33
第 1-32 表	石器観察表	34
第 1-33 表	石器観察表	35
第 1-34 表	石器観察表	36
第 1-35 表	石器観察表	37
第 1-36 表	石器観察表	38
第 1-37 表	石器観察表	39
第 1-38 表	石器観察表	40
第 1-39 表	石器観察表	41
第 1-40 表	石器観察表	42
第 1-41 表	石器観察表	43
第 1-42 表	石器観察表	44
第 1-43 表	石器観察表	45
第 1-44 表	石器観察表	46
第 1-45 表	石器観察表	47
第 1-46 表	石器観察表	48
第 1-47 表	石器観察表	49
第 1-48 表	石器観察表	50
第 1-49 表	石器観察表	51
第 1-50 表	石器観察表	52
第 1-51 表	石器観察表	53
第 1-52 表	石器観察表	54
第 1-53 表	石器観察表	55
第 1-54 表	石器観察表	56
第 1-55 表	石器観察表	57
第 1-56 表	石器観察表	58
第 1-57 表	石器観察表	59
第 1-58 表	石器観察表	60
第 1-59 表	石器観察表	61
第 1-60 表	石器観察表	62
第 1-61 表	石器観察表	63
第 1-62 表	石器観察表	64
第 1-63 表	石器観察表	65
第 1-64 表	石器観察表	66
第 1-65 表	石器観察表	67
第 1-66 表	石器観察表	68
第 1-67 表	石器観察表	69
第 1-68 表	石器観察表	70
第 1-69 表	石器観察表	71
第 1-70 表	石器観察表	72
第 1-71 表	石器観察表	73
第 1-72 表	石器観察表	74
第 1-73 表	石器観察表	75
第 1-74 表	石器観察表	76
第 1-75 表	石器観察表	77
第 1-76 表	石器観察表	78
第 1-77 表	石器観察表	79
第 1-78 表	石器観察表	80
第 1-79 表	石器観察表	81

第 1-218 表	石器観察表	220
第 1-219 表	石器観察表	221
第 1-220 表	石器観察表	222
第 1-221 表	石器観察表	223
第 1-222 表	石器観察表	224
第 1-223 表	石器観察表	225
第 2-1 表	礫石器観察表	226
第 2-2 表	礫石器観察表	227
第 2-3 表	礫石器観察表	228
第 2-4 表	礫石器観察表	229
第 2-5 表	礫石器観察表	230
第 2-6 表	礫石器観察表	231
第 2-7 表	礫石器観察表	232
第 2-8 表	礫石器観察表	233
第 2-9 表	礫石器観察表	234
第 2-10 表	礫石器観察表	235
第 2-11 表	礫石器観察表	236
第 2-12 表	礫石器観察表	237
第 2-13 表	礫石器観察表	238
第 2-14 表	礫石器観察表	239
第 2-15 表	礫石器観察表	240
第 2-16 表	礫石器観察表	241
第 2-17 表	礫石器観察表	242
第 2-18 表	礫石器観察表	243
第 2-19 表	礫石器観察表	244
第 2-20 表	礫石器観察表	245
第 2-21 表	礫石器観察表	246
第 2-22 表	礫石器観察表	247
第 2-23 表	礫石器観察表	248
第 2-24 表	礫石器観察表	249
第 2-25 表	礫石器観察表	250
第 2-26 表	礫石器観察表	251
第 2-27 表	礫石器観察表	252
第 2-28 表	礫石器観察表	253
第 2-29 表	礫石器観察表	254
第 2-30 表	礫石器観察表	255
第 2-31 表	礫石器観察表	256
第 2-32 表	礫石器観察表	257
第 2-33 表	礫石器観察表	258
第 2-34 表	礫石器観察表	259
第 2-35 表	礫石器観察表	260
第 2-36 表	礫石器観察表	261
第 2-37 表	礫石器観察表	262
第 2-38 表	礫石器観察表	263
第 2-39 表	礫石器観察表	264
第 2-40 表	礫石器観察表	265
第 2-41 表	礫石器観察表	266
第 2-42 表	礫石器観察表	267
第 2-43 表	礫石器観察表	268
第 2-44 表	礫石器観察表	269
第 2-45 表	礫石器観察表	270
第 2-46 表	礫石器観察表	271
第 2-47 表	礫石器観察表	272
第 2-48 表	礫石器観察表	273
第 2-49 表	礫石器観察表	274
第 2-50 表	礫石器観察表	275
第 2-51 表	礫石器観察表	276
第 2-52 表	礫石器観察表	277
第 2-53 表	礫石器観察表	278
第 2-54 表	礫石器観察表	279
第 2-55 表	礫石器観察表	280
第 2-56 表	礫石器観察表	281
第 2-57 表	礫石器観察表	282
第 2-58 表	礫石器観察表	283
第 2-59 表	礫石器観察表	284
第 2-60 表	礫石器観察表	285
第 2-61 表	礫石器観察表	286
第 2-62 表	礫石器観察表	287
第 2-63 表	礫石器観察表	288

第 2-64 表	礫石器観察表	289
第 2-65 表	礫石器観察表	290
第 2-66 表	礫石器観察表	291
第 2-67 表	礫石器観察表	292
第 2-68 表	礫石器観察表	293
第 2-69 表	礫石器観察表	294
第 2-70 表	礫石器観察表	295
第 2-71 表	礫石器観察表	296
第 2-72 表	礫石器観察表	297
第 2-73 表	礫石器観察表	298

写真目次

第 1 分冊 調査記録編

写真 1	石器石材の分布調査 (1)	10
写真 2	石器石材の分布調査 (2)	11
写真 3	石器石材の分布調査 (3)	12

第 2 分冊 分析・考察編

(第 4 章 第 1 節)

写真 1	火山砂ブロックの検出状況	1
写真 2	スコリア (YT-A-002)	2

(第 4 章 第 2 節)

写真 1	花粉化石とプレパラートの状況	6
------	----------------	---

(第 4 章 第 3 節)

写真 1-1	炭化材の顕微鏡写真 (1)	15
写真 1-2	炭化材の顕微鏡写真 (2)	16
写真 2	炭化種実の顕微鏡写真	17

(第 4 章 第 4 節)

写真 1-1	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (1)	26
写真 1-2	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (2)	27
写真 1-3	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (3)	28
写真 1-4	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (4)	29
写真 1-5	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (5)	30
写真 1-6	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (6)	31
写真 1-7	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (7)	32
写真 1-8	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (8)	33
写真 1-9	種実・葉脈圧痕レプリカの走査型顕微鏡写真 (9)	34
写真 2-1	参考資料：現生種実標本の走査型顕微鏡写真 (1)	35
写真 2-2	参考資料：現生種実標本の走査型顕微鏡写真 (2)	36
写真 2-3	参考資料：現生種実標本の走査型顕微鏡写真 (3)	37
写真 2-4	参考資料：現生種実標本の走査型顕微鏡写真 (4)	38
写真 2-5	参考資料：現生種実標本の走査型顕微鏡写真 (5)	39

(第 4 章 第 5 節)

写真 1-1	出土骨 (1)	56
写真 1-2	出土骨 (2)	57
写真 1-3	出土骨 (3)	58

(第 4 章 第 6 節)

写真 1	測定資料 (焼骨)	69
------	-----------	----

(第 4 章 第 9 節)

写真 1-1	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (1)	111
写真 1-2	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (2)	112
写真 1-3	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (3)	113
写真 1-4	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (4)	114
写真 1-5	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (5)	115
写真 1-6	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (6)	116
写真 1-7	分析試料と胎土の偏光顕微鏡写真 (7)	117

(第 4 章 第 11 節)

写真 1-1	分析試料 (1)	145
--------	----------	-----

写真 1-2	分析試料 (2) ……………	146
写真 1-3	分析試料 (3) ……………	147
写真 2	磨製石斧 YT-S-1024 顕微鏡観察 ……………	148
写真 3	磨製石斧 YT-S-1025 顕微鏡観察 ……………	149
写真 4	磨製石斧 TM-028 顕微鏡観察 ……………	150
写真 5	磨製石斧 OX-073 顕微鏡観察 ……………	151

(第 5 章 第 3 節)

写真 1	土器外底面の灰白色付着物 ……………	209
写真 2	土器の乾燥・焼成事故と補修痕跡 (1) 焼成前・後の穿孔 ……………	210
写真 3	土器の乾燥・焼成事故と補修痕跡 (2) 焼成前の粘土貼付 ……………	211
写真 4	土器の焼成事故 (1) 強加熱による表面変化と軟化変形 ……………	214
写真 5	土器の焼成事故 (2) 焼成状態の異なる破片の接合 ……………	215
写真 6	土器の使用痕跡 (1) 煤状の炭化物付着 ……………	217
写真 7	土器の使用痕跡 (2) 焦げ付き・煮こぼれ状の炭化物付着 ……………	218
写真 8	土器の使用痕跡 (3) 口縁部・外底面の摩耗痕跡 ……………	219

(第 5 章 第 4 節)

写真 1	土器底部敷物圧痕と シリコン樹脂による陽像 (1) ……………	226
写真 2	土器底部敷物圧痕と シリコン樹脂による陽像 (2) ……………	227

図版目次

第 3 分冊 遺物図版編

図版 1	SI1 竪穴住居跡出土土器 (1) ……………	1
図版 2	SI1 竪穴住居跡出土土器 (2) ……………	2
図版 3	SI1 竪穴住居跡出土土器 (3) ……………	3
図版 4	SI1 竪穴住居跡出土土器 (4) ……………	4
図版 5	SI1 竪穴住居跡出土土器 (5) ……………	5
図版 6	SI1 竪穴住居跡出土土器 (6) ……………	6
図版 7	SI1 竪穴住居跡出土土器 (7) ……………	7
図版 8	SI1 竪穴住居跡出土土器 (8) ……………	8
図版 9	SI1 竪穴住居跡出土土器 (9) ……………	9
図版 10	SI1 竪穴住居跡出土土器 (10) ……………	10
図版 11	SI1 竪穴住居跡出土土器 (11), SI20 竪穴住居跡出土土器 (1) ……………	11
図版 12	SI20 竪穴住居跡出土土器 (2) ……………	12
図版 13	SI20 竪穴住居跡出土土器 (3) ……………	13
図版 14	SI20 竪穴住居跡出土土器 (4) ……………	14
図版 15	SI20 竪穴住居跡出土土器 (5) ……………	15
図版 16	SI20 竪穴住居跡出土土器 (6) ……………	16
図版 17	SI20 竪穴住居跡出土土器 (7) ……………	17
図版 18	SI20 竪穴住居跡出土土器 (8) ……………	18
図版 19	SI20 竪穴住居跡出土土器 (9) ……………	19
図版 20	SI22 竪穴住居跡出土土器 (1) ……………	20
図版 21	SI22 竪穴住居跡出土土器 (2) ……………	21
図版 22	SI22 竪穴住居跡出土土器 (3) ……………	22
図版 23	SI22 竪穴住居跡出土土器 (4) ……………	23
図版 24	SI22 竪穴住居跡出土土器 (5) ……………	24
図版 25	SI22 竪穴住居跡出土土器 (6) ……………	25
図版 26	SI22 竪穴住居跡出土土器 (7) ……………	26
図版 27	SI22 竪穴住居跡出土土器 (8) ……………	27
図版 28	SB167・256 掘立柱建物跡出土土器 ……………	28
図版 29	SX372 ～ 377 炉跡出土土器, SB358・362 掘立柱建物跡出土土器 ……………	29
図版 30	SB611 掘立柱建物跡出土土器 (1) ……………	30
図版 31	SB611 掘立柱建物跡出土土器 (2) ……………	31

図版 32	SB611 掘立柱建物跡出土土器 (3) ……………	32
図版 33	SB741 掘立柱建物跡出土土器, SX733 炉跡出土土器, SB360・364・740 掘立柱建物跡出土土器 ……………	33
図版 34	SX2 竪穴状遺構出土土器 (1) ……………	34
図版 35	SX2 竪穴状遺構出土土器 (2) ……………	35
図版 36	SX2 竪穴状遺構出土土器 (3) ……………	36
図版 37	SX2 竪穴状遺構出土土器 (4) ……………	37
図版 38	SX2 竪穴状遺構出土土器 (5) ……………	38
図版 39	SX2 竪穴状遺構出土土器 (6) ……………	39
図版 40	SX2 竪穴状遺構出土土器 (7) ……………	40
図版 41	SX3 竪穴状遺構出土土器 (1) ……………	41
図版 42	SX3 竪穴状遺構出土土器 (2) ……………	42
図版 43	SX4 竪穴状遺構出土土器 (1) ……………	43
図版 44	SX4 竪穴状遺構出土土器 (2) ……………	44
図版 45	SX4 竪穴状遺構出土土器 (3) ……………	45
図版 46	SX4 竪穴状遺構出土土器 (4) ……………	46
図版 47	SX4 竪穴状遺構出土土器 (5), SX7 竪穴状遺構出土土器 (1) ……………	47
図版 48	SX7 竪穴状遺構出土土器 (2) ……………	48
図版 49	SX7 竪穴状遺構出土土器 (3) ……………	49
図版 50	SX7 竪穴状遺構出土土器 (4) ……………	50
図版 51	SX7 竪穴状遺構出土土器 (5), SX155 竪穴状遺構出土土器 (1) ……………	51
図版 52	SX155 竪穴状遺構出土土器 (2) ……………	52
図版 53	SX155 竪穴状遺構出土土器 (3) ……………	53
図版 54	SX510・622 竪穴状遺構出土土器, SX647 竪穴状遺構出土土器 (1) ……………	54
図版 55	SX647 竪穴状遺構出土土器 (2), SX1008・1018 竪穴状遺構出土土器 ……………	55
図版 56	SK28 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	56
図版 57	SK28 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK40 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	57
図版 58	SK40 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	58
図版 59	SK41 フラスコ状土坑出土土器, SK43 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	59
図版 60	SK43 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	60
図版 61	SK87 フラスコ状土坑出土土器, SK90 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	61
図版 62	SK90 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	62
図版 63	SK91・95・108 フラスコ状土坑出土土器 ……………	63
図版 64	SK116 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	64
図版 65	SK116 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	65
図版 66	SK123・126 フラスコ状土坑出土土器, SK133 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	66
図版 67	SK133 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK134 フラスコ状土坑出土土器 ……………	67
図版 68	SK191・196・206 フラスコ状土坑出土土器 ……………	68
図版 69	SK214・241・242・244・253 フラスコ状土坑 出土土器 ……………	69
図版 70	SK262・265 フラスコ状土坑出土土器 ……………	70
図版 71	SK266 フラスコ状土坑出土土器, SK267 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	71
図版 72	SK267 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK268 フラスコ状土坑出土土器 ……………	72
図版 73	SK274 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	73
図版 74	SK274 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK276 フラスコ状土坑出土土器 ……………	74
図版 75	SK280 フラスコ状土坑出土土器 ……………	75
図版 76	SK282 フラスコ状土坑出土土器, SK315 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	76
図版 77	SK315 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	77
図版 78	SK315 フラスコ状土坑出土土器 (3), SK317・321 フラスコ状土坑出土土器, SK508 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	78
図版 79	SK508 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	79
図版 80	SK508 フラスコ状土坑出土土器 (3) ……………	80
図版 81	SK508 フラスコ状土坑出土土器 (4), SK534 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	81
図版 82	SK534 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	82

図版 83	SK534 フラスコ状土坑出土土器 (3), SK606 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	83	図版 139	SK641・642・644 土坑出土土器 ……………	139
図版 84	SK606 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	84	図版 140	SK651 土坑出土土器 (1) ……………	140
図版 85	SK606 フラスコ状土坑出土土器 (3) ……………	85	図版 141	SK651 土坑出土土器 (2), SK654 土坑出土土器 (1) ……………	141
図版 86	SK606 フラスコ状土坑出土土器 (4) ……………	86	図版 142	SK654 土坑出土土器 (2), SK655 土坑出土土器 ……………	142
図版 87	SK612 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	87	図版 143	SK656 土坑出土土器 ……………	143
図版 88	SK612 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	88	図版 144	SK658・659 土坑出土土器 ……………	144
図版 89	SK612 フラスコ状土坑出土土器 (3), SK721 フラスコ状土坑出土土器 (1) ……………	89	図版 145	SK662 土坑出土土器 ……………	145
図版 90	SK721 フラスコ状土坑出土土器 (2) ……………	90	図版 146	SK664 土坑出土土器 (1) ……………	146
図版 91	SK721 フラスコ状土坑出土土器 (3) ……………	91	図版 147	SK664 土坑出土土器 (2) ……………	147
図版 92	SK721 フラスコ状土坑出土土器 (4) ……………	92	図版 148	SK664 土坑出土土器 (3), SK676・681・692 土坑出土土器 ……………	148
図版 93	SK721 フラスコ状土坑出土土器 (5), SK723・1006 フラスコ状土坑出土土器 ……………	93	図版 149	SK695・698・699・701 土坑出土土器, SK705 土坑出土土器 (1) ……………	149
図版 94	1 区南東隅土坑群 (フラスコ状土坑) 出土土器 ……………	94	図版 150	SK705 土坑出土土器 (2), SK710 土坑出土土器, SK713 土坑出土土器 (1) ……………	150
図版 95	SK583 落とし穴状土坑出土土器, SK12・31・36・37・38 土坑出土土器 ……………	95	図版 151	SK713 土坑出土土器 (2), SK722・724・725 土坑出土土器 ……………	151
図版 96	SK44・45・47・51・54 土坑出土土器 ……………	96	図版 152	SK726・735・738 土坑出土土器, SK1007 土坑出土土器 (1) ……………	152
図版 97	SK56・58 土坑出土土器 ……………	97	図版 153	SK1007 土坑出土土器 (2) ……………	153
図版 98	SK60・63・75・77・93・104 土坑出土土器, SK105 土坑出土土器 (1) ……………	98	図版 154	SK1007 土坑出土土器 (3) ……………	154
図版 99	SK105 土坑出土土器 (2), SK119・120・135・136・138・139・147 土坑 出土土器 ……………	99	図版 155	SK1014 土坑出土土器, SD5・16・21 溝跡出土土器 ……………	155
図版 100	SK148・151・153・154・158・159・162 土坑 出土土器 ……………	100	図版 156	SX739 配石遺構出土土器 (1) ……………	156
図版 101	SK171 土坑出土土器 ……………	101	図版 157	SX739 配石遺構出土土器 (2) ……………	157
図版 102	SK173・176・184・185・188・189 土坑出土土器 ……………	102	図版 158	SX180・215 土器埋設遺構出土土器 ……………	158
図版 103	SK190 土坑出土土器 (1) ……………	103	図版 159	SX271・288・319・322 土器埋設遺構出土土器 ……………	159
図版 104	SK190 土坑出土土器 (2), SK216 土坑出土土器 ……………	104	図版 160	SX342・584・630 土器埋設遺構出土土器, SX719 土器埋設遺構出土土器 (1) ……………	160
図版 105	SK218・237・239・252・255 土坑出土土器 ……………	105	図版 161	SX719 土器埋設遺構出土土器 (2) ……………	161
図版 106	SK258・260・263・270 土坑出土土器, SK303 土坑出土土器 (1) ……………	106	図版 162	SX719 土器埋設遺構出土土器 (3) ……………	162
図版 107	SK303 土坑出土土器 (2) ……………	107	図版 163	SX1001 土器埋設遺構出土土器, SX732 遺物集中出土土器 (1) ……………	163
図版 108	SK307・328・341・350・354 土坑出土土器 ……………	108	図版 164	SX732 遺物集中出土土器 (2) ……………	164
図版 109	SK359 土坑出土土器, SK403 土坑出土土器 (1) ……………	109	図版 165	SX732 遺物集中出土土器 (3) ……………	165
図版 110	SK403 土坑出土土器 (2), SK501 土坑出土土器 ……………	110	図版 166	SX732 遺物集中出土土器 (4) ……………	166
図版 111	SK506・509・511 土坑出土土器, SK512 土坑出土土器 (1) ……………	111	図版 167	SX192・202・209・402・582 焼土集積出土土器 ……………	167
図版 112	SK512 土坑出土土器 (2), SK513 土坑出土土器 ……………	112	図版 168	組み合わせない柱穴出土土器 (1) ……………	168
図版 113	SK514 土坑出土土器 ……………	113	図版 169	組み合わせない柱穴出土土器 (2) ……………	169
図版 114	SK516・517・518 土坑出土土器 ……………	114	図版 170	組み合わせない柱穴出土土器 (3) ……………	170
図版 115	SK519 土坑出土土器 (1) ……………	115	図版 171	組み合わせない柱穴出土土器 (4) ……………	171
図版 116	SK519 土坑出土土器 (2), SK521 土坑出土土器 ……………	116	図版 172	組み合わせない柱穴出土土器 (5) ……………	172
図版 117	SK522 土坑出土土器 ……………	117	図版 173	SX14 遺物包含層出土土器 (1) ……………	173
図版 118	SK523 土坑出土土器, SK524 土坑出土土器 (1) ……………	118	図版 174	SX14 遺物包含層出土土器 (2) ……………	174
図版 119	SK524 土坑出土土器 (2) ……………	119	図版 175	SX14 遺物包含層出土土器 (3) ……………	175
図版 120	SK524 土坑出土土器 (3) ……………	120	図版 176	SX14 遺物包含層出土土器 (4) ……………	176
図版 121	SK524 土坑出土土器 (4) ……………	121	図版 177	SX14 遺物包含層出土土器 (5) ……………	177
図版 122	SK524 土坑出土土器 (5), SK525 土坑出土土器 (1) ……………	122	図版 178	SX17 遺物包含層出土土器 (1) ……………	178
図版 123	SK525 土坑出土土器 (2) ……………	123	図版 179	SX17 遺物包含層出土土器 (2) ……………	179
図版 124	SK525 土坑出土土器 (3), SK527 土坑出土土器 ……………	124	図版 180	SX17 遺物包含層出土土器 (3) ……………	180
図版 125	SK528・529・536・537・543 土坑出土土器 ……………	125	図版 181	SX17 遺物包含層出土土器 (4) ……………	181
図版 126	SK546 土坑出土土器, SK550 土坑出土土器 (1) ……………	126	図版 182	SX17 遺物包含層出土土器 (5) ……………	182
図版 127	SK550 土坑出土土器 (2), SK552 土坑出土土器, SK554 土坑出土土器 (1) ……………	127	図版 183	SX17 遺物包含層出土土器 (6), SX290 遺物包含層出土土器 ……………	183
図版 128	SK554 土坑出土土器 (2), SK556・565・566・567・570 土坑出土土器 ……………	128	図版 184	SX361 遺物包含層出土土器 (1) ……………	184
図版 129	SK573・574・576 土坑出土土器 ……………	129	図版 185	SX361 遺物包含層出土土器 (2) ……………	185
図版 130	SK580・585・587・590 土坑出土土器 ……………	130	図版 186	SX361 遺物包含層出土土器 (3), SX608 遺物包含層出土土器 (1) ……………	186
図版 131	SK591 土坑出土土器 ……………	131	図版 187	SX608 遺物包含層出土土器 (2) ……………	187
図版 132	SK598・600 土坑出土土器 ……………	132	図版 188	SX608 遺物包含層出土土器 (3) ……………	188
図版 133	SK602 土坑出土土器, SK609 土坑出土土器 (1) ……………	133	図版 189	SX608 遺物包含層出土土器 (4) ……………	189
図版 134	SK609 土坑出土土器 (2) ……………	134	図版 190	SX610 遺物包含層出土土器 (1) ……………	190
図版 135	SK609 土坑出土土器 (3), SK613 土坑出土土器 ……………	135	図版 191	SX610 遺物包含層出土土器 (2) ……………	191
図版 136	SK614 土坑出土土器 ……………	136	図版 192	SX610 遺物包含層出土土器 (3) ……………	192
図版 137	SK619・623・628・633・634 土坑出土土器 ……………	137	図版 193	SX610 遺物包含層出土土器 (4) ……………	193
図版 138	SK640 土坑出土土器 ……………	138	図版 194	SX610 遺物包含層出土土器 (5) ……………	194
			図版 195	SX610 遺物包含層出土土器 (6) ……………	195
			図版 196	SX610 遺物包含層出土土器 (7) ……………	196
			図版 197	SX610 遺物包含層出土土器 (8) ……………	197

図版 198	SX610 遺物包含層出土土器 (9)	198
図版 199	SX610 遺物包含層出土土器 (10)	199
図版 200	SX610 遺物包含層出土土器 (11)	200
図版 201	SX610 遺物包含層出土土器 (12)	201
図版 202	SX610 遺物包含層出土土器 (13)	202
図版 203	SX666 遺物包含層出土土器 (1)	203
図版 204	SX666 遺物包含層出土土器 (2)	204
図版 205	SX717 遺物包含層出土土器 (1)	205
図版 206	SX717 遺物包含層出土土器 (2)	206
図版 207	SX717 遺物包含層出土土器 (3)	207
図版 208	SX717 遺物包含層出土土器 (4)	208
図版 209	SX717 遺物包含層出土土器 (5)	209
図版 210	SX717 遺物包含層出土土器 (6)	210
図版 211	SX717 遺物包含層出土土器 (7)	211
図版 212	SX717 遺物包含層出土土器 (8)	212
図版 213	SX717 遺物包含層出土土器 (9)	213
図版 214	SX717 遺物包含層出土土器 (10)	214
図版 215	SX717 遺物包含層出土土器 (11)	215
図版 216	SX717 遺物包含層出土土器 (12)	216
図版 217	SX717 遺物包含層出土土器 (13)	217
図版 218	SX717 遺物包含層出土土器 (14)	218
図版 219	SX717 遺物包含層出土土器 (15)	219
図版 220	SX717 遺物包含層出土土器 (16)	220
図版 221	SX717 遺物包含層出土土器 (17)	221
図版 222	SX717 遺物包含層出土土器 (18)	222
図版 223	SX717 遺物包含層出土土器 (19)	223
図版 224	SX717 遺物包含層出土土器 (20)	224
図版 225	SX717 遺物包含層出土土器 (21)	225
図版 226	SX717 遺物包含層出土土器 (22)	226
図版 227	SX717 遺物包含層出土土器 (23)	227
図版 228	SX717 遺物包含層出土土器 (24)	228
図版 229	SX717 遺物包含層出土土器 (25)	229
図版 230	SX717 遺物包含層出土土器 (26)	230
図版 231	SX717 遺物包含層出土土器 (27)	231
図版 232	SX717 遺物包含層出土土器 (28)	232
図版 233	SX717 遺物包含層出土土器 (29)	233
図版 234	SX717 遺物包含層出土土器 (30)	234
図版 235	SX717 遺物包含層出土土器 (31)	235
図版 236	SX717 遺物包含層出土土器 (32)	236
図版 237	SX717 遺物包含層出土土器 (33)	237
図版 238	SX717 遺物包含層出土土器 (34)	238
図版 239	SX717 遺物包含層出土土器 (35)	239
図版 240	SX717 遺物包含層出土土器 (36)	240
図版 241	SX717 遺物包含層出土土器 (37)	241
図版 242	SX717 遺物包含層出土土器 (38)	242
図版 243	SX717 遺物包含層出土土器 (39)	243
図版 244	遺構外出土土器 (1)	244
図版 245	遺構外出土土器 (2)	245
図版 246	遺構外出土土器 (3)	246
図版 247	遺構外出土土器 (4)	247
図版 248	遺構外出土土器 (5)	248
図版 249	遺構外出土土器 (6)	249
図版 250	遺構外出土土器 (7)	250
図版 251	遺構外出土土器 (8)	251
図版 252	遺構外出土土器 (9)	252
図版 253	遺構外出土土器 (10)	253
図版 254	遺構外出土土器 (11)	254
図版 255	遺構外出土土器 (12)	255
図版 256	遺構外出土土器 (13)	256
図版 257	遺構外出土土器 (14)	257
図版 258	遺構外出土土器 (15)	258
図版 259	遺構外出土土器 (16)	259
図版 260	遺構外出土土器 (17)	260
図版 261	遺構外出土土器 (18)	261
図版 262	遺構外出土土器 (19)	262
図版 263	遺構外出土土器 (20)	263
図版 264	遺構外出土土器 (21)	264
図版 265	遺構外出土土器 (22)	265
図版 266	遺構外出土土器 (23)	266

図版 267	遺構外出土土器 (24)	267
図版 268	遺構外出土土器 (25)	268
図版 269	遺構外出土土器 (26)	269
図版 270	遺構外出土土器 (27)	270
図版 271	遺構外出土土器 (28)	271
図版 272	遺構外出土土器 (29)	272
図版 273	遺構外出土土器 (30)	273
図版 274	遺構外出土土器 (31)	274
図版 275	遺構外出土土器 (32)	275
図版 276	SI1・20 竪穴住居跡出土土製品	276
図版 277	SI22 竪穴住居跡出土土製品 (1)	277
図版 278	SI22 竪穴住居跡出土土製品 (2)	278
図版 279	SB360・611 掘立柱建物跡出土土製品, SX2・4 竪穴状遺構出土土製品	279
図版 280	SX7・647 竪穴状遺構出土土製品, SK28・41・43 フラスコ状土坑出土土製品	280
図版 281	SK123・133・214・266・267・274 フラスコ状土坑 出土土製品	281
図版 282	SK315・534・612 フラスコ状土坑出土土製品, SK75・119・135・328 土坑出土土製品	282
図版 283	SK539・544・590・609・615・616・656・713・722 土坑 出土土製品, SD5・16・21 溝跡出土土製品	283
図版 284	SX195・402 焼土集積出土土製品, 組み合わせない柱穴出土土製品 (1)	284
図版 285	組み合わせない柱穴出土土製品 (2), SX14 遺物包含層出土土製品	285
図版 286	SX17・361 遺物包含層出土土製品	286
図版 287	SX610 遺物包含層出土土製品 (1)	287
図版 288	SX610 遺物包含層出土土製品 (2), SX717 遺物包含層出土土製品	288
図版 289	遺構外出土土製品 (1)	289
図版 290	遺構外出土土製品 (2)	290
図版 291	遺構外出土土製品 (3)	291
図版 292	遺構外出土土製品 (4)	292
図版 293	遺構外出土土製品 (5)	293
図版 294	遺構外出土土製品 (6)	294
図版 295	遺構外出土土製品 (7)	295
図版 296	遺構外出土土製品 (8)	296
図版 297	SI1 竪穴住居跡出土土器	297
図版 298	SI20 竪穴住居跡出土土器 (1)	298
図版 299	SI20 竪穴住居跡出土土器 (2)	299
図版 300	SI20 竪穴住居跡出土土器 (3), SI22 竪穴住居跡出土土器 (1)	300
図版 301	SI22 竪穴住居跡出土土器 (2)	301
図版 302	SI22 竪穴住居跡出土土器 (3)	302
図版 303	SI22 竪穴住居跡出土土器 (4)	303
図版 304	SI22 竪穴住居跡出土土器 (5)	304
図版 305	SI22 竪穴住居跡出土土器 (6)	305
図版 306	SB167・256・358・362 掘立柱建物跡出土土器, SX372～377 炉跡出土土器, SB611 掘立柱建物跡出土土器 (1)	306
図版 307	SB611 掘立柱建物跡出土土器 (2)	307
図版 308	SB611 掘立柱建物跡出土土器 (3)	308
図版 309	SX733 炉跡出土土器, SB360・740 掘立柱建物跡出土土器	309
図版 310	SX2・3 竪穴状遺構出土土器	310
図版 311	SX4 竪穴状遺構出土土器, SX7 竪穴状遺構出土土器 (1)	311
図版 312	SX7 竪穴状遺構出土土器 (2)	312
図版 313	SX7 竪穴状遺構出土土器 (3), SX155 竪穴状遺構出土土器	313
図版 314	SK28・41 フラスコ状土坑出土土器	314
図版 315	SK43・87・116・133・241・242・253 フラスコ状土坑 出土土器	315
図版 316	SK262・265・267 フラスコ状土坑出土土器, SK274 フラスコ状土坑出土土器 (1)	316
図版 317	SK274 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK276・292・315 フラスコ状土坑出土土器	317
図版 318	SK508・612・721 フラスコ状土坑出土土器	318

図版 319	1 区南東隅土坑群（フラスコ状土坑）出土石器	319
図版 320	SK583 落とし穴状土坑出土石器， SK47・63・147 土坑出土石器	320
図版 321	SK185・188・218・228・239・246 土坑出土石器	321
図版 322	SK252・255・261・263・269・303・307 土坑 出土石器	322
図版 323	SK357・403・501・511・514・516・519・522 土坑 出土石器	323
図版 324	SK524・543・585・587・600・609・614 土坑 出土石器	324
図版 325	SK616・663・643・651 土坑出土石器	325
図版 326	SK664・669・694・704・729・1009 土坑 出土石器	326
図版 327	SD5 溝跡出土石器（1）	327
図版 328	SD5 溝跡出土石器（2），SD16・21 溝跡出土石器	328
図版 329	SX739 配石遺構出土石器，SX732 遺物集中出土石器， SX137・144 石器集中出土石器， SX402 焼土集積出土石器，遺構外出土石器	329
図版 330	組み合わない柱穴出土石器（1）	330
図版 331	組み合わない柱穴出土石器（2）	331
図版 332	組み合わない柱穴出土石器（3）	332
図版 333	組み合わない柱穴出土石器（4）	333
図版 334	組み合わない柱穴出土石器（5）	334
図版 335	SX14 遺物包含層出土石器（1）	335
図版 336	SX14 遺物包含層出土石器（2）， SX17 遺物包含層出土石器（1）	336
図版 337	SX17 遺物包含層出土石器（2）	337
図版 338	SX17 遺物包含層出土石器（3）	338
図版 339	SX17 遺物包含層出土石器（4）	339
図版 340	SX17 遺物包含層出土石器（5）	340
図版 341	SX17 遺物包含層出土石器（6）	341
図版 342	SX290・353・361 遺物包含層出土石器， SX610 遺物包含層出土石器（1）	342
図版 343	SX610 遺物包含層出土石器（2）， SX666 遺物包含層出土石器	343
図版 344	SX717 遺物包含層出土石器（1）	344
図版 345	SX717 遺物包含層出土石器（2）	345
図版 346	SX717 遺物包含層出土石器（3）	346
図版 347	SX717 遺物包含層出土石器（4）	347
図版 348	遺構外出土石器（1）	348
図版 349	遺構外出土石器（2）	349
図版 350	遺構外出土石器（3）	350
図版 351	遺構外出土石器（4）	351
図版 352	遺構外出土石器（5）	352
図版 353	遺構外出土石器（6）	353
図版 354	遺構外出土石器（7）	354
図版 355	遺構外出土石器（8）	355
図版 356	遺構外出土石器（9）	356
図版 357	遺構外出土石器（10）	357
図版 358	遺構外出土石器（11）	358
図版 359	遺構外出土石器（12）	359
図版 360	遺構外出土石器（13）	360
図版 361	遺構外出土石器（14）	361
図版 362	遺構外出土石器（15）	362
図版 363	遺構外出土石器（16）	363
図版 364	遺構外出土石器（17）	364
図版 365	遺構外出土石器（18）	365
図版 366	遺構外出土石器（19）	366
図版 367	遺構外出土石器（20）	367
図版 368	遺構外出土石器（21）	368
図版 369	遺構外出土石器（22）	369
図版 370	遺構外出土石器（23）	370
図版 371	遺構外出土石器（24）	371
図版 372	遺構外出土石器（25）	372
図版 373	遺構外出土石器（26）	373
図版 374	SI1 竪穴住居跡出土礫石器（1）	374
図版 375	SI1 竪穴住居跡出土礫石器（2）， SI20 竪穴住居跡出土礫石器（1）	375
図版 376	SI20 竪穴住居跡出土礫石器（2）	376

図版 377	SI20 竪穴住居跡出土礫石器（3）， SI22 竪穴住居跡出土礫石器（1）	377
図版 378	SI22 竪穴住居跡出土礫石器（2）	378
図版 379	SI22 竪穴住居跡出土礫石器（3）	379
図版 380	SI22 竪穴住居跡出土礫石器（4）	380
図版 381	SX372 ～ 377 炉跡出土礫石器	381
図版 382	SB358・362 掘立柱建物跡出土礫石器	382
図版 383	SB611 掘立柱建物跡出土礫石器（1）	383
図版 384	SB611 掘立柱建物跡出土礫石器（2）	384
図版 385	SB611 掘立柱建物跡出土礫石器（3）， SX733 炉跡出土礫石器， SB740 掘立柱建物跡出土礫石器	385
図版 386	SX2 竪穴状遺構出土礫石器（1）	386
図版 387	SX2 竪穴状遺構出土礫石器（2）， SX3 竪穴状遺構出土礫石器（1）	387
図版 388	SX3 竪穴状遺構出土礫石器（2）， SX4 竪穴状遺構出土礫石器（1）	388
図版 389	SX4 竪穴状遺構出土礫石器（2）	389
図版 390	SX7 竪穴状遺構出土礫石器（1）	390
図版 391	SX7 竪穴状遺構出土礫石器（2）， SX155 竪穴状遺構出土礫石器	391
図版 392	SX622・647 竪穴状遺構出土礫石器	392
図版 393	SX1008・1018 竪穴状遺構出土礫石器	393
図版 394	SK28 フラスコ状土坑出土礫石器	394
図版 395	SK40 フラスコ状土坑出土礫石器（1）	395
図版 396	SK40 フラスコ状土坑出土礫石器（2）， SK87・90 フラスコ状土坑出土礫石器	396
図版 397	SK91 フラスコ状土坑出土礫石器	397
図版 398	SK95・108・126 フラスコ状土坑出土礫石器	398
図版 399	SK133・134・191・196 フラスコ状土坑 出土礫石器	399
図版 400	SK197・206・214 フラスコ状土坑出土礫石器	400
図版 401	SK241・244・253 フラスコ状土坑出土礫石器	401
図版 402	SK265 フラスコ状土坑出土礫石器， SK266 フラスコ状土坑出土礫石器（1）	402
図版 403	SK266 フラスコ状土坑出土礫石器（2）， SK267 フラスコ状土坑出土礫石器	403
図版 404	SK274・276 フラスコ状土坑出土礫石器	404
図版 405	SK280・315・317・508 フラスコ状土坑出土礫石器	405
図版 406	SK606・612 フラスコ状土坑出土礫石器	406
図版 407	SK721 フラスコ状土坑出土礫石器	407
図版 408	1 区南東隅土坑群（フラスコ状土坑）出土礫石器， SK583 落とし穴状土坑出土礫石器	408
図版 409	SK31・37 土坑出土礫石器	409
図版 410	SK44・63・75・79・121 土坑出土礫石器	410
図版 411	SK135・151 土坑出土礫石器	411
図版 412	SK154・176・189 土坑出土礫石器， SK190 土坑出土礫石器（1）	412
図版 413	SK190 土坑出土礫石器（2）， SK216 土坑出土礫石器	413
図版 414	SK224・239・261・272 土坑出土礫石器	414
図版 415	SK303・307 土坑出土礫石器	415
図版 416	SK326・600・609・614 土坑出土礫石器	416
図版 417	SK619・631・654 土坑出土礫石器	417
図版 418	SK683・694・724・735 土坑出土礫石器	418
図版 419	SX739 配石遺構出土礫石器（1）	419
図版 420	SX739 配石遺構出土礫石器（2）	420
図版 421	SX180・288 土器埋設遺構出土礫石器， SX17 遺物包含層出土礫石器	421
図版 422	SX732 遺物集中出土礫石器， SX582 焼土集積出土礫石器	422
図版 423	組み合わない柱穴出土礫石器（1）	423
図版 424	組み合わない柱穴出土礫石器（2）	424
図版 425	SX14 遺物包含層出土礫石器（1）	425
図版 426	SX14 遺物包含層出土礫石器（2）	426
図版 427	SX14 遺物包含層出土礫石器（3）， SX17 遺物包含層出土礫石器（1）	427
図版 428	SX17 遺物包含層出土礫石器（2）	428
図版 429	SX17 遺物包含層出土礫石器（3）	429

図版 430	SX361 遺物包含層出土礫石器	430
図版 431	SX608・610 遺物包含層出土礫石器	431
図版 432	SX717 遺物包含層出土礫石器 (1)	432
図版 433	SX717 遺物包含層出土礫石器 (2)	433
図版 434	SX717 遺物包含層出土礫石器 (3)	434
図版 435	遺構外出土礫石器 (1)	435
図版 436	遺構外出土礫石器 (2)	436
図版 437	遺構外出土礫石器 (3)	437
図版 438	遺構外出土礫石器 (4)	438
図版 439	遺構外出土礫石器 (5)	439
図版 440	遺構外出土礫石器 (6)	440
図版 441	遺構外出土礫石器 (7)	441
図版 442	遺構外出土礫石器 (8)	442
図版 443	遺構外出土礫石器 (9)	443
図版 444	遺構外出土礫石器 (10)	444
図版 445	遺構外出土礫石器 (11)	445
図版 446	遺構外出土礫石器 (12)	446
図版 447	遺構外出土礫石器 (13)	447
図版 448	遺構外出土礫石器 (14)	448
図版 449	遺構外出土礫石器 (15)	449
図版 450	SX2・4・7・1018 竪穴遺構出土石製品, SK28 フラスコ状土坑出土石製品	450
図版 451	SK40・72 フラスコ状土坑出土石製品, SK633 土坑出土石製品, SX717 遺物包含層出土石製品	451
図版 452	SK196・214・242 フラスコ状土坑出土石製品	452
図版 453	SK262・267 フラスコ状土坑出土石製品	453
図版 454	SK315・606 フラスコ状土坑出土石製品	454
図版 455	SK147・230・623・1014 土坑出土石製品, SX739 配石遺構出土石製品	455
図版 456	組み合わない柱穴出土石製品 (1)	456
図版 457	組み合わない柱穴出土石製品 (2)	457
図版 458	組み合わない柱穴出土石製品 (3), SX14 遺物包含層出土石製品	458
図版 459	SX17・610 遺物包含層出土石製品	459
図版 460	SX717 遺物包含層出土石製品	460
図版 461	遺構外出土石製品 (1)	461
図版 462	遺構外出土石製品 (2)	462
図版 463	遺構外出土石製品 (3)	463
図版 464	遺構外出土石製品 (4)	464
図版 465	遺構外出土石製品 (5)	465

写真図版目次

第1分冊 調査記録編

写真図版 1	1 遺構確認状況 1区 (南西から)
	2 遺構確認状況 1区南東部 (西から)
写真図版 2	1 遺構確認状況 2区 (南西から)
	2 遺構確認状況 2区 (北から)
写真図版 3	1 遺構確認状況 2区 (北東から)
	2 調査区全景 1・2区 (南から)
写真図版 4	1 調査区全景 1・2区 (北東から)
	2 調査区全景 1・2区 (南から)
写真図版 5	1 調査区全景 1区 (北東から)
	2 遺構確認状況 3区東部 (南から)
	3 遺構確認状況 3区南部 (北西から)
	4 遺構確認状況 3区西部 (南西から)
写真図版 6	1 土層断面 A (S21～S22, 北西から)
	2 土層断面 A (S22～S24, 北西から)
	3 土層断面 A (S24～S25, 北西から)
	4 土層断面 A (S25～S27, 北西から)
	5 土層断面 A (S27～S28, 北西から)
	6 土層断面 A (S28～S30, 北西から)
	7 土層断面 A (S30～S31, 北西から)
	8 土層断面 A (S31～S34, 北西から)
写真図版 7	1 土層断面 B1 (E15～E18, 南西から)

	2 土層断面 B1 (E18～E22, 南から)
	3 土層断面 B2 (E9～E12, 南西から)
	4 土層断面 B2 (E12～E15, 南西から)
	5 土層断面 B3 (E0～E3, 南西から)
	6 土層断面 B3 (E3～E7, 南西から)
	7 土層断面 B4 (W1～W3, 南西から)
	8 土層断面 C1 (S24～S28, 南東から)
写真図版 8	1 土層断面 C2 (S18～S22, 南東から)
	2 土層断面 D1 (E15～E19, 南西から)
	3 土層断面 D2 (S8～S14, 南東から)
	4 土層断面 E (W12～W16, 南西から)
	5 土層断面 E (W9～W12, 南西から)
	6 土層断面 E (W6～W9, 南西から)
	7 土層断面 E (W3～W6, 南西から)
	8 土層断面 E (W0～W3, 南西から)
写真図版 9	1 土層断面 F (N1～S3, 北西から)
	2 土層断面 F (S3～S6, 北西から)
	3 土層断面 F (S6～S9, 北西から)
	4 土層断面 F (S9～S12, 北西から)
	5 土層断面 F (S12～S15, 北西から)
	6 土層断面 F (S15～S18, 北西から)
	7 土層断面 F (S18, 北西から)
	8 土層断面 F (S18～S21, 北西から)
写真図版 10	1 土層断面 F (S21～S24, 北西から)
	2 土層断面 F (S24～S27, 北西から)
	3 土層断面 F (S27～S30, 北西から)
	4 土層断面 F (S30～S33, 北西から)
	5 土層断面 G (S51付近, 北東から)
	6 基本層Ⅱ d層 火山砂ブロック検出状況 (土層断面 F S12～15 南東側, 南西から)
	7 基本層Ⅱ d層 火山砂ブロック検出状況 (土層断面 F S12～15, 南東側, 南西から)
	8 基本層Ⅱ d層 火山砂ブロック検出状況 (土層断面 F S15～18 南東側, 南西から)
写真図版 11	1 基本層Ⅱ d層 火山砂ブロック検出状況 (土層断面 F S15～18 南東側, 南西から)
	2 基本層Ⅱ d層 火山砂ブロック堆積状況 (土層断面 E W11, 南西から)
	3 基本層Ⅱ d層 火山砂ブロック堆積状況 (土層断面 F S17, 北西から)
	4 基本層 掘削状況 (1区北部, 西から)
	5 基本層 掘削状況 (1区南部, 北東から)
	6 基本層 掘削状況 (2区北部, 南東から)
	7 基本層 掘削状況 (2区南東部, 南西から)
	8 基本層 掘削状況 (SK244・276・292, 南西から)
写真図版 12	1 SI1 竪穴住居跡 床面 確認状況 (東から)
	2 SI1 竪穴住居跡 基本層掘削状況 (東から)
	3 SI1 竪穴住居跡 A断面 (東から)
写真図版 13	1 SI1 竪穴住居跡 A断面南半部 (東から)
	2 SI1 竪穴住居跡 A断面北半部 (東から)
	3 SI1 竪穴住居跡 B断面 (南から)
	4 SI1 竪穴住居跡 B断面西半部 (南から)
	5 SI1 竪穴住居跡 B断面東半部 (南から)
写真図版 14	1 SI1 竪穴住居跡 赤色硬化範囲確認状況 (南東から)
	2 SI1 竪穴住居跡 A断面 (赤色硬化範囲, 東から)
	3 SI1 竪穴住居跡 A断面 (P1, 東から)
	4 SI1 竪穴住居跡 C断面 (P2, 南から)
	5 SI1 竪穴住居跡 D断面 (P3, 東から)
	6 SI1 竪穴住居跡 G断面 (P7, 南西から)
	7 SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (北西から)
	8 SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot16・49周辺, 南から)
写真図版 15	1 SI1 竪穴住居跡 確認状況 (南西から)
	2 SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (西から)
	3 SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (南西から)
写真図版 16	1 SI1 竪穴住居跡 赤色硬化範囲確認状況, 遺物出土状況 (Pot62, 南西から)
	2 SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot11)
	3 SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot13)
	4 SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot14)

	5	SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot16・49)		6	SI22 竪穴住居跡 2層 遺物出土状況 (D0009-a)
	6	SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot41・42, St120)		7	SI22 竪穴住居跡 遺物出土状況 (R0794・0795・0800・4417・4440・4461)
	7	SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot44)		8	SI22 竪穴住居跡 東半部掘削作業
写真図版 17	8	SI1 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot55・39)	写真図版 27	1	SB167 掘立柱建物跡 D断面 (P1, 北西から)
	1	SI1 竪穴住居跡 掘削作業		2	SB167 掘立柱建物跡 H断面 (P9, 南西から)
	2	SI1 竪穴住居跡 掘削作業		3	SX392・393・394 炉跡 C断面 (北から)
	3	SI20 竪穴住居跡 床面 確認状況 (南西から)		4	SB256 掘立柱建物跡 基本層掘削状況 (西から)
	4	SI20 竪穴住居跡 基本層掘削状況 (南西から)	写真図版 28	1	SB256 掘立柱建物跡 D断面 (P2, 北西から)
写真図版 18	1	SI20 竪穴住居跡 A断面北半部 (北西から)		2	SB256 掘立柱建物跡 E断面 (P3, 西から)
	2	SI20 竪穴住居跡 A断面南半部 (北西から)		3	SB256 掘立柱建物跡 G断面 (P6, 北から)
	3	SI20 竪穴住居跡 B断面東半部 (北東から)		4	SB256 掘立柱建物跡 H断面 (P7, 北東から)
	4	SI20 竪穴住居跡 B断面西半部 (北から)		5	SB363 掘立柱建物跡 M断面 (P8, 南東から)
	5	SI20 竪穴住居跡 赤色硬化範囲確認状況 (北から)		6	SB363 掘立柱建物跡 N断面 (P9, 南東から)
	6	SI20 竪穴住居跡 C断面 (赤色硬化範囲・P78・79, 南から)		7	SX372・373・374・375・377 炉跡 確認状況 (北東から)
写真図版 19	1	SI20 竪穴住居跡 C断面 (P78, 南から)	写真図版 29	1	SX372・373・374 炉跡 確認状況 (北東から)
	2	SI20 竪穴住居跡 C断面 (P79, 南から)		2	SX375・377 炉跡 確認状況 (北東から)
	3	SI20 竪穴住居跡 C断面 (P1, 北西から)		3	SB358 掘立柱建物跡 G断面 (P1, 東から)
	4	SI20 竪穴住居跡 J断面 (P6, 南東から)		4	SB358 掘立柱建物跡 H断面 (P3, 南から)
	5	SI20 竪穴住居跡 L断面 (P8, 北西から)		5	SB358 掘立柱建物跡 I断面 (P4, 南西から)
	6	SI20 竪穴住居跡 M断面 (P10・20, 西から)		6	SB358 掘立柱建物跡 J断面 (P5, 南東から)
	7	SI20 竪穴住居跡 N断面 (P13・21, 西から)		7	SB358 掘立柱建物跡 K断面 (P6, 南から)
	8	SI20 竪穴住居跡 O断面 (P14, 東から)		8	SB358 掘立柱建物跡 L断面 (P8, 西から)
写真図版 20	1	SI20 竪穴住居跡 T断面 (P22, 北西から)	写真図版 30	1	SB362 掘立柱建物跡 Q断面 (P3, 北から)
	2	SI20 竪穴住居跡 U断面 (P23, 南から)		2	SB362 掘立柱建物跡 R断面 (P4, 東から)
	3	SI20 竪穴住居跡 X断面 (P30・31, 南東から)		3	SB362 掘立柱建物跡 S断面 (P6, 西から)
	4	SI20 竪穴住居跡 Y断面 (P33・34, 南から)		4	SB362 掘立柱建物跡 V断面 (P9, 東から)
	5	SI20 竪穴住居跡 AC断面 (P43, 南西から)		5	SX294 炉跡 B・C断面 (北西から)
	6	SI20 竪穴住居跡 K5 完掘状況 (南東から)		6	SX294 炉跡 赤色硬化範囲確認状況 (東から)
	7	SI20 竪穴住居跡 骨片集中 確認状況		7	SX295 炉跡 D断面 (赤色硬化範囲, 南東から)
	8	SI20 竪穴住居跡 炭化材出土状況		8	SX295 炉跡 赤色硬化範囲確認状況 (南東から)
写真図版 21	1	SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot63・64)	写真図版 31	1	SX296 炉跡 赤色硬化範囲確認状況 (北から)
	2	SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot65)		2	SX296 炉跡 E断面 (北西から)
	3	SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (P0135)		3	SX296 炉跡 赤色硬化範囲確認状況 (北西から)
	4	SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot67)		4	SB611 掘立柱建物跡 床面 確認状況 (南西から)
	5	SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot68・69)	写真図版 32	1	SB611 掘立柱建物跡 床面 確認状況 (東から)
	6	SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (Pot72)		2	SB611 掘立柱建物跡 柱穴 完掘状況 (南から)
	7	SI20 竪穴住居跡 遺物出土状況 (D0007)		3	SB611 掘立柱建物跡 柱穴 完掘状況 (東から)
	8	SI20 竪穴住居跡 調査風景	写真図版 33	1	SB611 掘立柱建物跡 A断面南半部 (南東から)
写真図版 22	1	SI20 竪穴住居跡 検出作業 (Pot65)		2	SB611 掘立柱建物跡 A断面北半部 (南東から)
	2	SI20 竪穴住居跡 掘削作業		3	SB611 掘立柱建物跡 B断面西半部 (南西から)
	3	SI20 竪穴住居跡 調査風景		4	SB611 掘立柱建物跡 B断面東半部 (南西から)
	4	SI20 竪穴住居跡 調査風景		5	SB611 掘立柱建物跡 J断面 (P1c, 南西から)
	5	SI20 竪穴住居跡 調査風景		6	SB611 掘立柱建物跡 K断面 (P2abc, Pit1192, 北西から)
	6	SI20 竪穴住居跡 調査風景	写真図版 34	1	SB611 掘立柱建物跡 K断面 (P2bc, Pit1192, 北西から)
	7	SI20 竪穴住居跡 柱穴 掘削作業		2	SB611 掘立柱建物跡 L断面 (P2c, 北東から)
	8	SI20 竪穴住居跡 調査風景		3	SB611 掘立柱建物跡 M断面 (P3b, 南から)
写真図版 23	1	SI22 竪穴住居跡 床面 確認状況 (北西から)		4	SB611 掘立柱建物跡 N断面 (P3c, 南西から)
	2	SI22 竪穴住居跡 完掘状況 (北西から)		5	SB611 掘立柱建物跡 O断面 (P4bc, 南東から)
	3	SI22 竪穴住居跡 完掘状況 主柱穴位置 (北西から)		6	SB611 掘立柱建物跡 P断面 (P5b, 北西から)
写真図版 24	1	SI22 竪穴住居跡 西半部確認状況 (北から)		7	SB611 掘立柱建物跡 Q断面 (P5c, 南東から)
	2	SI22 竪穴住居跡 A断面 (南東から)		8	SB611 掘立柱建物跡 S断面 (P6bc, 北東から)
	3	SI22 竪穴住居跡 B断面東半部 (南西から)	写真図版 35	1	SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況
	4	SI22 竪穴住居跡 B断面西半部 (北東から)		2	SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況
	5	SI22 竪穴住居跡 火山砂ブロック堆積状況 (北東から)		3	SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況
	6	SI22 竪穴住居跡 赤色硬化範囲確認状況 (南東から)		4	SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況
写真図版 25	1	SI22 竪穴住居跡 D断面 (K1, 東から)		5	SB611 掘立柱建物跡 骨片出土状況
	2	SI22 竪穴住居跡 E断面 (K2, 南から)		6	SB611 掘立柱建物跡 遺物出土状況 (S1047)
	3	SI22 竪穴住居跡 F断面 (P1ab, 南東から)		7	SB611 掘立柱建物跡 清掃作業
	4	SI22 竪穴住居跡 H断面 (P4, 北東から)		8	SB611 掘立柱建物跡 調査風景
	5	SI22 竪穴住居跡 J断面 (P7, 南東から)	写真図版 36	1	SB741 掘立柱建物跡 完掘状況 (東から)
	6	SI22 竪穴住居跡 P7 完掘状況 (南東から)		2	SB741 掘立柱建物跡 D断面 (P1, 南西から)
	7	SI22 竪穴住居跡 P10 完掘状況 (南西から)		3	SB741 掘立柱建物跡, SX733 炉跡 清掃作業
	8	SI22 竪穴住居跡 L断面 (P11ab, 北東から)		4	SX733 炉跡 赤色硬化範囲確認状況 (東から)
写真図版 26	1	SI22 竪穴住居跡 M断面 (P12, 北東から)		5	SX733 炉跡 A断面 (赤色硬化範囲, 東から)
	2	SI22 竪穴住居跡 床面 遺物出土状況 (東から)		6	SX733 炉跡 B断面 (赤色硬化範囲, 東から)
	3	SI22 竪穴住居跡 床面 遺物出土状況 (北西から)	写真図版 37	1	SB360 掘立柱建物跡 B断面 (P2, 南西から)
	4	SI22 竪穴住居跡 3層 遺物出土状況 (P0205)		2	SB360 掘立柱建物跡 E断面 (P6, 南西から)
	5	SI22 竪穴住居跡 1層 遺物出土状況 (P0206)			

	3	SB364 掘立柱建物跡 B 断面 (P5, 北から)
	4	SB364 掘立柱建物跡 H 断面 (P14, 南西から)
	5	SB364 掘立柱建物跡 J 断面 (P17, 西から)
	6	SB366 掘立柱建物跡 A 断面 (P4, 北から)
	7	SB740 掘立柱建物跡 B 断面 (P3, 北西から)
	8	SB740 掘立柱建物跡 C 断面 (P6, 北から)
写真図版 38	1	SX2 竪穴状遺構 底面 西半部確認状況 (北西から)
	2	SX2 竪穴状遺構 A 断面 (南東から)
	3	SX2 竪穴状遺構 B 断面東半部 (北東から)
	4	SX2 竪穴状遺構 B 断面西半部 (北東から)
写真図版 39	1	SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (北西から)
	2	SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況
	3	SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況
	4	SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0356)
	5	SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0365)
	6	SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0366)
	7	SX2 竪穴状遺構 遺物出土状況 (D0050)
写真図版 40	1	SX3 竪穴状遺構 底面 確認状況 (南西から)
	2	SX3 竪穴状遺構 周辺遺構確認状況 (北西から)
	3	SX3 竪穴状遺構 A 断面南半部 (東から)
	4	SX3 竪穴状遺構 A 断面北半部 (南東から)
写真図版 41	1	SX3 竪穴状遺構 B 断面 (北東から)
	2	SX3 竪穴状遺構 遺物出土状況 (南西から)
	3	SX3 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0403)
	4	SX3 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0405・2024)
	5	SX3 竪穴状遺構 清掃作業
	6	SX4 竪穴状遺構 底面 確認状況 (南西から)
写真図版 42	1	SX4 竪穴状遺構 赤色硬化範囲確認状況 (南西から)
	2	SX4 竪穴状遺構 D 断面 (K1, 南西から)
	3	SX4 竪穴状遺構 A 断面 (南東から)
	4	SX4 竪穴状遺構 B 断面 (北東から)
	5	SX4 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0416)
	6	SX4 竪穴状遺構 遺物出土状況 (P0408)
写真図版 43	1	SX7 竪穴状遺構 完掘状況 (南から)
	2	SX7 竪穴状遺構 A 断面 (北西から)
	3	SX7 竪穴状遺構 A 断面南半部 (北西から)
	4	SX7 竪穴状遺構 A 断面北半部 (北西から)
写真図版 44	1	SX7 竪穴状遺構 B 断面 (北東から)
	2	SX7 竪穴状遺構 B 断面東半部 (北東から)
	3	SX7 竪穴状遺構 B 断面西半部 (北東から)
写真図版 45	1	SX155 竪穴状遺構 完掘状況 (南西から)
	2	SX155 竪穴状遺構 A 断面 (南東から)
	3	SX155 竪穴状遺構 B 断面西半部 (南西から)
	4	SX155 竪穴状遺構 B 断面東半部 (南西から)
写真図版 46	1	SX510 竪穴状遺構 完掘状況 (南東から)
	2	SX510 竪穴状遺構 遺物出土状況 (Pot506, St653)
	3	SX510 竪穴状遺構 遺物出土状況 (Pot506)
	4	SX510 竪穴状遺構 遺物出土状況 (Pot522)
	5	SX622 竪穴状遺構 底面 確認状況 (北東から)
	6	SX622 竪穴状遺構 A 断面 (北東から)
	7	SX647 竪穴状遺構 完掘状況 (東から)
写真図版 47	1	SX647 竪穴状遺構 A 断面東半部 (北東から)
	2	SX647 竪穴状遺構 A 断面西半部 (北東から)
	3	SX647 竪穴状遺構 B 断面 (南東から)
写真図版 48	1	SX1008 竪穴状遺構 完掘状況 (南から)
	2	SX1018 竪穴状遺構 A 断面 (北西から)
	3	SX1018 竪穴状遺構 B 断面 (赤色硬化範囲, 北から)
	4	SX1018 竪穴状遺構 底面 赤色硬化範囲確認状況 (南西から)
	5	SX1018 竪穴状遺構 掘削作業
写真図版 49	1	SK28 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況, SK147・148 土坑 完掘状況 (南東から)
	2	SK28 フラスコ状土坑, SK147 土坑 A 断面 (南西から)
	3	SK28 フラスコ状土坑, SK147・148 土坑 B 断面 (北西から)
写真図版 50	1	SK28 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (St163～168, 北から)
	2	SK28 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (St163・164)

	3	SK28 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (St163)
	4	SK40 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)
	5	SK40 フラスコ状土坑 A 断面 (東から)
	6	SK40 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (P0823, 東から)
	7	SK40 フラスコ状土坑 掘削作業
	8	SK72 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Q0002)
写真図版 51	1	SK41 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)
	2	SK41 フラスコ状土坑 A 断面 (北東から)
	3	SK41 フラスコ状土坑 A 断面 (北から)
	4	SK43 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)
	5	SK43 フラスコ状土坑, Pit430 柱穴 A 断面 (西から)
	6	SK43 フラスコ状土坑 掘削作業
	7	SK72 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)
	8	SK72 フラスコ状土坑 A 断面 (東から)
写真図版 52	1	SK87 フラスコ状土坑 完掘状況 (南東から)
	2	SK87 フラスコ状土坑 A 断面 (南から)
	3	SK87 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (南から)
	4	SK90 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)
	5	SK90 フラスコ状土坑 A 断面 (北東から)
	6	SK90 フラスコ状土坑 B 断面 (底面 Pit, 北東から)
	7	SK90 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (P0877, 西から)
	8	SK91 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)
写真図版 53	1	SK91 フラスコ状土坑 A 断面 (東から)
	2	SK91 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (北東から)
	3	SK95・108 フラスコ状土坑 完掘状況 (南西から)
	4	SK95 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)
	5	SK95 フラスコ状土坑 A 断面 (北東から)
写真図版 54	1	SK108 フラスコ状土坑 A 断面 (南西から)
	2	SK108 フラスコ状土坑 掘削作業
	3	SK116 フラスコ状土坑 完掘状況 (南東から)
	4	SK116 フラスコ状土坑 A 断面 (南東から)
	5	SK116 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (北西から)
	6	SK116 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (Pot122)
	7	SK116 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (Pot123)
	8	SK122・123・134 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)
写真図版 55	1	SK122・123 フラスコ状土坑 完掘状況 (南東から)
	2	SK122・123 フラスコ状土坑 A 断面 (南西から)
	3	SK123 フラスコ状土坑 B 断面 (北西から)
	4	SK123 フラスコ状土坑 B 断面 (北から)
	5	SK122・134 フラスコ状土坑 C 断面 (南西から)
写真図版 56	1	SK126 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)
	2	SK126 フラスコ状土坑 A 断面 (北西から)
	3	SK126 フラスコ状土坑 遺物出土状況 (P0936, 南西から)
	4	SK126 フラスコ状土坑 掘削作業
	5	SK133 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)
	6	SK133 フラスコ状土坑 完掘状況 (北東から)
	7	SK133 フラスコ状土坑 A 断面 (北東から)
	8	SK133 フラスコ状土坑 底面 Pit・放射状小溝確認状況 (北から)
写真図版 57	1	SK133 フラスコ状土坑 底面 Pit 断面 (北から)
	2	SK191 フラスコ状土坑 完掘状況 (北から)
	3	SK191 フラスコ状土坑 A 断面 (北から)
	4	SK191 フラスコ状土坑 A 断面 (北西から)
	5	SK196・197 フラスコ状土坑 完掘状況 (東から)
写真図版 58	1	SK196・197 フラスコ状土坑 A 断面 (北から)
	2	SK196 フラスコ状土坑 A 断面 (東から)
	3	SK197 フラスコ状土坑 A 断面 (東から)
	4	SK196 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (東から)
	5	SK196 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況 (P1007, 東から)
写真図版 59	1	SK206・214 フラスコ状土坑 完掘状況 (西から)
	2	SK206・214 フラスコ状土坑 A 断面 (西から)
	3	SK206・214 フラスコ状土坑 A 断面 (南西から)
写真図版 60	1	SK222 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)
	2	SK222 フラスコ状土坑 A 断面 (北から)
	3	SK222 フラスコ状土坑 A 断面 (北西から)
	4	SK241 フラスコ状土坑 完掘状況 (北西から)
	5	SK241 フラスコ状土坑 A 断面 (北西から)
	6	SK241 フラスコ状土坑 A 断面 (北から)

写真図版 61	1	SK242・244・276・292 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）	写真図版 70	3	SK534 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（北西から）
	2	SK242 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）		4	SK534 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（P0716・1231・1234, 北西から）
	3	SK242 フラスコ状土坑 A 断面（北東から）		5	SK592 フラスコ状土坑 完掘状況（北東から）
	4	SK242 フラスコ状土坑 A 断面（北から）		1	SK592 フラスコ状土坑 完掘状況（北東から）
	5	SK244 フラスコ状土坑 完掘状況（北東から）		2	SK592 フラスコ状土坑 A 断面（北東から）
写真図版 62	1	SK244 フラスコ状土坑 B 断面（北東から）	写真図版 71	3	SK592 フラスコ状土坑 A 断面（北東から）
	2	SK244 フラスコ状土坑 B 断面（北から）		4	SK606 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）
	3	SK276 フラスコ状土坑 完掘状況（東から）		1	SK606 フラスコ状土坑 4 層 火山砂ブロック堆積状況（南西から）
	4	SK276 フラスコ状土坑 C 断面（南東から）		2	SK606 フラスコ状土坑 底面 Pit 完掘状況（北東から）
	5	SK292 フラスコ状土坑 完掘状況（北東から）		3	SK606 フラスコ状土坑 遺物出土状況（Pot542～546, 南西から）
写真図版 63	6	SK292 フラスコ状土坑 D 断面（北東から）	写真図版 72	4	SK606 フラスコ状土坑 遺物出土状況（Pot542～546, 東から）
	7	SK253 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）		1	SK606 フラスコ状土坑 遺物出土状況（Pot542・543, 東から）
	8	SK253 フラスコ状土坑 底面 Pit 完掘状況（西から）		2	SK606 フラスコ状土坑 遺物出土状況（Pot545・546, P1320）
	2	SK253 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）		3	SK606 フラスコ状土坑 遺物取り上げ作業
	3	SK253 フラスコ状土坑 A 断面（西から）		4	SK508・612 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）
写真図版 64	4	SK262 フラスコ状土坑 完掘状況（北西から）	写真図版 73	5	SK612 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）
	5	SK262 フラスコ状土坑 完掘状況（南から）		1	SK612 フラスコ状土坑 A 断面（北西から）
	6	SK262 フラスコ状土坑 A 断面（北西から）		2	SK612 フラスコ状土坑 A 断面（西から）
	7	SK262 フラスコ状土坑 A 断面（西から）		3	SK612 フラスコ状土坑 B 断面（底面 Pit, 北西から）
	8	SK262 フラスコ状土坑 掘削作業		4	SK612 フラスコ状土坑 遺物出土状況（P1367）
写真図版 65	1	SK265 フラスコ状土坑 完掘状況（南東から）	写真図版 74	5	SK721 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）
	2	SK265 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）		1	SK721 フラスコ状土坑 完掘状況（北西から）
	3	SK265 フラスコ状土坑 A 断面（南から）		2	SK721 フラスコ状土坑 A 断面（南東から）
	4	SK265 フラスコ状土坑 遺物出土状況（南から）		3	SK721 フラスコ状土坑 遺物出土状況（P1473）
	5	SK266 フラスコ状土坑 完掘状況（南から）		4	SK721 フラスコ状土坑 調査風景
写真図版 66	6	SK267・268 フラスコ状土坑 完掘状況（南西から）	写真図版 75	1	SK721 フラスコ状土坑 清掃作業
	7	SK268 フラスコ状土坑 完掘状況（南西から）		2	SK723 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）
	8	SK267・268 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）		3	SK723 フラスコ状土坑 調査風景
	1	SK268 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）		4	SK723 フラスコ状土坑 断面実測作業
	2	SK274 フラスコ状土坑 完掘状況（西から）		5	1 区南東隅土坑群（フラスコ状土坑） 完掘状況（南から）
写真図版 67	3	SK274 フラスコ状土坑 A 断面（北西から）	写真図版 76	6	1 区南東隅土坑群（フラスコ状土坑） A 断面（北西から）
	4	SK274 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）		1	1 区南東隅土坑群（フラスコ状土坑） 完掘状況（南西から）
	5	SK274 フラスコ状土坑 2 層 火山砂ブロック堆積状況（北西から）		2	1 区南東隅土坑群（フラスコ状土坑） 完掘状況（北西から）
	6	SK280 フラスコ状土坑 完掘状況（西から）		3	1 区南東隅土坑群（フラスコ状土坑） A-D 断面（SK86・124, 北から）
	7	SK280 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）		4	1 区南東隅土坑群（フラスコ状土坑） C 断面（SK83・369, 北から）
写真図版 68	8	SK280 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（Pot101・102, 南から）	写真図版 77	1	SK31 土坑 完掘状況（南東から）
	1	SK280 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（Pot101, 東から）		2	SK31 土坑 A 断面（南東から）
	2	SK280 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（Pot102, 南から）		3	SK38 土坑 完掘状況（北東から）
	3	SK280 フラスコ状土坑 遺物出土状況（Pot102, St206, 南から）		4	SK38 土坑 A 断面（南西から）
	4	SK282 フラスコ状土坑 完掘状況（北から）		5	SK135 土坑 完掘状況（北東から）
写真図版 69	5	SK282 フラスコ状土坑 A 断面（南から）	写真図版 78	6	SK135 土坑 A 断面（北東から）
	6	SK282 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（Pot133, 北西から）		7	SK135 土坑 遺物出土状況（D0124）
	7	SK284 フラスコ状土坑 完掘状況（北西から）		1	SK190 土坑 完掘状況（北東から）
	8	SK284 フラスコ状土坑 完掘状況（南から）		2	SK190 土坑 A 断面（北西から）
	1	SK284 フラスコ状土坑 A 断面（北西から）		3	SK190 土坑 B 断面（北東から）
写真図版 70	2	SK315 フラスコ状土坑 完掘状況（南から）	写真図版 79	1	SK255 土坑 完掘状況（南東から）
	3	SK315 フラスコ状土坑 A 断面（上部, 南から）		2	SK255 土坑 A 断面（南東から）
	4	SK315 フラスコ状土坑 A 断面（下部, 南から）		3	SK303 土坑 完掘状況（東から）
	5	SK315 フラスコ状土坑 工具痕跡確認状況		1	SK303 土坑 完掘状況（西から）
	6	SK315 フラスコ状土坑 礫出土状況（南東から）		2	SK303 土坑, SX402 焼土集積 A 断面（東から）
写真図版 71	7	SK317 フラスコ状土坑 完掘状況（南西から）	写真図版 80	3	SK303 土坑, SX402 焼土集積 A 断面東部・B 断面北部（北東から）
	8	SK317 フラスコ状土坑 A 断面（南西から）		1	SK303 土坑, SX215 土器埋設遺構 遺物出土状況（Pot3, R2171）
	1	SK321 フラスコ状土坑 完掘状況（南西から）		2	SK303 土坑 遺物出土状況（R2165・2166）
	2	SK321 フラスコ状土坑 A 断面（北西から）		3	SK501 土坑 遺物出土状況（南西から）
	3	SK321 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（南東から）		4	SK501 土坑 遺物出土状況（Pot812）
写真図版 72	4	SK508 フラスコ状土坑 底面 遺物出土状況（北西から）	写真図版 81		
	5	SK508 フラスコ状土坑 掘削作業			
	6	SK508 フラスコ状土坑 A 断面（北西から）			
	7	SK508 フラスコ状土坑 掘削作業			
	1	SK508・534 フラスコ状土坑 清掃作業（南東から）			
写真図版 73	2	SK534 フラスコ状土坑 A 断面（北西から）			

	5 SK511 土坑 遺物出土状況 (Pot813～815, 南から)	写真図版 93	1 SX271 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot127)
	6 SK511 土坑 遺物出土状況 (北東から)		2 SX288 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot128)
	7 SK514 土坑 底面 遺物出土状況		3 SX319 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot129, 南東から)
写真図版 82	8 SK519 土坑 遺物出土状況 (Pot816)		4 SX322 土器埋設遺構 A 断面 (Pot130, 東から)
	1 SK519 土坑 遺物出土状況 (St659)		5 SX342 土器埋設遺構 A 断面 (Pot131, 西から)
	2 SK523 土坑 遺物出土状況 (北から)		6 SX584 土器埋設遺構 A 断面 (北東から)
	3 SK524 土坑 遺物出土状況 (東から)		7 SX584 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot808)
	4 SK524 土坑 遺物出土状況	写真図版 94	8 SX630 土器埋設遺構 A 断面 (Pot809, 北から)
	5 SK524 土坑 遺物出土状況 (Pot820)		1 SX719 土器埋設遺構 A 断面 (南東から)
写真図版 83	1 SK524 土坑 遺物出土状況 (Pot821)		2 SX719 土器埋設遺構
	2 SK524 土坑 遺物検出作業		遺物出土状況 (Pot582, St652, 北西から)
	3 SK525 土坑 完掘状況 (北東から)		3 SX719 土器埋設遺構
	4 SK525 土坑 A 断面 (北東から)		遺物出土状況 (Pot581・582, 南から)
写真図版 84	1 SK525 土坑 遺物出土状況 (北東から)		4 SX719 土器埋設遺構 掘削作業
	2 SK550 土坑 底面 遺物出土状況 (北から)		5 SX1001 土器埋設遺構 A 断面 (Pot1010, 西から)
	3 SK550 土坑 底面 遺物出土状況 (Pot514)	写真図版 95	1 SX732 遺物集中 確認状況 (北西から)
	4 SK550 土坑 底面 遺物出土状況 (Pot523)		2 SX732 遺物集中 遺物出土状況 (北西から)
	5 SK550 土坑 底面 遺物出土状況 (Pot524・525)		3 SX732 遺物集中 遺物出土状況 (南から)
写真図版 85	1 SK556 土坑 A 断面 (南から)		4 SX732 遺物集中
	2 SK556 土坑 遺物出土状況 (Pot822)		遺物出土状況 (Pot678～683, 北西から)
	3 SK576 土坑 遺物出土状況 (南西から)		5 SX732 遺物集中 調査風景
	4 SK576 土坑遺物出土状況 (Pot082・824・825, St654)	写真図版 96	1 SX137 石器集積 遺物出土状況 (東から)
	5 SK609 土坑 遺物出土状況 (Pot541, St655, 南西から)		2 SX137 石器集積 遺物出土状況 (東から)
	6 SK609 土坑 A 断面 (南東から)		3 SX137 石器集積 A 断面 (北から)
	7 SK609 土坑 遺物出土状況 (Pot541)		4 SX137 石器集積 A 断面 (北から)
写真図版 86	1 SK614 土坑 A 断面 (南東から)		5 SX137 石器集積 完掘状況 (東から)
	2 SK642 土坑, SX610 遺物包含層		6 SX137 石器集積 掘削作業
	遺物出土状況 (P1395・1817)		7 SX144 石器集積 遺物出土状況 (上部, 南西から)
	3 SK651 土坑 遺物出土状況 (南東から)		8 SX144 石器集積 遺物出土状況 (下部, 北東から)
	4 SK656 土坑 遺物出土状況 (Pot518・829)	写真図版 97	1 SX144 石器集積 掘削作業
	5 SK659 土坑 遺物出土状況 (Pot830)		2 SX177 石器集積 A 断面 (北西から)
	6 SK662 土坑 遺物出土状況 (Pot833・834, 北西から)		3 SX177 石器集積 遺物出土状況 (西から)
写真図版 87	1 SK664 土坑 完掘状況 (北西から)		4 SX745 石器集積 遺物出土状況 (上部, 南から)
	2 SK664 土坑 遺物出土状況 (Pot555, 北西から)		5 SX745 石器集積 遺物出土状況 (下部, 南から)
	3 SK1007 土坑 完掘状況 (北東から)	写真図版 98	1 SX193 焼土集積 A 断面 (南西から)
	4 SK1007 土坑 A 断面 (北東から)		2 SX194・195 焼土集積 A 断面 (西から)
	5 SK1007 土坑 赤色硬化範囲確認状況 (南西から)		3 SX209 焼土集積 C 断面 (南西から)
写真図版 88	1 SK1007 土坑 遺物出土状況		4 SX401 焼土集積 確認状況 (北東から)
	2 SK1007 土坑 遺物出土状況 (北西から)		5 SX395 焼土集積 確認状況 (南東から)
	3 SK1007 土坑 遺物出土状況 (Pot1001～1003)		6 SX402 焼土集積 焼土確認状況 (東から)
	4 SK1007 土坑 底面 遺物出土状況 (Pot1001)		7 SX402 焼土集積 焼土確認状況 (東から)
	5 SK1007 土坑 掘削作業		8 SX736 焼土集積 確認状況 (北から)
写真図版 89	1 SD5 溝跡 完掘状況 (東から)		9 SX736 焼土集積 A 断面 (南東から)
	2 SD5 溝跡 B 断面 (西から)	写真図版 99	1 SX14 遺物包含層 遺物出土状況 (北から)
	3 SD16 溝跡 完掘状況 (東から)		2 SX14 遺物包含層 A 断面南半部 (南東から)
	4 SD16 溝跡 C 断面 (東から)		3 SX14 遺物包含層 A 断面北半部 (南東から)
	5 SD21 溝跡 完掘状況 (南から)		4 SX14 遺物包含層 B 断面西半部 (南西から)
	6 SD21 溝跡 E 断面 (北から)		5 SX14 遺物包含層 B 断面東半部 (南西から)
写真図版 90	1 SX739 配石遺構 石材確認 (北東から)	写真図版 100	1 SX14 遺物包含層 遺物出土状況 (北から)
	2 SX739 配石遺構 石材確認 (St572～574, 北から)		2 SX14 遺物包含層 骨片集中 確認状況
	3 SX739 配石遺構 石材確認 (St572～574, 東から)		3 SX14 遺物包含層 遺物出土状況 (P0490・0497)
	4 SX739 配石遺構 石材確認 (St572～574, 東から)		4 SX14 遺物包含層 遺物出土状況 (P0485)
	5 SX739 配石遺構 K1～K6 完掘状況,		5 SX14 遺物包含層 遺物出土状況 (R0966・1378・1380)
	K7～K9 確認状況 (北東から)		6 SX14 遺物包含層 掘削作業
写真図版 91	1 SX739 配石遺構 K1	写真図版 101	1 SX17・361 遺物包含層 遺構確認状況 (北から)
	遺物出土状況 (Pot578, St571, 北西から)		2 SX17・361 遺物包含層 遺構確認状況 (南から)
	2 SX739 配石遺構 K2 完掘状況 (北から)	写真図版 102	1 SX17 遺物包含層 完掘状況 (東から)
	3 SX739 配石遺構 K2 遺物出土状況		2 SX17 遺物包含層 A 断面北半部 (北西から)
	4 SX739 配石遺構 K2 掘削作業		3 SX17 遺物包含層 A 断面南半部 (北西から)
	5 SX739 配石遺構 K7～K9 掘削状況 (北東から)		4 SX17 遺物包含層 B 断面 (南東から)
	6 SX739 配石遺構 K9 I 断面 (南から)		5 SX17 遺物包含層 B 断面 (SX396 焼土集積, 南東から)
写真図版 92	1 SX180 土器埋設遺構 A 断面 (南から)	写真図版 103	1 SX17 遺物包含層 C 断面 (南から)
	2 SX180 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot125, St213)		2 SX17 遺物包含層 C 断面 (北東から)
	3 SX180 土器埋設遺構 遺物出土状況 (St213)		3 SX17 遺物包含層 C 断面南部 (南東から)
	4 SX199 土器埋設遺構 A 断面 (南西から)	写真図版 104	1 SX17 遺物包含層 C 断面中央部 (南東から)
	5 SX199 土器埋設遺構 遺物出土状況 (Pot126)		2 SX17 遺物包含層 C 断面北部 (南東から)
	6 SX215 土器埋設遺構 A 断面 (南西から)		3 SX17 遺物包含層 C 断面北端部 (南東から)
	7 SX215 土器埋設遺構 遺物出土状況 (P0611)	写真図版 105	1 SX17 遺物包含層 D 断面中央部 (南西から)
	8 SX271 土器埋設遺構 A 断面 (北東から)		2 SX17 遺物包含層 D 断面東部 (南西から)

	3	SX17 遺物包含層 F 断面東部（北東から）	3	SX717 遺物包含層 2 層 清掃作業
	4	SX17 遺物包含層 F 断面中央部（北東から）	4	SX717 遺物包含層 2 層 遺物取り上げ作業（Pot564）
	5	SX17 遺物包含層 F 断面西部（北東から）	5	SX717 遺物包含層 1・2 層
写真図版 106	1	SX17 遺物包含層 骨片集中 1 確認状況		遺物出土状況（南西部 Pot563 周辺，北西から）
	2	SX17 遺物包含層 骨片集中 2 確認状況	写真図版 117	1 SX717 遺物包含層 1 層
	3	SX17 遺物包含層 遺物出土状況（Pot78・79）		遺物出土状況（西部 St594 周辺，北東から）
	4	SX17 遺物包含層 遺物出土状況（P0523）	2	SX717 遺物包含層 1 層
	5	SX17 遺物包含層 遺物出土状況（S1034）		遺物出土状況（Pot559・636，北西から）
写真図版 107	1	SX17 遺物包含層 遺物出土状況（R0925）	3	SX717 遺物包含層 1 層
	2	SX17 遺物包含層 遺物出土状況（Q0029）		遺物出土状況（Pot599～602，東から）
	3	SX17 遺物包含層 遺物検出作業（Pot78・79）	写真図版 118	1 SX717 遺物包含層 1 層
	4	SX17 遺物包含層 遺物検出作業（Pot78・79）		遺物出土状況（Pot655 周辺，南東から）
	5	SX17 遺物包含層 遺物検出作業（Pot78・79）	2	SX717 遺物包含層 1 層
写真図版 108	1	SX361 遺物包含層 A 断面（南から）		遺物出土状況（Pot666・667，南東から）
	2	SX361 遺物包含層 B 断面（東から）	写真図版 119	1 SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況（Pot502）
	3	SX361 遺物包含層 骨片集中 確認状況	2	SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況（Pot559）
	4	SX361 遺物包含層 確認面 遺物出土状況（P0639）	3	SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況（Pot623）
写真図版 109	1	SX290 遺物包含層 完掘状況（北西から）	4	SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況（Pot631）
	2	SX608 遺物包含層 遺物出土状況（南東から）	5	SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況（Pot645）
	3	SX608 遺物包含層 底面 遺物出土状況（Pot507・539）	6	SX717 遺物包含層 1 層
	4	SX608 遺物包含層 底面 遺物出土状況（Pot539）		遺物出土状況（Pot651 周辺）
写真図版 110	1	SX610 遺物包含層 遺物出土状況（北西から）	7	SX717 遺物包含層 1 層
	2	SX610 遺物包含層 底面 遺物出土状況（Pot547）		遺物出土状況（Pot666 周辺，東から）
	3	SX610 遺物包含層 調査風景（北西から）	8	SX717 遺物包含層 1 層 遺物出土状況（Pot702・703）
	4	SX666 遺物包含層 遺物出土状況（北西から）	写真図版 120	1 Pit1251 柱穴 遺物出土状況（S1030）
写真図版 111	1	SX666 遺物包含層	2	遺構確認面 遺物出土状況（Pot5）
		遺物出土状況（Pot548～552，東から）	3	遺構確認面 遺物出土状況（Pot7）
	2	SX717 遺物包含層 2 層	4	遺構確認面 遺物出土状況（Pot9）
		遺物出土状況（Pot532 周辺，南東から）	5	遺構確認面 遺物出土状況（Pot29）
	3	SX717 遺物包含層 2 層	6	遺構確認面 遺物出土状況（Pot614・615）
		遺物出土状況（Pot532 周辺，南西から）	7	攪乱 遺物出土状況（D0115）
写真図版 112	1	SX717 遺物包含層 2 層	8	遺構確認面 遺物出土状況（D0078）
		遺物出土状況（Pot532 周辺，南東から）	9	遺構確認面 遺物出土状況（D0079）
	2	SX717 遺物包含層 2 層	写真図版 121	1 遺構確認面 遺物出土状況（D0091）
		遺物出土状況（Pot532・533・538，南から）	2	遺構確認面 遺物出土状況（D0093）
	3	SX717 遺物包含層 2 層	3	遺構確認面 遺物出土状況（D0176）
		遺物出土状況（南西部 Pot563 周辺，北西から）	4	基本層Ⅲ層 遺物出土状況（Pot637）
	4	SX717 遺物包含層 2 層	5	基本層Ⅲ層 遺物出土状況（Pot670）
		遺物出土状況（西部 Pot587 周辺，北西から）	6	基本層Ⅲ層 遺物出土状況（S1032）
写真図版 113	1	SX717 遺物包含層 2 層	7	SX17 遺物出土状況（R1619）
		遺物出土状況（Pot591 周辺，北東から）	8	攪乱 遺物出土状況（D0112）
	2	SX717 遺物包含層 2 層，SX719 土器埋設遺構	9	攪乱 遺物出土状況（D0113）
		遺物出土状況（Pot581 周辺，南西から）	写真図版 122	1 調査風景（1 区 面整理）
	3	SX717 遺物包含層 2 層	2	調査風景（1 区 面整理，北から）
		覆土火山砂混入状況（Pot639）	3	調査風景（3 区 面整理，西から）
	4	SX717 遺物包含層 2 層，SX719 土器埋設遺構	4	調査風景（1 区 遺構確認，北東から）
		遺物出土状況（Pot581～584，東から）	5	調査風景（1 区 遺構確認，南東から）
	5	SX717 遺物包含層 2 層，SX719 土器埋設遺構	6	調査風景（1 区 遺構掘削）
		遺物出土状況（Pot581・582・639，南から）	7	調査風景（1 区 遺構掘削）
写真図版 114	1	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況	8	調査風景（1 区，北から）
	2	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（St611・612）	写真図版 123	1 調査風景（1 区，北から）
	3	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況	2	調査風景（1 区，北東から）
	4	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot501）	3	調査風景（1 区，南西から）
	5	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot526）	4	調査風景（1・2 区，南から）
	6	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot556・616）	5	調査風景（1・2 区，南から）
	7	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot564）	6	調査風景（2 区，東から）
	8	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot587）	7	調査風景（2 区）
写真図版 115	1	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot592）	写真図版 124	1 調査風景（2 区，東から）
	2	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot597）	2	調査風景（2 区）
	3	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot612，東から）	3	調査風景（フラスコ状土坑 平面実測）
	4	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot622）	4	調査風景（遺構 断面実測）
	5	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot639）	5	調査風景（遺構 断面実測）
	6	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot653）	6	調査風景（2 区 基本層掘削）
	7	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（Pot696）	7	調査風景（2 区 基本層Ⅱ d 層上面検出，北東から）
	8	SX717 遺物包含層 2 層	写真図版 125	1 調査風景（2 区 基本層掘削）
		遺物出土状況（Pot695:D0009-d）	2	調査風景（2 区 基本層掘削，東から）
写真図版 116	1	SX717 遺物包含層 2 層 遺物出土状況（D0045）	3	調査風景（降雪時）
	2	SX717 遺物包含層 2 層	4	調査風景（凍結時）
		調査風景（西部 S12W12 周辺，北から）	5	調査風景（凍結時）

写真図版 126	6 発掘調査見学（小学生） 7 発掘調査見学（小学生） 8 発掘調査見学（小学生） 1 発掘調査見学（小学生） 2 発掘調査体験（中学生） 3 発掘調査体験（高校生） 4 発掘調査体験（高校生） 5 発掘調査体験（高校生） 6 整理作業体験（高校生） 7 整理作業体験（高校生） 8 発掘調査見学（教職員）	写真図版 17	主要遺構出土土器（17） SX717 遺物包含層（2）・（3）
写真図版 127	1 調査指導（県教委） 2 現場視察（町長） 3 報道発表 4 報道発表 5 発掘調査見学会 6 発掘調査見学会 7 発掘調査見学会	写真図版 18	SI1 竪穴住居跡出土土器（1）
写真図版 128	1 整理作業（遺物洗浄） 2 整理作業（遺物洗浄） 3 整理作業（遺物注記） 4 整理作業（遺物注記） 5 整理作業（遺物接合） 6 整理作業（遺物接合） 7 整理作業（遺物接合） 8 整理作業（遺物修復）	写真図版 19	SI1 竪穴住居跡出土土器（2）
写真図版 129	1 整理作業（遺物修復） 2 整理作業（遺物修復） 3 整理作業（遺物拓本） 4 整理作業（遺物実測） 5 整理作業（遺物実測） 6 整理作業（遺物実測） 7 整理作業（遺物実測） 8 整理作業（遺物実測）	写真図版 20	SI1 竪穴住居跡出土土器（3）
第 4 分冊 遺物写真図版編		写真図版 21	SI1 竪穴住居跡出土土器（4）
写真図版 1	主要遺構出土土器（1） SI1 竪穴住居跡，SI20 竪穴住居跡	写真図版 22	SI1 竪穴住居跡出土土器（5）
写真図版 2	主要遺構出土土器（2） SI22 竪穴住居跡，SX2 竪穴状遺構	写真図版 23	SI1 竪穴住居跡出土土器（6）
写真図版 3	主要遺構出土土器（3） SX4 竪穴状遺構，SK43 フラスコ状土坑	写真図版 24	SI1 竪穴住居跡出土土器（7）
写真図版 4	主要遺構出土土器（4） SK90 フラスコ状土坑，SK116 フラスコ状土坑	写真図版 25	SI1 竪穴住居跡出土土器（8）
写真図版 5	主要遺構出土土器（5） SK606 フラスコ状土坑，SK612 フラスコ状土坑	写真図版 26	SI1 竪穴住居跡出土土器（9）
写真図版 6	主要遺構出土土器（6） SK721 フラスコ状土坑，SK255 土坑	写真図版 27	SI1 竪穴住居跡出土土器（10）
写真図版 7	主要遺構出土土器（7） SK303 土坑，SK359 土坑	写真図版 28	SI20 竪穴住居跡出土土器（1）
写真図版 8	主要遺構出土土器（8） SK512 土坑，SK519 土坑	写真図版 29	SI20 竪穴住居跡出土土器（2）
写真図版 9	主要遺構出土土器（9） SK524 土坑，SK546 土坑	写真図版 30	SI20 竪穴住居跡出土土器（3）
写真図版 10	主要遺構出土土器（10） SK550 土坑，SK609 土坑	写真図版 31	SI20 竪穴住居跡出土土器（4）
写真図版 11	主要遺構出土土器（11） SK614 土坑，SK654 土坑	写真図版 32	SI20 竪穴住居跡出土土器（5）
写真図版 12	主要遺構出土土器（12） SK662 土坑，SK664 土坑	写真図版 33	SI20 竪穴住居跡出土土器（6）
写真図版 13	主要遺構出土土器（13） SK1007 土坑，SX732 遺物集中	写真図版 34	SI20 竪穴住居跡出土土器（7）
写真図版 14	主要遺構出土土器（14） SX719 土器埋設遺構	写真図版 35	SI20 竪穴住居跡出土土器（8）， SI22 竪穴住居跡出土土器（1）
写真図版 15	主要遺構出土土器（15） SX17 遺物包含層，SX608 遺物包含層	写真図版 36	SI22 竪穴住居跡出土土器（2）
写真図版 16	主要遺構出土土器（16） SX610 遺物包含層，SX717 遺物包含層（1）	写真図版 37	SI22 竪穴住居跡出土土器（3）
		写真図版 38	SI22 竪穴住居跡出土土器（4）
		写真図版 39	SI22 竪穴住居跡出土土器（5）
		写真図版 40	SI22 竪穴住居跡出土土器（6）
		写真図版 41	SI22 竪穴住居跡出土土器（7）
		写真図版 42	SI22 竪穴住居跡出土土器（8）
		写真図版 43	SB167・256 掘立柱建物跡出土土器
		写真図版 44	SX372 ～ 377 炉跡出土土器， SB358・362 掘立柱建物跡出土土器， SB611 掘立柱建物跡出土土器（1）
		写真図版 45	SB611 掘立柱建物跡出土土器（2）
		写真図版 46	SB611 掘立柱建物跡出土土器（3）
		写真図版 47	SB611 掘立柱建物跡出土土器（4）， SB741 掘立柱建物跡出土土器， SX733 炉跡出土土器， SB360・364・740 掘立柱建物跡出土土器
		写真図版 48	SX2 竪穴状遺構出土土器（1）
		写真図版 49	SX2 竪穴状遺構出土土器（2）
		写真図版 50	SX2 竪穴状遺構出土土器（3）
		写真図版 51	SX2 竪穴状遺構出土土器（4）
		写真図版 52	SX2 竪穴状遺構出土土器（5）
		写真図版 53	SX2 竪穴状遺構出土土器（6）
		写真図版 54	SX2 竪穴状遺構出土土器（7）， SX3 竪穴状遺構出土土器（1）
		写真図版 55	SX3 竪穴状遺構出土土器（2）
		写真図版 56	SX4 竪穴状遺構出土土器（1）
		写真図版 57	SX4 竪穴状遺構出土土器（2）
		写真図版 58	SX4 竪穴状遺構出土土器（3）
		写真図版 59	SX4 竪穴状遺構出土土器（4）， SX7 竪穴状遺構出土土器（1）
		写真図版 60	SX7 竪穴状遺構出土土器（2）
		写真図版 61	SX7 竪穴状遺構出土土器（3）
		写真図版 62	SX7 竪穴状遺構出土土器（4）
		写真図版 63	SX7 竪穴状遺構出土土器（5）， SX155 竪穴状遺構出土土器（1）
		写真図版 64	SX155 竪穴状遺構出土土器（2）
		写真図版 65	SX510・622・647 竪穴状遺構出土土器
		写真図版 66	SX1008・1018 竪穴状遺構出土土器
		写真図版 67	SK28 フラスコ状土坑出土土器（1）
		写真図版 68	SK28 フラスコ状土坑出土土器（2）， SK40 フラスコ状土坑出土土器（1）
		写真図版 69	SK40 フラスコ状土坑出土土器（2）
		写真図版 70	SK41 フラスコ状土坑出土土器， SK43 フラスコ状土坑出土土器（1）
		写真図版 71	SK43 フラスコ状土坑出土土器（2）， SK87 フラスコ状土坑出土土器， SK90 フラスコ状土坑出土土器（1）

写真図版 72	SK90 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK91・95 フラスコ状土坑出土土器	SK521・522・523 土坑出土土器
写真図版 73	SK108 フラスコ状土坑出土土器, SK116 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 121 SK524 土坑出土土器 (1)
写真図版 74	SK116 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK123 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 122 SK524 土坑出土土器 (2)
写真図版 75	SK126 フラスコ状土坑出土土器, SK133 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 123 SK524 土坑出土土器 (3)
写真図版 76	SK133 フラスコ状土坑出土土器 (2)	写真図版 124 SK524 土坑出土土器 (4), SK525 土坑出土土器 (1)
写真図版 77	SK134・191・196・206 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 125 SK525 土坑出土土器 (2)
写真図版 78	SK214・241・242・244・ 253・262 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 126 SK527・528・529・536・537・543 土坑出土土器, SK546 土坑出土土器 (1)
写真図版 79	SK265 フラスコ状土坑出土土器, SK266 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 127 SK546 土坑出土土器 (2), SK550 土坑出土土器
写真図版 80	SK267 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 128 SK552・554・556・565・566・ 567・570・573・574 土坑出土土器
写真図版 81	SK268 フラスコ状土坑出土土器, SK274 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 129 SK576 土坑出土土器
写真図版 82	SK274 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK276 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 130 SK580・585・587・590 土坑出土土器
写真図版 83	SK280 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 131 SK591 土坑出土土器 (1)
写真図版 84	SK282 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 132 SK591 土坑出土土器 (2), SK598 土坑出土土器 (1)
写真図版 85	SK315 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 133 SK598 土坑出土土器 (2), SK600 土坑出土土器
写真図版 86	SK315 フラスコ状土坑出土土器 (2), SK317・321 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 134 SK602 土坑出土土器, SK609 土坑出土土器 (1)
写真図版 87	SK508 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 135 SK609 土坑出土土器 (2)
写真図版 88	SK508 フラスコ状土坑出土土器 (2)	写真図版 136 SK609 土坑出土土器 (3), SK613 土坑出土土器
写真図版 89	SK508 フラスコ状土坑出土土器 (3)	写真図版 137 SK614 土坑出土土器
写真図版 90	SK534 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 138 SK619・623・628・633・634 土坑出土土器
写真図版 91	SK534 フラスコ状土坑出土土器 (2)	写真図版 139 SK640・641 土坑出土土器
写真図版 92	SK606 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 140 SK642・644 土坑出土土器, SK651 土坑出土土器 (1)
写真図版 93	SK606 フラスコ状土坑出土土器 (2)	写真図版 141 SK651 土坑出土土器 (2), SK654 土坑出土土器 (1)
写真図版 94	SK606 フラスコ状土坑出土土器 (3)	写真図版 142 SK654 土坑出土土器 (2), SK655 土坑出土土器
写真図版 95	SK612 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 143 SK656 土坑出土土器
写真図版 96	SK612 フラスコ状土坑出土土器 (2)	写真図版 144 SK658・659 土坑出土土器
写真図版 97	SK721 フラスコ状土坑出土土器 (1)	写真図版 145 SK662 土坑出土土器 (1)
写真図版 98	SK721 フラスコ状土坑出土土器 (2)	写真図版 146 SK662 土坑出土土器 (2)
写真図版 99	SK721 フラスコ状土坑出土土器 (3)	写真図版 147 SK664 土坑出土土器 (1)
写真図版 100	SK721 フラスコ状土坑出土土器 (4), SK723・1006 フラスコ状土坑出土土器	写真図版 148 SK664 土坑出土土器 (2)
写真図版 101	1 区南東隅土坑群 (フラスコ状土坑) 出土土器, SK583 落とし穴状土坑出土土器	写真図版 149 SK664 土坑出土土器 (3), SK676・681・692・695・698 土坑出土土器
写真図版 102	SK12・31・36・37・38 土坑出土土器	写真図版 150 SK699・701・705 土坑出土土器, SK710 土坑出土土器 (1)
写真図版 103	SK44・45・47・51・54 土坑出土土器	写真図版 151 SK710 土坑出土土器 (2), SK713 土坑出土土器 (1)
写真図版 104	SK56・58・60・63・75・77 土坑出土土器	写真図版 152 SK713 土坑出土土器 (2), SK722・724・725・726 土坑出土土器
写真図版 105	SK93・104・105・119・120 土坑出土土器	写真図版 153 SK735・738 土坑出土土器, SK1007 土坑出土土器 (1)
写真図版 106	SK135・136・138・139・ 147・148・151・153 土坑出土土器	写真図版 154 SK1007 土坑出土土器 (2)
写真図版 107	SK154・158・159・162 土坑出土土器, SK171 土坑出土土器 (1)	写真図版 155 SK1007 土坑出土土器 (3), SK1014 土坑出土土器
写真図版 108	SK171 土坑出土土器 (2), SK173・176・184・185・188・189 土坑出土土器	写真図版 156 SD5・16・21 溝跡出土土器
写真図版 109	SK190 土坑出土土器, SK216 土坑出土土器 (1)	写真図版 157 SX739 配石遺構出土土器 (1)
写真図版 110	SK216 土坑出土土器 (2), SK218・237・239・252 土坑出土土器	写真図版 158 SX739 配石遺構出土土器 (2)
写真図版 111	SK255・258・260・263・270 土坑出土土器, SK303 土坑出土土器 (1)	写真図版 159 SX180・215 土器埋設遺構出土土器
写真図版 112	SK303 土坑出土土器 (2)	写真図版 160 SX271・288・319・322 土器埋設遺構出土土器
写真図版 113	SK307・328・341・350・354 土坑出土土器, SK359 土坑出土土器 (1)	写真図版 161 SX342・584・630 土器埋設遺構出土土器, SX719 土器埋設遺構出土土器 (1)
写真図版 114	SK359 土坑出土土器 (2), SK403 土坑出土土器	写真図版 162 SX719 土器埋設遺構出土土器 (2)
写真図版 115	SK501・506・509・511 土坑出土土器	写真図版 163 SX719 土器埋設遺構出土土器 (3)
写真図版 116	SK512・513 土坑出土土器	写真図版 164 SX719 土器埋設遺構出土土器 (4)
写真図版 117	SK514・516 土坑出土土器	写真図版 165 SX1001 土器埋設遺構出土土器, SX732 遺物集中出土土器 (1)
写真図版 118	SK517・518 土坑出土土器, SK519 土坑出土土器 (1)	写真図版 166 SX732 遺物集中出土土器 (2)
写真図版 119	SK519 土坑出土土器 (2)	写真図版 167 SX732 遺物集中出土土器 (3)
写真図版 120	SK519 土坑出土土器 (3),	写真図版 168 SX732 遺物集中出土土器 (4)
		写真図版 169 SX732 遺物集中出土土器 (5)

写真図版 170 SX192・202・209・402・582 焼土集積出土土器
 写真図版 171 組み合わない柱穴出土土器 (1)
 写真図版 172 組み合わない柱穴出土土器 (2)
 写真図版 173 組み合わない柱穴出土土器 (3)
 写真図版 174 SX14 遺物包含層出土土器 (1)
 写真図版 175 SX14 遺物包含層出土土器 (2)
 写真図版 176 SX14 遺物包含層出土土器 (3)
 写真図版 177 SX14 遺物包含層出土土器 (4)
 写真図版 178 SX17 遺物包含層出土土器 (1)
 写真図版 179 SX17 遺物包含層出土土器 (2)
 写真図版 180 SX17 遺物包含層出土土器 (3)
 写真図版 181 SX17 遺物包含層出土土器 (4)
 写真図版 182 SX17 遺物包含層出土土器 (5),
 SX290 遺物包含層出土土器
 写真図版 183 SX361 遺物包含層出土土器 (1)
 写真図版 184 SX361 遺物包含層出土土器 (2)
 写真図版 185 SX361 遺物包含層出土土器 (3),
 SX608 遺物包含層出土土器 (1)
 写真図版 186 SX608 遺物包含層出土土器 (2)
 写真図版 187 SX608 遺物包含層出土土器 (3)
 写真図版 188 SX608 遺物包含層出土土器 (4),
 SX610 遺物包含層出土土器 (1)
 写真図版 189 SX610 遺物包含層出土土器 (2)
 写真図版 190 SX610 遺物包含層出土土器 (3)
 写真図版 191 SX610 遺物包含層出土土器 (4)
 写真図版 192 SX610 遺物包含層出土土器 (5)
 写真図版 193 SX610 遺物包含層出土土器 (6)
 写真図版 194 SX610 遺物包含層出土土器 (7)
 写真図版 195 SX610 遺物包含層出土土器 (8)
 写真図版 196 SX610 遺物包含層出土土器 (9)
 写真図版 197 SX610 遺物包含層出土土器 (10)
 写真図版 198 SX610 遺物包含層出土土器 (11)
 写真図版 199 SX666 遺物包含層出土土器 (1)
 写真図版 200 SX666 遺物包含層出土土器 (2),
 SX717 遺物包含層出土土器 (1)
 写真図版 201 SX717 遺物包含層出土土器 (2)
 写真図版 202 SX717 遺物包含層出土土器 (3)
 写真図版 203 SX717 遺物包含層出土土器 (4)
 写真図版 204 SX717 遺物包含層出土土器 (5)
 写真図版 205 SX717 遺物包含層出土土器 (6)
 写真図版 206 SX717 遺物包含層出土土器 (7)
 写真図版 207 SX717 遺物包含層出土土器 (8)
 写真図版 208 SX717 遺物包含層出土土器 (9)
 写真図版 209 SX717 遺物包含層出土土器 (10)
 写真図版 210 SX717 遺物包含層出土土器 (11)
 写真図版 211 SX717 遺物包含層出土土器 (12)
 写真図版 212 SX717 遺物包含層出土土器 (13)
 写真図版 213 SX717 遺物包含層出土土器 (14)
 写真図版 214 SX717 遺物包含層出土土器 (15)
 写真図版 215 SX717 遺物包含層出土土器 (16)
 写真図版 216 SX717 遺物包含層出土土器 (17)
 写真図版 217 SX717 遺物包含層出土土器 (18)
 写真図版 218 SX717 遺物包含層出土土器 (19)
 写真図版 219 SX717 遺物包含層出土土器 (20)
 写真図版 220 SX717 遺物包含層出土土器 (21)
 写真図版 221 SX717 遺物包含層出土土器 (22)
 写真図版 222 SX717 遺物包含層出土土器 (23)
 写真図版 223 SX717 遺物包含層出土土器 (24)
 写真図版 224 SX717 遺物包含層出土土器 (25)
 写真図版 225 SX717 遺物包含層出土土器 (26)
 写真図版 226 SX717 遺物包含層出土土器 (27)
 写真図版 227 SX717 遺物包含層出土土器 (28)
 写真図版 228 SX717 遺物包含層出土土器 (29)
 写真図版 229 SX717 遺物包含層出土土器 (30)
 写真図版 230 SX717 遺物包含層出土土器 (31)
 写真図版 231 遺構外出土土器 (1)
 写真図版 232 遺構外出土土器 (2)
 写真図版 233 遺構外出土土器 (3)
 写真図版 234 遺構外出土土器 (4)

写真図版 235 遺構外出土土器 (5)
 写真図版 236 遺構外出土土器 (6)
 写真図版 237 遺構外出土土器 (7)
 写真図版 238 遺構外出土土器 (8)
 写真図版 239 遺構外出土土器 (9)
 写真図版 240 遺構外出土土器 (10)
 写真図版 241 遺構外出土土器 (11)
 写真図版 242 遺構外出土土器 (12)
 写真図版 243 遺構外出土土器 (13)
 写真図版 244 遺構外出土土器 (14)
 写真図版 245 遺構外出土土器 (15)
 写真図版 246 遺構外出土土器 (16)
 写真図版 247 遺構外出土土器 (17)
 写真図版 248 遺構外出土土器 (18)
 写真図版 249 遺構外出土土器 (19)
 写真図版 250 遺構外出土土器 (20)
 写真図版 251 遺構外出土土器 (21)
 写真図版 252 遺構外出土土器 (22)
 写真図版 253 遺構外出土土器 (23)
 写真図版 254 遺構外出土土器 (24)
 写真図版 255 遺構外出土土器 (25)
 写真図版 256 遺構外出土土器 (26)
 写真図版 257 遺構外出土土器 (27)
 写真図版 258 SI1・20 竪穴住居跡出土土製品
 写真図版 259 SI22 竪穴住居跡出土土製品 (1)
 写真図版 260 SI22 竪穴住居跡出土土製品 (2),
 SB360・611 掘立柱建物跡出土土製品
 写真図版 261 SX2・4・7 竪穴状遺構出土土製品
 写真図版 262 SX647 竪穴状遺構出土土製品,
 SK28・41・43・123・133・
 214・216 フラスコ状土坑出土土製品
 写真図版 263 SK266・267・274・315・534・612・721 フラスコ状
 土坑出土土製品, SK38 土坑出土土製品
 写真図版 264 SK75・119・135・328・539・544 土坑出土土製品
 写真図版 265 SK590・609・615・616・
 656・713・722 土坑出土土製品,
 SD5・16・21 溝跡出土土製品
 写真図版 266 SX195・402 焼土集積出土土製品,
 組み合わない柱穴出土土製品 (1)
 写真図版 267 組み合わない柱穴出土土製品 (2),
 SX14 遺物包含層出土土製品 (1)
 写真図版 268 SX14 遺物包含層出土土製品 (2),
 SX17 遺物包含層出土土製品 (1)
 写真図版 269 SX17 遺物包含層出土土製品 (2),
 SX361 遺物包含層出土土製品,
 SX610 遺物包含層出土土製品 (1)
 写真図版 270 SX610 遺物包含層出土土製品 (2),
 SX717 遺物包含層出土土製品 (1)
 写真図版 271 SX717 遺物包含層出土土製品 (2),
 遺構外出土土製品 (1)
 写真図版 272 遺構外出土土製品 (2)
 写真図版 273 遺構外出土土製品 (3)
 写真図版 274 遺構外出土土製品 (4)
 写真図版 275 遺構外出土土製品 (5)
 写真図版 276 遺構外出土土製品 (6)
 写真図版 277 遺構外出土土製品 (7)
 写真図版 278 遺構外出土土製品 (8)
 写真図版 279 遺構外出土土製品 (9)
 写真図版 280 遺構外出土土製品 (10)
 写真図版 281 遺構外出土土製品 (11)
 写真図版 282 SI20・22 竪穴住居跡出土焼成粘土塊,
 SB611 掘立柱建物跡出土焼成粘土塊 (1)
 写真図版 283 SB611 掘立柱建物跡出土焼成粘土塊 (2),
 SX733 炉跡出土焼成粘土塊,
 SX4・7・622 竪穴状遺構出土焼成粘土塊
 写真図版 284 SK28・40・265・315・612・
 721 フラスコ状土坑出土焼成粘土塊,
 SK609・664・1007 土坑出土焼成粘土塊
 写真図版 285 SX144 石器集中出土焼成粘土塊,

組み合わせない柱穴出土焼成粘土塊,
SX14・17 遺物包含層出土焼成粘土塊
写真図版 286 SX361・610 遺物包含層出土焼成粘土塊
写真図版 287 SX717 遺物包含層出土焼成粘土塊,
遺構外出土焼成粘土塊 (1)
写真図版 288 遺構外出土焼成粘土塊 (2)
写真図版 289 SI1 竪穴住居跡出土石器
写真図版 290 SI20 竪穴住居跡出土石器 (1)
写真図版 291 SI20 竪穴住居跡出土石器 (2)
写真図版 292 SI20 竪穴住居跡出土石器 (3),
SI22 竪穴住居跡出土石器 (1)
写真図版 293 SI22 竪穴住居跡出土石器 (2)
写真図版 294 SI22 竪穴住居跡出土石器 (3)
写真図版 295 SI22 竪穴住居跡出土石器 (4)
写真図版 296 SI22 竪穴住居跡出土石器 (5)
写真図版 297 SB167・256・358・362 掘立柱建物跡出土石器,
SX372～377 炉跡出土石器,
SB611 掘立柱建物跡出土石器 (1)
写真図版 298 SB611 掘立柱建物跡出土石器 (2)
写真図版 299 SB611 掘立柱建物跡出土石器 (3),
SX733 炉跡出土石器
写真図版 300 SB360・740 掘立柱建物跡出土石器
写真図版 301 SX2・3 竪穴状遺構出土石器,
SX4 竪穴状遺構出土石器 (1)
写真図版 302 SX4 竪穴状遺構出土石器 (2),
SX7 竪穴状遺構出土石器 (1)
写真図版 303 SX7 竪穴状遺構出土石器 (2)
写真図版 304 SX7 竪穴状遺構出土石器 (3),
SX155 竪穴状遺構出土石器
写真図版 305 SK28・41・43・87 フラスコ状土坑出土石器
写真図版 306 SK116・133・241・242・
253・262 フラスコ状土坑出土石器,
SK265 フラスコ状土坑出土石器 (1)
写真図版 307 SK265 フラスコ状土坑出土石器 (2),
SK267・274・276・292 フラスコ状土坑出土石器
写真図版 308 SK315・508 フラスコ状土坑出土石器
写真図版 309 SK612・721 フラスコ状土坑出土石器,
1 区南東隅土坑群 (フラスコ状土坑) 出土石器,
SK583 落とし穴状土坑出土石器
写真図版 310 SK47・63・147・185・
188・218・228・239 土坑出土石器
写真図版 311 SK246・252・255・261・
263・269・303 土坑出土石器
写真図版 312 SK307・357・403・501・
511・514・516・519 土坑出土石器
写真図版 313 SK522・524・543・585・
587・600・609 土坑出土石器
写真図版 314 SK614・616・643・651 土坑出土石器
写真図版 315 SK663・664・669・694・
704・729・1009 土坑出土石器
写真図版 316 SD5 溝跡出土石器
写真図版 317 SD16・21 溝跡出土石器,
SX739 配石遺構出土石器,
SX732 遺物集中出土石器,
遺構外出土石器
写真図版 318 SX144 石器集中出土石器
写真図版 319 SX137 石器集中出土石器,
SX402 焼土集積出土石器
写真図版 320 組み合わせない柱穴出土石器 (1)
写真図版 321 組み合わせない柱穴出土石器 (2)
写真図版 322 組み合わせない柱穴出土石器 (3)
写真図版 323 組み合わせない柱穴出土石器 (4)
写真図版 324 組み合わせない柱穴出土石器 (5)
写真図版 325 SX14 遺物包含層出土石器 (1)
写真図版 326 SX14 遺物包含層出土石器 (2),
SX17 遺物包含層出土石器 (1)
写真図版 327 SX17 遺物包含層出土石器 (2)
写真図版 328 SX17 遺物包含層出土石器 (3)
写真図版 329 SX17 遺物包含層出土石器 (4)

写真図版 330 SX17 遺物包含層出土石器 (5),
SX290・353 遺物包含層出土石器
写真図版 331 SX361 遺物包含層出土石器,
SX610 遺物包含層出土石器 (1)
写真図版 332 SX610 遺物包含層出土石器 (2),
SX666 遺物包含層出土石器,
SX717 遺物包含層出土石器 (1)
写真図版 333 SX717 遺物包含層出土石器 (2)
写真図版 334 SX717 遺物包含層出土石器 (3)
写真図版 335 SX717 遺物包含層出土石器 (4)
写真図版 336 遺構外出土石器 (1)
写真図版 337 遺構外出土石器 (2)
写真図版 338 遺構外出土石器 (3)
写真図版 339 遺構外出土石器 (4)
写真図版 340 遺構外出土石器 (5)
写真図版 341 遺構外出土石器 (6)
写真図版 342 遺構外出土石器 (7)
写真図版 343 遺構外出土石器 (8)
写真図版 344 遺構外出土石器 (9)
写真図版 345 遺構外出土石器 (10)
写真図版 346 遺構外出土石器 (11)
写真図版 347 遺構外出土石器 (12)
写真図版 348 遺構外出土石器 (13)
写真図版 349 遺構外出土石器 (14)
写真図版 350 遺構外出土石器 (15)
写真図版 351 遺構外出土石器 (16)
写真図版 352 遺構外出土石器 (17)
写真図版 353 遺構外出土石器 (18)
写真図版 354 遺構外出土石器 (19)
写真図版 355 遺構外出土石器 (20)
写真図版 356 遺構外出土石器 (21)
写真図版 357 遺構外出土石器 (22)
写真図版 358 母岩別資料 剥片類 (1) 母岩 1a, 母岩 1b
写真図版 359 母岩別資料 剥片類 (2) 母岩 1c, 母岩 2a
写真図版 360 母岩別資料 剥片類 (3) 母岩 2b, 母岩 2c
写真図版 361 母岩別資料 剥片類 (4) 母岩 2e, 母岩 2f
写真図版 362 母岩別資料 剥片類 (5) 母岩 2g, 母岩 2h, 母岩 2i
写真図版 363 母岩別資料 剥片類 (6) 母岩 2j, 母岩 2k
写真図版 364 母岩別資料 剥片類 (7) 母岩 2l, 母岩 2m
写真図版 365 母岩別資料 剥片類 (8) 母岩 2n, 母岩 2o
写真図版 366 母岩別資料 剥片類 (9) 母岩 3 (1), 母岩 3 (2)
写真図版 367 母岩別資料 剥片類 (10) 母岩 4a, 母岩 4b
写真図版 368 母岩別資料 剥片類 (11) 母岩 5, 母岩 6
写真図版 369 母岩別資料 母岩 1a (1)
写真図版 370 母岩別資料 母岩 1a (2)
写真図版 371 母岩別資料 母岩 1a (3)
写真図版 372 母岩別資料 母岩 1a (4)
写真図版 373 母岩別資料 母岩 1b, 母岩 1c (1)
写真図版 374 母岩別資料 母岩 1c (2), 母岩 2a (1)
写真図版 375 母岩別資料 母岩 2a (2)
写真図版 376 母岩別資料 母岩 2a (3), 母岩 2b (1)
写真図版 377 母岩別資料 母岩 2b (2), 母岩 2c
写真図版 378 母岩別資料 母岩 2e, 母岩 2f
写真図版 379 母岩別資料 母岩 2g, 母岩 2h, 母岩 2i (1)
写真図版 380 母岩別資料 母岩 2i (2)
写真図版 381 母岩別資料 母岩 2j, 母岩 2k (1)
写真図版 382 母岩別資料 母岩 2k (2)
写真図版 383 母岩別資料 母岩 2l
写真図版 384 母岩別資料 母岩 2m (1)
写真図版 385 母岩別資料 母岩 2m (2), 母岩 2n (1)
写真図版 386 母岩別資料 母岩 2n (2), 母岩 2o
写真図版 387 母岩別資料 母岩 3 (1)
写真図版 388 母岩別資料 母岩 3 (2)
写真図版 389 母岩別資料 母岩 3 (3)
写真図版 390 母岩別資料 母岩 3 (4)
写真図版 391 母岩別資料 母岩 4a (1)
写真図版 392 母岩別資料 母岩 4a (2)
写真図版 393 母岩別資料 母岩 4a (3)
写真図版 394 母岩別資料 母岩 4a (4), 母岩 4b (1)

写真図版 395	母岩別資料	母岩 4b (2)	SK216・224・239・261・272 土坑出土礫石器	
写真図版 396	母岩別資料	母岩 4b (3)	写真図版 433	SK303・307・326 土坑出土礫石器
写真図版 397	母岩別資料	母岩 4b (4), 母岩 5 (1)	写真図版 434	SK600・609・614・619 土坑出土礫石器
写真図版 398	母岩別資料	母岩 5 (2)	写真図版 435	SK631・654・683 土坑出土礫石器
写真図版 399	母岩別資料	母岩 5 (3), 母岩 6	写真図版 436	SK694・724・735 土坑出土礫石器
写真図版 400	SI1 竪穴住居跡出土礫石器		写真図版 437	SX739 配石遺構出土礫石器
写真図版 401	SI20 竪穴住居跡出土礫石器 (1)		写真図版 438	SX180・288 土器埋設遺構出土礫石器, SX17 遺物包含層出土礫石器
写真図版 402	SI20 竪穴住居跡出土礫石器 (2), SI22 竪穴住居跡出土礫石器 (1)		写真図版 439	SX732 遺物集中出土礫石器, SX582 焼土集積出土礫石器
写真図版 403	SI22 竪穴住居跡出土礫石器 (2)		写真図版 440	組み合わない柱穴出土礫石器 (1)
写真図版 404	SI22 竪穴住居跡出土礫石器 (3)		写真図版 441	組み合わない柱穴出土礫石器 (2)
写真図版 405	SX372 ～ 377 炉跡出土礫石器		写真図版 442	SX14 遺物包含層出土礫石器 (1)
写真図版 406	SB358・362 掘立柱建物跡出土礫石器, SB611 掘立柱建物跡出土礫石器 (1)		写真図版 443	SX14 遺物包含層出土礫石器 (2), SX17 遺物包含層出土礫石器 (1)
写真図版 407	SB611 掘立柱建物跡出土礫石器 (2)		写真図版 444	SX17 遺物包含層出土礫石器 (2)
写真図版 408	SB611 掘立柱建物跡出土礫石器 (3), SX733 炉跡出土礫石器		写真図版 445	SX17 遺物包含層出土礫石器 (3), SX361 遺物包含層出土礫石器
写真図版 409	SB740 掘立柱建物跡出土礫石器		写真図版 446	SX608・610 遺物包含層出土礫石器
写真図版 410	SX2 竪穴状遺構出土礫石器 (1)		写真図版 447	SX717 遺物包含層出土礫石器 (1)
写真図版 411	SX2 竪穴状遺構出土礫石器 (2), SX3 竪穴状遺構出土礫石器		写真図版 448	SX717 遺物包含層出土礫石器 (2)
写真図版 412	SX4 竪穴状遺構出土礫石器 (1)		写真図版 449	SX717 遺物包含層出土礫石器 (3)
写真図版 413	SX4 竪穴状遺構出土礫石器 (2), SX7 竪穴状遺構出土礫石器 (1)		写真図版 450	遺構外出土礫石器 (1)
写真図版 414	SX7 竪穴状遺構出土礫石器 (2)		写真図版 451	遺構外出土礫石器 (2)
写真図版 415	SX155・622 竪穴状遺構出土礫石器, SX647 竪穴状遺構出土礫石器 (1)		写真図版 452	遺構外出土礫石器 (3)
写真図版 416	SX647 竪穴状遺構出土礫石器 (2), SX1008・1018 竪穴状遺構出土礫石器		写真図版 453	遺構外出土礫石器 (4)
写真図版 417	SK28 フラスコ状土坑出土礫石器, SK40 フラスコ状土坑出土礫石器 (1)		写真図版 454	遺構外出土礫石器 (5)
写真図版 418	SK40 フラスコ状土坑出土礫石器 (2), SK87・90 フラスコ状土坑出土礫石器		写真図版 455	遺構外出土礫石器 (6)
写真図版 419	SK91・95 フラスコ状土坑出土礫石器		写真図版 456	遺構外出土礫石器 (7)
写真図版 420	SK108・126・133 フラスコ状土坑出土礫石器		写真図版 457	遺構外出土礫石器 (8)
写真図版 421	SK134・191・196・197・フラスコ状土坑出土礫石器		写真図版 458	遺構外出土礫石器 (9)
写真図版 422	SK206・214・241・244 フラスコ状土坑出土礫石器		写真図版 459	遺構外出土礫石器 (10)
写真図版 423	SK253・265 フラスコ状土坑出土礫石器, SK266 フラスコ状土坑出土礫石器 (1)		写真図版 460	遺構外出土礫石器 (11)
写真図版 424	SK266 フラスコ状土坑出土礫石器 (2), SK267 フラスコ状土坑出土礫石器, SK274 フラスコ状土坑出土礫石器 (1)		写真図版 461	遺構外出土礫石器 (12)
写真図版 425	SK274 フラスコ状土坑出土礫石器 (2), SK276・280 フラスコ状土坑出土礫石器		写真図版 462	SX2・4・7・1018 竪穴状遺構出土石製品, SK28・40 フラスコ状土坑出土石製品, SK633 土坑出土石製品, SX717 遺物包含層出土石製品
写真図版 426	SK315・317・508・606 フラスコ状土坑出土礫石器, SK612 フラスコ状土坑出土礫石器 (1)		写真図版 463	SK72・196・214・242 フラスコ状土坑出土石製品
写真図版 427	SK612 フラスコ状土坑出土礫石器 (2), SK721 フラスコ状土坑出土礫石器		写真図版 464	SK262・267 フラスコ状土坑出土石製品
写真図版 428	1 区南東隅土坑群 (フラスコ状土坑) 出土礫石器, SK583 落とし穴状土坑出土礫石器		写真図版 465	SK315・606 フラスコ状土坑出土石製品, SK147・230 土坑出土石製品
写真図版 429	SK31・37・44・63・75・79・121 土坑出土礫石器		写真図版 466	SK623・1014 土坑出土石製品, SX739 配石遺構出土石製品, 組み合わない柱穴出土石製品 (1)
写真図版 430	SK135・151・154 土坑出土礫石器		写真図版 467	組み合わない柱穴出土石製品 (2)
写真図版 431	SK176・189 土坑出土礫石器, SK190 土坑出土礫石器 (1)		写真図版 468	組み合わない柱穴出土石製品 (3), SX14 遺物包含層出土石製品, SX17 遺物包含層出土石製品 (1)
写真図版 432	SK190 土坑出土礫石器 (2),		写真図版 469	SX17 遺物包含層出土石製品 (2), SX610・717 遺物包含層出土石製品
			写真図版 470	遺構外出土石製品 (1)
			写真図版 471	遺構外出土石製品 (2)
			写真図版 472	遺構外出土石製品 (3)
			写真図版 473	遺構外出土石製品 (4)

第1章 遺跡の周辺環境

第1節 地理的環境

位置 谷地遺跡は宮城県刈田郡蔵王町大字円田字谷地地内に所在する。町域東部の河岸段丘面上に位置し、付近の標高は約128mを測る。

蔵王町は東北地方南部太平洋側、奥羽脊梁山脈に連なる蔵王連峰の東麓に位置する（第1図）。行政区分では宮城県南西部の刈田郡に属し、西側で山形県境と接する。県庁所在地の仙台市からは南西約30kmの距離にある。

地勢 蔵王町の町域は東西に長く、東西23km、南北13km、面積152.83km²である。明治22年の市町村制の施行以前は宮・曲竹・矢附・円田・塩沢・平沢・小村崎の7か村に分かれていたが、単独の宮村とこれ以外の6か村を合併した円田村に再編された。昭和30年には宮・円田村が合併して町制施行され、現在の町域となった。

町域内の標高は最高点が西端の屏風岳で約1,825m、最低点が南東部の松川と白石川の合流点で約20mを測る。大まかに見ると、西部は蔵王連峰の山岳地帯（標高500m以上）と高原地帯（標高300～500m）、東部は丘陵地帯（標高300m以下）となっており、町域を貫流する河川流域に小規模な盆地と河岸段丘からなる平野を擁する（第2・3図）。

地目別に見ると町域の57.1%(87.6km²)は山林であり、田が7.2%(11.0km²)、畑が11.4%(17.5km²)、宅地が4.1%(6.3km²)、原野が2.2%(3.4km²)などとなっている（註1）。果樹栽培と稲作が盛んな地域であり、丘陵部では山林を切り拓いた果樹園や畑がモザイク状に分布し、盆地底面や低位段丘面の平野部が畑や水田として利用されている。また、高原地帯では酪農や高原野菜の栽培を行なう牧草地や畑が拓かれている。

地形・地質 町域の大部分を支配する地形は西部の蔵王連峰の山々と南部の青麻山である。宮城・山形県境を南北に連なる蔵王連峰には多数の成層火山が存在し、青麻山を含む蔵王火山群を形成している（伴ほか2015）。このうち最高峰の熊野岳（1,841m）を中心とする鳥兜山・五郎岳・地藏山・五色岳・刈田岳などの山々が蔵王山（蔵王火山）と総称されている。蔵王火山の北方には龍山火山、雁戸山火山、北蔵王火山（神室岳・大東岳など）、南方に南蔵王火山（後烏帽子岳・杉ヶ峰・屏風岳・不忘山など）、冷水山火山、西方に西蔵王火山が隣接し、南蔵王火山の東方に青麻火山が位置する。

蔵王火山群の活動は約100～200万年前に始まった。最新期の活動は蔵王火山で約3.5万年前に始まり、御釜―五色岳火山体を形成した。この活動は現在まで断続的に続いており、歴史時代の噴火記録は東北地方で最多である。山頂周辺では爆裂火口やカルデラ、各火山の噴出物からなる溶岩台地、山麓では火山泥流・火砕流の堆積物からなる火山扇状地などの火山地形が見られる。東方山麓では多数のテフラ層が確認され、最新期活動の中で最大規模の約3万



第1図 遺跡の位置

註1. 平成5年1月1日時点。町域西部を中心に蔵王国定公園・蔵王高原県立自然公園として自然保護区域が設定されている。



蔵王火山（北から）

第1章 遺跡の周辺環境

年前の噴火の噴出物（註2）は北東約40kmの仙台市街地周辺まで分布する。山頂周辺の溶岩台地では大規模な高層湿原が見られ、火山地形を開析する松川源流の澄川・濁川は溶岩流末端で滝となって流下し深い峡谷を形成している。青麻火山は30～40万年前の活動で山体を形成した後、開析が進んでいる。

町域の東部を占める丘陵地帯は第三紀層を基盤とする。火山性堆積物に富んだ陸成・湖成層で、後述の円田盆地を中心として陥没構造が認められる（北村1985）。丘陵地を広く覆う薄木層は火砕流堆積物と見られる軽石質凝灰岩を含み（註3）、一部クロスミナを示す。円田盆地西縁に分布する円田層は薄層理の発達した湖成層で、珪藻土を含む（註4）。

こうした地形・地質の基底は中生代白亜紀の花崗岩類と、これを不整合に覆う第三紀中新世の凝灰岩類（グリーンタフ）である。奥羽脊梁山脈では花崗岩の一部が標高約1,490mの名号峰山頂まで、凝灰岩類は標高約1,000m付近まで分布している。

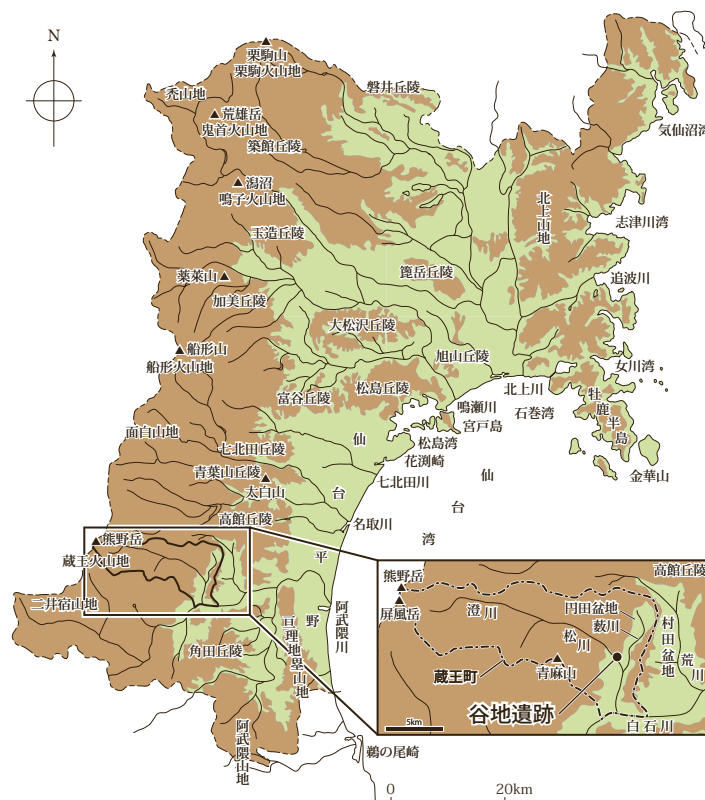
蔵王連峰と裾野の丘陵地を開析しながら東流する松川は、青麻山の東麓で流路を南へ向けて白石川に注ぐ。町域の東部に河岸段丘面を形成し、北東部では支流の藪川流域に円田盆地を擁する（第4図）。松川河岸段丘群は主に松川左岸で上位から遠刈田段丘面、永野段丘面、矢附段丘面に区分される。また、青麻山東麓では谷底の主面に曲竹段丘面が形成されている。円田盆地は東西1.2km、南北3.5kmの底面を持ち、南を除く三方を丘陵が画する。盆地北側から西側にかけては高木丘陵、東側は愛宕山丘陵と通称されている。盆地内を蛇行しつつ南流する藪川は自然堤防が未発達で、流域に湿地帯を形成した。

谷地遺跡は松川左岸の矢附段丘面上に立地する。周辺の微地形は後背湿地と微高地が交互に連なり、微高地上に複数の縄文時代遺跡が立地する。やや広い微高地上に立地する本遺跡は、東方へ向かって延びる後背湿地の谷頭にあたる。この後背湿地に沿って「谷地」、「西浦」、「東浦」の小字名が連なり、近年までの土地利用にも反映されてきた（第5・6図）。

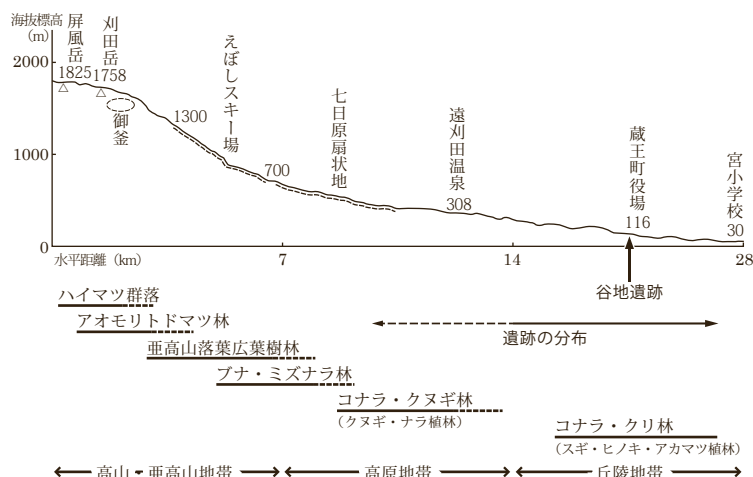
註2. 「蔵王川崎スコリア」（板垣ほか1981）と呼称され、宮城県南部における後期旧石器時代の鍵層となっている。

註3. 薄木層中の軽石質凝灰岩は黒曜石を含む（佐々木2009）。町内出土石器の分析から縄文時代の利用が確認されている（杉原ほか2011）。

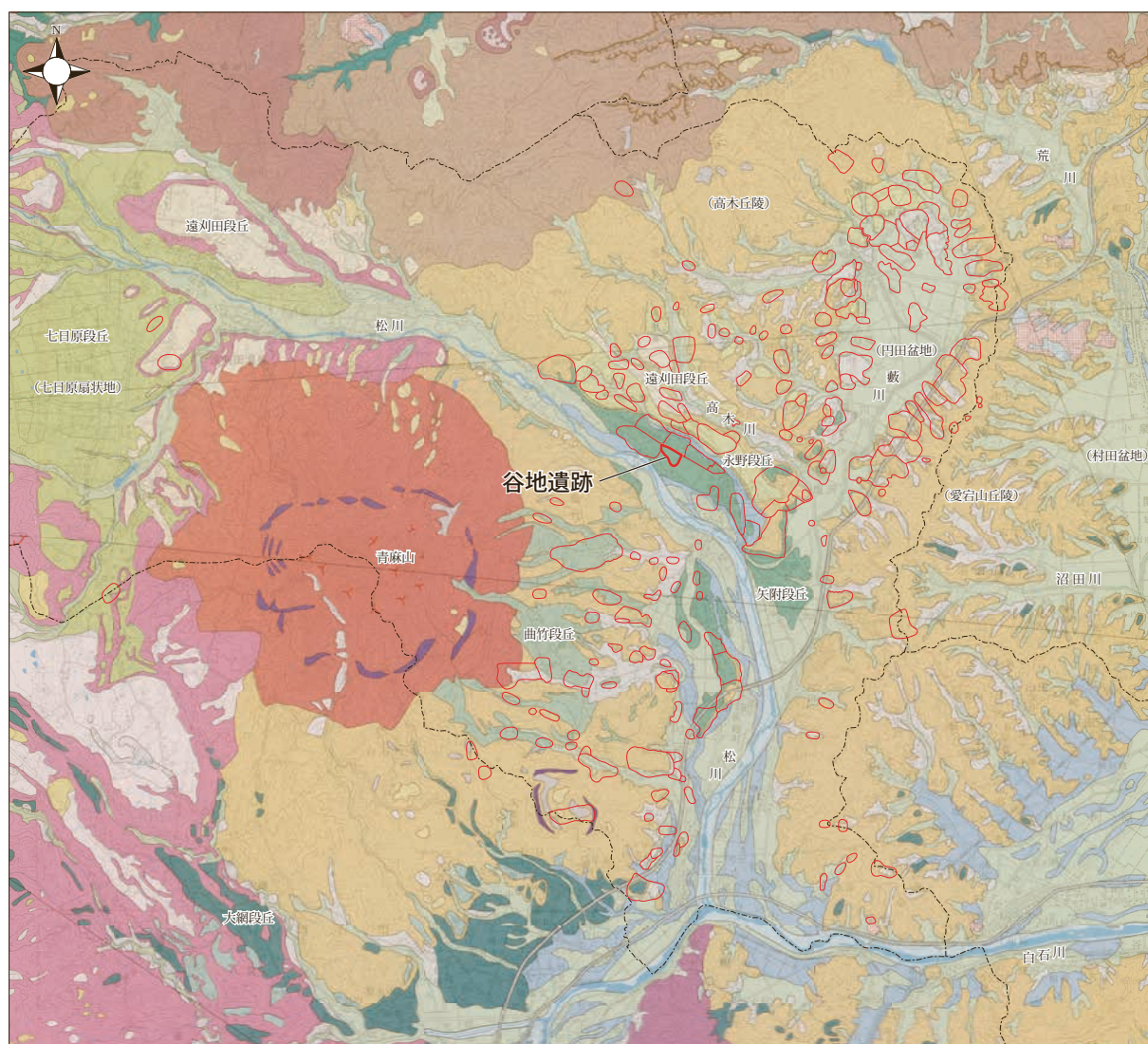
註4. 明治時代末期から昭和30年頃にかけて盛んに採掘され、「円田珪藻土」として各地に出荷された（町史通史編）。



第2図 遺跡の立地



第3図 蔵王東麓地域の模式断面と植生・遺跡の分布



山地及び丘陵地

(蔵王火山)

山麓丘陵地

(青麻火山)

山地

尖頂峰

火山性急崖

(非火山性山地)

奥羽山脈の山地(峯々)

大鳥谷山地

山頂平坦地(大森付近)

大萩山山地

(非火山性丘陵地)

高い丘陵地

低い丘陵地

頂部平坦地

高位谷底

旧火山性急崖

低地

河岸平野・谷底平野

(後背湿地を区別した区域では自然堤防)

後背湿地

河原及び堤内地

台地及び段丘

高位段丘

(蔵王東麓段丘群)

火山泥流台地(弥治郎泥流台地)

遠刈田段丘

七日原段丘

川原子段丘

蔵本段丘

大網段丘

(松川段丘群)

永野段丘

曲ヶ竹段丘

矢附段丘

低位段丘

その他

人工平坦地(主として切土による部分)

人工平坦地(主として盛土による部分)

支倉川流域と荒川流域の間の崖線

遺跡

遺跡範囲(蔵王町域内のみ)

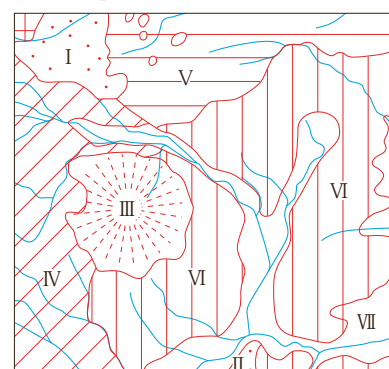
行政界

市町の境界

1:100,000

2000m 0 2000 4000

この地図は、国土調査による1/50,000土地分類基本調査(地形分類図)「白石」(宮城県1983)を使用して作成したものである。



地形区分図

I 大鳥谷山地

II 大萩山地

III 青麻火山

IV 蔵王山麓丘陵地

V 高い丘陵地

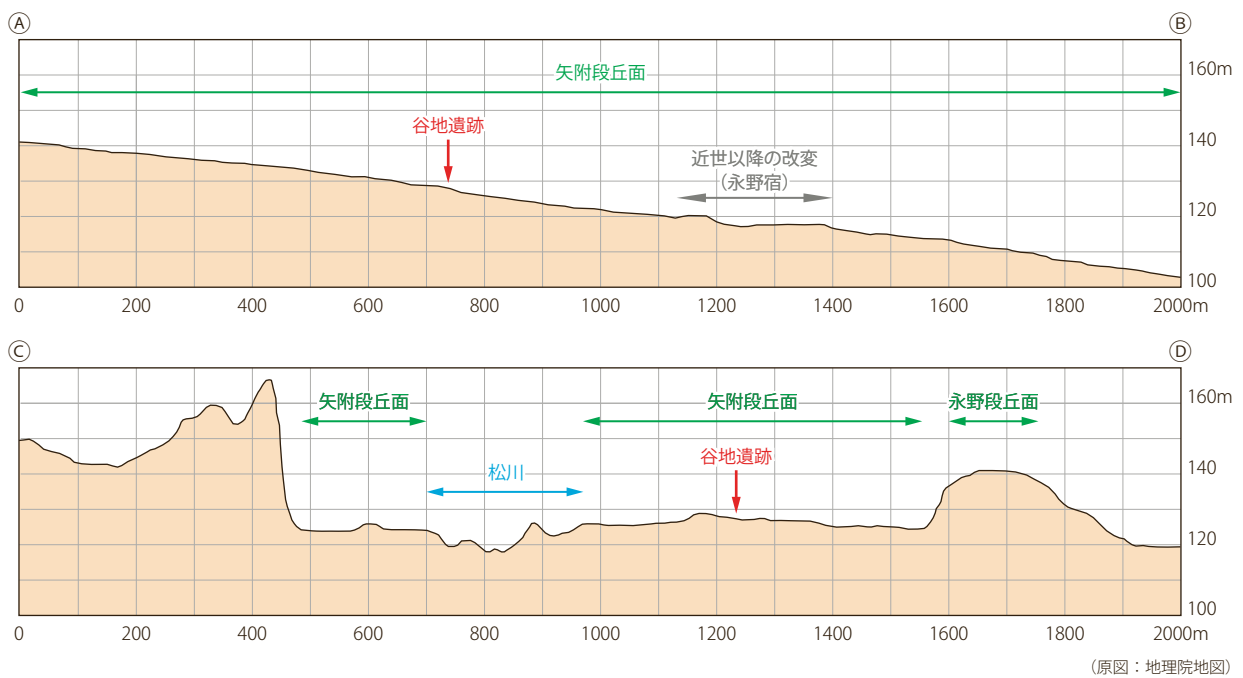
VI 低い丘陵地

VII 白石川河岸平野

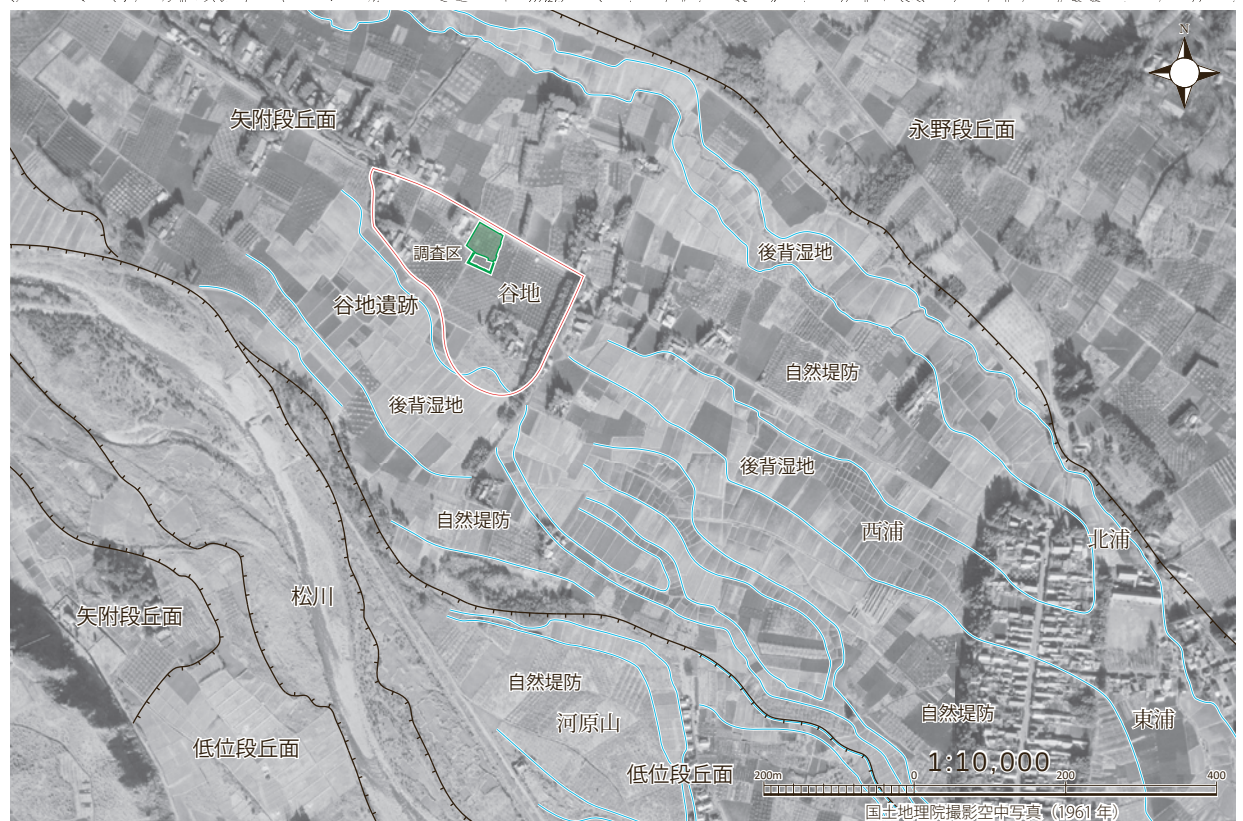
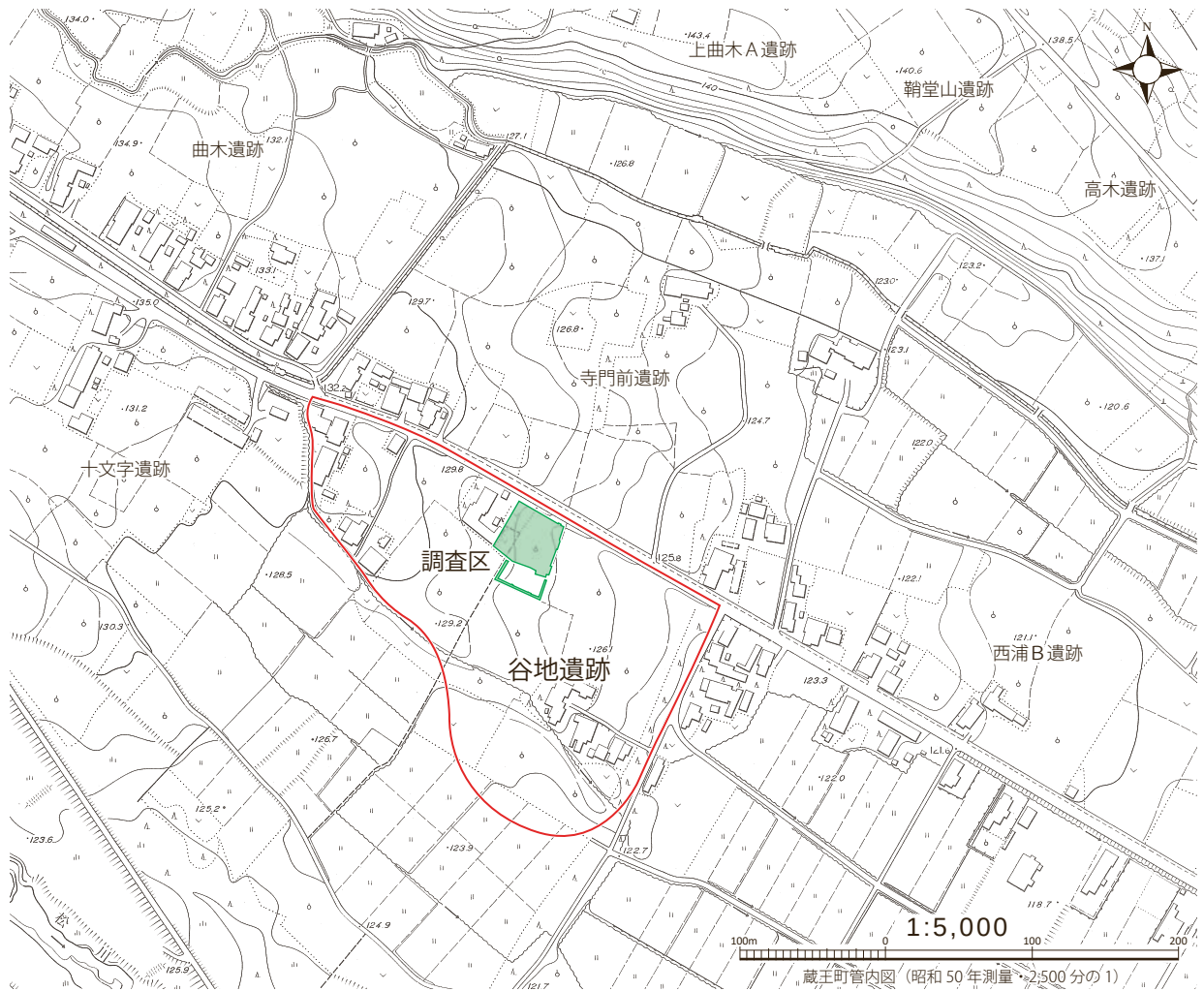


行政区分図

第4図 蔵王町東部の地形区分と遺跡の分布



第5図 遺跡周辺の地形



第6図 調査区周辺の地形

気候 宮城県地方の気候は温帯湿潤気候に区分されるが、西部は奥羽脊梁山脈の、東部沿岸は海洋性気候の影響下にあり、地理的条件による変異が大きい。県南地方の東部沿岸は福島県浜通り地方の気候と共通し、夏季は冷涼で冬季は緯度の割に温暖であるのに対して、蔵王町域を含む西部山沿いは福島県中通り地方の気候と共通し、より寒冷で積雪も多く、豪雪地帯に指定されている。

町域東部の丘陵地帯における平均気温は月別で 1.0℃（1 月）～ 24.3℃（8 月）、年間で 11.8℃である（註 5）。年間の降水量 1,190mm で冬季の積雪は少ない。隣接地域と比較して冬季でも温暖であり、これを反映して青麻山東麓の標高 150m 付近ではウラジロガシ林が見られる。高原地帯の平均気温は月別で -1.1℃（2 月）～ 23.4℃（8 月）、年間で 11.1℃である（註 6）。年間の降水量 1,624mm で夏季の雨量が多い。晩秋から早春にかけて北西の季節風が卓越し、強風による土壌の風食も見られる。高山地帯の平均気温は月別で -9.9℃（1 月）～ 15.9℃（8 月）、年間で 2.6℃である（註 7）。晩秋から早春にかけて常時強い西風が吹き、40m/s を超えることも珍しくない。こうした厳しい気象条件の下、山頂付近のアオモリトドマツ林では樹氷や霧氷が発達し、刈田岳南東斜面や北屏風岳の広大な北斜面などに一大樹氷原の形成を見る。

町域内の遺跡は大半が気候の穏やかな丘陵地帯に分布し、高原地帯には現在のところ数か所を数えるに過ぎない（第 3・4 図、註 8）。高原地帯に本格的な集落形成が見られるのは、遠刈田温泉地区での鉱山開発や温泉利用、七日原地区での牧場経営などが行なわれる近世以降のことと考えられる。

動植物相 町域東部の丘陵地帯を流れる松川・藪川流域に形成された沖積平野と段丘面、これに面した丘陵地は先史時代以降の主要な人間活動の場として利用されてきた。現在は平野部を中心に水田・畑などの農耕地が開け、丘陵部では畑・果樹園などの農耕地と山林がモザイク状に分布している。丘陵部の山林の多くはスギ・ヒノキ・アカマツの植林地となっているが、概ね 1960 年代まではコナラ・クリを主体とした落葉広葉樹林で占められていた（第 3 図）。これらは伐採による萌芽更新など人間の森林利用によって保たれてきた二次林である。蔵王山麓におけるこうした二次林の利用が窺われる事例は、縄文時代の七ヶ宿町小梁川遺跡などで考古学的にも確認されている（註 9）。

高原地帯では東部にコナラを主体とした二次林が広がり、近世～近代にかけて多くの木地集落を擁した（註 10）。また薪炭の生産も盛んであったが、これらの伐採が進んだ後は卓越風の影響によって植生の回復を見ず（註 11）、現在はクヌギ・ナラ・スギ・カラマツなどの植林が試行されている。西部の烏帽子岳中腹にかけては冷温帯落葉広葉樹林の山地帯で、広大なブナ・ミズナラ林が形成されている。ミズナラ林は比較的新期の蔵王山の噴火によってブナ林が破壊された後に再生した二次林と考えられている。

亜高山帯では常緑針葉樹林のアオモリトドマツ林が広大な森林を形成している。屏風岳東面の断崖には亜高山落葉広葉低木林が分布する。さらに高度を増した高山帯では高木の生育は見られず、ハイマツ低木林が分布する。火山荒原となる山頂付近ではガンコウラン・イワカガミなどの高山植物がカーペット状



松川中流域の景観



円田盆地の景観



円田盆地を流れる雁柄川（藪川支流）

註 5. 曲竹地区（現蔵王高校・標高 100m 地点）における 1965～1972 年の記録（町史通史編所収）による。

註 6. 遠刈田温泉地区（遠刈田小学校・標高 310m 地点）における 1966～1969 年の記録（町史通史編所収）による。

註 7. 遠刈田温泉地区と山形県蔵王温泉地区の実測値を基にした蔵王山頂（標高 1840m）の計算値（町史通史編所収）。

註 8. 南に隣接する白石市域では、不忘山東麓から青麻山南麓にかけての標高 700m 付近まで多数の遺跡が分布する。把握されている遺跡の時期は縄文時代早期が多い。

註 9. 七ヶ宿町小梁川遺跡（縄文時代中期）ではフラスコ状土坑の多くで底面直上に炭化物集積層が確認され、352 号土坑では多量のトチの種子が含まれていた（宮城県教育委員会ほか 1987）。蔵王町十郎田遺跡では飛鳥時代（7 世紀後半）の囲郭集落を構成した材木堀の用材がほぼ全てクリ材であり、鎌倉時代（13 世紀）の SE66 井戸跡から出土した挽物未成品 180 点の用材は全てケヤ

の群落を形成し、砂礫地にはコマクサも見られる。

こうした植物相を背景として、町域内には大型獣のニホンツキノワグマ・ニホンカモシカ、中小型獣のホンダヌキ・ホンドギツネ・トウホクノウサギ・ホンドリス・ホンDOIタチ・オコジョ・ムササビ・ネズミ類・モグラ・ヤマネ・コウモリ類などの哺乳動物をはじめとする多様な動物が生息している。

陸水域においては、松川・藪川流域でイワナ・ニジマス・ヤマメ・カジカ・アブラハヤ・コイ・フナ・ドジョウ・ウナギ・ナマズ・ニゴイ・サケなど多様な魚類の生息が見られる。ただし強酸性湖の御釜とその浸透水を源流とする濁川^{にぎりかわ}では魚類の生息がほとんど見られない。蔵王火山の活動が活発化するたび、濁川から松川と下流の白石川に大量の酸性水が流入して流域の魚類が死滅したり農耕地に被害を与えることがあった。

第2節 石器石材環境

石器石材の組成 谷地遺跡および周辺の縄文時代遺跡では、珪質頁岩・頁岩・ガラス質流紋岩（註12）・珪化凝灰岩・碧玉・玉髄・玉髄質珪化木・黒曜石などを利用した石器が出土している。最も普遍的に利用された石材は珪質頁岩であり、非常に良質なものが多く見られる。これ以外の利用石材は極めて多様な様相を示すが、比較的多く利用されたものにはガラス質流紋岩・頁岩・珪化凝灰岩・珪質シルト岩・碧玉・玉髄・玉髄質珪化木・黒曜石などがある。

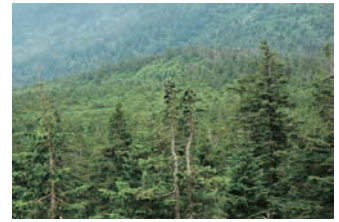
石器石材の分布と特徴 蔵王東麓地域の大部分は、阿武隈川水系白石川圏域に属する。蔵王町域の主要河川は、火山地形を開析する澄川・濁川・秋山沢川などを源流として白石川へ注ぐ松川である。町域東部では松川左岸側の丘陵地に高木川・堀の内川・鎌倉沢川・藪川、右岸側の青麻山東麓部に我戸川・黄金川・森の川などの小河川を支流として擁する。これらの河川における石器石材の分布は概して希薄であり、当地域では白石川流域の比較的広い地域から各種の石材が調達されたと想定される。ここでは、いくつかの先行研究（註13）も参照しながら当地域の石器石材の分布と特徴について述べる。

松川の河床には、礫石器の石材として多用される安山岩類・花崗岩類・玄武岩類・流紋岩類・凝灰岩類・泥岩類が分布する。安山岩類・花崗岩類は磨製石斧の石材としても利用されている。ただし、石棒類の素材として多用される柱状節理による角柱状の安山岩類はあまり見られない。剥片剥離に適した石器石材の分布は極めて希薄である。遺跡付近の松川では稀にガラス質流紋岩・玉髄・碧玉・珪質シルト岩・シルト岩が見られるものの、粒径が小さいか石質の粗いものが多く石器石材としての利用に適したものはほとんど認められない。

青麻山東斜面から松川右岸に注ぐ支流の黄金川・森の川では河床礫がほぼ安山岩類に限定され、石器石材として利用可能なものは認められない。

松川左岸に注ぐ支流の黒沢川・高木川・藪川では、黒曜石・ガラス質流紋岩・頁岩・碧玉などが分布する。

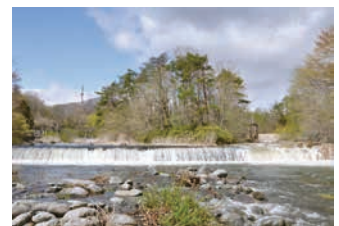
黒沢川上流部の支谷では、ガラス質流紋岩・頁岩が産出する。ガラス質流



アオモリトドマツ林



七日原扇状地（南東から）



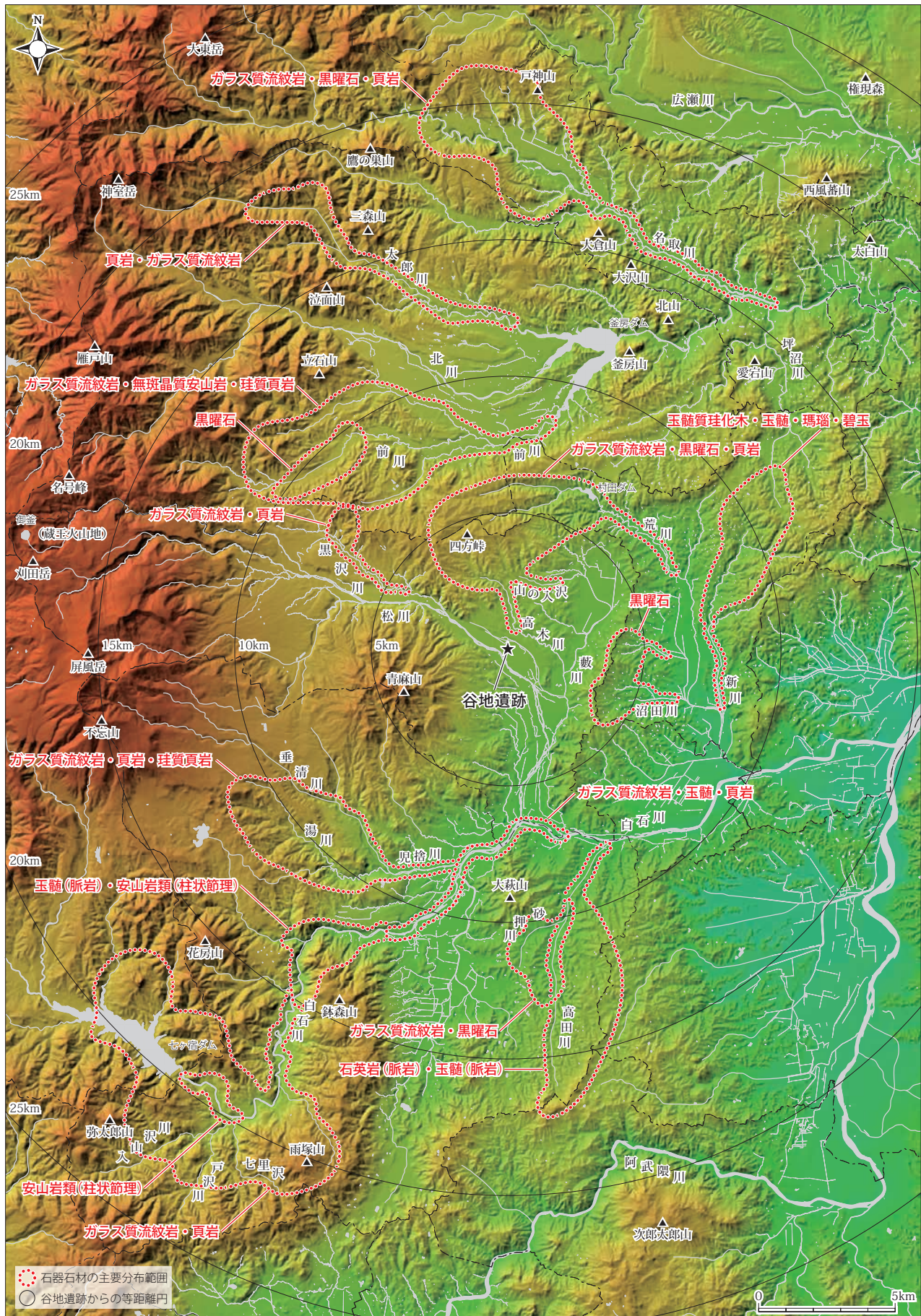
澄川・濁川の合流点

キであった（町14集）。

註10. 遠刈田新地（蔵王町）、青根（川崎町）、弥治郎（白石市）、横川（七ヶ宿町）、蔵王温泉高湯（山形市）など。

註11. 卓越風の影響を強く受ける七日原扇状地は近世においても原野であり、1743年に七日原牧場が拓かれたが厳しい環境下での経営は困難を極めた（『片倉代々記』など。町史資料編Ⅱ所収）。牧場経営は近代まで続いたが振るわず、明治後期にはスギ・クスノギなどの植林事業に転じた（町史通史編）。戦後は引揚者の入植などによって開拓が進み、現在は牧草地や高原野菜を栽培する畑としての利用が多い。

註12. 流紋岩は粘度の高いマグマが地表付近で固結した溶岩であるが、噴出条件や結晶度により多様な岩相を示す。石基は緻密でガラス質の場合と細粒の結晶質の場合があり、石英・長石の斑晶を多く含むものが普通だが、無斑晶のものも見られる。石器石材として利用可能なものは石基がガラス質のものであり、これを「ガラス質流紋岩」として区別する。また、火砕流堆積物



この地図は、国土院が提供する地理院タイル（標高タイル）および国土交通省国土政策局が提供する国土数値情報（行政区画・河川）を利用して編集・加工したものである。

第7図 蔵王東麓地域の石器石材分布

第2節 石器石材環境

紋岩は黒灰色・青灰色・赤紫色を呈し、斑晶と流理構造を認める。粒径 15 ～ 20cm 程度を主体に、青灰色のものには 60cm を超える大型の原石も見られる。また、緻密・無斑晶質で黒色を呈するものがある。頁岩は粒径 15 ～ 20cm 程度で黒色・灰色を呈する。

また、高木川・藪川上流域と、村田町西部の荒川上流域では黒曜石（註 14、蔵王産黒曜石）・ガラス質流紋岩・頁岩・碧玉が産出する。黒曜石・ガラス質流紋岩は蔵王町東部から村田町西部にかけて分布する新第三紀の薄木層に包含されるもので（佐々木 2009）、高木川・荒川上流部にやや粒径の大きい原石が産出する（註 15）。黒曜石は粒径 3 ～ 10cm 程度で黒色～黒灰色不透明を呈し、斑晶と流理構造を認める。ガラス質流紋岩は粒径 15 ～ 20cm 程度で灰色・青灰色・紫灰色を呈する。斑晶と流理構造を認めるものが多いが、緻密・無斑晶質で珪質頁岩に近い剥離特性を示すものも見られる。頁岩は粒径 15 ～ 20cm 程度で黒色を呈する。碧玉は藪川に見られ、粒径 15cm 程度で黄白色を呈する。

黒曜石は仙台市西部・秋保地区の名取川上流域（秋保産）、川崎町西部の前川上流域（川崎産）、白石市東部・白川地区の高田川流域（白石産）でも産出する。秋保産黒曜石は新第三紀の白沢層に包含されるものである。一部が黒曜石化した流紋岩質マグマの岩頸からの転礫（向井 2006、金成ほか 2010）と、白沢層内の馬場凝灰岩に発達する未固結の砂礫層（深野層）に含まれるもの（高橋・野田 1965）とがある。砂礫層中でも巨礫～大礫におよぶものがある。黒灰色不透明を呈し、斑晶と流理構造を認める。川崎産黒曜石は新第三紀の遠刈田層に包含されるもので、粒径 5cm 程度で角が丸みを帯びたマレカナイト型の形状を示す（向井 2006、佐々木 2013）。黒色～黒灰色半透明を呈し、無斑晶質で流理構造を認める。白石産黒曜石は新第三紀の白石層に包含されるものである（註 16）。粒径 3cm 程度で黒色半透明を呈し、斑晶と流理構造を認める。

村田町東部の新川流域では玉髄質珪化木（註 17）・玉髄・瑪瑙・碧玉・珪化凝灰岩が産出する（註 18）。新第三紀の槻木層に包含されるもので、粒径 10 ～ 30cm 程度のものが多いが、露頭では 60cm 大の大型の原石も見られる（註 19）。玉髄質珪化木は茶褐色・黄白色・乳白色を呈し、珪化の進行度合いによって透明度が異なる。また、不純物や空隙を含むことがある。母材の芯部に向かって遷移するものが多く、芯部がほぼ無色透明のものも見られる。このため河床礫として淘汰が進行し、玉髄化した芯部のみとなったものは母材が珪化木と判断できない。瑪瑙は茶褐色半透明の飴色を呈する。碧玉は茶褐色・黄白色・乳白色・緑色を呈し、中空の茎状組織あるいはその痕跡を特徴的に認めるものがある。珪化凝灰岩は白色・黄白色を呈し、均質緻密である。

白石市の白石川中流域では玉髄・ガラス質流紋岩などのほか、石棒の素材として利用される柱状節理の安山岩類が分布する。

西部の小原溪谷（小原温泉付近）では玉髄が産出し、ガラス質流紋岩・碧玉も分布する。玉髄は鉢森山安山岩の岩石中に脈岩として形成されたもので（須田 2000）、粒径 3 ～ 10cm 程度の原石が見られる。乳白色半透明を呈し、均質なものが多い。ガラス質流紋岩は粒径 20 ～ 40cm 程度で黒灰色・青灰色・紫灰

に伴う溶結凝灰岩の一部は流紋岩との判別が困難であるが、これらは結晶質のものが多い。

註 13. 宮城県の石器石材については須田富士子らの研究（須田ほか 2000、須田 2004）がある。東北地方の珪質頁岩については秦昭繁（1998・2001・2003 など）の研究がある。黒曜石については多岐に及ぶが、近年のものとしては各原産地の記載と蛍光 X 線分析について述べた佐々木繁喜（1997・2013・2016 など）、向井正幸（2006）、金成太郎・杉原重夫ら（2010 など）の研究がある。また、当地域の黒曜石と村田町新川流域の玉髄質珪化木について分布調査を行なった高橋健寿氏のご教示を得た。

註 14. 黒曜石については高橋健寿氏の分布調査により、高木川で最大 9.3cm、藪川で 6.1cm、荒川で 8.8cm の原石が採取されている。供給源の調査を行なった佐々木繁喜氏は、高木川上流部の四方峠付近の薄木層中に黒曜石が包含されることを確認している（佐々木 2009）。薄木層は火砕流堆積物とみられる。原石の蛍光 X 線分析の結果、既知の産出地の黒曜石とは元素組成で一致しないことから、「蔵王系」として新たに産出地が設定された（杉原ほか 2011）。なお、荒川上流域（村田町谷山地区）では薄木層の基底礫層中に秋保・川崎産黒曜石が二次堆積しており（佐々木 2013）、荒川流域の河床礫中には秋保・川崎・蔵王産黒曜石が混在する。

註 15. 蔵王産黒曜石を含む薄木層は蔵王町・村田町境の愛宕山丘陵にも分布し、村田町側の沼田川でも産出する。

註 16. 白石市西部に分布する弥太郎流紋岩は白石層とほぼ同時期と考えられている（北村ほか 1998）。七ヶ宿ダム南東の弥太郎山、熊鷹山、雨塚山などのほか、北東側では流紋岩質マグマの岩脈も知られており、これらに伴う黒曜石の存在が予想される。

註 17. 新川流域では多量の珪化木



1. 松川（弁天橋付近）



2. 松川（松川橋付近）



3. 松川（左：安山岩類・右：花崗岩類）



4. 黒沢川支谷（土浮山鉱山入口付近）



5. 黒沢川支谷（ガラス質流紋岩）



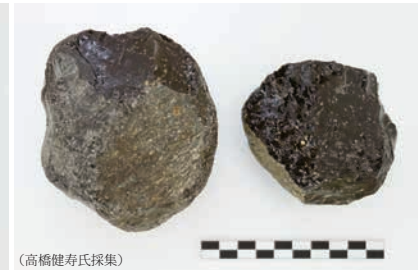
6. 黒沢川支谷（上：頁岩・下：ガラス質流紋岩）



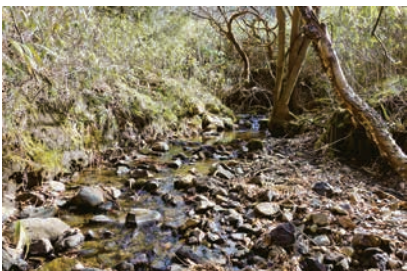
7. 高木川（円田字根無藤）



8. 高木川（左：ガラス質流紋岩・右：頁岩）



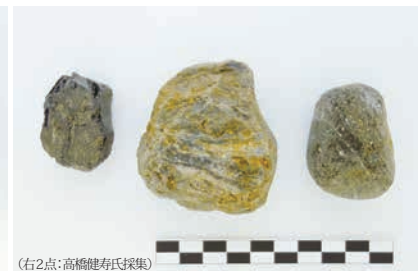
9. 高木川（黒曜石）
(高橋健寿氏採集)



10. 藪川上流部（広域農道付近）



11. 藪川上流部(左からガラス質流紋岩・碧玉・頁岩)



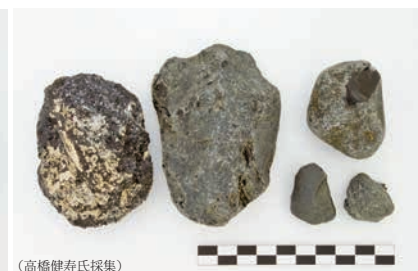
12. 藪川上流部（黒曜石）
(右2点:高橋健寿氏採集)



13. 荒川上流部（谷山溪谷）



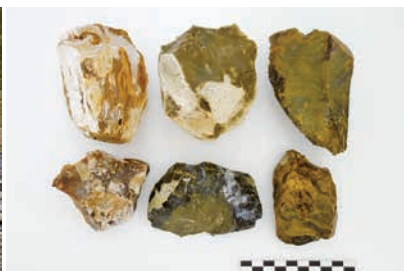
14. 荒川上流部（谷山溪谷，ガラス質流紋岩）



15. 荒川（黒曜石）
(高橋健寿氏採集)



16. 新川（樋口付近）



17. 新川（左上:玉髄質珪化木・左下:瑪瑙・中右:碧玉）



18. 槻木層中の玉髄質珪化木（一子沢付近）

写真1 石器石材の分布調査(1)



1. 白石川（小原溪谷・小原温泉付近）



2. 白石川（小原溪谷，安山岩中の玉髓脈）



3. 白石川（小原溪谷，安山岩岩脈の柱状節理）



4. 白石川（小原溪谷，安山岩岩脈の柱状節理）



5. 白石川（七ヶ宿ダム付近，安山岩岩床の柱状節理）



6. 白石川（七ヶ宿ダム付近，安山岩岩床の柱状節理）



7. 入山沢川（戸沢川合流点付近）



8. 入山沢川（上：ガラス質流紋岩・左下：頁岩・右下：玉髓）



9. 入山沢川（柱状節理安山岩礫）



10. 白石川（松川合流点付近）



11. 白石川（白石盆地内，玉髓）



12. 白石川（白石盆地内，左：碧玉・右：チャート）



13. 白石川（白石盆地内，頁岩）



14. 児捨川（中ノ川橋付近）



15. 児捨川（上：珪質頁岩・左下：ガラス質流紋岩・右下：流紋岩）



16. 高田川（花崗閃緑岩の岩盤）



17. 高田川（石英岩）



18. 高田川（黒曜石）

写真2 石器石材の分布調査（2）



1. 高田川支流砂押川（白川犬卒都婆字川押）



2. 高田川支流砂押川（ガラス質流紋岩）



3. 前川（前川橋付近）



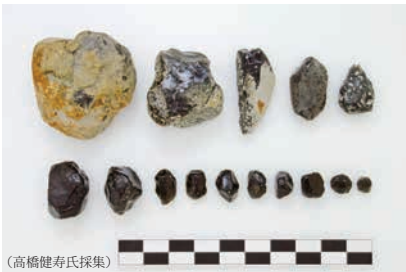
4. 前川（珪質頁岩）



5. 前川（ガラス質流紋岩）



6. 前川（無斑晶質安山岩）



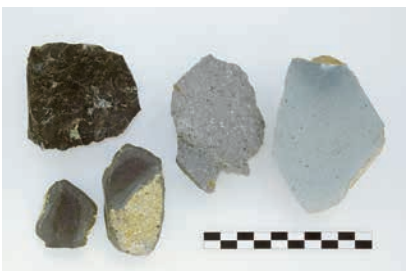
7. 前川（腹帯，黒曜石）



8. 太郎川（芋ノ窪橋付近）



9. 太郎川（珪質頁岩）



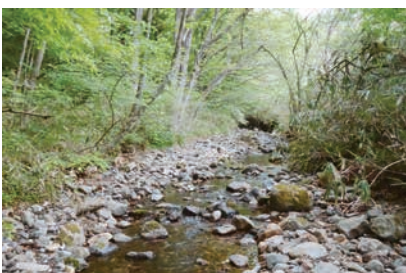
10. 太郎川（左：珪質頁岩・右：ガラス質流紋岩）



11. 名取川上流部（大柴沢）



12. 名取川上流部（大柴沢，黒曜石）



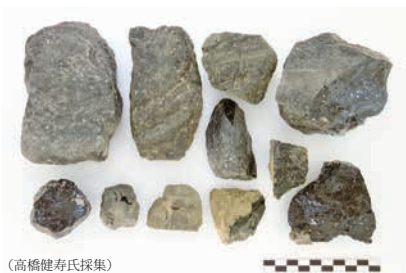
13. 名取川上流部（加沢）



14. 名取川上流部（加沢，ガラス質流紋岩）



15. 名取川上流部（加沢，頁岩）



16. 名取川上流部（加沢，黒曜石）



17. 名取川上流部（加沢，ガラス質流紋岩）



18. 名取川下流部（太白大橋，頁岩）

写真3 石器石材の分布調査（3）

第2節 石器石材環境

色を呈する。斑晶と流理構造を認めるものが多いが、緻密・無斑晶質のものも見られる。碧玉は粒径 5cm 前後で赤色・緑色のものがある。また、鉢森山安山岩下部の柱状節理露頭があり、新鮮な角柱状の石材が産出する。

七ヶ宿ダム付近の白石川左岸には蝦夷倉材木岩石英安山岩の柱状節理大露頭（註 20）があり、デイサイト質の新鮮な角柱状の石材が産出する。また、白石川右岸に注ぐ入山沢川ではガラス質流紋岩・頁岩・玉髓が産出する。また、柱状節理した角柱状の安山岩が垂円礫程度まで円磨されたものが見られる。ガラス質流紋岩は粒径 20cm 前後で灰色を呈し斑晶と流理構造を認めるものと、黒灰色を呈し緻密・無斑晶質のものがある。頁岩は粒径 20cm 程度で灰色を呈する。玉髓は粒径 6cm 前後の角礫で透明度が低く灰色がかったものである。

青麻山南斜面から白石川左岸に注ぐ兎捨川ではガラス質流紋岩・珪質頁岩・頁岩・碧玉・玉髓が分布する。ガラス質流紋岩は粒径 10～20cm 程度で灰色・青灰色を呈し斑晶と流理構造を認める。珪質頁岩・頁岩は粒径 10～20cm 程度で灰色・黒色を呈する。碧玉は粒径 3～5cm 程度で赤色・緑色のものがある。玉髓は粒径 5cm 程度で乳白色半透明を呈し、脈岩由来である。

このほか、白石盆地内の白石川本流の河床には、頁岩・珪質シルト岩・シルト岩・珪化凝灰岩・碧玉・玉髓・チャートが見られ、均質緻密で石器石材としての利用に適したものがある。碧玉は粒径 5～10cm 程度で赤色・緑色のものがある。玉髓は上流の小原地区で産出した脈岩由来のものが淘汰されて粒径 3～5cm 前後となったものが多く、松川との合流点付近まで分布する（註 21）。また、稀に粒径 10～15cm 程度でノジュール状の玉髓が見られる。チャートは粒径 5～10cm 程度で緑色・黒褐色のものがあり、層理が発達する。

白石市東部・白川地区の高田川上流域では多量の石英岩が産出し、玉髓・ガラス質流紋岩も見られる。流域の表層地質は白亜紀花崗閃緑岩であり（註 22）、石英岩は花崗閃緑岩の中に形成されたペグマタイト岩脈に由来するものである。河床に露出する花崗閃緑岩の岩盤の中に幅 5～40cm ほどの白色の岩脈が観察され、周囲に粒径 10～40cm 程度の原石が散乱する。玉髓は粒径 5～10cm 程度で脈岩由来のものとノジュール状のものがある。ガラス質流紋岩は粒径 10～20cm 程度で赤紫色を呈し斑晶と流理構造を認める。

川崎町西部の前川・北川・太郎川の各上流域では、流紋岩・無斑晶質安山岩・緑色凝灰岩が分布する。また、前川・太郎川では珪質頁岩・頁岩・シルト岩が分布する。流紋岩は粒径 40cm を超える大型の原石も見られ、赤紫色・黒灰色・灰色を呈する。多くは細粒の結晶質のものであるが、前川ではガラス質のものが比較的多く見られ、無斑晶・均質緻密で灰色を呈するものもある。無斑晶質安山岩も前川で比較的多く見られ、粒径 5～10cm 程度で僅かに微斑晶を含むが均質・緻密で剥離性は良好である。風化面には非常に薄い石目を認める。前川の珪質頁岩は粒径 15cm～20cm 程度で灰色・黄白色を呈する。均質緻密で剥離性に優れている。太郎川の珪質頁岩は黒色を呈し粒径 10～40cm 程度のものが見られるが、大型の原石には亀裂や細脈を持つものが多い。また、均質緻密な珪化岩類が見られるが、極めて硬質で剥離性に乏しく石器石材としては適さない。

を産出するが、石器石材として利用可能なものは母材の年輪や繊維方向が剥片剥離に影響を及ぼさない程度まで珪化が進行した玉髓質のものに限られる。これを「玉髓質珪化木」として区別する。

註 18. 後期旧石器時代にはこれらを利用したいくつかの小規模な原産地遺跡を形成した（新川流域遺跡群，大場 2004・宮城旧石器研究会 2018）。

註 19. 槻木層は柴田町一帯を中心に村田町東部から岩沼市西方まで広く分布し、高館丘陵を構成しているが、東部と西部では岩相が異なるとされる（北村・中川 1984）。玉髓質珪化木・玉髓・碧玉の分布は新川流域に限定的な分布を示す。

註 20. 天然記念物「小原の材木岩」

註 21. 合流点近くの段丘面上に立地する大久保遺跡（縄文時代後期前葉頃）の表面採集資料からは、淘汰の進んだ小礫状の玉髓を石鏃などの素材として積極的に利用したことが窺われる。

註 22. 天然記念物「球状閃緑岩」（菊面石）の産出地を含む。

第1章 遺跡の周辺環境

仙台市西部・秋保地区の名取川上流域ではガラス質流紋岩・頁岩が分布する。ガラス質流紋岩は粒径 40cm 以上の大型のものが見られる。赤紫色・紫灰色・青灰色・灰色を呈し、斑晶と流理構造を認める。頁岩は粒径 30cm 前後で黒色・黄白色を呈する。

石器石材環境の特色 蔵王東麓地域には、黒曜石・ガラス質流紋岩・無斑晶質安山岩・玉髄質珪化木・玉髄・瑪瑙・碧玉・石英岩・珪化凝灰岩・緑色凝灰岩・珪質頁岩・頁岩・珪質シルト岩・シルト岩などの石器石材が分布する。これらの在地石材の各産出地における原石の特徴（岩質・サイズ・産出量および分布密度）と石器石材としての適性について大まかな傾向を確認しておきたい（註 23）。

この地域の特徴として、複数の黒曜石産出地（秋保・川崎・蔵王・白石）の存在が挙げられる。しかし、秋保産黒曜石の岩体を除けばいずれも火砕流堆積物を主とする第三紀層に包含されるものであり、産出域は広いが分布は散漫で得られる原石のサイズも総じて小型である。岩質は結晶質のものが多く、無斑晶質の川崎産黒曜石は良質で精緻な加工が可能である。

ガラス質流紋岩も複数の産出地が存在し、中型～大型の原石が比較的安定的に見られる。基本的に斑晶と流理構造を認めるもので、名取川流域では赤紫色、白石川流域では青灰色を呈するものが多い。剥離性は比較的良好だが岩質はやや脆い。内部に亀裂を生じているものも多いため剥離のコントロールは難しく、両面加工には適さない。緻密・無斑晶質の原石は小型で量も少ないが、剥離性は良好で精緻な加工が可能である。

無斑晶質安山岩は良質のものが前川流域に分布する。剥離性が良好で岩質も脆くなく、石目を利用した平坦剥離に適する。今のところ産出地が不明で小型の原石しか確認できていないが、大型の原石が得られれば打製石斧など両面加工石器の製作も可能な利用価値の高い石器石材と言える。

玉髄は白石川本流の小原地区で産出し、松川との合流点付近まで分布する。原石は小型のものが多く、稀に中型のものも見られ、非常に良質で剥離性が良く精緻な加工に適する。

新川流域には玉髄質珪化木・玉髄・瑪瑙・碧玉が比較的まとまって分布する。大型の原石も得られるが、部位によって岩質が異なり不純物や空隙を含むことがある。良質の原石であれば両面加工にも適し、精緻な加工も可能である。なお、碧玉は比較的硬質のものが多く剥離性はやや劣る。

珪質頁岩はやや希少だが児捨川・前川・太郎川に良質のものが分布する。色調は灰色・黒色・黄白色があり、剥離性に優れている。中型の原石が得られるので両面加工にも適し、精緻な加工も可能である。垂角礫状の原石も見られることから、各流域に露頭の存在が予想できる。珪質頁岩は日本海側の山形県域からの搬入石材として一括されることが多かったが、本地域においては在地石材として調達されたものが一定程度の比率を占めた可能性がある。

頁岩もやや希少ではあるものの太郎川・高木川・藪川・黒沢川・荒川・児捨川・入山沢川・白石川などに比較的広く分布する。中型の原石が得られ、均質緻密で両面加工に適するものもある。

註 23. 便宜的に粒径 15cm 以下の原石を小型、15～30cm を中型、30cm 以上を大型として記述する。小型原石の用途は数センチ程度の小型剥片を素材とする石鏃・楔形石器および石錐・石匙の小型品などに限定され、中型以上の原石であれば 10cm を超える中型・大型剥片を素材とするような両面加工の尖頭器・石鏃・打製石斧などを含む多種類の石器製作が可能である。また、岩質の面では均質緻密で剥離性が良好であり、粘りがあって折れにくいものが石器石材として良質である。脆く砕けやすいもの、結晶質で斑晶を多く含むもの、節理や亀裂（潜在割れ）を内在するものは製作過程での剥離事故を生じやすく、剥離工数の多い両面加工には適さない。また、新鮮な剥離面が光沢を帯びるような均質緻密な石材であれば、押圧剥離を含む精緻な加工が可能である。

第3節 歴史的環境

刈田地方の歴史 蔵王連峰の東麓に位置する刈田地方（註24）の地形が造り出す景観について、「刈田郡誌」では「郡下到處ところ連丘連山起伏し、谿谷溪流を見る。この一圓の水を聚めて阿武隈川に運ぶもの即ち水清く、石白き白石川にして、其本流支流に沿って、管内各村を往訪すべき諸道開けたり…」と記す（宮城県刈田郡教育会編 1928）。蔵王連峰に連なる広大な山地・丘陵と、これを限なく開析する大小の河川は多種多様な動植物を育み、先史時代には人類の豊かな生活基盤となっていたことが濃密な遺跡分布から窺える。歴史時代には軍事上の要衝として数多くの城館が構築され、しばしば戦乱の舞台ともなった。

一方で農耕地が狭小である上に低地は洪水の常襲地帯で、時折集落や田畑の流失もあり、交通の難所でもあった。また、蔵王山の噴火による降灰や泥流被害の記録も数多く残されている。

刈田郡に関する最古の記録は、「続日本紀」に記された養老5年（721年）の陸奥国荊田郡建置に関する記事である。これによると荊田郡は柴田郡のうち二郷を分割して設置され、仙南地方では最も遅い建郡であった。陸奥国は7世紀半ばに亘理・伊具地方を北辺として成立し、7世紀後半頃には大崎平野周辺までその範囲を広げたと考えられている。このため、柴田・刈田郡周辺は陸奥国成立後の早い段階で律令政府の安定した統治下に置かれたであろう。

平安時代末期には奥州藤原氏の支配下にあったとみられ、丈六阿弥陀如来坐像を安置する阿弥陀堂が建立された（註25）。また、奥州合戦について「吾妻鏡」の伝えるところでは、文治5年（1189年）に藤原泰衡軍は刈田郡根無藤（蔵王町円田）に城郭を構え、四方坂（同平沢）との間で源頼朝軍と進退七度に及ぶ戦いの末に敗退したという。このことから、この地域が軍事上重要視されており、根無藤から四方坂を経る道筋が、出羽国へ至る出羽道の一部であったことが窺える。

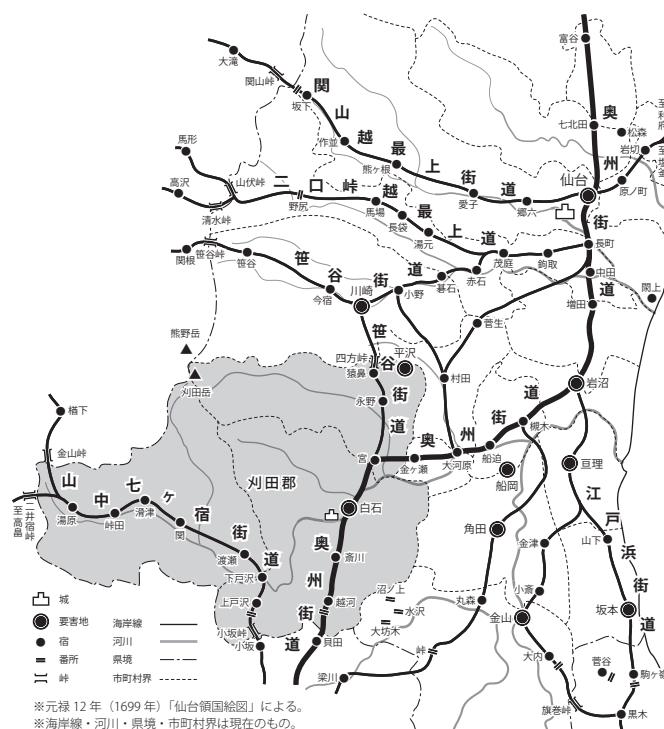
鎌倉時代以降は白石氏（刈田氏）が刈田郡の中心勢力であった。白石氏は南隣の伊達郡を本拠とする伊達氏との関係が深く、戦国時代には伊達氏の傘下に組み込まれた。天正18年（1590年）に豊臣秀吉による奥州仕置で刈田郡は伊達領と確定されたものの、翌年の再仕置で伊達政宗が岩出山城へ移封され、刈田郡は長井・信夫・伊達などの各郡とともに会津黒川城に入封した蒲生氏郷に与えられた。慶長3年（1598年）には蒲生氏に代わって会津に入封した上杉景勝の領地となり、家臣甘粕備後景継が白石城主となったが、

註24. 現在の行政区分では宮城県南西部の白石市、刈田郡蔵王町・七ヶ宿町にあたる。

註25. 阿弥陀堂の創建時に植えられたと伝わる参道杉並木の1本が平沢字丈六地内に現存する（県指定天然記念物「平沢弥陀の杉附戒石銘」）。丈六阿弥陀如来坐像は地区内の保昌寺に現存する（県指定文化財）。



丈六阿弥陀如来坐像



第8図 刈田郡周辺の街道（風間 1983 原図）

政宗は慶長 5 年（1600 年）に徳川家康の意を受けて上杉氏を押さえるため白石城を攻めて奪還し、刈田郡は仙台藩領となった。政宗は慶長 7 年（1602 年）に重臣・片倉景綱を白石城主とし、藩境西南の固めを任せた。以後は代々片倉氏が白石城主を務め、江戸時代を通じて刈田郡の過半は片倉氏の知行地であった。

江戸時代には奥羽山脈を挟んで陸奥国を奥州街道、出羽国を羽州街道が縦貫しており、刈田郡内にも奥州街道が白石城下を通過していた。また、奥州街道の宮宿（蔵王町宮）から分岐して永野宿・猿鼻宿・四方峠（同円田）を經由し、笹谷峠を越えて山形の羽州街道へ抜ける笹谷街道も設けられていた（第 8 図）。

遺跡の概況 町域内における周知の遺跡は現在 201 か所を数える。その多くは町域東部の平野・丘陵地帯に分布し、①青麻山東麓の丘陵と段丘上、②松川北岸の段丘と支流の高木川流域の丘陵上、③円田盆地に接する丘陵上に集中域を形成する（第 10・11 図、第 1 表）。なお、町域西部の高原地帯では七日原扇状地の扇端部に少数の遺跡が分布する。これらの遺跡のほとんどは、複数の時代や時期区分に比定される活動痕跡が重複する複合遺跡であるが、時代や時期ごとの分布には一定の傾向が認められ、主に生業形態の変化を反映している。

各遺跡に残された活動痕跡を時期区分別に集計するとその総数は延べ 525 か所を数え、時代・時期ごとの人間活動の動態を窺い知ることができる（第 9 図）。町域内における最古の活動痕跡は後期旧石器時代後半と見られる。縄文時代草創期にかけての活動は低調であるが、縄文時代早期になると激増する。前期には半減するが中期に再び増加傾向を示し、後期には活動痕跡が最多となる。晩期には再び半減し、弥生時代前期の活動は低調である。中期には回復するが、その後は段階的な減少傾向が見られ、古墳時代後期の活動は低調である。飛鳥時代以降、再び活動は活発化するが、平安時代の活動痕跡はほとんどが 9 世紀代に比定されるもので占められており、中世に入って 13 世紀代の活動痕跡が見られるようになるまでの期間は考古学的には空白期となっている。なお、前述のとおり 12 世紀には奥州藤原氏の影響下で阿弥陀堂が建立されたとみられる。近世に関しては周知の遺跡数は少ないが、奥州街道の宮宿をはじめ街道



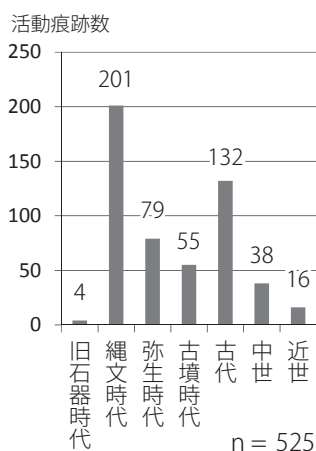
平沢弥陀の杉



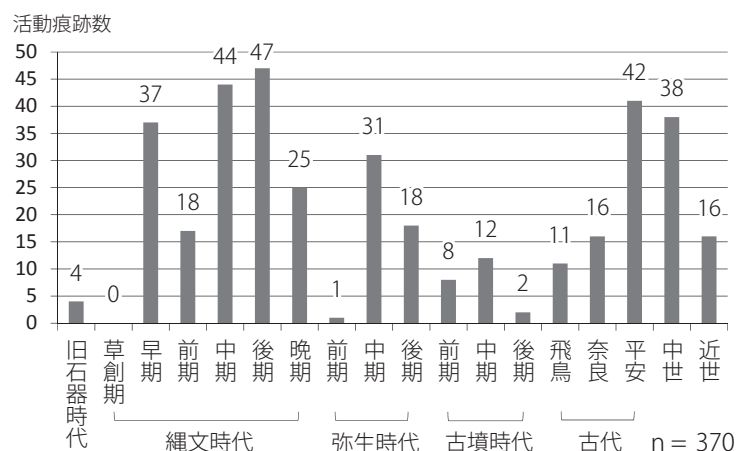
笹谷街道の古道

註 26. 宮城県遺跡地名表によれば明神裏遺跡で「細石器」、乙当地遺跡で「旧石器」の記載があるが詳細は不明である。

註 27. 「鉄砲町遺跡出土」として第 1 章「遺跡の周辺環境」で紹介した「我戸橋」の存在から現在の宮字沢田地内に比定される。



時代区分別



時期区分別

※各時代・時期区分の時間幅は均等ではない。また、時期区分が不明な活動痕跡があるため、時代別の合計と時期区分別の合計は一致しない。

第 9 図 蔵王町域の遺跡における活動痕跡の動態

筋を中心に活発な活動があった。

旧石器時代 松川右岸の段丘上に持長地遺跡、吾戸囲遺跡など4か所の活動痕跡が認められる。いずれも単独出土・採集資料のため、帰属時期や活動の内容には不明な点が多い（註26）。持長地遺跡では黄褐色ローム漸移層下部からナイフ形石器1点が単独出土している（宮城県教育委員会1980a）。珪質頁岩製の石刃を素材として両側縁下部にブランティングを施す基部加工ナイフ形石器である。地点不詳ながら吾戸囲遺跡では珪質頁岩製の石刃を素材とする彫刻刀形石器1点（註27）などが採集されている。近隣では村田町の新川流域を中心とする玉髄原産地に後期旧石器時代の遺跡が点在し、原産地遺跡群を形成している（新川流域遺跡群・大場2004）。名取市の高館丘陵東部に立地する野田山遺跡では、珪質頁岩製の石刃石器群が出土している（名取市教育委員会ほか2002）。

縄文時代 青麻山東麓から松川左岸にかけての段丘・丘陵上などに延べ201か所の活動痕跡が認められ、各時期の集落立地の傾向に違いが見られる。

草創期は明確な活動痕跡に乏しいが、円田盆地の前戸内遺跡で珪質頁岩製の槍先形尖頭器1点が採集されている（註28）。近隣では白石市高野遺跡で槍先形尖頭器、小菅遺跡・戸谷沢遺跡で局部磨製石斧が採集されている（白石市史編纂委員会1976・1979）。

早期は青麻山東麓に沢入D遺跡、松川右岸に明神裏遺跡・上原田遺跡、左岸に手代木遺跡・三本槻A遺跡、円田盆地に磯ヶ坂遺跡、七日原扇状地に北原尾遺跡などがあり、比較的小規模とみられる活動痕跡が広範囲に点在する。明神裏遺跡は明神裏Ⅲ式（林1962）の標識遺跡である。近隣では白石市の不忘山東麓から青麻山南麓にかけて比較的多数の遺跡が点在する。

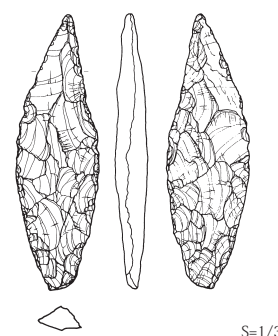
前期は松川右岸に上原田遺跡・長峰遺跡、左岸に西浦遺跡・上曲木B遺跡、七日原扇状地に七日原遺跡などがあり、青麻山東麓から松川左岸にかけての段丘上に多く分布する。

中期は松川右岸に上原田遺跡・二屋敷遺跡、左岸に本遺跡と寺門前遺跡・高木遺跡・鞘堂山遺跡・湯坂山B遺跡などがある。多くの遺跡が立地する松川左岸の段丘面は三段に区別されており、上位の遠刈田段丘面に湯坂山B遺跡、中位の永野段丘面に高木遺跡・鞘堂山遺跡、低位の矢附段丘面に本遺跡と寺門前遺跡が立地する（註29）。鞘堂山遺跡では中期中葉（大木8a・8b式期）の住居跡5軒、貯蔵穴31基などを確認している。住居は貯蔵穴・柱穴群を囲むように配置されていた可能性がある。湯坂山B遺跡では中期後葉（大木9・10式期）の住居跡23軒、貯蔵穴13基などを確認している。住居の多くは複式炉を伴い、土笛などを含む多量の遺物が出土している。二屋敷遺跡では中期末葉（大木10式期）の住居跡5軒などを確認している（宮城県教育委員会1984）。

後期は青麻山東麓に山田沢遺跡、松川右岸に二屋敷遺跡、松川左岸の西浦B遺跡などがあり、青麻山東麓から松川両岸の段丘面に多く分布する。二屋敷遺跡では後期初頭～前葉（綱取Ⅱ式期）の炉跡10基、土器埋設遺構、配石・立石遺構、捨て場遺構などが確認されている（宮城県教育委員会ほか1984）。西浦B遺跡でもほぼ同時期の住居跡1軒、建物跡23棟、貯蔵穴30基などを確認



彫刻刀形石器（吾戸囲遺跡）



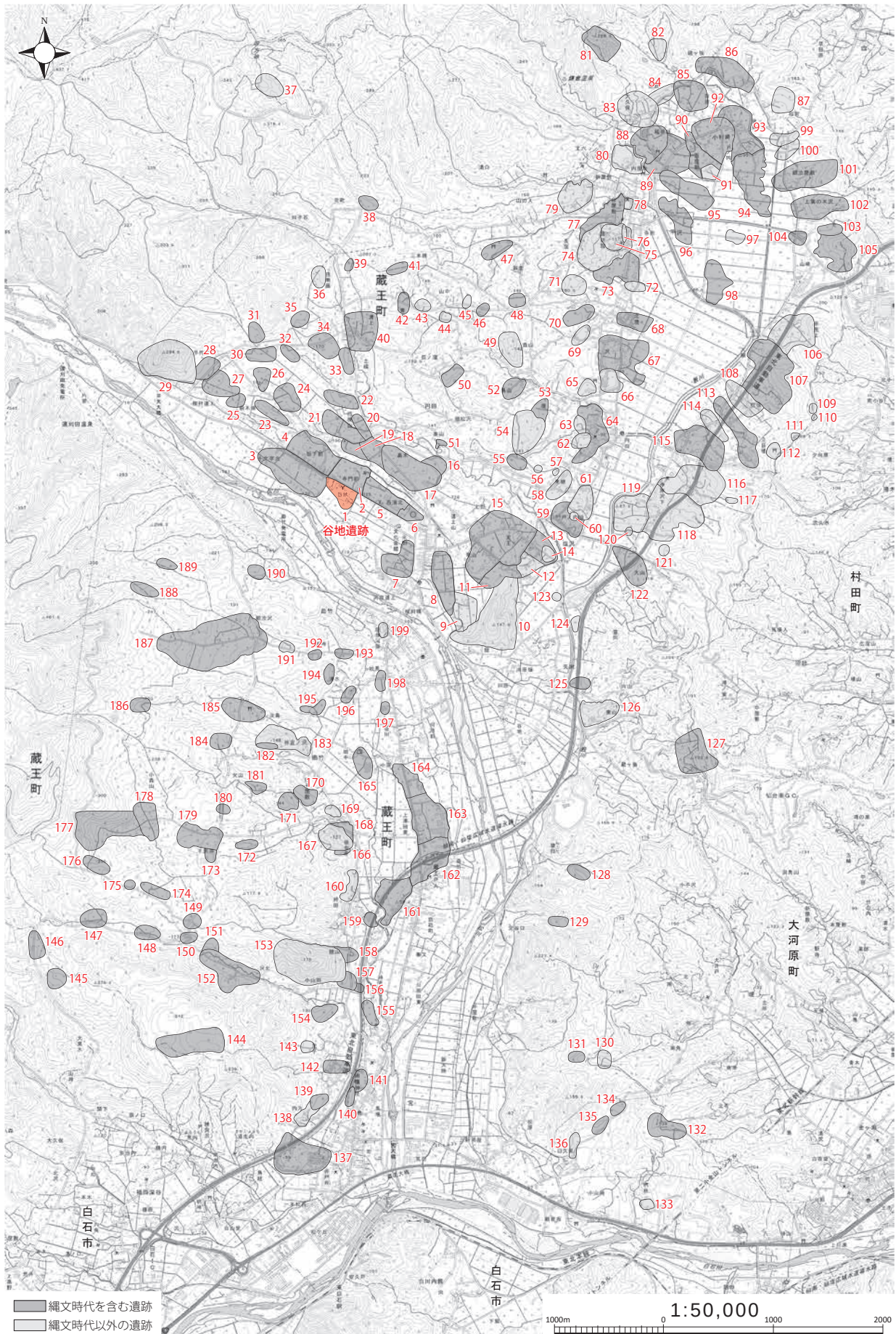
槍先形尖頭器（前戸内遺跡）

註28. 遺跡の西側から南面を流れる沢で採集されたものとされ、石器が本来包含されていた地点は不明である（町史資料編Ⅰ）。また、青麻山東麓の下別当遺跡で採集された大形の槍先形尖頭器1点も当該期の可能性がある（町史資料編Ⅰ）。このほか、「明神裏遺跡採集」とされた槍先形尖頭器1点（白石市教育委員会1968）は、その後「出土地不明（白石市周辺）」とされている（白石市史編纂委員会1976・1979、蔵王町史資料編Ⅰ）。

註29. 寺門前遺跡では平成23年度の遺構確認調査で中期前葉（大木7b・8a式期）の遺構群を確認している（町18集）。県道を挟んで隣接する本遺跡と一体の遺跡と考えられる。



縄文土器（鞘堂山遺跡・縄文時代中期）



第10図 周辺の遺跡 (1)

※番号は第1表に対応



第11図 周辺の遺跡 (2)

※番号は第1表に対応

第1章 遺跡の周辺環境

第1-1表 周辺の遺跡（1）

※番号は第10・11図に対応

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
1	谷地遺跡	集落・散布地	縄文中・後・晩	56	八幡山古墳群	円墳・方墳	古墳
2	寺門前遺跡	散布地	縄文中・後	57	八幡山東遺跡	散布地	弥生, 古代
3	十文字遺跡	散布地	縄文中	58	土ヶ市遺跡	散布地	弥生, 古代
4	曲木遺跡	散布地	縄文中	59	戸の内脇遺跡	散布地	縄文早・中, 弥生中, 古墳, 平安, 中世
5	西浦B遺跡	集落・散布地	縄文中・後・晩, 弥生, 平安, 中世, 近世	60	宋膳堂古墳	円墳	古墳
6	西浦C遺跡	散布地	縄文前・中・後, 弥生, 奈良, 平安	61	宋膳堂遺跡	散布地	弥生中・後, 古墳, 平安
7	西浦遺跡	集落・散布地	縄文早・前・中・後, 弥生, 古代	62	寺坂遺跡	散布地	平安
8	東浦遺跡	散布地	縄文中・後, 弥生中, 古墳, 古代	63	堀の内B遺跡	散布地	弥生, 古墳
9	下永野B遺跡	散布地	奈良, 平安	64	堀の内遺跡	集落・散布地	縄文, 弥生中・後, 古墳前・中・後, 奈良, 平安
10	矢附館跡	城館	中世	65	清水上遺跡	散布地	弥生, 平安
11	下永向山遺跡	散布地	縄文中, 弥生中・後, 古代	66	白山遺跡	集落・散布地	弥生, 古墳中
12	蟹沢遺跡	散布地	弥生中	67	本宿前遺跡	集落・散布地	縄文早, 弥生中, 平安, 中世
13	天王遺跡	散布地	縄文早・中, 弥生中・後, 古代	68	中組遺跡	集落・散布地	縄文早・中, 弥生, 平安, 中世, 近世
14	天王古墳群	円墳	古墳	69	沢遺跡	散布地	古代
15	上野遺跡	散布地	縄文中, 弥生中, 平安	70	北境遺跡	散布地	縄文早, 弥生後, 古代
16	高木B遺跡	散布地	縄文	71	大柿内遺跡	散布地	弥生
17	高木遺跡	散布地	縄文中	72	堂の入遺跡	散布地	弥生, 古代, 中世
18	鞆堂山遺跡	集落・散布地	縄文中・後, 弥生, 古代	73	小高遺跡	経塚・散布地	縄文, 弥生, 古代, 中世
19	上曲木A遺跡	散布地	縄文早, 弥生, 古代	74	諏訪館遺跡	散布地	弥生, 古墳
20	桔梗山B遺跡	散布地	縄文	75	諏訪館跡	城館	中世
21	上曲木B遺跡	散布地	縄文早・中, 古代	76	諏訪館横穴墓群	横穴墓	古墳
22	土橋遺跡	散布地	縄文後, 弥生	77	諏訪館前遺跡	集落・散布地	縄文晩, 弥生, 古墳前・中, 平安, 中世, 近世
23	上曲木E遺跡	散布地	縄文前・中	78	平沢遺跡	散布地	古代
24	上曲木D遺跡	散布地	縄文前・中	79	丈六遺跡	散布地	古代
25	曲木畑遺跡	散布地	縄文	80	平沢館跡	城館	中世
26	上曲木C遺跡	散布地	縄文早・中	81	兵衛館跡(兵糧館跡)	城館・散布地	縄文, 弥生, 古代, 中世
27	棚村遺跡	散布地	縄文後	82	鹿野遺跡	散布地	古代
28	官林遺跡	散布地	縄文早	83	大久保西遺跡	散布地	古墳, 奈良, 平安
29	棚村館跡	城館	中世	84	大久保東遺跡	散布地	古墳, 奈良, 平安
30	手代木遺跡	散布地	縄文早, 弥生	85	後原遺跡	散布地	縄文, 古墳, 奈良, 平安
31	入山遺跡	散布地	縄文前, 弥生, 古代	86	磯ヶ坂遺跡	集落・墓地・散布地	縄文早, 弥生後, 奈良, 平安, 近世
32	手代木B遺跡	散布地	縄文早・後, 古代	87	清上遺跡	散布地	古代
33	湯坂山遺跡	散布地	縄文中・後・晩	88	稲荷林遺跡	散布地	縄文早, 古墳, 奈良, 平安
34	湯坂山B遺跡	集落・散布地	縄文中・後・晩, 弥生	89	前戸内遺跡	集落・墓地・散布地	旧石器, 縄文後, 弥生中・後, 古墳中, 奈良, 平安, 中世, 近世
35	根無藤遺跡	散布地	縄文早・晩, 古代	90	西屋敷遺跡	集落・散布地	縄文, 弥生, 飛鳥, 奈良, 平安, 中世, 近世
36	根無藤館跡	城館	中世	91	西小屋館跡	城館・散布地	平安, 中世
37	四方坂館跡	城館	中世	92	戸ノ内遺跡	集落・散布地	縄文, 弥生, 古墳, 奈良, 平安, 中世, 近世
38	町尻遺跡	散布地	縄文	93	原遺跡	集落・散布地	縄文, 古墳前, 平安, 近世
39	円田入C遺跡	散布地	縄文	94	六角遺跡	集落・墓地・散布地	縄文早, 弥生中・後, 古墳前・後, 奈良, 平安, 中世, 近世
40	円田入B遺跡	散布地	縄文早・中・後	95	十郎田遺跡	集落・散布地	縄文, 古墳中・後, 飛鳥, 奈良, 平安, 中世, 近世
41	三本槻A遺跡	散布地	縄文早	96	窪田遺跡	集落・散布地	縄文, 弥生後, 古墳中・後, 飛鳥, 奈良, 平安, 中世
42	入青木遺跡	散布地	縄文	97	新城館跡	城館・散布地	弥生, 飛鳥, 平安, 中世
43	山中遺跡	散布地	平安	98	都遺跡	集落・散布地	縄文後, 弥生中・後, 古墳前・中・後, 飛鳥, 奈良, 平安, 中世
44	青木遺跡	散布地	平安	99	三の輪遺跡	散布地	古墳, 奈良, 平安, 近世
45	角山A遺跡	散布地	古代	100	車地藏遺跡	集落・散布地	古代, 中世, 近世
46	角山B遺跡	散布地	縄文				
47	三本槻B遺跡	散布地	縄文, 平安				
48	新並遺跡	散布地	縄文中				
49	築館館跡	城館	中世				
50	荻の窪遺跡	散布地	縄文晩, 弥生				
51	高山遺跡	散布地	縄文, 近世				
52	鳥山遺跡	散布地	縄文中, 古代				
53	堤遺跡	散布地	縄文, 弥生, 古墳, 古代, 中世				
54	花桶館跡	城館	中世				
55	見継遺跡	散布地	縄文				

※時期区分：旧石器時代／縄文時代(草創期・早期・前期・中期・後期・晩期)／弥生時代(前期・中期・後期)／古墳時代(前期・中期・後期)／古代(飛鳥時代・奈良時代・平安時代)／中世／近世

第1-2表 周辺の遺跡(2)

※番号は第10・11図に対応

番号	遺跡名	種別	時代	番号	遺跡名	種別	時代
101	鍛冶屋敷遺跡	集落・散布地	縄文中・後・晩, 古代, 近世	148	遠森山遺跡	散布地	縄文晩
102	上葉の木沢遺跡	散布地	縄文, 古墳前, 古代, 近世	149	沢入B遺跡	散布地	縄文後
103	山崎遺跡	散布地	縄文早	150	沢北B遺跡	散布地	縄文後
104	中葉の木沢遺跡	散布地	縄文, 弥生, 古代	151	沢北遺跡	散布地	縄文後・晩, 弥生中
105	北割山遺跡	散布地	縄文, 弥生	152	山田沢遺跡	散布地	縄文後・晩
106	赤鬼上遺跡	集落・散布地	弥生中・後, 平安, 中世	153	山家館跡	城館	中世
107	大橋遺跡	集落・散布地	縄文後, 弥生中・後, 古墳前, 平安	154	小山田遺跡	散布地	縄文, 古代, 中世
108	屋木戸内遺跡	散布地	弥生中, 古代	155	長峰遺跡	散布地	縄文前・中, 弥生中, 古代
109	夕向原1号墳	前方後円墳・散布地	弥生, 古墳	156	持長地遺跡	集落・散布地	旧石器, 縄文前・中・後, 弥生, 古墳, 古代, 中世
110	夕向原2号墳	円墳	古墳	157	八幡平遺跡	散布地	縄文前・中, 古代
111	古峯神社古墳	前方後円墳・散布地	古墳	158	根方A遺跡	散布地	縄文後
112	愛宕山遺跡	集落・散布地	弥生中・後, 古墳前・中, 古代	159	二屋敷遺跡	集落・散布地	縄文早・中・後・晩, 平安, 中世
113	立目場遺跡	集落・散布地	縄文早・前, 弥生中・後, 古墳前・中	160	根方B遺跡	散布地	古代
114	中沢B遺跡	散布地	弥生中, 古墳, 古代	161	中野B遺跡	散布地	縄文前, 古代
115	中沢A遺跡	集落・散布地	縄文早, 弥生中・後, 古墳中・後, 古代, 中世	162	下原田遺跡	集落・散布地	縄文前・中・後・晩, 弥生後, 平安
116	伊原沢下遺跡	集落・散布地	古墳前・中, 中世	163	上原田遺跡(境松遺跡)	散布地	縄文早・前・中・後, 古墳, 古代
117	宮ヶ内上遺跡	製鉄	近世	164	逆川遺跡	散布地	縄文早・前
118	塩沢北遺跡	集落・散布地	弥生中・後, 古墳中・後, 飛鳥, 平安	165	小原遺跡	集落・散布地	縄文晩, 平安
119	台遺跡	集落・水田・散布地	弥生中, 古墳中・後, 平安, 中世, 近世	166	中野A遺跡	散布地	縄文後, 古代
120	西脇古墳	円墳	古墳	167	館の山城跡	城館	中世
121	中屋敷古墳	円墳	古墳	168	青竹遺跡	集落・散布地	縄文後・晩, 弥生後, 平安, 中世, 近世
122	大山遺跡	集落・散布地	縄文早, 弥生中, 古墳前	169	後安寺遺跡	散布地	古代
123	鉾附神社古墳	円墳	古墳	170	若神子山遺跡	散布地	縄文後
124	豊向遺跡	散布地	古墳	171	若神子山B遺跡	散布地	縄文前・後
125	東山遺跡	散布地・集落	縄文早, 平安	172	下別当遺跡	散布地	縄文後
126	東山B遺跡	散布地	平安	173	小屋場遺跡	散布地	縄文後・晩
127	傾城山遺跡	散布地	縄文	174	沢入遺跡	散布地	縄文早・中・後, 古代
128	一本木遺跡	散布地	縄文中・後	175	沢入D遺跡	散布地	縄文早・晩
129	定谷口遺跡	散布地	縄文後, 古代	176	遠森山下遺跡	散布地	縄文晩, 古代
130	東久保遺跡	散布地	古代	177	願行寺庵寺跡	寺院・散布地	縄文早・中・後, 弥生中, 中世, 近世
131	大平山遺跡	散布地	縄文	178	願行寺遺跡	散布地	縄文後, 古墳
132	大久保遺跡	散布地	縄文中・後	179	下別当遺跡	散布地	縄文中・後・晩
133	櫛林遺跡	散布地	古代	180	観音堂山遺跡	集落・散布地	縄文後, 平安
134	白ヶ久保入遺跡	散布地	縄文前・中, 古代	181	足の又遺跡	散布地	縄文晩
135	松ヶ沢遺跡	散布地・横穴墓?	縄文後, 古墳, 古代	182	称宜ノ沢遺跡	散布地	縄文後
136	向上遺跡	散布地・横穴墓	古墳, 古代	183	曲竹小屋館跡	城館	中世
137	宮城館跡	城館・散布地	縄文, 弥生中, 古墳中, 中世	184	欠山遺跡	散布地	縄文
138	内方遺跡	散布地	古代	185	淡島山遺跡	散布地	縄文後, 古代
139	天王前遺跡	散布地	縄文, 古代	186	立石遺跡	散布地	縄文後
140	馬場北遺跡	散布地	縄文早, 平安	187	鍛冶沢遺跡	集落・散布地	縄文早・中・後・晩, 弥生前・中, 古代
141	明神裏遺跡	古墳・散布地	旧石器, 縄文早・前, 弥生中, 古墳中, 平安	188	鍛冶沢北遺跡	散布地	縄文早・中・後・晩, 古代
142	乙当地遺跡	散布地	旧石器, 縄文早, 平安	189	小野入遺跡	散布地	縄文早・中・後・晩, 古代
143	荒子遺跡	散布地	古代	190	馬越遺跡	散布地	縄文中
144	上平遺跡	散布地	縄文, 古代	191	市ノ沢遺跡	散布地	弥生, 古代
145	井戸遺跡	散布地	縄文前・中, 古代	192	八卦遺跡	散布地	縄文後
146	炭の平遺跡	散布地	縄文早・前	193	日向前遺跡	散布地	縄文早・晩, 古代
147	沢入C遺跡	散布地	縄文	194	清水遺跡	散布地	縄文, 弥生中
				195	岩蔵寺遺跡	散布地	縄文晩, 古代
				196	妙見遺跡	散布地	縄文晩
				197	下原遺跡	散布地	縄文中
				198	上原遺跡	散布地	縄文後
				199	白九頭竜古墳	古墳	古墳

※時期区分: 旧石器時代／縄文時代(草創期・早期・前期・中期・後期・晩期)／弥生時代(前期・中期・後期)／古墳時代(前期・中期・後期)／古代(飛鳥時代・奈良時代・平安時代)／中世／近世

第1章 遺跡の周辺環境

している。遺構群は中央部の空白域を囲むように緩やかな環状の配置を採る。三十稲場式、門前式など異系統土器が散見され、新潟県板山産と判別された黒曜石製石鏃1点が出土している(町10集)。

晩期は青麻山東麓に下別当遺跡・願行寺遺跡・鍛冶沢遺跡などがあり、青麻山東麓の沢地形に面した段丘上に多く分布する。鍛冶沢遺跡では後期末～晩期末にかけての土坑墓・土器埋設遺構・建物跡・住居跡などの遺構群が確認され、建物群は広場を囲むように弧状に配置されていた(宮城県教育委員会2010)。また、鍛冶沢遺跡で中空土偶(県指定文化財、仙台市博物館蔵)、願行寺遺跡で屈折像土偶(町指定文化財)が採集されている。

弥生時代 79か所の活動痕跡が丘陵地帯の広範囲に点在する。前期は明確な活動痕跡に乏しいが、青麻山東麓の鍛冶沢遺跡では、縄文時代晩期から継続する墓域で再葬墓が確認されている(宮城県教育委員会2010)。中期は松川左岸の西浦遺跡、円田盆地の大橋遺跡・立目場遺跡・都遺跡などがある。この時期になると、松川左岸から円田盆地にかけての丘陵・段丘・微高地上に多く分布するようになり、遺跡分布上の大きな画期となっている。西浦遺跡は円田式(伊東1955)の標識遺跡である。都遺跡では粃殻圧痕のある土器片が出土している(町3集)。後期は円田盆地の愛宕山遺跡・天王遺跡・赤鬼上遺跡・磯ヶ坂遺跡などがあり、円田盆地の丘陵・微高地上に多く分布する。

古墳時代 55か所の活動痕跡が認められる。多くは円田盆地の丘陵・微高地上に集中しており、一部が松川・白石川の合流点付近の丘陵上に分布する。前期は大橋遺跡・堀の内遺跡などの集落が円田盆地の丘陵上に立地する。中期の集落は中沢A遺跡・台遺跡など円田盆地の丘陵上に立地するものと、都遺跡・窪田遺跡のように盆地底面の微高地上に立地するものがある。町内の古墳の多くはこの時期に属し、円田盆地の丘陵上に夕向原古墳群・古峯神社古墳・宋膳堂古墳など、青麻山東麓の松川・白石川の合流点付近の低丘陵上に明神裏古墳がある。後期の明確な活動痕跡は未確認である。

古代 132か所の活動痕跡が認められる。その分布は円田盆地の丘陵・微高地上に集中し、青麻山東麓から松川左岸にかけての丘陵・段丘・微高地上の広範囲には比較的小規模とみられる活動痕跡が点在する。飛鳥時代は塩沢北遺跡・十郎田遺跡など、奈良時代は堀の内遺跡・六角遺跡・都遺跡などが円田盆地の丘陵・微高地上に立地する。微高地上に立地し材木堀・大溝による区画施設を伴う十郎田遺跡は囲郭集落で、都遺跡は寺院または官衙の可能性がある(町3・13・19集)。平安時代は円田盆地に前戸内遺跡・東山遺跡など、青麻山東麓に青竹遺跡・観音堂山遺跡などがあり、丘陵地帯の広範囲に点在する。前戸内遺跡では、住居跡14軒、建物跡21棟などを確認している。集落内には建物跡が逆L字形に配置される一角があり、豪族居宅と考えられる(町16集)。

中世 38か所の活動痕跡が確認されている。このうち15か所は城館跡で、青麻山東麓から円田盆地西縁にかけての丘陵上に点在する。また、城館跡の周辺を中心に段丘・微高地上で屋敷跡が確認されている。城館跡は、青麻山東麓に宮城館跡・山家館跡・館の山城跡など、円田盆地に矢附館跡・兵衛館跡・西



竪穴住居跡(湯坂山B遺跡・縄文時代中期)



縄文土器(湯坂山B遺跡・縄文時代中期)



掘立柱建物跡群(鍛冶沢遺跡・縄文時代晩期)



長頸壺(西浦遺跡・弥生時代中期)



宋膳堂古墳(古墳時代中期)



中沢A遺跡出土土器(古墳時代中期)



十郎田遺跡(飛鳥時代)

小屋館跡などがある。兵衛館跡は円田盆地最奥部にあり、丘陵頂部の平場を画する土塁・空堀が良好に残存する。西小屋館跡は円田盆地北部の微高地上にあり、土塁と水堀を伴う方形館である。また、持長地遺跡は山家館跡、西屋敷遺跡は西小屋館跡に隣接し、武士階級とみられる屋敷跡が確認されている（宮城県教育委員会 1980a・町 15 集）。

近世 16 か所の活動痕跡が確認されている。円田盆地の平沢館跡は主要部の遺構が現存しないが、「平沢要害屋敷絵図」には本丸・二の丸・水堀と、南側に屈折する大手が見え、小規模ながらも近世城郭的な構造が窺える。車地藏遺跡などでは屋敷跡、六角遺跡・磯ヶ坂遺跡などでは墓地を確認している。遠刈田地区の松川左岸には岩崎山金山跡がある。現存する近世の建造物としては、青麻山東麓の我妻家住宅（江戸中期、国指定重要文化財）、奥平家住宅（江戸後期、町指定文化財）、刈田嶺神社本殿（江戸中期、県指定文化財）、日吉神社本殿（江戸中期）などがある。また、奥州街道の宮宿から分岐して出羽へ至る笹谷街道は町東部を南北に通過した。宮一永野宿間に曲竹一里塚（町史跡）が現存し、円田盆地西側の四方峠付近には古道の一部が保存されている。

第4節 指定文化財等

〔指定文化財〕

国指定文化財

特別天然記念物 ニホンカモシカ（南奥羽山系カモシカ保護地域）

建造物 我妻家住宅主屋・文庫蔵・前蔵・板蔵

附 穀蔵・表門・宅地・萬年記

県指定文化財

建造物 刈田嶺神社本殿

美術工芸品 丈六阿弥陀如来坐像（保昌寺）

天然記念物 平沢弥陀の杉 附 戒石銘

町指定文化財

建造物 刈田嶺神社拝殿・隨身門 奥平家住宅

美術工芸品 刀剣 太刀（刈田嶺神社）

工芸品 三尊堂舎（清立寺）

古文書 高野家文書（261 冊）

考古資料 願行寺遺跡出土土偶

歴史資料 高野倫兼遺訓碑

小野訓導映画フィルム 附 デジタル映像記録媒体

無形民俗文化財 民俗芸能 八雲神社神楽 榊流東根神楽

小村崎榊流法印神楽 平沢榊流神楽

白山神社神楽 刈田嶺神社神楽

小村崎春駒 小村崎田植踊

有形民俗文化財 信 仰 白鳥古碑群（5 基） 刈田嶺神社絵馬（21 点）



竪穴住居跡（六角遺跡・奈良時代前半）



六角遺跡出土土器（奈良時代前半）



土塁と通路遺構（兵衛館跡・中世）



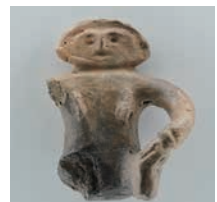
我妻家住宅 主屋（江戸時代中期）



刈田嶺神社 隨身門（江戸時代後期）



三尊堂舎（江戸時代中期）



願行寺遺跡出土土偶（縄文時代晩期）

第1章 遺跡の周辺環境

敬明講図（絵馬） だるま講石造物群（3基）

史跡 白九頭龍古墳 岩崎山金窟址
遠刈田製鉄所高炉跡 曲竹一里塚 附 古碑群
安養寺参道跡保存地区（だるま塚 附 古碑群）

〔指定保存樹木〕

町指定保存樹木

大庄屋のケヤキ	水神龍桜	神子屋敷のコブシ
白久保のサイカチ	平沢小学校校庭の松	宮小学校のスズカケ
定谷口のイチョウ	鬼子坂の桜	平沢小学校のしだれ桜
旧墓所のマユミ	御神木のヒイラギ	狐塚のサイカチ
熊野神社のイチョウ	エコーラインのミズナラ	白山神社の杉並木
えぼし千年杉		

〔自然保護区域〕

蔵王国定公園

地域 宮城県仙台市・白石市・蔵王町・七ヶ宿町・川崎町
山形県山形市・上山市

面積 39,635ha（うち蔵王町分 5,010ha）

創立日 昭和38年（1963年）8月8日

蔵王高原県立自然公園

地域 宮城県白石市・蔵王町・七ヶ宿町・川崎町

面積 20,606ha（うち蔵王町分 4,283ha）

創立日 昭和22年（1947年）2月21日



白九頭龍古墳（古墳時代）



岩崎山金窟址（江戸時代前期）



遠刈田製鉄所高炉跡（明治後期）



狐塚のサイカチ

第2章 調査の経緯と方法

第1節 調査に至る経緯

谷地遺跡 蔵王町役場などが立ち並ぶ県道白石上山線沿いの平坦地は、松川左岸に広がる矢附段丘と呼ばれる約3万年前に陸地化した台地である。この段丘面には複数の遺跡が隣接しながら分布する。谷地遺跡は蔵王町大字円田字谷地地内に所在し、縄文時代の遺跡として宮城県遺跡台帳に登録された周知の埋蔵文化財包蔵地である（第12図、註1）。その発見は古く、明治37年（1904年）には「土器破片及び石鏃の原料の破片の散布するを見」と報告されている（註2）。

文化財保存協議 平成23年1月12日付けで白石消防署蔵王出張所建設用地造成計画と埋蔵文化財のかかわりについての協議書が蔵王町長（町総務課）から町教育委員会経由で宮城県教育委員会へ提出された。事業計画は谷地遺跡中央部の畑地および宅地約2,120㎡を消防庁舎建設用地として造成するものであった（註3）。これを受けて同年1月31日に県教育委員会が現地踏査を行ない、県・町教育委員会と町総務課で対応を協議した。協議の結果、事業計画地は谷地遺跡の中央部にあたり遺跡への影響が大きいものの、消防庁舎の立地条件を検討した結果であり変更が難しいことから、計画地の遺構確認調査を実施し、その結果を踏まえて再度協議することになった。これに基づき、同年2月16日付けで遺構確認調査（註4）を実施する必要があるとの回答書が県教育委員会から町教育委員会経由で蔵王町長へ交付された。

遺構確認調査 県教育委員会からの回答を受けて、町総務課から町教育委員会に遺構確認調査の実施が依頼された。計画地は用地買収前であったことから、地権者から発掘調査承諾書の提出を受けて平成23年2月22日から3月1日にかけて調査を実施した。調査の結果、計画地のほぼ全域に遺構・遺物が極めて濃密に分布することが判明した（註5）。確認した遺構の分布状況や遺物の特徴から、計画地周辺は縄文時代前期末から中期前半にかけての拠点集落跡の中心部と推定された。これにより本遺跡の重要性が予見されると同時に、事前調査を実施する場合は野外調査と整理作業に相当の期間と費用を要することが予想された。

再協議 遺構確認調査の結果を踏まえて、平成23年5月9日に県・町教育委員会と蔵王町総務課で再度対応を協議した。町総務課からは詳細な事業計画案が提示され、敷地南側の職員駐車場約500㎡については舗装工事を行わずに碎石敷きとして遺跡の保存に配慮する案が提示された。協議の結果、遺跡の重要性が高く、本計画は遺跡への影響が大きいものの、事業の必要性・緊急性が高く用地の変更も難しいことから、事前調査を実施して記録保存を図ることで基本合意した。また、舗装工事を行わない敷地南側の約500㎡については盛土厚も軽微であることから事前調査範囲から除外し、保存区として地下の遺構を現状保存することで合意した。



第12図 調査地点位置図

註1. 宮城県遺跡登録番号：05021
／谷地遺跡／縄文時代／散布地。

註2. 佐藤傳蔵（1904）により、柴田町槻木貝塚をはじめ町内の鍛冶沢遺跡、西浦遺跡などとともに踏査した所見を報告している。仙南地方の遺跡を対象とした最初の学術的報告である。

註3. 用地買収と造成工事を町、建設工事を仙南地域広域行政事務組合が分担した。

註4. 周知の遺跡範囲内において遺構の平面・垂直的な分布状況を把握する目的で実施するトレンチ調査。対象地の微地形を考慮しながら遺構の分布が予想される地点を中心に任意でトレンチを配置する。これにより遺構・遺物の包含深度や面積あたりの密度、包含環境を把握するとともに遺構の規模や性格を予想し、文化財保存協議の材料とする。また、事前調査を実施する場合の調査方法や期間、費用等の積算根拠とする。

註5. 既存構築物との関係から調査トレンチを配置できなかった区域が一部あるが、確認した遺構の密度や微地形から見て分布が及んでいることは確実と考えられた。

事前調査 事業計画と事前調査の方針についての合意に基づき、町議会の平成23年6月会議における関連予算の可決を経て町総務課が用地買収と建物・立木等の移転補償を進めた。事前調査費用は町一般財源として文化財保護費に予算措置された。調査の実施に関する条件整備が整った同年7月14日より町教育委員会が事前調査に着手し、翌平成24年8月24日に終了した。なお、文化財保護法第94条に基づく埋蔵文化財発掘の通知については諸般の事情から事前調査終了後の同年10月30日付けで蔵王町長（町総務課）から町教育委員会経由で県教育委員会へ提出され、同年12月7日付けで県教育委員会から工事着手前の発掘調査（事前調査）実施が事後的に通知された。

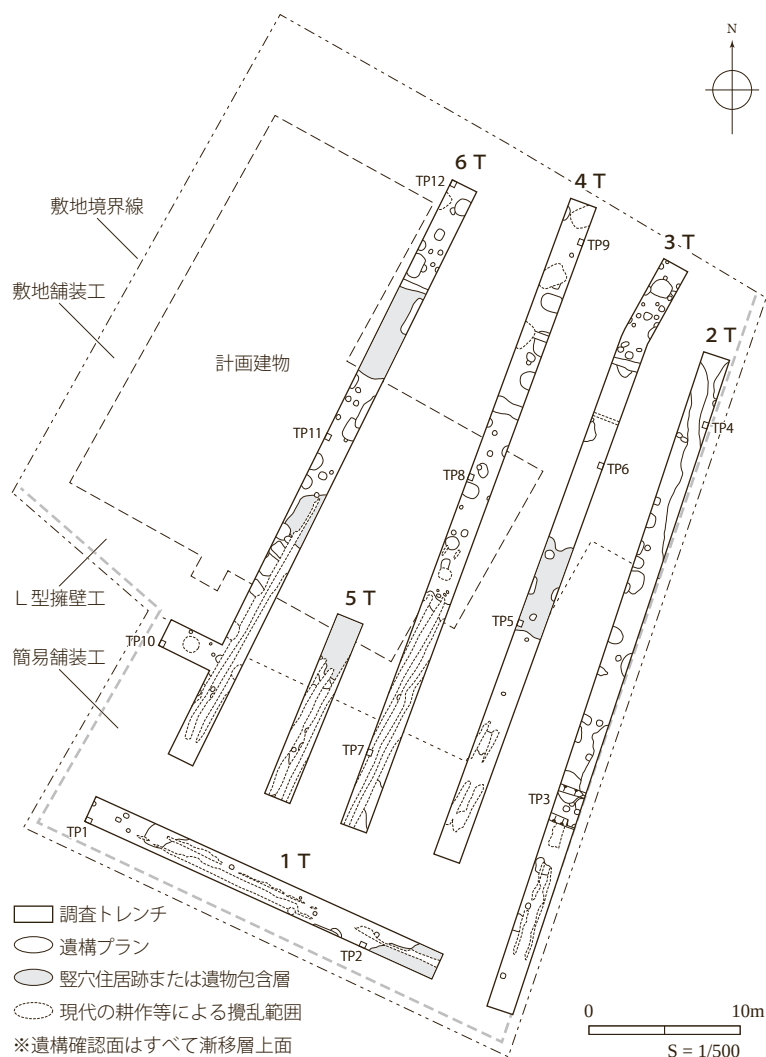
第2節 調査の方法と経過

調査前の現況 事業計画地の現況は大部分が休耕地で、西部が宅地の一部であった。地形はほぼ平坦で、わずかに北東方向に傾斜し、計画地の南側は微高地となっている。地権者によれば休耕地は近年まで畑として利用しており、それ以前は果樹園として利用していた。

宅地部分には庭石と庭木のほか、建物の一部が存在していた。休耕地の地表面には縄文土器片・石器類が濃密に散布し、宅地部分では庭石の一部に石皿など大型の礫石器が利用されている状況が見られた。本遺跡ではこれまでに縄文時代前期～後期、平安時代の遺物が採集されているが（註6）、発掘調査は行なわれていない。

遺構確認調査 遺構確認調査は平成23年2月22日から3月1日にかけて実施した。当初の工事計画では敷地外周にコンクリート擁壁を設置して盛土整地を行ない、鉄骨造平屋建の建物1棟とホース乾燥塔、無線アンテナ各1基の建設、および敷地全体のアスファルト舗装を行なうとされていたことから、計画地の全域を調査対象とした。ただし、計画地西部の宅地部分には庭石と庭木のほか建物の一部が存在しており、用地買収後に移転補償を行なう予定であったことから対象から除外し、休耕地を対象としてトレンチ調査を実施した。

註6. 東京帝国大学1928『日本石器時代遺物発見地名表（第5版）』：圓田村 永野・西浦／土器・石鏃・石匙。不忘郷土研究所1957『刈田郡全域土器石器調査表』：円田 谷津上・谷津下（補注：「谷津」は「谷地」の誤記か）／縄文中期・後期（堀ノ内）、土師、祝部。白石市教育委員会1968『白石市周辺の遺跡遺物目録』白石市文化財調査報告書7：永野 谷津（補注：「谷津」は「谷地」の誤記か）／土器（大木5、堀ノ内、土師・須恵器）。白石市1976『白石市史 別巻 考古資料篇』：谷地遺跡（谷地上・谷地下遺跡などを統合）／縄文土器（中期、宮戸Ⅰb・Ⅱ）、土師器（ロクロ）。宮城県遺跡地名表（2008年度版）：谷地遺跡／縄文土器（大木7・8・9・10、南境、金剛寺、大洞B・A'）。



第13図 遺構確認調査トレンチ配置図

第2表 発掘調査の工程と経過

年度	H23 (2011)												H24 (2012)						
	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9			
1区		7/14 表土掘削 面整理 遺構確認															8/10		
			全景写真 遺構精査								全景写真								
													ダメ押し				埋め戻し		
2区											4/6 表土掘削 面整理 遺構確認						8/24		
											全景写真 遺構精査								
													ダメ押し				埋め戻し		
3区																	8/18 表土掘削 面整理 遺構確認 全景写真 遺構精査 ダメ押し	8/24	
																	埋め戻し		
全体		機材搬入 作業員																機材撤収	
																		報道発表 発掘調査見学会	

確認調査トレンチは地形面の傾斜に沿って掘削することを意図して等高線に直交するように6か所（1～6トレンチ）を設定した（第13図）。トレンチ掘削部の面積は合計約410㎡であり、事業計画地の約19.3%にあたる。調査は重機（註7）による表土除去の後、人力で遺構確認作業を実施した。確認した遺構の一部については掘り下げを行ない、規模や性格の把握に努めた。また、旧地形と遺物包含層の堆積状況を確認するためにトレンチ内の任意の箇所にテストピットを設定し、ローム層まで掘り下げて層序の確認を行なった。

調査の結果、旧地形は北東向き緩斜面で、上層から現耕作土、旧耕作土、暗褐色シルト、ローム層の堆積が確認された。すべてのトレンチで濃密な遺構の分布が見られ、主に暗褐色シルト層の上面で貯蔵穴・土坑・溝跡・土器埋設遺構・焼土遺構・柱穴のほか、竪穴住居跡と見られる遺構プラン、遺物包含層を確認した（第13図）。これらの遺構確認面・表土などから縄文土器、剥片石器、礫石器、石製品などの遺物が整理箱約7箱分（註8）出土した。縄文土器は縄文時代前期末～中期前半のものであり、石器類は珪質頁岩製の削器・楔形石器、頁岩製の石核、安山岩製の磨石・石皿、棒状石製品などが見られた（註9）。

事前調査の方法 事前調査は排土場所の関係から調査対象範囲を区分けして反転調査することとし、事業計画地の東半部に1区、西半部に2区を設定した。また、文化財保存協議で保存区とすることで合意した計画地南部については調査対象から除外し、外周の擁壁設置部に3区を設定した。発掘調査の工程と経過は第2表の通りである。調査区内には、調査対象範囲北辺の県道沿いに



調査前現況（北から）



遺構確認調査（北東から）

註7. 幅180cmの法面バケットを装着した標準容量0.45㎡の中型バックホーを使用。

註8. 標準規格：44×60×15cm換算。

註9. 遺構確認調査の結果は町18集に報告している。

第2章 調査の経緯と方法

既設のコンクリート境界杭（C4・C5）を基準点とする任意水平座標系により3m グリッドを設定した（第14図）。なお、使用した基準点の公共座標（日本平面直角座標第X系）による測量成果は事前に町総務課から提供を受けた。

調査の方法は重機（註10）による表土除去の後、人力で遺構確認作業を実施した。これと並行して調査区内にトータルステーションを用いて3m グリッドを設定し、これを基準としながら手実測により20分の1縮尺の遺構平面図を作成した。遺構精査は遺構平面図の作成が完了した区域から順次行なった。遺構の規模に応じて2分割または4分割、あるいは3m・1mグリッドによる掘り下げを行ない、必要に応じて20分の1縮尺の土層断面図を作成した。遺構出土遺物は遺構番号と出土層位ごと（註11）、遺構外出土遺物については調査区・グリッドと出土層位ごとに取り上げた。グリッドによる取り上げは可能な限り1m単位を基本とした。また、遺構堆積土中に炭化物や焼骨片が多く確認されたことから、集中部を中心に分析用試料として適宜土壌ごと採取した。また、いくつかのフラスコ状土坑と基本層序断面で分析用試料として土壌の採取を行なった。各遺構の精査完了後には、担当した調査員が遺構図の整理を行なった上で遺構調書を作成した。記録写真についてはデジタル一眼レフカメラおよびコンパクトデジタルカメラを用いて適宜撮影を行ない、データの整理とデジタ



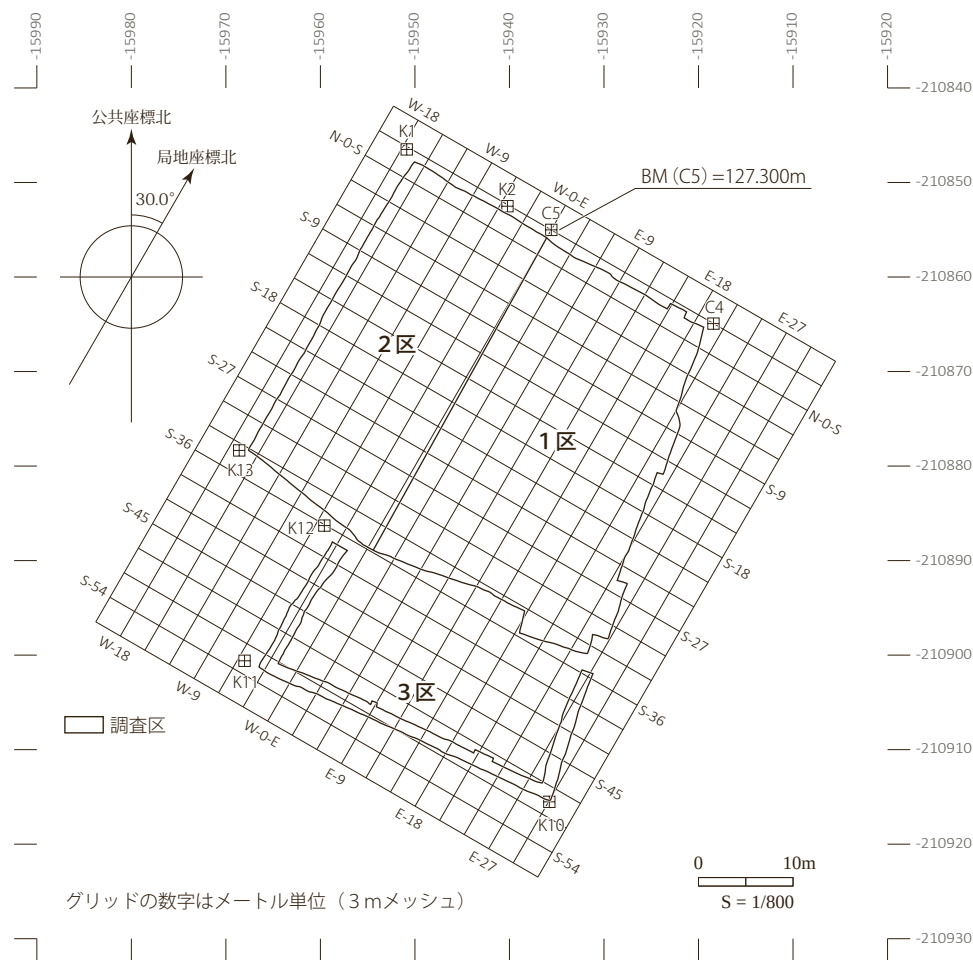
遺構確認作業



遺構精査



遺物出土状況



第14図 調査区グリッド設定図

註10. 幅180cmの法面バケットを装着した標準容量0.45m³の中型バックホーを使用。

註11. 集中部など特徴的な出土状況が見られた場合は20分の1縮尺の遺構平面図に出土状況または出土位置のポイントを記入することとし、出土位置の悉皆的な記録は行なわなかった。また、図面記入については基準を明確にしなかったため、各調査員の判断に不統一が生じた面がある。

註12. 重機で除去し切れなかった表土・耕作土・攪乱土などを人力で除去して遺構確認面を完全に露出させ、基本層との関係を整理する作業。遺構確認を適切に進めるための準備作業として重要である。

註13. この5mグリッドは基準杭によらず、重機掘削直後の調査区壁を基準線としたことか

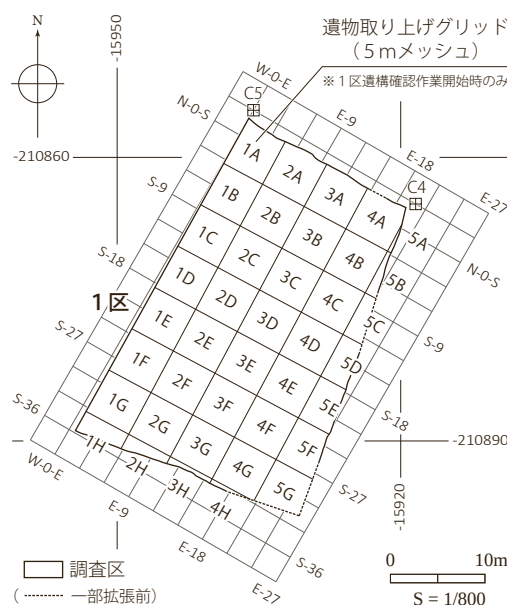
第2節 調査の方法と経過

ル現像処理を行なった。画像のデジタルデータについてはハードディスクおよびDVD-ROMに記録して保管した。なお、本発掘調査ではフィルムカメラによるアナログ写真記録は行っていない。

事前調査の経過 事前調査は平成23年7月14日に着手した。1区の重機による表土の掘削後、遺構確認作業に先立つ面整理作業（註12）で多量の遺物が出土して調査区内に散在する状況となったことから、急遽簡易的な測量により調査区内に5mグリッド（第15図）を設定して遺物の取り上げを行なった（註13）。また、遺構確認作業では、遺構の重複が著しい上に各遺構の堆積土の特徴の変化に乏しかったことから、遺構プランの確定までに複数回に分けて厚さ5cm程度の面的な掘り下げを行なった（註14）。遺構精査では、単一の遺構と認識したものが掘り下げの過程で重複する複数の遺構であることが判明したり、掘り下げが完了した遺構の壁面から確認面では認識できなかった遺構の存在が判明することがあった。このように多数の遺構・遺物が確認される中での調査運営は困難を極め、発掘作業は難航した。当初予定した年内の調査完了は不可能と判断されたことから、町議会の平成23年12月会議において追加の事前調査費が補正予算措置され、年度末までの調査継続が決定した。冬季の発掘調査では、土壌の凍結による遺構の損傷を防ぐため、調査面に保温シートを敷いた上で三重にブルーシートで覆うなどの防寒養生対策を行なった（註15）。しかしながら凍結や降雪による発掘作業への影響は大きく、作業時間と作業内容に制約を受けながらも調査を継続した（註16）。

町議会の平成24年3月会議では事前調査の進捗状況が報告され、調査期間を延長して同年7月末までに調査完了させることを前提として再度追加の事前調査費が平成24年度当初予算措置された。これを受けて調査員・作業員の増員を図り、重機提供業者の協力を得て用地外に掘削土の仮置き場を確保した上で同年4月6日から2区の重機による表土の掘削を開始し、1区と並行して調査を進めることとした。

事前調査の進行に伴って本遺跡の考古学的な重要性が明らかとなり、また発掘調査に対する町民の関心の高まりも見られた。これを踏まえて平成24年6月6日に1・2区の調査成果の概要について報道発表を行ない、6月9日に一般町民向けの発掘調査見学会を開催した。当日はあいにくの雨天となり発掘調査現場の公開は中止せざるを得なかったものの、町ふるさと



第15図 1区遺物取り上げグリッド設定図

ら、後日設定した3mグリッドと方位・メッシュ単位とも異なるものとなった。このため、室内整理の遺物接合作業では2種類のグリッドで取り上げられた確認面出土遺物と各遺構出土遺物との照合が必要となり、作業が煩雑化する一因となった。

註14. この作業で最終的に最大で厚さ30cm程度の面的な掘り下げを行ない、実際には遺構堆積土あるいは基本層中から出土した遺物の多くを遺構確認面（正確には面ではない）出土遺物として取り上げる結果となった。これらは1mグリッド単位で取り上げており、最終的に確定した各遺構プランへの帰属が明らかなものについては情報の読み替えを行なって各遺構に帰属させたが、大部分の遺物は帰属を確定させることが出来なかった。

註15. 結果としてあまり大きな効果は得られず、凍結の影響による遺構の損傷や調査ベルトの剥落・崩壊、霜柱による遺物の浮き上がりなどが見られた。これにより帰属不明の遺物を生じることもあった。

註16. 毎日の作業開始時には作業場所の霜柱を除去することが必要であり、また午前中は土壌の凍結により土層の観察が困難であった。気温が低下する午後3時以降は日陰部分で霜柱が出現し、写真撮影等の作業を中止せざるを得なかった。降雪後は除雪作業に多くの時間を要した。



霜柱による遺物の浮き上がり



凍結による遺構面の剥離・亀裂

第2章 調査の経緯と方法

文化会館研修室で写真掲示による調査成果の説明と出土遺物の展示解説を行ったところ一般市民と県内外の考古学関係者ら約70名の参加があった。このほか、発掘調査の視察・見学・体験活動等に随時対応した(註17)。

発掘作業は平成24年6月18日から1区の一部でダメ押し作業(註18)を開始した。しかしながら、7月上旬の段階で1区・2区の大部分で調査が継続中であり、全域の調査完了までにはさらに1～2か月程度を要することが予想された。事前調査スケジュールについて町総務課と協議した結果、調査済みの区域から順次工事側に引き渡し、工事着手しながら8月末までに完了させることで合意し、8月7日に2区北端部で工事着手された。1区の調査は8月10日に完了し、8月20日に1区東部で工事着手された。8月18日には3区の重機による表土の掘削を開始し、2区と並行して調査を進めた。全ての事前調査が完了したのは8月24日であった。その後、工事側の工程に合わせて9月11～13日に調査区の埋め戻しを実施した。

事前調査の成果 最終的な発掘調査面積は1,590㎡である。遺構は竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡11棟、竪穴状遺構10基、炉跡18基、焼土集積19基、フラスコ状土坑56基、落とし穴状土坑2基、土坑396基、土器埋設遺構12基、配石遺構1基、遺物集中1か所、石器集積6か所、溝跡3条のほか、これらと重複しながら面的な広がりを持って分布する遺物包含層9か所を確認した。遺構の総数は547基を数え、これ以外に組み合わせの不明な単独の柱穴984基を確認した。遺物は各遺構と遺物包含層を中心に縄文土器・土製品類約500箱、石器・石製品類約50箱、礫石器類約100箱分などが出土した。出土遺物の総量は整理作業着手前の状態で約650箱、総重量約10t(註19)、作成した記録資料は図面約250枚、デジタル写真約15,500枚に及んだ。

註17. 発掘調査・遺物洗浄作業体験：宮城県大河原商業高等学校社会部校外実習(平成23年7月25日～26日)、蔵王町立円田中学校職場体験(同年9月7日～8日)。発掘調査現場視察・見学：町内転入教職員研修会(平成24年6月7日)、蔵王町長・副町長・教育長視察(同年6月8日)、平沢小学校6年生社会科見学(同年7月4日)、永野小学校全校児童社会科見学(同年7月5日)。

註18. 確認した遺構の精査が完了した区域で、遺構の見落としや下層の遺構・遺物の有無を確認するため、基本層をローム層上部まで掘り下げる作業。3mグリッド単位で適宜ベルトを設定しながら掘り下げ、若干数の小規模な土坑・柱穴を確認した。また、このベルトを利用して基本層序の確認・記録も行なった。

註19. 箱数は遺物収納コンテナの標準規格:44×60×15cm換算。総重量は抽出サンプルの計量で得られた1箱あたりの平均重量約16kgを基に推計。



発掘調査見学(小学生)



発掘調査体験(中学生)



発掘調査体験(高校生)



発掘調査見学(教職員)



発掘調査見学会



発掘調査見学会



基本層掘削(ダメ押し)作業



基本層掘削(ダメ押し)作業



工事着手状況

第3節 整理の方法と経過

整理作業の方法 整理作業は町文化財整理室で実施した。作業工程は第3表の通りである。基礎整理として、出土遺物の水洗洗浄（註20）と注記（註21）を進める一方、事前調査で各遺構を担当した調査員が遺構調書を作成し、調査中に記入した遺構・遺物取り上げ台帳と合わせて整理作業の基礎資料として整備した。また、遺構等の写真撮影時に記入した写真台帳に基づいてデジタルデータへの注記を行ない、撮影日別および遺構別に整理した（註22）。なお、遺構図の整理と遺構調書の作成は発掘調査中から並行して進め、随時不備を補うよう努めたが、遺構の重複関係や堆積土の確認が不十分なものも見受けられた。発掘調査終了後に判明した記録の不備については、遺構図に記録した標高値や記録写真を参考に平面図・土層断面図に修正を加え、堆積土については確認できた範囲で記載し、土色のマンセル記号は未記載とした。

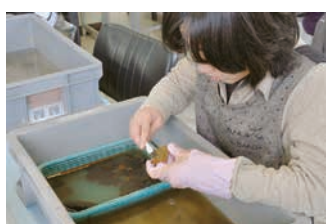
本整理作業も町文化財整理室で継続して実施した。出土遺物のうち、土器類については可能な限り接合と補強・修復（註23）を行なった。接合作業では膨大な破片との照合が必要となることから、各遺構単位を基本に作業を行なった後で仮抽出作業を行ない、仮抽出資料に限定して遺構外出土資料との照合を行なった。遺構間の照合についても、仮抽出資料に限定して実施した。石器類については、集中部などで得られた母岩別資料と、これに石質が近似する資料を抽出して接合作業を行なった。接合作業の完了後は、出土した遺構ごとに調査員が遺物観察を行ない、遺物の特徴や出土状況を考慮しながら資料化の対象とする遺物を抽出した。抽出した遺物については、特徴や残存状況に応じて実測図および拓本を作成した。実測図については、デジタル写真実測と手実測を組

註20. 水洗洗浄では、取り上げ後湿潤状態のままポリ袋に収納された遺物を自然乾燥させ、土壌の粘性を失わせた上で浸水させたところ、洗い落としが比較的容易であった。

註21. 土器の注記作業では、インクジェット式の遺物注記機を使用した。機械注記に適さない土器の小片や礫石器については手作業による注記とした。

註22. 撮影した写真の総数は約15,500枚に及んだ。これを整理作業中の参照用にネットワークハードディスクで運用する一方、バックアップとして光ディスクに記録して保管した。また、最終的に整理が完了した電子データ一式を日本工業規格JIS Z 6017 記録準拠ドライブと国際規格ISO/IEC16963に基づく推定寿命試験で長期保存性能が認定された光ディスクに記録して保存した。

註23. 充填材として歯科用硬質石膏を使用し、着色作業を省略するため、あらかじめブラウン調



遺物水洗作業



遺物機械注記作業



遺物注記作業



土器接合作業



縄文土器補強・修復作業



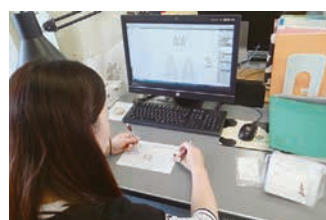
縄文土器拓本



縄文土器断面実測



縄文土器写真実測



石器写真実測

第2章 調査の経緯と方法

み合わせながら作成し、最終的にすべてデジタルトレースにより完成させた（註24）。実測図等の作成が終了した遺物については、デジタル一眼レフカメラを用いて報告書掲載用の写真撮影を行なった。遺構図については、すべてデジタルトレースにより作成した（註25）。遺構図のトレースと遺構の事実記載が完了した段階で報告書掲載用の写真を抽出し、画像処理ソフトウェアを用いて画像調整作業を行なった。これらの図面・写真と諸資料を基に執筆した本文と、遺構・遺物の写真・図面等のレイアウト・編集作業をDTPソフトウェアを用いて実施し、報告書を作成した。

報告対象遺構 本発掘調査では、第5表に示す通り多数の遺構を確認した。遺構配置図は分布状況と各遺構の重複関係が把握できるように調査区全体を収めた1/300と、調査区の主体部を6分割した1/100の2種類の縮尺で作成した。遺構配置図には確認したすべての遺構の位置と平面形状を示し、組み合わない柱穴を除くすべての遺構についての基本的な属性等は遺構観察表に記載した。第3章の本文記載では各遺構の遺構図と文章による記述を行なっているが、多数を確認した土坑については形態・堆積状況・出土遺物等に特徴を認めるものを選択的に扱った。

報告対象遺物 本整理作業における報告対象遺物は以下の方針で選定した。〔縄文土器〕遺構出土遺物のうち①残存率が高く器形・文様・装飾の全体が把握できるもの（註26）。②残存率は高くないが器形・文様・装飾が概ね把握できるもの。③破片資料で型式分類の基準となる文様・装飾が見られるもの。④破片資料で特徴的な文様・装飾が見られるものを抽出した上で、当該遺構出土土器の器形・文様・装飾の変異が把握できることに配慮しながら報告対象を決定し、重複する特徴を持つ資料が複数ある場合は割愛して代表させた。遺構外出土資料は特に特徴を認めるもののみを報告対象とした。

〔石器〕剥片石器は未成品を含む製品をすべて抽出した上で器種分類を行ない、残存率が高く形態や製作技術が把握できるものを報告対象とした。重複する特徴を持つ資料が複数ある場合は遺構出土資料を優先して代表させた。二次加工・微細剥離ある剥片は遺構出土資料で特に特徴を認めるものを報告対象とした。母岩別資料（註27）は接合資料と未成品を含む製品のすべてを報告対象とした。礫石器は遺構出土資料で残存率が高く形態・使用痕跡が明瞭に把握できるものを報告対象とし、遺構外出土資料は特に特徴を認めるものを報告対象とした。〔土製品・石製品〕残存率が高く形態や製作技術が把握できるもの、あるいは部分的な破片でも特に特徴を認めるものを報告対象とした。なお、土偶についてはごく小さな破片を除くほぼ全点を報告対象とした。

〔焼成粘土塊〕残存率が高く形状や表面状態が把握できるもの、焼成状態や胎土に特徴を認めるものを報告対象とした。

〔炭化材・種実、焼骨〕採取した全量を分析調査に供し、樹種・動物種が同定されたものを報告対象とした。

遺物の図化方法 本整理作業における遺物の図化は長焦点によるデジタル写真実測を主体に手実測を併用し、トレースはすべてデジタルトレースにより

のピグメント（顔料）を配合した。実測作業に必要な補強を中心に作業を進め、写真撮影の段階で器形や文様の把握を助けるための修復作業を選択的に実施した。

註24. 土器類の場合は外形および断面形を手実測、文様など器面の情報をデジタル写真実測により図化した。石器類についても限定的に手実測を行ないながらデジタル写真実測により図化した。実測用に使用した写真は、中望遠レンズを装着したデジタル一眼レフカメラを用いて撮影した画像を基に、ビットマップ画像編集ソフトウェアによりレンズ補正を加えて作成した擬似的な正射投影画像である。デジタル写真実測・トレースはベクトル画像編集ソフトウェアを用いて行なった。

註25. 現場で作成した図面をデジタル複合機のイメージスキャナを用いてデジタル画像化し、遺構調書を参照しながらベクトル画像編集ソフトウェアを用いてデジタルトレースを行なった。

註26. 概ね全体の6割以上の器形が復元できたものを復元個体、これ以下を部分資料および破片資料として扱った。

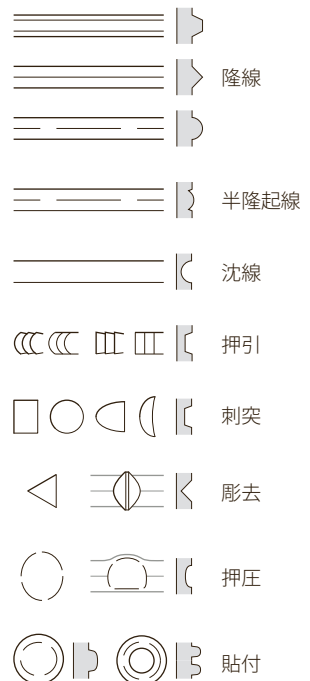
註27. 石材の肌理、葉理・流理構造、色調、夾雑物などの微細な特徴が近似し、同一の母岩から剥離された可能性が高いと考えられる石器のまとまりを「母岩」と仮称して分類し、接合作業を行なった。

行なった。また、縄文土器と土製品の一部については拓本を併用した。デジタル写真実測の写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（2400万画素フルサイズCMOSセンサー）を使用し、ライティングは光源にストロボを用いた反射光または拡散光による。縄文土器の復元個体および底部資料のほか比較的残存が良好なもの、土製品の自立するものについては、遺物を正位に据えた状態で正面水平方向から撮影距離約5.3mで焦点距離300mm、石器については撮影距離約2.0mで焦点距離200～300mmで撮影した。縄文土器の破片資料、自立しない土製品、石器の一部、礫石器、石製品については俯瞰撮影で正面垂直方向から撮影距離約1.3mで焦点距離105mmで撮影した。礫石器の撮影では俯瞰・側面撮影用にカメラ2台を設置し、遺物を回転台の上に据えることで一回の設置で各面を90度展開で撮影できるようにした。撮影した写真は現像ソフトウェア上でプロファイルによるレンズ補正機能を使用して収差などによる写真画像の歪みの補正を行なった。作図はデジタル写真と手実測により作図した外形・断面実測図をパソコン上で配置し、遺物の観察を行ないながらトレースした。各遺物の図化方法は下記の通りである。

〔縄文土器〕概ね1/4周以上が残存しており径の推定が可能なものを中心に器形復元を行なって立面図を作成し、原則として右側に断面図を配置した。波状縁や突起を付加する土器は、原則として波頂部または突起部を正面に据え、断面図は全体の特徴と突起部との両方の状態が把握できるよう必要に応じて副断面図を作成した。また、突起部の配置や形状を示すため必要に応じて上面図を作成した。破片資料についても可能な限り正位の状態を再現するよう据えたが、推定が難しいものは単に平置きの状態とした。文様の表現方法は線画と拓本を用いた。線画の表現は、原則として正位に据えた土器の左斜め上方から光が射した状態でできる陰影を表現している（註28）。拓本は器面の状態により、隆線等の凸部は周囲よりやや濃く墨入れをし、必要に応じて複写機による濃度の調整や加筆、汚れの除去を行なっている。

〔石器・礫石器〕90度展開で正面・右側面・裏面の3面と横断面図を基本とし、必要に応じて左側面・上面・下面・縦断面図を作成した。石器の据え方は石鏃・尖頭器は尖端部を上、石錐・石筥・打製石斧・磨製石斧は刃部を下、石匙は摘み部を上、不定形石器は素材剥片の打面部を上、石核は主要な作業面を正面とし、その打面を上据えた。剥離面の新旧関係は剥離面の形状とリング・フィッシャーにより表現している（註29）。母岩別資料の接合資料については写真と色分け図および剥離工程表を作成し、個別の製品については写真による報告とした。なお、遺構等の出土遺物として実測図を掲載したもので母岩別資料に含まれるものは写真を再掲している。礫石器については加工部位や使用痕跡の残る部位を表現するよう個別の石器ごとに向きや展開面数を設定したが、大型のものが多いため紙幅の都合上、主要な機能部位を図化することとし、断面図に加工部位や使用痕跡の範囲を記入することで不足を補った。また、加工・使用痕跡のうち研磨痕および摩滅痕、磨敲痕、敲打痕、溝状敲打痕はパターンの貼り付けにより表現した。

註28. 沈線等の凹部は左上端、隆線等の凸部は両裾を太線で描画する。また、沈線等の底面の下端線は省略し、隆線等の稜線は明瞭度により実線または破線の細線で表現する。



縄文土器実測図の表現

註29. 剥離面の形状は新しい剥離面の稜線から作図し、古い剥離面の稜線が新しい剥離面の稜線に断ち切られるよう表現する。リングは新しい剥離面では稜線に沿うように収束させ、古い剥離面では新しい剥離面の稜線に断ち切られるように鈍角に収束させる。また、剥離面の末端部が残存している場合はリングの間隔を詰めて表現する。フィッシャーは原則として新しい剥離面の縁辺に描画し、古い剥離面の縁辺では省略するか、縁辺からやや離して描画する。

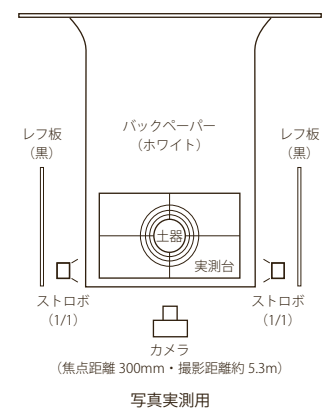
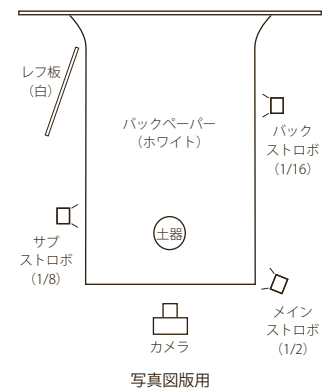
〔土製品・石製品〕特徴が個別的であることから、据え方や展開面数等は個々の遺物ごとに設定した。図の表現方法については土製品は縄文土器、石製品は石器に準ずる。

遺物の写真撮影方法 本整理作業における遺物の写真撮影はデジタル一眼レフカメラ（2400万画素フルサイズ CMOS センサー）を使用し、ライティングは光源にストロボを用いた反射光または拡散光による。各遺物の撮影は下記の方法を基本として行なった。

縄文土器の復元個体および底部資料のほか比較的残存が良好なもの、土製品の自立するものについては、遺物を正位に据えた状態での立面撮影である。正面やや斜め上方に視点を置き、奥側の口縁部内面がやや写り込むように撮影した。実測図の正面と対応した据え方を基本としたが、全体の器形や文様構成を示すよう適宜調整した。また、複雑な胴部文様が展開する土器については、実測図正面を基準に 90 度展開で 4 方向からの撮影を行なった。ライティングは右手前上方に主光源、左側に副光源、奥側に補助光を配置し、発泡スチロールまたはスチレンボード製の白色・黒色の反射板を適宜用いた。

縄文土器の破片資料および外底面の敷物圧痕、自立しない土製品、石器、礫石器、石製品については俯瞰撮影である。縄文土器の破片は可能な限り正位の状態を再現するよう据えたが、推定が難しいものについては単に平置きの状態で撮影した。敷物圧痕は比較的に明瞭なものを選択的に撮影した。土製品、石器、礫石器、石製品は実測図正面を基準に 90 度展開で複数方向からの撮影を行なった。ライティングは下面からの拡散光、側面 4 方向および上面からの反射光を基本とし、必要に応じて上面からの拡散光または直接光による補助光を配置した。また、スチレンボードまたは紙製の白色・黒色の反射板を適宜用いている。なお、石器接合資料など遺物の形状等から支持具や反射板その他の写り込みが避けられない場合、パソコン上で背景の切り抜きを行なった。

遺物の掲載順 出土遺物の掲載にあたってはレイアウトの都合上、縄文土器、土製品、焼成粘土塊、石器、礫石器、石製品の種別ごとに収録した。掲載順は第 5 表および第 3 章の本文記載と同様に遺構種別ごと、遺構番号順となっている。本文で個別の記載を省略した遺構でも、出土遺物を掲載している場合がある。出土遺物の掲載にあたっては、遺構内出土の破片と遺構外出土の破片が接合した場合には、遺構内出土遺物として掲載した。異なる遺構間あるいは同一遺構内の異なる層位間で接合した場合、遺構間の新旧関係が明らかな場合は古い方に帰属させることを原則としたが、一方がごく小片で混入等の可能性が疑われる場合は大きな破片の帰属を優先させた。いずれの場合も、遺構間の接合関係は遺物観察表に記載している。各遺構の遺物は、住居床面または底面出土のものを初めに掲載し、堆積土出土のものを下層から順に掲載した。縄文土器は特徴の類似するものでまとめ、全体の様相が把握しやすいよう努めたが、レイアウトの都合上、意図した掲載順となっていない部分もある。土製品・石製品は器種ごとに第 6 表の順に掲載した。また、作業進行の都合上、必ずしも各器種の細分類（第 3 章第 3 節 3）に沿ったレイアウトとはなっていない。



第 2 章 縄文土器の立面写真撮影



縄文土器の集合写真撮影



石器の俯瞰写真撮影

各種分析調査 今回の調査成果を考察する上で必要な自然科学的所見を得ることを目的に、以下のとおり各種分析調査を実施した。分析調査は外部の研究者および専門業者への委託業務および共同研究として、遺物整理作業の進捗に合わせて平成26～令和2年度に実施し、その成果は第4章(第2分冊)に収録した。各分析調査における目的と対象試料は下記の通りである。

〔テフラ分析〕基本層から採取したテフラを試料とし、顕微鏡観察と屈折率測定によりテフラを同定。給源火山と噴火様式、降下年代を検討し、遺跡の形成年代についての指標を得ることを目的とした分析(註30)。

〔花粉分析〕遺構堆積層から採取した土壌を試料とし、顕微鏡観察により花粉化石を同定・計数して花粉組成を明らかにする。遺跡周辺の古植生を検討することを目的とした分析(註31)。

〔細粒微粒炭分析〕花粉分析と併せて実施。遺構堆積層から採取した土壌を試料とし、顕微鏡観察と画像解析により細粒微粒炭の積算面積を計測。遺跡周辺の生業を検討することを目的とした分析(註31)。

〔樹種同定〕遺構出土炭化材・炭化種実を試料とし、肉眼・顕微鏡観察により樹種を同定。植物資源利用の検討を目的とした分析(註31)。

〔植物圧痕同定(圧痕レプリカ法)〕土器表面・胎土中に認められる種子・葉脈圧痕からシリコン樹脂により印象採取したレプリカを試料とし、走査型電子顕微鏡観察により植物種を同定。植物資源利用の検討を目的とした分析(註32)。

〔出土骨同定〕遺構出土骨片を試料とし、肉眼・顕微鏡観察により動物種・部位を同定。動物資源利用の検討を目的とした分析(註30)。

〔放射性炭素年代測定(AMS測定)〕遺構出土炭化材・土器付着炭化物を試料とし、遺構・遺物の年代についての指標を得ることを目的とした分析(註33)。また、焼骨の年代測定試料としての有効性を検討することを目的として、竪穴住居跡の同一層出土の焼骨・炭化材を試料とした分析を実施した(註34)。

〔炭素・窒素安定同位体比分析〕放射性炭素年代測定と併せて実施。加熱調理における吹き零れや焦げ付きなど食物残滓に由来する可能性が高い土器付着炭化物を試料とし、食性および年代測定値への海洋リザーバー効果(註35)の影響を検証することを目的とした分析(註33)。

〔土器胎土分析〕主要な土器から作成した薄片を試料とし、顕微鏡観察により胎土に使用された粘土や混和材の特徴を把握。土器型式と材料・製法の関係を検討することを目的とした分析(註32)。

〔黒曜石原産地推定分析(蛍光X線分析)〕黒曜石製石器を試料とし、微量元素の定性分析により原産地を推定。石材資源利用の検討を目的とした分析(註36)。

〔磨製石斧石材同定(X線回折分析)〕遠隔地石材製の可能性がある磨製石斧を試料として肉眼鑑定、実体顕微鏡観察、X線回折分析により岩石名を同定し、既知の原産地における岩相や外観との比較から産地を推定。石材資源利用の検討を目的とした分析(註30)。

〔石製品石材同定(蛍光X線分析)〕垂飾品を試料とし、構成元素比の定性分析により石材を同定。石材資源利用の検討を目的とした分析(註37)。

註30. テフラ分析、出土骨同定、磨製石斧石材同定はパリオ・サーヴェイ株式会社に委託して実施した。

註31. 花粉分析、細粒微粒炭分析、樹種同定は古代の森研究舎に委託して実施した。

註32. 植物圧痕同定、土器胎土分析はパレオ・ラボ株式会社に委託して実施した。

註33. 放射性炭素年代測定、炭素・窒素安定同位体比分析は株式会社加速器分析研究所に委託して実施した。

註34. 焼骨・炭化材の放射性炭素年代測定は株式会社加速器分析研究所と町教育委員会との共同研究として実施した。

註35. 循環周期が大気中よりも長い海水中の炭素を取り込んだ海洋生物が示す炭素同位体比が海水中の古い炭素に影響される現象。一般に大気中よりも数百年古い値を示すとされるが、地域により異なる。

註36. 黒曜石産地推定分析は佐々木繁喜氏(宮城県登米高等学校)と町教育委員会との共同研究として実施した。また、分析機器の使用については宮城県産業技術総合センターの協力を得た。

註37. 石製品石材同定は飯塚義之氏(台湾 中央研究院)・小野章太郎氏(宮城県教育庁文化財課)と町教育委員会との共同研究として実施した。

成果の検討と調査指導 本発掘調査の成果を検討するにあたり、縄文土器の型式学的特徴と地域性などについて、主に相原淳一氏（東北歴史博物館）、松元茂氏・中野幸夫氏（福島県文化振興事業団）、堀江格氏（福島市振興公社）、田村正樹氏（七ヶ浜町歴史資料館）よりご教示をいただき、併せて各地の博物館等の見学調査（註 38）を行なって比較検討の参考とした。

また、佐川正敏氏（東北学院大学）より大木 8a 式土器の文様構成について、會田容弘氏（郡山女子大学短期大学部）より土偶の製作・使用・廃棄行動に関する技術学的所見について、鹿又喜隆氏（東北大学）より石器の使用痕分析に基づく機能推定についてご教示をいただくとともに、後述の通り調査研究を依頼しその成果を第 5 章（第 2 分冊）でご執筆いただいた。

なお、岡村道雄氏（東松島市奥松島縄文村歴史資料館）より本遺跡の立地と遺構配置の特徴などについて、佐川正敏氏より集落の内外における遺物の廃棄行為について、岡村道雄氏、阿部明彦氏（山形県埋蔵文化財センター）、石本弘氏（伊達市教育委員会）より土偶などの土製品について、佐々木繁喜氏（宮城県登米高校）、高橋健寿氏（宮城県考古学会）より黒曜石について、秦昭繁氏（元山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館）、沢田敦氏（新潟県教育委員会）より珪質頁岩について、秦昭繁氏、岡村道雄氏よりアオトラ石について、西村力氏（宮城県教育庁文化財保護課）より動物遺存体について、鈴木三男氏（東北大学）、吉川純子氏（古代の森研究舎）より土器の葉脈圧痕について、伴雅雄氏（山形大学）、早田勉氏（株式会社 火山灰考古学研究所）より蔵王火山の火山灰について、山田しょう氏（株式会社 加速器分析研究所）より各種分析調査についてご教示をいただいた（順不同・所属は当時）。なお、いただいたご教示・ご指摘について、本書での検討が十分に及ばなかった事柄については今後の課題とさせていただきたい。

考古学的調査研究 今回の調査成果に関する考古学的所見を得ることを目的として、以下の通り外部の研究者および専門業者に調査研究を依頼して実施した。これらは遺物整理作業の進捗に合わせて平成 30～令和 2 年度に実施し、その成果は第 5 章（第 2 分冊）に収録した。目的および対象資料と分析手法は下記の通りである。

〔縄文土器三次元計測〕縄文土器の一部について、SfM/MVS 技術（註 39）によりデジタル画像から三次元データ（3D モデル）を生成し、これを利用して形状解析画像（PEAKIT 画像）（註 40）を作成した（註 41）。3D モデルは土器の精密な形状記録であり、パソコン・タブレットなどのデジタル端末上で任意方向からの外観を再現できることから、二次元的な展開図法による実測図の情報を補完し土器の立体的把握に有効である。PEAKIT 画像は微細な形状特徴を抽出し視覚的に表現したもので、正面・上面・円筒展開図を作成した。文様や装飾、製作痕跡の把握に有効である。

〔縄文土器文様分析〕口縁部に立体的な装飾を持ち胴部に複雑な文様が充満的に展開する大木 8a 式土器を対象として、3D モデルおよび PEAKIT 画像を利用した文様構成の分析を実施した（註 42）。

註 38. 平成 23 年度：石川県能登町真脇遺跡縄文館・金沢市新保本町埋蔵文化財収蔵庫。平成 24 年度：山形県舟形町公民館（「国宝縄文の女神里帰り展—西ノ前遺跡・水木田遺跡—」）。平成 25 年度：東北歴史博物館（テーマ展示「修復された被災文化財—中ノ内 A・B 遺跡の縄文土器—」）。平成 27 年度：山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館（企画展「重要文化財 水木田遺跡展」）。平成 28 年度：東北歴史博物館（テーマ展示「修復された被災文化財—小梁川・大梁川遺跡—」）・福島県文化財センター白河館（企画展「縄文土器の年代Ⅱ—縄文中期の世界に迫る—」）。平成 29 年度：七ヶ宿町水と歴史の館（特別展「大梁川・小梁川遺跡展」）。平成 30 年度：七ヶ浜町歴史資料館（企画展「大木式土器の世界」）・福島県郡山市大安場史跡公園ガイダンス施設（企画展「縄文時

第 2 章 調査の経緯と方法

代の地層をめぐり令和 2 年度：山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館（企画展「水木田遺跡と縄文時代中期前半の山形」）・福島市宮畑遺跡史跡公園（企画展「土偶の世界—集結！ 国宝土偶レプリカ 5 体と福島の土偶展—」）・福島県文化財センター白河館（企画展「法正厩遺跡展 1—磐梯山麓最大の縄文集落—」）。

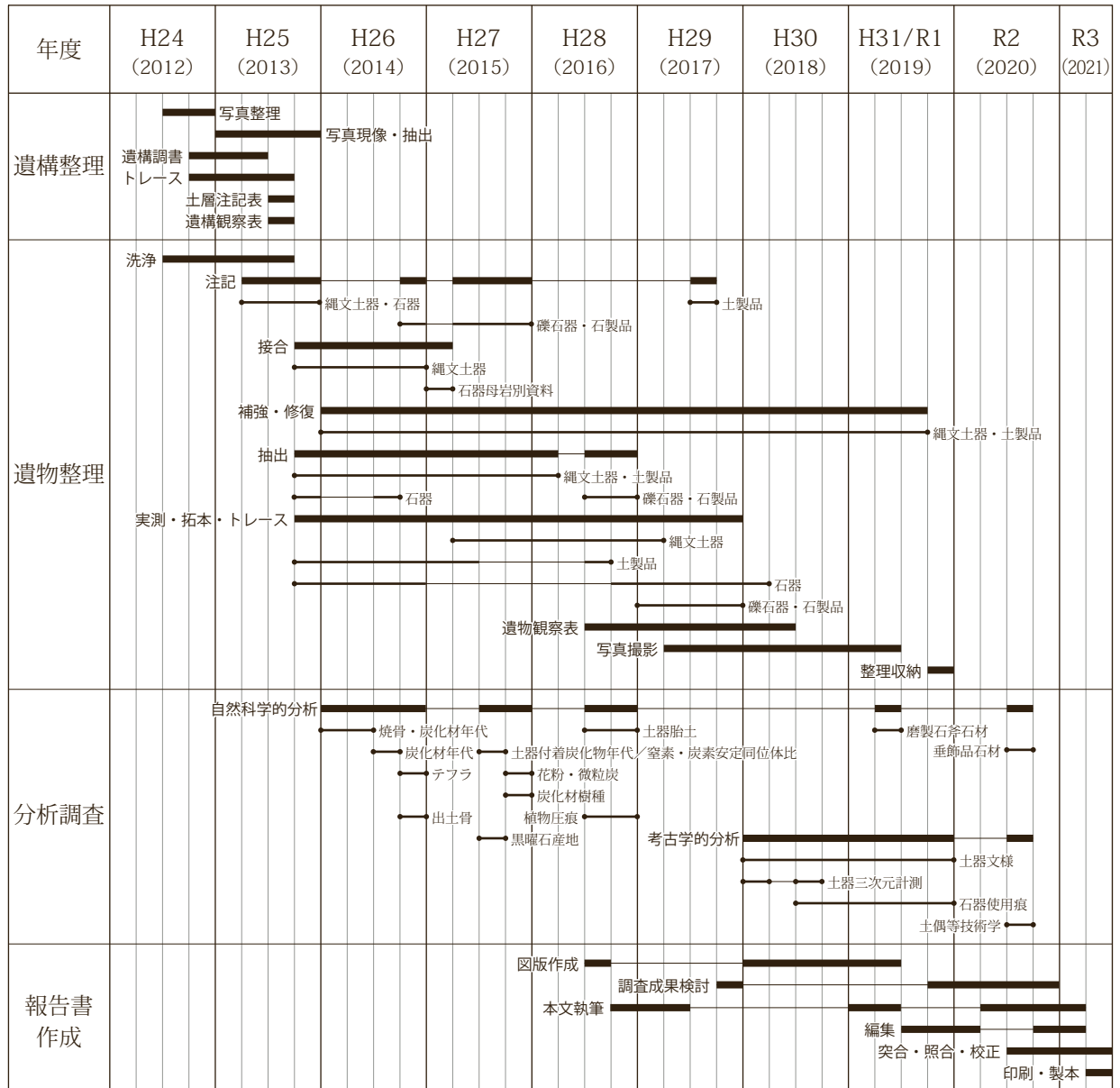
註 39. SfM (Structure from Motion) は複数視点からの画像を元に、画像の撮影位置と撮影物の三次元的な関係と形状を復元する方法であり、MVS (Multi-view Stereo) は得られたカメラ位置などのパラメータから高密度の点群を生成する方法である（文化財方法論研究会 2016）。

註 40. 株式会社ラング（岩手県盛岡市）が独自のアルゴリズム（特許）により生成した PEAKIT 画像。

註 41. 縄文土器三次元計測は佐川正敏氏（東北学院大学文学部教授）と町教育委員会との共同研究として実施した。

註 42. 縄文土器文様分析は佐川正敏氏（東北学院大学文学部教授）に依頼して実施した。

第3表 室内整理の工程と経過



〔土偶等の技術学的分析〕本遺跡における土偶および縄文土器の製作と使用の状況を検討することを目的に、製作・使用に関わる痕跡を中心とした技術学的分析を実施した（註43）。

〔石器使用痕分析〕主要な遺構出土石器のうち使用痕が確認されたものを対象として、金属顕微鏡観察などにより使用部位や使用方法、被加工物などを推定。石器の機能について検討することを目的とした分析（註44）。

整理作業の経過 基礎整理作業は野外調査終了後の平成24年8月27日に着手し、遺物洗浄と写真記録の分類・注記、遺構調査・遺構配置図作成などを進めた。一方、遺物量が膨大であることから、整理作業の方法と進め方について検討を重ね、宮城県教育委員会および町当局との協議を経て現状の町文化財整理室における作業可能量と財政負担の平準化の観点から立案した年次計画（平成25～30年度の6か年）に沿って計画的に作業を進める方針で合意した（註

註43. 土偶等の技術学的分析は會田容弘氏（郡山女子大学短期大学部教授）に依頼して実施した。

註44. 石器使用痕分析は鹿又喜隆氏（東北大学大学院文学研究科准教授）に依頼して実施した。

第2章 調査の経緯と方法

45)。この方針は町議会の平成25年3月会議で承認され、各年度当初予算として順次承認・措置されることとなった。室内整理の工程と経過は第3表の通りである。

本整理作業は平成25年4月に着手した。平成25年度は出土遺物の洗浄・注記作業を主体に進めた。洗浄作業の完了後、縄文土器の接合と石器・土製品の実測作業に着手した。これらの遺物整理と並行して遺構写真のデジタル現像、遺構調書・遺構観察表・土層注記表作成、遺構図のトレース作業を実施した。

平成26年度は縄文土器の接合と石膏による補強・修復作業を主体に、並行して石器・土製品の実測作業を進めた。また、焼骨・炭化材の放射性炭素年代測定を共同研究により、炭化材の放射性炭素年代測定、出土骨同定、テフラ分析を委託業務により実施した。遺構図のトレースと主要な遺物の接合作業の進捗を踏まえ、調査成果の概要をまとめた概報を刊行した（註46）。

平成27年度は礫石器・石製品の注記、縄文土器・土製品の補強・修復、実測・拓本作業を主体に進めた。また、土器付着炭化物の放射性炭素年代測定と炭素・窒素安定同位体比分析、土壌の花粉・細粒微粒炭分析、炭化材・炭化種実の樹種同定を委託業務により、石器の黒曜石原産地推定分析を共同研究により実施した。

平成28年度は縄文土器・土製品の補強・修復、実測・拓本作業を主体に進めた。縄文土器の大部分と土製品類の資料化を完了し、遺物観察表作成、報告書の図版作成と本文執筆に着手した。また、石器実測図作成の一部、植物圧痕同定、土器胎土分析を委託業務により実施した。

平成29年度は各種遺物の実測作業を主体に進め、縄文土器・礫石器・石製品の実測図作成を完了した。また、石器実測図作成の一部を委託業務により実施した。実測作業の完了した縄文土器については、写真撮影用に自立させるよう石膏による補強・修復を進めた。また、遺物観察表作成、遺物写真撮影、各種分析調査結果の検討、報告書の本文執筆を進めた。

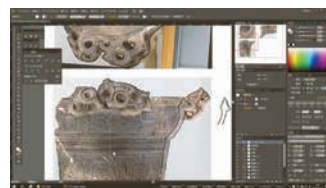
平成30年度は当初計画の最終年度にあたり、報告書刊行を予定していたが、平成29年度までに断続的に実施した県営ほ場整備事業および町道改良事業に伴う発掘調査・整理作業（註47）に伴って生じた休止期間の影響で本整理作業の進捗に遅れを生じていた。このため、本整理作業の年次計画を1か年延長し、平成31年度を最終年度として報告書刊行を目指すことになった。

平成30年度は遺物観察表作成、遺物写真撮影、報告書の図版作成を主体に進めた。また、石器実測図作成の一部を委託業務により実施し、全ての遺物実測図作成を完了した。さらに、縄文土器三次元計測を共同研究により実施し、縄文土器文様分析、石器使用痕分析を専門家に依頼した。縄文土器の石膏による補強・修復は、写真撮影用に加えて一部の資料については展示等での活用を見込んだ文様・装飾部の復元を行なった。縄文土器の復元・修復を含む主要な遺物の整理作業がほぼ完了したことから、本発掘調査の成果の概要と主要な出土品を公開する文化財展（註48）を開催した。

平成31・令和元年度は遺物写真撮影、報告書の図版作成、調査成果の総合的な検討と本文執筆、編集作業を主体に進めた。また、磨製石斧石材同定を委

註45. 整理作業と報告書の刊行は発掘調査終了後おおむね3年以内に行なわれることが望ましいが、止むを得ず整理作業が長期に及ぶ場合は概報を刊行し調査成果の早期公表に努めることとされた。本発掘調査の概報は平成26年度に刊行した（註46）。

註46. 「附編1 谷地遺跡発掘調査概報（平成23・24年度調査）」『蔵王町内遺跡発掘調査報告書2』蔵王町文化財調査報告書第20集



遺物実測図の作図画面



報告書の編集画面

註47. 県営ほ場整備事業関連では磯ヶ坂遺跡・六角遺跡・原遺跡の整理・報告書刊行、総括報告書刊行（平成25年度）、西屋敷遺跡の発掘調査と整理・報告書刊行（平成28・29年度）、町道改良事業関連では原遺跡の発掘調査と整理・報告書刊行（平成26・27年度）を実施している。

第3節 整理の方法と経過

託業務により実施した。写真撮影を含む全ての遺物の整理作業がほぼ完了したことから、本発掘調査の成果の概要と主要な出土品を公開する文化財常設展示（註49）を開設した。

埋蔵文化財保護調整業務では平成30年度から令和元年度にかけて太陽光発電設備などの比較的大規模な開発事業に伴う確認調査等の現場対応が相次いだことにより、調査成果の総合的な検討と報告書の本文執筆、編集作業に遅れを生じた。また、入稿時期が印刷所の繁忙期となり大部の報告書作成に対応できないことが判明し、予定スケジュールでの報告書刊行の業務完了が困難となった。このため、最終的な印刷製本業務は令和3年度に完了させることになった。

令和2年度は新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言などの状況を踏まえて感染予防対策を講じながら業務を継続し、調査成果の総合的な検討と報告書の本文執筆、編集作業を主体に進めた。また、石製品の石材同定を共同研究により実施し、土偶等に関して新たな知見が得られたことから技術学的分析を専門家に依頼した。

以上の経過を経て執筆・編集作業が完了した原稿の照合・突合と校正作業を行ない、校了した原稿を完全デジタル原稿として順次印刷所へ入稿し、令和3年度に本発掘調査の整理作業と報告書刊行の一切を完了する運びとなった。

本遺跡の記録保存事業における発掘調査期間は約14か月間、整理作業期間は約111か月間であり、平成23年7月の本発掘調査の着手から本報告書の刊行までを通算して10年余りの歳月を要したことになる。この間、東日本大震災で被災した文化財建造物等の復旧事業を含む各種文化財の保護・保存対策や、学校教育との連携を含む普及啓発事業を並行して進めてきたこと、特に埋蔵文化財保護調整においては現場対応の増加によって大小の休止期間を断続的に生じたことにより、当初計画から大幅に事業期間を延長することとなった。現状の体制・設備の中で最善策を模索しながら社会状況等の変化に随時対応してきた結果ではあるものの、今後も開発事業が予想される町中心部などに多数の縄文時代遺跡を抱える当町の埋蔵文化財保護行政において、保護調整業務と記録保存事業の進め方に小さくない課題を残したとも言える。

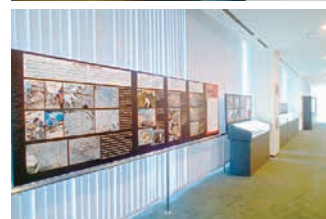
今後は、谷地遺跡記録保存事業の成果について本書をもとに学術・教育普及の両面において積極的な公開・活用を図るとともに、地域に息づく山麓文化への理解を深め、地域色豊かなまちづくりに活かしていくことが求められよう。

註48. 蔵王町文化財展20「蔵王山麓の縄文ムラⅠー谷地遺跡の発掘調査成果ー」。会期：平成30年7月14日～8月26日。会場：蔵王町ふるさと文化会館展示室。



文化財展開催風景

註49. 常設展示「谷地遺跡ー蔵王山麓に育まれた縄文ムラー」。開設日：令和元年8月23日。場所：蔵王町ふるさと文化会館内



常設展示風景

第3章 調査の成果

第1節 微地形と基本層序

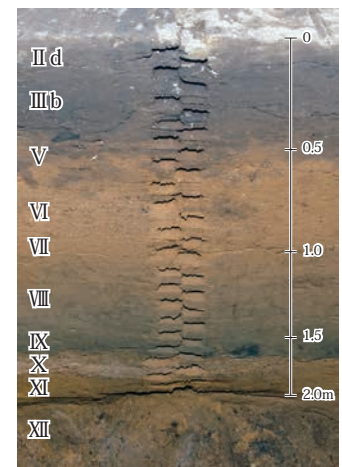
立地と微地形 本遺跡は阿武隈川下流域の白石川圏域に属する松川左岸の矢附段丘面上に立地する。段丘面は南東方向に緩やかに傾斜しており、遺跡周辺で約2.2%の勾配を持つ（第5図）。現河床面と調査地点付近の比高差は約6mである。調査地点は遺跡範囲の中央北寄りに位置するが、本遺跡の北側に隣接し、遺物の散布状況などから一体の遺跡と考えられる寺門前遺跡（註1）を含めて見ると、両遺跡の中心部にあたる。調査前の現況は畑（休耕地）であり、昭和36年（1961年）撮影の航空写真では果樹園としての利用が確認できる。調査区北辺に沿って埋没した後背湿地と考えられるごく浅い沢状の微地形が確認され、南側は細い尾根上の高まりに面している。

基本層序 調査区内の基本層序は表土から段丘礫層上部までを12層に区分した（第17～19図、第4表）。Ⅰ層は現代の耕作土で、しまりの無い黒褐色シルトである。後世の土壌攪拌により多くの遺物を巻き込んでいる。Ⅱ層は蔵王火山起源の青灰色火山砂（註2）をブロック状に含む黒ボク土層で、窪地状の微地形を埋積する。Ⅱa～Ⅱd層に細分され、Ⅱa・Ⅱd層がテフラの一次堆積層と考えられる。遺物はあまり含まない。Ⅲ層は黒ボク土層である。Ⅲa・Ⅲb層に細分され、若干の遺物を含む。Ⅳ層以下は基本的に遺物を含まず、Ⅳ層は漸移層上部で黒褐色シルト、Ⅴ層は漸移層下部で暗褐色シルトを主体とする。Ⅵ～Ⅺ層はローム質層で、Ⅵ層は褐色の小礫混じり砂質ローム層、Ⅶ層は褐色のローム層、Ⅷ層はオリーブ褐色のローム層、Ⅸ層は蔵王火山起源の蔵王川崎スコリア層（板垣ほか1981・註3）、Ⅹ層はにぶい黄褐色の粗砂層、Ⅺ層は黄褐色のローム層、Ⅻ層は灰黄褐色の砂礫層で大型の礫を包含し、段丘礫層と考えられる。従って、本遺跡の立地する矢附段丘面は、蔵王川崎スコリアの降下をやや遡る時期に離水し陸地化したと考えられる。

遺構確認面 調査区内の表土を除去した遺構確認面の微地形は現況とほぼ同じ

註1. 平成23年度に実施した遺構確認調査で縄文時代中期前半の遺構・遺物を確認している。遺物の内容は本遺跡とほぼ共通し、緑色岩（アオトラ石）製磨製石斧が出土している（町18集）。

註2. Ⅱd層から採取した土壌試料の分析により、スコリア質テフラの降下堆積物で給源は蔵王火山と推定された（第4章第1節：第2分冊）。Ⅱa層はZ-To7：約4,500年前、Ⅱd層はZ-To6：約5,300年前に対比される可能性が高い（いずれも較正暦年代：河野2005）。

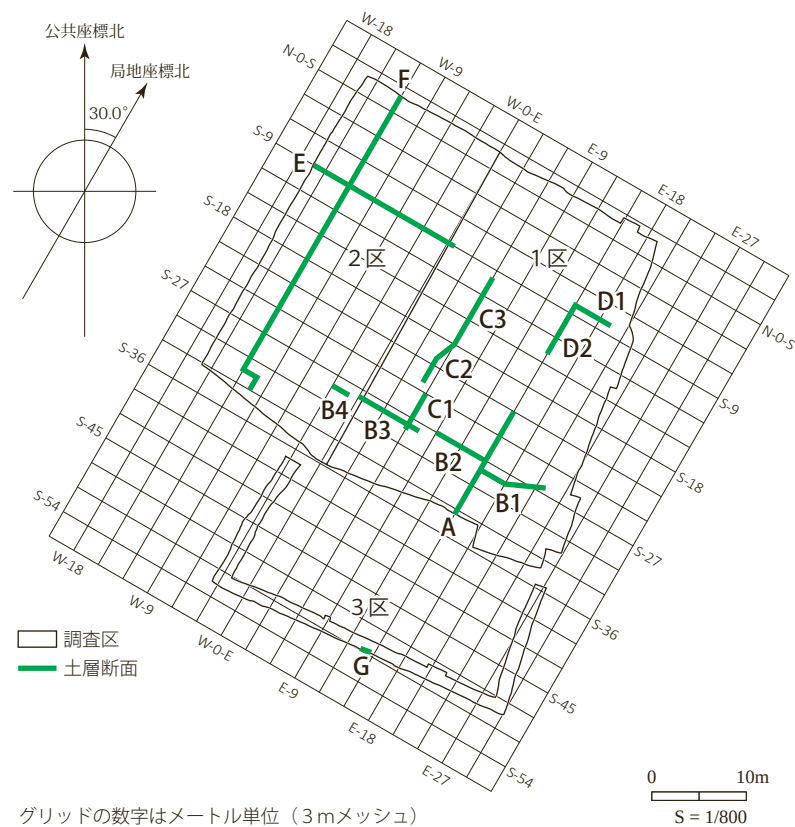


基本層序断面（S-18・W-12 付近）

第4表 基本層序一覧

層序	層名	土色	土質	含有物
Ⅰ層	表土	10YR2/1 黒色	シルト	（現代の耕作土）
Ⅱ層	火山砂混じり黒ボク土層	10YR2/2 黒褐色	シルト	青灰色火山砂ブロック。炭化物片・焼土粒・ローム粒少量。
Ⅲ層	黒ボク土層	10YR2/2 黒褐色	シルト	凝灰岩片・炭化物片・焼土粒・ローム粒少量。
Ⅳ層	漸移層上部	10YR2/3 黒褐色	シルト	暗褐色シルトブロック、ローム粒。
Ⅴ層	漸移層下部	10YR3/3 暗褐色	シルト	ロームブロック・粒。
Ⅵ層	小礫混じり砂質ローム層	10YR4/6 褐色	砂質シルト	径5mm以下の小礫少量。
Ⅶ層	ローム層	10YR4/4 褐色	シルト	
Ⅷ層	ローム層	2.5Y4/4 オリーブ褐色	シルト	スコリアブロック。
Ⅸ層	蔵王川崎スコリア層	2.5GY3/1 暗オリーブ灰色	シルト質砂	ロームブロック。
Ⅹ層	粗砂層	10YR5/4 にぶい黄褐色	砂質シルト	径2mm以下の粗砂多量。
Ⅺ層	ローム層	10YR5/6 黄褐色	粘質シルト	
Ⅻ層	段丘礫層	10YR5/2 灰黄褐色	シルト	砂・小礫・礫・大型礫多量。

第3章 調査の成果



第16図 調査区土層断面位置図



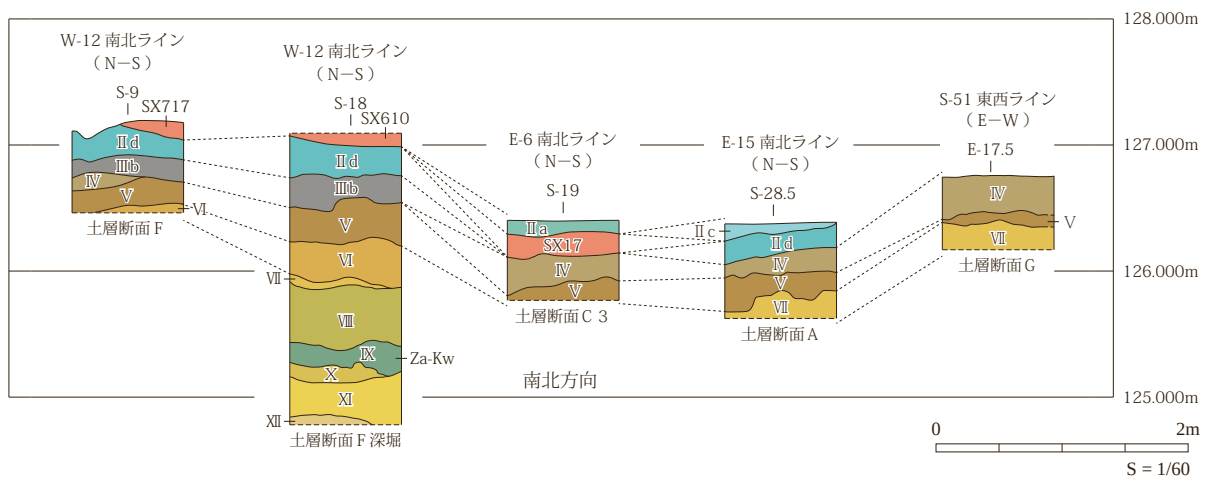
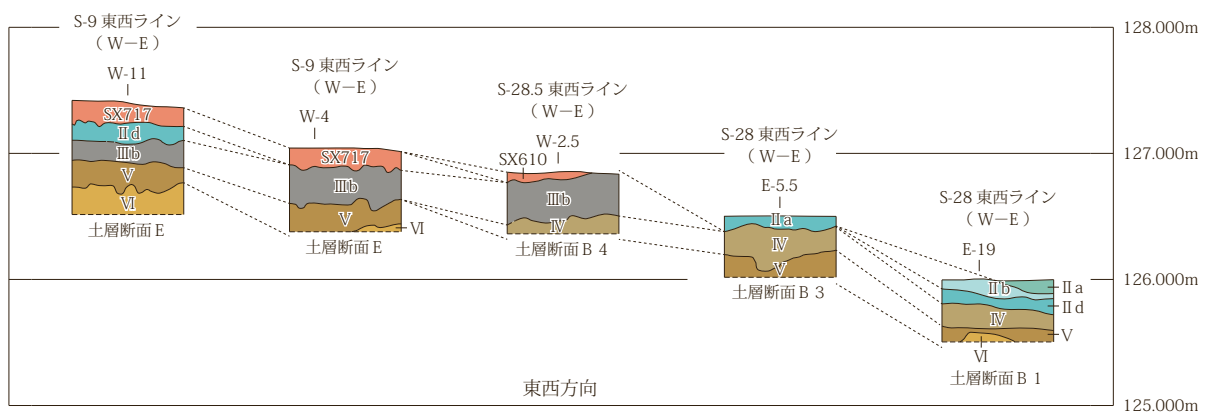
基本層序断面（S-9・W-10 付近）



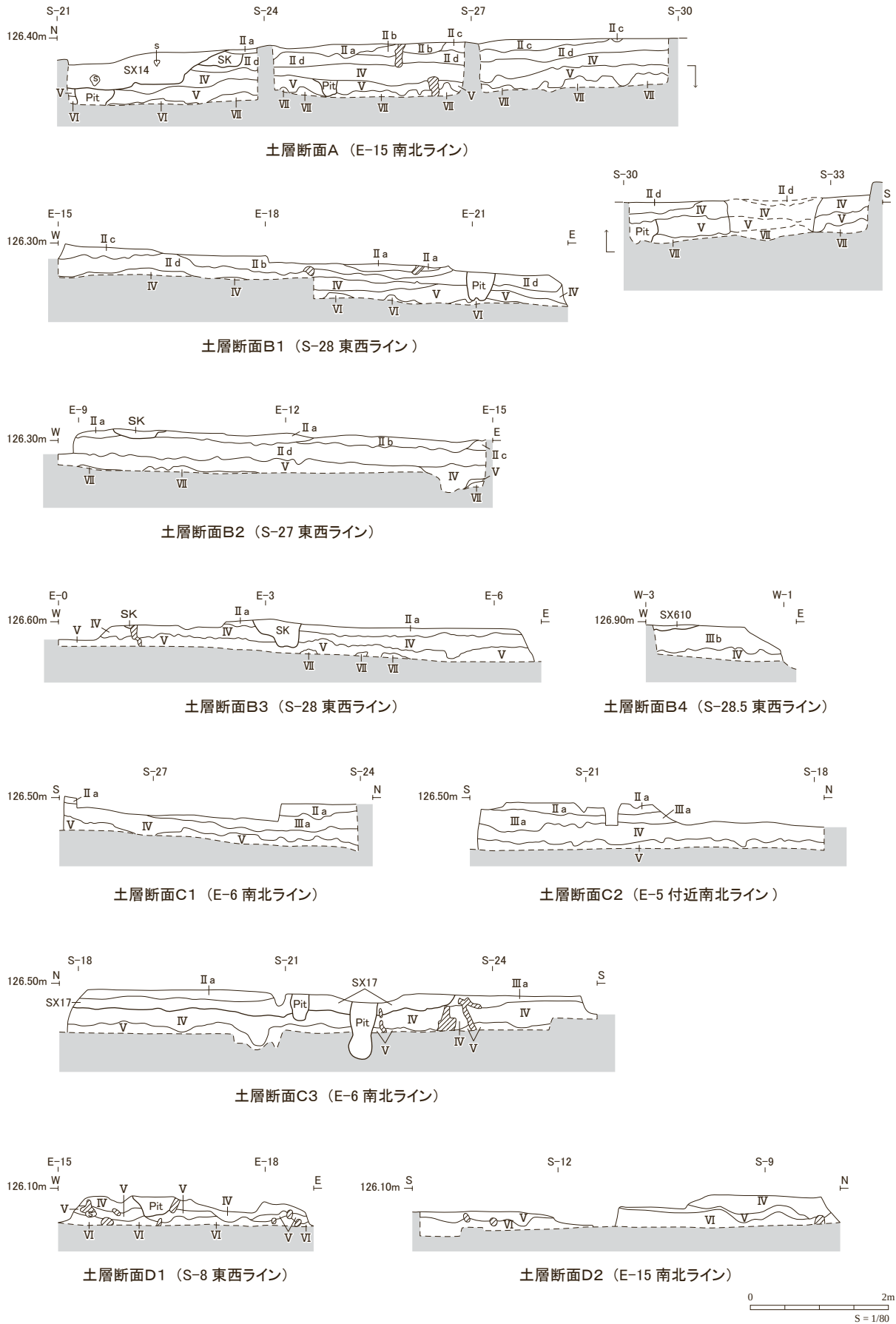
堆積土上層に青灰色火山砂を含む土坑(SK274)



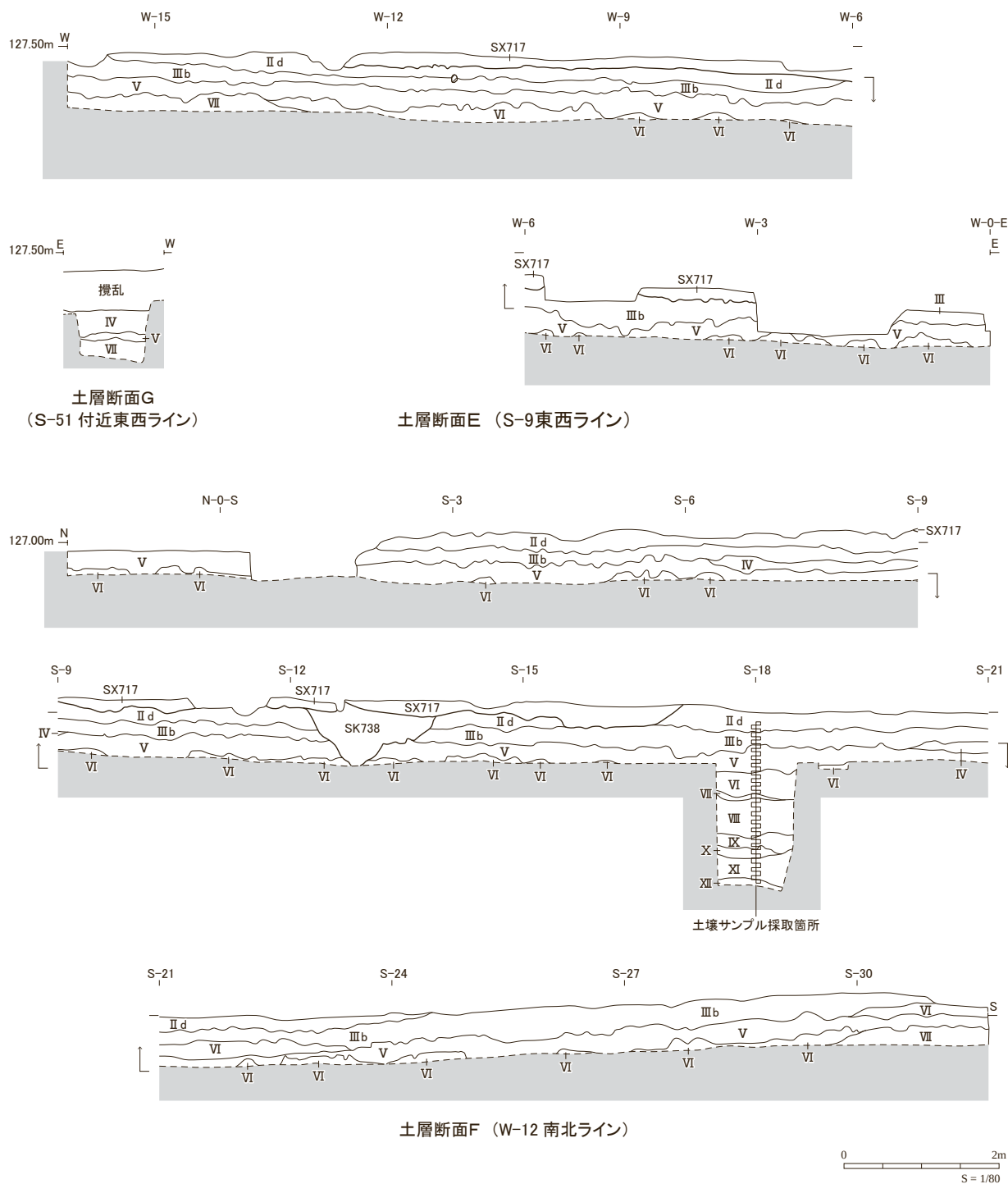
XII層上面を底面とする土坑（SK592）



第17図 調査区基本層序模式柱状図



第18図 調査区土層断面図



第19図 調査区土層断面図

であったが、調査区南西部では後世の削平の影響が見られ、表土直下がⅣ～Ⅵ層の削平面となっていた。遺構はⅡ～Ⅲ層上面、およびⅣ～Ⅵ層の削平面で確認した。Ⅱa層はSX17遺物包含層の上面を被覆しており、SI22 竪穴住居跡、SX3・SX4 竪穴状遺構、SK274・SK606 フラスコ状土坑の堆積土上層にⅡa層に対応すると考えられる土層が介在する。SX717 遺物包含層はⅡd層上面に形成されている。遺構同士の重複が著しく、各遺構の掘り込み面と基本層との関係を良好に確認できたものは少ないが、遺物包含層の層序対応や基本層の遺物出土状況から概ねⅡ層～Ⅲ層（註4）が集落期の堆積層と考えられる。

註3. 光ルミネッセンス年代測定法により約3万年前の噴出と推定されている（長友ほか2005）。

註4. 基本層出土遺物は重量比でⅠ層52.5%、Ⅱ層3.4%、Ⅲ層33.1%、Ⅳ層1.4%、Ⅴ層3.4%、その他6.3%である。表土および現代の耕作土層であるⅠ層を除けばⅢ層が突出し、集落期の堆積層であることを示している。

第2節 遺構と遺物の概要

遺構の確認状況 本発掘調査では、縄文時代の遺構・遺物を確認した。遺構は調査区内のほぼ全域で確認し、分布の密度は極めて濃密である。確認した遺構の内訳は竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡11軒（註5）、竪穴状遺構10基、炉跡18基、フラスコ状土坑56基、落とし穴状土坑2基、土坑396基、配石遺構1基、土器埋設遺構12基、遺物集中1か所、石器集積6か所、焼土集積19基、遺物包含層9か所、溝跡3条、組み合わない柱穴984基である（第5表）。

これらの帰属時期は、出土土器の特徴からほとんどが縄文時代中期前半（大木7a～8a式期）である（註6）。なお、遺構の分布が少ない調査区南西部では表土直下がⅣ～Ⅵ層の削平面となっており、後世の削平の影響によって遺物包含層や掘り込みの浅い遺構は消失している可能性がある。

遺物の出土状況 遺物は、縄文土器・土製品・石器・礫石器・石製品などが多量に出土した（第6表）。これらの多くは住居・貯蔵穴などの廃絶後に形成された堆積層や遺物包含層から出土し、完形に近い土器や礫石器がまとまって遺物集中域を形成するなど一定程度の一括性を認める出土状況も見られた。一方で、住居床面あるいは貯蔵穴底面など、遺構に直接伴うと判断される出土状況はきわめて限定的であった。土偶を含む土製品や石製品、石器も多く出土したが、遺物包含層などに散在し、特にまとまった出土状況は見られなかった。剥片石器については、数か所で小規模な剥片・碎片の集中域を確認し、石器製作活動の痕跡と考えられる。この他には、焼成粘土塊・焼土・炭化材（木炭片など）・炭化種子・動物遺体（焼骨片）を確認した。SI20 竪穴住居跡床面で炭化材と焼骨片が集中的に確認されたほか、SK91・116・612・723 フラスコ状土坑などの堆積土下層で炭化物層を確認した。また、SX14・17 遺物包含層で焼骨片・炭化物が多く出土した。これらの炭化材・焼骨片については適宜取り上げただけ、集中部については土壌ごとサンプリングを行なった。炭化種子は土壌の水洗選別によって確認したものである。

出土遺物の概要 遺物は、土器・土製品類が整理箱で約500箱、石器・石製品類が約50箱、礫石器類が約100箱分の計約650箱が出土した（註7）。これらについては全て重量計測を行ない、遺構・層位ごとの出土量を把握した。出土遺物の水洗洗浄後の総重量は縄文土器2,970kg、土製品11kg、焼成粘土塊2kg、石器127kg、礫石器4,769kg、石製品99kgの合計7,978kgである。

縄文土器は、整理作業で概ね全体の器形が復元できたものが255点（註8）あり、これに部分的な破片資料1,791点を含めた2,046点を抽出・分類し図化報告する。報告対象とした資料の内訳は深鉢1,797点、小型深鉢52点、浅鉢168点、小型浅鉢9点、台付浅鉢6点、壺4点、脚付壺1点、小型脚付壺1点、小型台付壺1点、台付土器3点、小型皿1点、注口土器1点などである。これらの縄文土器の帰属時期は、ごく一部を除いて縄文時代中期前半（大木7a～8a式期）である（註9）。

土製品は、土偶138点、ミニチュア土器74点、栓状耳飾12点、三脚形土

第5表 確認遺構一覧

種別	確認数	報告数
竪穴住居跡	3	3
掘立柱建物跡	11	11
A（亀甲形柱穴列）	6	6
B（長方形柱穴列）	1	1
C（環状柱穴列）	4	4
竪穴状遺構	10	10
炉跡	18	18
フラスコ状土坑	56	56
落とし穴状土坑	2	2
土坑	396	47
配石遺構	1	1
土器埋設遺構	12	12
遺物集中	1	1
石器集積	6	4
焼土集積	19	19
遺物包含層	9	9
溝跡	3	3
組み合わない柱穴	984	0
合計	1531	196

※表中の「報告数」欄は個別の遺構図を掲載し文章で記述した遺構の数。これ以外の遺構については遺構配置図および遺構観察表に基本的な属性等を記載した。

註5. 柱穴の配置によりA：亀甲形、B：長方形、C：環状の3種類に分けられる。A・Bについては内部の床面に炉跡を伴うことから、平地住居と考えられる。Cについては炉跡あるいは床面を示す痕跡は確認されず、竪穴掘り込み部を消失した竪穴住居跡の可能性もある。

註6. 遺構の性格および重複関係から、落とし穴状土坑2基は集落期よりも新しい時期に帰属すると考えられる。また、遺構の配置や重複関係から、溝跡3条は比較的新しい時期に帰属する可能性がある。

註7. 野外調査終了時点の箱数。標準規格44×60×15cmで換算。整理作業終了時点の箱数は主に縄文土器の接合・復元により容積が大幅に増加し、約1,300箱となった。

註8. 底部付近を欠くものも含む。

註9. これ以外には、縄文時代前期後葉（大木6式期）、後期前葉（綱取Ⅱ式並行期）に帰属するものが少量出土している。

註10. SX137・144 石器集積として土壌ごとに取り上げ、水洗選別によって得られた資料で、主にガラス質流紋岩を利用した石器製作に伴うものである。

第3章 調査の成果

製品 11 点、円盤状土製品 1 点、円環状土製品 5 点、管状土製品 1 点、土器片加工品 39 点、不明土製品 11 点の計 292 点がある。このうち 240 点（図化点数 195 点）を写真・図化報告する。

焼成粘土塊は 97 点ある。このうち 66 点の写真を掲載し報告する。

石器は、石鏃 396 点、尖頭器 62 点、石錐 127 点、石匙 55 点、石筥 84 点、楔形石器 609 点、打製石斧 15 点、磨製石斧 92 点、不定形石器 305 点、両面加工石器 55 点、二次加工ある剥片 681 点、微細剥離ある剥片 358 点、剥片 10,257 点、碎片 5,990 点（註 10）、石核 119 点、原石 1 点の計 19,206 点がある。このうち 819 点（図化点数 675 点）を写真・図化報告する。定形石器では石鏃、石錐、磨製石斧、石筥、尖頭器、石匙など各器種ともまとまった点数が出土している。主要石材は珪質頁岩であり、他にガラス質流紋岩、玉髓、碧玉、黒曜石など多種多様な石材を利用している。

また、出土石器のうち 1,965 点を母岩別資料として抽出・分類した。把握された母岩（註 11）の内訳はガラス質流紋岩 2 種（細別 17 種）、碧玉 3 種（細別 4 種）、珪化凝灰岩 1 種の計 6 種（細別 22 種）で、いずれも在地石材と考えられる。各母岩の接合作業で得られた 34 組の接合資料について、写真と略図を用いて作業工程を示す。

礫石器は石皿 831 点、台石 12 点、有溝砥石 8 点、敲石 349 点、磨石類 3234 点の計 4,434 点があり、このうち 385 点を図化報告する。磨石類は磨面・磨敲面・凹痕が観察されるもので、転用によりこれらの痕跡が複合するものが多い。主要石材は安山岩類・凝灰岩類・花崗岩類の円礫で、遺跡近傍の松川で採取された河床礫と考えられる。花崗岩類を素材としたものは風化が著しく取り上げが困難なものや、表面の使用痕跡が剥落して失われたものが多かった（註 12）。

石製品は、垂飾品 1 点、異形石器 16 点、石棒 7 点、小型石棒 1 点、棒状石製品 24 点、乳鉢状石製品 4 点、浮子状石製品 1 点、三脚石器 4 点、円盤状石製品 3 点、板状有溝石製品 1 点、鋸歯縁石製品 2 点、線刻礫 3 点、砥石 2 点（註 13）、不明石製品 3 点の計 72 点がある。このうち 61 点を図化報告する。垂飾品は非常に良質で透過性の高い翡翠製である。石棒は柱状節理による多角柱状の礫を素材とする。棒状石製品も同様の礫を素材として部分的に加工を加えるもので、石棒と同様の用いられ方をしたと考えられる。

これらの土製品・石器・礫石器・石製品の帰属時期は、出土土器の主体である縄文時代中期前半（大木 7a～8a 式期）を中心としたものと考えられる。

第6表 出土遺物一覧

種別・器種	出土数	報告数	種別・器種	出土数	報告数
縄文土器	+	2046	石器	19206	819
深鉢	+	1797	石鏃	396	247
小型深鉢	+	52	尖頭器	62	56
浅鉢	+	168	石錐	127	73
小型浅鉢	+	9	石匙	55	39
台付浅鉢	+	6	石筥	84	57
壺	+	4	楔形石器	609	143
脚付壺	+	1	打製石斧	15	9
小型脚付壺	+	1	磨製石斧	92	27
小型台付壺	+	1	不定形石器	305	73
台付土器	+	3	両面加工石器	55	15
小型皿	+	1	二次加工ある剥片	681	15
注口土器	+	1	微細剥離ある剥片	358	26
不明	+	2	剥片	10257	0
土製品	292	240	碎片	5990	0
土偶	138	138	石核	119	39
ミニチュア土器	74	43	原石	1	0
深鉢	22	22	礫石器	4434	385
浅鉢	9	9	石皿	831	54
鉢	6	6	台石	12	3
台付浅鉢	1	1	有溝砥石	8	5
注口土器	1	1	敲石	349	84
器種不明	35	4	磨石類	3234	239
栓状耳飾	12	10	石製品	72	61
三脚形土製品	11	11	垂飾品	1	1
円盤状土製品	1	1	異形石器	16	15
円環状土製品	5	4	石棒	7	6
管状土製品	1	1	小型石棒	1	1
土器片加工品	39	30	棒状石製品	24	18
円盤状	30	21	乳鉢状石製品	4	4
三角形	8	8	浮子状石製品	1	1
鋸歯縁	1	1	三脚石器	4	4
不明土製品	11	2	円盤状石製品	3	2
焼成粘土塊	97	66	板状有溝石製品	1	1
※表中の「報告数」欄は実測図または写真を掲載し、観察記載した遺物の点数である。			鋸歯縁石製品	2	2
※縄文土器の出土数量については点数での把握を行っていない。			線刻礫	3	3
			砥石（註 13）	2	2
			不明石製品	3	1
			合計	26147	3617

註 11. 肉眼観察で同質の岩相を示すまとまりとして抽出されたものを同質母岩として接合作業の対象とした。このうち、接合関係が確認されたものと岩石中の堆積構造あるいは流理構造、肌理、色調、表皮付近の風化状態など個性の高い特徴を複数要素で共有するものを作業仮説的に同一母岩と認定し、母岩別資料として扱った。

註 12. 岩石中の結晶（鉱物）が崩壊して砂粒化（マサ化）が進行していた。礫石器としての使用によって礫表面の風化層が損耗したことで凍上作用の影響を受けやすくなったと考えられる。

註 13. 流紋岩質凝灰岩製で四角柱状を呈する。帰属時期は古代以降と考えられる。

第3節 遺構と遺物の分類

1. 遺構の分類

確認した遺構は竪穴住居跡・掘立柱建物跡・竪穴状遺構・炉跡・フラスコ状土坑・落とし穴状土坑・土坑・配石遺構・土器埋設遺構・遺物集中・石器集積・焼土集積・遺物包含層・溝跡・組み合わない柱穴に分類した。各遺構の基本的な特徴は下記の通りである。

竪穴住居跡 竪穴状の掘り込みによって床面を構築した建物跡。平面形は円形を基調とし、床面中央部に地床炉、外周部に柱穴を伴う。

掘立柱建物跡 明瞭な竪穴状の掘り込みを伴わない建物跡。建物の平面形から3種類に分類した。

A：縦長の六角形（亀甲形）に柱穴を配置する。床面は皿状に浅く窪み、建物の中軸線付近に沿って線状に並ぶ地床炉を伴う。

B：長方形に柱穴を配置する。床面は緩傾斜面を階段状に削り取って構築され、建物の中軸線付近に沿って線状に並ぶ地床炉を伴う。

C：環状に柱穴を配置する。炉跡など床面を示す痕跡は確認されない。

竪穴状遺構 竪穴状の掘り込みによって底面を平坦に構築した大型の土坑。柱穴は確認されないが、中央部に地床炉を伴うものがある。

炉跡 被熱による赤色硬化範囲を炉跡とした。全て単純な地床炉で、炉底面はほぼ平坦で、掘り込みや石組みを伴うものは確認されない。

フラスコ状土坑 平面形が円形ないしは楕円形で、底面付近に最大径を持ち上部（開口部）がこれより狭く窄まる土坑。廃絶後の崩壊により上部が朝顔形に大きく開くものもある。底面に小穴や放射状に掘られた浅い溝を伴うものがある。

落とし穴状土坑 平面形が溝形で、横断面形が幅狭のV字形を呈する土坑。

土坑 確認した掘り込みのうち、特定の形態に分類されない土坑。フラスコ状土坑や土器埋設遺構の一部と考えられるものを含む。

配石遺構 石材を一定の形状に配置した遺構。やや大型の河床礫を線状に立て並べたものがある。

土器埋設遺構 柱穴状の掘方内に土器を埋設した遺構。土器は正位または逆位に据えられ、正位のものには底部を欠いたものがある。また、土器の上面または底面に石皿を据えるものがある。

遺物集中 同一平面上に複数個体の土器などの遺物がまとまって分布する出土状態。遺構内および遺物包含層中で確認したものはここに含めず各遺構で扱った。

石器集積 皿状の窪みや土坑内に石器が集積されたことを示す出土状態。同一母岩の未製品や剥片・碎片を主体とするものがある。

焼土集積 皿状の窪みや土坑内に焼土ブロックが集積されたことを示す出土状態。

遺物包含層 面的な広がりを持って分布し遺物を多く含む土層。原形を留めた土器などの遺物を多く含む一次包含層である。掘立柱建物跡Aの床面を覆うように分布するものなど多数の遺構と重複し、集落内における生活行動や遺構形成と密接に関連すると考えられる。

溝跡 直線的に伸びる大小の溝跡を確認した。重複関係では最も新しく、堆積土の状態などからも比較的新期の遺構と判断される。

組み合わない柱穴 掘立柱建物跡や竪穴住居跡に伴う柱穴として組み合わないものをまとめた。柱痕跡などが確認されない性格不明の掘り込みを含む。

第3章 調査の成果

2. 遺構の機能時期推定

各遺構の機能時期および形成時期については、遺構の重複関係から把握される新旧、遺物の出土状況と特徴、放射性炭素年代などから推定した。今回確認した遺構では、竪穴住居跡床面やフラスコ状土坑底面に伴う一括遺物は少なく、出土遺物から直接的に遺構の機能時期を推定できるものは多くない。一方、竪穴住居跡やフラスコ状土坑の堆積土下層で縄文土器などの遺物がまとまって廃棄されている状況が多く見られた。これらは出土状況から一定程度の一括性が保証されるものであり、遺構の廃絶時から若干の時間を経過してはいるものの、土器編年上の時間幅を大きく逸脱するものではないと考えられる。また、堆積土下層から上層にかけての出土遺物の特徴が共通したものである場合、概ね前述の時間幅の範囲内で埋没が進行したものと考えられる。堆積土出土遺物については、以上のような出土状況を考慮しながら遺構の機能時期を推定した。

事前調査の経過でも述べた通り、本発掘調査では遺構の重複が著しい上に各遺構の堆積土の特徴が変化に乏しかったことから、調査で認識できなかった小規模な掘り込みや部分的な攪乱等が相当数あったと思われ、これに伴う混入遺物が一定程度は内包されているものと考えられる。このことは、元より自然の営為による土壌の部分的な攪乱等によって移動する頻度が高いと推定される縄文土器の小破片や剥片石器などの小型の遺物に限らず、掘り込みの浅い土坑や土器埋設遺構等の小規模な掘り込みに伴う遺物であれば、縄文土器の復元個体等の比較的大型の遺物についても混入の可能性を排除できないことを意味する。このため、同一層内の出土遺物のうち最も新しい時期の特徴を示す遺物が土層の堆積年代に近いと一律に判断することは困難であった。こうした条件下で遺構の機能時期を推定するにあたり、できる限り単体の遺物で土層の堆積年代を推定することと避け、縄文土器の復元個体から推定する場合にはその他の破片資料等で量的主体を占めるものの特徴に矛盾がないこと、破片資料から推定する場合には特徴が共通するものが複数存在することなどに配慮するよう努めた。こうした調査・整理の経緯から、従来の編年上において近接する時期の遺物が同一層内から出土している場合、これを共伴とするか混入と考えるかの判断は一定程度留保せざるを得ない。

なお、遺構の重複による新旧関係についても、前述のような土層の状況から直接的な重複がごく部分的である場合、その識別の精度はあまり高いものではないことにも注意を要する。また、遺物の出土状況と特徴から遺物包含層の形成は一定程度の時間幅を持って進行したことが想定される。野外調査では個別の認定が困難であったものの、実態としてはこれらの遺物包含層の堆積と並行して掘削された中・小規模の遺構が多く存在したと考えられる。このため、遺物包含層と重複関係にある遺構のうち、特に遺物包含層の底面で確認した遺構については、

第7表 時期区分と縄文土器の分類

時期区分		縄文土器の分類						
			1 類		2 類		3 類	
1 期	-	I 群	大木 6 式	新段階	十三菩提式系統	後葉 (4 段階)	-	
2 期	2-1 期	II 群	大木 7a 式	古段階 (糠塚系統)	五領ヶ台式系統	前半期 (I 式期)	-	
	2-2 期			新段階		後半～終末期 (II 式～竹ノ下式期)	新保式系統	後半期 (第 3 ～ 4 様式期)
3 期	3-1 期	III 群	大木 7b 式	古段階	阿玉台式系統	前半期 (Ia ～ Ib 式期)	新保式系統	(在地亜種)
	3-2 期			新段階	-	-		
4 期	4-1 期	IV 群	大木 8a 式	古段階	-	-	-	
	4-2 期			中段階 (古相)				
				中段階 (新相)				

包含層の堆積過程で掘削されたものが含まれている可能性がある。

以上のような諸条件を考慮しつつ、後述する遺物の分類のうち従来の知見によって比較的精密に時間的変化が捉えられている縄文土器の分類と編年に対応する時期区分（第7表、第2分冊：第5章第1節）を設定し遺構観察表（第5分冊）に記載した。縄文土器については完形・復元個体のほか破片資料の量比による推定を基本とし、少量の破片資料による推定の場合は（ ）を付して記載した。また、推定の根拠となるべき出土遺物が得られていない遺構で、重複関係から機能時期の上限および下限が推定可能な場合は、「～以前」・「～以降」のように記載した。なお、遺物包含層との重複関係から推定する場合には、上述のような遺構確認状況に加えて地点により堆積層の分布状況が異なることから、遺物包含層の形成時期として想定される時間幅を包括する時期区分を記載した。

3. 遺物の分類

出土した遺物は縄文土器・土製品・石器・礫石器・石製品がある。これらを形態的特徴と製作技法および文様などから下記の通り分類した。

（1）縄文土器

形態的特徴（器種とその細別、口縁部形態）について分類した上で、文様を中心とした分類によって土器群を設定し、文様構成や施文技法により細分した。

①器種と細別

器種は深鉢・小型深鉢・浅鉢・小型浅鉢・台付浅鉢・壺・脚付壺・小型脚付壺・小型台付壺・台付土器・小型皿・注口土器に分類し、各器種の細部の形態的特徴により下記の通り細別した（第20～22図）。

深鉢 鉢形の器形で口径よりも器高が大きいものである。概ね器高17cm以下のものを小型深鉢とした。25種類に細別し、これらに分類できない部分資料の一部を16種類に分類した（第20・21図）。

A類：頸部が括れて口縁部は外反し、胴下部が膨らむ。

B類：頸部が緩く括れて口縁部は外反し、胴中位に稜を持つ。

C類：頸部が括れて口縁部は外傾し、胴下部が膨らむ。

D類：頸部が括れるか「く」字状に屈曲して口縁部は外傾し、胴中位が膨らむ。

E類：頸部が括れるか「く」字状に屈曲して口縁部は外傾し、胴上部が膨らみ下部で窄まる。

F類：頸部がゆるく括れるか屈曲して口縁部は外傾し、胴上部が緩く膨らみ下部で窄まる。

G類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は内湾しながら外傾し、胴下部が膨らむ。

H類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は内湾しながら外傾し、胴中位が膨らむ。

I類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は内湾しながら外傾し、胴中位から上部にかけて膨らむ。

J類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は内湾しながら外傾し、胴上部が緩く膨らみ下部で窄まる。

K類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は内湾しながら外傾し、胴部中位から下部に稜を持つ。

L類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は内湾しながら外傾し、胴部は外反ないし直線的に外傾する。

M類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は内湾しながら外傾し、胴部は円筒形ないしはやや外傾する。

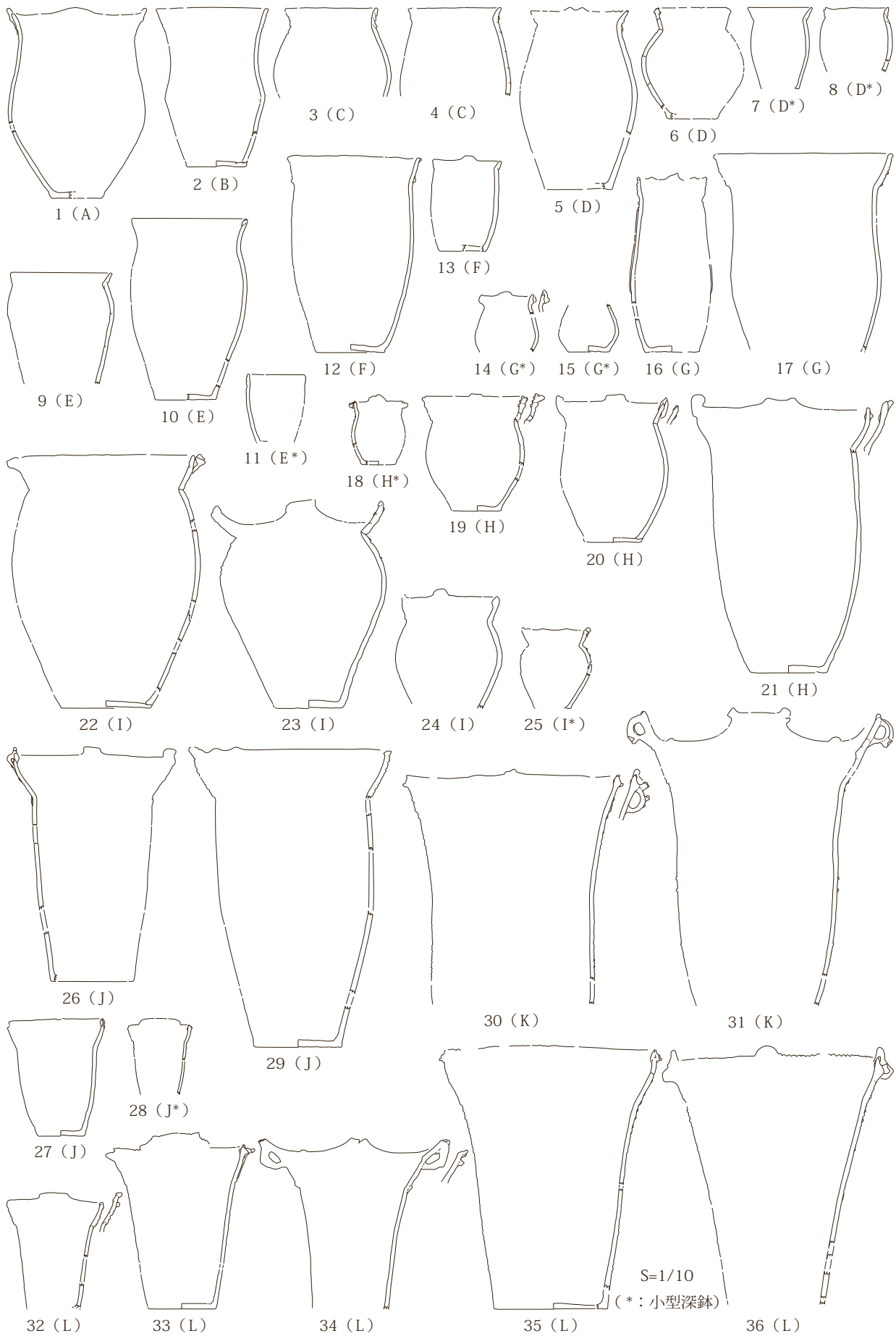
N類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は外傾し、胴中位から上部にかけて膨らむ。

O類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は外傾し、胴上部に稜を持つ。

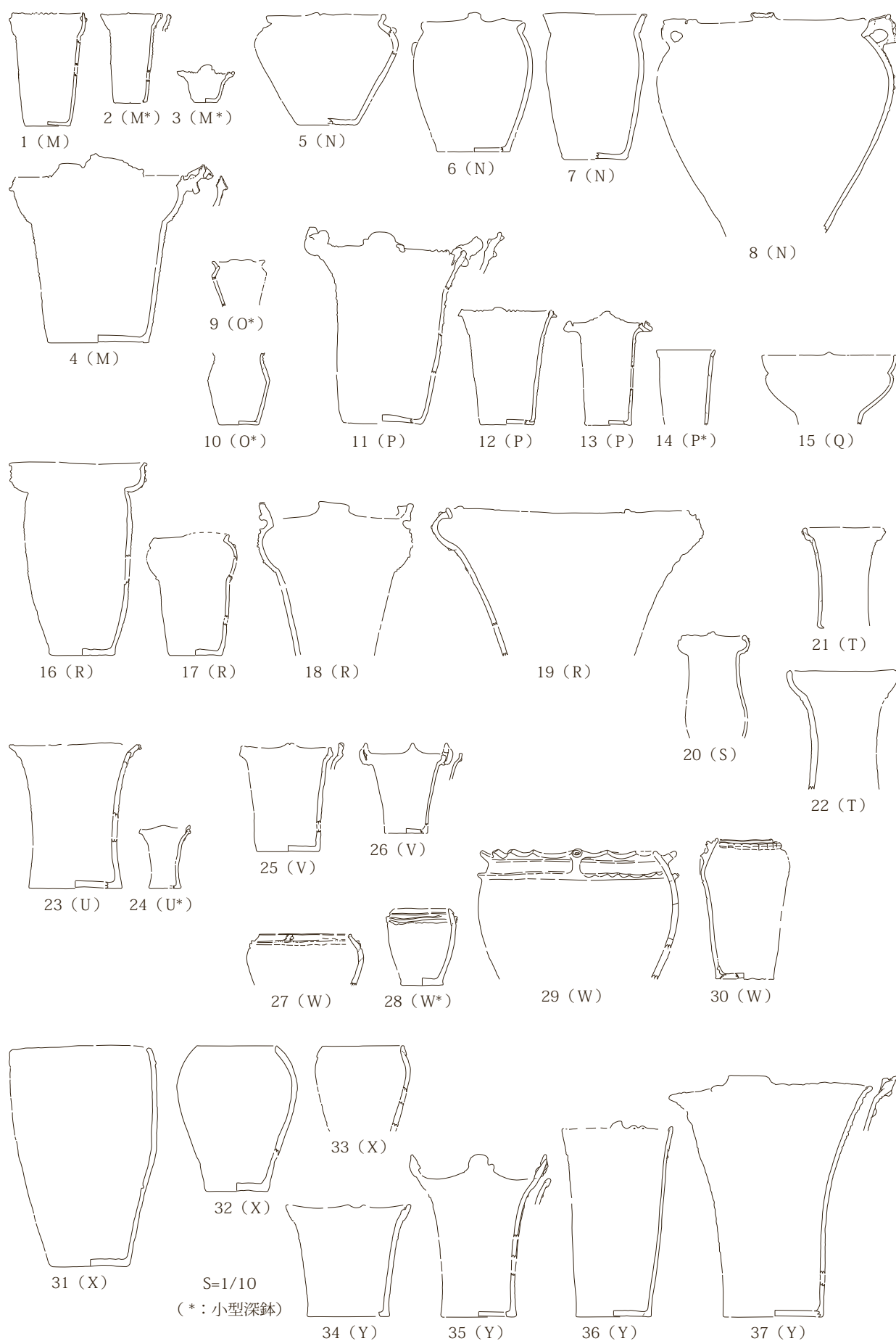
P類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は外傾し、胴部は円筒形ないしはやや外傾する。頸部の屈曲は不明瞭なものが多い。

Q類：頸部と胴中位に二つの屈曲部を持ち、口縁部は内湾しながら外傾し、胴上部は球状に膨らみ、胴下部は円筒状を呈する。

R類：頸部が「く」字状に屈曲し、口縁部は強く内湾し、胴部は直線的あるいは外反気味に外傾するか、ゆ



第20図 器形分類図 (1) 深鉢 (1)



第21図 器形分類図(2) 深鉢(2)

るく膨らむ。

S類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は強く内弯し、胴下部が膨らむ。

T類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は内弯し、胴中位で緩やかに括れ上部が外反する。

U類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は外傾し、胴中位で緩やかに括れ上部が外反する。

V類：頸部が「く」字状に屈曲して口縁部は短く直立し、胴部は円筒形ないしは直線的にやや外傾する。

W類：胴部から口縁部が内弯し、口縁部に齔状隆帯または横位隆線文を巡らせる。

X類：胴上部から口縁部が緩く内弯し、胴下部は外傾する。

Y類：胴部から口縁部が外反ないしは直線的に外傾する。

部分資料：(1) 頸部が括れるか「く」字状に屈曲し、口縁部が外傾または外反する。

(2) 口縁部が外傾または外反する。

(3) 頸部が「く」字状に屈曲し、口縁部が内弯しながら外傾する。

(4) 口縁部が内弯しながら外傾する。

(5) 口縁部が強く内弯する。

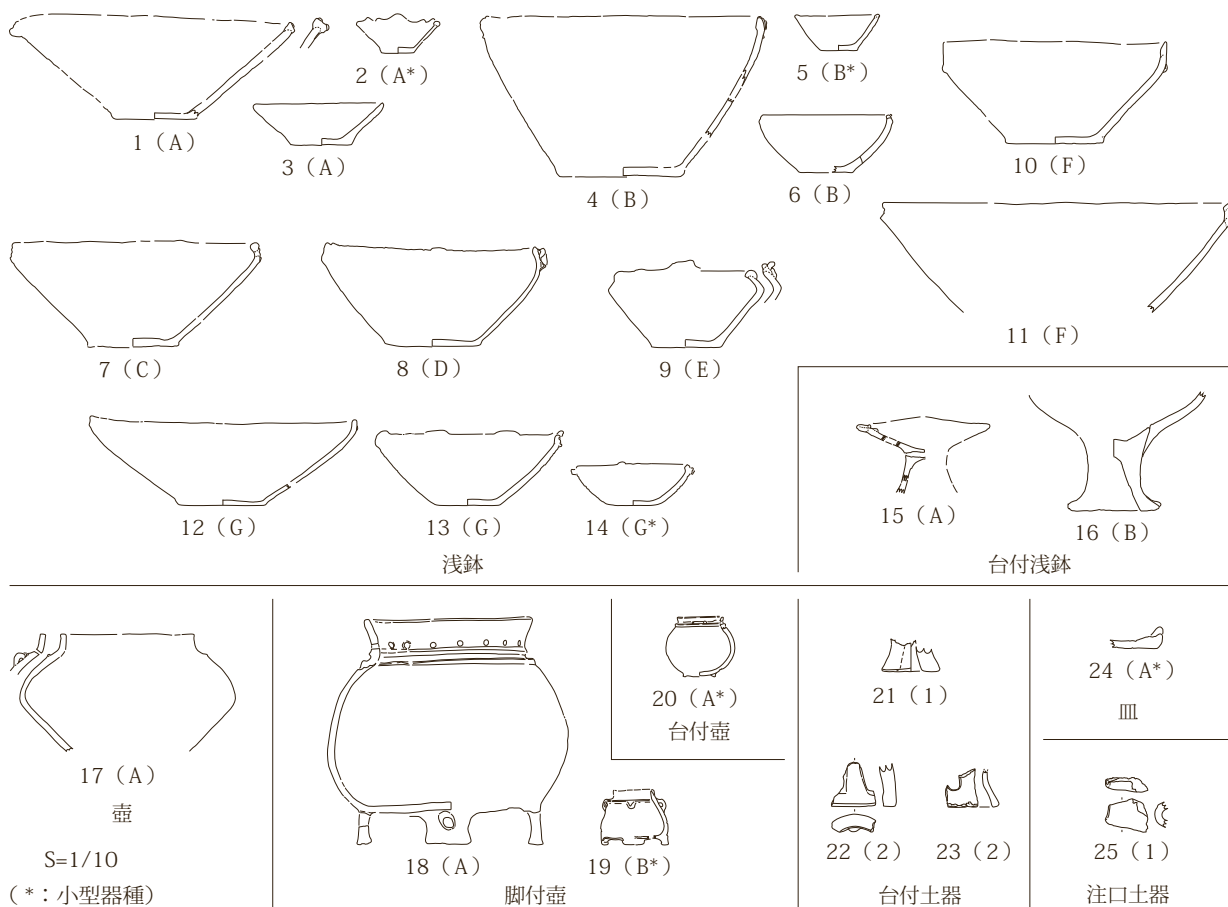
(6) 胴部が直線のあるいは外反気味に外傾する。

(7) 胴部が円筒形ないしはやや外傾する。

(8) 胴部が緩く膨らみ下部で窄まる。

(9) 胴上部が膨らみ下部で窄まる。

(10) 胴部中位に膨らみを持つ。



第22図 器形分類図 (3) 浅鉢, 台付浅鉢, 壺, 脚付壺, 台付壺, 台付土器, 皿, 注口土器

- (11) 胴部に膨らみを持つ。
- (12) 胴部中位に稜を持つ。
- (13) 胴部が外傾して立ち上がる。
- (14) 胴部が直立して立ち上がる。
- (15) 胴部が内傾して立ち上がる。
- (16) 胴部が内弯して立ち上がる。

浅鉢 鉢形の器形で口径よりも器高が小さいものである。概ね器高 8cm 以下のものを小型浅鉢とした。11 種類に細別し、これらに分類できない部分資料の一部を 6 種類に分類した (第 22 図)。

- A 1 類：胴部から口縁部が直線的に外傾する。
- A 2 類：胴部から口縁部が直線的に外傾し、上面観が楕円形を呈する。
- B 1 類：胴部から口縁部が緩やかに内弯する。
- B 2 類：胴部から口縁部が緩やかに内弯し、上面観が楕円形を呈する。
- C 類：口縁部が内弯し、胴部が直線的に外傾する。
- D 類：口縁部が内弯し、胴部が緩やかに内弯する。
- E 類：口縁部が内傾し、胴部が直線的に外傾する。口縁部と胴部の境に稜を持つ。
- F 1 類：口縁部が直立し、胴部が直線的に外傾する。
- F 2 類：口縁部が直立し、胴部が直線的に外傾し、上面観が楕円形を呈する。
- G 1 類：口縁部が直立し、胴部が緩やかに内弯する。
- G 2 類：口縁部が直立し、胴部が緩やかに内弯し、上面観が楕円形を呈する。

部分資料：(1) 口縁部が直線的に外傾する。

- (2) 口縁部が緩やかに内弯する。
- (3) 口縁部が内弯する。
- (4) 口縁部が直立する。
- (5) 胴部が緩やかに内弯する。
- (6) 胴部が直線的に外傾する。

台付浅鉢 浅鉢の底部に台部が付くものである。2 種類に細分した (第 22 図)。

- A 類：浅鉢部は胴部から口縁部が直線的に外傾し、上面観が楕円形を呈し、台部は「八」字状に開く。
- B 類：浅鉢部は口縁部が不明で胴部が緩やかに内弯し、台部が柱状で裾部が「八」字状に短く開く。

部分資料：(1) 浅鉢部は不明で、台部が直立またはやや内傾する高台状を呈するもの。

壺 頸部または口縁部の径が胴部最大径の 2/3 以下に窄まるものである (第 22 図)。

- A 類：口縁部が直立し、胴部が算盤玉状に膨らむ。

部分資料：(1) 口縁部が直立し、胴部が不明。

- (2) 口縁部が外傾し、胴部が膨らむ。

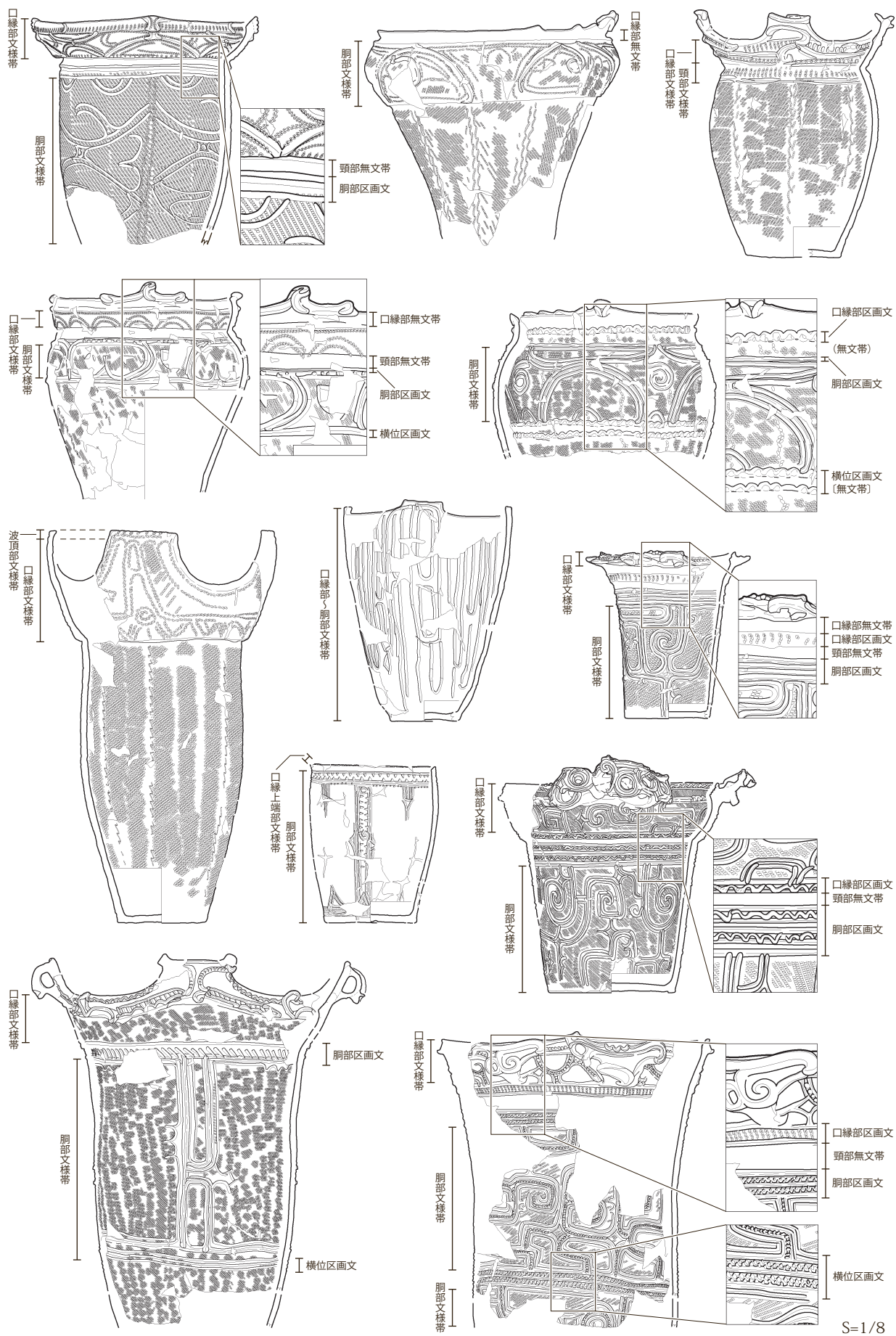
脚付壺 壺の底部に脚部が付くものである。概ね器高 8cm 以下のものを小型脚付壺とした。2 種類に分類した (第 22 図)。

- A 類：口縁部が外傾し、胴部は球状で中位よりやや下位に最大径を持ち、脚部は四足で直立し円形の透かし孔を持つ。

- B 類：口縁部が直立し、胴部は逆台形状で下部に膨らみを持ち、脚部は四足で直立する。

台付壺 壺の底部に台部が付くものである。概ね器高 8cm 以下のものを小型台付壺とした (第 22 図)。

- A 類：口縁部が短く外傾し、胴部は整った球状で中位に最大径を持ち、台部は短く直立する高台状を呈する。



第23図 縄文土器の文様帯と区画文

口縁部形態

平縁



突起付平縁



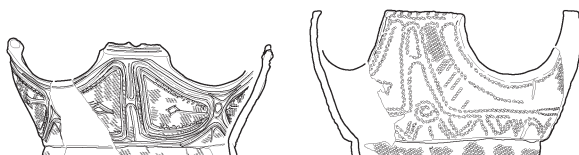
小波状縁



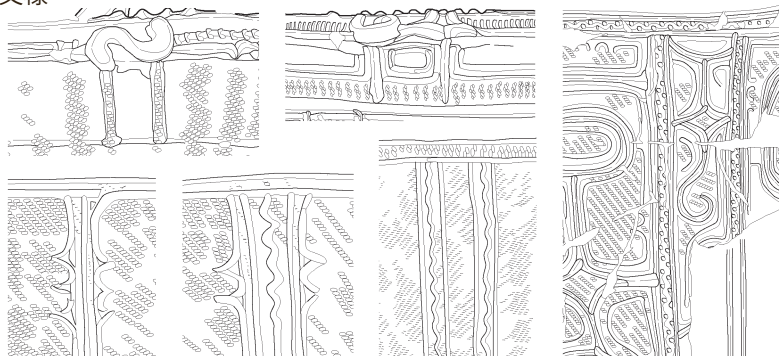
波状縁



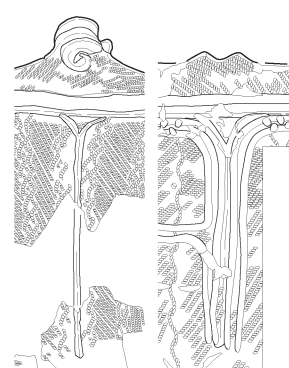
大波状縁



区画文様



縦位区画



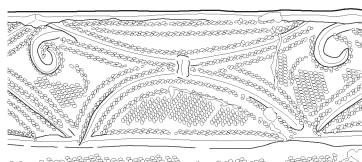
「Y」字状垂下区画



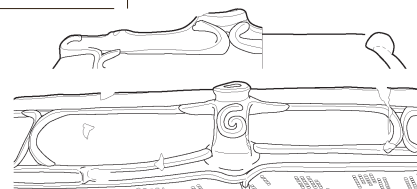
楕円形区画



弧状区画



相対する弧状区画



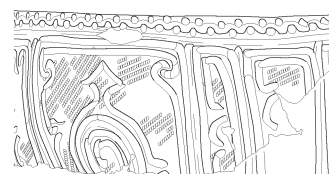
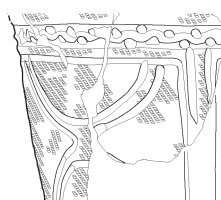
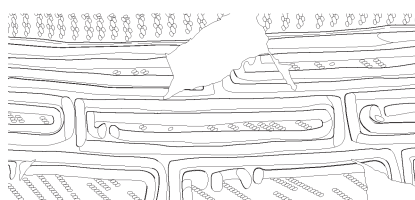
楕円形横帯区画



三角形区画



三角形・弧状区画



方形区画

第24図 縄文土器の口縁部形態と区画文様

起部形態

渦卷状突起

「つ」字状突起

「C」字状突起

弧状突起

勾玉状突起

菱形突起

円形突起

「S」字状突起

半月形貼付文 (波頂部)

圭頭状突起 (波頂部)

勾玉状突起 (波頂部)

「一」字状貼付文 (波頂部)

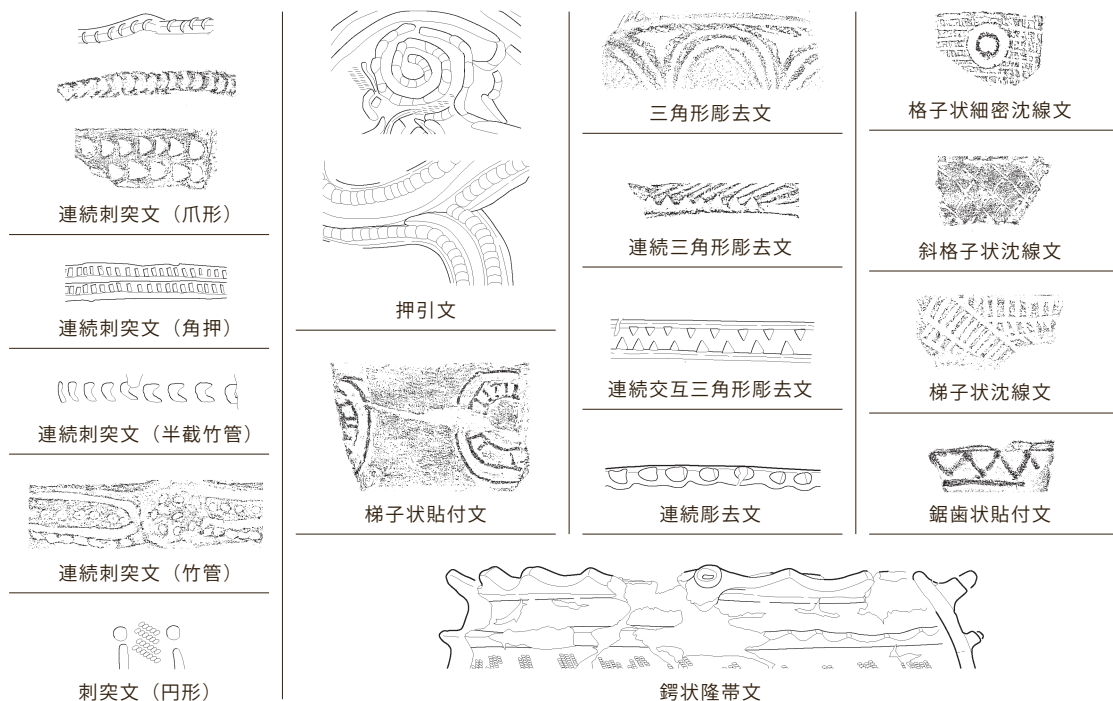
橋状突起

複合橋状突起

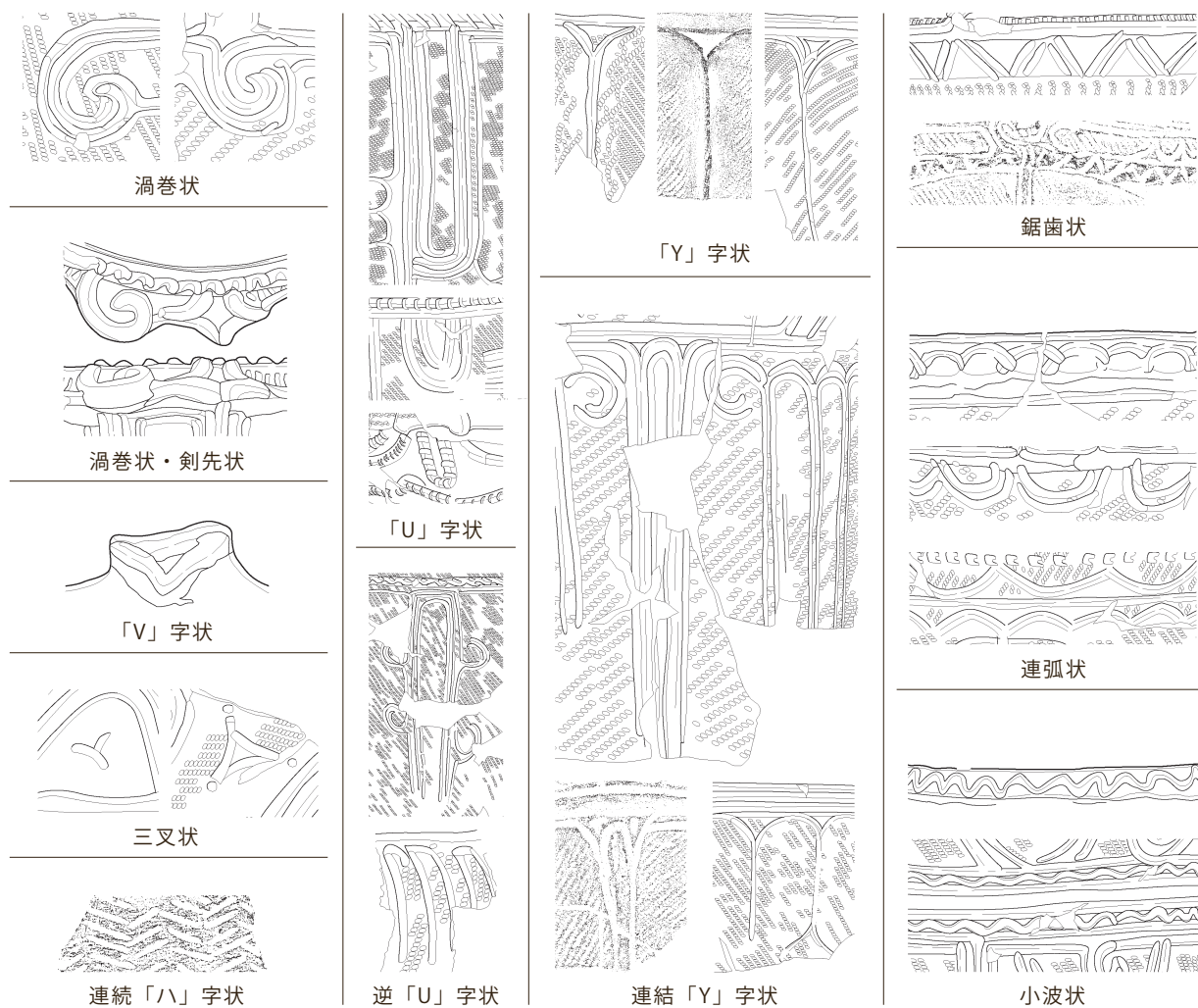
		 連続押圧文（口縁上端部）	 半隆起線文
 縦位連続短沈線文（口縁上端部）	 連続指頭押圧文（爪痕）	 横位平行押圧縄文	 縦位指ナデ状条痕文
 縦位連続短沈線文	 連続交互押圧文	 縦位連続押圧縄文	 連続交互押圧文
 斜位連続短沈線文	 連続交互押圧文	 縄文（隆線上）	 連続交互押圧文

56

施文技法（2）

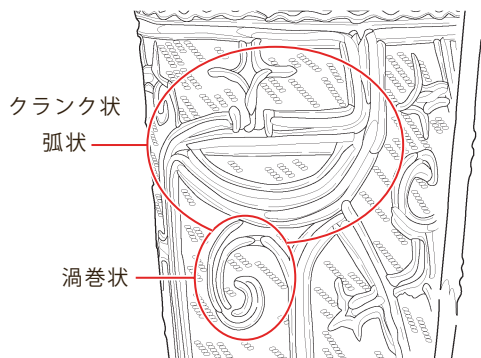
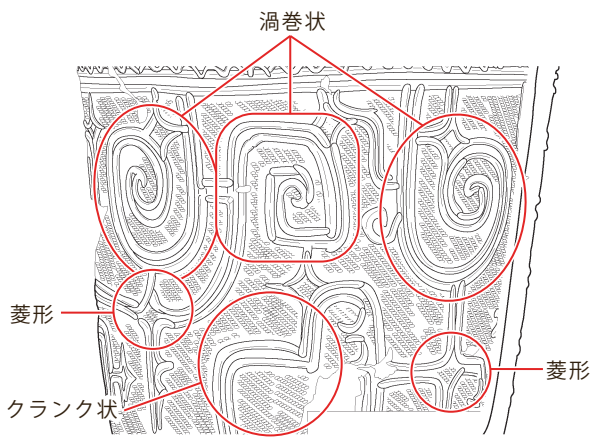
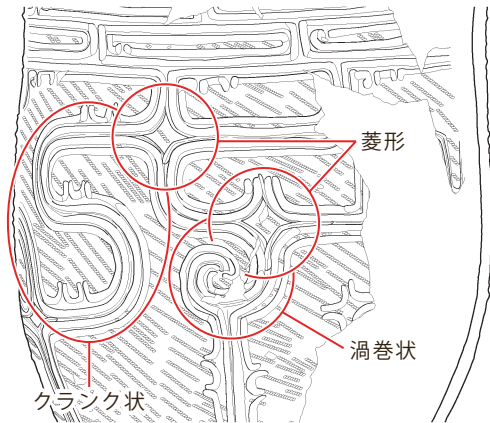
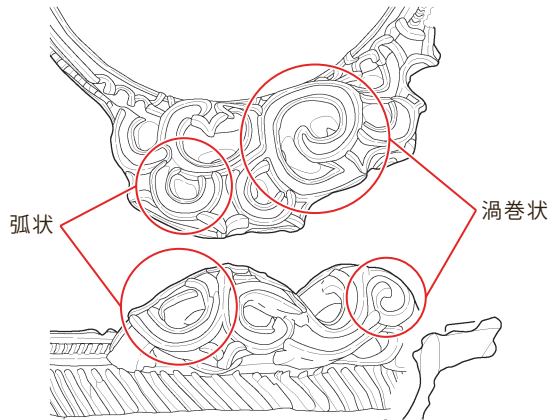


文様モチーフ（1）

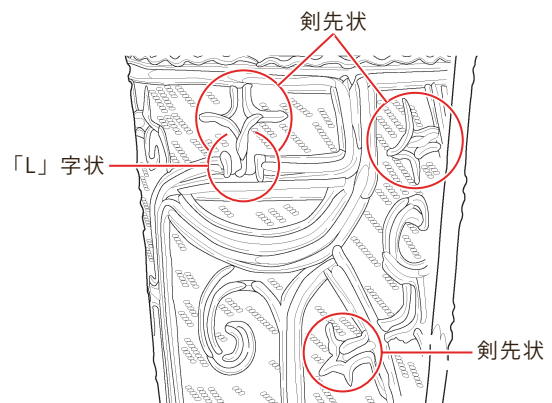
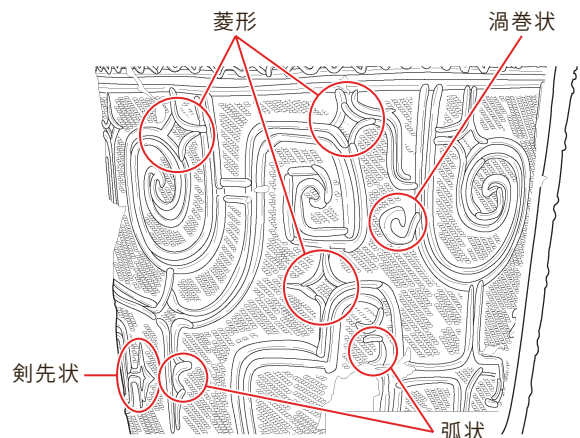
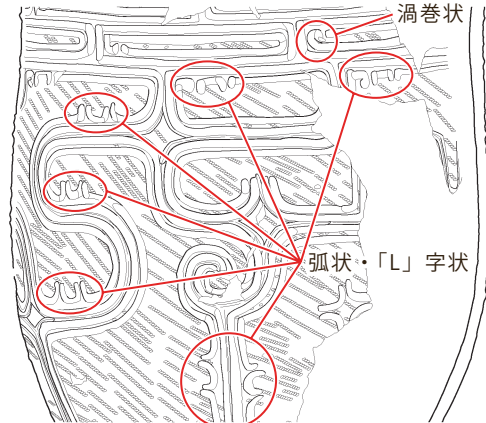
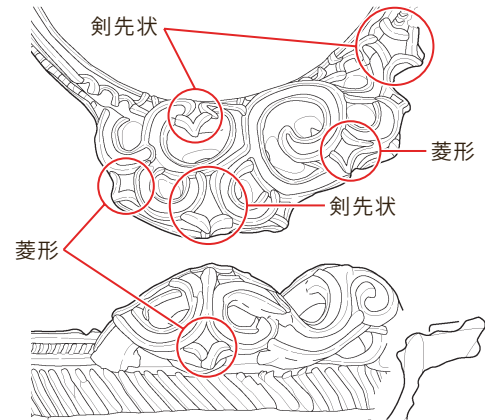


第26図 縄文土器の施文技法（2），文様モチーフ（1）

文様モチーフ（2） 主文様と付加文様



主文様（渦巻状・弧状・菱形・クランク状）



付加文様（渦巻状・弧状・「L」字状・菱形・剣先状）

第27図 縄文土器の文様モチーフ（2）

台付土器 上部が不明で台部が付くものである（第22図）。

部分資料：（1）台部が「八」字状に内傾する。

（2）台部が「八」字状に内傾し、円形の透かし孔を持つ。

皿 器高が口径の1/3以下のものである。概ね口径10cm以下のものを小型皿とした（第22図）。

A類：底面が平坦で短く外傾する口縁部を持ち、上面観が楕円形を呈する。

注口土器 器体部が不明で注口が付くものである（第22図）。

部分資料：（1）やや先の窄まる注口部を持つ。

②口縁部の形態

口縁部の形態は下記の通り分類した（第24図上段）。

a：平縁 口縁上端部がほぼ平坦で突起が付加されないもの。最も基本となる口縁部形態であり、文様が比較的簡素なものから中程度の装飾性を持つ土器に多く見られる。

b：突起付平縁 口縁上端部がほぼ平坦で突起が付加されるもの。付加される突起は単純なものから極度に装飾性を高めた複雑かつ大型のものまで多様な形態が見られる。

c：小波状縁 口縁上端部の側面観が小刻みな波状を呈するもの。文様が比較的簡素な土器にも多く見られる。なお、平縁の口縁上端部に小波状・連弧状隆線文、連続押圧文、交互押圧文、連続短沈線文などを施文するものの中には、小波状縁に近い装飾効果が表れたものがある。

d：波状縁 口縁上端部の側面観が波状を呈するもの。多くは4単位である。波頂部の口縁上端部に貼付文を付加するものや、橋状突起を付加するものが特徴的に見られる。また、文様が比較的簡素で入念なミガキ調整を加える浅鉢にも多く見られる。

e：大波状縁 口縁上端部の側面観が波状を呈するもので、波頂部が富士山形に大きくせり上がり、谷部がU字形に挟れるもの。多くは4単位である。波頂部の口縁上端部に貼付文を付加し、口縁部文様帯は波頂部の直下で左右に分割され三角形・弧状区画文を施文するものが特徴的に見られる。

③分類群の設定

器種と器形を加味しながら文様を中心とした分類による土器群を下記の通り設定し、文様構成や施文技法により細分を行なった。各部位の呼称および主要な突起部形態、区画文、文様モチーフ、施文技法とその呼称については第23～27図に示す通りである。なお、遺物観察表の記載では口縁部文様帯の下端を区画する口縁部区画文、胴部文様帯の上端を区画する胴部区画文および頸部文様帯を区別して記載しているが、記述が煩雑となることから以下ではこれらの施文域をすべて頸部と記載する。従って、必ずしも明瞭な屈曲部あるいは括れ部を伴った部位呼称としての頸部を持たないものでも、便宜的に頸部と記載する場合がある。

I 群土器 縄文時代前期末葉の土器群である。文様の特徴から2種類に分類した（第28図）。

1類 大木6式と考えられるものである。全体の器形が明らかなものはなく、頸部が括れる深鉢の口縁部から胴上部の破片がある。文様は貼付文と沈線文、連続刺突文により施文するものがある。大別1種類、細別3種類に分類した（第28図）。概ね新段階のものと考えられる。

A種：貼付文と沈線文、連続刺突文により施文するもの。器形は深鉢M類などがあり、口縁形態は平縁・波状縁がある。3種類に細別した。

（A1種）口縁部に楕円形貼付文または縦位隆線文を施文し、両側に縦位連続短沈線文を充填的に施文する。渦巻状沈線文を中心に縦位弧状沈線文を連続させるもの、楕円形貼付文を頸部に施文するもの、波状縁で口縁上部に連続刺突文を伴うものもある。胴部には円形貼付文を中心に円形集合沈線

文を施文するものがある。

(A 2 種) 口縁部に平行沈線文と連続刺突文を施文する。

(A 3 種) 口縁～胴部に櫛刃状工具による多条平行沈線文を施文し、頸部に豆粒状貼付文を施文する。

2 類 関東地方の十三菩提式系統と考えられるものである。全体の器形が明らかなものではなく、頸部が強く括れる深鉢の口縁部から胴上部の破片がある。文様は繊細な粘土紐貼付文により施文するものがある(第28図)。概ね後葉(4段階)に相当し、大木6式新段階に並行するものと考えられる。

A 種: 粘土紐貼付文により施文するもの。器形は平縁の深鉢などがある。

(A 1 種) 口縁部・胴部に細い粘土紐による梯子状・斜格子状・鋸歯状・平行貼付文を充填的に施文する。

口縁上端を玉縁状に肥厚させ、口縁部と胴部の境を隆線で区画するものがある。

II 群土器 縄文時代中期初頭の土器群である。文様の特徴から3種類に分類した(第29～35図)。

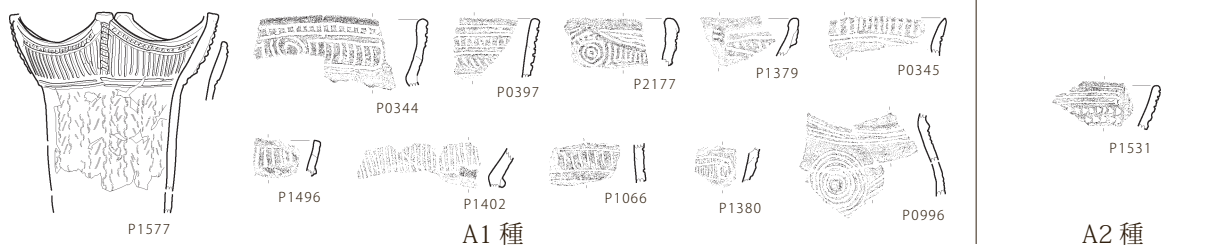
1 類 主に大木7a式と考えられるものである。深鉢を中心に浅鉢もある。大波状縁の深鉢や上面観が楕円形を呈する浅鉢がある。文様は沈線文あるいは沈線を添わせた隆線文に加えて、連続交互刺突文、連続刺突文、押引文、押圧縄文により施文するものがある。大別12種類、細別49種類に分類した(第29～35図)。いわゆる糠塚系統と考えられるA種が古段階で、B～L種を主体とする新段階と区別できると考えられる。なお、後述するIII群1類のうちA～C・K種の一部は本類にも伴うと考えられるが、明瞭に区分することができなかった。

A 種: 縦位隆線文または貼付文と沈線文、連続刺突文により施文するもの。器形は平縁・突起付平縁・波状縁の深鉢・浅鉢などがある。

(A 1 種) 口縁部に縦位隆線文または楕円形貼付文と縦位連続短沈線文・連続「ハ」字状沈線文・連続刺突文・波状沈線文・斜格子状沈線文などを充填的に施文する。口縁部と胴部を横位隆線文で区画し、隆線上に連続短沈線文または連続刺突文を加える。口縁上端部に連続短沈線文を施文するものがある。

B 種: 4単位の大波状縁を持つもの。波頂部に突起や貼付文を持つものと持たないものがある。波頂部下の口縁部に沈線を添わせた隆線を用いて連結「Y」字状文で区切る楕円形区画や左右対称の三角形・弧状区画を描くものが多く、区画内に三叉状・渦巻状文を施文するものがある。また、隆線上に縄文を加えるもの、部分的に交互刺突文・連続刺突文・縦位連続短沈線文を加えるものがある。

I 群1類



I 群2類



第28図 縄文土器の分類(1) I群土器

器形は大波状縁の深鉢などがある。5種類に細別した。

- (B 1 種) 波頂部に突起や貼付文を伴わず、口縁部に連結「Y」字状・渦巻状・弧状文を施文する。施文技法は連続刺突を加えた隆線を用いるものがある。
- (B 2 種) 波頂部に「一」字状貼付文、口縁部に剣先・渦巻状・弧状文を施文する。「一」字状貼付文には連続短沈線文を加える。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線、押引を用いるものがある。
- (B 3 種) 波頂部に「一」字状・円形・三角形貼付文、波頂部下の口縁部に「Y」字状文を施文する。「一」字状貼付文には連続短沈線文を加える。施文技法は沈線を添わせた隆線を用いるものがある。
- (B 4 種) 波頂部に「一」字状・三角形貼付文、波頂部下の口縁部に連結「Y」字状文を施文する。「一」字状貼付文には連続短沈線文、鋸歯状沈線文、交互刺突文、小波状隆線文を加える。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線、交互刺突を用いるものがある。
- (B 5 種) 波頂部に「一」字状・弧状貼付文や勾玉状突起、波頂部下の口縁部に縦位平行文、左右対称の三角形・弧状区画文を施文する。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線、交互刺突、押引を用いるものがある。
- C 種：口縁部・頸部または胴上部に円形・楕円形貼付文または単純な隆線文を施文するもの。隆線上に縄文を加えるものがある。無文または地文のみのものが多い。器形は深鉢 H・J・N 類、小型深鉢、浅鉢 B2 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁・大波状縁がある。3種類に細別した。
- (C 1 種) 4 単位の波状縁の波頂部下に円形・楕円形貼付文または「C」字状・渦巻状・鋸歯状隆線文を施文する。波頂部上端に連続短沈線文を加えるものがある。また、沈線を添わせた隆線、平行沈線、交互刺突を用いて口縁部や胴部に渦巻状・三叉状・弧状文を施文するものがある。
- (C 2 種) 口縁部に円形・楕円形貼付文または弧状・鋸歯状隆線文を施文する。円形貼付文に連続刺突文を加えるものがある。また、平行沈線、縄文を加えた隆線を用いて口縁部・頸部に施文するものがある。
- (C 3 種) 頸部または胴上部に円形・楕円形貼付文を施文する。貼付文に刺突文や縦位連続短沈線文を加えるものがある。
- D 種：口縁部に弧状文を主体とする文様を施文するもの。沈線を添わせた隆線によって弧状・三角形区画を描くものが多く、区画内に三叉状・渦巻状文を施文するものがある。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。また、隆線上に縄文を加えるもの、部分的に交互刺突文・縦位連続短沈線文を加えるものがある。器形は深鉢 R 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。7種類に細別した。
- (D 1 種) 口縁上部に水平方向の連続文を伴う。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、小波状隆線文を用いるものがある。
- (D 2 種) 口縁上部と頸部に水平方向の連続文を伴う。施文技法は平行沈線、交互刺突を加えた平行沈線、連続刺突を加えた隆線、小波状沈線文を用いるものがある。
- (D 3 種) 口縁上部に楕円形区画文を伴う。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線を用いるものがある。
- (D 4 種) 口縁上端に「X」字状隆線文を伴う。弧状・三角形区画の接点を「X」字状隆線文で強調するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線を用いるものがある。
- (D 5 種) 口縁上部に横位の無文帯を設ける。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線を用いるものがある。
- (D 6 種) 頸部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯とこれに沿う水平方向の連弧状文を伴う。施文

技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線を用いるものがある。

(D 7 種) 口縁上部と頸部に水平方向の連続文や横位の無文帯を伴わない。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。胴部に「Y」字状隆線文・小波状隆線文を垂下させるものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線を用いるものがある。

E 種：胴部に弧状文を主体とする文様を施文するもの。胴上部に施文し、胴中位を横位に区画するものと、胴下部に縦位の文様を垂下させるものとがある。沈線を添わせた隆線によって弧状・三角形区画を描くものが多く、区画内に三叉状・菱形状・渦巻状文を施文するものがある。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。また、隆線上に縄文を加えるもの、部分的に交互刺突文・縦位連続短沈線文を加えるものがある。器形は深鉢 D・F・I・N・W 類、小型深鉢 I 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・小波状縁・波状縁がある。8 種類に細別した。

(E 1 種) 口縁部に方形区画文、胴部中位に水平方向の連弧状文を伴う。施文技法は隆線を添わせた沈線、平行沈線を用いるものがある。

(E 2 種) 口縁部に横位の無文帯とこれに沿う水平方向の連続文を伴う。連続指頭押圧を加えた隆線を用いるものがある。無文帯上に 4 単位の橋状突起を付加するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線を用いるものがある。

(E 3 種) 口縁部に水平方向の連弧状文、頸部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を伴う。胴部に「Y」字状隆線文を垂下させるものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、平行沈線を用いるものがある。

(E 4 種) 口縁部に水平方向の連弧状文、頸部に横位の無文帯とこれに沿う水平方向の連続文を伴う。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、平行沈線を用いるものがある。

(E 5 種) 頸部に横位の無文帯を伴い、胴部中位を水平方向の連続文で区画する。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線、半截竹管状工具による連続刺突を用いるものがある。

(E 6 種) 頸部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を伴う。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線を用いるものがある。

(E 7 種) 頸部に横位の無文帯を伴う。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。胴部に「Y」字状隆線文を垂下させるものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、平行沈線を用いるものがある。

(E 8 種) 口縁部が無文または地文のみを施文する。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。施文技法は平行沈線を用いるものがある。

F 種：口縁部に上下で対向する弧状文を主体とする文様を施文するもの。沈線を添わせた隆線によって弧状区画を描き、区画内に三叉状・渦巻状文を施文するものがある。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。また、部分的に交互刺突文を加えるものがある。器形は突起付平縁の深鉢 R 類がある。

(F 1 種) 口縁上部に横位の無文帯を伴うもの。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線を用いるものがある。

G 種：胴部に上下で対向する弧状文を主体とする文様を施文するもの。胴上部に施文して胴中位を横位に区画するものや、縦位に区画した胴部の全体に施文するものがある。沈線を添わせた隆線によって弧状・三角形区画を描くものが多く、区画内に三叉状・渦巻状文を施文するものがある。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。また、隆線上に縄文を

加えるもの、部分的に交互刺突文・連続刺突文・縦位連続短沈線文を加えるものがある。器形は深鉢I・N類があり、口縁形態は平縁・突起付平縁・小波状縁・波状縁がある。5種類に細別した。

(G 1種) 頸部に横位の無文帯を伴い、胴部中位を水平方向の隆線文で区画する。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、平行沈線を用いるものがある。

(G 2種) 口縁部が無文または横位の無文帯を伴う。胴部中位を横位隆線文で区画するもの、弧状区画の接点を「X」字状隆線文で強調するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、連続刺突を加えた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、平行沈線を用いるものがある。

(G 3種) 口縁部が無文で、頸部に水平方向の連続文、胴部中位に横位の無文帯とこれに沿う水平方向の連続文を伴う。弧状区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線を用いるものがある。

(G 4種) 頸部に水平方向の連続文、胴部に縦位区画を伴う。平行沈線による弧状文を重ねて施文するものがある。施文技法は交互刺突を加えた隆線・平行沈線を用いるものがある。

(G 5種) 上部が不明で、胴部に縦位区画を伴う。平行沈線による弧状文を重ねて施文するものがある。施文技法は小波状隆線・連続刺突・平行沈線を用いるものがある。

H種：口縁部に横長の楕円形文を主体とする文様を施文するもの。沈線を添わせた隆線によって楕円形・三角形区画を描くものが多く、区画内に三叉状・渦巻状文・連続刺突文・連続「ハ」字状沈線文・鋸歯状沈線文を施文するものがある。区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。また、隆線上に縄文を加えるもの、部分的に交互刺突文・連続刺突文を加えるものがある。器形は深鉢J類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・大波状縁がある。3種類に細別した。

(H 1種) 4単位の大波状縁で波頂部下の口縁部に左右対称の三角形・楕円形区画文を施文し、頸部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を伴う。胴部に「Y」字状沈線文を垂下させるものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、連続刺突を加えた隆線、交互刺突を加えた平行沈線を用いるものがある。

(H 2種) 口縁部に楕円形区画文を施文し、頸部に水平方向の連続文を伴う。楕円形区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。施文技法は連続刺突を加えた隆線、沈線を用いるものがある。

(H 3種) 口縁部に楕円形区画文を施文し、頸部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を伴う。胴部に「Y」字状隆線文・平行沈線文を垂下させるものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線を用いるものがある。

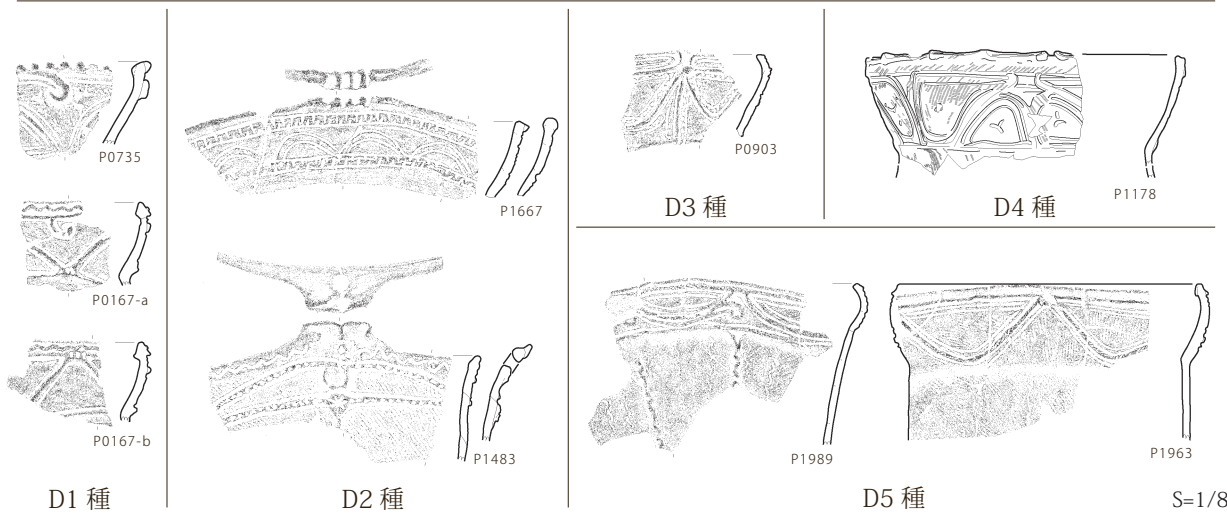
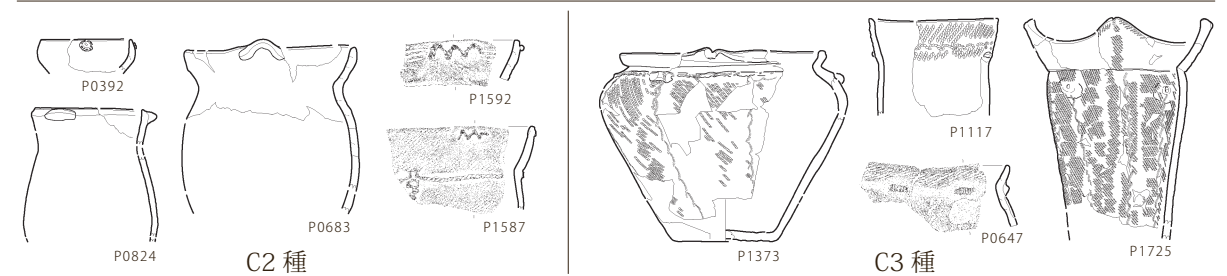
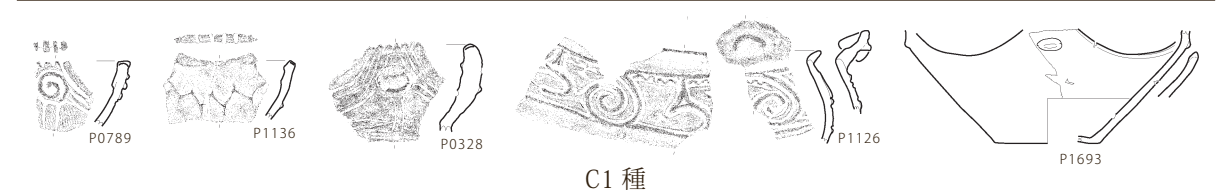
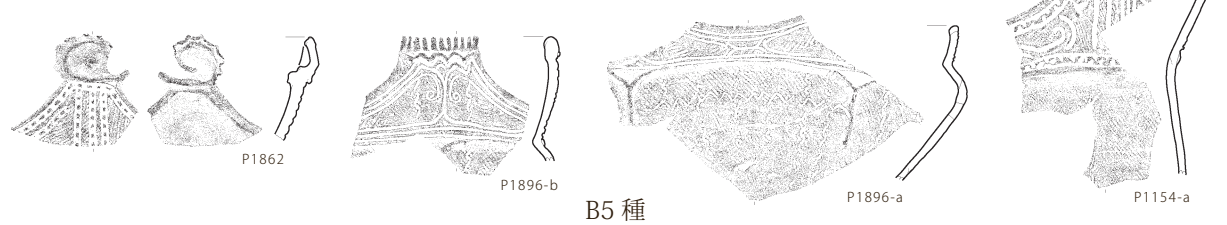
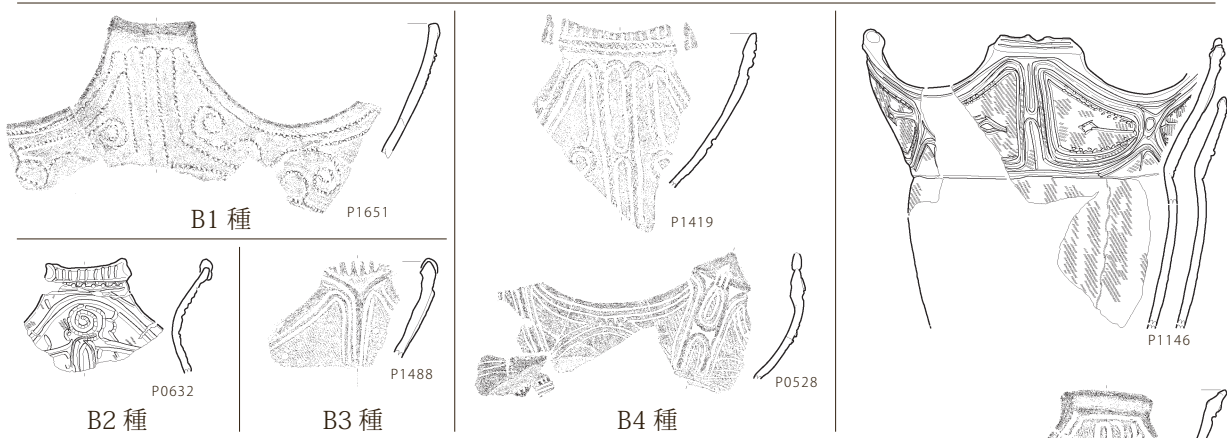
I種：胴部に横長の楕円形文を主体とする文様を施文するもの。胴上部に施文して胴中位を横位に区画するものが多い。沈線を添わせた隆線によって楕円形区画を描くものが多く、区画内に三叉状・菱形状・弧状・渦巻状・同心円文を施文するものがある。また、隆線上に縄文を加えるもの、部分的に交互刺突文・連続刺突文を加えるもの、口縁部に押圧縄文を用いるものがある。器形は深鉢I・N類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・大波状縁がある。6種類に細別した。

(I 1種) 大波状縁で口縁部に弧状文を施文し、頸部に横位の無文帯を設け、胴上部に楕円形区画文を施文する。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行隆線を用いるものがある。

(I 2種) 口縁部に楕円形区画文を施文する。施文技法は交互刺突を加えた平行沈線、平行沈線を用いるものがある。

(I 3種) 口縁上部と頸部に横位の無文帯を設け、口縁部に水平方向の連弧状文、胴上部に楕円形区画文を施文し、胴部中位を横位隆線文で区画する。楕円形区画の接点を「Y」字状隆線文で強調するものがある。

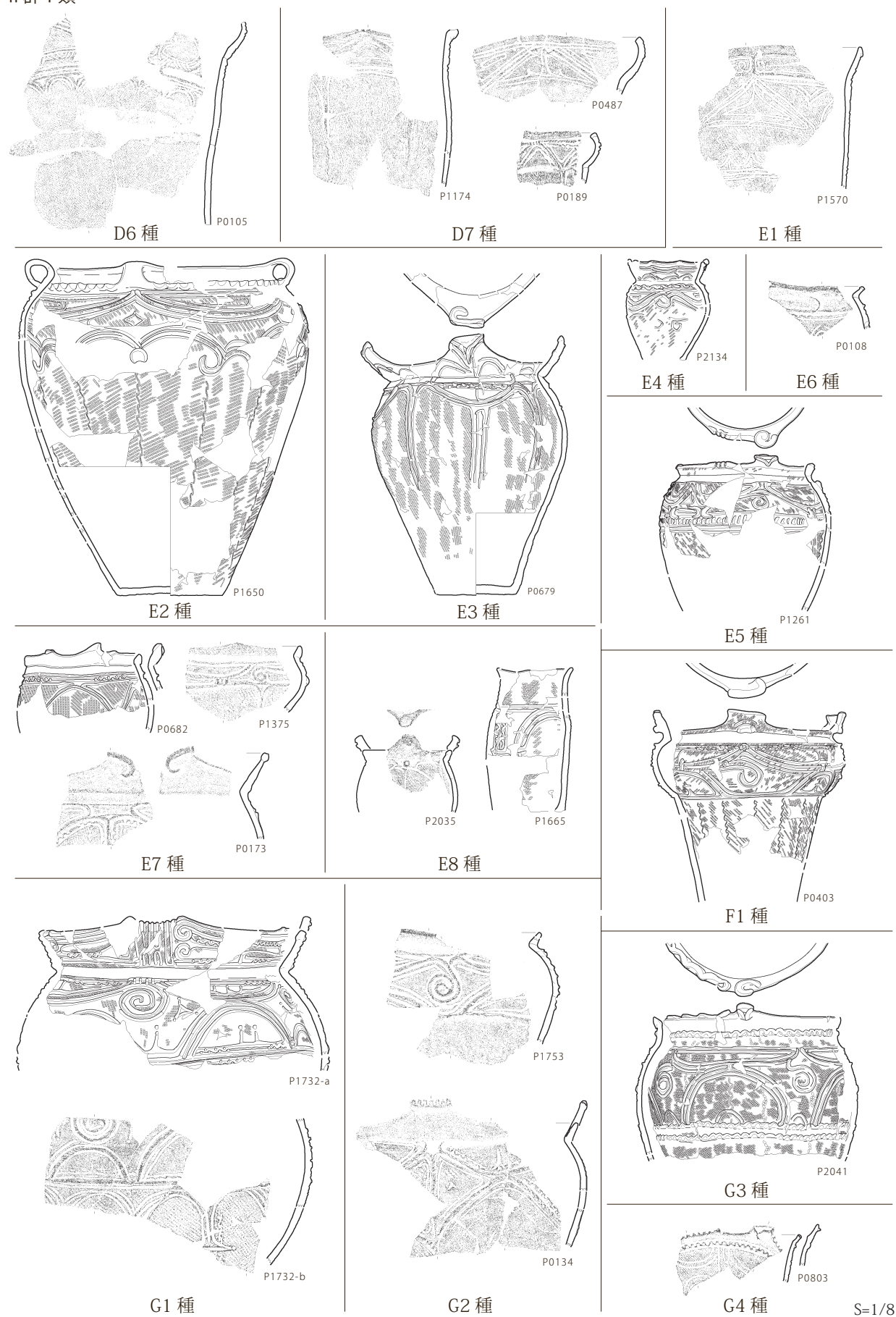
Ⅱ群1類



S=1/8

第29図 縄文土器の分類(2) Ⅱ群土器(1)

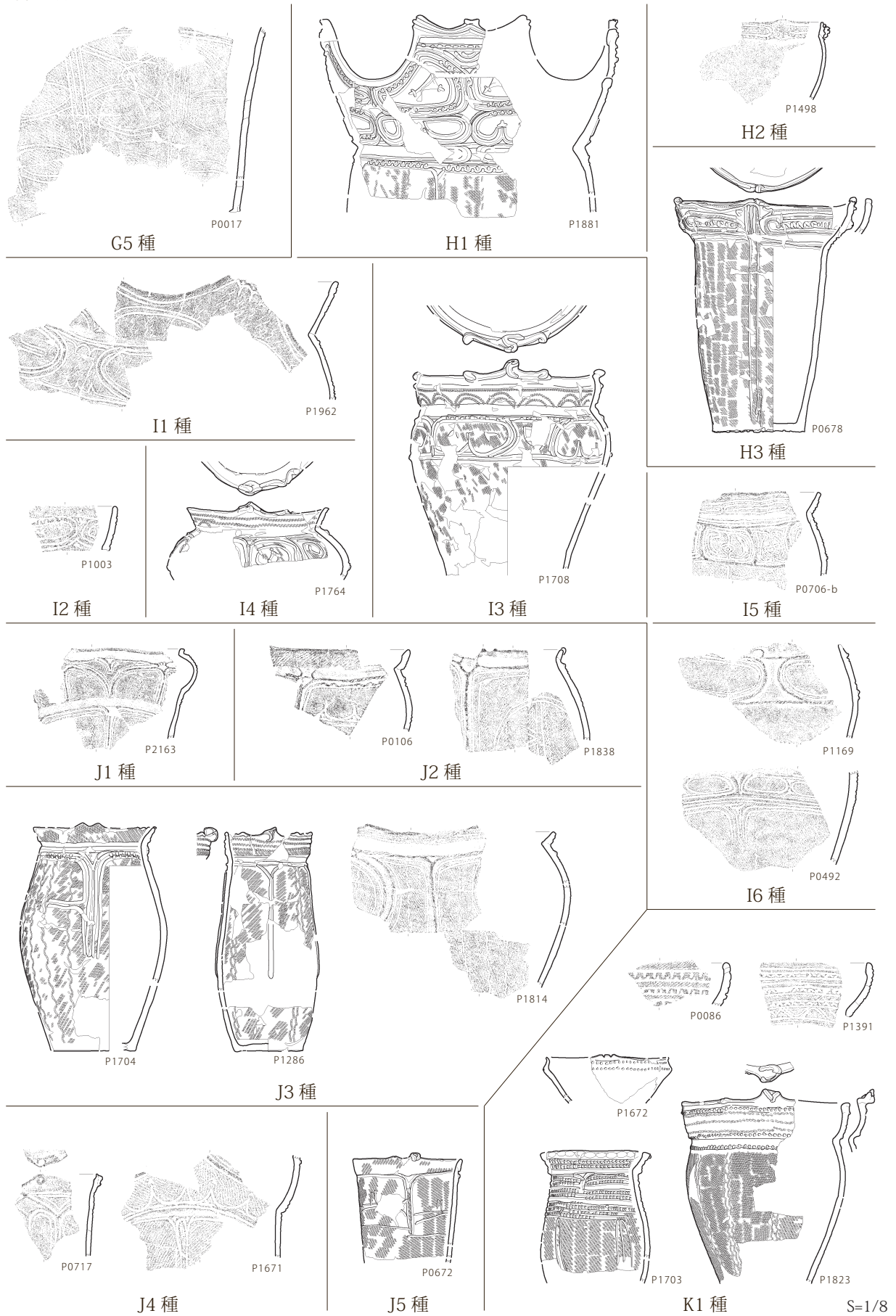
II群1類



第30図 縄文土器の分類 (3) II群土器 (2)

S=1/8

II群1類



第31図 縄文土器の分類(4) II群土器(3)

S=1/8

のがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、連続刺突を加えた隆線、押圧縄文を用いるものがある。

(I 4種) 頸部に横位の無文帯を設け、口縁部に横位平行文、胴上部に楕円形区画文を施文し、胴部中位を横位隆線文で区画する。楕円形区画の接点を「Y」字状隆線文で区画するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、押圧縄文を用いるものがある。

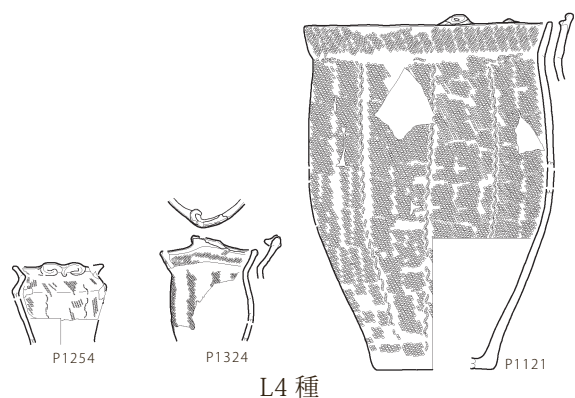
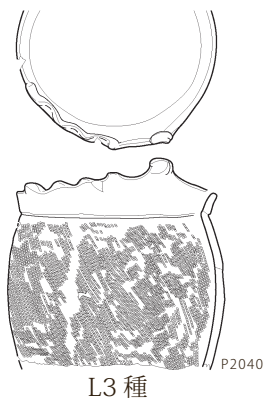
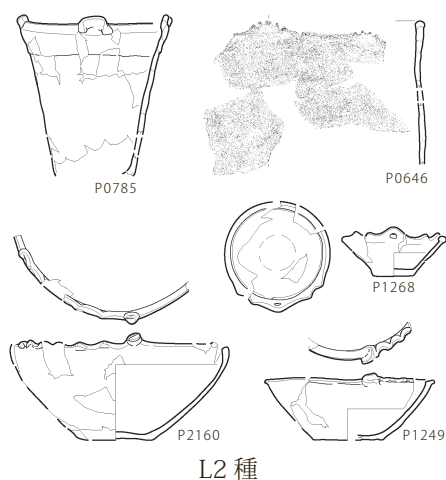
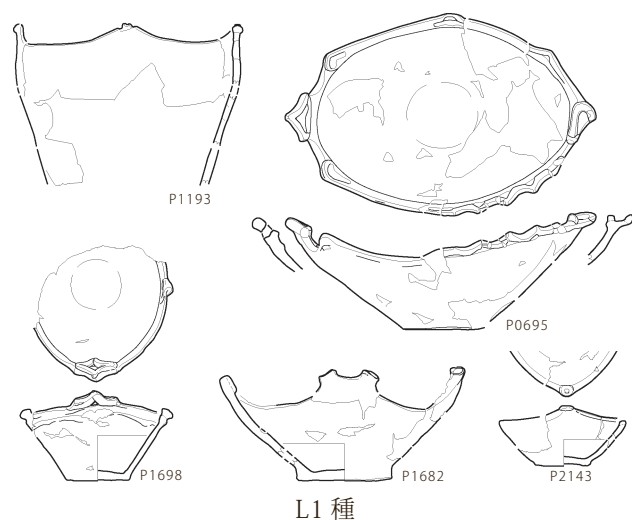
(I 5種) 頸部に横位の無文帯を設け、口縁部・胴部に楕円形区画文を施文する。施文技法は沈線を添わせた隆線、沈線を用いるものがある。

(I 6種) 口縁部が不明で胴上部に楕円形区画文を施文し、胴部中位を横位隆線文で区画する。頸部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を設けるもの、胴部に平行沈線文を垂下させるものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線を用いるものがある。

J種：口縁部・胴部に「Y」字状垂下隆線文を施文するもの。縦位区画の性格を合わせ持ち、両側に弧状文を施文するもの、横位沈線文などと複合して方形区画状を呈するものがある。沈線を添わせた隆線によって施文するものが多い。また、隆線上に縄文を加えるもの、部分的に交互刺突文を加えるもの、口縁部に押圧縄文を用いるものがある。器形は深鉢D・G・N・R類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・大波状縁がある。5種類に細別した。

(J 1種) 口縁上部と頸部に無文帯を設け、口縁部と胴部にそれぞれ「Y」字状垂下隆線文を施文する。口縁部のY字状垂下隆線文の上部を楕円形貼付文で強調し、両側が弧状に延びて扇形の区画を

II群1類



S=1/8

第32図 縄文土器の分類 (5) II群土器 (4)

形成するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線を用いるものがある。

(J 2種) 頸部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を設け、胴部に「Y」字状垂下降線文を施文する。両側に弧状・横位平行・連弧状沈線文を施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、平行沈線を用いるものがある。

(J 3種) 頸部に横位の無文帯を設け、胴部に「Y」字状垂下降線文を施文する。口縁部に横位平行文、胴部の「Y」字状垂下降線文の両側に楕円形区画文、横位平行沈線文を施文するものがある。施文技法は隆線、沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、平行沈線を用いるものがある。

(J 4種) 口縁部・頸部に無文帯を設けず、胴部に連結「Y」字状垂下降線文を施文する。口縁部に水平方向の連弧状文、胴上部に三角形区画文を施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、沈線を用いるものがある。

(J 5種) 口縁部・頸部に無文帯を設けず、胴部に「Y」字状垂下降線文を施文する。「Y」字状垂下降線文の中位と下端に横位沈線文を施文し方形区画状を呈するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、沈線を用いるものがある。

K種：口縁部～胴上部に水平方向の連続文または横位平行文を重層的に施文するもの。器形は深鉢G・I・J・N類、小型深鉢D類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。

(K 1種) 口縁部または口縁部から頸部ないし胴上部にかけて施文する。頸部に「Y」字状垂下降線文、胴中位に縦位沈線文を施文するものがある。施文技法は平行沈線にハ字状沈線文または交互刺突、連続刺突を加えるもの、隆線に連続刺突を加えるもの、連続指頭押圧、連続刺突、横位・連弧状押圧縄文、小波状沈線を用いるものがある。

L種：単純な突起を持ち、無文または地文のみを施文するもの。器形は深鉢F・N・Y類、小型深鉢H・O類、浅鉢B1・B2・G1類、小型浅鉢A1類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。4種類に細別した。

(L 1種) 波状縁で無文のもの。4単位の波頂部に短沈線や貼付文、突起を付加するもの、上面観が楕円形で長軸方向の両端の波頂部に2単位の突起を付加するもの、単独の波頂部を設けるものがある。後二者は主に浅鉢がある。施文技法は「一」字状貼付文、円形・三角形・菱形・「C」字状・「つ」字状突起、短沈線文、連続指頭押圧などを用いるものがある。

(L 2種) 平縁で無文のもの。4単位または単独の突起を付加するものがある。後者は主に浅鉢がある。施文技法は「C」字状・「つ」字状突起、短沈線文、連続指頭押圧などを用いるものがある。

(L 3種) 波状縁で地文に縄文を施文する。2単位の左右非対称な波頂部に突起を付加するものがある。施文技法は「つ」字状突起、連続指頭押圧を用いるものがある。

(L 4種) 平縁で地文に縄文を施文する。2単位または単独の突起を付加するものがある。施文技法は「つ」字状突起、円形・渦巻状隆線文を用いるものがある。

2類 関東地方の五領ヶ台式系統と考えられるものである。五領ヶ台式に後続する東関東地方の竹ノ下式系統と考えられるものも含めた。胴上部が球状で下部が円筒状を呈する深鉢、波状縁の深鉢などがある。文様は口縁上端部に短沈線文を加えるものが特徴的に見られ、細沈線文や沈線文、押引文あるいは沈線を添わせた隆線のほか、三角形彫去文や連続交互刺突文、連続刺突文により施文するものがある。大別3種類、細別6種類に分類した(第33・34図)。A種が前半期(五領ヶ台I式期)、B種が後半期(五領ヶ台II式期)、C種が終末期(竹ノ下式期)に相当し、前半期が大木7a式古段階、後半期～終末期が大木7b式新段階に並行するものと考えられる。

A種：細沈線文により施文するもので、五領ヶ台I式系統と考えられるもの。器形は平縁・突起付平縁・

波状縁の深鉢などがある。

(A 1 種) 渦巻状・円形・半円形・三角形・斜位平行沈線と連続短沈線による梯子状沈線文、「ハ」字状沈線文、斜格子状沈線文、三角形彫去文などを充填的に施文する。円形・橋状突起を持つもの、球状の胴部上半に縦位区画・渦巻状沈線を施文するものがある。地文に縄文を施文するものは見られない。胎土に微細な雲母片を含むものを散見する。

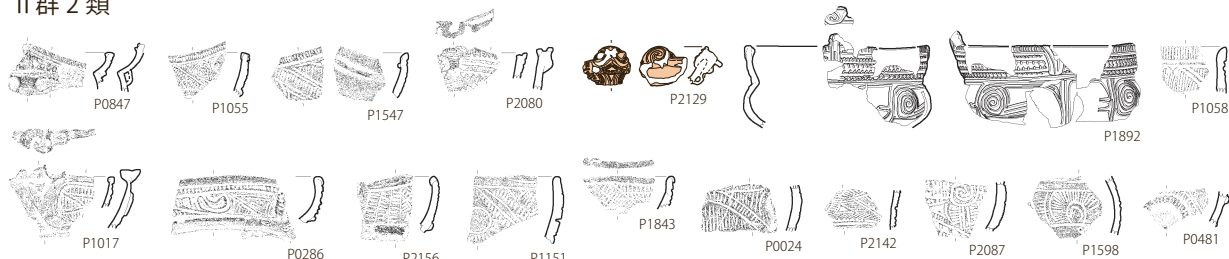
B 種：連続短沈線文、沈線文または半隆起線文、連続交互三角形彫去文、連続刺突文により施文するもので、五領ヶ台Ⅱ式系統と考えられるもの。器形は深鉢 C・I・L・Q・X・Y 類、浅鉢 B1・G1 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。

(B 1 種) 口縁上端部または口縁部の上部に連続短沈線文、口縁部または頸部に平行沈線または半隆起線と連続交互三角形彫去文、連続刺突文を組み合わせて施文する。同様の文様を胴部に垂下させるものや、斜位・三角形・十字状に施文するものもある。また、渦巻状・「V」字状・「Y」字状文、楕円形貼付文を施文するものもある。地文に縄文を施文するものが少数認められる。胎土に微細な雲母片を含むものを散見する。

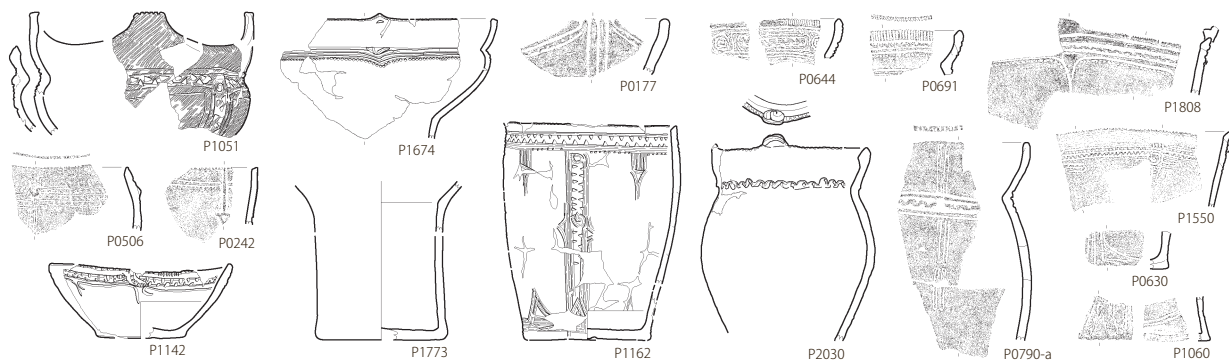
C 種：連続短沈線文、隆線文、沈線文、押引文、連続刺突文により施文するもので、竹ノ下式系統と考えられるもの。胎土に雲母片を多く含むものがある。器形は深鉢 L・N・T・Y 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。4 種類に細別した。

(C 1 種) 口縁上端部に連続短沈線文、口縁～胴部に隆線とこれに沿う沈線により施文するもので、沈線内に細い竹管状工具による連続刺突を加える。口縁上端部の連続短沈線文は連続刺突に用いるのと同径の竹管状工具の側面圧痕である。また平行沈線に交互刺突を加えるものや、三角形彫去文を施文するものがある。描かれる文様は接点が「X」字状となる楕円形区画、三角形・弧状区画、円形・菱形・渦巻状・連結「Y」字状文などがある。地文に縄文を施文するものが多い。胎土に雲母片を多く含むものがある。

Ⅱ群2類



A1 種



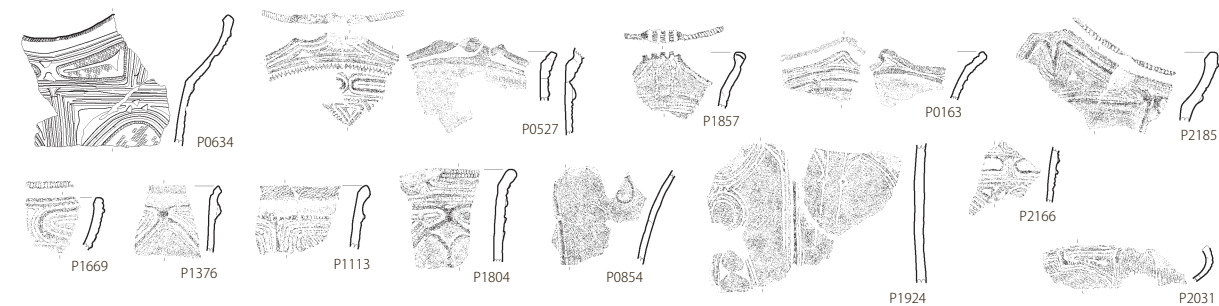
S=1/8

B1 種

第33図 縄文土器の分類 (6) Ⅱ群土器 (5)

(C 2 種) 口縁上端部に連続短沈線文、口縁～胴部に隆線とこれに沿う押引文により施文する。口縁上端部の連続短沈線文は押引文に用いるのと同径の竹管状工具の側面圧痕である。また平行押引文に交互刺突を加えるものや、三角形彫去文を施文するものがある。描かれる文様は接点が「X」字状となる楕円形区画、三角形・弧状区画、円形・渦巻状文などがあり、胴部を「Y」字状隆線文で

II 群 2 類



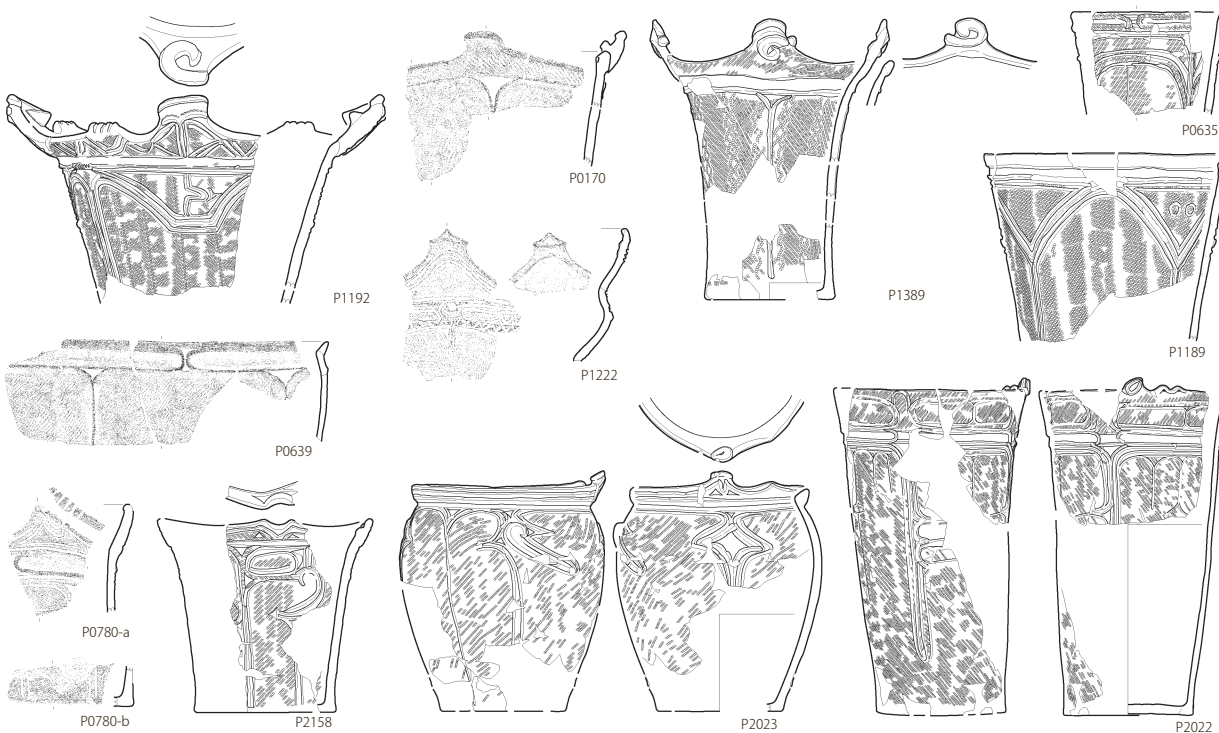
C1 種



C2 種



C3 種



C4 種

S=1/8

第34図 縄文土器の分類 (7) II 群土器 (6)

区画するものもある。地文に縄文を施文するものが多い。胎土に雲母片を多く含むものがある。

(C 3 種) 口縁上端部または口縁上部に連続短沈線文、口縁～胴部に隆線とこれに沿う沈線文により施文する。口縁上端部または口縁上部の連続短沈線文は細い竹管状工具の側面圧痕である。また平行沈線に交互刺突を加えるものや、隆線の上に縄文を施文するもの、三角形彫去文を施文するものがある。描かれる文様は楕円形・三角形区画、連弧状・渦巻状文などがあり、胴部を「Y」字状隆線文で区画するものもある。地文に縄文を施文するものが多い。胎土に雲母片を多く含むものがある。

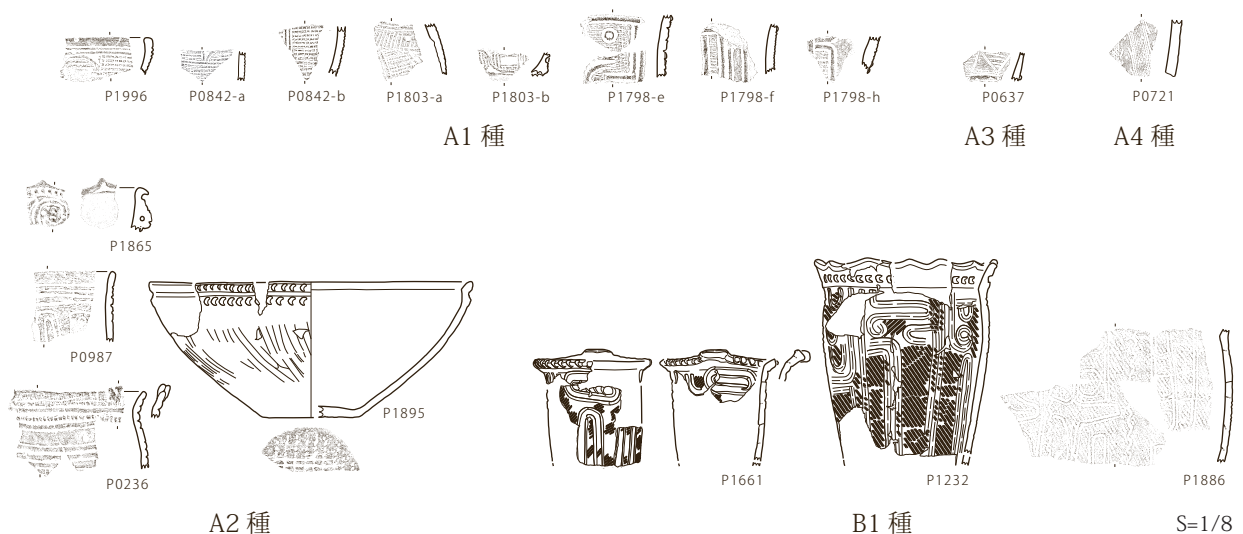
(C 4 種) 隆線とこれに沿う沈線文により施文する。隆線の上に連続刺突を加えたり縄文を施文するもの、三角形彫去文を施文するものがある。描かれる文様は接点が「X」字状となる楕円形区画、三角形区画、円形・菱形・渦巻状・連弧状・鋸歯状・連結「Y」字状文などがある。胴部を「Y」字状隆線文で区画するものも多く、頸部に無文帯を設け「X」字状隆線文で区切るものがある。地文に縄文を施文するものが多い。胎土に雲母片を多く含むものがある。

3類 北陸地方の新保式系統と考えられるものである。全体の器形が明らかなものは少ないが、円筒形の胴部の上が大きく外反し口縁部が強く内弯するとみられる深鉢、頸部が括れる深鉢、円筒形の深鉢、口縁部が短く外傾する浅鉢がある。文様は半截竹管状工具の内側を用いた半隆起線文や連続刺突文、細密沈線文により施文するものがある。大別2種類、細別5種類に分類した(第35図)。後半期(第3～4様式期)に相当し、大木7a式新段階に並行するものと考えられる。

A種：半隆起線文と細密沈線文、爪形の連続刺突文により施文するもの。焼成良好で器面に独特の平滑感を持つものがある。器形は平縁・突起付平縁・波状縁の深鉢、平縁の浅鉢 G1 類などがある。4種類に細別した。

(A 1 種) 半隆起線文により施文し、格子目状の細密沈線文を充填する。描かれる文様は縦位・横位・「L」字・楕円形・弧状の入組み文、円形・楕円形・弧状文などがある。三角形・方形彫去文を施文するものがある。焼成良好で器面に独特の平滑感を持つものも多く、胎土に微細な雲母片を含むものを散見する。

II 群 3 類



第35図 縄文土器の分類 (8) II 群土器 (7)

(A 2 種) 半隆起線文により施文し、半隆起線上に爪形の連続刺突を加えるものがある。描かれる文様は横位平行・逆「U」字状・渦巻状文がある。焼成良好で器面に独特の平滑感を持つものがあり、胎土に微細な雲母片を含むものを散見する。

(A 3 種) 口縁部に連続「V」字状沈線文を施文し、横位平行沈線を充填する。

(A 4 種) 地文に単軸絡縄体による木目状燃糸文を施文する。

B 種：半隆起線文と爪形の連続刺突文、地文に縄文を施文するもの。器形は深鉢 F・P 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・小波状縁がある。

(B 1 種) 半隆起線文により施文し、半隆起線上に爪形状の連続刺突を加えるものがある。描かれる文様は縦位・横位・「L」字・十字・楕円形・渦巻状・弧状の入組み文、円形・楕円形・「U」字・逆「U」字状文などがある。胎土・焼成は在地の土器と違いがないことから、A 1 種を模倣し細密沈線文を縄文に代替したものと考えられる。

Ⅲ群土器 縄文時代中期前葉の土器群である。文様の特徴から 3 種類に分類した (第 36～43 図)。

1 類 主に大木 7 b 式と考えられるものである。深鉢を中心に浅鉢もある。波状縁または平縁で突起を付加する深鉢や平縁の浅鉢がある。文様は押圧縄文あるいは押圧縄文を添わせた隆線文に加えて、縦位連続押圧縄文、連続指頭押圧文、連続刺突文により施文するものがある。大別 17 種類、細別 62 種類に分類した (第 36～41 図)。A、B (1・2)、C (1～3)、D (1・2)、E (1～3)、F (1・2)、H (1)、J (1)、K、L (1・2)、P (1) 種を主体とする古段階、B (3)、C (4～9)、D (3・4)、E (4～7)、F (3)、G・H (2～4)、I・J (2・3)、L (3～5)、M、N・P (2) 種を主体とする新段階に区分できると考えられる。なお、A～C・K 種の一部は既述のⅡ群 1 類にも伴うと考えられるが、明瞭に区分することができなかった。

A 種：4 単位の大波状縁を持つもの。波頂部に突起や貼付文を持つものと持たないものがある。波頂部下の口縁部に連結「Y」字状文で区切る楕円形区画や左右対称の三角形区画を描くもの、口縁に沿って平行押圧縄文を施文するものがある。器形は深鉢 J 類などがあり、口縁形態は波状縁・大波状縁がある。3 種類に細別した。

(A 1 種) 波頂部に突起や貼付文を持たず、口縁部に連結「Y」字状・渦巻状文を施文する。波頂部の上端に縦位連続押圧縄文を加えるもの、口縁下部に連続「ハ」字状文を施文するものがある。施文技法は押圧縄文を用いるものがある。

(A 2 種) 波頂部に圭頭状突起を持ち、口縁部に連結「Y」字状隆線文を施文する。施文技法は押圧縄文を添わせた隆線を用いるものがある。

(A 3 種) 波頂部に圭頭状突起、弧状貼付文などを持ち、口縁部に菱形・三角形・「V」字状隆線文を施文する。波頂部の上端に縦位連続短沈線文を加えるもの、口縁に沿って平行押圧縄文を施文するものがある。施文技法は押圧縄文を添わせた隆線、平行押圧縄文を用いるものがある。

B 種：口縁部または頸部に円形・楕円形貼付文または単純な隆線文を施文するもの。口縁に沿って平行押圧縄文を施文するもの、隆線上に縄文、貼付文に押圧縄文を加えるものがある。器形は深鉢 D・F・H・J・Y 類、浅鉢 F1・G1 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁がある。3 種類に細別した。

(B 1 種) 口縁部に円形・楕円形貼付文を施文する。円形貼付文を押圧縄文で縁取るもの、楕円形貼付文に縦位連続押圧縄文を加えるものがある。また、口縁部に横位平行隆線文、横位平行・縦位押圧縄文を施文するものがある。

(B 2 種) 頸部に円形・楕円形貼付文または縦位隆線文を施文する。円形貼付文に縦位押圧縄文、縦位隆線文に縄文を加えるものがある。また、口縁部に横位平行押圧縄文を施文するものがある。

(B3種) 口縁部に無文帯を設けS字状隆線文で区切る。

C種：口縁部に弧状文を主体とする文様を施文するもの。押圧縄文による弧状文を水平方向に連続させるもの、押圧縄文を添わせた隆線によって弧状・三角形区画を描くものがある。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するもの、区画内に弧状・渦巻状・連結「Y」字状文を施文するものがある。また、隆線上に押圧縄文、縦位連続押圧縄文を加えるものがある。器形は深鉢D・G～J・L・R・W類、小型深鉢J類、浅鉢B1・B2・C・D・F1・G2類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁・大波状縁がある。9種類に細別した。

(C1種) 口縁上部と頸部に水平方向の連続文や横位の無文帯を持たない。隆線を伴わない押圧縄文による弧状文を水平方向に連続させるものが多い。口縁上部に横位平行押圧縄文を施文するもの、これを「X」字状隆線文で区切るものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、連続刺突、交互刺突を用いるものがある。

(C2種) 口縁上部に横位の無文帯を伴う。沈線または押圧縄文を添わせた隆線で弧状・三角形区画を施文するものが多い。弧状・三角形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文または沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線を用いるものがある。

(C3種) 頸部に無文帯を伴う。施文技法は押圧縄文を添わせた隆線を用いるものがある。

(C4種) 口縁上部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯とこれに沿う水平方向の連続文を伴う。口縁部に「S」字状突起を持つものがある。施文技法は押圧縄文、連弧状隆線を用いるものがある。

(C5種) 口縁上部に横位の無文帯とこれに沿う水平方向の連続文、頸部に水平方向の連続文を伴う。口縁部に横位の橋状突起を持つものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、平行隆線、小波状隆線、連続刺突、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(C6種) 口縁上部に水平方向の連続文、頸部に横位の無文帯を伴う。胴部に弧状・三叉状隆線文を垂下させるものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、連続刺突、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(C7種) 口縁上部に水平方向の連続文を伴う。隆線を伴わない押圧縄文による弧状文を水平方向に連続させるものが多い。胴部に押圧縄文を添わせた縦位隆線文を垂下させるものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、連弧状隆線、連続刺突、連続指頭押圧、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(C8種) 頸部に水平方向の連続文を伴う。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、隆線、連続刺突、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(C9種) 口縁上部と頸部に水平方向の連続文を伴う。胴部に縦位平行沈線文を垂下させるものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、連弧状隆線、連続刺突、連続指頭押圧、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

D種：胴部に弧状文を主体とする文様を施文するもの。平行沈線または隆線で弧状文を施文するもの、隆線と押圧縄文または平行沈線で弧状文を重層施文するものがある。また、押圧縄文を添わせた隆線によって弧状・三角形区画を描くもので、区画の接点を「X」字状隆線文で強調し、区画内に渦巻状文を施文するものがある。器形は深鉢D・H・N類、浅鉢D類、台付浅鉢B類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁・大波状縁がある。4種類に細別した。

(D1種) 頸部に楕円形貼付文を伴う。口縁部に横位平行押圧縄文と水平方向の連続文を交互に施文し、胴上部に平行沈線により弧状文を施文するものがある。施文技法は押圧縄文、平行沈線、連続

刺突を用いるものがある。

(D 2 種) 頸部に横位の無文帯を伴う。口縁部に横位平行押圧縄文を施文し、胴上部に隆線により弧状文を施文するもの、胴上部に押圧縄文を添わせた隆線により弧状・三角形区画を施文するものがある。後者は頸部の無文帯を「X」字状隆線文で区切り、三角形区画の接点を「X」字状隆線文で強調する。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、隆線、沈線を用いるものがある。

(D 3 種) 胴上部に弧状文を重層施文する。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、沈線、連続交互指頭押圧を用いるものがある。

(D 4 種) 上半部が不明な台付浅鉢で、体部に押圧縄文による弧状文を施文する。

E 種：口縁部に上下で対向する弧状文を主体とする文様を施文するもの。押圧縄文を添わせた隆線によって弧状・菱形区画を描くものが多く、区画内に渦巻状文を施文するものがある。弧状・菱形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。器形は深鉢 G・J・L・R・S 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁・大波状縁がある。7 種類に細別した。

(E 1 種) 口縁上部と頸部に水平方向の連続文や横位の無文帯を持たない。弧状区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、平行沈線、沈線を用いるものがある。

(E 2 種) 口縁上部に横位の無文帯を伴う。押圧縄文を添わせた隆線で弧状・菱形区画を描くもので、弧状区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。また、弧状区画に挟まれた菱形区画の中央に渦巻状文を施文するものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、隆線を用いるものがある。

(E 3 種) 頸部に横位の無文帯を伴う。中太の隆線で施文し隆線上に縄文を加えるもので、胴部に弧状文を垂下させるものがある。施文技法は押圧縄文、隆線を用いるものがある。

(E 4 種) 口縁上部と頸部に横位の無文帯を伴う。押圧縄文を添わせた隆線で施文するもので、胴部に弧状文を垂下させるものがある。頸部の無文帯を「X」字状隆線文で区切り、これに沿って水平方向の連続文を施文するものがある。施文技法は押圧縄文を添わせた隆線、隆線、連続刺突を用いるものがある。

(E 5 種) 口縁部に水平方向の連続文を伴う。施文技法は隆線、連続交互指頭押圧、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(E 6 種) 頸部に水平方向の連続文を伴う。口縁上部に横位平行押圧縄文を伴うものがある。施文技法は押圧縄文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(E 7 種) 口縁部と頸部に連続文を伴う。弧状区画の接点を「X」字状隆線文で強調するもの、口縁部を縦位に区画するものがある。また、弧状区画に挟まれた菱形区画の中央に渦巻状文を施文するものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、小波状隆線、連続刺突、縦位連続短沈線文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

F 種：胴部に上下で対向する弧状文を主体とする文様を施文するもの。胴上部に施文し、胴中位を横位に区画するものと、胴下部に縦位の文様を垂下させるものがある。押圧縄文を添わせた隆線によって弧状・菱形区画を描き、区画内に渦巻状文を施文するものが多い。弧状・菱形区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。器形は深鉢 N・Y 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。3 種類に細別した。

(F 1 種) 頸部に横位の無文帯を伴う。胴上部に押圧縄文を添わせた隆線で弧状・菱形区画を描き、胴中位を横位に区画するものがある。無文帯上に 4 単位の橋状突起を付加するもの、「X」字状隆線

文で区切るものがある。弧状区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、隆線を用いるものがある。

(F 2 種) 口縁部に水平方向の連続文を伴い、胴上部に押圧縄文を添わせた隆線で弧状・菱形区画を描き、胴下部に小波状隆線文を垂下させる。弧状区画の接点を楕円形貼付文で強調するものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、隆線、半截竹管状工具による連続刺突を加えた半隆起線、連続指頭押圧を用いるものがある。

(F 3 種) 口縁部に水平方向の連続文を伴い、胴部に縦位区画と対向する弧状文を施文する。施文技法は隆線、沈線、平行沈線、交互刺突を加えた平行沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

G 種：口縁部と胴部に上下で対向する弧状文を主体とする文様を施文するもの。押圧縄文を添わせた隆線によって弧状・菱形区画を描き、区画内に渦巻状・「C」字状・十字状文を施文するものがある。弧状・菱形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。また、胴部を縦位・横位に区画するものがある。器形は深鉢J類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁がある。4 種類に細別した。

(G 1 種) 口縁上部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を伴う。沈線を添わせた縦位連続押圧縄文を加えた幅広の隆線で施文し、区画の接点を「X」字状隆線文で強調するものがある。施文技法は沈線、沈線を添わせた隆線、縦位連続押圧縄文を加えた幅広の隆線を用いるものがある。

(G 2 種) 頸部に横位の無文帯を伴う。押圧縄文を添わせた隆線で施文し、区画の接点を「X」字状隆線文で強調するものがある。また、胴部を縦位・横位に区画するものがある。施文技法は押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線、隆線、連続指頭押圧を用いるものがある。

(G 3 種) 口縁上部に水平方向の連続文、頸部に横位の無文帯を伴う。胴部を縦位・横位に区画するものがある。弧状・菱形区画の接点を楕円形貼付文や「X」字状隆線文で強調するものがある。施文技法は押圧縄文、沈線、押圧縄文または沈線を添わせた隆線、連弧状隆線、連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(G 4 種) 口縁部～頸部に水平方向の連続文と横位の無文帯を重層的に施文する。沈線を添わせた縦位連続押圧縄文を加えた幅広の隆線で施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、縦位連続押圧縄文を加えた幅広の隆線、縦位連続押圧縄文を加えた連弧状隆線、交互刺突を加えた平行沈線を用いるものがある。

H 種：口縁部または胴部に渦巻状文を施文するもの。水平方向の連続文や横位の無文帯を伴うものがある。器形は深鉢A・Y類、浅鉢F1類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。4 種類に細別した。

(H 1 種) 口縁上部と頸部に水平方向の連続文や横位の無文帯を伴わず、口縁部に渦巻状文を施文する。施文技法は押圧縄文を用いるものがある。

(H 2 種) 口縁上部に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を伴い、胴部に渦巻文を施文する。「X」字状隆線文が橋状突起と複合するものがある。施文技法は隆線、沈線、押圧縄文を用いるものがある。

(H 3 種) 口縁部に水平方向の連続文を伴い、口縁部または胴部に渦巻状文を施文する。口縁部に4 単位の橋状突起を付加するものがある。施文技法は連続短沈線を加えた隆線、沈線、押圧縄文、連続刺突、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(H 4 種) 口縁部～頸部に小波状・連弧状・鋸歯状隆線文を重層的に施文し、胴部に渦巻状・剣先状文を垂下させる。施文技法は平行沈線、押引、縄文を加えた隆線を用いるものがある。

I 種：口縁部または胴部に縦位・楕円形・方形区画あるいは方形基調の文様を施文するもの。「Y」字状・

連結「Y」字状垂下隆線文で縦位に区画するものがある。器形は深鉢F・J・M・R・W類、小型深鉢E類、浅鉢B1類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。4種類に細別した。

(I 1種) 口縁部または胴部を「Y」字状垂下隆線文と横位隆線文で区画する。口縁上に「X」字状隆線文で区切る横位の無文帯を伴うものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、連続刺突・縄文を加えた隆線、連続短沈線、押圧縄文を用いるものがある。

(I 2種) 口縁部または胴部を連結「Y」字状垂下隆線文と横位隆線文で区画し、区画内に連結「Y」字状平行沈線文、渦巻状文を施文する。口縁上部に無文帯を伴い、4単位の橋状突起を付加するものがある。また、口縁部に楕円形横帯区画文、体部に連結「Y」字状平行沈線文を施文する浅鉢がある。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行沈線、連続指頭押圧、連続刺突を用いるものがある。

(I 3種) 胴部に方形区画または十字状文を施文する。口縁部に水平方向の連続文を伴うもの、齔状隆帯と橋状突起を伴うものがある。施文技法は平行沈線、平行隆線、小波状隆線、押圧縄文を用いるものがある。

(I 4種) 口縁部に方形区画または方形文を施文する。連続文を加えた隆線文により施文するものが多い。施文技法は連続刺突・連続短沈線・縦位連続押圧縄文を加えた隆線、隆線、沈線、押圧縄文を用いるものがある。

J種：口縁部に水平方向の連続文を施文するもの。口縁上端または口縁部に施文するものと、口縁上端部から頸部にかけて重層的に施文するものがある。器形は深鉢D・F～H・J・L・P・T・V・W・Y類、小型深鉢W類、浅鉢A1・B1・B2・F2類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。3種類に細別した。

(J 1種) 口縁上端に水平方向の連続文を施文する。施文技法は縦位連続押圧縄文、連続指頭押圧、押圧縄文を用いるものがある。

(J 2種) 口縁部に水平方向の連続文を施文する。4単位の橋状突起を付加するものがある。施文技法は連弧状・小波状隆線文、横位隆線文・沈線文、斜位連続短沈線文、押圧縄文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(J 3種) 口縁部～頸部に水平方向の連続文を重層的に施文する。口縁部に4単位の橋状突起を付加するもの、齔状隆帯と横位の無文帯を伴うものがある。施文技法は連続指頭押圧・連続交互指頭押圧・連続刺突・連続交互刺突・押圧縄文・縦位連続押圧縄文を加えた隆線、隆線、平行沈線、連続刺突、押圧縄文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

K種：口縁部に横位平行押圧縄文を施文するもの。上下に水平方向の連続文を伴うものがある。器形は深鉢B～J・P・V・X・Y類、浅鉢A1・B1・G1・G2類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・小波状縁がある。5種類に細別した。

(K 1種) 口縁上端部または口縁上部に連続文を伴う。施文技法は連続指頭押圧、連続刺突、縦位連続押圧縄文、押圧縄文を用いるものがある。

(K 2種) 口縁下部または頸部に連続文を伴う。口縁部に橋状突起を伴うものがある。施文技法は連続指頭押圧、連続刺突、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

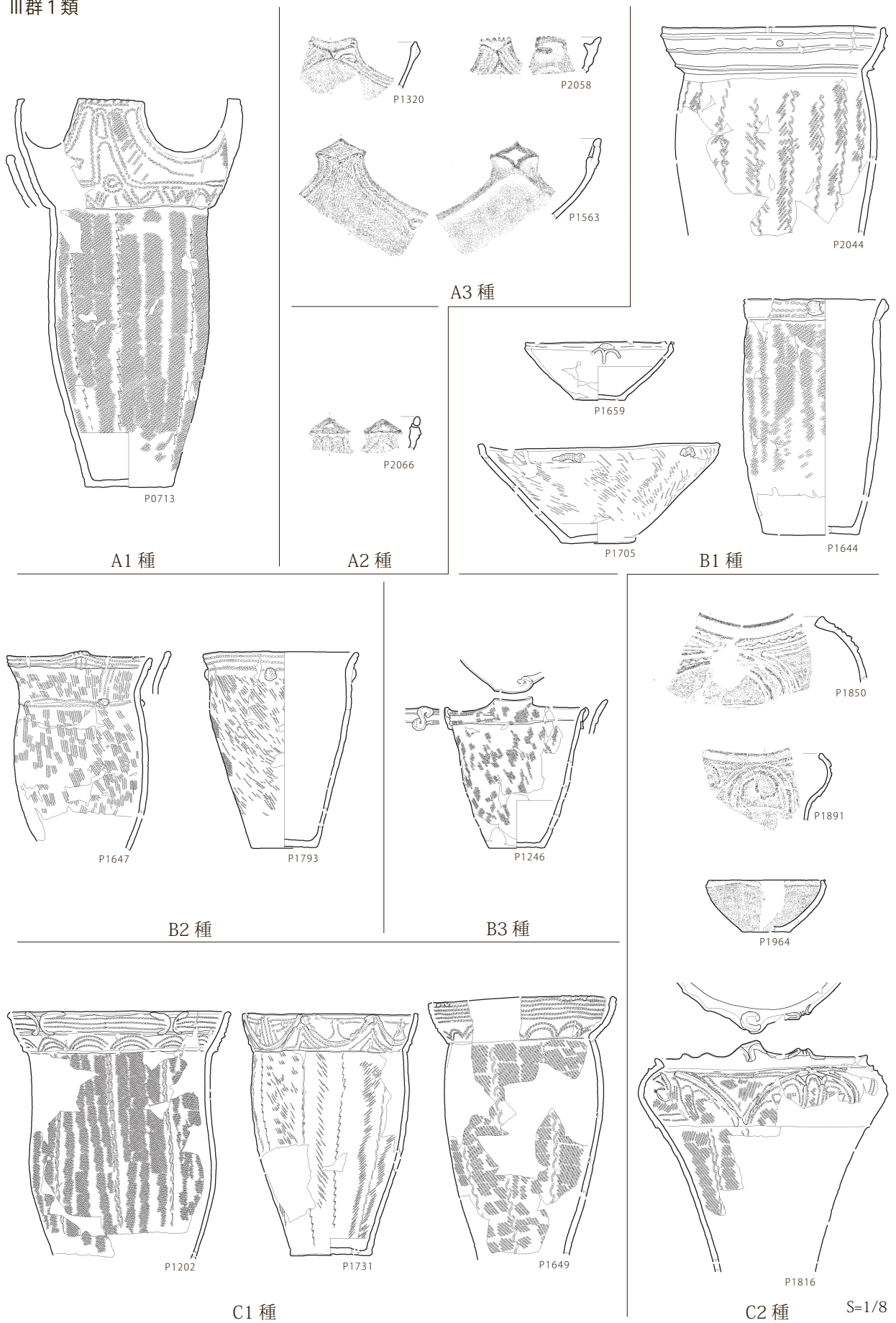
(K 3種) 口縁上端部または口縁上部および口縁下部または頸部に連続文を伴う。口縁部に橋状突起を付加するもの、齔状隆帯を伴うものがある。施文技法は連続指頭押圧・縦位連続押圧縄文を加えた隆線、押圧縄文を用いるものがある。

(K 4種) 単独の突起付平縁で水平方向の連続文を伴わない。橋状突起を付加するものがある。

(K 5種) 平縁で水平方向の連続文を伴わない。

- L種：口縁部に「X」字状隆線文または接点が「X」字状となる楕円形横帯区画を施文するもの。無文帯を設けて「X」字状隆線文で区切るもの、「X」字状隆線文の間に楕円形・横位平行押圧縄文または縦位連続押圧縄文を施文するものがある。器形は深鉢A・C・G・H・J・L・R類、小型深鉢U類、浅鉢A1・B1・B2・C・D・F1・F2・G1類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・小波状縁・波状縁がある。5種類に細別した。
- (L1種) 口縁上部に無文帯を設け「X」字状隆線文で区切るか、接点が「X」字状となる幅広の楕円形横帯区画を施文する。「X」字状隆線文が橋状突起と複合するもの、2個一對の橋状突起を付加するものがある。施文技法は隆線文によるものがある。
- (L2種) 口縁部に無文帯を設け「X」字状隆線文で区切るか、接点が「X」字状となる幅広の楕円形横帯区画を施文し、水平方向の連続文を伴う。橋状突起を付加するもの、錨状隆帯を伴うものがある。施文技法は連続短沈線・連続指頭押圧・連続刺突・縦位連続押圧縄文を加えた隆線、隆線、沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (L3種) 口縁部に「X」字状隆線文または楕円形横帯区画を施文し、区画内に押圧縄文または沈線による楕円・横位平行文を施文する。区画の接点を楕円形貼付文で強調するもの、橋状突起を付加するものがある。施文技法は隆線、沈線、平行沈線、押圧縄文を用いるものがある。
- (L4種) 口縁部に「X」字状隆線文または楕円形横帯区画を描き、区画内に押圧縄文または沈線による楕円・横位平行文を施文し、水平方向の連続文を伴う。口縁部に橋状突起を付加し錨状隆帯を伴うもの、胴部に「Y」字状垂下降線文を施文するものがある。施文技法は連続短沈線・連続指頭押圧・縦位連続押圧縄文・縄文を加えた隆線、隆線、沈線、押圧縄文を用いるものがある。
- (L5種) 口縁部に「X」字状隆線文または楕円形横帯区画を施文し、区画内に縦位連続押圧縄文を施文する。「X」字状隆線文が橋状突起と複合するものがある。施文技法は隆線、縦位連続押圧縄文、押圧縄文を用いるものがある。
- M種：口縁～胴部に縦位の楕円形・「U」字状文を充填的に施文するもの。器形は突起付平縁の深鉢X類がある。
- (M1種) 口縁～胴部に沈線による縦位の楕円形・「U」字状文を充填的に施文する。
- N種：口縁部または胴部に縦位の指ナデ状条痕文を充填的に施文するもの。地文の縄文と重複して施文し、口縁部に水平方向の連続文や横位平行文を伴うものがある。器形は深鉢E・H・I類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。2種類に細別した。
- (N1種) 口縁部または口縁部～胴部に縦位の指ナデ状条痕文を充填的に施文する。口縁上部に水平方向の連続文や横位平行文を伴うものがある。施文技法は隆線、押圧縄文、指ナデ状条痕文を用いるものがある。
- (N2種) 胴部に指ナデ状条痕文を充填的に施文する。口縁部に水平方向の連続文や横位平行文を伴うものがある。施文技法は連続刺突を加えた隆線、縦位連続短沈線、押圧縄文、縦位連続押圧縄文、指ナデ状条痕文を用いるものがある。
- O種：低い波状縁で地文のみを施文するもの。器形は突起付平縁の深鉢G類、波状縁の小型深鉢D類がある。
- (O1種) 低い波状縁で口縁～胴部に地文のみを施文する。
- P種：無文で単独の突起を付加するもの。縦位・横位の橋状突起が複合したものがある。器形は深鉢F・G類、浅鉢A1類、小型浅鉢B1類があり、口縁形態は突起付平縁がある。2種類に細別した。
- (P1種) 円形突起などを付加する。
- (P2種) 縦位・横位の橋状突起が複合した複合橋状突起を付加する。

Ⅲ群1類



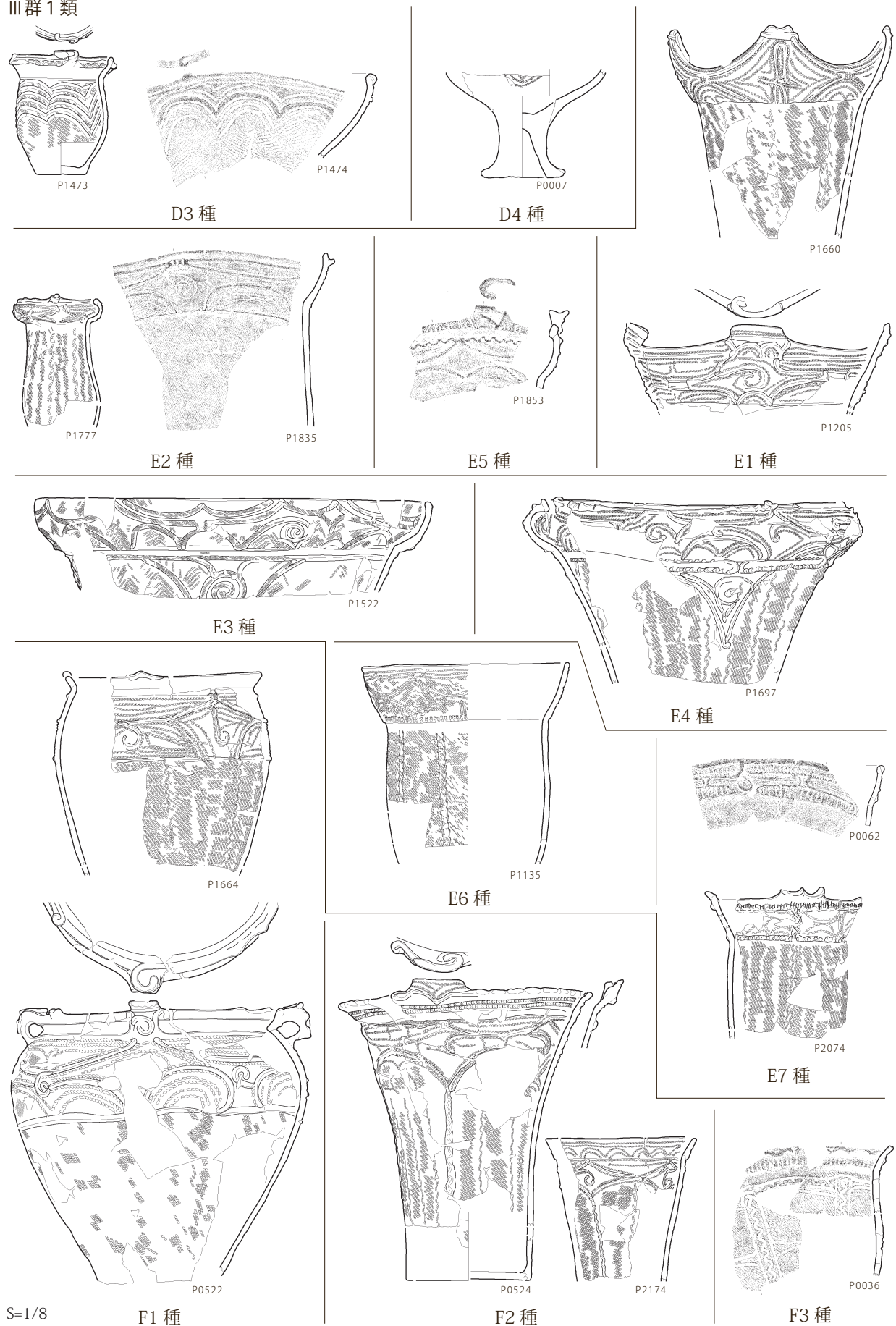
第36図 縄文土器の分類 (9) Ⅲ群土器 (1)

Ⅲ群1類



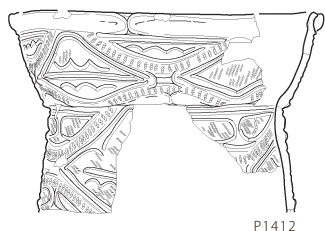
第37図 縄文土器の分類 (10) Ⅲ群土器 (2)

Ⅲ群1類



第38図 縄文土器の分類 (11) Ⅲ群土器 (3)

Ⅲ群1類



P1412

G1 種

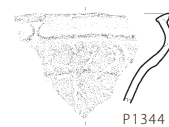


P1845



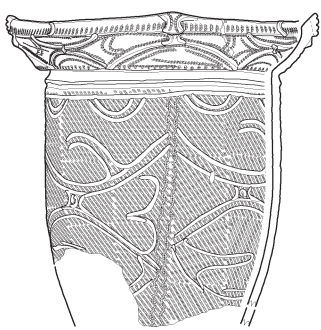
P1470

G2 種



P1344

H2 種



P0003

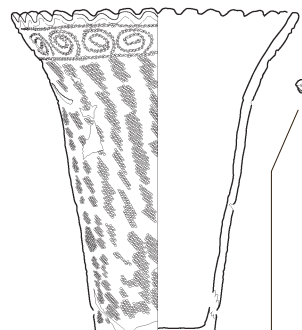
G3 種



P1221-a

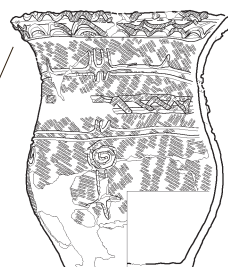
P1221-b

G4 種



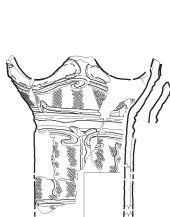
P1828

H1 種



P1318

H4 種

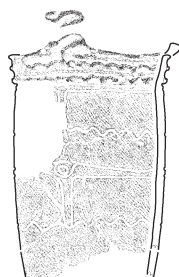


P0356



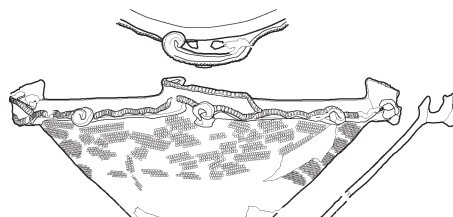
P2045

I1 種



P2121

I3 種



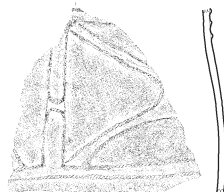
P0021

H3 種



P0012

I2 種



P0909



P0954



P0143

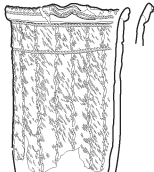


P1099

I4 種



P0408

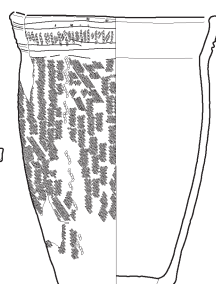


P0828

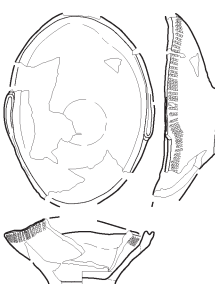
J1 種



P0004

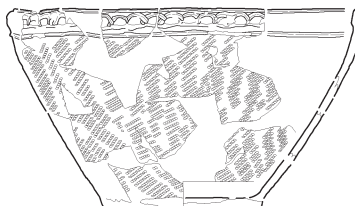


P1311



P0801

J2 種

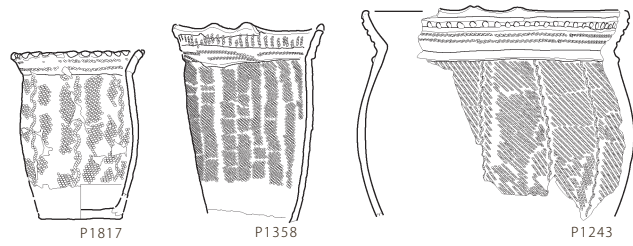
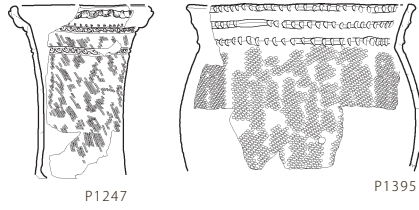


P1710

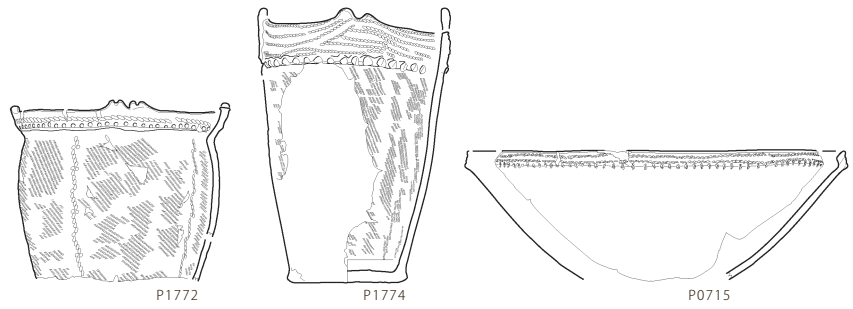
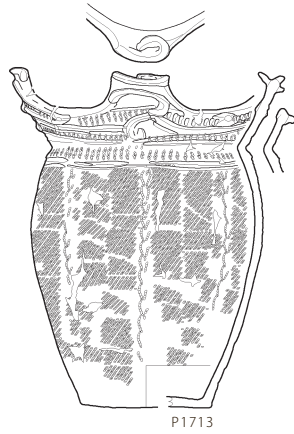
S=1/8

第39図 縄文土器の分類 (12) Ⅲ群土器 (4)

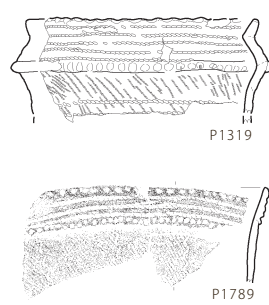
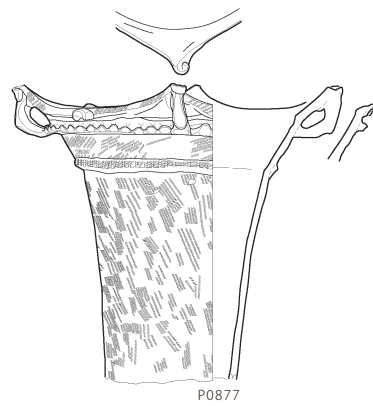
Ⅲ群1類



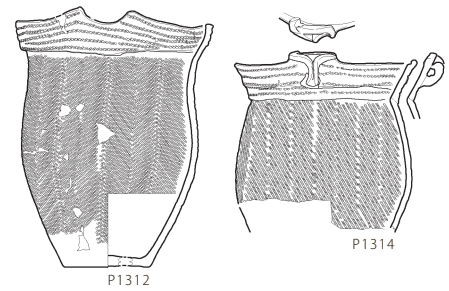
K1 種



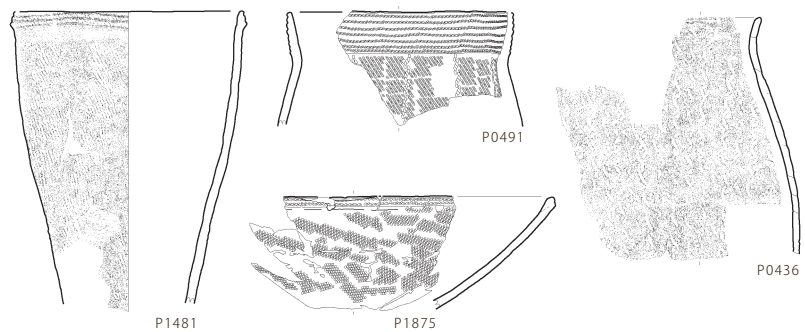
K2 種



K3 種

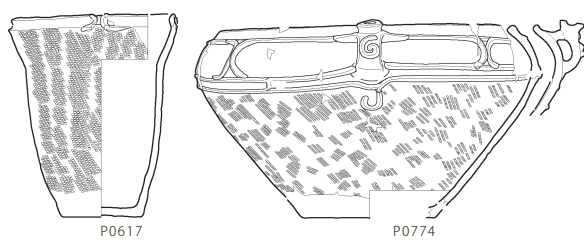


K4 種

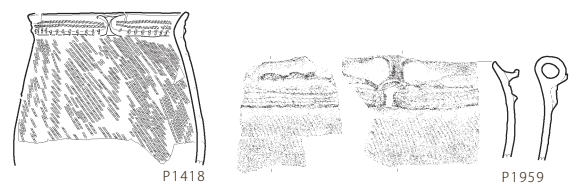


K5 種

J3 種



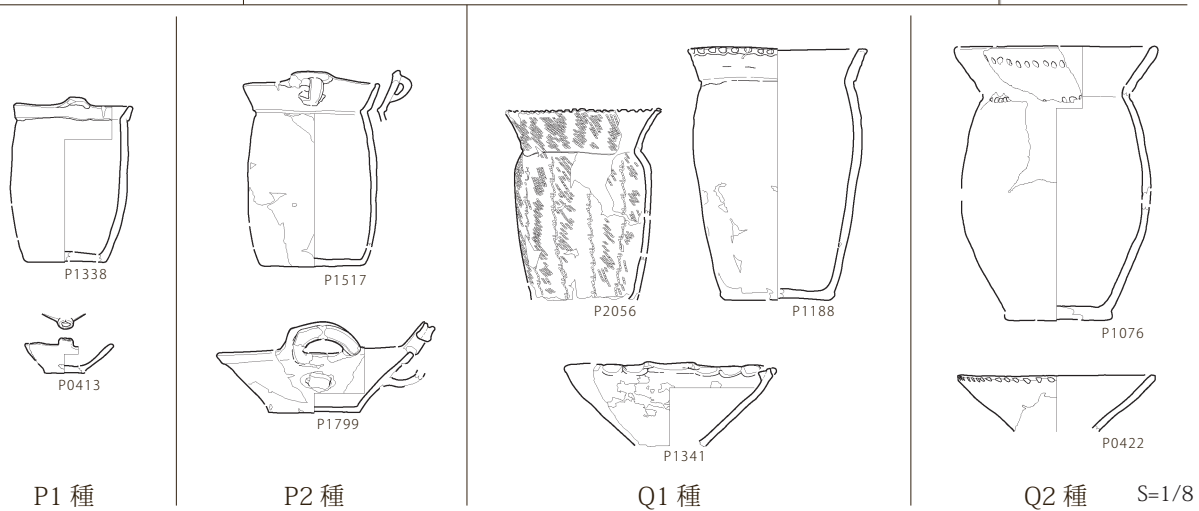
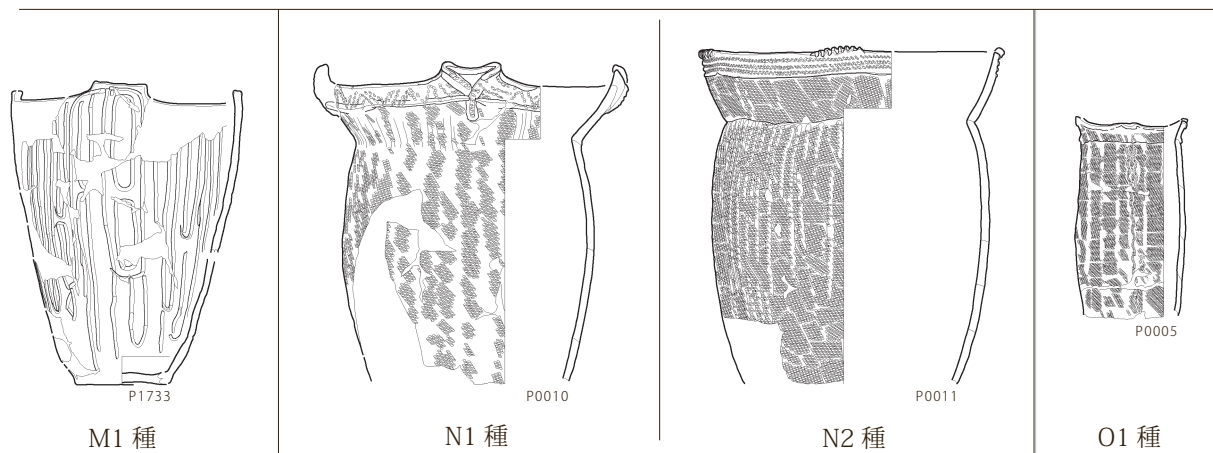
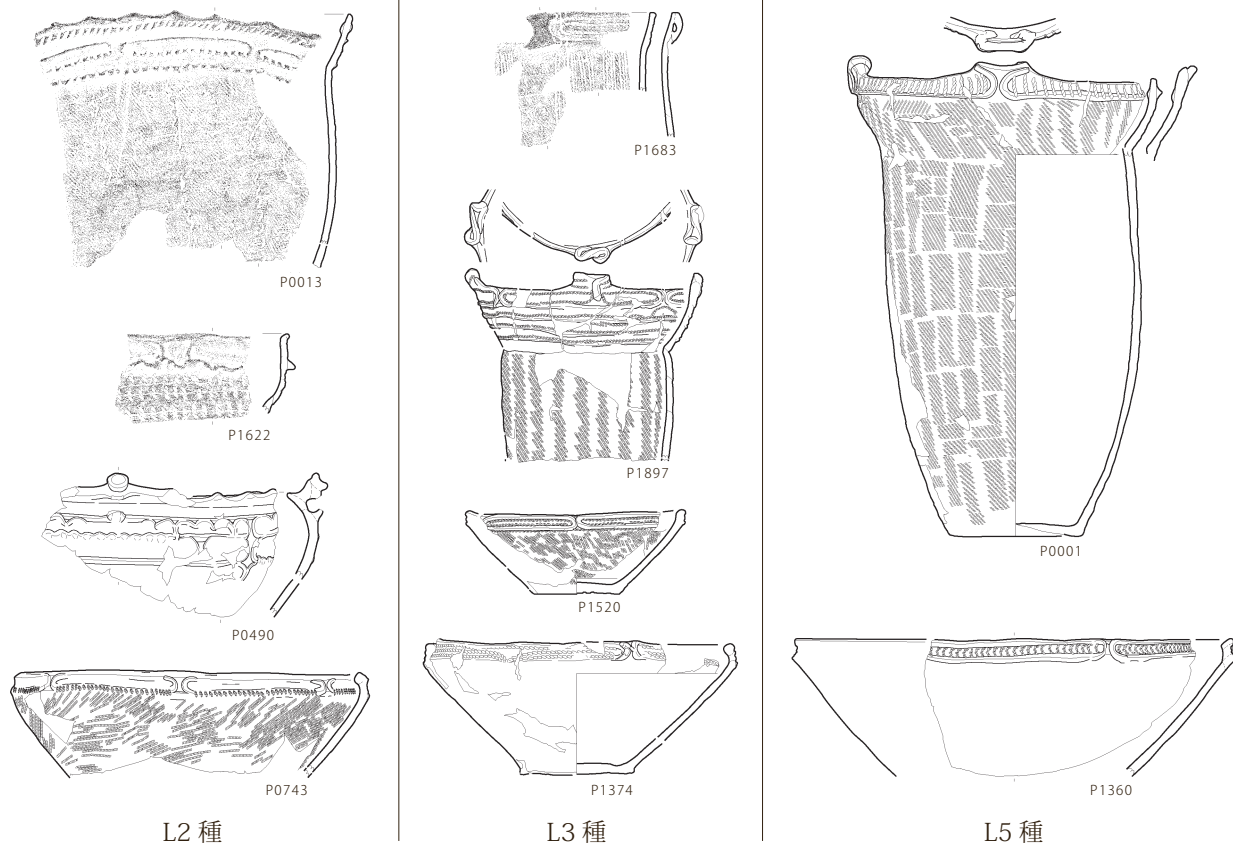
L1 種



L4 種

第40図 縄文土器の分類 (13) Ⅲ群土器 (5)

Ⅲ群1類



第41図 縄文土器の分類 (14) Ⅲ群土器 (6)

Q種：口縁または頸部に水平方向の連続指頭圧痕を加えるもの。器形は平縁の深鉢D・E・N類、浅鉢A1類などがある。2種類に細別した。

（Q1種）口縁上端に水平方向の連続指頭圧痕を加え、微小な波状縁を呈する。口縁～胴部が無文のもの、地文のみを施文するものがある。

（Q2種）口縁または頸部に水平方向の連続指頭圧痕を加える。口縁～胴部が無文のものがある。

2類 関東地方の阿玉台式系統と考えられるものである。1類の大木7b式に見られる特徴と複合的なものを含む。大波状口縁の深鉢、頸部が括れる深鉢、円筒形の深鉢、上部が「く」字状に屈曲して口縁部

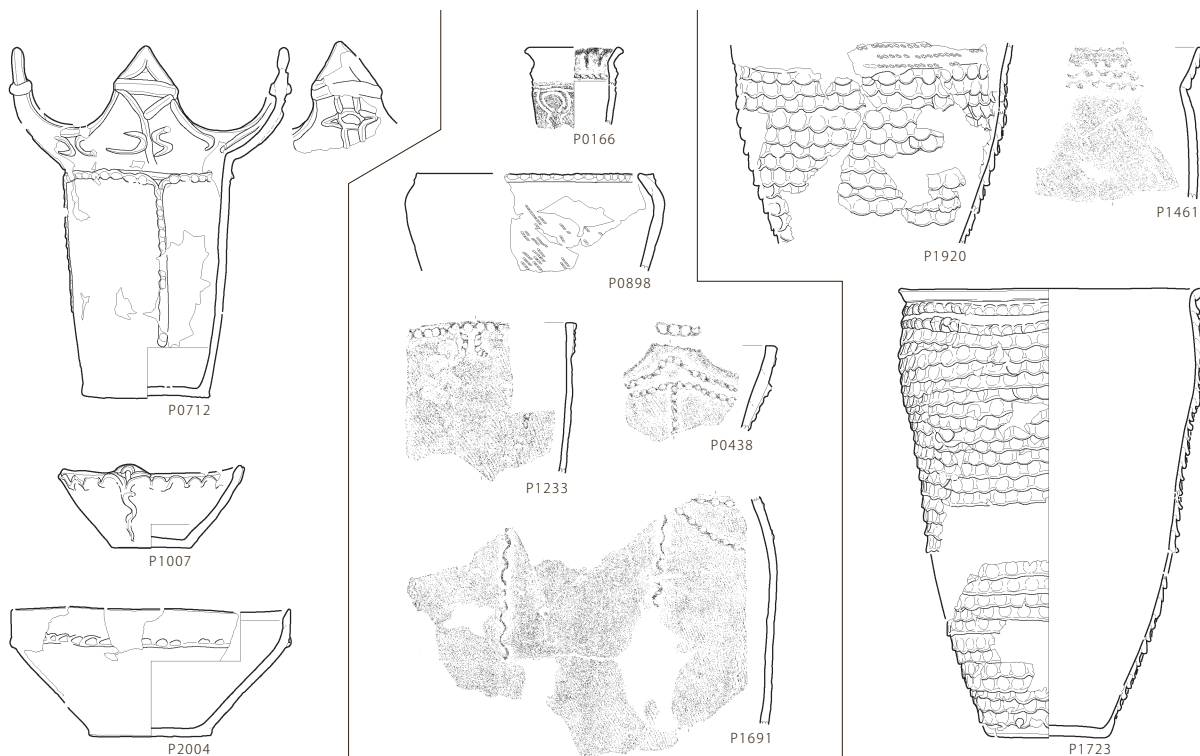
Ⅲ群2類



A1 種



A2 種



B1 種

B2 種

C1 種

S=1/8

第42図 縄文土器の分類 (15) Ⅲ群土器 (7)

が直立または内傾する浅鉢がある。文様は押引文・沈線を添わせた隆線や連続指頭押圧・連続短沈線を加えた隆線により施文するものがある。大別3種類、細別5種類に分類した(第42図)。概ね前半期(阿玉台Ia～Ib式期)に相当し、大木7b式古段階に並行するものと考えられる。

A種：隆線文と押引文または沈線文により施文するもの。接点がX字状となる楕円形横帯区画、「Y」字状垂下隆線文、渦巻状文などを施文し、地文に縄文を施文しないものが多い。器形は深鉢I類、浅鉢E類、小型浅鉢G類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。2種類に細別した。

(A1種) 押引文を添わせた隆線または押引文により施文する。口縁上端部に押引文を添わせるものもある。描かれる文様は接点が「X」字状となる楕円形横帯区画、三角形区画、渦巻状・弧状・連結「Y」字状文などがあり、口縁部または胴部を「Y」字状隆線文で区画するものがある。また、波状口縁の波頂部を斜位に区画するもの、三角形・弧状・「W」字状隆線文を施文するものがある。施文技法は押引文を添わせた隆線、連続短沈線を加えた隆線、隆線、押引を用いるものがある。胎土に雲母片を含むものを散見する。

(A2種) 隆線・沈線により接点が「X」字状となる楕円形横帯区画を施文する。描かれる文様は楕円形横帯区画、三角形区画、渦巻状・弧状・連結「Y」字状文などがあり、「Y」字状・連結「Y」字状隆線文を垂下させるものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、連続短沈線を加えた隆線、隆線、沈線を用いるものがある。胎土に雲母片を含むものを散見する。

B種：連続指頭押圧を加えた中太の隆線により施文するもの。口縁部または頸部に横位に施文するもののほか、胴部に弧状・「Y」字状垂下隆線文として施文するものがある。地文に縄文を施文するものとしなないものがある。器形は深鉢J類、浅鉢B1・F1・G1類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁・大波状縁がある。2種類に細別した。

(B1種) 連続指頭押圧を加えた中太の隆線により施文し、地文に縄文を施文しない。深鉢の頸部または浅鉢の口縁部に横位に施文し、胴部に「Y」字状垂下隆線文や小波状隆線文を垂下させるものがある。胎土に雲母片を含むものを散見する。

(B2種) 連続指頭押圧を加えた中太の隆線により施文し、地文に縄文を施文する。深鉢の頸部または口縁部に横位に施文するほか、口縁上端部や波状縁の波頂部上端、胴部に縦位・横位・弧状に施文するものがある。また、口縁部に平行押圧縄文による方形区画を施文するもの、胴部に波状隆線文を垂下させるものがある。胎土に雲母片を含むものを散見する。

C種：外面に粘土紐の積み上げ痕跡を残し、粘土紐の接合部に沿って水平方向の連続指頭押圧を加えるもの。器形は平縁の深鉢F類などがある。

(C1種) 口縁部または胴部、あるいは器面全体に粘土紐の積み上げ痕跡を残し、連続指頭押圧を加える。口縁部に横位平行押圧縄文を施文するもの、胴部に地文のみを施文するものがある。また、連続指頭押圧を加えた後に縄文を施文するものがある。胎土に雲母片を含むものを散見する。

3類 北陸地方の新保式系統の可能性が考えられるものである。1類の大木7b式に見られる特徴と複合的なものを多く含む。胴部から口縁部にかけて外反する深鉢、口縁部が直立する深鉢、頸部が括れる深鉢、口縁部が短く直立する浅鉢がある。文様は半截竹管状工具の内側を用いた半隆起線文や爪形の連続刺突文を多用して施文する。また、大木7b式に見られる押圧縄文、連続指頭押圧、小波状隆線を用いるものも多い。なお、器形と文様構成の面では前段階の新保式に類例を求められるものが多く、新保式の影響を受けて在地で成立した土器とも考えられる。大別1種類、細別2種類に分類した(第43図)。概ね大木7b式古段階に並行するものと考えられる。

A種：半隆起線文と爪形の連続刺突文、地文に縄文を施文するもの。胴部を縦位・横位に区画して

弧状・「U」字状文を施文するものと、口縁部に横位平行文を施文するものがある。地文に縄文を施文するものが多い。器形は深鉢D・G・H・J・L・N・U類、浅鉢A2・G1類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。2種類に細別した。

(A1種) 半隆起線文により胴部を縦位・横位に区画し、「U」字・逆「U」字・弧状・連弧状・波状文を施文する。半隆起線上に爪形の連続刺突を加えるものが多い。また、口縁部に水平方向の連続文や横位平行文を施文するもの、隆線上に縦位連続押圧縄文を加えるものがある。施文技法は半隆起線、連続刺突、小波状隆線、縦位連続押圧縄文、押圧縄文を添わせた隆線を用いるものがある。

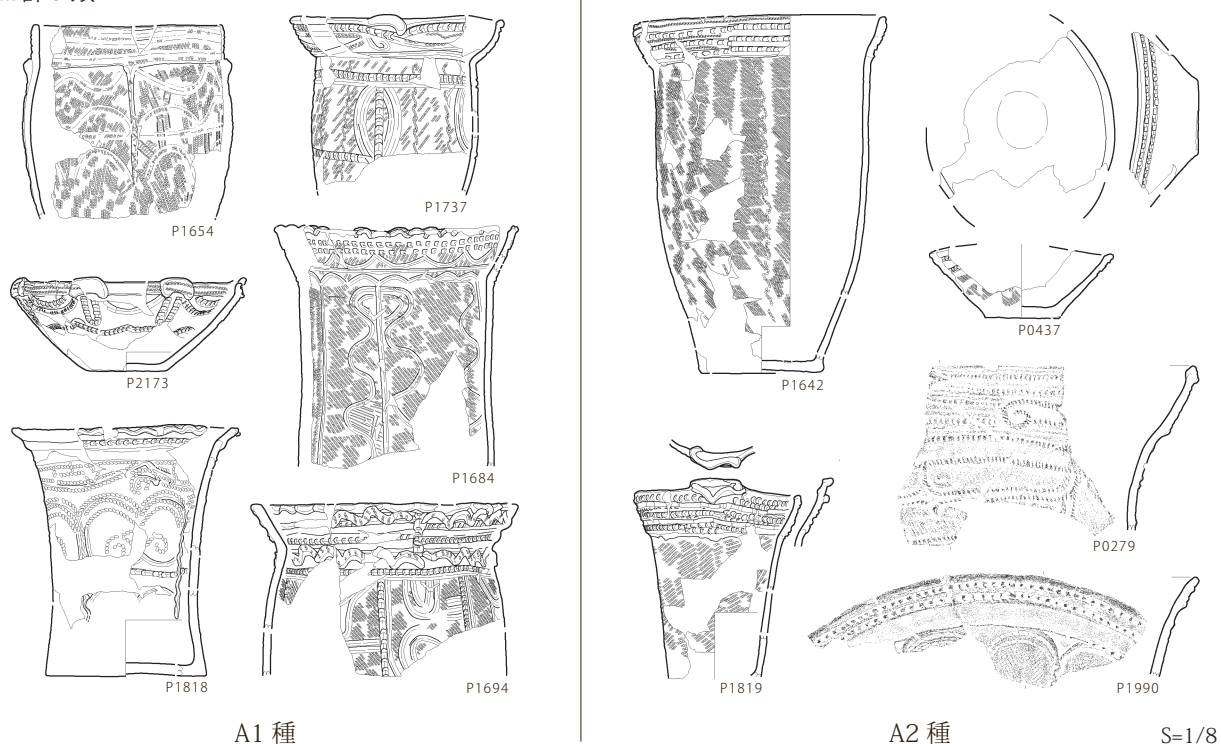
(A2種) 口縁部に横位平行半隆起線文を施文し、半隆起線上に爪形の連続刺突を加える。横位平行押圧縄文と交互に施文するものがある。胴部に縦位連続押圧縄文を加えた隆線で渦巻状・菱形文を施文するもの、弧状押圧縄文と「Y」字状垂下降線文を施文するものがある。施文技法は半隆起線、連続刺突、連続指頭押圧、縦位連続押圧縄文を加えた隆線、隆線、沈線を用いるものがある。

Ⅳ群土器 縄文時代中期中葉の土器群である。文様の特徴から1種類に集約した(第44～50図)。

1類 大木8a式と考えられるものである。深鉢を中心に浅鉢も比較的多く見られる。円筒形の胴部で口縁部に突起を付加する深鉢、丸みのある胴部で頸部が括れる深鉢や平縁の浅鉢がある。文様は平行沈線あるいは沈線を添わせた隆線、平行隆線により口縁部と胴部に充填的に施文するものが主体である。また、角押状の連続刺突や縦位連続押圧縄文、小波状隆線を用いるものがある。大別10種類、細別47種類に分類した(第44～50図)。A～C、D(1)、E・F種を主体とする古段階、D(2・3)、G(1)、H、I(1～5)種を主体とする中段階(古相)、D(4)、G(2・3)、I(6・7)、J種を主体とする中段階(新相)に区分できると考えられる。

A種：文様が口縁上部に集約され、口縁下部～胴部が地文のみまたは無文のもの。地文の縄文に重複して

Ⅲ群3類



第43図 縄文土器の分類(16)Ⅲ群土器(8)

縦位の指ナデ状条痕文を施文するものも含めた。口縁上部を横位の隆線で区画して幅狭の文様帯を設け、水平方向の連続文を施文するものがある。器形は深鉢 D～I・N・P・Y 類、浅鉢 A1・B1・B2・D・F1・G1 類、小型浅鉢 B2 類、台付浅鉢 A 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。5 種類に細別した。

- (A 1 種) 口縁上部を横位隆線文で区画し、隆線上に連続指頭押圧を加える。「S」字状・渦巻状突起を付加するものがある。また、口縁～胴部に縦位・斜位の指ナデ状条痕文を施文するものがある。
 - (A 2 種) 口縁上部を横位隆線文で区画して幅狭の文様帯を設け、縦位連続押圧縄文を施文する。隆線上に横位押圧縄文、連続指頭押圧、交互刺突文を加えるもの、橋状・渦巻状突起を付加するものがある。また、口縁～胴部に縦位の指ナデ状条痕文を施文するものがある。
 - (A 3 種) 口縁上部を横位隆線文で区画して幅狭の文様帯を設け、連続刺突文または押引文を施文する。連続刺突は半截竹管状工具による爪形状のものと角押状のものが見られる。隆線上に縦位連続短沈線、縄文を加えるもの、「S」字状・「C」字状・渦巻状・複合橋状突起を付加するものがある。また、口縁～胴部に縦位の指ナデ状条痕文を施文するものがある。
 - (A 4 種) 口縁上部を横位隆線文で区画して幅狭の文様帯を設け、縦位連続短沈線文を施文する。
 - (A 5 種) 口縁上部を横位隆線文で区画して幅狭の文様帯を設け、小波状・連弧状隆線文を施文する。小波状・連弧状隆線上に縦位連続短沈線を加えるもの、「S」字状・渦巻状・円形・弧状・橋状突起を付加するものがある。また、胴部に指ナデ状条痕文を施文するものがある。
- B 種：文様が口縁部に集約され、胴部が地文のみまたは無文のもの。地文の縄文に重複して縦位の指ナデ状条痕文を施文するものも含めた。水平方向の連続文を重層的に施文するもの、上下で対向する弧状文、連弧状・鋸歯状・「X」字状・楕円形横帯区画文を施文するものなどがある。器形は深鉢 D・G・H・J・M・P 類、小型深鉢 U 類、浅鉢 B1・C・F1・G1 類、小型浅鉢 A1 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。8 種類に細別した。
- (B 1 種) 口縁部に水平方向の連続文を施文し、口縁部と胴部の境を横位に区画する。「S」字状・「C」字状・「V」字状・渦巻状突起を付加するものがある。施文技法は小波状・連弧状隆線、横位隆線・平行沈線、押圧縄文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
 - (B 2 種) 口縁部に水平方向の連続文を重層的に施文し、口縁部と胴部の境を横位に区画する。「S」字状・「W」字状・渦巻状突起を付加するものがある。施文技法は小波状・連弧状隆線、交互刺突、角押状の連続刺突、縦位連続短沈線、縦位連続押圧縄文、押圧縄文を用いるものがある。
 - (B 3 種) 口縁部に上下で対向する弧状文を施文する。口縁上部に水平方向の連続文を伴い、口縁部と胴部の境を横位に区画する。沈線を添わせた隆線で弧状・菱形区画を描き、区画内に渦巻状・付加「L」字状沈線文を施文するもの、複合橋状突起を付加するものがある。施文技法は小波状・連弧状隆線、沈線を添わせた隆線、沈線、縦位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
 - (B 4 種) 口縁部に連弧状文を施文する。口縁上部に水平方向の連続文を伴い、口縁部と胴部の境を横位に区画する。平行沈線で連弧状文を施文し、弧状・渦巻状突起を付加するものがある。施文技法は小波状隆線、平行沈線、爪形状の連続刺突、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
 - (B 5 種) 口縁部に鋸歯状文を施文する。口縁上部に水平方向の連続文を伴い、口縁部と胴部の境を横位に区画する。平行沈線で鋸歯状文を施文し、渦巻状突起を付加するものがある。施文技法は小波状隆線、平行沈線、縦位連続短沈線文、縦位連続押圧縄文、押圧縄文を用いるものがある。
 - (B 6 種) 口縁部に「X」字状隆線文または楕円形横帯区画文を施文する。区画の上下に水平方向の連続文を加えるもの、「S」字状突起を付加するものがある。施文技法は隆線、沈線、交互刺突、縦

位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

- (B 7 種) 口縁部に渦巻状・弧状・クランク状文を施文する。口縁上部に水平方向の連続文を伴い、口縁部と胴部の境を横位に区画する。渦巻状・菱形隆線文を施文する小突起を付加するものがある。施文技法は交互刺突、押引、小波状・連弧状隆線、平行隆線、縦位連続短沈線、平行押圧縄文を用いるものがある。
- (B 8 種) 口縁上端部が交互押圧または交互刺突によって微小波状を呈する。口縁部と胴部の境を横位に区画するもの、複合橋状突起を付加するものがある。施文技法は連弧状隆線、隆線、平行沈線、交互押圧、交互刺突、縦位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- C 種：口縁上部の幅狭の文様帯に付加した「S」字状・菱形・渦巻状・橋状突起の直下に縦位隆線文を垂下させるもの。縦位隆線文は二本一対のものが多く、橋状突起となるものもある。口縁上部には水平方向の連続文を伴い、口縁部と胴部の境を横位に区画する。文様が口縁部に集約されるものも多く、胴部を縦位・横位に区画するものもある。器形は深鉢 H～J・M 類、浅鉢 A2・F2 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁がある。3 種類に細別した。
- (C 1 種) 口縁上部の幅狭の文様帯に付加した突起の直下に縦位隆線文を垂下させる。「S」字状突起の直下に二本一対で施文するものが多い。胴部を縦位・横位に区画して渦巻状文を施文するもの、胴部文様に付加「L」字状・弧状沈線文を加えるもの、口縁～胴部に縦位の指ナデ状条痕文を施文するものがある。施文技法は小波状・連弧状隆線、隆線、平行沈線、付加沈線、交互刺突、爪形状の連続刺突、斜位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (C 2 種) 口縁上部の幅狭の文様帯に付加した突起の直下に短い縦位隆線文を垂下させる。二本一対で施文するものが多い。胴部を縦位に区画するもの、胴部に「十」字状文を施文するもの、胴部文様に付加「L」字状・弧状沈線文を加えるものがある。施文技法は小波状・連弧状隆線、平行沈線、付加沈線、連続指頭押圧、縦位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (C 3 種) 口縁上部の幅狭の文様帯に付加した突起の直下に二本一対の縦位の橋状突起を複合させる。胴部を横位に区画するもの、胴部文様に付加「L」字状・弧状沈線を加えるものがある。施文技法は小波状・連弧状隆線、平行沈線、付加沈線、円形・爪形状の連続刺突、縦位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- D 種：連続刺突文・押引文を多用して施文するもの。角押状の連続刺突と隆線・沈線により楕円形・方形区画を描くもの、円形・爪形状の連続刺突を加えた平行隆線または押引を添わせた隆線により渦巻状・クランク状文などを充填的に施文し、「S」字状・渦巻状突起を付加するものなどがある。器形は深鉢 H・K・N 類、小型深鉢 M 類、浅鉢 D・G1 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁がある。4 種類に細別した。
- (D 1 種) 角押状の連続刺突と隆線・沈線により口縁～頸部に楕円形横帯区画、胴部に方形・逆「U」字形区画と渦巻状文などを施文する。口縁上部には水平方向の連続文を伴い、「S」字状・渦巻状突起を付加するもの、胴部文様に付加「L」字状・弧状・渦巻状沈線文を加えるものがある。施文技法は小波状隆線、隆線、沈線、付加沈線、角押状の連続刺突、交互刺突、押圧縄文を用いるものがある。
- (D 2 種) 円形または半截竹管状工具による爪形状の連続刺突を加えた平行隆線による口縁・胴部に渦巻状・クランク状・弧状・菱形文、沈線による付加渦巻状・「L」字状・弧状文を組み合わせる充填的に施文する。胴部ではこれに並行隆線を添わせる。頸部に無文帯を設け、口縁上部と下部、胴部上端と中位を横位に区画するもの、渦巻状・剣先状の複合橋状突起を付加するものがある。

- (D 3 種) 連続刺突、押引により口縁部に突起や充填的な隆線文を施文し、胴部に沈線を添わせた隆線による渦巻状・菱形・クランク状文、沈線による付加渦巻状・菱形・剣先状・「L」字状・弧状文を組み合わせ、充填的に施文する。口縁上部の幅狭の文様帯と「S」字状・円形突起に円形・角押状の連続刺突を加え、口縁下部に弧状・鋸歯状文を施文、胴部を方形に区画するもの、口縁部に押引を添わせた隆線で「S」字状・菱形・弧状文を充填的に施文するものがある。口縁上部と下部、胴部上端を横位に区画するもの、頸部に無文帯を設けるもの、複合橋状突起を付加するものがある。施文技法は円形・角押状の連続刺突を加えた平行隆線、押引・沈線を添わせた隆線、連弧状隆線、平行沈線、付加沈線、交互刺突、連続指頭押圧、縦位連続短沈線、縦位・端部連続押圧縄文を用いるものがある。
- (D 4 種) 連続刺突により口縁部に突起や隆線文を施文し、口縁部と胴部の境を小波状隆線で区画する。口縁上部の幅狭の文様帯と円形・渦巻状突起、口縁部の方形区画・渦巻状文に連続刺突を加えるもの、頸部に無文帯を設けるもの、複合橋状突起を付加するものがある。施文技法は爪形状の連続刺突を加えた平行隆線、連弧状・小波状隆線、隆線、沈線、交互刺突を用いるものがある。
- E 種：胴部に平行沈線による区画や単一のモチーフを繰り返し施文するもの。胴部を方形あるいは縦位・横位に区画して渦巻状文や上下で対向する弧状文を施文するもの、クランク状・渦巻状・弧状文を繰り返し施文するものがある。また、口縁上部に幅狭の文様帯を持ち、渦巻状・「S」字状突起を付加するもの、口縁部から胴部上端に水平方向の連続文を重層的に施文するものがある。器形は深鉢 D・H・L・N・P 類、小型深鉢 D・G～J・O 類、小型浅鉢 G1 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁がある。4 種類に細別した。
- (E 1 種) 胴部を方形に区画する。区画内には上下で対向する弧状文、「十」字状文、付加渦巻状・「L」字状・弧状沈線文を施文するものがある。施文技法は小波状隆線、平行沈線、縦位連続短沈線、付加沈線、交互刺突、連続指頭押圧、縦位連続押圧縄文、横位押圧縄文を用いるものがある。
- (E 2 種) 胴部を縦位に区画する。区画内には左右対称の渦巻状文、付加渦巻状・「L」字状・弧状沈線文を施文するものがある。施文技法は小波状隆線、平行沈線、付加沈線、交互刺突、連続刺突、縦位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (E 3 種) 胴部を横位に区画する。区画内には小波状・渦巻状沈線を施文するものがある。施文技法は小波状・渦巻状沈線、平行沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (E 4 種) 胴部にクランク状・渦巻状・弧状文を繰り返し施文する。胴部文様に付加「L」字状・弧状沈線文を加えるものがある。施文技法は連弧状隆線、平行沈線、付加沈線、連続指頭押圧、交互刺突、連続刺突、縦位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- F 種：胴部に沈線を添わせた隆線による区画や単一のモチーフを繰り返し施文するもの。胴部を方形・楕円形あるいは縦位・横位に区画するもの、渦巻状文を繰り返し施文するものがある。また、口縁上部に幅狭の文様帯を持ち、「S」字状・渦巻状・橋状・複合橋状突起を付加するものがある。器形は深鉢 K・H 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁・波状縁がある。4 種類に細別した。
- (F 1 種) 胴部を方形に区画する。区画内には付加「L」字状・弧状・剣先状沈線を施文するものがある。口縁部から胴部上端に水平方向の連続文を重層的に施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、小波状隆線、付加沈線、縦位・斜位連続短沈線を用いるものがある。
- (F 2 種) 胴部を縦位に区画する。区画内には付加「L」字状・弧状沈線文、小波状隆線文を施文するものがある。口縁部から胴部上端に水平方向の連続文を重層的に施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、連弧状隆線、「X」字状区画隆線、楕円形沈線、付加沈線、押圧縄文を

用いるものがある。

(F 3種) 胴部を楕円形に区画する。口縁部から胴部上端に水平方向の連続文を重層的に施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、小波状隆線、連続指頭押圧、連続刺突を用いるものがある。

(F 4種) 胴部に渦巻状文を繰り返し施文する。口縁上部と頸部に無文帯を設け、口縁部に鋸歯状沈線文を施文するものがある。

G種：胴部に平行隆線による区画や単一のモチーフを繰り返し施文するもの。胴部を方形・あるいは縦位に区画するもの、渦巻状文を繰り返し施文するものがある。また、口縁上部の幅狭の文様帯に水平方向の連続文を施文し、「S」字状・渦巻状・菱形・複合橋状突起を付加するものがある。器形は突起付平縁の深鉢H・L・M類、小型深鉢H類がある。3種類に細別した。

(G 1種) 胴部を方形に区画する。区画内には渦巻状・菱形文を施文するものがある。口縁部から胴部上端に楕円形横帯区画や「X」字状隆線文、水平方向の連続文を重層的に施文するものがある。施文技法は平行隆線、「X」字状・小波状・連弧状隆線文、連弧状沈線文、連続刺突文、縦位連続短沈線文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(G 2種) 胴部を縦位に区画する。区画内には渦巻状文を施文するものがある。口縁部から胴部上端に横位平行隆線文を重層的に施文するものがある。

(G 3種) 胴部に渦巻状文を繰り返し施文する。口縁から胴部上端に横位平行隆線文を施文するものがある。

H種：胴部に平行沈線による渦巻状・クランク状・弧状・菱形文と付加渦巻状・菱形・剣先状・「L」字状・弧状沈線文を組み合わせるもの。口縁部と胴部の境を平行沈線・隆線文、連続刺突文、交互刺突を加えた平行沈線文で横位に区画するものが多い。また、口縁上部の狭い文様帯に水平方向の連続文を施文し、「S」字状・渦巻状・複合橋状突起を付加するものがある。器形は深鉢A・D・H・L・M・P・Y類、小型深鉢G・M類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁がある。4種類に細別した。

(H 1種) 口縁部と胴部の境を平行沈線・隆線文で横位に区画する。口縁部に楕円形区画、連弧状文、平行沈線文を施文するものがある。施文技法は小波状隆線、平行沈線、付加沈線、半截竹管状工具による爪形状の連続刺突、横位平行押圧縄文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(H 2種) 口縁部と胴部の境を連続刺突文で横位に区画する。口縁部に渦巻状・弧状文を施文するものがある。施文技法は小波状隆線、平行沈線、付加沈線、角押状・半截竹管状工具による爪形状・竹管による円形連続刺突文、縦位連続短沈線文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(H 3種) 口縁部と胴部の境を交互刺突を加えた平行沈線文で横位に区画する。口縁部に弧状・鋸歯状文、縦位連続押圧縄文を施文するものがある。施文技法は小波状・連弧状隆線文、平行沈線、交互刺突を加えた平行沈線、角押状の連続刺突、連続指頭押圧、縦位連続短沈線文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

(H 4種) 口縁部と胴部の境を区画しない。口縁上端部に平行沈線文を施文し、突起の直下に沈線を添わせた隆線による左右対称の渦巻文を施文するものがある。

I種：胴部に沈線を添わせた隆線による渦巻状・クランク状・弧状・菱形文と付加渦巻状・菱形・剣先状・「L」字状・弧状沈線文を組み合わせるもの。口縁部と胴部の境を無文帯、沈線を添わせた隆線、平行沈線・隆線文、交互刺突を加えた平行沈線、小波状隆線などを単独または重層的に用いて横位に区画するものが多い。また、口縁上部の狭い文様帯に水平方向の連続文を施文し、「S」字状・渦巻状・菱形・複合橋状突起を付加するものがある。器形は深鉢H・K・L・M・P類、小型深鉢G類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁がある。7種類に細別した。

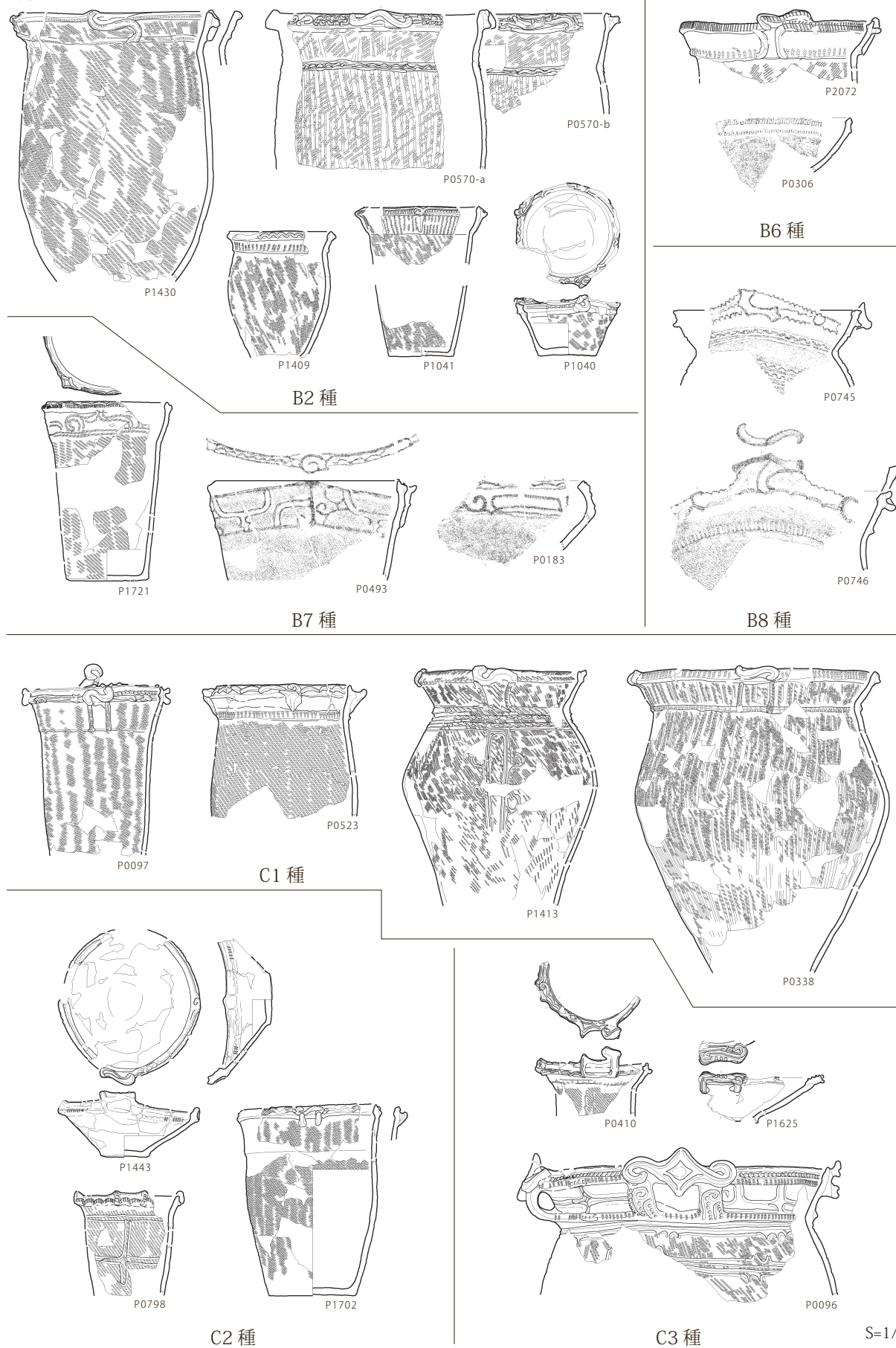
- (I 1 種) 口縁部と胴部の境を無文帯で横位に区画する。口縁部に方形・楕円形区画を描くものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、角押状の連続刺突、縦位連続押圧用文を用いるものがある。
- (I 2 種) 口縁部と胴部の境を無文帯と沈線を添わせた隆線、平行隆線・沈線で横位に区画する。口縁部に無文帯と水平方向の連続文を重層的に施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、付加沈線、角押状の連続刺突、縦位・斜位連続短沈線文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (I 3 種) 口縁部と胴部の境を沈線を添わせた隆線、平行隆線・沈線で横位に区画する。口縁部に方形区画、連弧状文を施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行隆線、付加沈線、角押状・半截竹管状工具による爪形状の連続刺突を用いるものがある。
- (I 4 種) 口縁部と胴部の境を無文帯と交互刺突を加えた平行沈線で横位に区画する。口縁部に鋸歯状文、波状文、無文帯と水平方向の連続文を重層的に施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、小波状・連弧状隆線、交互刺突を加えた平行沈線、付加沈線、半截竹管状工具による爪形状の連続刺突、縦位連続短沈線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (I 5 種) 口縁部と胴部の境を交互刺突を加えた平行沈線で横位に区画する。口縁部に鋸歯状文、クランク状・渦巻状文、水平方向の連続文を重層的に施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、交互刺突を加えた平行沈線、付加沈線、角押状・円形の連続刺突、縦位連続短沈線文、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (I 6 種) 口縁部と胴部の境を無文帯と小波状隆線を加えた平行隆線で横位に区画する。口縁部に横方向に肥大化した複合橋状突起を付加し、平行隆線と連続短沈線によるクランク状・菱形状文などを充填的に施文するものがある。施文技法は沈線を添わせた隆線、平行隆線・沈線、連続短沈線を用いるものがある。
- (I 7 種) 上部が不明で胴部中位を小波状隆線を加えた平行隆線で横位に区画する。施文技法は沈線を添わせた平行隆線を用いるものがある。
- J 種: 胴部に平行隆線による渦巻状・クランク状・弧状・菱形文と付加剣先状・菱形状・渦巻状・「L」字状・弧状隆線文を組み合わせる充填的に施文するもの。口縁部と胴部の境を無文帯、小波状隆線を加えた平行隆線文、平行隆線文などを単独または重層的に用いて横位に区画するものが多い。また、口縁上部の狭い文様帯に水平方向の連続文を施文し、「S」字状・渦巻状複合橋状突起を付加するものがある。器形は深鉢 H・K・M・W 類などがあり、口縁形態は平縁・突起付平縁がある。5 種類に細別した。
- (J 1 種) 口縁部と胴部の境を平行隆線文で横位に区画するもの。口縁部に平行隆線を重層させるもの、無文帯を設け橋状突起を付加する、胴部と同様の文様を充填的に施文するものがある。施文技法は平行隆線、小波状隆線、付加隆線を用いるものがある。
- (J 2 種) 口縁部と胴部の境を無文帯と小波状隆線を加えた平行隆線文で横位に区画する。口縁部に方形区画文を描き斜位短沈線文を充填するもの、無文帯と斜位短沈線文を施文し橋状突起を付加するもの、胴部と同様の文様を充填的に施文するものがある。施文技法は平行隆線、小波状隆線、付加隆線、沈線、縦位・斜位連続短沈線、爪形状の連続刺突、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。
- (J 3 種) 口縁部と胴部の境を無文帯と小波状隆線を加えた平行隆線文で横位に区画し、さらに胴部中位を小波状隆線を加えた平行隆線文で横位に区画する。口縁部に胴部と同様の文様を充填的に施文し、斜位短沈線文を充填するものがある。施文技法は平行隆線、小波状隆線、付加隆線を用いるものがある。
- (J 4 種) 口縁部と胴部の境を小波状隆線を加えた平行隆線で横位に区画する。口縁部に連続指頭圧痕文

IV群1類



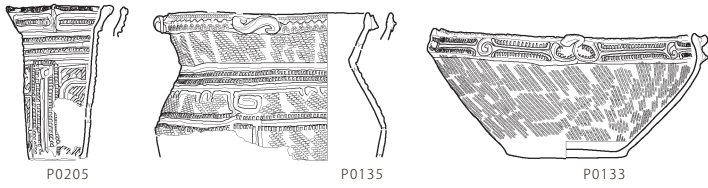
第44図 縄文土器の分類 (17) IV群土器 (1)

IV群1類

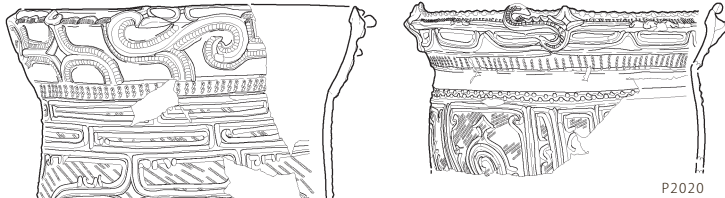


第45図 縄文土器の分類 (18) IV群土器 (2)

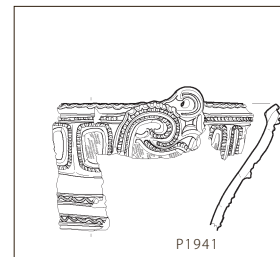
IV群1類



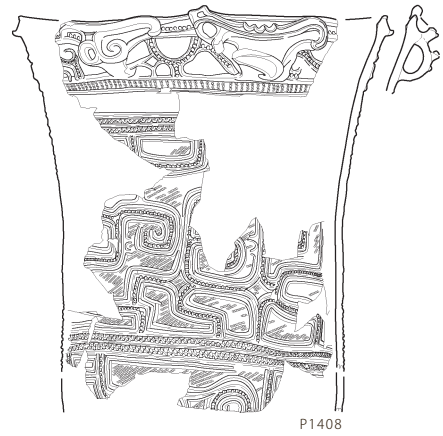
D1 種



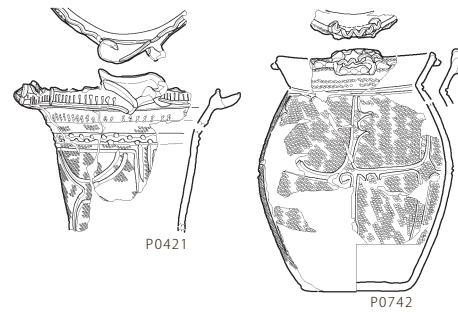
D3 種



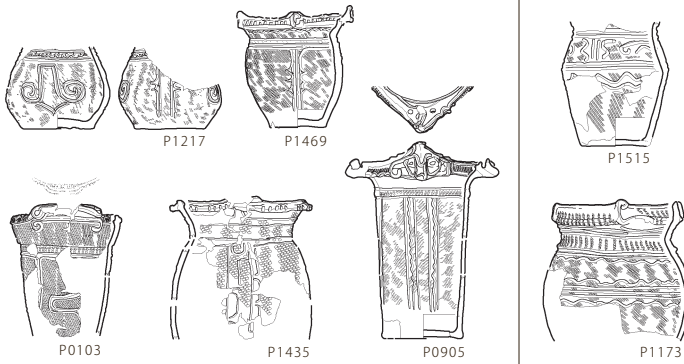
D4 種



D2 種



E1 種

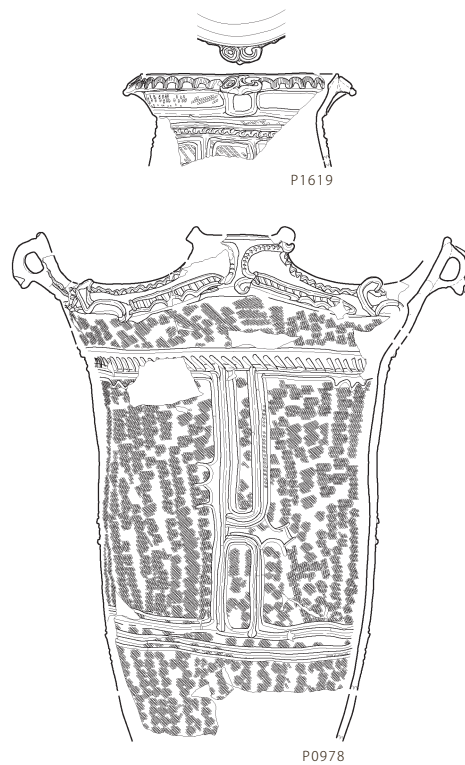


E2 種

E3 種



E4 種



F1 種

S=1/8

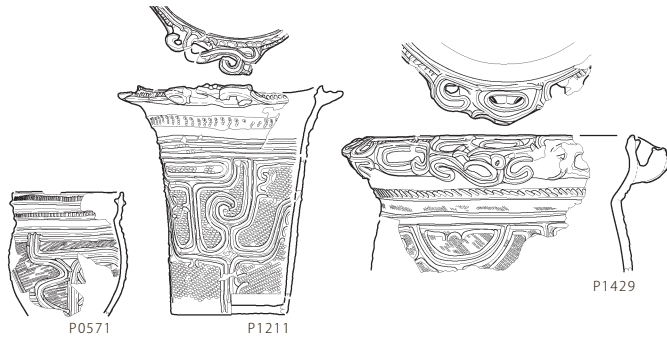
第46図 縄文土器の分類 (19) IV群土器 (3)

IV群1類

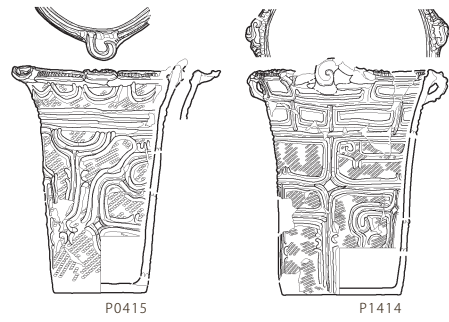


第47図 縄文土器の分類 (20) IV群土器 (4)

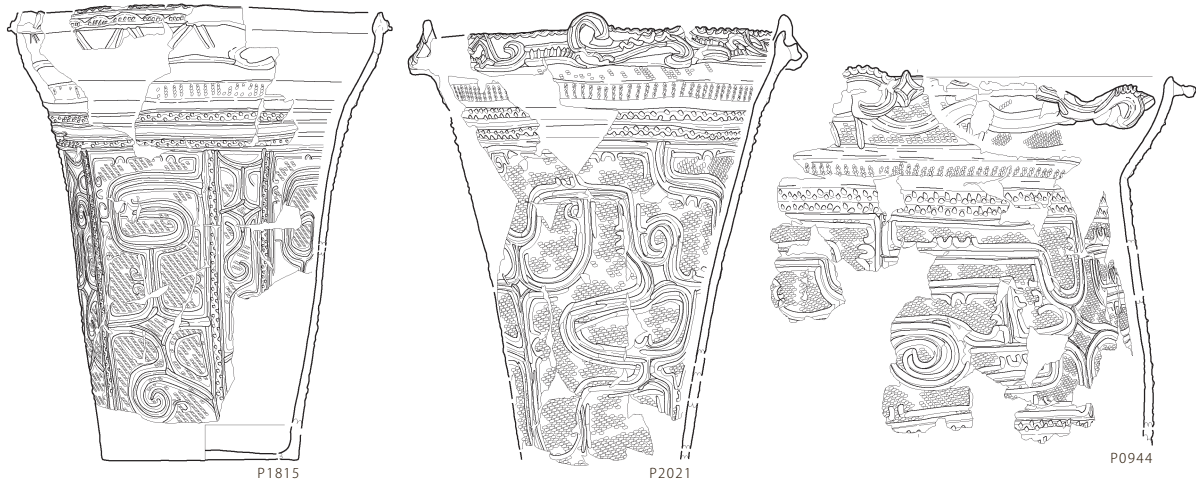
IV群1類



I2 種



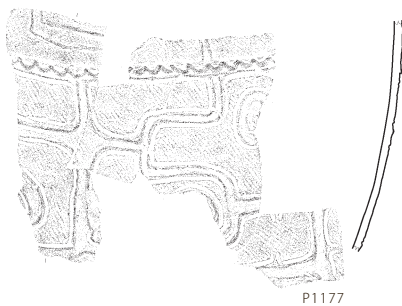
I3 種



I4 種



I5 種



I7 種



I6 種

S=1/8

第48図 縄文土器の分類 (21) IV群土器 (5)

と連弧状沈線文を施文するものがある。施文技法は平行隆線、小波状隆線、連続指頭押圧を用いるものがある。

(J 5種) 上部が不明で胴部中位を小波状隆線を加えた平行隆線文で区画する。施文技法は平行隆線、小波状隆線、付加隆線、縦位連続押圧縄文を用いるものがある。

部分資料：A～J種のいずれかに含まれると考えられるものである。口縁部の施文により10種類に細別した。

(1) 鋸歯状文を施文する。

(2) 連弧状文を施文する。

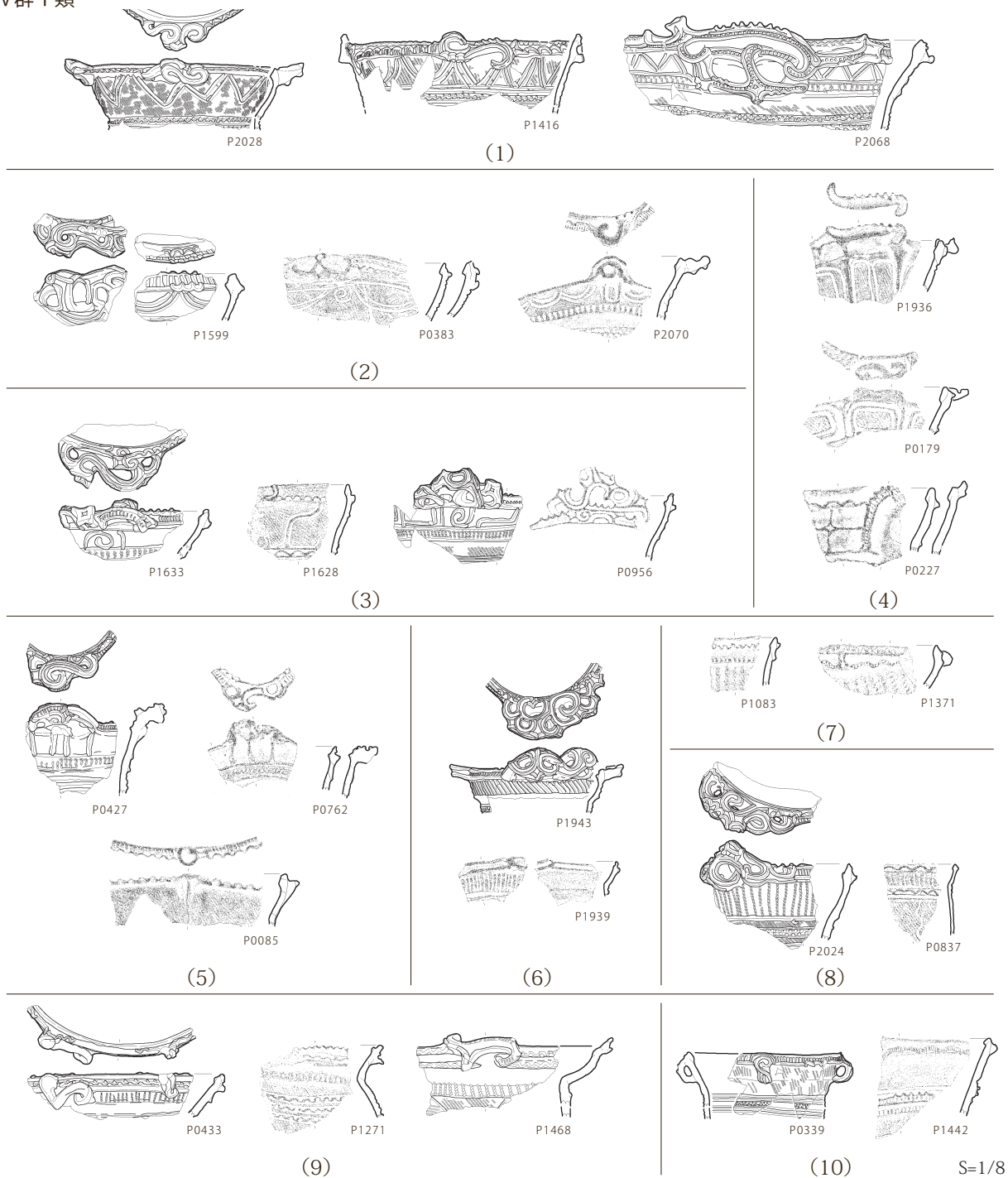
IV群1類



第49図 縄文土器の分類 (22) IV群土器 (6)

- (3) 渦巻状・クランク状・弧状文を施文する。
- (4) 方形・楕円形区画文を施文する。
- (5) 縦位隆線文を施文する。
- (6) 縦位・斜位連続短沈線文を施文する。
- (7) 指ナデ状条痕文を施文する。
- (8) 縦位連続押圧状文を施文する。
- (9) 無文帯と縦位連続押圧状文を施文する。
- (10) 口縁上部に水平方向の連続文、下部を無文または地文のみを施文する。

IV群1類



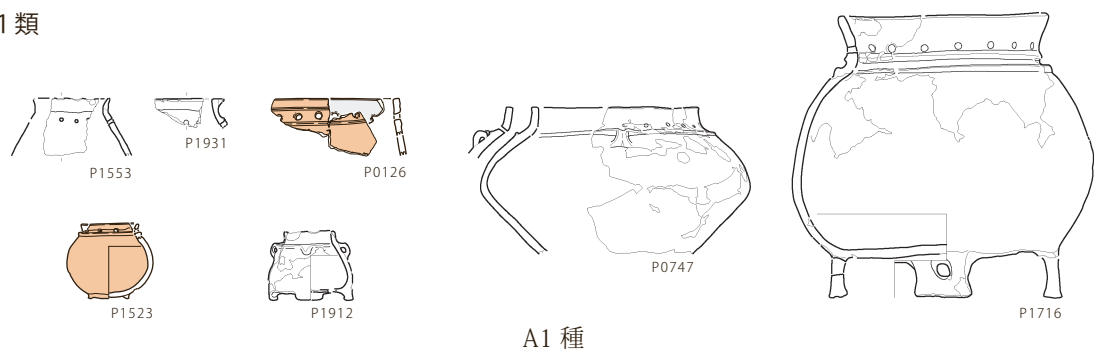
第50図 縄文土器の分類 (23) IV群土器 (7)

V群土器 縄文時代前期末葉から中期中葉の土器で、I～IV群のいずれかに伴うと考えられるが判別できないものをまとめた(第51図)。

1類 いわゆる有孔罌付土器とこれに関連すると考えられるものと、台付浅鉢などの台部、注口土器の注口部と考えられるものなどがある(第51図)。

A種：いわゆる有孔罌付土器とこれに関連すると考えられるものである。器形は平縁の壺A類、脚付壺A類、

V群1類

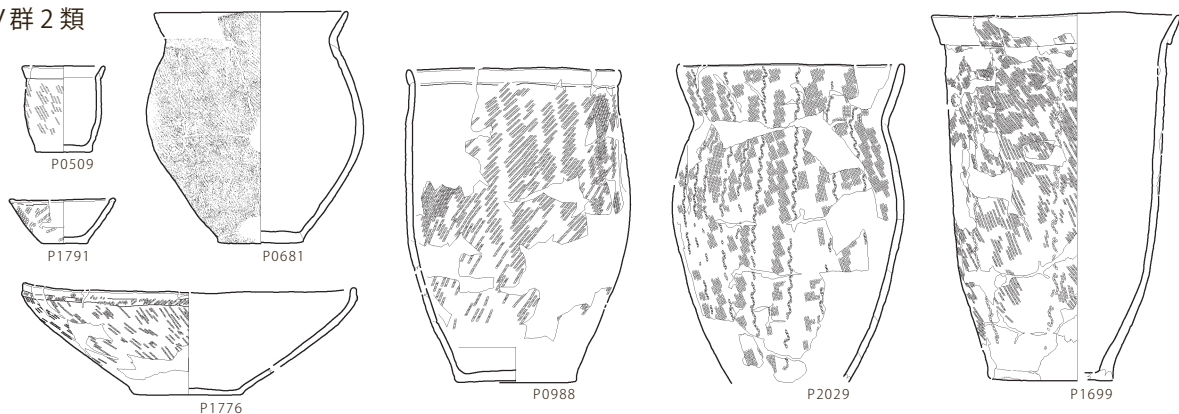


A1 種



B1 種

V群2類



A1 種



B1 種

S=1/8

第51図 縄文土器の分類(24) V群土器

小型脚付壺 B 類、小型台付壺 A 類がある。

(A 1 種) 壺形で四足の脚部に透かし孔を持つもの、短く直立する高台状の台部を持つものがある。頸部に 1 条または 2 条の鐐状隆帯または隆線を横位に巡らせ、これに沿って水平方向に連続する小貫通孔を穿孔する。小型品では器面全体に赤彩を施すもの、隆帯または小貫通孔を省略するものがある。また、隆帯の下に縦位の橋状突起を付加するものがある。

B 種：浅鉢および台付浅鉢、台付土器の台部、注口土器の注口部と考えられるものである。器形は平縁の浅鉢 E 類、台付浅鉢、台付土器、注口土器がある。

(B 1 種) 浅鉢は胎土が精製された薄手の胴部破片で赤彩を施す。台付浅鉢は高台状の台部を持ち、内面に赤彩を施すものがある。台付土器の台部は円形または方形の透かし孔を持つものがある。注口土器の注口部と考えられるものは、先端が窄まる形状である。

2 類 無文または地文のみを施文するものである (第 51 図)。

A 種：口縁～胴部に地文のみを施文するものである。器形は平縁の深鉢 D・E・F・I 類、小型深鉢 D 類、小型浅鉢 B1 類がある。

(A 1 種) 口縁～胴部に地文を施文するもの、口縁部を無文とし胴部に地文を施文するもの、口縁～胴上部に地文を施文するものがあり、頸部が「く」字状に屈曲するもの、複合口縁のものがある。口縁上部に横位隆線文を施文する浅鉢も含めた。

B 種：口縁～胴部が無文のものである。器形は平縁の深鉢 D・N・X 類、小型深鉢 D 類、平縁・波状縁の浅鉢 A1・A2・B2 類、小型浅鉢 B1 類がある。

(B 1 種) 口縁～胴部が無文のもので、頸部が「く」字状に屈曲するもの、複合口縁のものがある。

(2) 土製品

形態的特徴と製作技法によって下記の通り器種分類した。

①器種と細分

器種は土偶・ミニチュア土器・栓状耳飾・三脚形土製品・円盤状土製品・円環形土製品・管状土製品・土器片加工品に分類し、各器種の細部の形態的特徴により下記の通り細別した (第 52～55 図)。

土偶 人形の土製品で、有脚立像土偶を主体に有脚板状土偶が少数ある。部分資料が主体で全体の形態が把握できるものがないため、主に頭部・胸部・脚部の形態により分類した (第 52～54 図)。大まかに推定高さ 15cm 未満の小型品、15cm 以上 25cm 未満の中型品、25cm 以上の大型品がある。

部分資料

- (1) 瓶栓状の頭部を持ち、扁平部の正面側に切り欠きのあるもの。扁平部の後頭部および側頭部に穿孔のあるもの、外周に沈線を巡らせるものがある。中型品主体である。
- (2) 瓶栓状の頭部を持つもの。扁平部の後頭部および側頭部に穿孔のあるものがある。中～大型品がある。胴部が残存するものは肩部がいかり肩で胴上部が逆三角形を呈するものがある。
- (3) 円盤状の頭部で顔面表現のあるもの。中型品とみられるが残存部が少なく詳細不明である。
- (4) 貼瘤状の膨らみによって乳房を表現するもの。小～大型品がある。肩部はなで肩で胴上部が菱形状を呈するものを主体に、いかり肩で胴上部が逆三角形を呈するもの、中型品に左右に張り出す短い腕部を表現するものもある。頭部が残存するものは部分資料 (2) と同様に瓶栓状の頭部を持ち、扁平部の後頭部および側頭部に穿孔のあるものがある。
- (5) 逆「ハ」字状の隆線によって乳房を表現するもの。正中線を表現する腹部の隆線と接続して「Y」字状となるものもある。小～大型品がある。肩部はなで肩で胴上部が菱形状を呈するもの、いかり肩で

胴上部が逆三角形を呈するもの、中・小型品に左右に張り出す短い腕部を表現するものがある。脚部が残存する小～中型品は部分資料（11）と同様に単脚立像型のものがある。

- (6) 「W」字状の突起または隆線によって乳房を表現するもの。中～大型品がある。肩部はなで肩で胴上部が菱形を呈するもの、いかり肩で胴上部が逆三角形を呈するもの、中型品に左右に張り出す短い腕部を表現するものがある。脚部が残存する中型品は部分資料（11）と同様に単脚立像型である。
- (7) 乳房の表現が不明瞭で、腹部に貼瘤状の膨らみを持つもの。小型品である。
- (8) 独立した二本脚を持つ立像型のもの。小～大型品がある。
- (9) 基底部で連結した二本脚を持つ立像型のもの。小～大型品がある。
- (10) 二本脚を持つ立像型で、基底部の連結の有無が不明なもの。中～大型品がある。
- (11) 単脚で立像型のもの。小～中型品がある。同様の脚部は部分資料（5）・（6）の小～中型品に見られる。
- (12) 基底部で連結した二本脚を持つ板状型のもので、中型品である。基底部は丸みを持った板状を呈し、腹部・臀部には膨らみの表現が見られる。
- (13) 単脚で板状型のもので、小型品である。基底部は丸みを持った板状を呈し、胴下部が残存するものは腹部に貼瘤状の膨らみを持ち、臀部にも膨らみの表現が見られる。胴上部が残存するものは貼瘤状の膨らみによる乳房と、ごく短く左右に張り出す腕部の表現が見られる。

ミニチュア土器 土器の形態を模した土製品で、器形や文様などの細部を省略しているものが多い（第55図）。

- I類（深鉢）：平縁・波状縁の深鉢形で、底部は平底である。無文のもの、地文に縄文を施文するもの、沈線・隆線により施文するものがある。
- II類（浅鉢）：平縁・突起付平縁・波状縁の浅鉢形で、底部は平底・丸底がある。無文のもの、地文に縄文を施文するもの、「S」字状・渦巻状突起を持つもの、口縁上端部に連続短沈線文または連続刺突文を施文するものがある。
- III類（鉢）：平縁の鉢形で、底部は平底・丸底がある。無文で、口縁部に貫通孔を持つものがある。
- IV類（台付浅鉢）：上面観が楕円形を呈する波状縁の浅鉢形で、小さく「ハ」字状に開く台部を持つ。無文で、口縁部に貫通孔を持つ。
- V類（注口土器）：平縁の鉢形で、斜め上方に短く突き出す注口部を持つ。無文である。

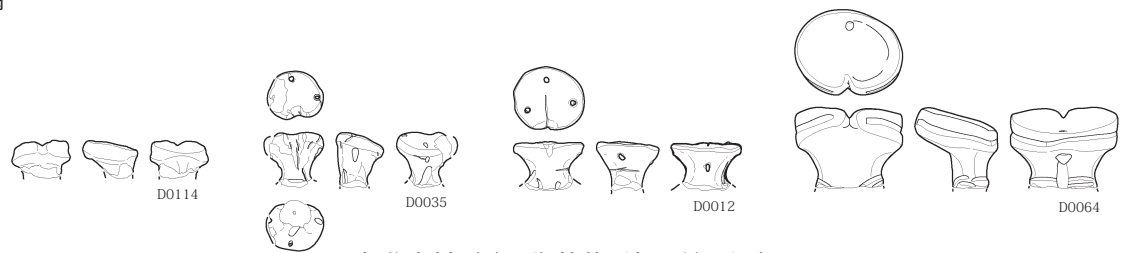
耳飾 正面形が円形または環状を呈し、側面が括れるか正面より径の小さい柱状ないしは円筒状を呈する土製品である。赤彩を施すものが見られる（第55図）。

- I類：全体形は瓶栓状を呈する。正面は凸レンズ状に外弯する円盤状で、裏面は正面より径が小さい円筒状を呈する。正面中央から裏面に抜ける貫通孔を持つ。
- II類：全体形は瓶栓状を呈する。正面は平坦な円盤状で、裏面は正面より径が小さい柱状となるもの。正面中央から裏面付近まで深く穿孔された盲孔を持つ。
- III類：全体形は臼状を呈する。正面は皿状に内弯し、裏面は正面より径がやや小さく皿状に内弯するかU字状に深く挟れるもの。
- IV類：全体形は滑車状を呈する。正面・裏面とも皿状に内弯し、径がほぼ等しい。中央に貫通孔を持つ。
- V類：全体形は鼓状を呈する。正面・裏面ともほぼ平坦で、径がほぼ等しい。

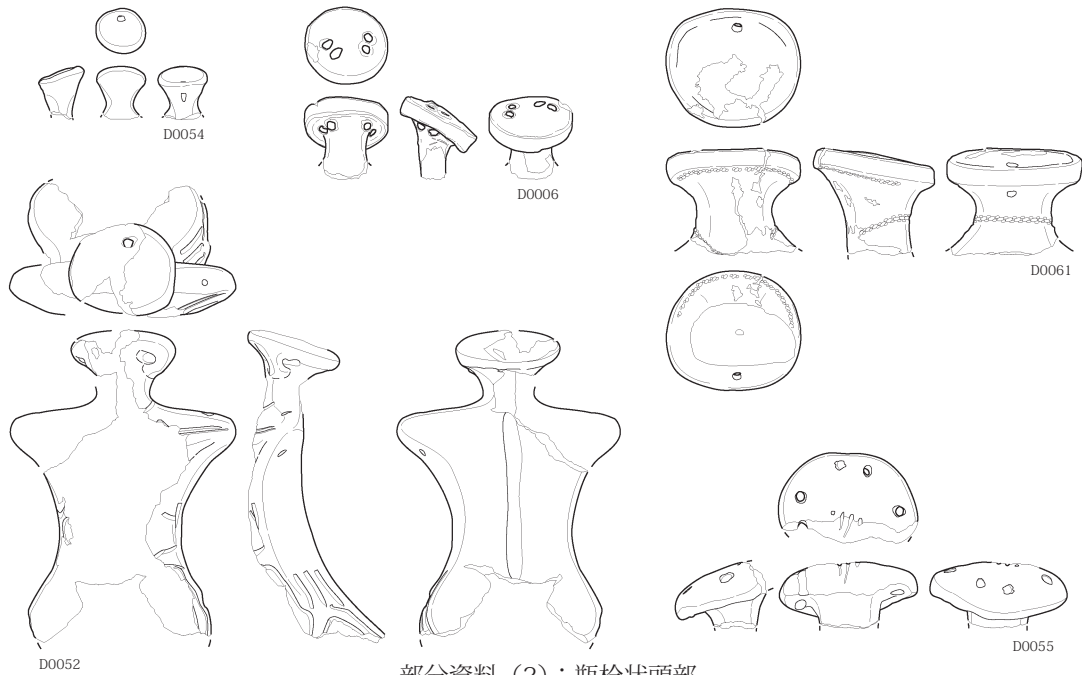
三脚形土製品 正面形が「Y」字形あるいは逆三角形を呈し、側面形は裏面が内弯する弓形を呈する土製品である。正面および側面に連続刺突文、沈線文、押引文により渦巻文などを施文するものがある（第55図）。

- I類：正面形が「Y」字形の三叉状を呈するもの。各端部が母指状に太く丸みを帯びるもの、隅丸長方形を呈するものがある。正面から側面に沈線・押引文により渦巻文を施文するものがあり、上部中央に縦位沈線文を施文するもの、上部の両端に左右対称の渦巻文を施文するもの、三叉状の交点に施文した

土偶



部分資料 (1)：瓶栓状頭部・前面切欠



部分資料 (2)：瓶栓状頭部



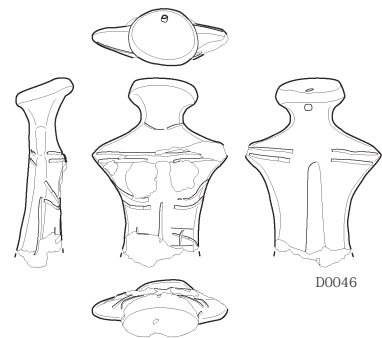
部分資料 (3)：顔面表現



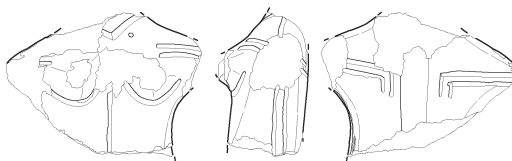
D0031



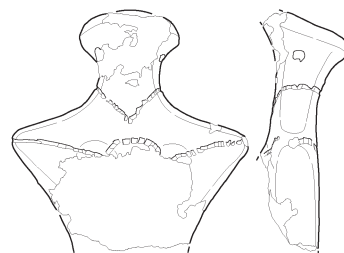
D0048



D0046



D0112

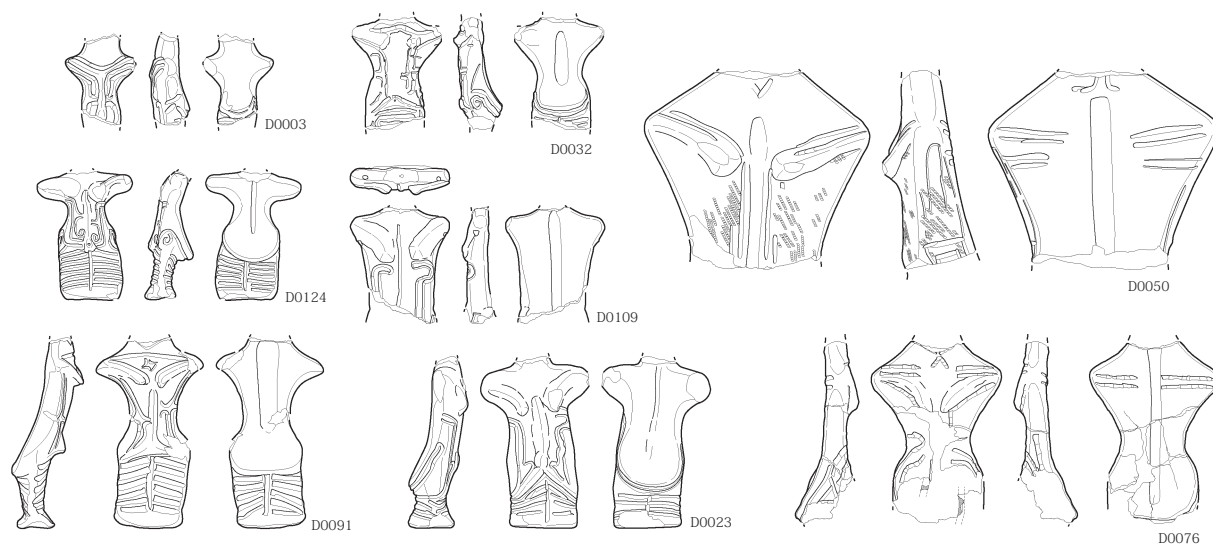


D0116

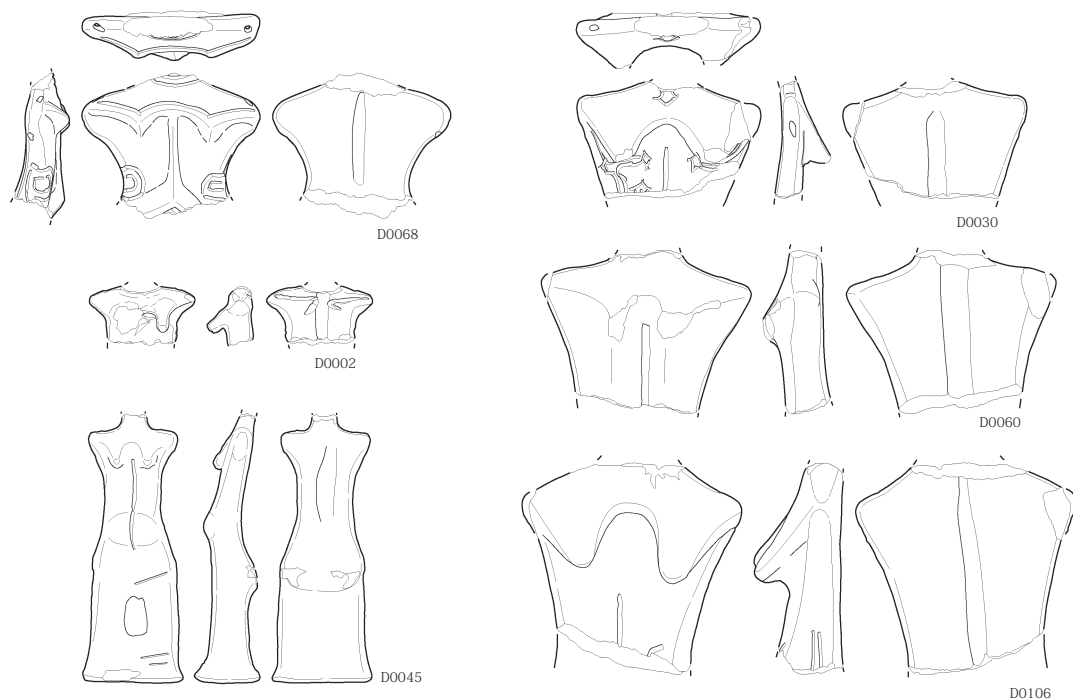
部分資料 (4)：貼瘤状乳房（瓶栓状頭部）

S=1/4

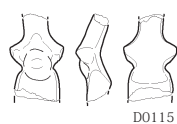
第52図 土製品の器種と類型 (1) 土偶 (1)



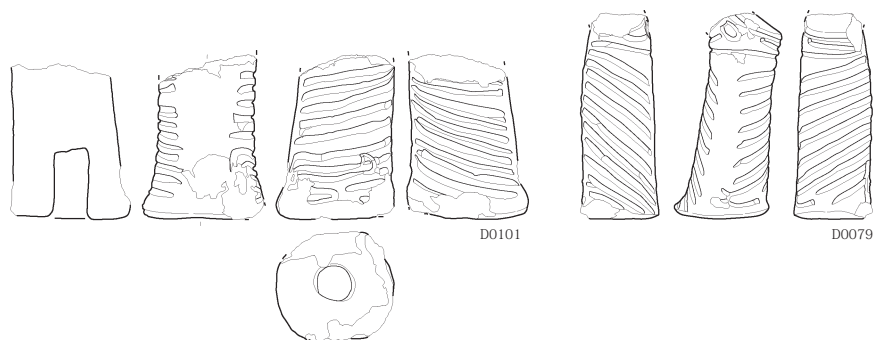
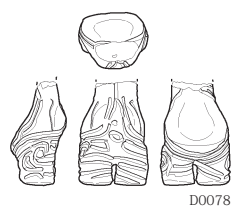
部分資料 (5)：逆「ハ」字状乳房（単脚立像型）



部分資料 (6)：「W」字状乳房（単脚立像型）



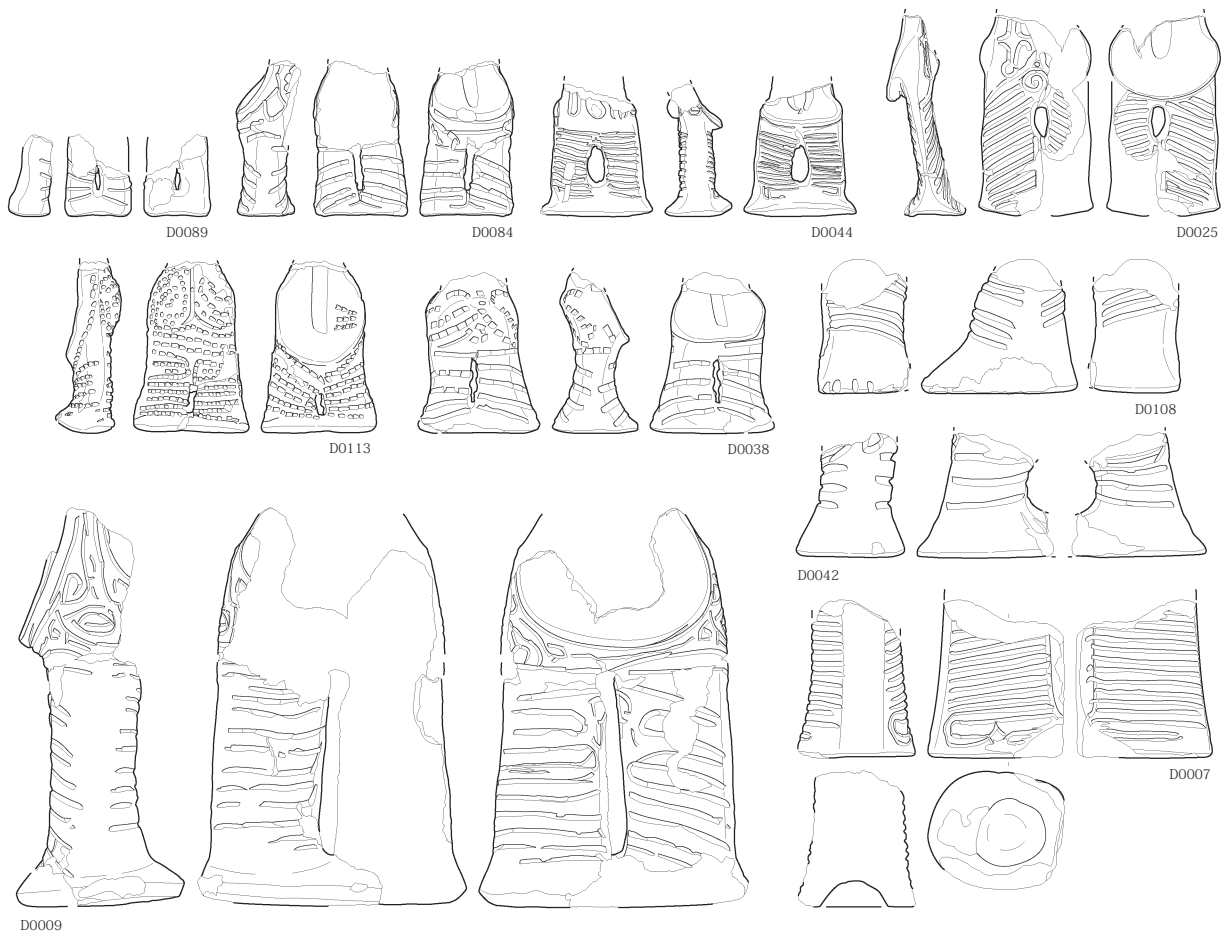
部分資料 (7)
貼瘤状腹部



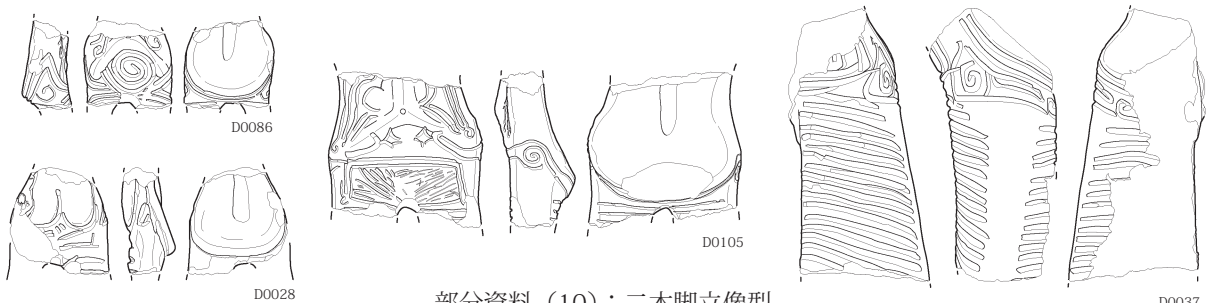
部分資料 (8)：独立二本脚立像型

S=1/4

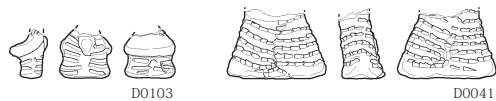
第53図 土製品の器種と類型 (2) 土偶 (2)



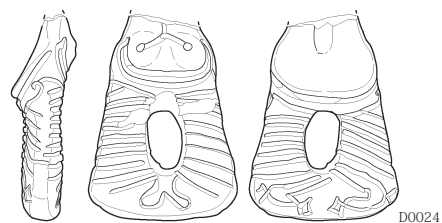
部分資料 (9)：連結二本脚立像型



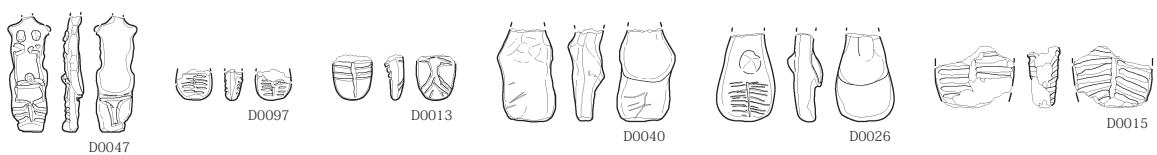
部分資料 (10)：二本脚立像型



部分資料 (11)：単脚立像型



部分資料 (12)：連結二本脚板状型



部分資料 (13)：単脚板状型（貼瘤状乳房・貼瘤状腹部）

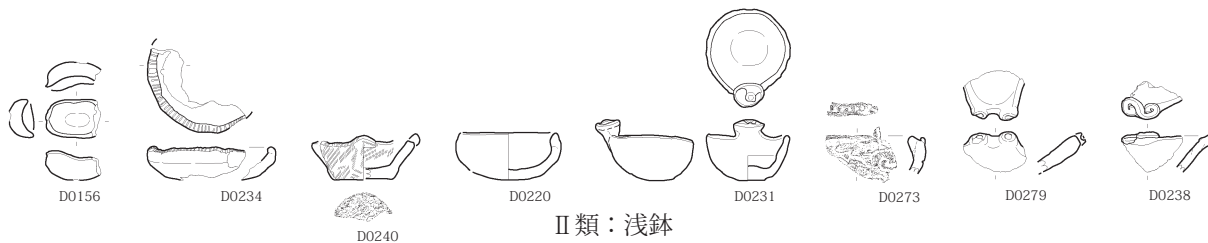
S=1/4

第54図 土製品の器種と類型 (3) 土偶 (3)

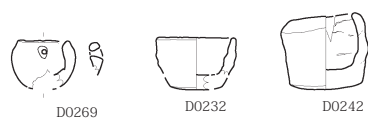
ミニチュア土器



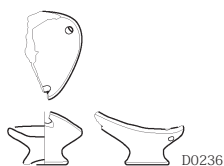
I 類 (深鉢)



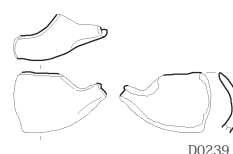
II 類: 浅鉢



III 類 (鉢)

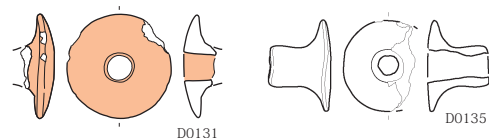


IV 類 (台付浅鉢)

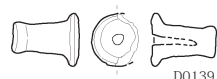


V 類 (注口土器)

耳飾



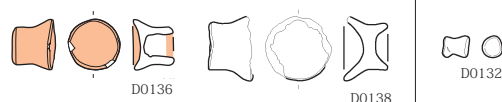
I 類



II 類



IV 類



III 類

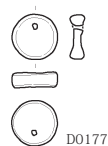


V 類

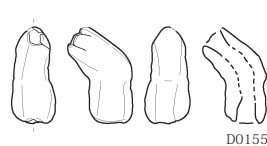
円環状土製品



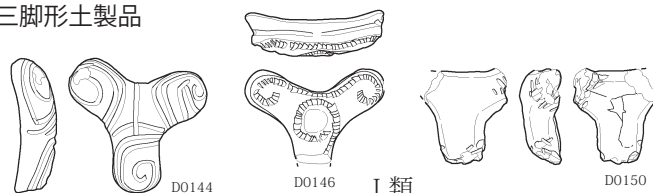
円盤状土製品



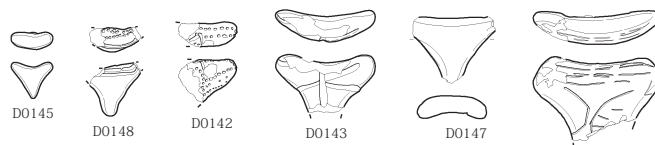
管状土製品



三脚形土製品

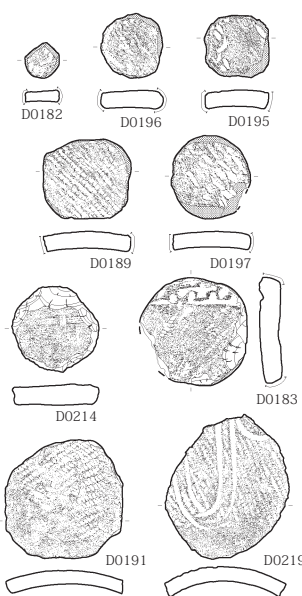


I 類

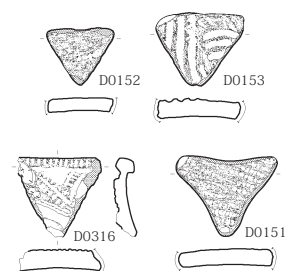


II 類

土器片加工品



I 類 (円盤状)



II 類 (三角形)



III 類 (鋸歯縁) S=1/4

第 55 図 土製品の器種と類型 (4) ミニチュア土器, 耳飾, 三脚形・円環状・円盤状・管状土製品, 土器片加工品

渦巻文の中央に皿状の凹部を持つものがある。

Ⅱ類：正面形が側縁のやや括れた逆三角形を呈するもの。各頂点が丸みを帯びるもの、細く窄まるもの、逆台形を呈するものがある。正面から側面に沈線・刺突文により施文するものがあり、上部に横位平行文を施文するもの、上部中央に縦位沈線文を施文するもの、中央に対弧状文を施文するものがある。また、正面上部に乳房状突起の可能性のある貼瘤が剥離した痕跡を持つものがある。

円盤状土製品 両面が浅く皿状に窪んだ円盤状を呈する。縁辺付近に小さな貫通孔があり、垂飾品とも考えられる（第55図）。

円環形土製品 扁平な円環状を呈する。両面および側面に充填・連続刺突文、連弧状沈線文により施文する。側面に小さな貫通孔を持つものがあり、垂飾品と考えられる（第55図）。

管状土製品 中位で「く」字形に屈曲する管状を呈する。外面は粗いナデ調整で成形されるが平滑さを欠く。両端部では粘土紐の接合痕跡を残し、両端でやや広がる内面は平滑であることから、芯棒に粘土紐を貼り付けて成形したものと考えられる（第55図）。

土器片加工品 土器片の縁辺を打ち欠きと研磨によって成形したもので、円盤状・三角形・鋸歯縁を呈するものがある（第55図）。

Ⅰ類（円盤状）：円盤状を呈するもの。隅丸方形・扇形に近い形状のものも含めた。胴部・底部破片を用いるものがあり、打ち欠きによる整形の後、破断面に入念な研磨を加えている。

Ⅱ類（三角形）：三角形を呈するもの。側縁が直線的なもの、やや括れるものがある。口縁部・胴部破片を用いるものがあり、打ち欠きによる整形の後、口縁上端部を除く破断面に入念な研磨を加えている。

Ⅲ類（鋸歯縁）：不整形で鋸歯縁を呈するもの。底部破片を用いて打ち欠きと入念な研磨により抉入部を作出している。

（3）石器

形態的特徴と製作技術によって下記の通り器種分類した。石材の分類は地質学・鉱物学・岩石学的な分類体系に則った岩石名を使用し、出土状況などから把握された同一母岩の可能性が高い石器のまとまりについては石材の微細な特徴により母岩別分類を行なった。

①器種と細分

器種は石鏃・尖頭器・石錐・石匙・石筥・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・不定形石器・両面加工石器・二次加工ある剥片・微細剥離ある剥片・剥片・碎片・石核・原石に分類し、各器種の細部の形態的特徴により下記の通り細別した（第56～61図）。なお、概ね長軸が7cm未満を小型、7cm以上15cm未満を中型、15cm以上を大型とした。

石鏃 鋭い尖頭部を持つ小型の石器で、尖端部に衝突痕跡と考えられる槌状剥離などを認めるものが多くある。主に薄手の小型剥片を素材とし、両面の全体に押圧剥離による入念な細部調整を加える。鏃身と基部の形態によりⅠ～Ⅴ類に細分した（第56図）。

Ⅰ類（凹基無茎鏃）：正面形が正三角形または二等辺三角形を呈し、基部が抉れるもの。両側縁は直線的なもの、弧状を呈するものを主体に、弧状を呈し尖端部が突出するもの、基部が広がり逆「Y」字形を呈するものがある。基部の抉りは浅い弧状を呈するものを主体に、深い弧状を呈し長脚鏃に近い形態のもの、直線的で浅い逆「V」字状を呈するものがある。

Ⅱ類（平基無茎鏃）：正面形が正三角形または二等辺三角形を呈し、基部が平らなもの。両側縁と基部は直線的なもの、弧状を呈するものがある。

Ⅲ類（円基無茎鏃）：正面形が水滴形を呈するもの。両側縁は弧状を呈し基部につながる。

Ⅳ類（凸基有茎鏃）：正面形が下部に最大幅を持つ紡錘形を呈し、基部に「V」字形の茎部を持つもの。両側縁は直線的なもの、弧状を呈するものがある。

Ⅴ類（尖基鏃）：正面形が柳葉形または中位に最大幅を持つ紡錘形を呈し、基部が尖るもの。両側縁は直線的なもの、弧状を呈するものがあり、中位で括れるものがある。

尖頭器 鋭い尖頭部を持つ小型～中型の石器で、尖端部に衝突痕と考えられる槌状剥離を認めるものが少数ある。主に薄手の縦長薄片を素材とし、両面の全体に面的調整を加えた後、押圧剥離による入念な細部調整を加える。身部と基部の形態によりⅠ～Ⅳ類に細分した（第56図）。

Ⅰ類（木葉形尖頭器）：正面形がやや幅広の木葉形を呈するもの。最大幅を中位から下部に持つものが多い。

Ⅱ類（柳葉形尖頭器）：正面形がやや細身の柳葉形を呈するもの。最大幅を中位から下部に持つものが多い。

Ⅲ類（有茎・有肩尖頭器）：正面形が木葉形または柳葉形を呈し、基部に「V」字形または逆台形の茎部を持つか、片側に肩部を持つもの。身部と基部の境に最大幅を持つものが多い。

Ⅳ類（基部挟入尖頭器）：正面形が両側縁に丸みを持つ二等辺三角形を呈し、基部の左右両側縁に浅い挟入部を持つもの。

石鏃 鋭い尖端部を持つ小型の石器で、尖端部に摩耗痕を認めるものが多数ある。主に薄手の小型剥片を素材とし、素材剥片の打点側を基部として末端側に押圧剥離による入念な細部調整で尖端部を作出する。基部は二次加工を加えず素材剥片の形状を残すものが主体的であるが、多角形状に整形して挟入部を作出するものがあり、紐で固定し着柄するための加工と考えられる。尖端部の形態によりⅠ～Ⅲ類に細分した（第57図）。

Ⅰ類：寸詰まりの「V」字形の尖端部を持つもの。尖端部の調整は押圧剥離による両面調整を主体に片面調整のものも見られ、横断面形は菱形を主体に凸レンズ状、三角形を呈するものも見られる。

Ⅱ類：細長い「V」字形の先端部を持つもの。尖端部の調整は押圧剥離による両面調整を主体に片面調整のものも見られ、横断面形は菱形を主体に凸レンズ状を呈するものも見られる。

Ⅲ類：細身の棒状を呈する尖端部を持つもの。尖端部の調整は押圧剥離による両面調整で、横断面形は菱形または凸レンズ状を呈するものが見られる。

石匙 縁辺に鋭い刃部を持ち、端部に摘み状の小突起が付く小型の石器である。主に薄手の剥片を素材とし、素材剥片の打点側を摘み部として側縁あるいは末端側に入念な細部調整によって刃部を作出する。摘み部は両側縁からの挟入状の調整によって作出されることから、紐を結びつけるための加工と考えられる。摘み部と刃部との位置関係によってⅠ～Ⅲ類に細分した（第57図）。

Ⅰ類（縦形石匙）：縦長で長軸の端部に摘み部を持ち、両側縁または片側縁に刃部を持つもの。多くは整った形状の縦長剥片を用いる。刃部は左右対称で下端に尖端部を持つものが主体であるが、片側縁が強く弯曲し半月形を呈するもの、尖端部を持たず丸く収まるものもある。

Ⅱ類（撥形石匙）：縦長の台形状で上端部に摘み部を持ち、下端部と両側縁または片側縁に刃部を持つもの。やや幅広の剥片を用いる。刃部は直線状を呈する。

Ⅲ類（横形石匙）：横長で摘み部に対向する縁辺に刃部を持つもの。多くは横長剥片を用いる。刃部は直線状のもの、弧状を呈するものがあり、両端が丸く収まるもの、一端に尖端部を作出するものがある。

石篋 端部にやや厚手の刃部を持つ小型～中型の石器である。剥片を素材とし、打点側を基部として末端側に刃部を作出するものが多いが、横長の剥片を横位に用いるものもある。多くは両面の全体に面的調整を加えた後、刃部および両側縁に入念な細部調整を加える。刃部は多くが両面調整によって作出されるが、縦断面形は片刃状を呈し厚手の強靱な刃部としている。また、刃部再生の結果と考えられる寸詰まりの形態を示すものが見られる。身部と刃部の形態によりⅠ～Ⅳ類に細分した（第58図）。

- I 類：細身で両側縁が平行する短冊形を呈し、端部に半円形ないしは弧状の刃部を持つもの。
- II 類：細身で基部が窄まる撥形を呈し、端部に半円形ないしは弧状の刃部を持つもの。
- III 類：やや幅広で基部が窄まる撥形を呈し、端部に半円形ないしは弧状の刃部を持つもの。
- IV 類：やや幅広で基部が窄まる撥形を呈し、端部に直線状の刃部を持つもの。

楔形石器 対向する縁辺の両方に階段状剥離が認められる小型の石器である。正面形が長方形ないしは台形を呈するものが多い。縁辺に打撃による潰れ痕を伴うもの、対向する両方向からの剥離面が交錯するものがあり、両極打撃によるものと考えられる。縦断面形と側縁の細部調整の有無および上下の縁辺の向きにより I～IV 類に細分した（第 58 図）。

- I 類：縦断面形が「V」字形を呈するもの。上端の平坦面は素材剥片の打面または折断面であるものが多い。
- II 類：縦断面形が凸レンズ状を呈するもの。平面形がやや整った長方形を呈するものがある。
- III 類：縦断面形が凸レンズ状を呈するもので、側縁の縁辺に細部調整を加えるもの。
- IV 類：縦断面形が凸レンズ状を呈するもので、上下の縁辺が斜交し捻れた形状のもの。

打製石斧 端部にやや厚手の刃部を持つ中型～大型の石器である。多くは厚手の剥片を素材とし、両面の全体に面的調整を加えた後、刃部および両側縁に入念な細部調整を加える。身部が厚手で刃部は多くが両面調整によって作出され、縦断面形は両刃状を呈する。刃部の形態により I～II 類に細分した（第 59 図）。

- I 類：基部が窄まる撥形で、刃部の正面形が弧状を呈するもの。
- II 類：基部が窄まる撥形で、刃部の正面形が直線状を呈するもの。

磨製石斧 研磨によって表面が平滑に仕上げられ、端部に厚手の刃部を持つ小型～大型の磨製石器である。最終工程の研磨による入念な調整が加えられ、製作工程が明らかなものは少ないが、敲打や剥離による整形、側面に擦切技法による素材分割の痕跡を残すものがある。身部が厚手で刃部の縦断面形は両刃状を呈する。刃部の正面形は多くが弧状を呈する。身部と刃部の形態により I～IV 類に細分した（第 59 図）。

- I 類（乳棒状磨製石斧）：基部がやや窄まる乳棒状で、身部の横断面形が楕円形を呈するもの。
- II 類（乳棒状磨製石斧）：基部がやや窄まる乳棒状で側面に弱い稜を持ち、身部の横断面形が隅丸長方形に近い楕円形を呈するもの。
- III 類（定角式磨製石斧）：基部がやや窄まる撥形で側面に明瞭な稜を持ち、身部の横断面形が隅丸長方形を呈するもの。
- IV 類（扁平楕円形磨製石斧）：正面形が縦長の長楕円形で幅狭の側面を持ち、身部の横断面形が扁平な楕円形を呈するもの。

不定形石器 剥片の一部に調整を加えて刃部を作出した小型～中型の石器である。調整は刃部周辺の縁辺部に限定的で、素材剥片の形状と刃部の形態には相関関係があると考えられる。刃部の形態により I～VI 類に細分した（第 60 図）。

- I 類（直刃削器）：剥片の一側縁に細部調整を加えて刃部を作出するもの。刃部の正面形は直線的なものを主体にやや内弯・外弯するものもある。横長または不定形剥片の末端側、縦長剥片の片側縁に刃部を作出するものが多い。
- II 類（直刃削器）：剥片の両側縁に細部調整を加えて刃部を作出するもの。刃部の正面形は直線的なものを主体にやや内弯・外弯するものもある。縦長剥片の両側縁に刃部を作出するものが多い。
- III 類（尖頭削器）：剥片の収斂する二側縁に細部調整を加えて尖頭状の刃部を作出するもの。刃部は縦長剥片の末端側に作出するものが主体である。
- IV 類（搔器）：剥片の端部に細部調整を加えて刃部を作出するもの。刃部の正面形は弧状ないしは半円形を呈する。縦長剥片の末端側に素材剥片の主剥離面側からの片面調整によって作出するものが主体である。

V類（挾入石器）：剥片の側縁の一部に細部調整を加えて挾入状の刃部を作出するもの。刃部は不定形剥片の側縁に作出するものが主体で、他の側縁にI類と同様の直線的な刃部を持つものもある。

VI類（鋸歯縁石器）：剥片の側縁の一部に細部調整を加えて浅い挾入部を連続させ、鋸歯状の刃部を作出するもの。刃部は不定形剥片の側縁に作出するものが主体である。

両面加工石器 両面の広範囲に面的調整を加える石器で、その他の器種に分類されないもの。主に尖頭器・石篋・打製石斧等の部分資料および未成品と考えられる（第61図）。

二次加工ある剥片 剥片の一部に調整を加える石器で、その他の器種に分類されないもの。調整が不規則・不連続であったり、調整の意図が不明なものが多い。各種の石器の部分資料および未成品を含むと考えられる。

微細剥離ある剥片 剥片の縁辺に微細な剥離痕が連続的に認められる石器。不定形石器I～V類の刃部に準ずる位置に集中するものが多く認められ、剥片の縁辺を刃部として使用したことによる使用痕（刃毀れ）と考えられる。便宜的に幅・奥行とも2mm以下の剥離痕が連続的に認められるものを抽出し、不連続・散発的であるものは偶発性の高い剥離痕と考えられることから除外した（第61図）。

剥片 裏面に一枚の剥離面からなるポジティブ面（主剥離面）を持つ石器で、二次加工や微細剥離が認められないもの。剥片石器の素材として石核から目的的に剥離されたもの、剥片剥離や石器製作の各工程で生じた調整剥片などの副産物としての残滓類を含むと考えられる。

碎片 剥片のうち最大寸法が10mm以下の微細なもの。および、10mm以上であっても折損・破断などによって剥離状況が不明瞭なもの。

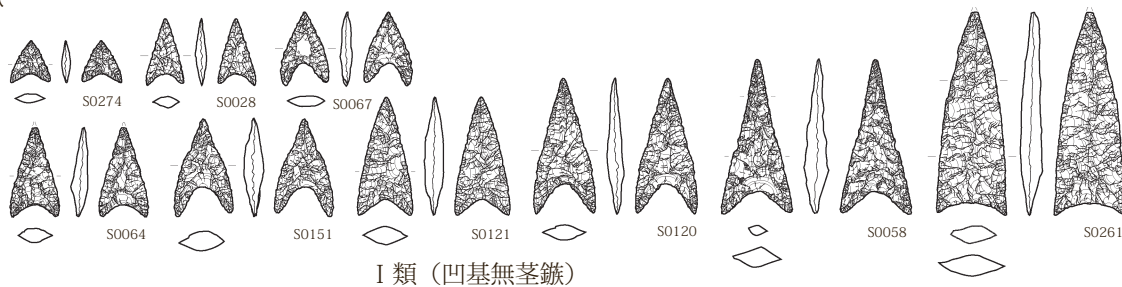
石核 その他の器種に関わる調整加工と判断される剥離面とは異なり、剥片石器の素材となる剥片を目的的に剥離したと考えられるネガティブ面（作業面）を最終剥離痕に持つ石器。厚手の剥片を素材として正面および裏面に作業面を持つもの、サイコロ状を呈し複数の面に作業面を持つものなどがあり、単一または複数の剥離面のほか、節理面や自然面を打面とするものがある（第61図）。

原石 石器石材としての剥離特性を持つ石材で、剥離痕が認められないもの。

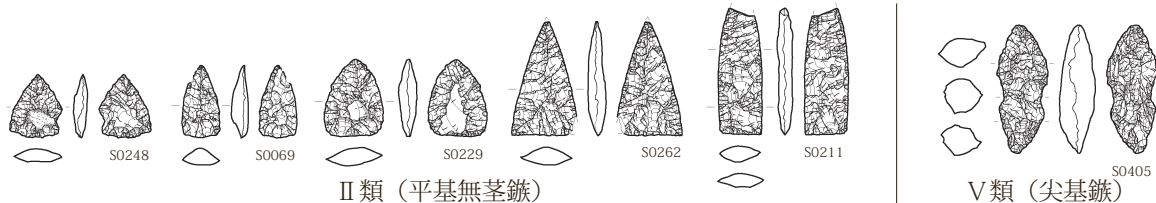
第8表 石器石材分類表

分類		岩石種	岩石名
火成岩類	火山岩	玄武岩類	玄武岩
		安山岩類	安山岩・輝石安山岩
		デイサイト類	デイサイト
		流紋岩類	流紋岩・ガラス質流紋岩・黒曜石
		ドレライト類	ドレライト
		斑岩類	石英斑岩
	深成岩	花崗岩類	花崗岩・細粒花崗岩・花崗閃緑岩・細粒花崗閃緑岩
		斑れい岩類	細粒斑れい岩・角閃石斑れい岩
堆積岩類	碎屑岩	砂岩類	砂岩・硬質砂岩
		泥岩類	頁岩・珪質頁岩・泥岩・珪質泥岩・シルト岩・珪質シルト岩
	生物岩	チャート類	チャート
火山碎屑岩類		凝灰岩類	凝灰岩・細粒凝灰岩・シルト質凝灰岩・硬質凝灰岩・珪化凝灰岩・緑色凝灰岩
変成岩類	広域変成岩	粘板岩類	粘板岩
		片岩類	結晶片岩・緑色片岩・蛇紋岩
		緑色岩類	緑色岩
	接触変成岩	ホルンフェルス類	ホルンフェルス・砂質ホルンフェルス・泥質ホルンフェルス
		珪岩類	珪岩
鉱物		シリカ鉱物	石英岩・碧玉（赤・緑・黄）・瑪瑙・玉髓・珪化木・玉髓質珪化木

石鏃



I類 (凹基無茎鏃)



II類 (平基無茎鏃)

V類 (尖基鏃)

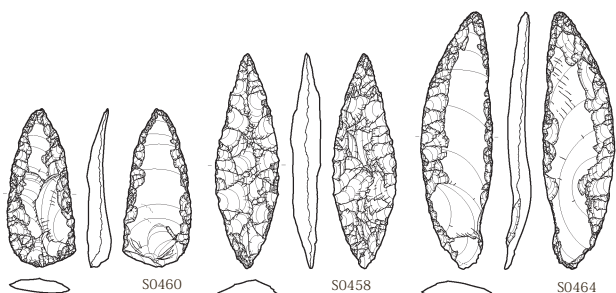


III類 (円基無茎鏃)

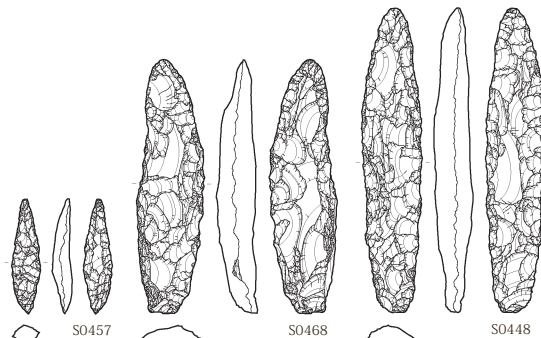


IV類 (凸基有茎鏃) S=1/2

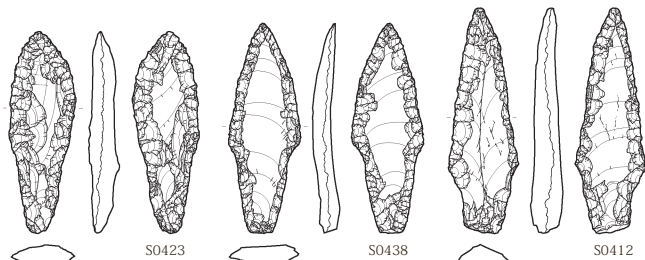
尖頭器



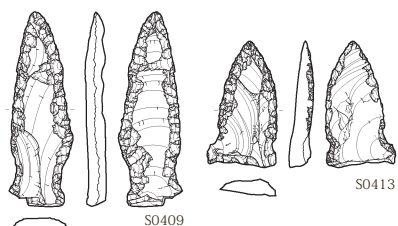
I類 (木葉形尖頭器)



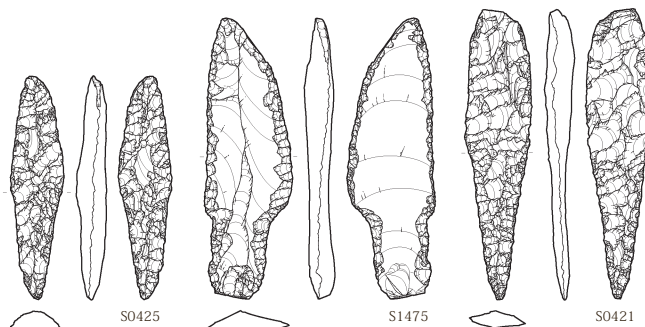
II類 (柳葉形尖頭器)



III類 (有茎・有肩尖頭器)



IV類 (基部缺入尖頭器) S=1/3



第56図 石器の器種と類型 (1) 石鏃, 尖頭器

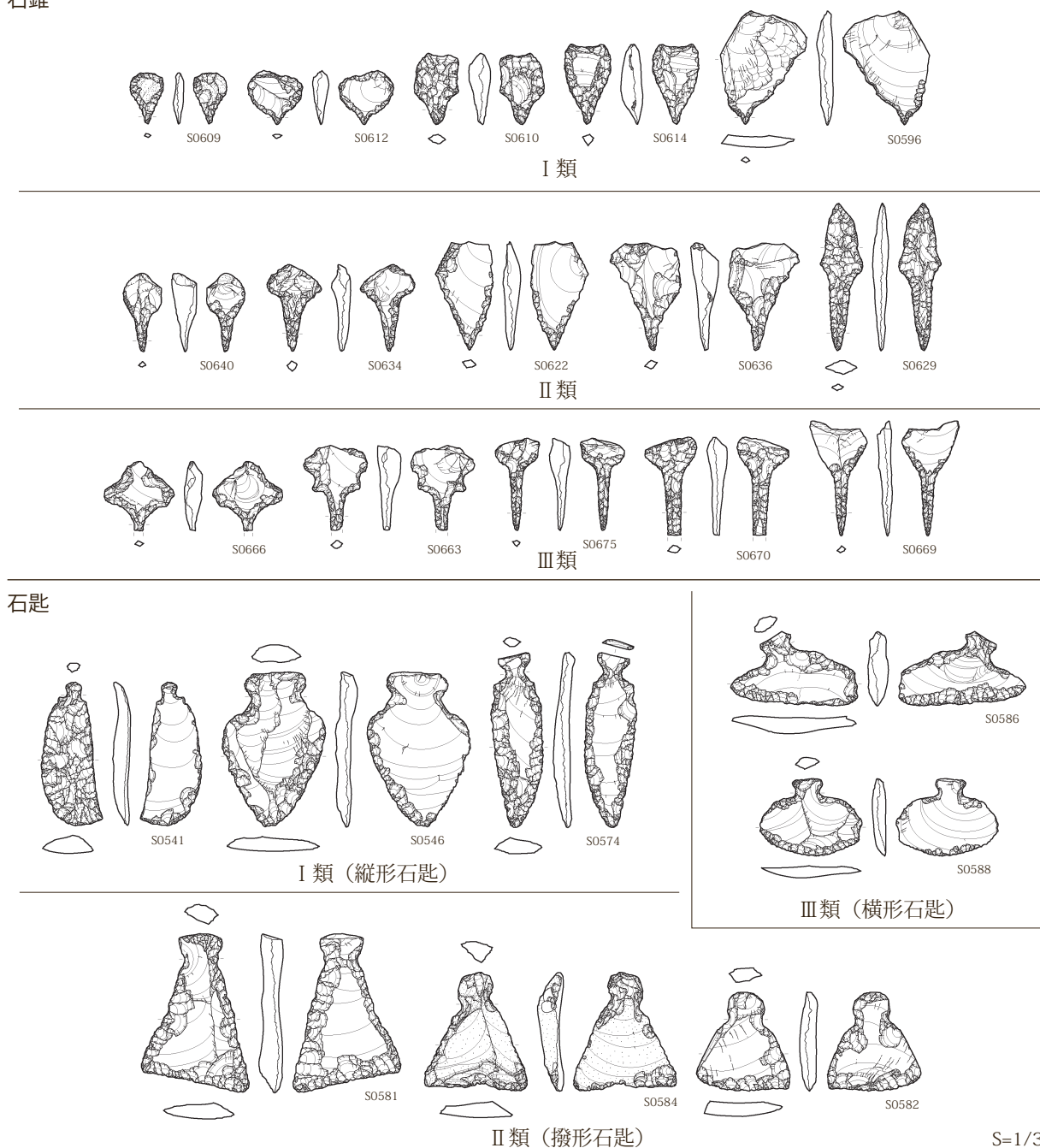
②石材

地質学・鉱物学・岩石学的な分類体系に則った岩石名を使用し、第8表の通り分類した。

③母岩別資料（第4分冊：写真図版358～399）

石器に使用されている石材の構成粒子と肌理、葉理・流理構造、色調、夾雑物などの肉眼的特徴によって把握された岩相が近似するものを同質母岩として母岩1～6に分類し、接合作業の対象とした。この結果、全ての母岩で接合関係が確認されるか、連続的な葉理・流理構造、表皮付近の風化状態など個別の母岩に固有の微細な特徴を共有する同一母岩が抽出された。厳密に同一の母岩から剥離されたと確定できるのは後者に限ら

石錐



第57図 石器の器種と類型(2) 石錐, 石匙

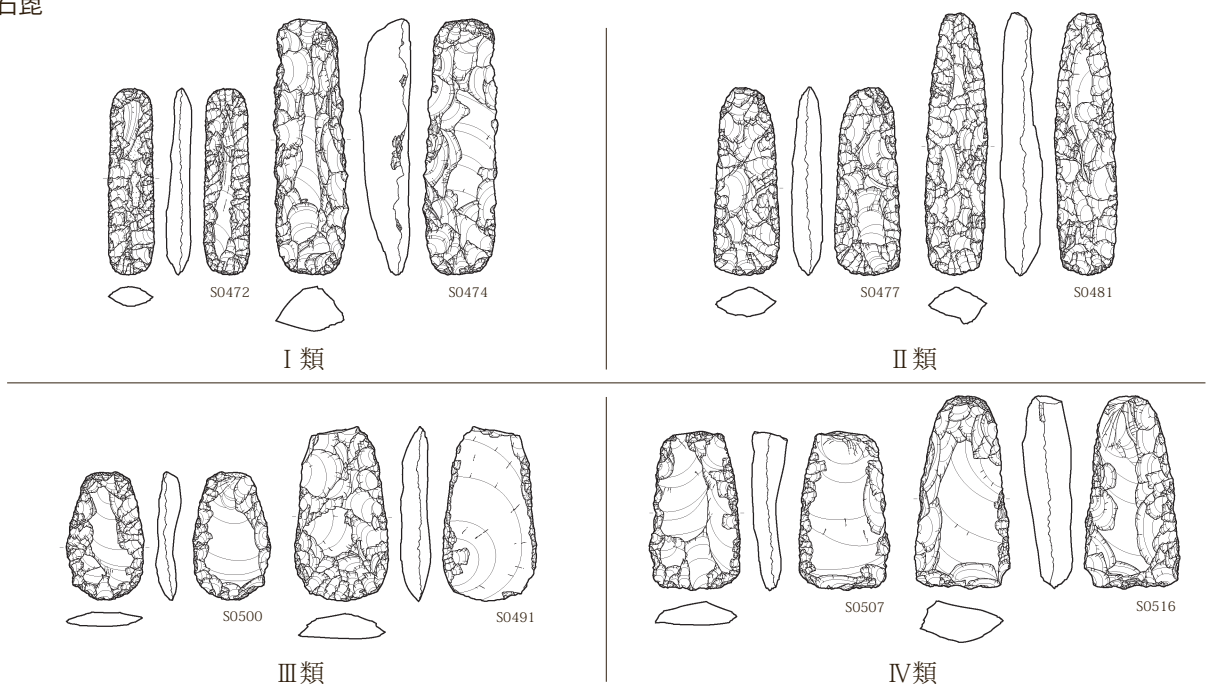
れるが、石器集積における一括性の高い出土状況も認められることから、母岩別資料としての分類に一定程度の有効性が担保されているものとして記載する。なお、同一の母岩の部位による石質の違いか、異なる母岩か確定できないまとまりについては、特徴を共有するものを母岩としてまとめた上で細別として分類した。

母岩1 青灰色～灰色および灰白色を呈し、長石類の斑晶を多く含むガラス質流紋岩。色調および斑晶の種類と密度により母岩1a～1cに細別した。相互に岩相が遷移する。

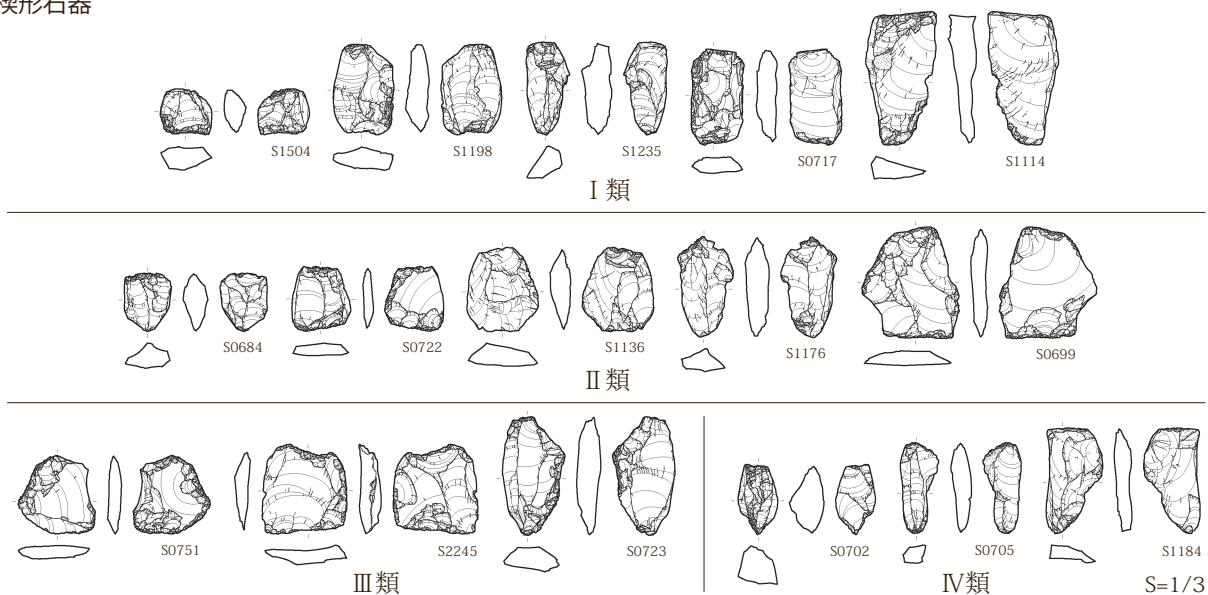
母岩1a 青灰色を主体に一部灰色を呈する石基で、直線的な縞状の流理構造を示す。長石類斑晶。石英斑晶少量。細脈状の空隙。接合資料1～6を含む。

母岩1b 灰色～灰白色を主体に一部青灰色を呈する石基で、直線的な縞状の流理構造を示す。石英細脈。石英斑晶。長石・角閃石・黒雲母斑晶少量。細脈状の空隙。母岩1a・1cの中間的な特徴を有する。

石筥



楔形石器



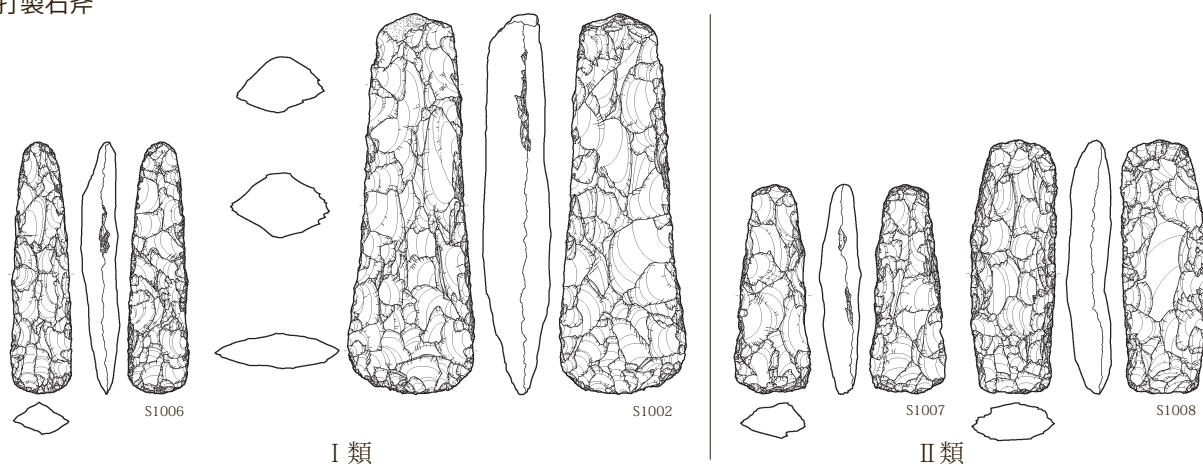
第58図 石器の器種と類型 (3) 石筥, 楔形石器

母岩 1c 灰白色～白色の石基で、直線的な縞状の流理構造を示す。石英細脈。石英斑晶。接合資料 7～9 を含む。
母岩 2 赤紫色～淡紫色を呈し、石英類の斑晶を多く含むガラス質流紋岩。色調および斑晶の種類と密度により母岩 2a～2n に細別した。相互に岩相が遷移する。

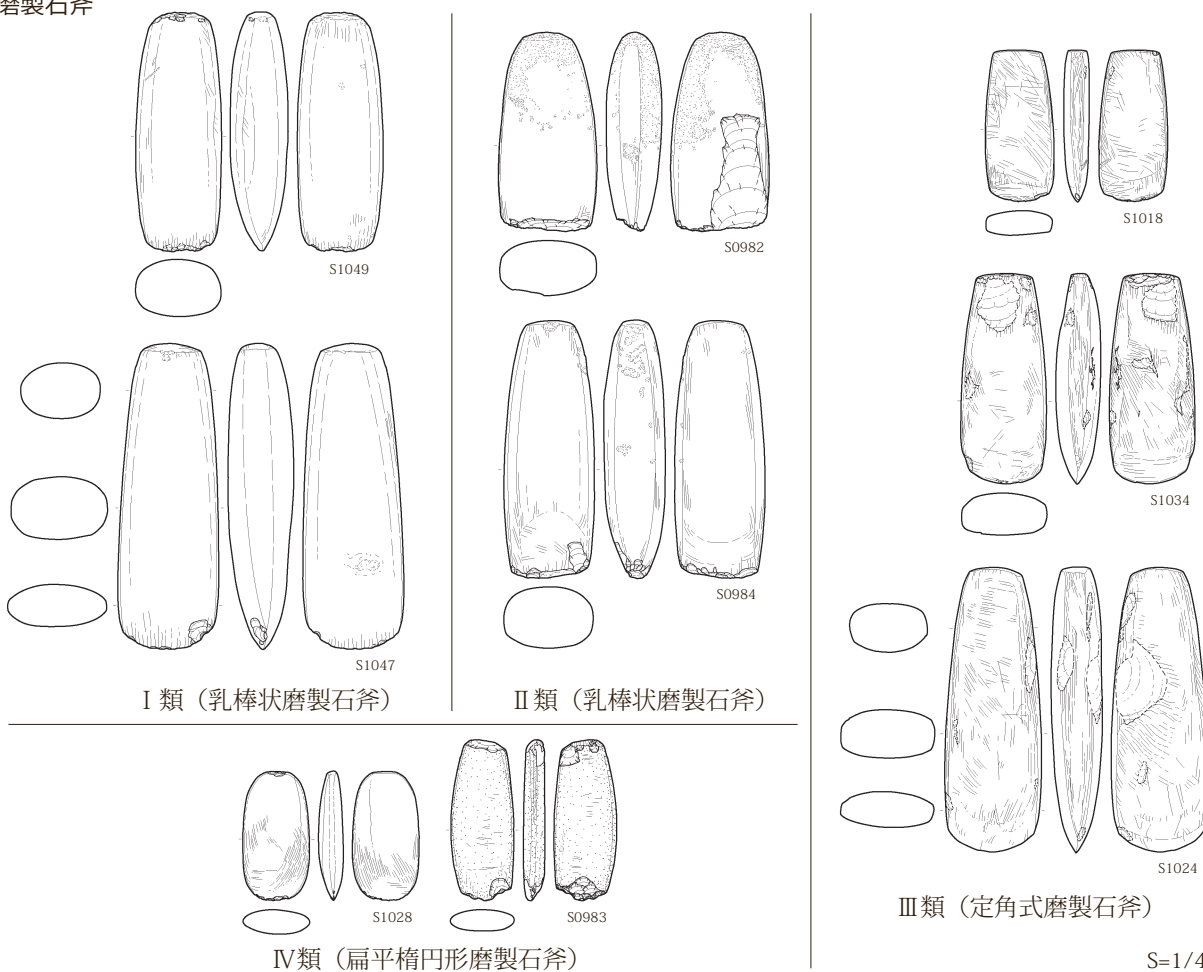
母岩 2a 赤紫～淡紫色と青灰色～灰色がかった淡紫色の石基が直線的な縞状の流理構造を示す。石英細脈。石英斑晶。角閃石・黒雲母斑晶少量。

母岩 2b 赤紫と淡紫色の石基が不規則な縞状の流理構造を示す。石英細脈。石英斑晶。角閃石斑晶少量。

打製石斧

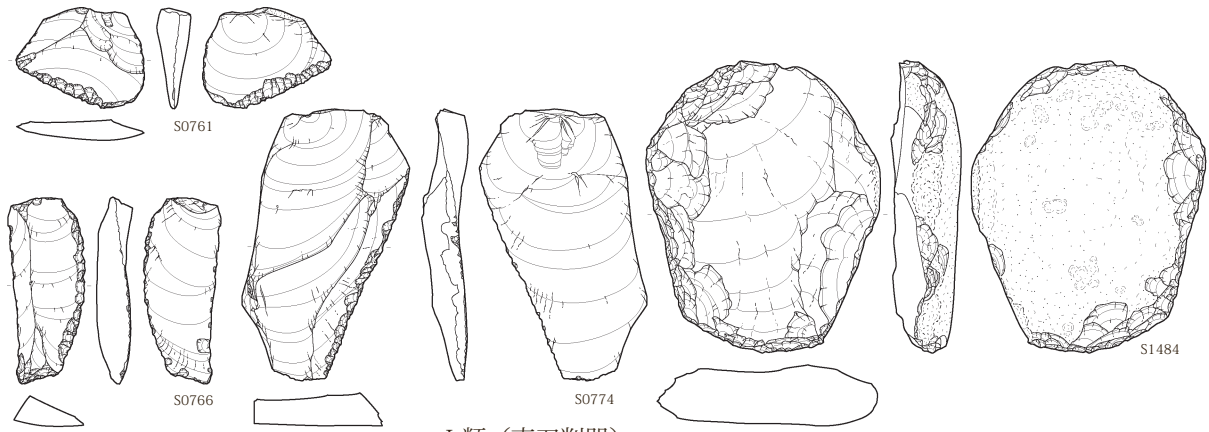


磨製石斧

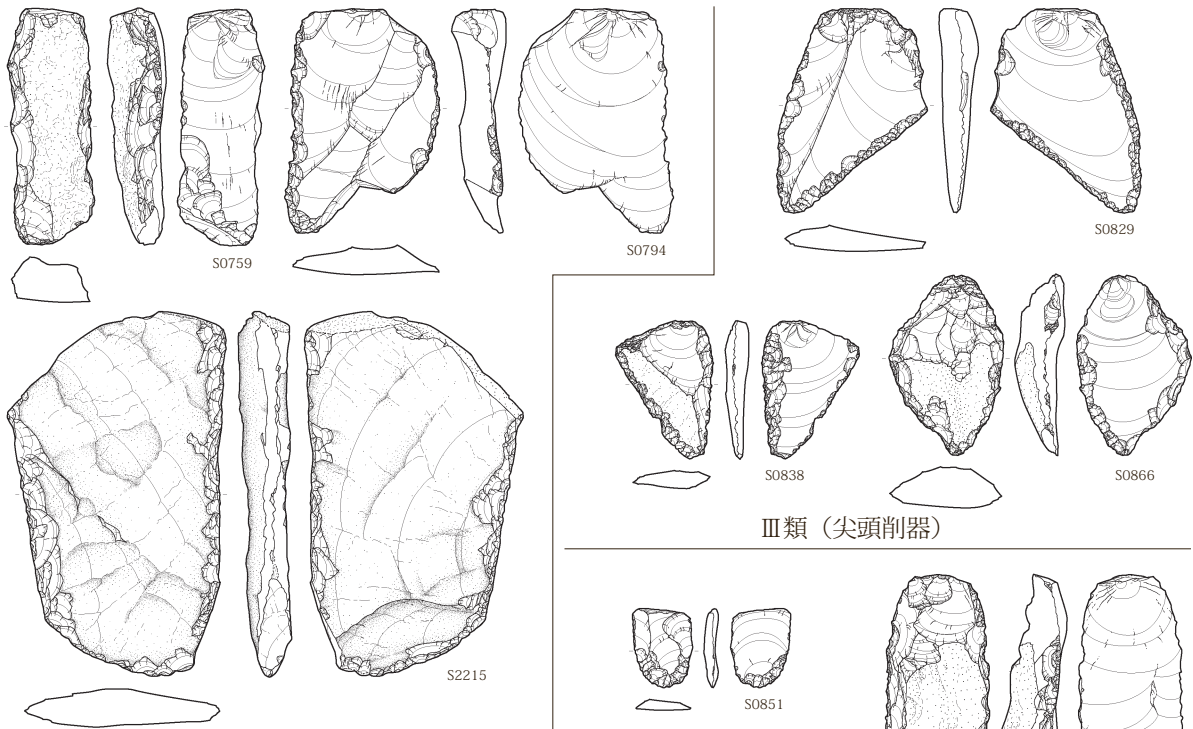


第 59 図 石器の器種と類型 (4) 打製石斧, 磨製石斧

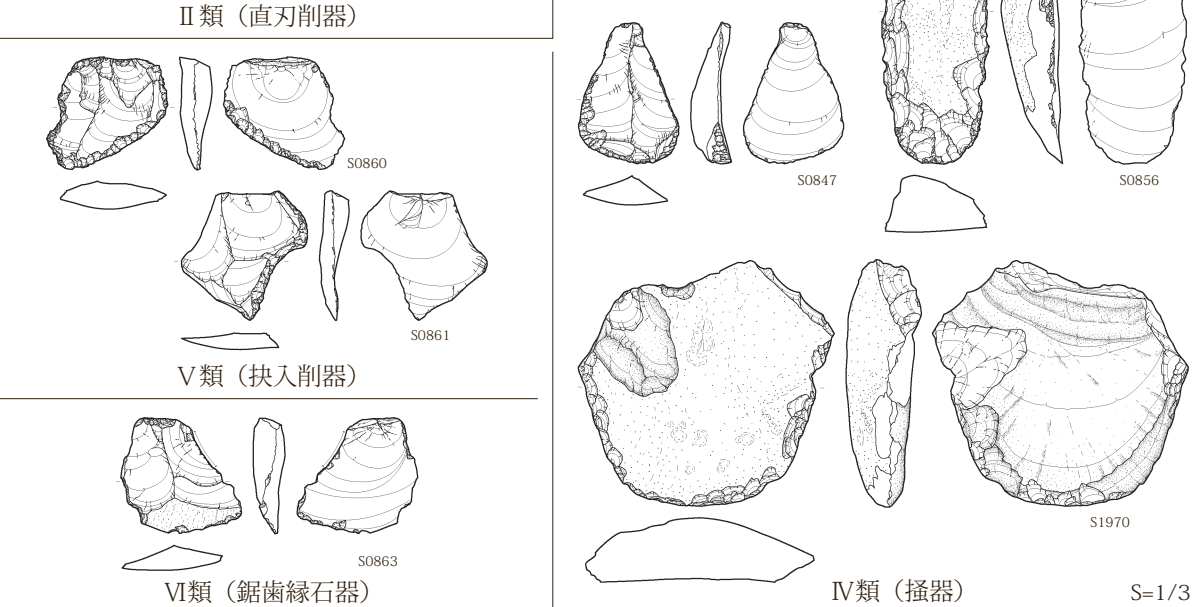
不定形石器



I 類 (直刃削器)



III 類 (尖頭削器)



V 類 (挟入削器)

VI 類 (鋸歯縁石器)

IV 類 (搔器)

S=1/3

第 60 図 石器の器種と類型 (5) 不定形石器

母岩 2c 赤紫～淡紫色の石基で、一部乳白色～白色を呈す。縞状の流理構造も見られるが顕著でない。石英基と同質の破碎岩片を多く取り込みブロック状を呈す。石英細脈。石英斑晶。角閃石斑晶少量。接合資料 10 を含む。

母岩 2d 赤紫色を基調とする石基で、縞状の流理構造も見られるが顕著でない。石英斑晶。角閃石斑晶少量。

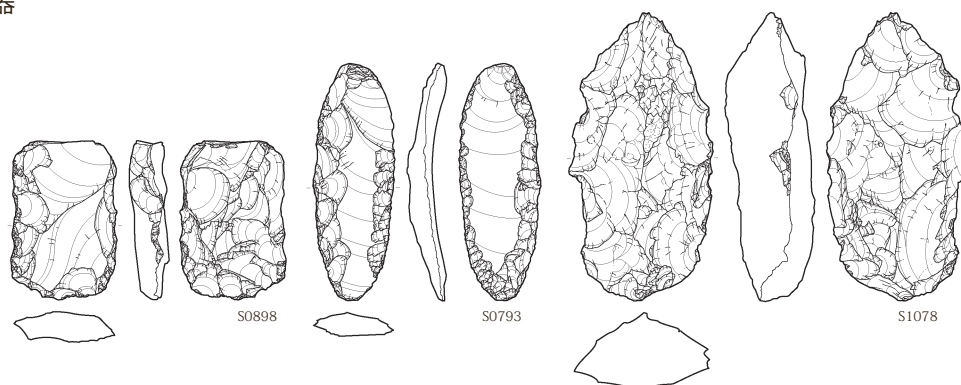
母岩 2e 淡紫色を基調とする石基で、縞状の流理構造も見られるが顕著でない。石英斑晶。角閃石・黒雲母斑晶少量。

母岩 2f やや灰色がかった淡紫色を基調とする石基で、縞状の流理構造も見られるが顕著でない。石英斑晶。角閃石・黒雲母・透輝石斑晶少量。

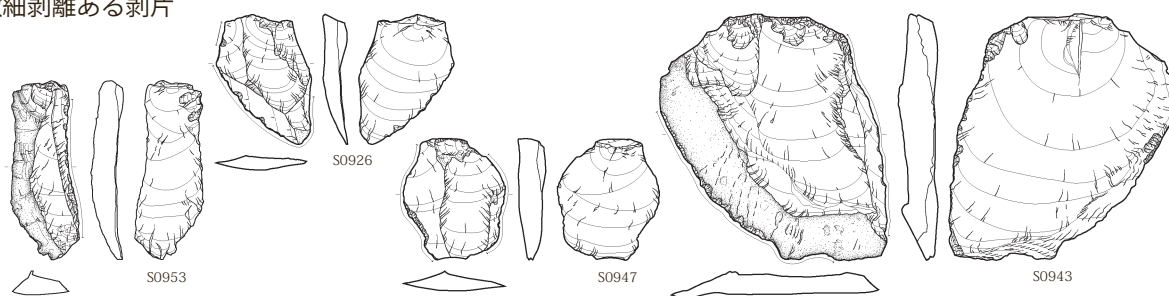
母岩 2g やや白味を帯びた淡紫色を基調とする石基で、縞状の流理構造も見られるが顕著でない。石英斑晶。透輝石斑晶少量。

母岩 2h 赤紫～淡紫色と青灰色～灰色がかった淡紫色の石基が不規則な縞状の流理構造を示す。石英斑晶。黒雲母斑晶少量。

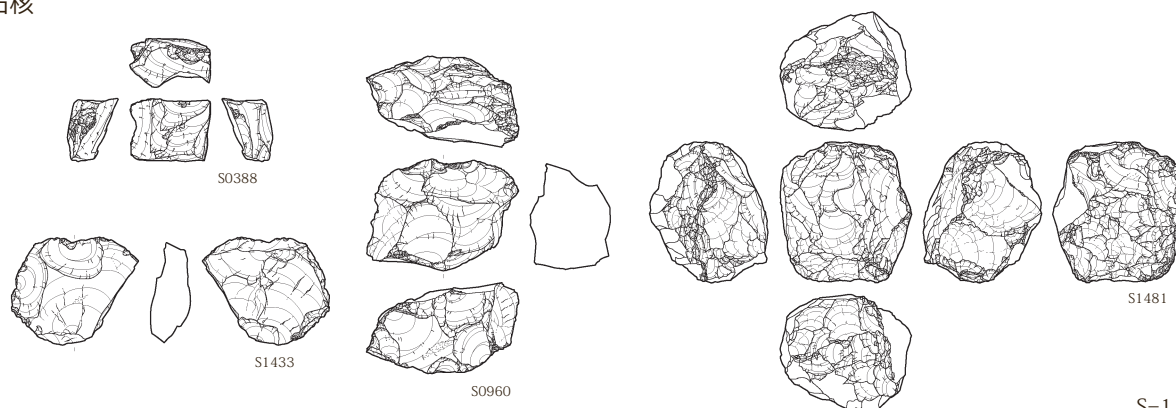
両面加工石器



微細剥離ある剥片



石核



S=1/3

第 61 図 石器の器種と類型 (6) 両面加工石器, 微細剥離ある剥片, 石核

母岩 2i やや白味を帯びた淡紫色の石基が不規則な縞状の流理構造を示す。石英斑晶。石英細脈。細脈状の空隙。

母岩 2j やや白味を帯びた淡紫色の石基が不規則な縞状の流理構造を示す。石基と同質の破碎岩片を多く取り込みブロック状を呈す。石英斑晶。石英細脈。細脈状の空隙。接合資料 11・12 を含む。

母岩 2k やや白味を帯びた淡紫色の石基。石基と同質でやや灰色がかった淡紫色の破碎岩片を多く取り込みブロック状を呈す。石英斑晶少量。石英細脈。

母岩 2l やや白味を帯びた淡紫色の石基。石基と同質で淡紫色～やや灰色がかった淡紫色の破碎岩片を多く取り込みブロック状を呈す。石英斑晶少量。接合資料 13 を含む。

母岩 2m やや白味を帯びた淡紫色の石基が不規則な縞状・マーブル状の流理構造を示す。石基と同質の破碎岩片を多く取り込みブロック状を呈す。石英斑晶。石英細脈。接合資料 14 を含む。

母岩 2n 白味を帯びた淡紫色の石基が不規則な縞状・マーブル状の流理構造を示す。石英斑晶。石英細脈。

母岩 3 黒褐色～灰褐色を呈する珪化凝灰岩で、表面は風化層が発達し大部分が灰褐色～白色を帯び、白色部は著しい風化による粉体化が進行している。稀に石英細脈。接合資料 15～21 を含む。

母岩 4 暗褐色～褐色～黄褐色を呈する碧玉。色調および縞状・マーブル状の葉理と斑状組織の痕跡により母岩 4a・4b に細別した。相互に岩相が遷移する。

母岩 4a 暗褐色～褐色～明黄褐色を呈し、縞状・マーブル状の葉理の顕著な発達を見る。褐色～明黄褐色部は顕著な光沢を帯びる。稀に石英細脈。接合資料 22～24 を含む。

母岩 4b 褐色～黄褐色を主体に部分的に暗緑色を呈し、縞状・マーブル状の葉理と斑状組織の痕跡を認める。黄褐色部は光沢を帯びる。石英細脈が発達。接合資料 25～29 を含む。

母岩 5 黄褐色を呈する碧玉。やや肌理が粗い。稀に石英細脈。接合資料 30～33 を含む。

母岩 6 鉛色を主体に部分的に暗緑色を呈する碧玉。均質。稀に石英細脈。接合資料 34 を含む。

(4) 礫石器

表面痕跡の特徴について分類した上で、形態的特徴と表面痕跡の生じる部位と種類、組み合わせによって下記の通り器種分類した。石材の分類は地質学・鉱物学・岩石学的な分類体系に則った岩石名を使用した。

①表面痕跡

表面痕跡は凹痕・敲打痕・磨敲面・磨面・研磨溝・摩耗痕に分類し、各痕跡の細部の特徴により下記の通り細別した。

A 類 (凹痕)：対象物との局所的・反復的な衝突によって形成された凹部。底面の形状により A1～A2 類に細分した。

A1 類：凹部が皿形～碗形を呈するもの。

A2 類：凹部が断面「V」字状を呈するもの。

B 類 (敲打痕)：対象物との衝突によって形成された潰れ痕跡。B1～B4 類に細分した。

B1 類：面的・反復的な衝突によって表面が平滑化したもの（敲打面）。

B2 類：面的な潰れ痕跡が明瞭な集中部を形成するもの。A1 類の未発達な状態を含む。

B3 類：面的な潰れ痕跡が散在し、明瞭な集中部を形成しないもの。

B4 類：鋭い縁辺を持つ対象物との衝突による線状の潰れ痕跡を持つもの。一部は A2 類の未発達な状態を含む。

C 類 (磨敲面)：対象物との反復的・複合的な衝突と磨り合わせによって表面が平滑化したもの。

D 類 (磨面)：対象物との反復的な磨り合わせによって表面が摩耗し、光沢を伴う平滑面を形成するもの。

E 類 (研磨溝)：棒状の対象物の端部との反復的な磨り合わせによって表面が摩耗し、溝状に窪むもの。

F類（摩耗痕）：表面に平滑面を形成しない摩耗痕跡。一部はD類の未発達な状態（弱い磨面）や、使用時の手擦れによるものを含む。

②器種と細分

器種は石皿・台石・有溝砥石・敲石・磨石類に分類し、各器種の細部の形態的特徴により下記の通り細別した（第62～65図）。なお、概ね重量が300g未満（長軸4～10cm程度主体）を小型、300g以上1500g未満（長軸8～16cm程度主体）を中型、1500g以上（長軸15～25cm程度主体）を大型とした。

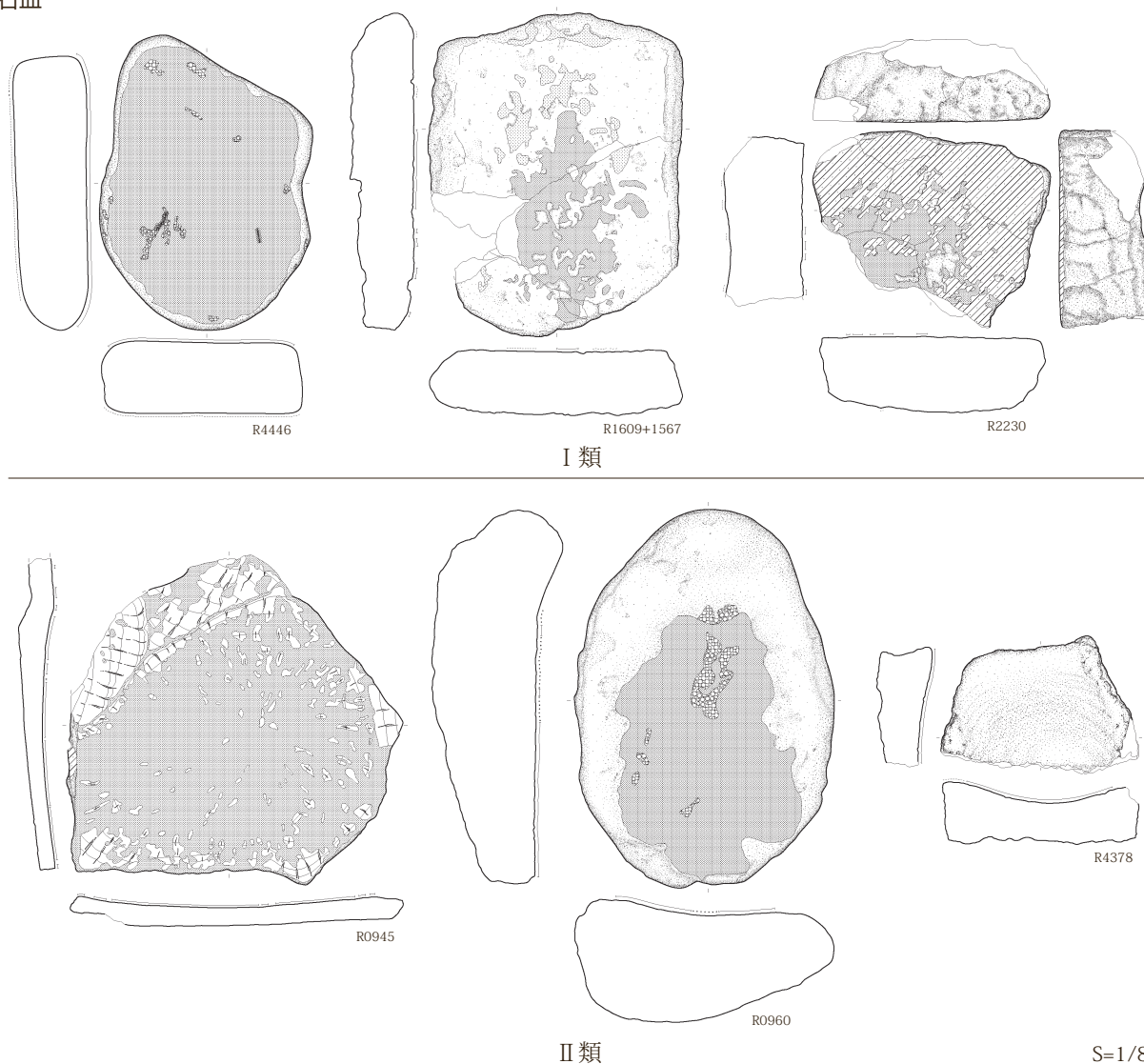
石皿 主に大型で扁平な円礫～亜角礫ないしは板状節理による角礫を素材とし、平坦または皿状に窪む磨面を持つ礫石器である。磨面の形状によりⅠ～Ⅱ類に細分した（第62図）。

Ⅰ類：平坦な磨面を持つもの。

Ⅱ類：皿状に窪む磨面を持つもの。

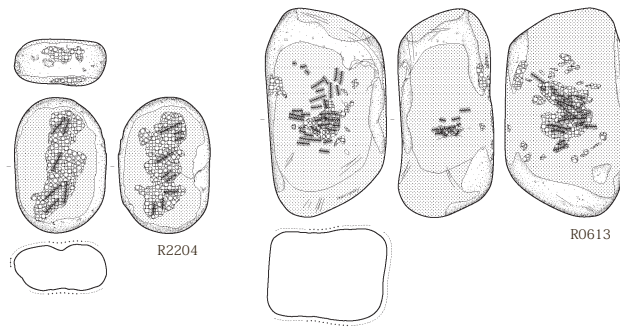
台石 主に中型～大型の円礫ないしは亜円礫を素材とし、平坦な面に線状の潰れ痕跡（敲打痕B4）を持つ礫石器である（第63図）。

石皿

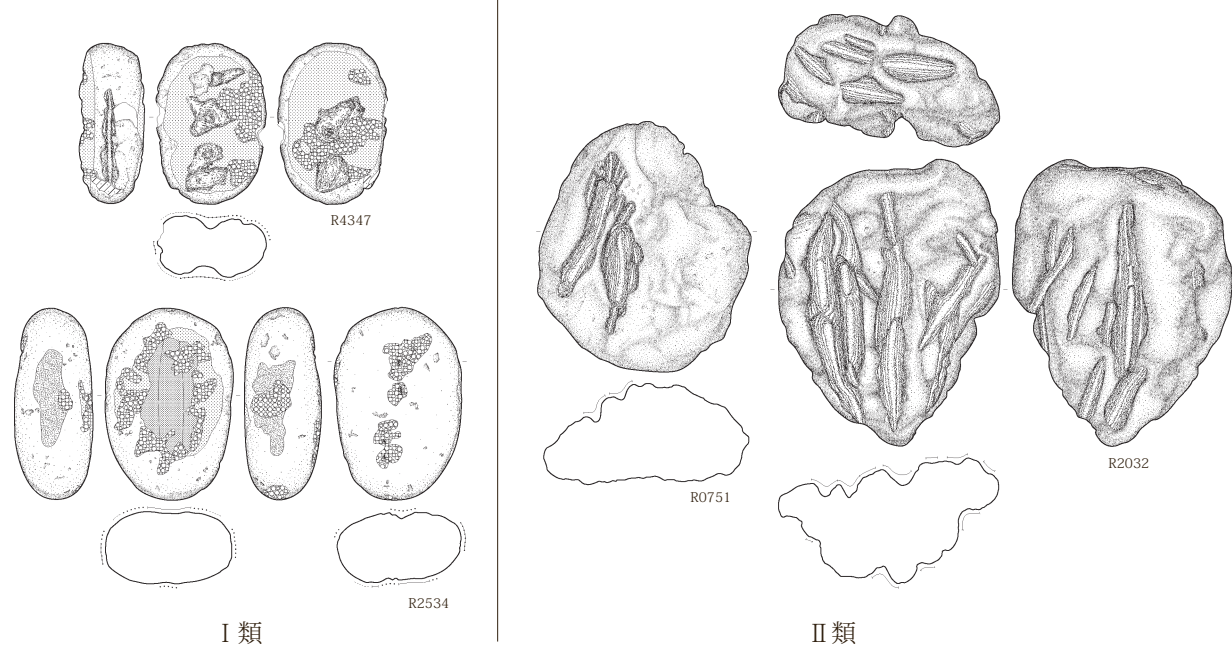


第62図 礫石器の器種と類型（1）石皿

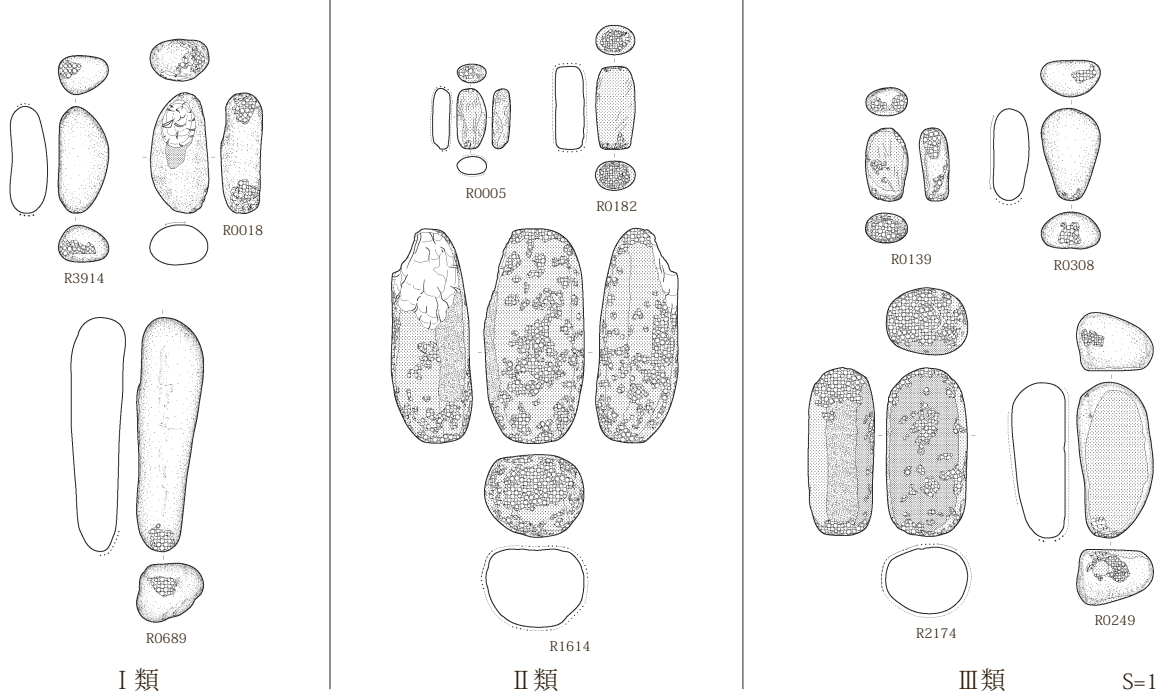
台石



有溝砥石



敲石



S=1/6

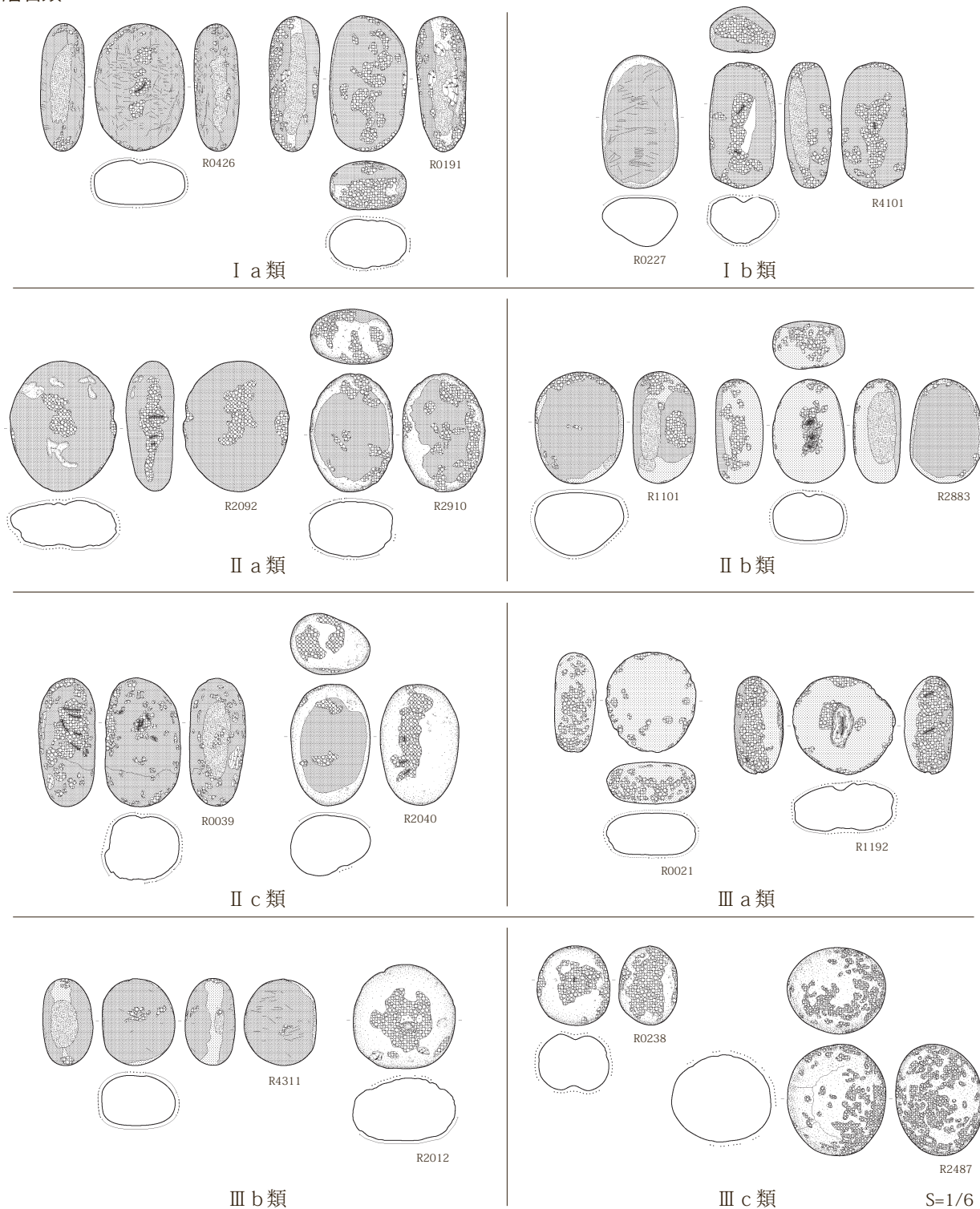
第 63 図 礫石器の器種と類型 (2) 台石, 有溝砥石, 敲石

有溝砥石 主に中～大型の不整形礫ないしは中型の円礫を素材とし、研磨溝を持つ礫石器である。素材選択による形態の違いと研磨溝内面の表面状態の違いからⅠ～Ⅱ類に細分した（第63図）。

Ⅰ類：肌理の細かい安山岩もしくは多孔質のスコリア質玄武岩の円礫を素材とし、正面または側面に長軸方向の研磨溝を持つもの。磨石類としての使用が認められる。

Ⅱ類：多孔質のスコリア質玄武岩の不整形の垂円礫を素材とし、両面と側面に主に長軸方向の研磨溝を持つ

磨石類



第64図 礫石器の器種と類型 (3) 磨石類 (1)

もの。複数の研磨溝が並列あるいは重複して認められる。

敲石 主に小型～中型の円礫を素材とし、端部に平滑化した敲打痕（敲打面）を持つ礫石器である。素材礫の長軸と敲打面の位置関係によりⅠ～Ⅲ類に細分した（第63図）。

Ⅰ類：敲打面が長軸に対して斜交するもの。

Ⅱ類：敲打面が長軸に対して直交するもの。

Ⅲ類：長軸に対して斜交・直交する敲打面が複合するもの。

磨石類 その他の器種に分類されないもので、主に小型～中型の円礫を素材とし、磨面・磨敲面・敲打痕・凹痕を持つ礫石器である。複数種の表面痕跡が複合的・重層的に観察されるものが大多数を占め、多用途に兼用または転用される複合石器としての性格が極めて強いと考えられる。平面・断面形態によりⅠ～Ⅶ類に細分した（第64・65図）。

Ⅰ類：正面形が小判形を呈するもの。

Ⅰa類：正面・裏面が扁平なもの。

Ⅰb類：片面が扁平なもの。

Ⅱ類：正面形が楕円形を呈するもの。

Ⅱa類：正面・裏面が扁平なもの。

Ⅱb類：片面が扁平なもの。

Ⅱc類：扁平部を持たないもの。

Ⅲ類：正面形が略円形を呈するもの。

Ⅲa類：正面・裏面が扁平なもの。

Ⅲb類：片面が扁平なもの。

Ⅲc類：扁平部を持たないもの。

Ⅳ類：正面形が三角形を呈するもの。

Ⅳa類：正面・裏面が扁平なもの。

Ⅴ類：円柱状を呈するもの。

Ⅵ類：角柱状を呈するもの。

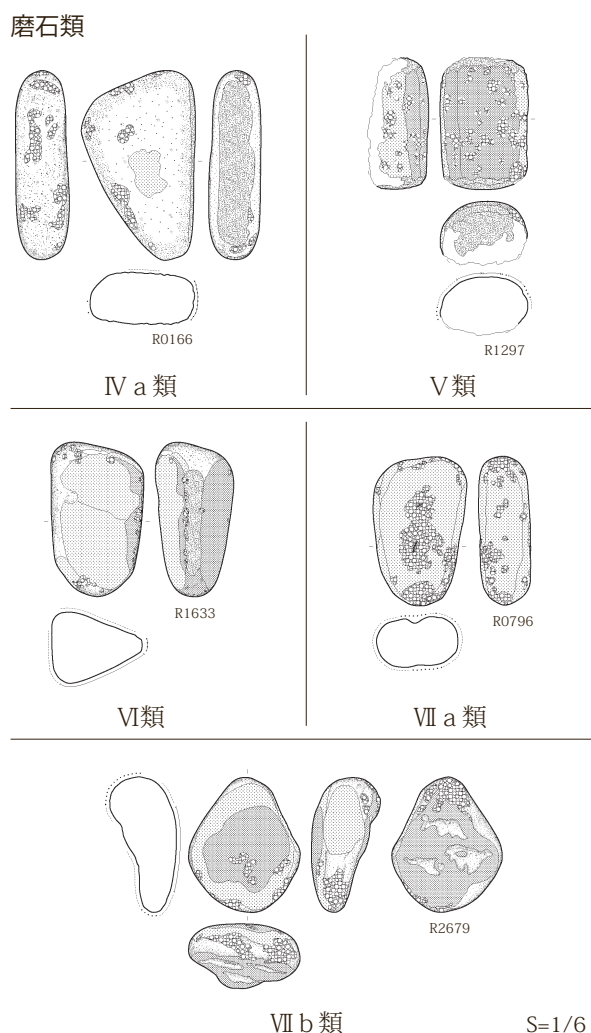
Ⅶ類：不整形を呈するもの。

Ⅶa類：正面・裏面が扁平なもの。

Ⅶb類：片面が扁平なもの。

③石材

地質学・鉱物学・岩石学的な分類体系に則った岩石名を使用し、第9表の通り分類した。



第65図 礫石器の器種と類型 (4) 磨石類 (2)

(5) 石製品

形態的特徴と製作技術によって下記の通り器種分類した。石材の分類は地質学・鉱物学・岩石学的な分類体系に則った岩石名を使用した。

①器種と細分

器種は垂飾品・異形石器・石棒・小型石棒・棒状石製品・乳鉢状石製品・浮子状石製品・三脚石器・円盤状石製品・板状有溝石製品・鋸歯縁石製品・線刻礫・砥石に分類し、各器種の細部の形態的特徴により下記の通り細別した（第66～68図）。

第9表 礫石器石材分類表

分類		岩石種	岩石名
火成岩類	火山岩	玄武岩類	玄武岩・安山岩質玄武岩・スコリア質玄武岩
		安山岩類	安山岩・細粒安山岩・角閃石安山岩・輝石安山岩・玄武岩質安山岩・角閃石輝石安山岩・珪質細粒安山岩・両輝石安山岩・軽石質安山岩
		デイサイト類	デイサイト・流紋岩質デイサイト・軽石質デイサイト
		流紋岩類	流紋岩
		ドレライト類	ドレライト
		斑岩類	花崗斑岩・閃緑斑岩
	深成岩	花崗岩類	花崗岩・黒雲母花崗岩・花崗閃緑岩・細粒花崗閃緑岩
		閃緑岩類	閃緑岩・石英閃緑岩
		斑れい岩類	-
		角閃石岩類	-
堆積岩類	碎屑岩	礫岩類	砂礫岩・緑色凝灰岩質砂礫岩
		砂岩類	砂岩・凝灰質砂岩・珪質砂岩・花崗岩質砂岩・緑色凝灰質砂岩
		泥岩類	泥岩・凝灰質泥岩・凝灰質シルト岩
火山碎屑岩類		凝灰岩類	凝灰岩・緑色凝灰岩・軽石質凝灰岩・白色凝灰岩・火山礫凝灰岩・溶結凝灰岩・安山岩質凝灰岩・流紋岩質溶結凝灰岩・結晶質凝灰岩・軽石質緑色凝灰岩
変成岩類	広域変成岩	緑色岩類	緑色岩・玄武岩質緑色岩・ドレライト質緑色岩
		片岩類	結晶片岩・緑色片岩
		片麻岩類	片麻岩
		角閃岩類	-
	接触変成岩	ホルンフェルス類	-
		珪岩類	-
鉱物		シリカ鉱物	石英岩

※実測図を掲載し観察記載を行なった資料について岩石名を記載し、これ以外の資料については岩石種までの予備的分類とした。

垂飾品 入念な研磨によって仕上げられた小型の磨製石器で、上部中央に貫通孔を持つことから垂飾品と考えられるものである。ヒスイ輝石岩製で正面形は下部が幅狭な短冊形を呈し、横断面形は非対称な凸レンズ状を呈する（第66図）。

異形石器 多様な形態を示す小型の石器で、その他の器種に分類されないものである。主に薄手の小型剥片を素材とし、両面の全体または縁辺部に押圧剥離による入念な細部調整を加える。挾入部が連続して鋸歯状を呈するもの、三日月形を呈するもの、四肢動物の上面・側面観に類似するものがある（第66図）。

石棒 円柱状を呈する大型の磨製・敲打製石器である。柱状部は上部に向かってやや細く、中位で括れる鼓形の頭部を持つ有頭石棒がある。デイサイト類または凝灰岩類の柱状節理による角柱状の棒状礫を素材とし、入念な敲打による整形加工を加え、研磨によって仕上げるものもある（第67図）。

小型石棒 円柱状を呈する小型の磨製石器である。柱状部は上部で僅かに括れ、球状の頭部を持つ有頭石棒がある。凝灰岩を素材とし、敲打またはケズリによる整形加工の後、研磨を加える。頭部に彫刻により横位沈線・斜位短沈線を施文する（第66図）。

棒状石製品 柱状を呈する中型～大型の磨製・敲打製石器である。柱状節理による棒状角礫などを素材とし、剥離および敲打、研磨を加える。調整は部分的で素材の形状を残すものが多く、一部は石棒の未成品とも考えられる。素材選択による形態の違いからⅠ～Ⅱ類に細分した（第67図）。

Ⅰ類：柱状節理による角柱状の棒状角礫ないしは亜角礫を素材とし、剥離および敲打、研磨を加えるもの。調整は部分的で素材の形状を残すものが多く、剥離と敲打による調整を全体的に入念に加えるものは石棒の未成品とも考えられる。端部に敲打痕が集中し、これに伴う剥離や損傷の痕跡を持つものが見られることから使用痕跡とも考えられる。

第3章 調査の成果

Ⅱ類：棒状ないしは長楕円形の円礫を素材とし、剥離および敲打、研磨を加えるもの。調整は部分的で素材の形状を残すものが多い。端部に敲打痕が集中し、これに伴う剥離や損傷の痕跡を持つものが見られることから使用痕跡とも考えられる。

乳鉢状石製品 容器状を呈する小型～中型の磨製・敲打製石器である。円礫を素材とし、正面中央部に碗形ないしは播鉢状の凹部を作出する。素材選択による凹部内面の表面状態の違いからⅠ～Ⅱ類に細分した（第68図）。

Ⅰ類：肌理の細かい凝灰岩類の円礫を素材とし、正面中央部に碗形の凹部を作出するもの。凹部の内面には入念な研磨を加える。

Ⅱ類：多孔質のスコリア質玄武岩の円礫を素材とし、正面中央部に播鉢状の凹部を作出するもの。凹部の内面は平滑に削り取られ、底面付近は摩滅痕が確認できる。

浮子状石製品 不整形の板状を呈する小型の石製品である。多孔質のスコリア質玄武岩の板状の円礫を素材とし、上部に貫通孔を持つ（第68図）。

三角石器 三角形の板状を呈する小型の石製品である。剥片または板状節理による分割礫を素材とし、急角度剥離により三辺を直線状または緩やかな弧状に整形する。側面形は正面側が膨らみを持つ緩やかな弧状を呈する。両面の一部に摩滅痕を認めるものがある（第68図）。

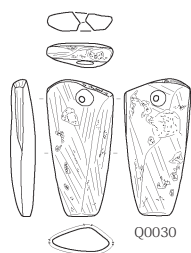
円盤状石製品 略円形の板状を呈する小型の石製品である。扁平な円礫を素材とし、全周に剥離と敲打による調整を加え、両面に弱い摩滅痕を認める（第68図）。

板状有溝石製品 隅丸の台形で板状を呈し、側面に溝状の凹部を持つ小型の石製品である。多孔質のスコリア質玄武岩を素材とし、両面と側面を研磨により整形する（第68図）。

鋸歯縁石製品 裏面が比較的平坦な不整形で縁辺に鋸歯状の抉入部を持つ小型の石製品である。不整形の礫または礫片を素材とし、縁辺部に剥離または研磨により連続的に抉入部を作出する。両面と側面に摩滅痕を認める（第68図）。

線刻礫 表面に線刻を認める小型の礫である。棒状の小円礫の側面に刻み目状にやや幅広の線刻を施すもの、扁平な撥形の小円礫の両面にやや幅広のものを含む斜位・縦位・横位の線刻を施すもの、扁平な礫片の

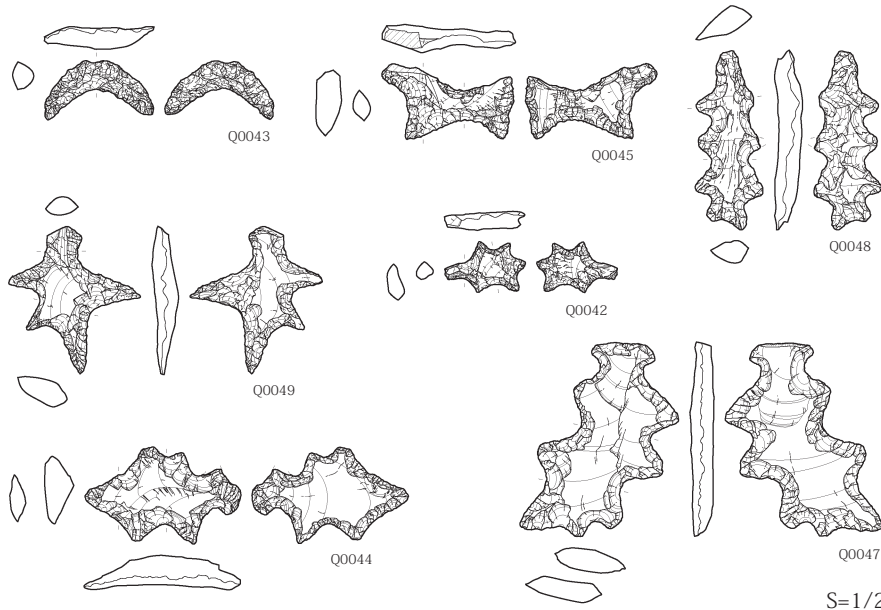
垂飾品



小型石棒

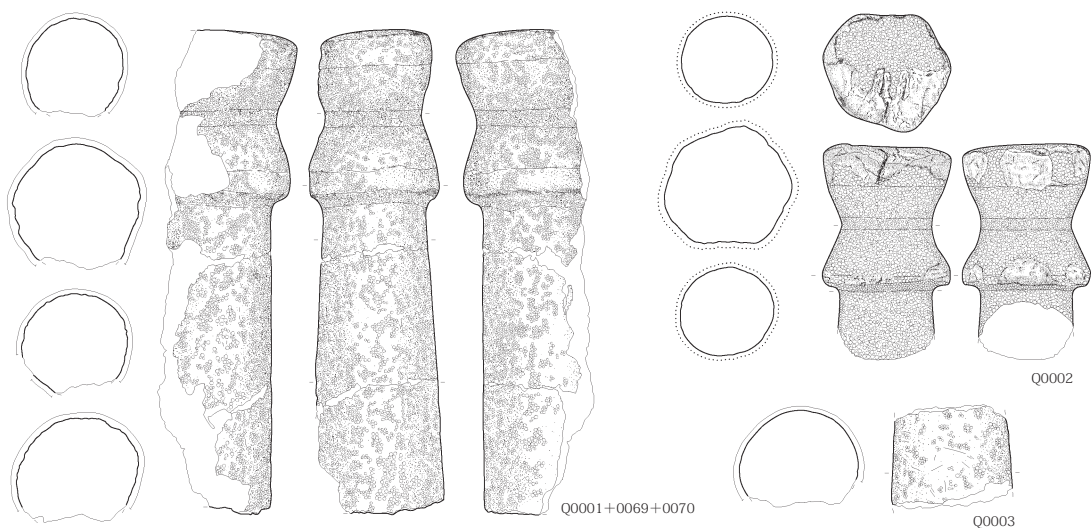


異形石器

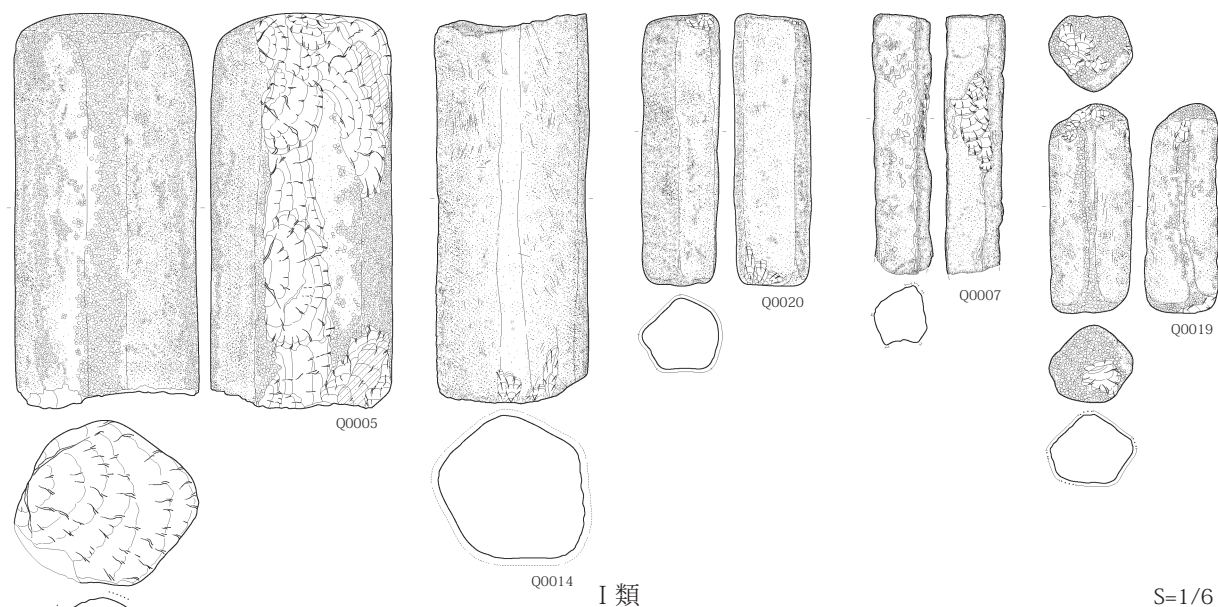


第66図 石製品の器種と類型 (1) 垂飾品, 小型石棒, 異形石器

石棒



棒状石製品



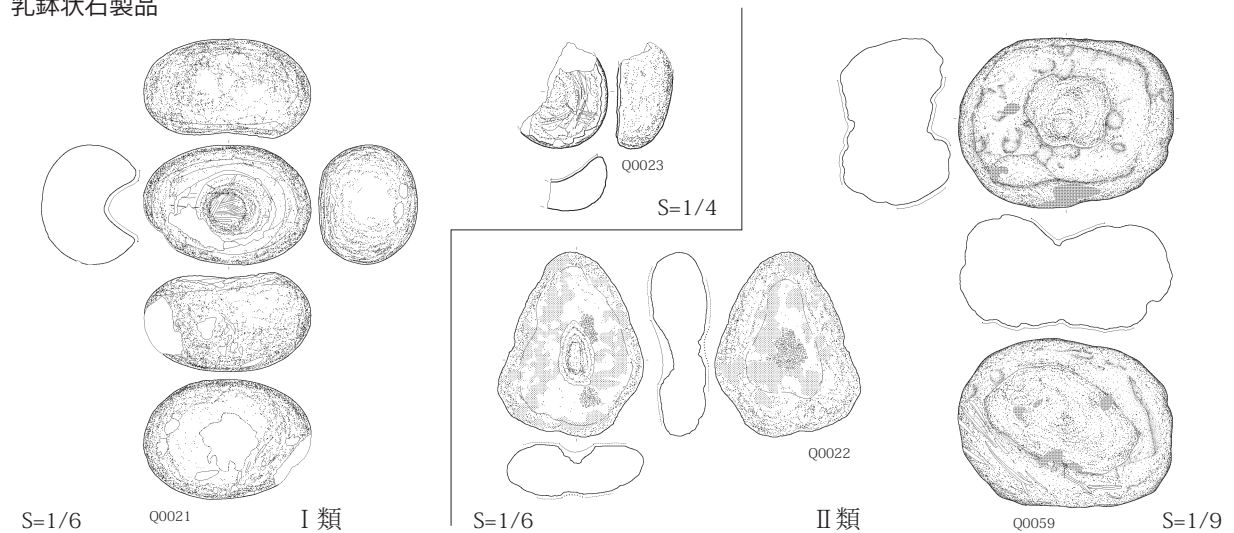
I 類



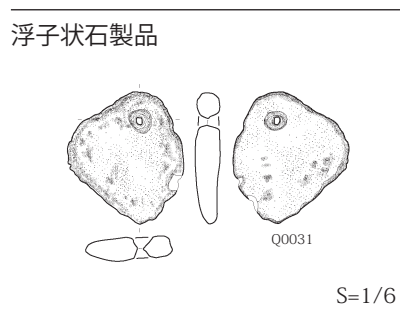
II 類

第 67 図 石製品の器種と類型 (2) 石棒, 棒状石製品

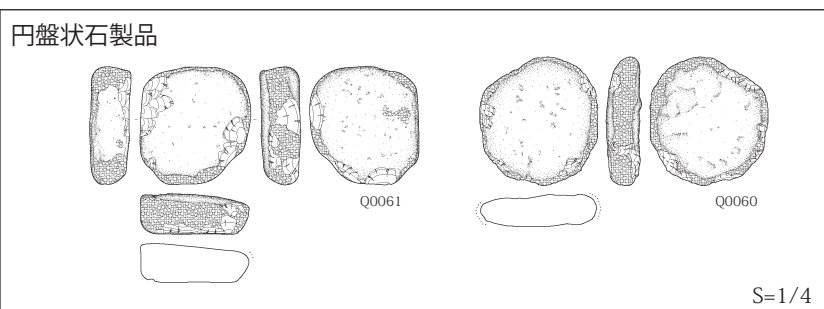
乳鉢状石製品



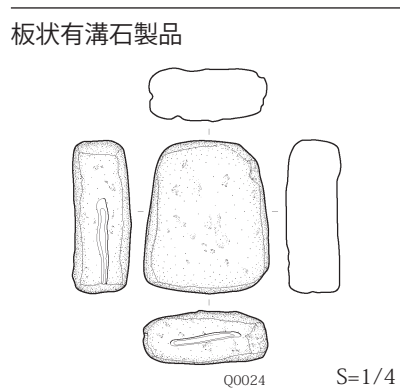
浮子状石製品



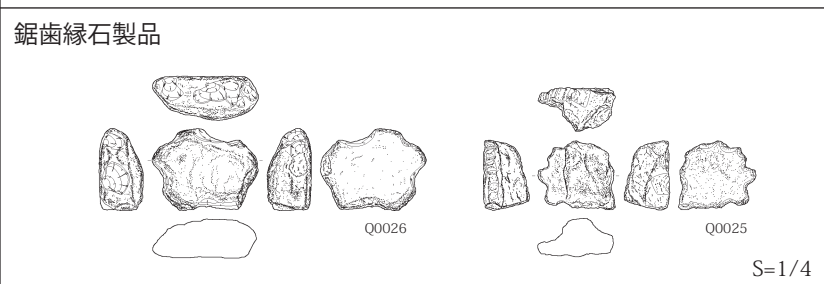
円盤状石製品



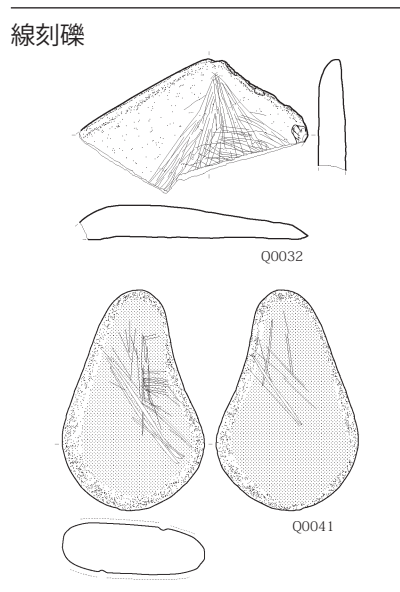
板状有溝石製品



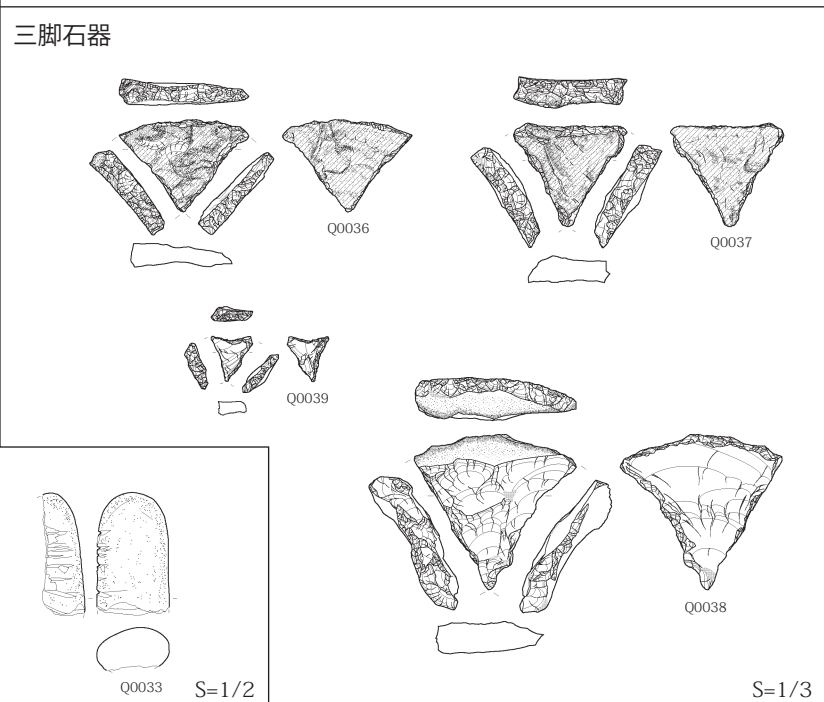
鋸歯縁石製品



線刻礫



三脚石器



第68図 石製品の器種と類型 (3) 乳鉢状・浮子状・円盤状・鋸歯縁・板状有溝石製品, 三脚石器, 線刻礫

第10表 石製品石材分類表

分類		岩石種	岩石名
火成岩類	火山岩	玄武岩類	玄武岩・スコリア質玄武岩
		安山岩類	安山岩・輝石安山岩・軽石質安山岩
		デイサイト類	デイサイト
堆積岩類	碎屑岩	泥岩類	珪質頁岩・泥岩・凝灰質シルト岩
火山碎屑岩類		凝灰岩類	凝灰岩・結晶質凝灰岩・溶結凝灰岩・珪化凝灰岩・緑色凝灰岩
変成岩類	広域変成岩	緑色岩類	玄武岩質緑色岩
		片岩類	片岩・ヒスイ輝石岩
鉱物		シリカ鉱物	玉髄・碧玉（赤・緑）

片面に上部で収斂する放射状の細かい線刻と、これに直交・斜交する細かい線刻を施すものがある（第68図）。

砥石 細粒の凝灰岩類の切石を素材とし、直方体を呈する砥石である。形態的特徴から金属器の直線状の刃部の研ぎ出しに使用したもので、古墳時代以降ないしは比較的新しい時期のものと考えられる。

②石材

地質学・鉱物学・岩石学的な分類体系に則った岩石名を使用し、第10表の通り分類した。

第4節 遺構と遺物の詳説

1. 遺構と遺物の分布

(1) 調査区内の微地形と遺構の確認状況

調査区内の遺構確認面における微地形は南東方向に向かって緩やかに傾斜し、調査区中央部がごく浅い谷地形の沢頭にあたる（第69図）。調査区南部のS-27ライン以南は後世の削平の影響が見られ遺構面を一部消失しているが、本来は調査区南側を東西に延びる低い尾根状の地形につながる緩やかな斜面であったと考えられる。遺構は調査区内のほぼ全域で確認し、分布の密度は極めて濃密である（第70図）。確認した遺構の内訳は第2章に既述のとおり竪穴住居跡3軒、掘立柱建物跡11軒、竪穴状遺構10基、炉跡18基、フラスコ状土坑56基、落とし穴状土坑2基、土坑396基、配石遺構1基、土器埋設遺構12基、遺物集中1か所、石器集積6か所、焼土集積19基、遺物包含層9か所、溝跡3条、組み合わない柱穴984基である。主な遺構の分布状況について以下に述べる。

竪穴住居跡（第71図） 3軒が調査区中央から南部に10m前後の間隔で点在し、重複は見られない。南部の標高126.2m付近に1軒、126.7m付近に2軒があり、やや傾斜の緩くなる場所を選び、沢頭の浅い窪地を取り巻くように立地している。

掘立柱建物跡 11軒が調査区北東部の標高126.0～127.0m付近に一部重複して分布する（第72・73図）。掘立柱建物跡Aは6軒が概ね東西方向を基調として南北に並列して分布する。北側の2軒は重複がなく、南側では2軒ずつがほぼ同位置で重複する。南側は浅い窪地の中に位置しており、集落内の施設配置において規制が働いていたことが窺える。掘立柱建物跡Bは1軒が調査区北部に、掘立柱建物跡Cは4軒が点在して分布し、浅い窪地の両側でやや傾斜の緩くなる場所を選んでいる。

竪穴状遺構 10基が調査区中央から北東部に一部重複しながら点在する（第74図）。浅い窪地の両側でやや傾斜の緩くなる場所を主体に、一部は窪地内にも分布する。

炉跡・焼土集積 炉跡は18基、焼土集積は19基が調査区北東部に分布する（第75図）。炉跡の多くは掘立柱

建物跡 A に伴うものであり、焼土集積は掘立柱建物跡 A の床面を覆う遺物包含層中で確認している。

フラスコ状土坑 56 基のうち 47 基が調査区東部の標高 126m 付近に集中的に分布する（第 76 図）。複数基の重複も見られ、配置に強い規制が働いていたことが窺える。また、北部の標高 127.2m 付近に 5 基が一部重複して分布する。

落とし穴状土坑 2 基がやや傾斜の緩くなる調査区西部に分布する（第 77 図）。長軸を等高線に沿う北東―南西方向に取り、2 基の間隔は約 7m である。調査区西側に続く列状配置の一部である可能性がある。

土坑 396 基が調査区内のほぼ全域に分布し、多数基の重複も見られる（第 77 図）。

土器埋設遺構 12 基のうち 9 基が調査区北部から南方部にかけて弧状に分布する（第 78 図）。

配石遺構 調査区西部の方向 127.0m 付近に 1 基が位置する（第 78 図）。

遺物集中 調査区中央部の標高 126.8m 付近に 1 か所、遺物包含層の未発達な部分に分布する（第 79 図）。

石器集積 調査区中央から北部に 6 か所が点在する（第 79 図）。

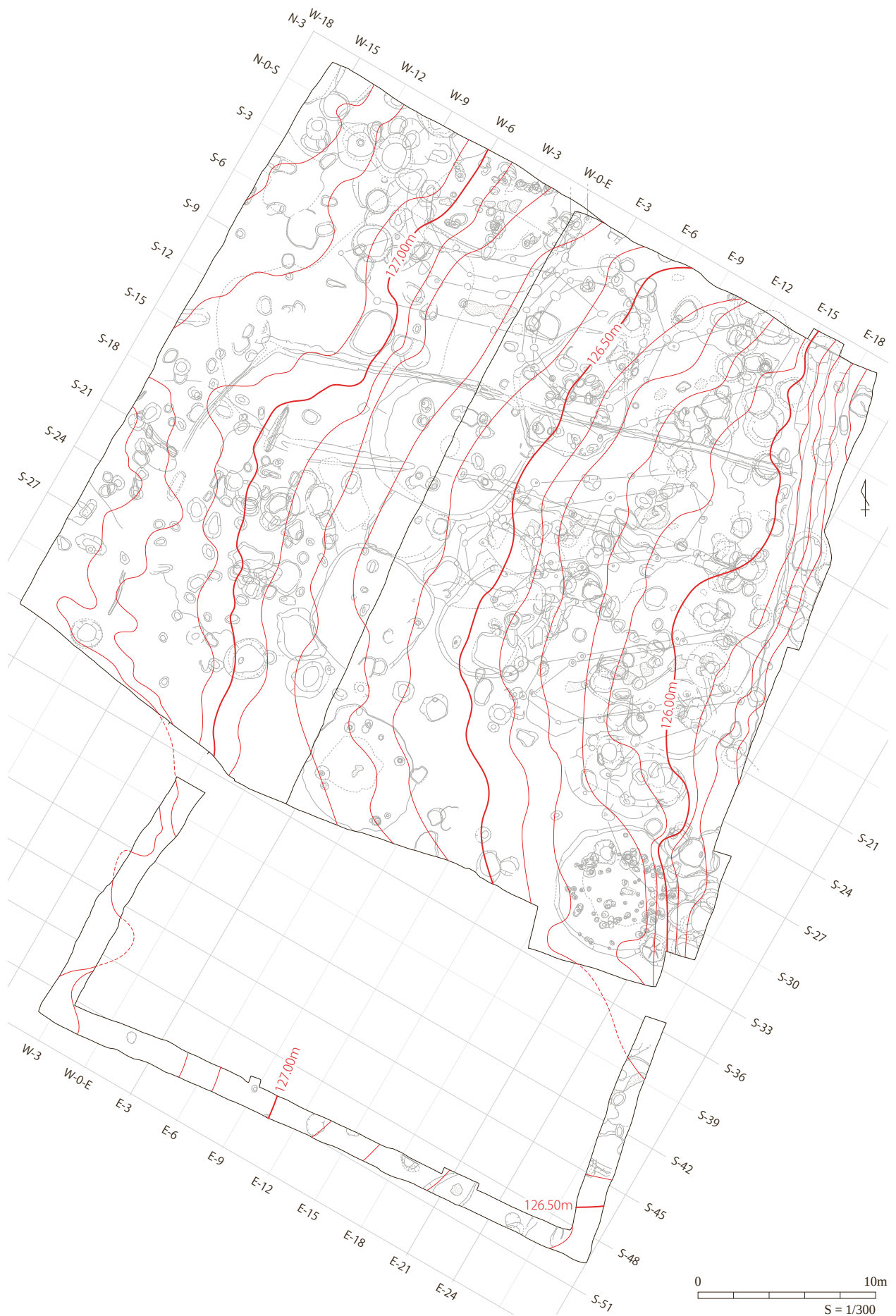
遺物包含層 9 か所が調査区内の広範囲に分布するが、大きく調査区の東西に分かれる（第 79 図）。東部の 5 か所は標高 126.0 ～ 126.5m の浅い窪地を中心に掘立柱建物跡 A の床面を覆うように分布する。西部の 4 か所は標高 126.8 ～ 127.3m のやや傾斜の緩くなる場所に分布する。

溝跡 調査区東端に 1 条が南北方向に直線的に延び、これにほぼ直交して 2 条が平行に西方向へ直線的に延びて西側で南へ折れる（第 80 図）。

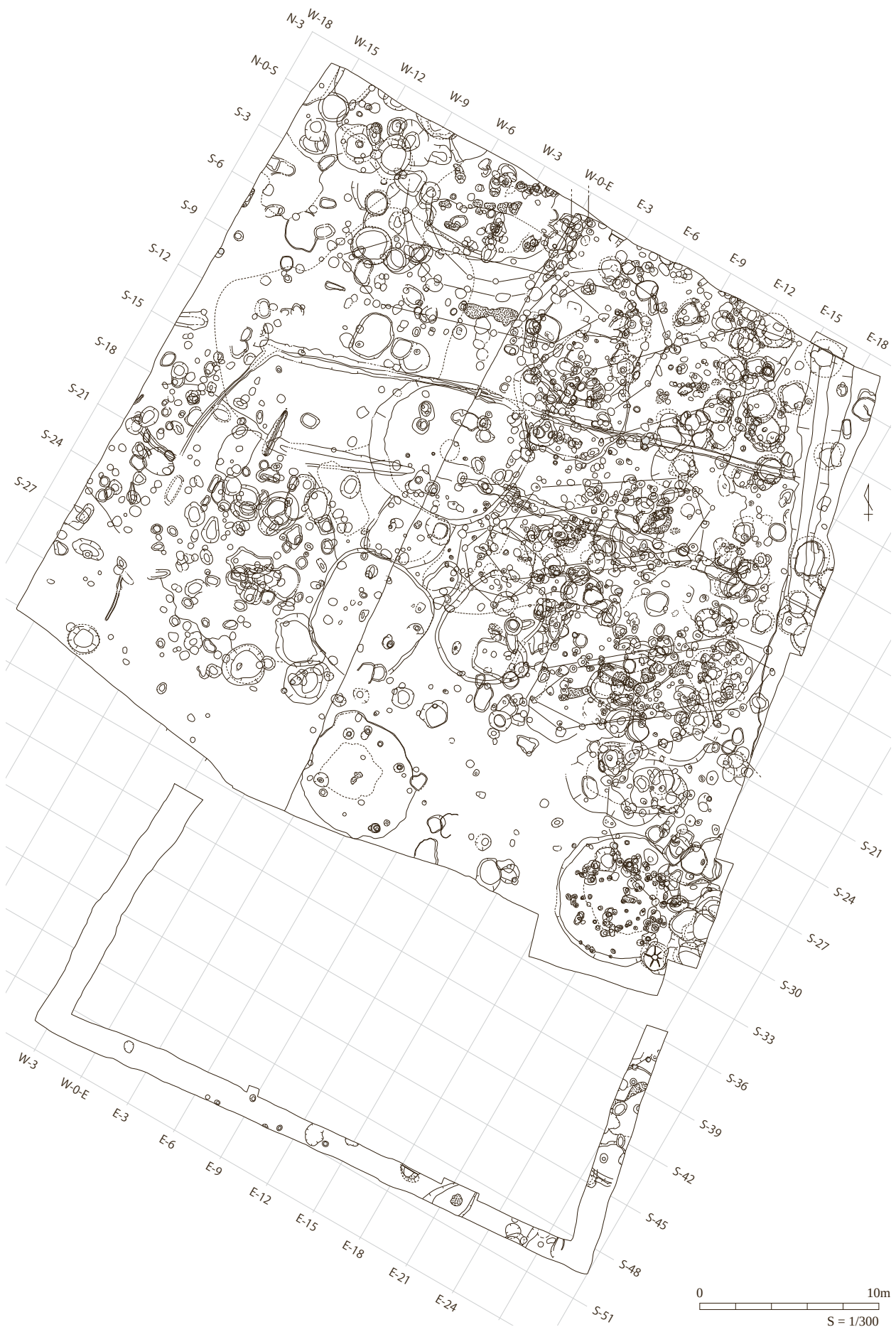
組み合わせない柱穴 984 基が調査区内のほぼ全域に分布し、多数基の重複も見られる（第 81 図）。掘立柱建物跡が分布する調査区北東部の標高 126.0 ～ 127.0m 付近で特に濃密に分布し、柱痕跡を確認したものも多数分布する。これらは掘立柱建物跡に付随する柱穴のほか、柱穴の組み合わせを把握できなかった掘立柱建物跡も複数存在するものと考えられる。調査区中央から南西部の標高 125.0m 付近より上位では相対的にやや散漫な分布を示し、柱痕跡を確認したものは少数に留まる。分布の粗密が土坑のそれと近似することから、建物の柱穴とは異なる性格の掘り込みとも考えられる。

（2）遺物の分布状況

各遺構における遺物の出土状況は、床面や底面に直接伴って出土し遺構機能時の遺物と考えられるものは限定的であり、大半は廃絶後の堆積層中から出土している。竪穴住居跡では床面に近い堆積土下層で複数の完形・復元個体を含む縄文土器などのまとまった遺物の出土が見られ、廃絶後の窪地に一括廃棄したものと考えられる。フラスコ状土坑でも堆積土中に復元・完形個体を含む縄文土器などの遺物の一括廃棄層が認められ、埋め戻しまたは崩落土を挟んで複数の廃棄層を形成しているものがある。また、多量の破片を含む縄文土器などの遺物がまとまって出土した土坑があり、廃棄土坑と考えられる。遺物包含層では縄文土器、礫石器、石器などが多量に出土し、縄文土器の完形・復元個体が多数得られている。これらの廃棄行為に伴うと考えられる主要な遺物の分布は、調査区中央から西部に偏在し（第 82 図）、上述した竪穴住居跡（第 71 図）や掘立柱建物跡（第 72・73 図）、竪穴状遺構（第 74 図）、炉跡（第 75 図）、フラスコ状土坑（第 76 図）などの主要な遺構の分布と概ね排他的な関係を示す。また、一部の住居内堆積土と遺物包含層中には焼骨片を特徴的に含み、集中部も認められた。良く焼けた白色の骨片で、ニホンジカ・イノシシを主体とする数センチ以下の骨・角の破砕片が大半である。遺構外では、基本層Ⅱ・Ⅲ層からいくつかの完形・復元個体を含む縄文土器などの遺物が散発的に出土している。



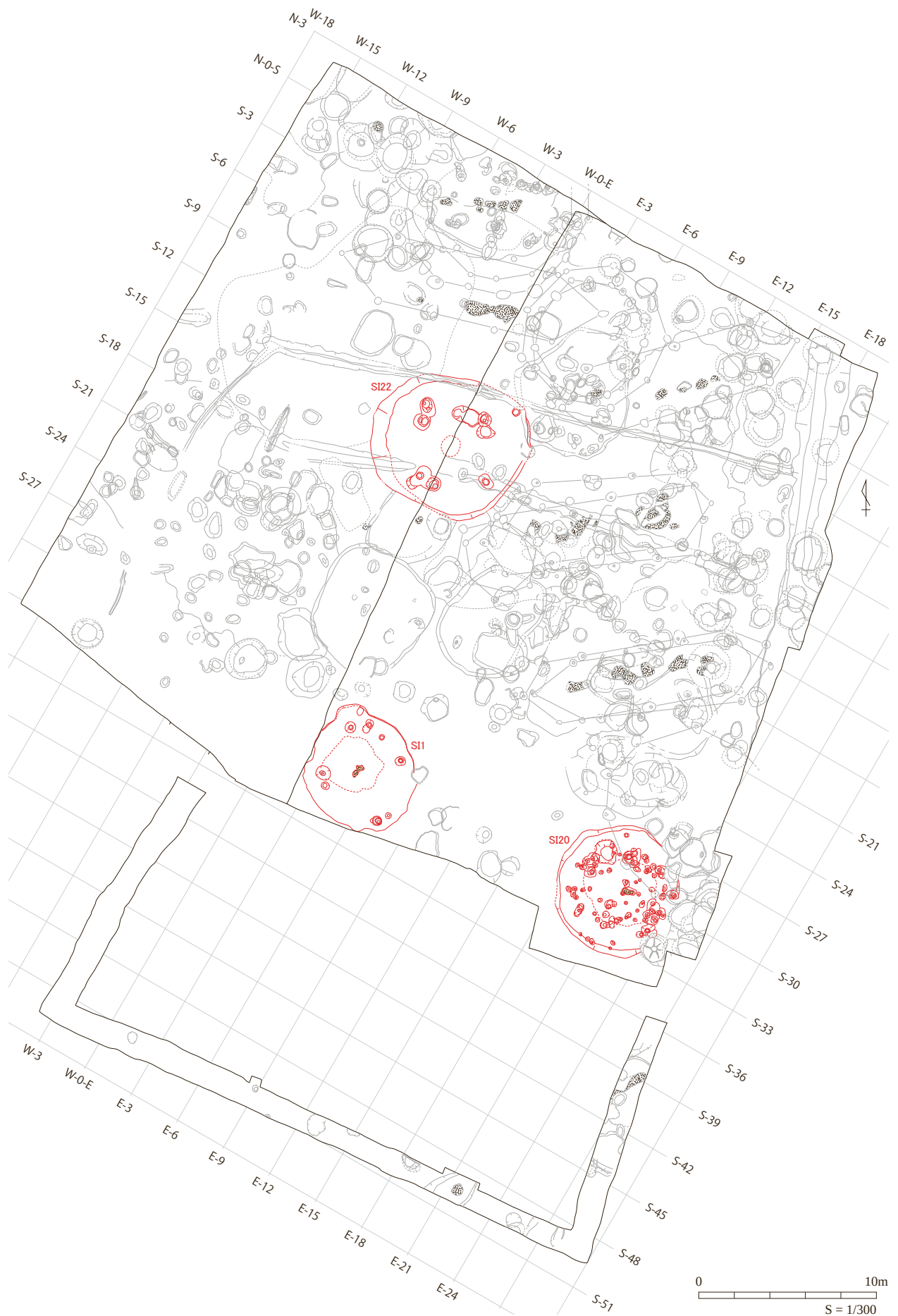
第69図 調査区の微地形



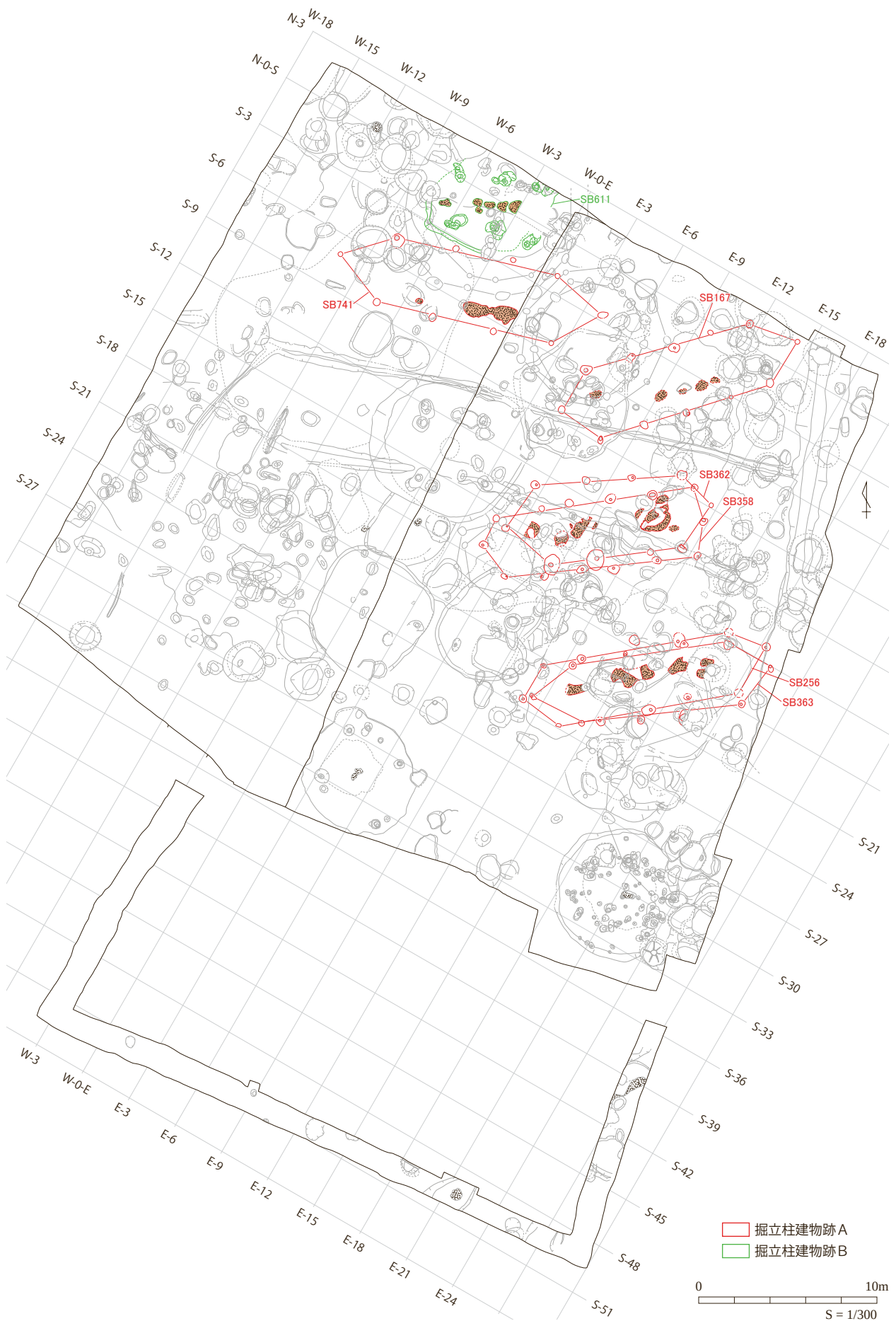
遺構と遺物の詳説

遺構と遺物の分布

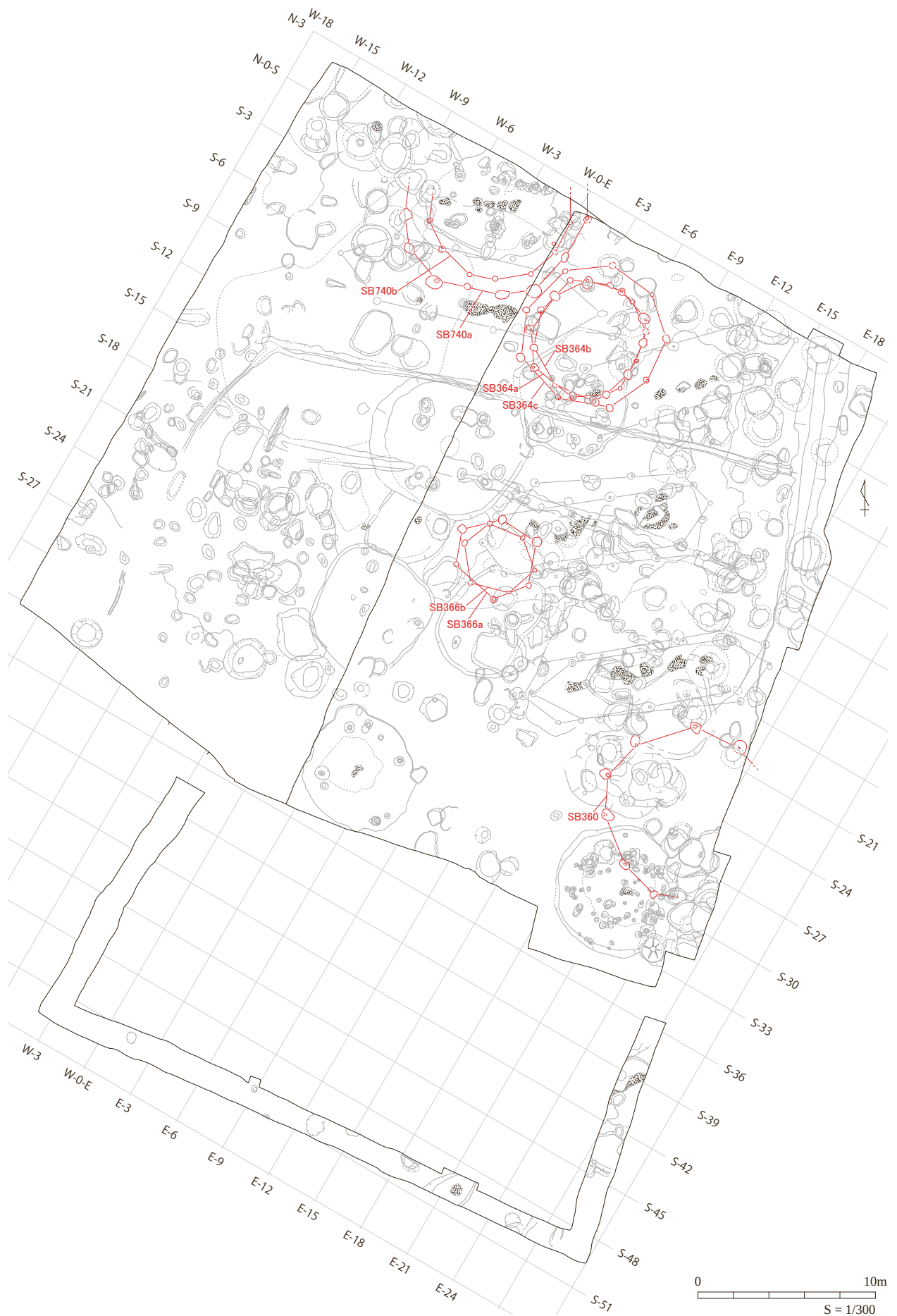
第70図 遺構配置図



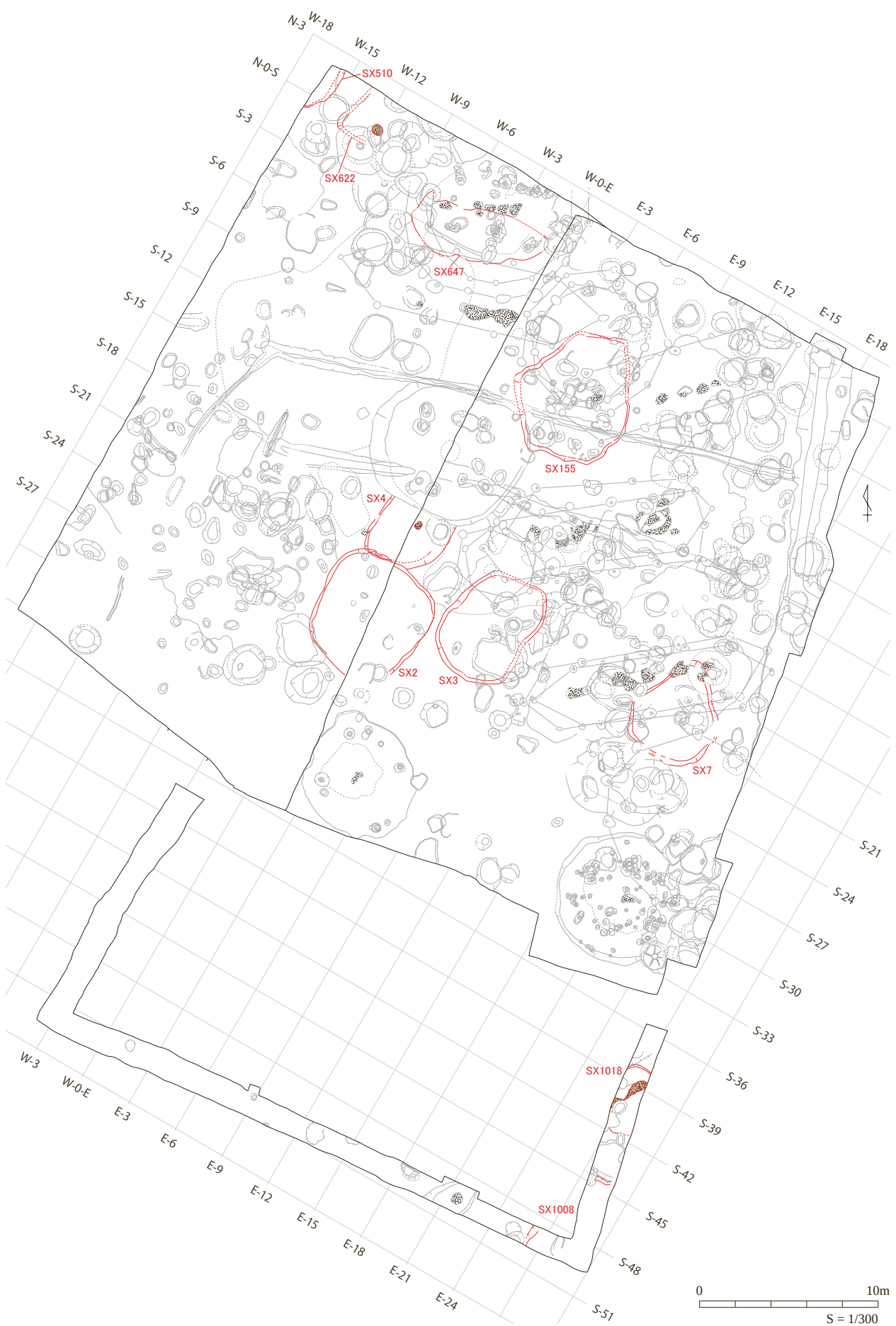
第71図 竪穴住居跡配置図



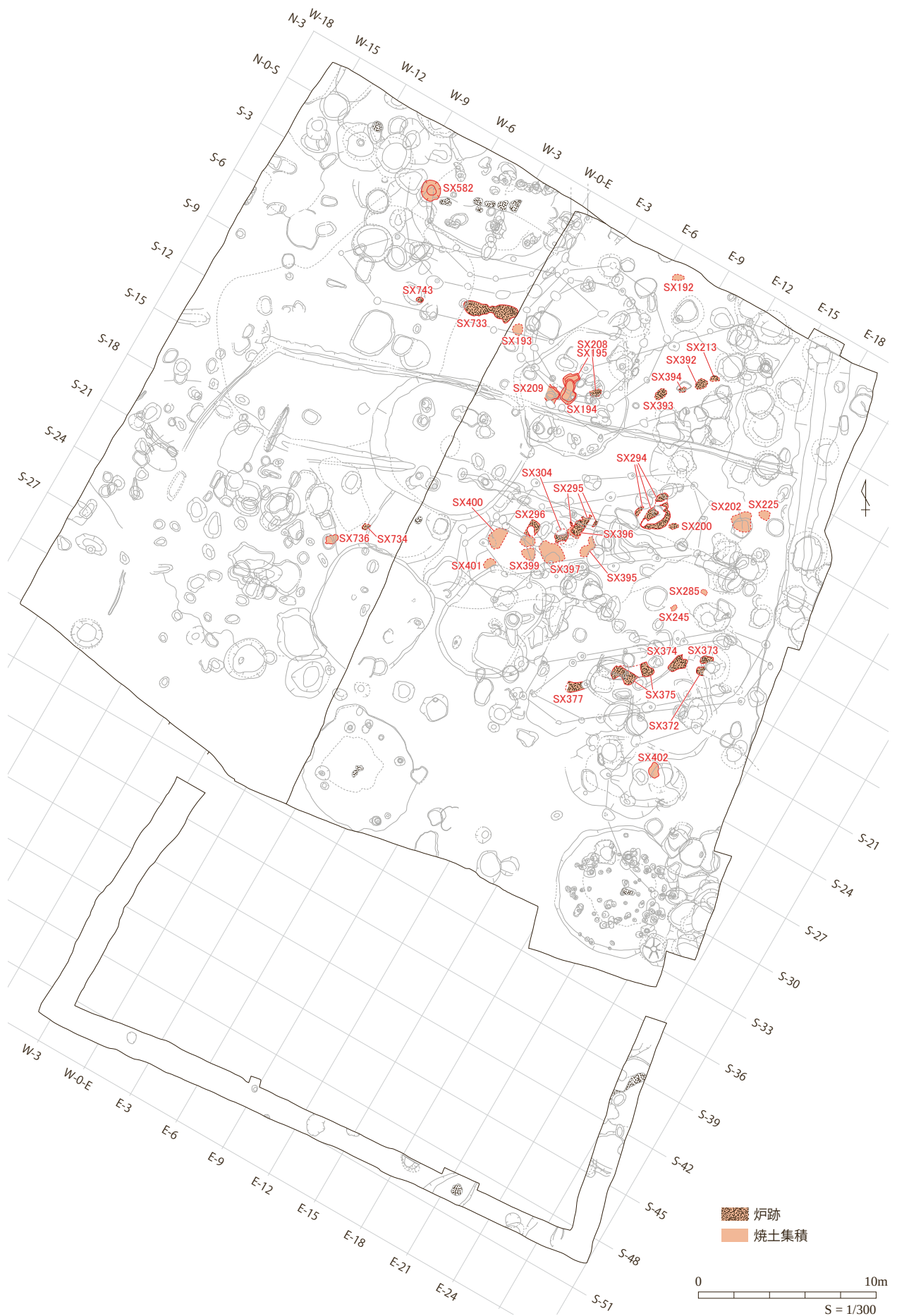
第72図 掘立柱建物跡(A・B)配置図



第73図 掘立柱建物跡 (C) 配置図



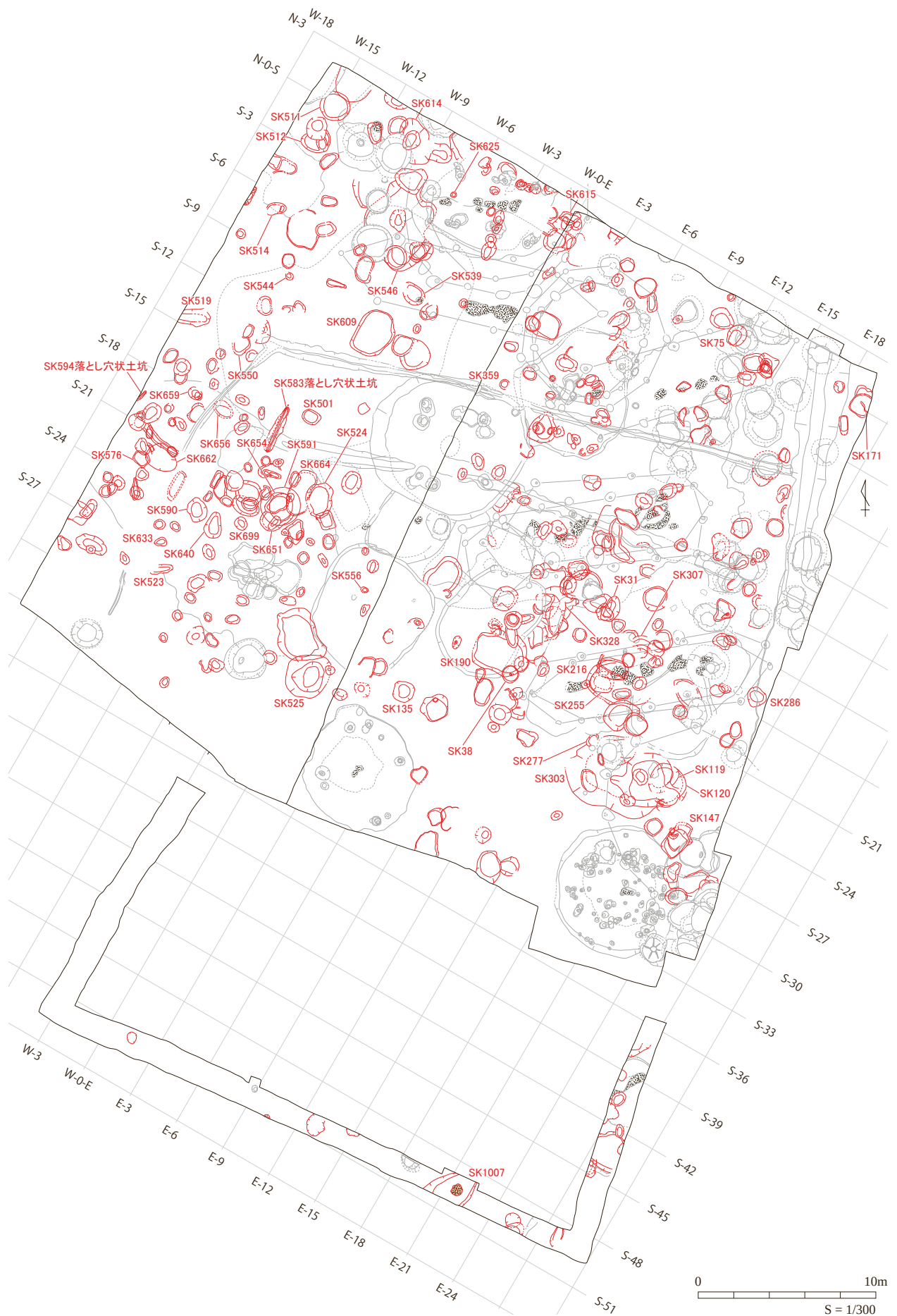
第74図 竪穴状遺構配置図



第75図 炉跡・焼土集積配置図



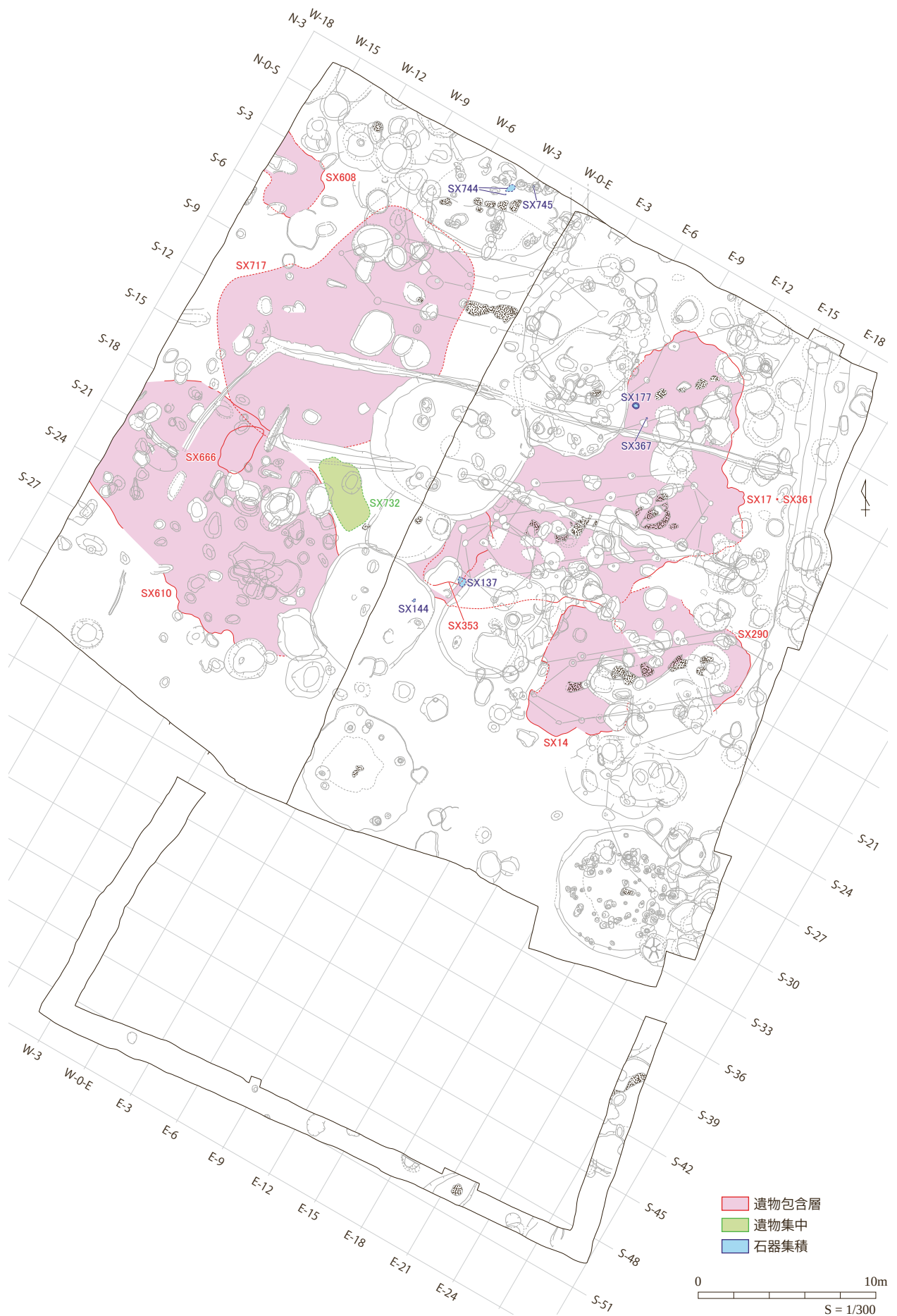
第76図 フラスコ状土坑配置図



第77図 落とし穴状土坑・土坑配置図



第78図 配石遺構，土器埋設遺構配置図



遺構と遺物の詳説

遺構と遺物の分布

第79図 遺物包含層，遺物集中，石器集積配置図



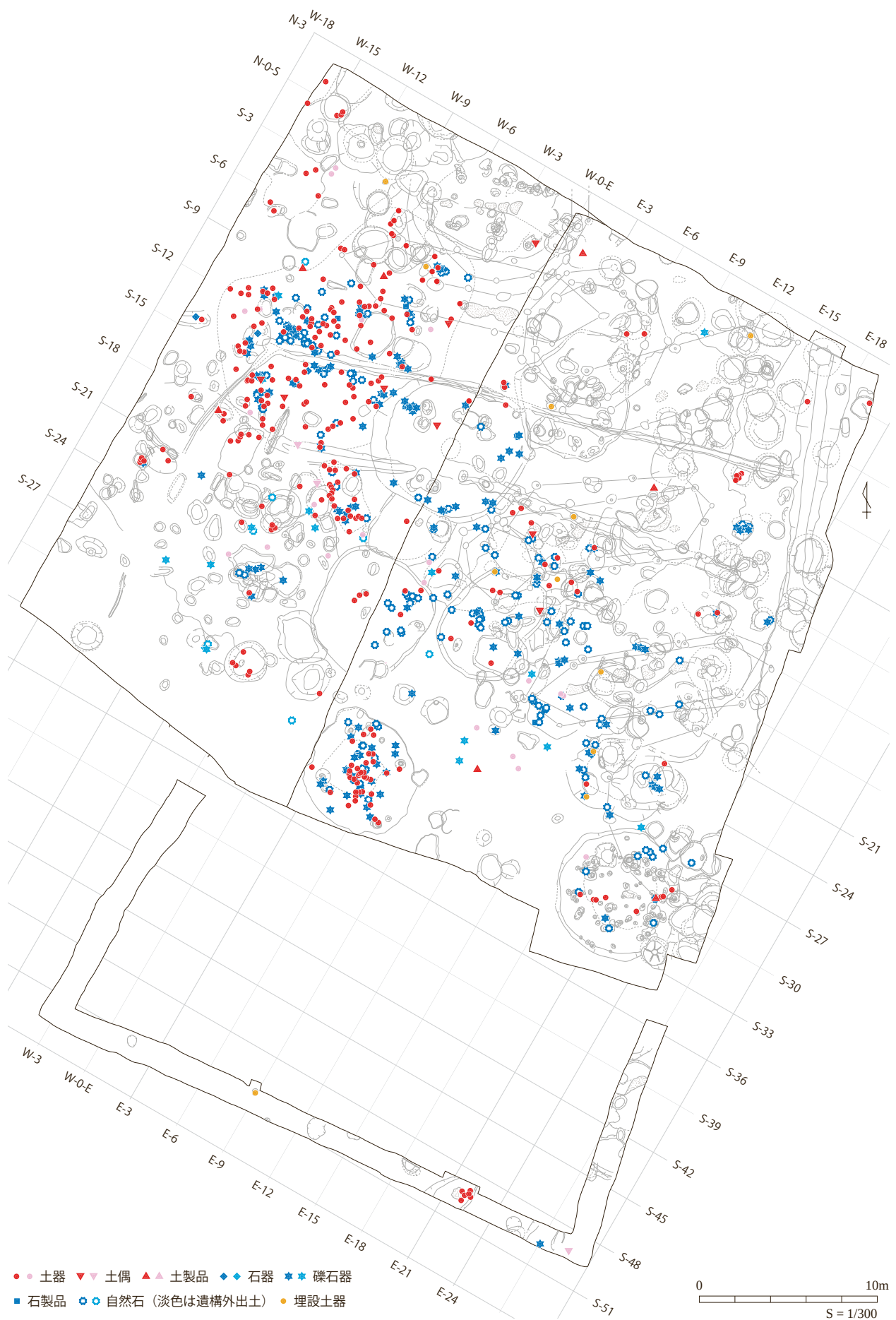
第80図 溝跡配置図



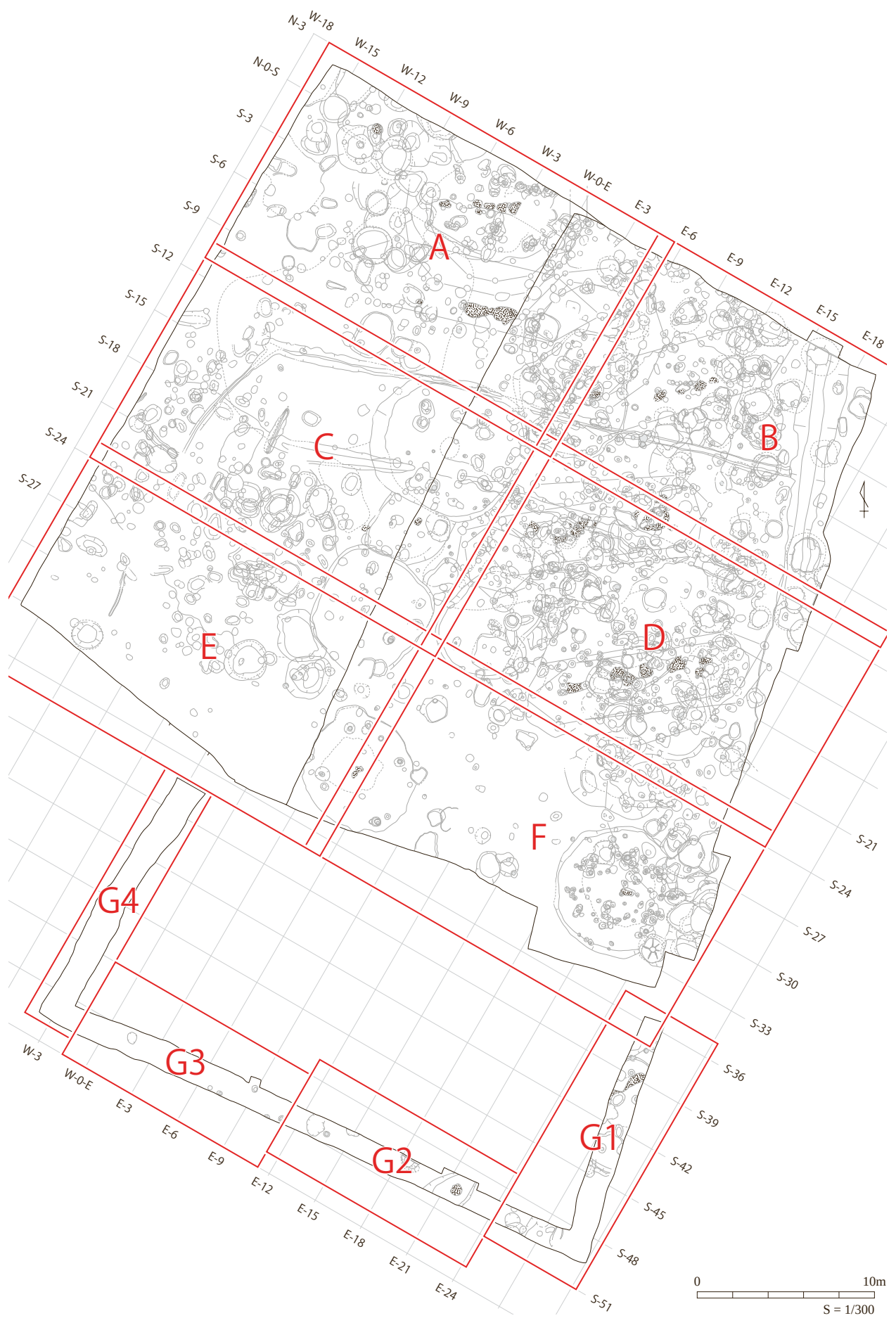
遺構と遺物の詳説

遺構と遺物の分布

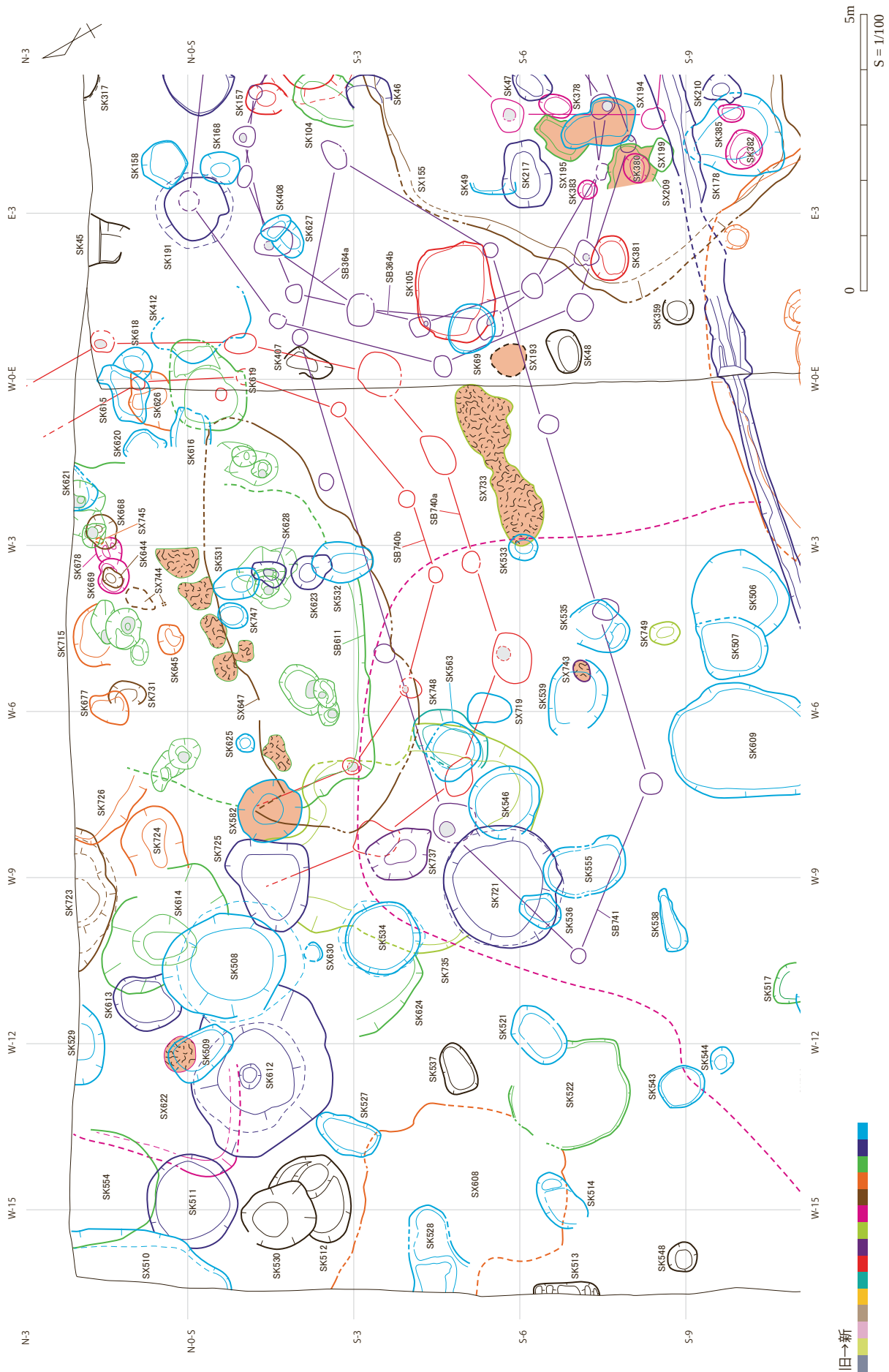
第81図 柱穴配置図



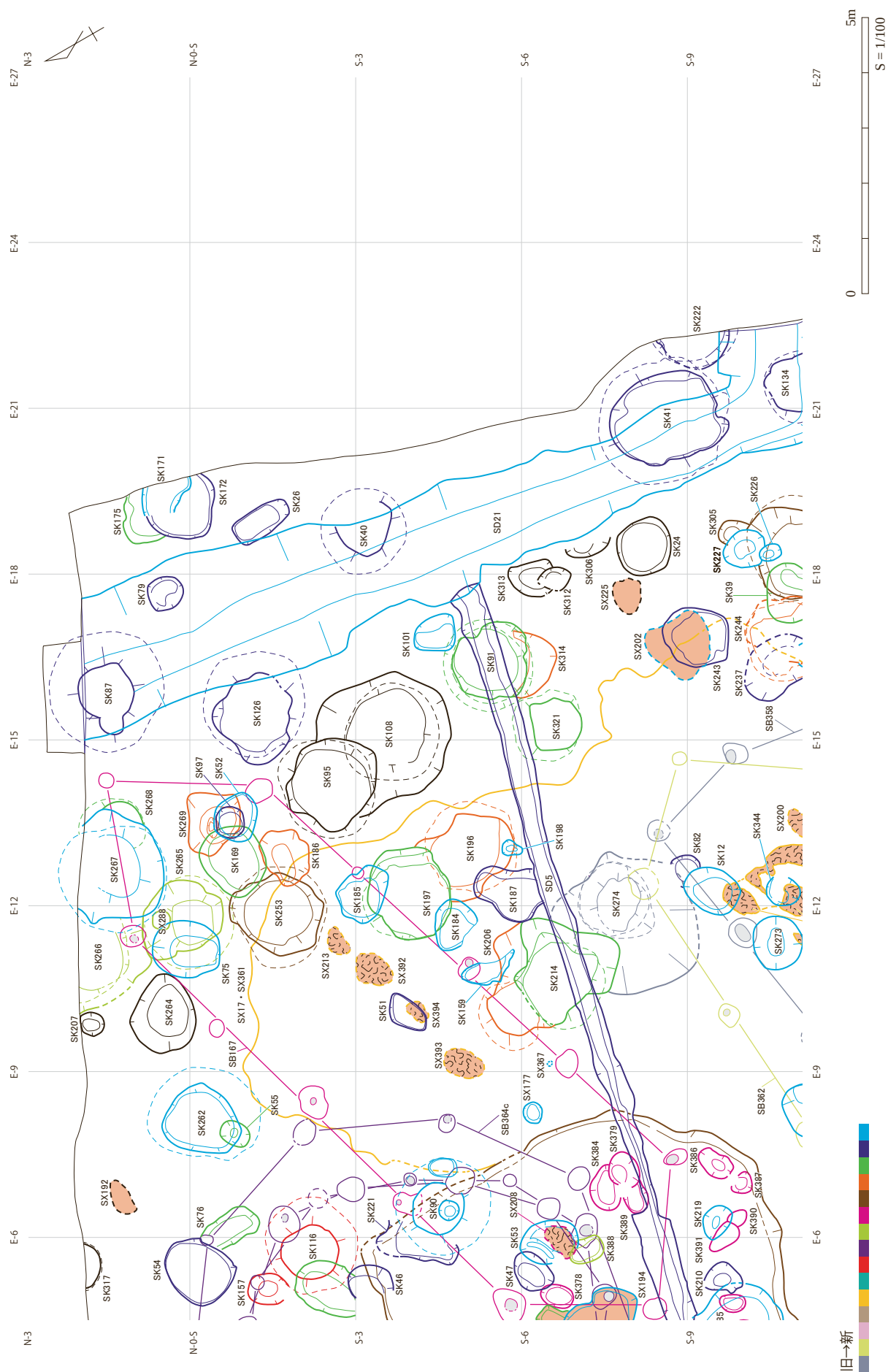
第82図 位置記録遺物分布図



第83図 遺構配置等詳細図割付図

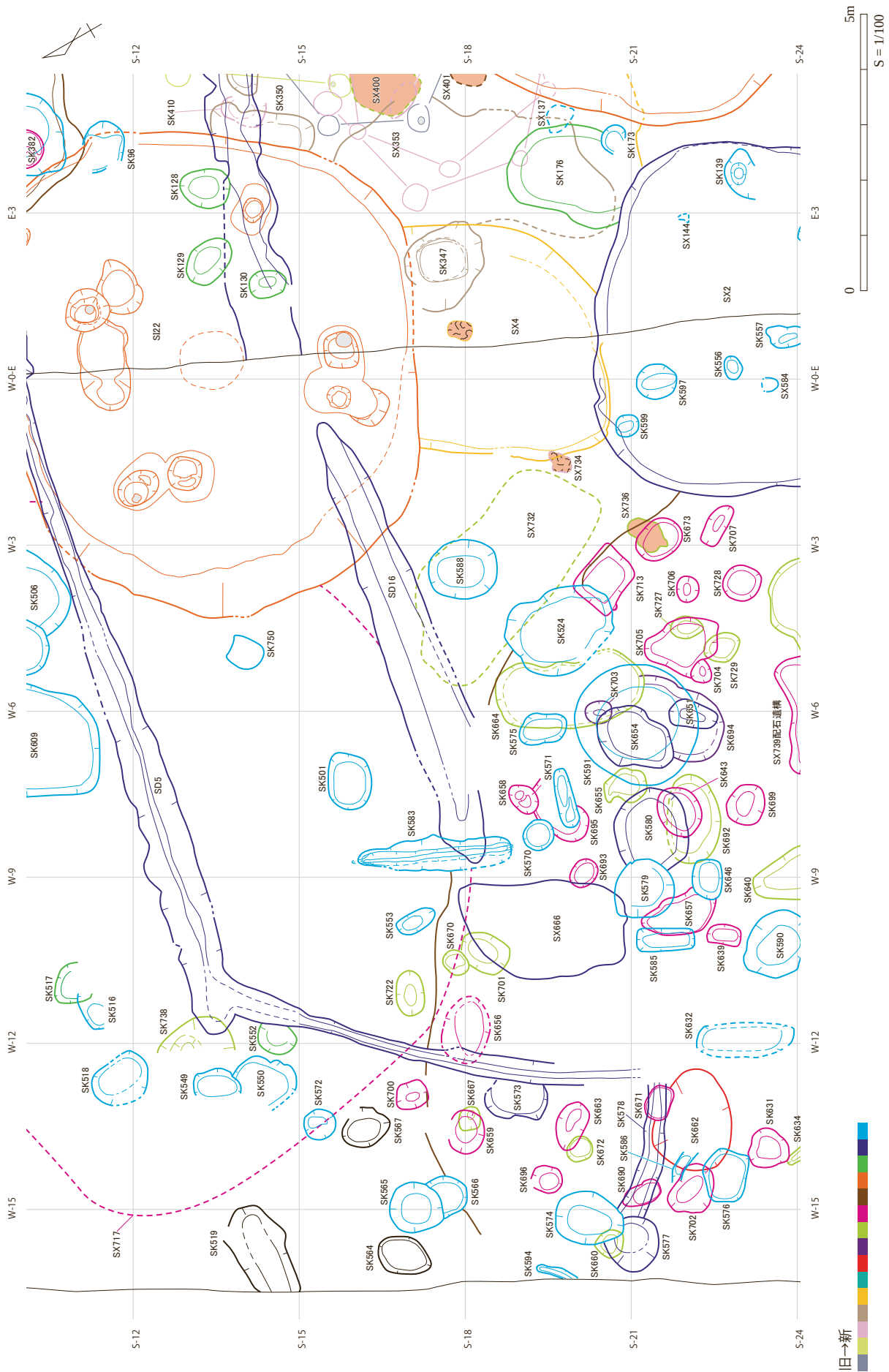


第84-1図 遺構配置詳細図 (A)

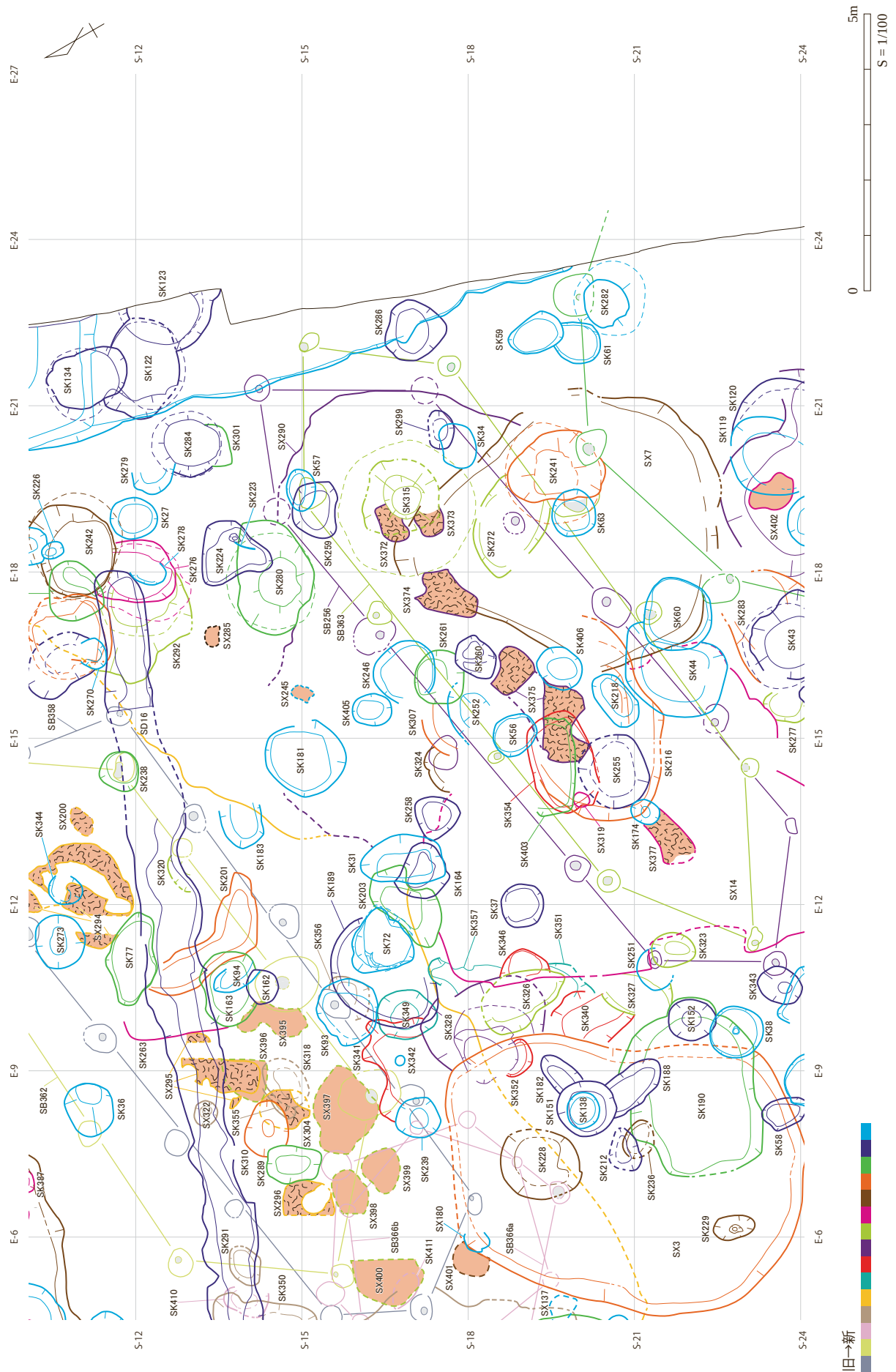


第84-2 図 遺構配置詳細図 (B)

遺構と遺物の詳説
遺構と遺物の分布



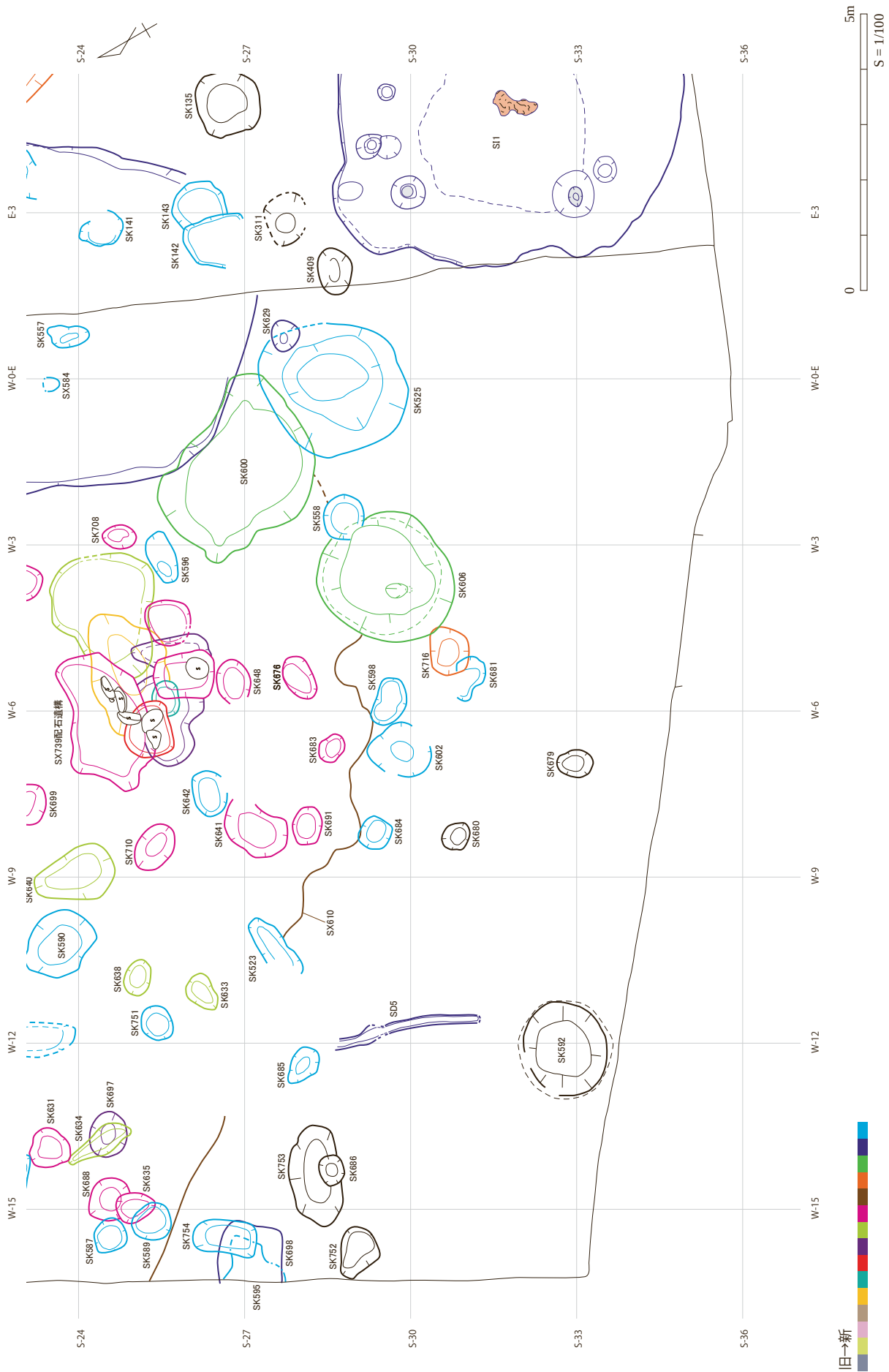
第 84-3 図 遺構配置詳細図 (C)



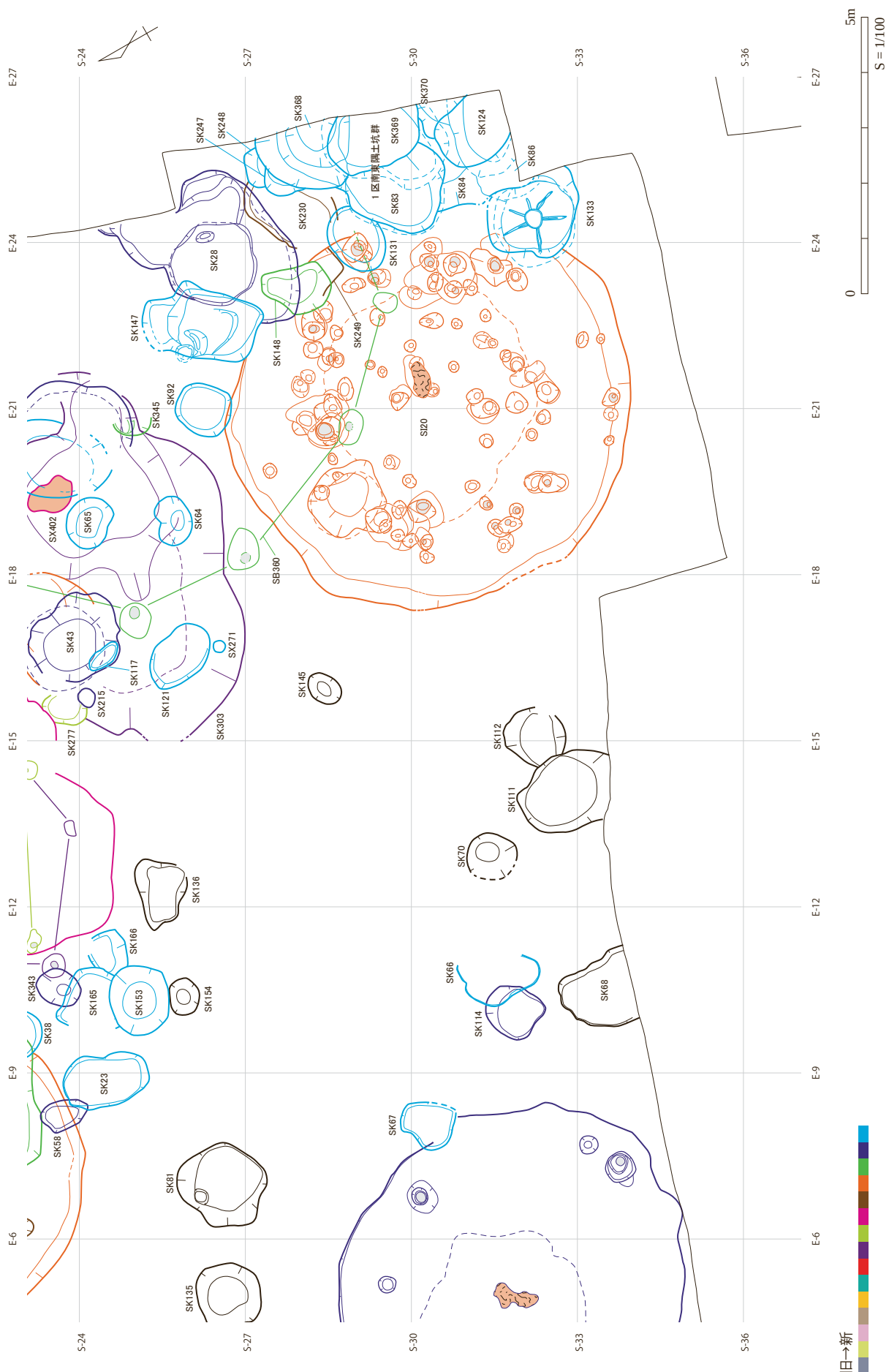
第84-4図 遺構配置詳細図 (D)

遺構と遺物の詳説

遺構と遺物の分布

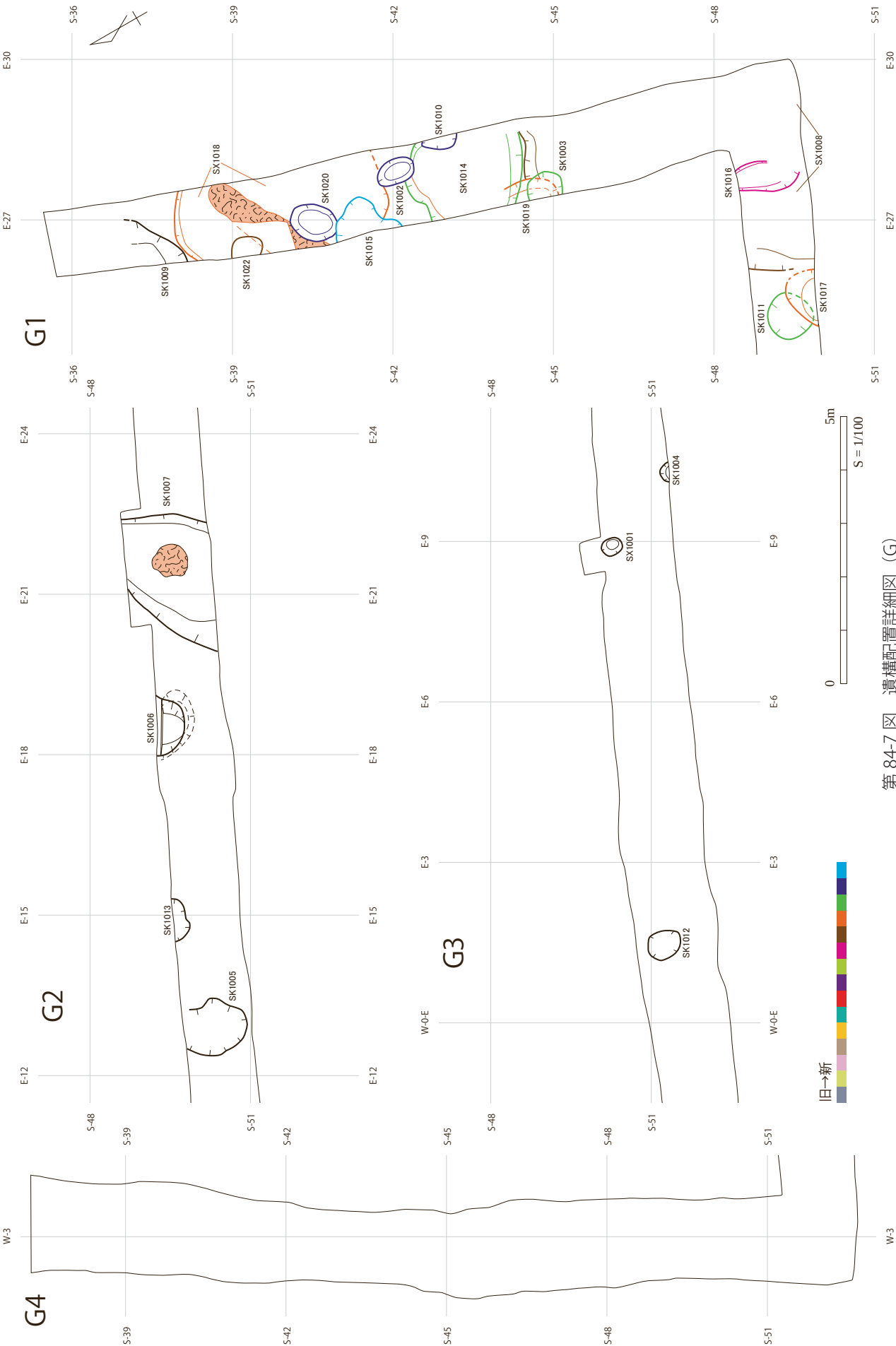


第84-5 遺構配置詳細図 (E)

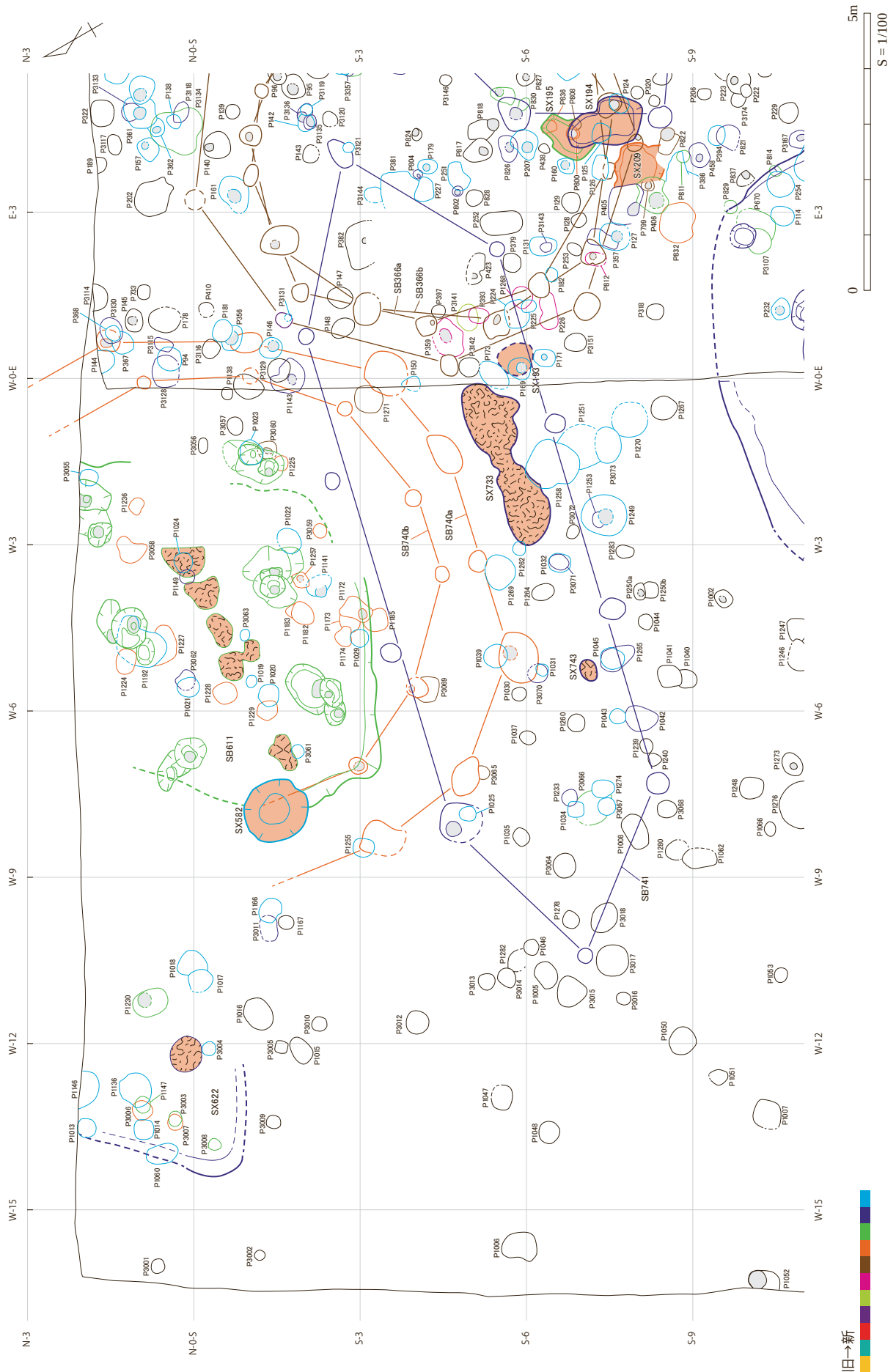


第 84-6 図 遺構配置詳細図 (F)

遺構と遺物の詳説



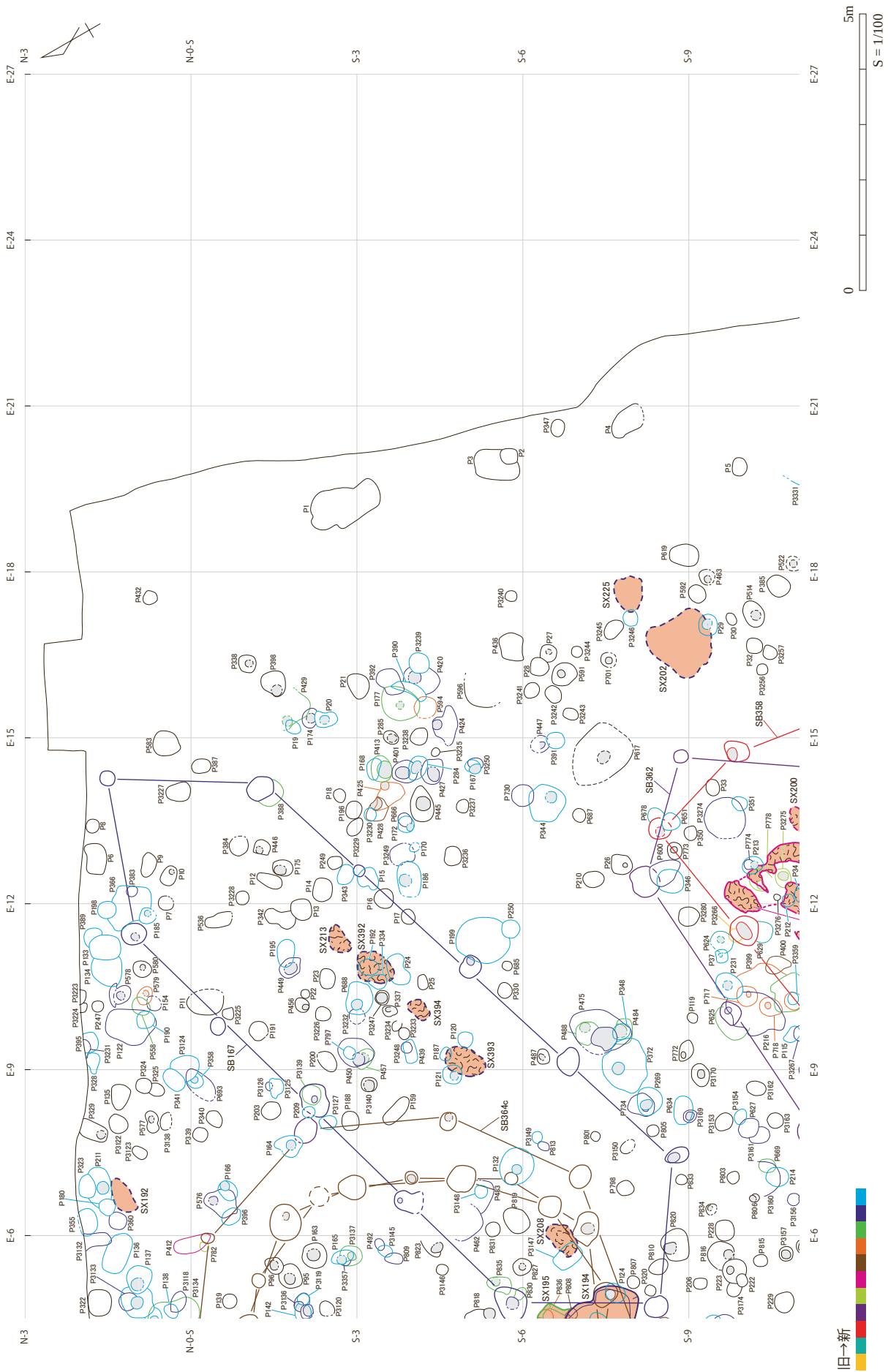
第 84-7 図 遺構配置詳細図 (G)



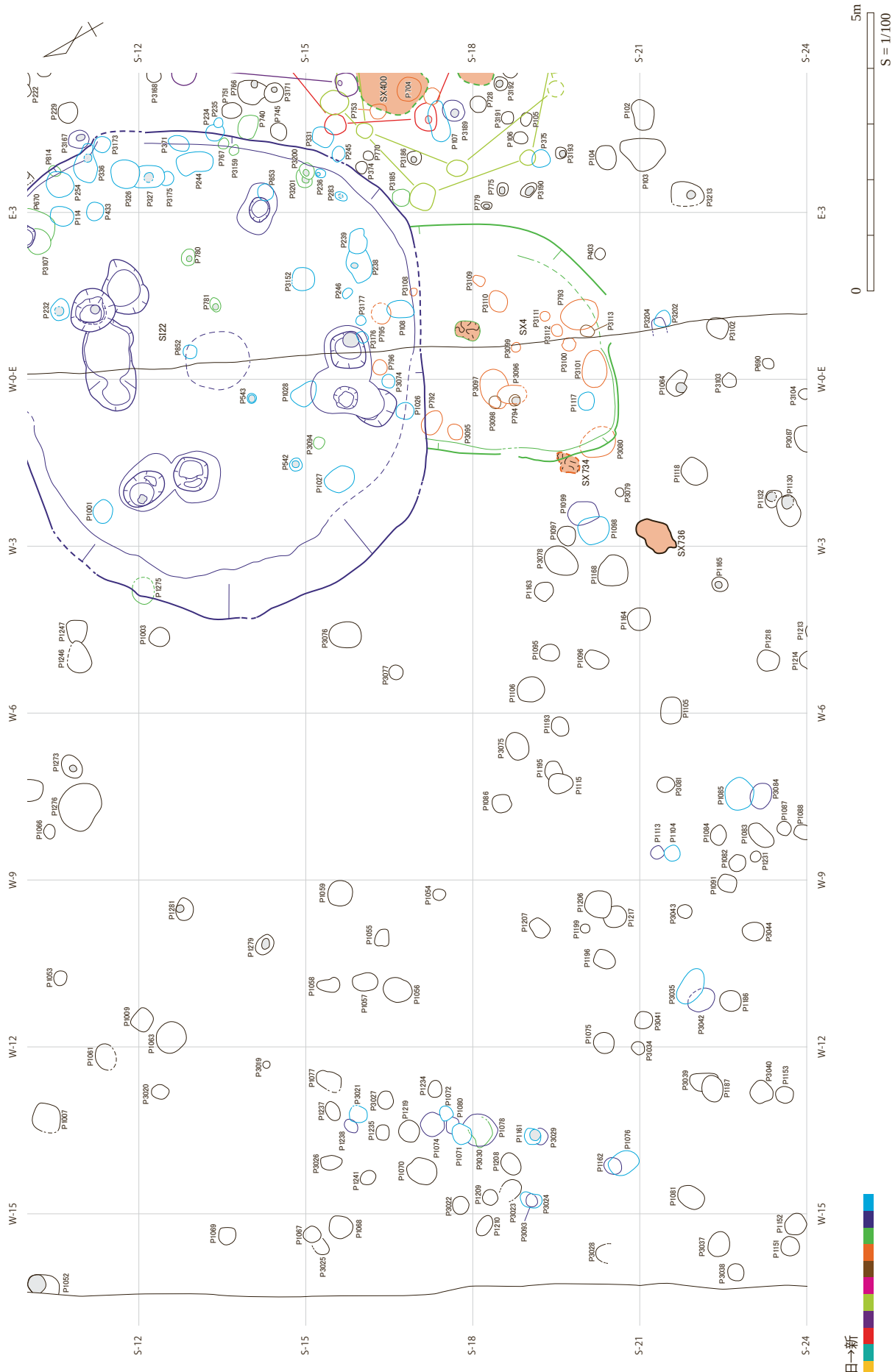
第85-1 図 柱穴配置詳細図 (A)

遺構と遺物の詳説

遺構と遺物の分布



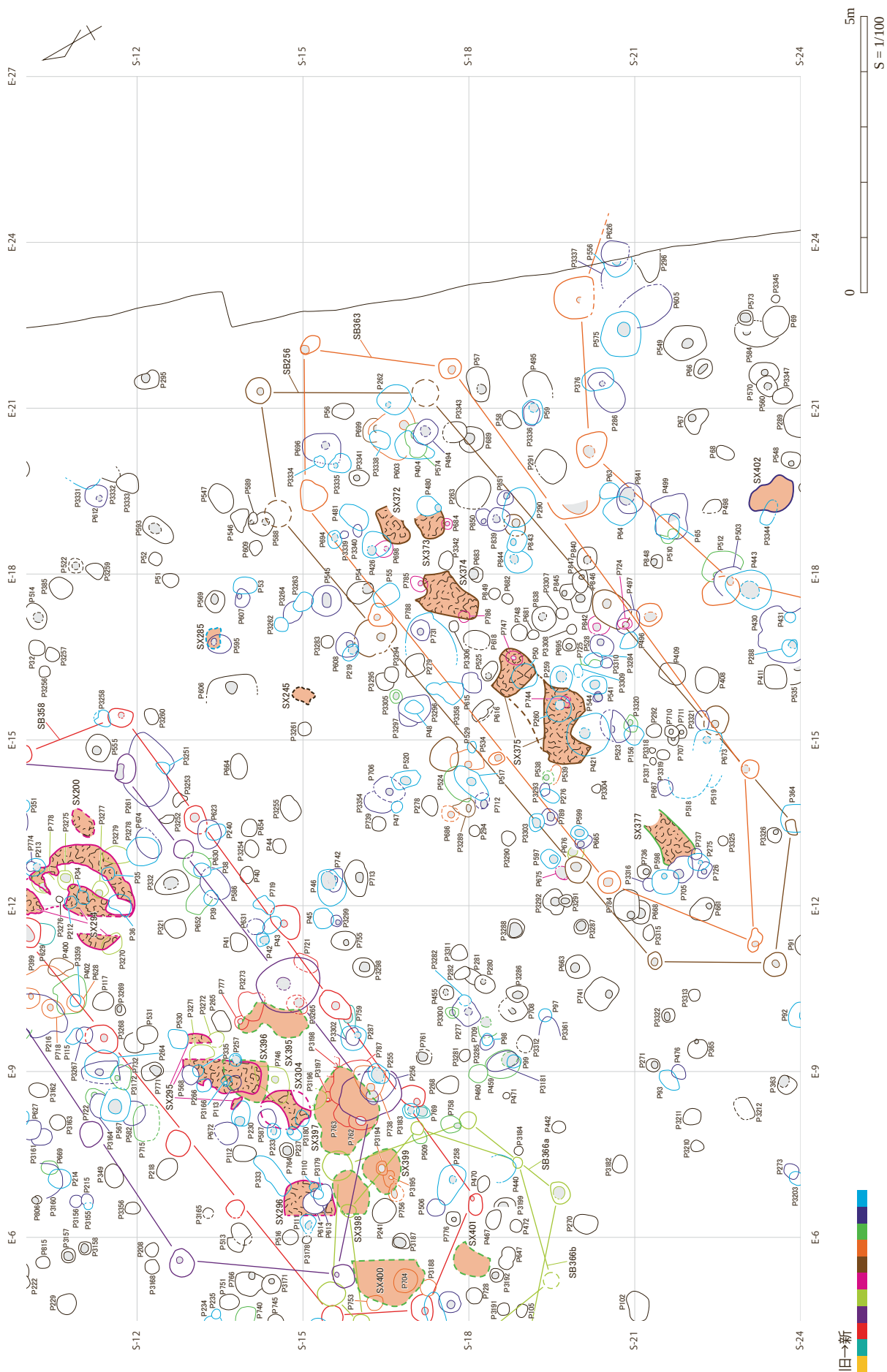
第85-2図 柱穴配置詳細図 (B)



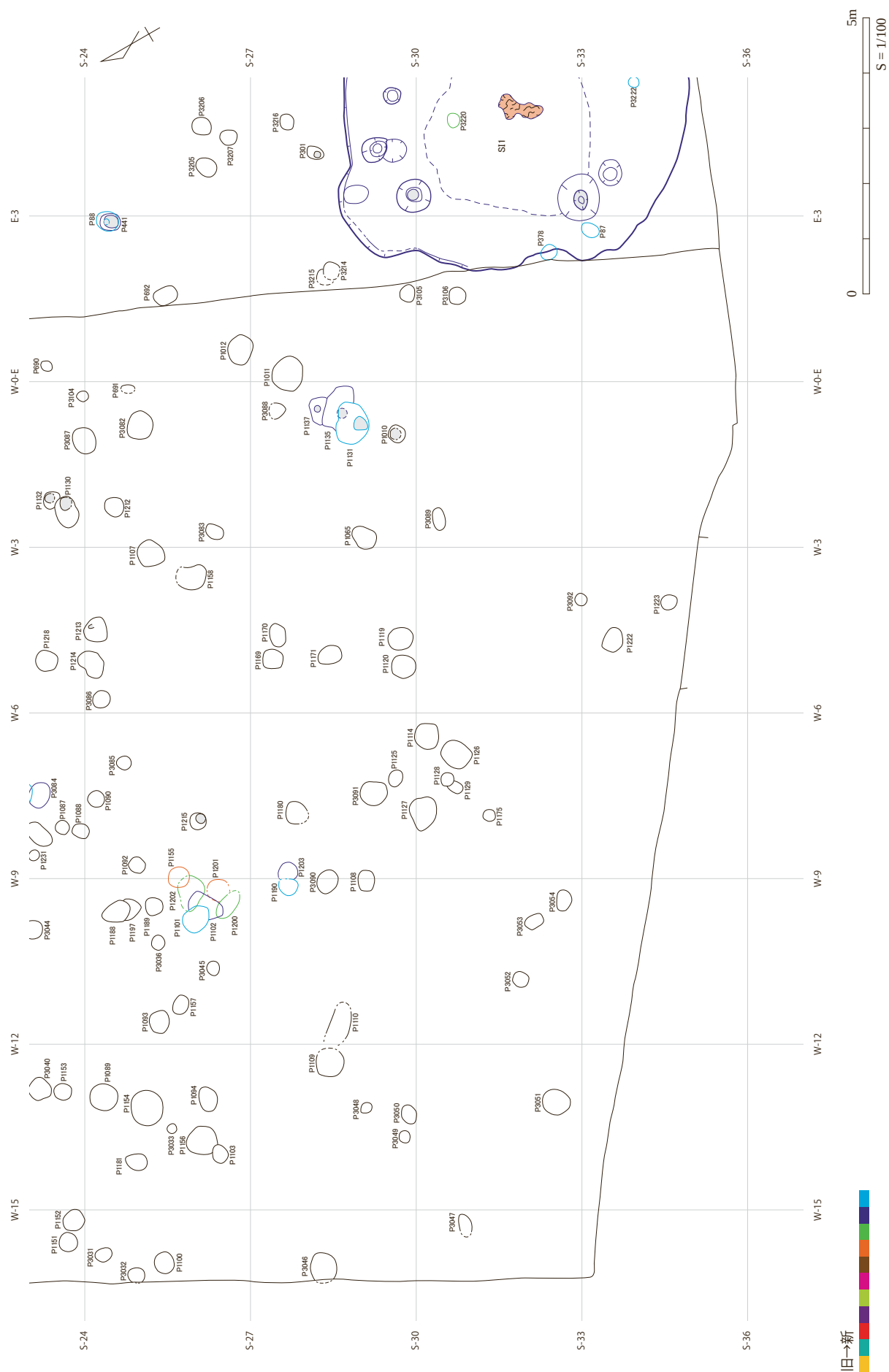
第 85-3 図 柱穴配置詳細図 (C)

遺構と遺物の詳説

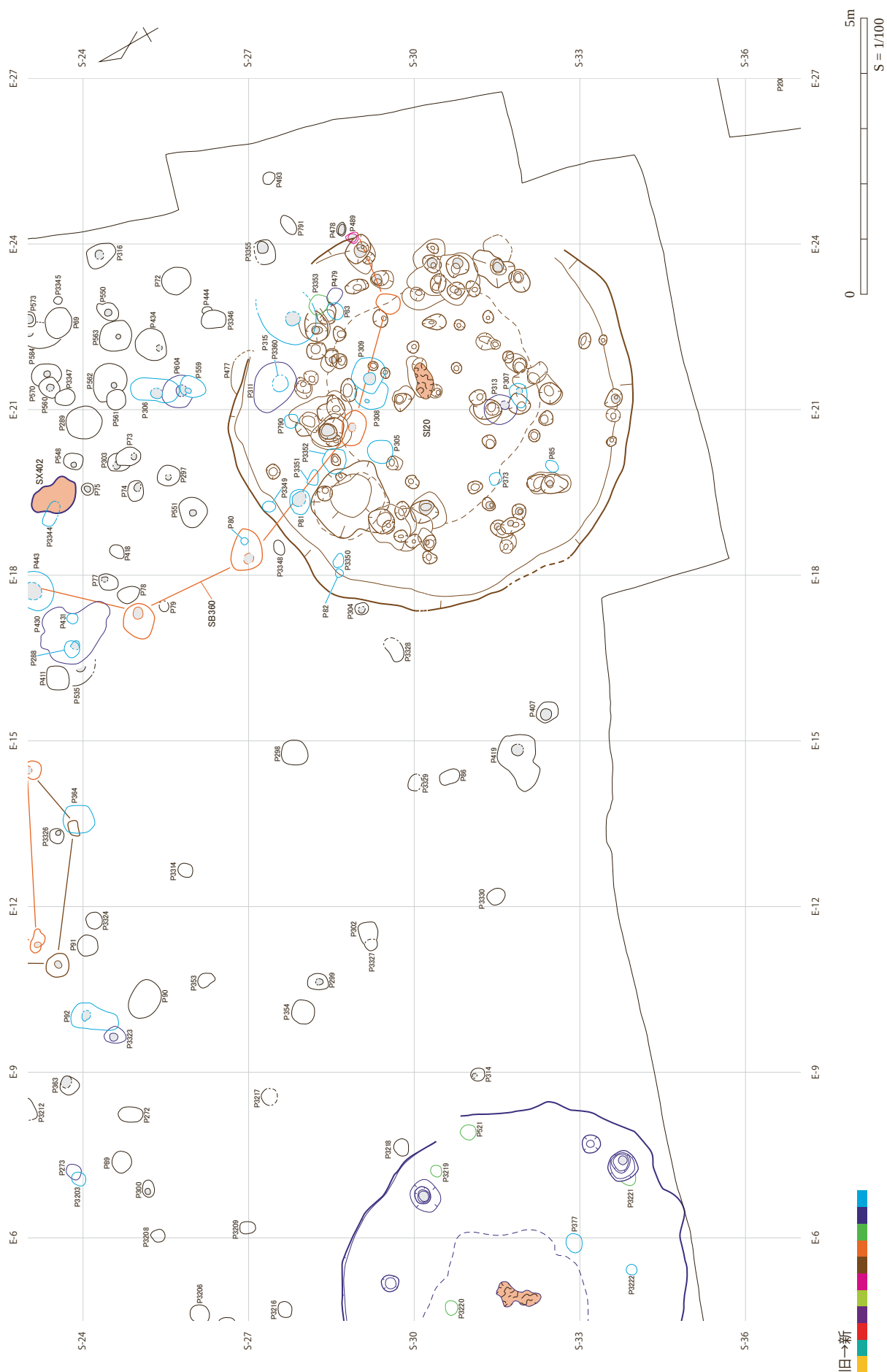
遺構と遺物の分布



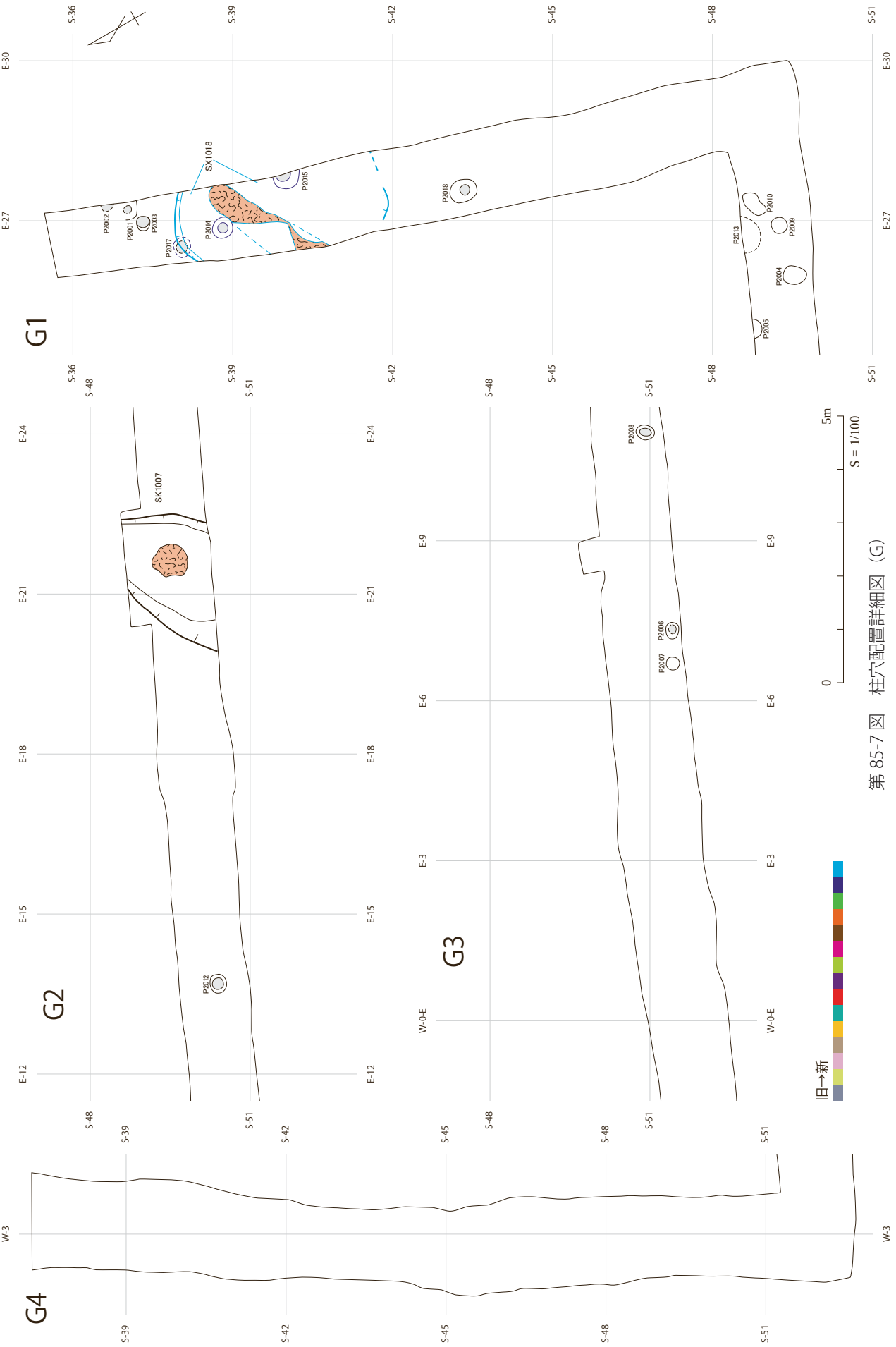
第 85-4 図 柱穴配置詳細図 (D)



第85-5 図 柱穴配置詳細図 (E)

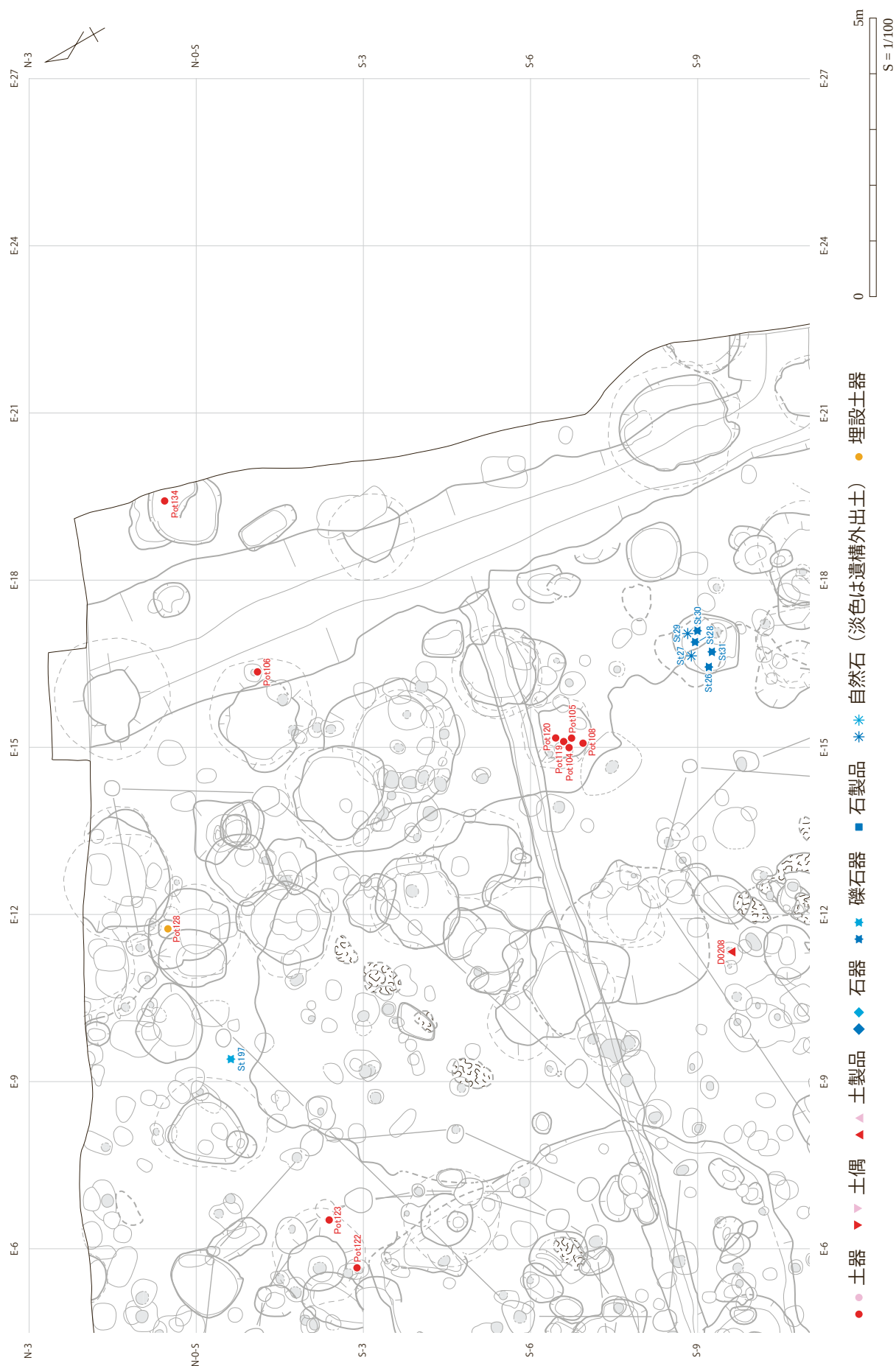


第85-6図 柱穴配置詳細図 (F)



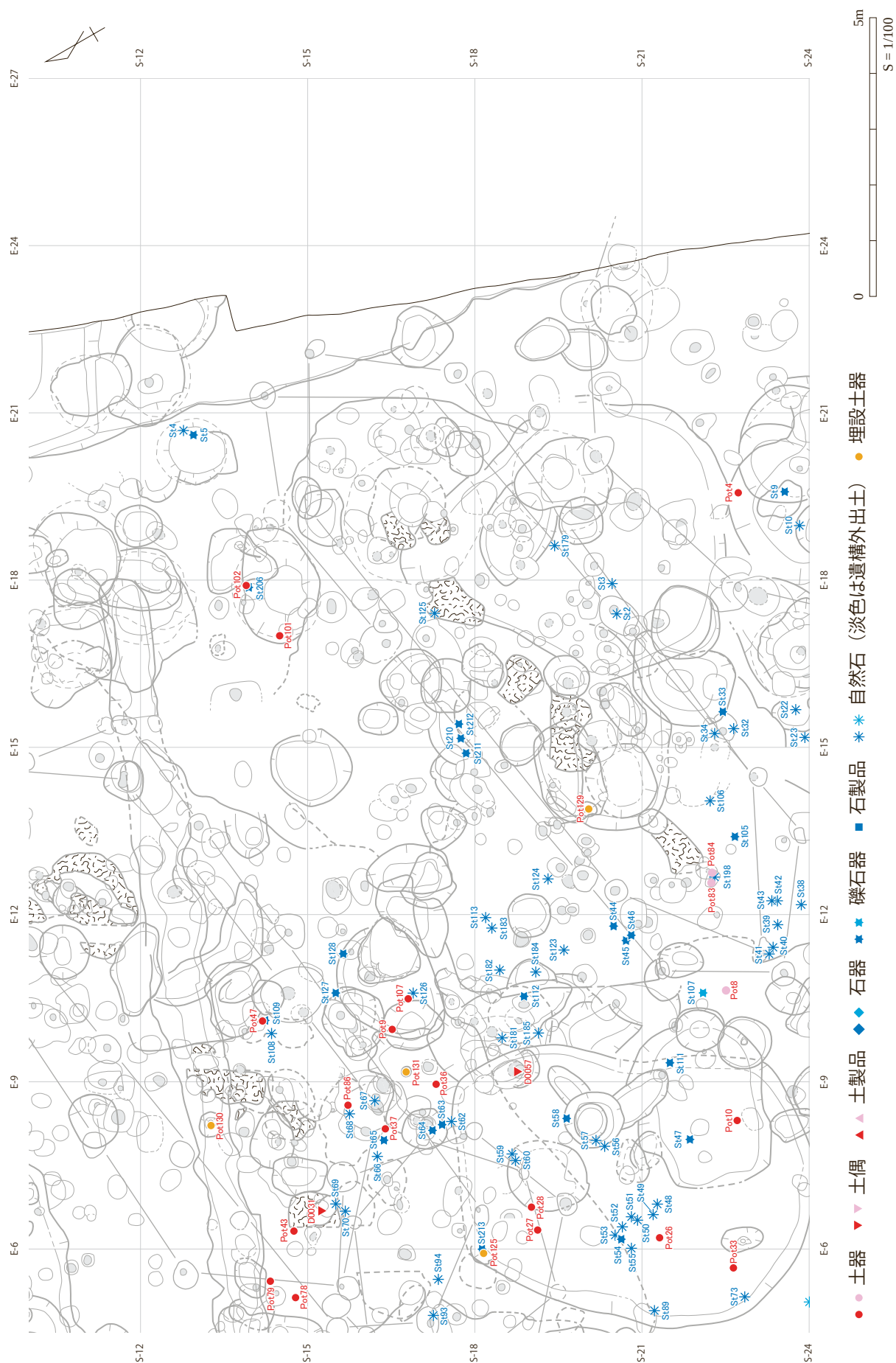
第 85-7 図 柱穴配置詳細図 (G)



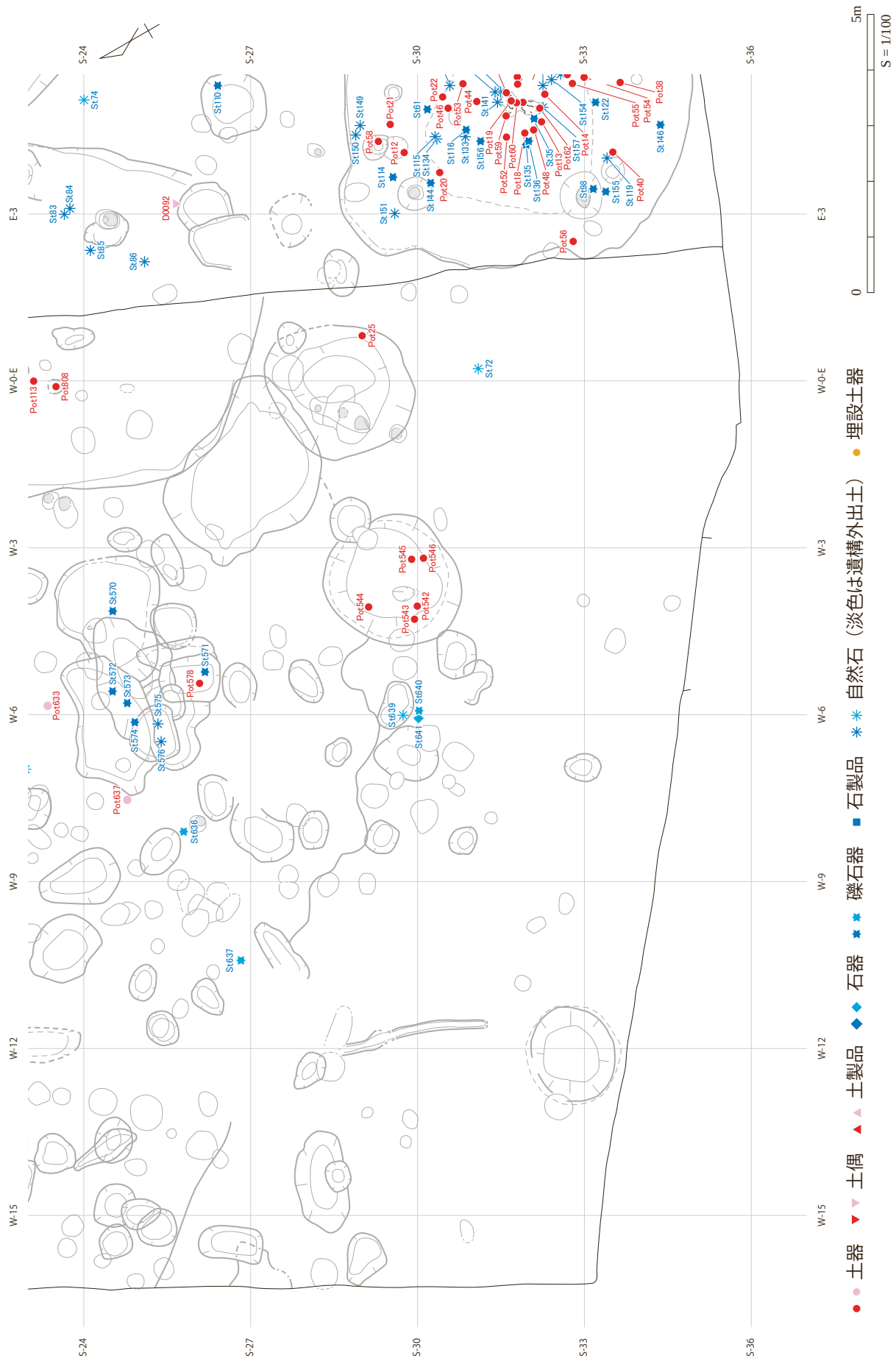


第86-2図 位置記録遺物分布詳細図(B)

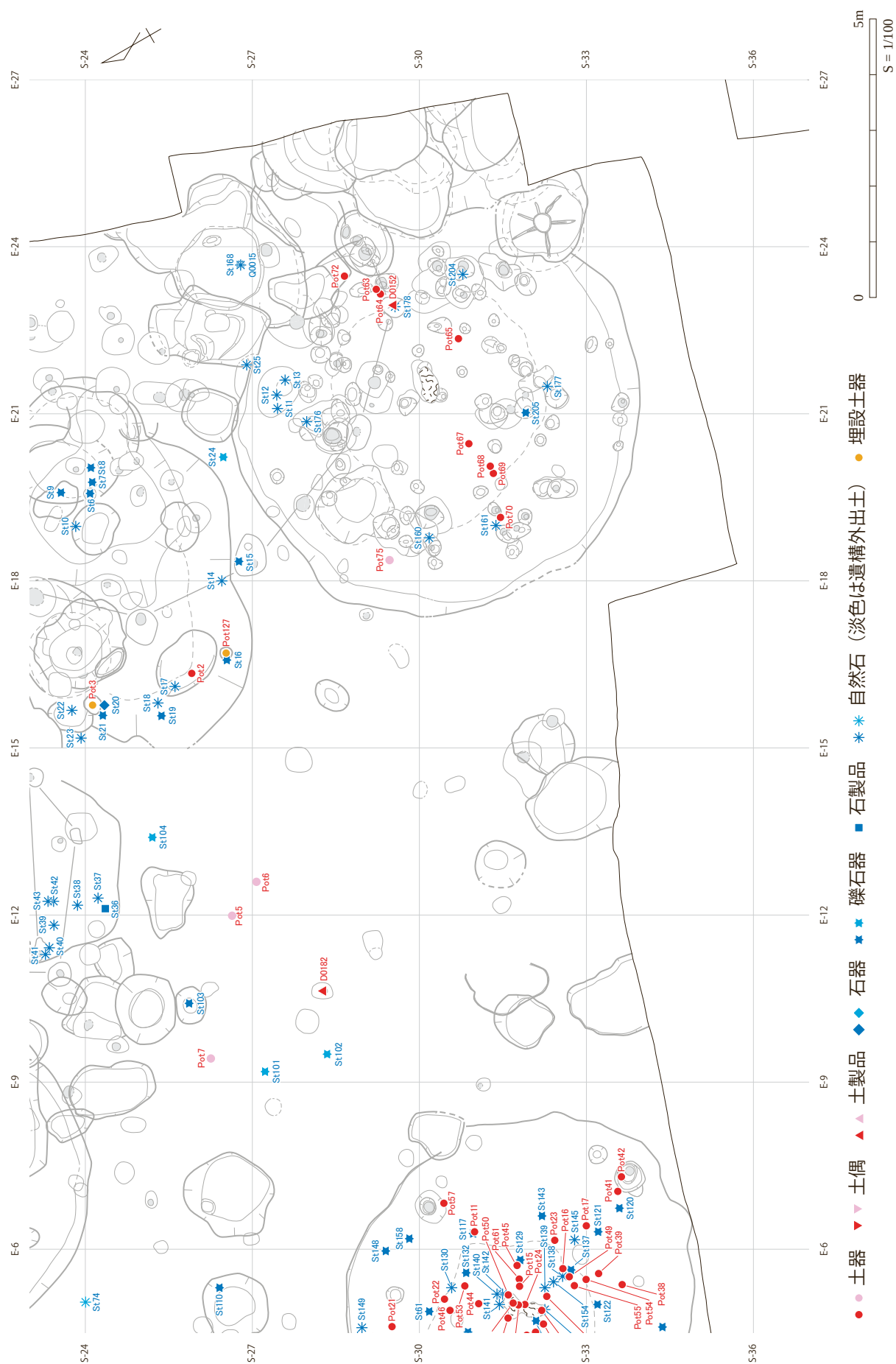




第86-4図 位置記録遺物分布詳細図 (D)

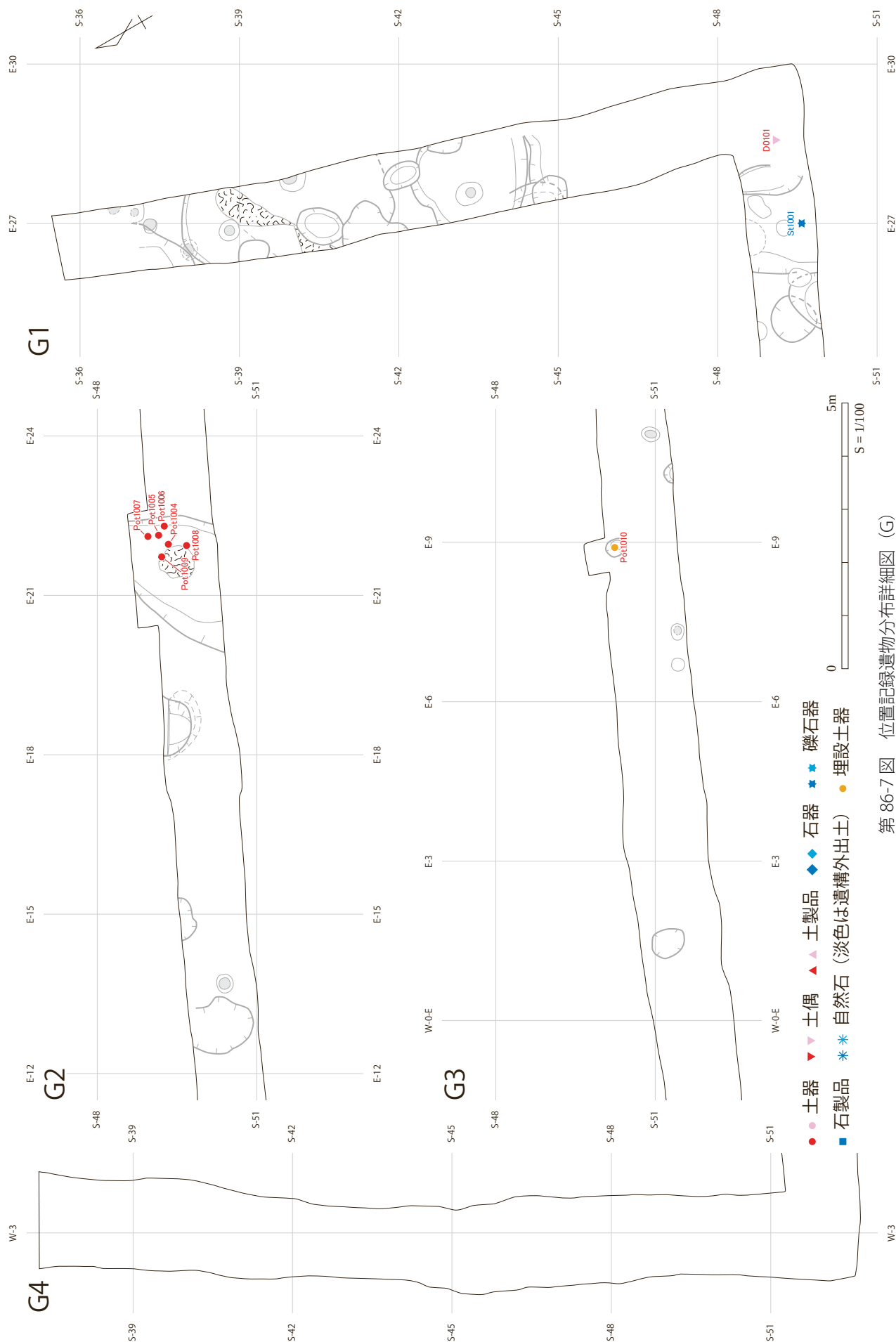


第 86-5 図 位置記録遺物分布詳細図 (E)



第86-6図 位置記録遺物分布詳細図 (F)

第3章 調査の成果



第86-7図 位置記録遺物分布詳細図 (G)